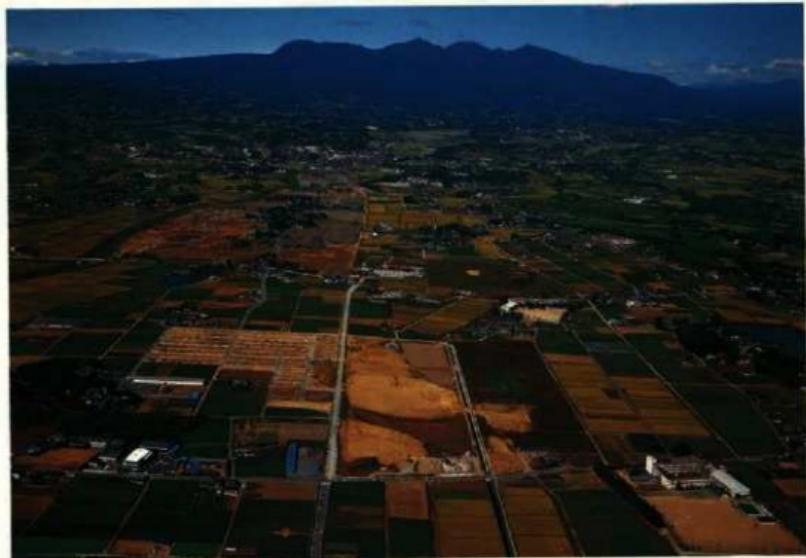


柳久保遺跡群 VII



日一9号住居址出土の玉類

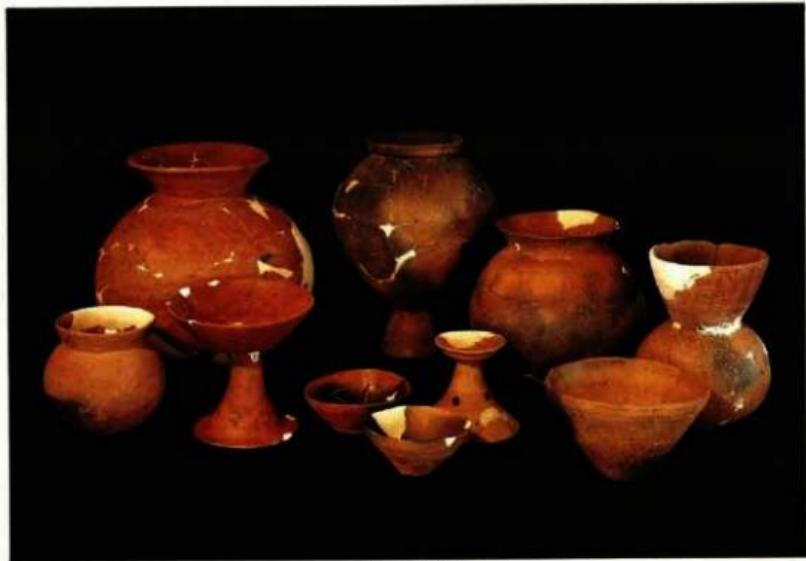
前橋市埋蔵文化財発掘調査団



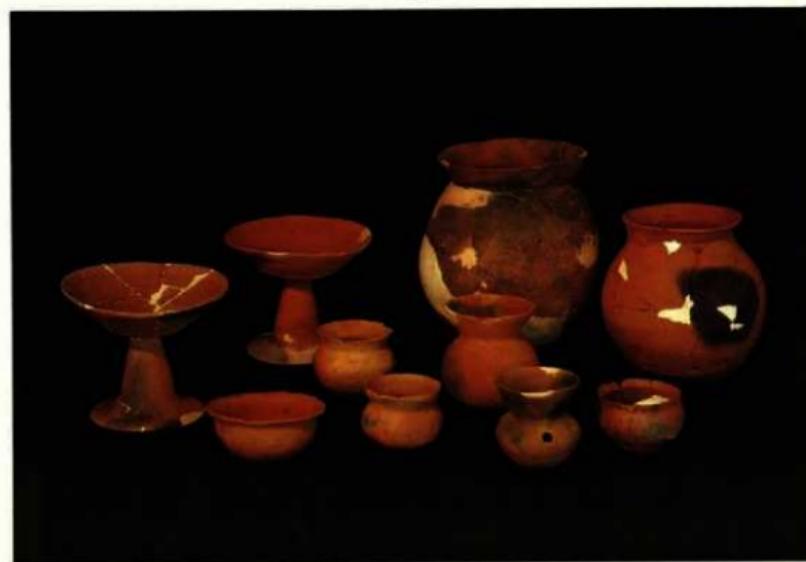
I. 赤城山と柳久保遺跡群



2. 柳久保遺跡出土の石・土製品



1. I群土器



2. II群土器



1. III群土器



2. IV群土器



例　　言

1. 本報告書は、前橋工業団地造成組合（管理者　清水一郎）が造成する城南住宅団地にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は下記の通りである。

柳久保遺跡群　群馬県前橋市荒子町字柳久保1516-10他
柳久保遺跡群　群馬県前橋市荒子町字柳久保1504他
3. 発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が前橋工業団地造成組合と委託契約を締結し実施した。調査担当及び調査期間は下記の通りである。

昭和60年度 担当者 遠藤和夫 前原 豊 福田瑞穂 関根吉晴 折原洋一 芦田和義
期間 昭和60年5月13日～昭和60年12月27日

昭和61年度 担当者 福田瑞穂 関根吉晴 千田幸生 肥田順一 調査補助員 竹内 寛
期間 昭和61年5月2日～昭和61年12月20日
4. 本書の作成は以下の通りである。

編　集 前原 豊 関根吉晴
本文執筆 関根吉晴…第I～III章 前原 豊…第IV章
レイアウト 前原 豊
挿図作成 阿部シゲ子 石田博子 新保タマ子 高橋キヨ子 巾 千恵子 茂木 順
木本みのる 吉田松江 吉本千保
遺物写真 東京グラフィック 北沢 廣 小椋写真事務所 小椋たかし
空中写真 中央航業株式会社 国際航業株式会社
遺跡測量 株式会社 測設 中央航業株式会社
5. 石器石材の同定は飯島静男氏（群馬地質研究会員）の手をわざらわせた。
6. プラント・オパール分析の結果については、古環境研究所の杉山真二氏から玉稿を賜った。
7. 発掘調査後の遺物、図面整理は昭和61年1月8日から昭和61年3月20日までと、昭和62年1月8日から昭和62年2月10日まで断続的に行い、報告書の作成は昭和63年1月5日から昭和63年3月10日まで行った。
8. 発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護室収蔵庫で管理されている。
9. 本発掘調査並びに本書の作成に当たり、下記の機関、諸氏よりご助言を戴きました。ここにお礼を申し上げます。（敬称略）

群馬県教育委員会文化財保護課 群馬県埋蔵文化財調査事業団 前橋工業団地造成組合
井上 唯雄 石井 克巳 大江 正行 大里 仁一 川島 雅人 小島 純一
小島 敦子 坂口 一 坂爪 久純 志村 哲 大工原 豊 都所 敬尚
友廣 哲也 中東 耕志 西田 健彦 能登 健 古郡 正志 松村 和男
松本 保 巾 隆之 若月 省吾 総質 綾子

凡　　例

1. 本調査は遺跡全体に 4×4 m グリッドを設定し、南北を調査区の X ラインとし東西を調査区の Y ラインとして X100、Y100 といった呼称を用いた(座標系番号とは異なる)。各グリッドの名称は北西隅をあてた。また、X100、Y100 グリッドの国家座標上の位置は次の通りである。

調査区 Y100 ライン…第IX系 X 軸 +42.4km

調査区 X100 ライン…第IX系 Y 軸 -60.0km

2. 掘図中に使用した方位は座標北である。
3. 掘図に、建設省国土地理院発行の20万分の1地形図(宇都宮)と、5万分の1地形図(前橋)をそれぞれ使用した。
4. 本遺跡の略称は次の通りである。
柳久保遺跡…60・61E 2 柳久保遺跡水田址…60・61E 6
5. 各遺構の略称は次の通りである。
H…古墳時代から奈良時代の住居址 T…竪穴状遺構 B…掘立柱建物址
D…土坑 I…井戸 W…溝 X…地割れ O…落ち込み
6. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。
遺構 住居址・竪穴状遺構・土坑・井戸・落ち込み…1/60 掘立柱建物址…1/80
溝・地割れ…1/40 全体図…1/500・1/1000
遺物 土器…1/3 石・土・鉄製品…1/2 骨蔵器…1/12
7. スクリーントーンの使用は次の通りである。
遺構平面図 炉址・焼土…点 炭化物…斑
遺物実測図 須恵器断面…黒

目 次

	頁
I 調査の概要	
1 調査目的.....	1
2 調査方法と経過.....	1
3 遺跡の要約.....	1
4 層序.....	2
II 古墳時代以降の遺構	
1 住居址.....	3
2 坪穴状遺構.....	27
3 掘立柱建物址.....	30
4 土坑.....	34
5 井戸.....	39
6 溝.....	41
7 地割れ.....	42
8 落ち込み.....	43
III 柳久保水田址の調査	
1 調査の概要.....	45
2 平安時代水田址.....	47
IV 成果と問題点	
1 遺構.....	51
2 遺物.....	55
3 集落構成と変遷.....	63
付 編	
柳久保水田址のプラントオパール分析について（杉山真二）.....	67

図 版

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 口絵 1 赤城山と柳久保遺跡群 | 口絵 2 柳久保遺跡群出土の石・土製品 |
| 3 I群土器（石田川式土器） | 4 II群土器（和泉式土器） |
| 5 III群土器（鬼高式土器） | 6 IV群土器（真間式土器） |
| PL. 1 柳久保遺跡全景 | PL. 2 住居址近景 |
| 3 H-6・8・9号住居址 | 4 H-8・9号住居址 |
| 5 H-10~14号住居址 | 6 H-14・15号住居址 |
| 7 H-15・16号住居址 | 8 H-16・17号住居址 |
| 9 H-17・18号住居址 | 10 H-18・19号住居址 |
| 11 H-20・21・22号住居址 | 12 H-22・23号住居址 |
| 13 H-23・24号住居址 | 14 H-24・25号住居址 |
| 15 H-26~27号住居址 | 16 H-28・29号住居址 |
| 17 H-29・30号住居址 | 18 H-31・32号住居址 |
| 19 H-33号住居址 | 20 H-34・40号住居址 |
| 21 H-35・36号住居址 | 22 H-37・38号住居址 |
| 23 H-39・40・42号住居址 | 24 H-43・44号住居址 |
| 25 H-45・47・48号住居址 | 26 H-48・49号住居址 |
| 27 H-50・51号住居址 | 28 H-51・52号住居址 |
| 29 H-52・53号住居址 | 30 H-53・54号住居址 |
| 31 H-55号住居址 | 32 T-1・3~5号竪穴状遺構 |
| 33 T-6~12号竪穴状遺構 | 34 B-4~11・12~16 |
| 35 B-17~21・23~25 | 36 D-4~11号土坑 |
| 37 D-12・16・18~22号土坑 | 38 D-23・25・28・30・32・43~45 |
| 39 D-46~53号土坑 | 40 D-54・60・62・63 I-1~4 |
| 41 I-5・6 W-3・4 | 42 W-4~7号溝 |
| 43 W-8・9号溝 X-6 | 44 X-5・7~9号地割れ |
| 45 H-37・38号地割れ | 46 O-1~3・6・7・9~11 |
| 47 柳久保遺跡水田址 | 48 柳久保遺跡水田址 |
| 49 H-6・8号住居址出土の土器 | 50 H-9号住居址出土の土器 |
| 51 H-9・10号住居址出土の土器 | 52 H-10・12・14号住居址出土の土器 |
| 53 H-15~17号住居址出土の土器 | 54 H-15~17号住居址出土の土器 |
| 55 H-17号住居址出土の土器 | 56 H-17・18号住居址出土の土器 |
| 57 H-17・20~22号住居址出土の土器 | 58 H-22~24号住居址出土の土器 |
| 59 H-25・26号住居址出土の土器 | 60 H-25・27号住居址出土の土器 |
| 61 H-27・29号住居址出土の土器 | 62 H-29~31号住居址出土の土器 |
| 63 H-31・33号住居址出土の土器 | 64 H-31~35・38号住居址出土の土器 |
| 65 H-39号住居址出土の土器 | 66 H-39~41号住居址出土の土器 |

- PL. 67 H-41~44号住居址出土の土器
 69 H-45・48号住居址出土の土器
71 住居址・土坑・井戸・調査区出土の土器
 73 石・土・軽石製品
 75 鉄器・鉄製品

- PL. 68 H-44・46号住居址出土の土器
 70 H-48・50・51・53・54の土器
 72 D-19号土坑出土の石製骨蔵器
 74 石・軽石製品

挿 図

挿図	頁	挿図	頁
Fig. 1 柳久保遺跡標準土層図	2	Fig. 2 柳久保水田址標準土層図	46
柳久保遺跡群の位置	103	柳久保遺跡群の位置図	104
3 柳久保遺跡群周辺図	105	4 柳久保遺跡群調査経過図	106
5 柳久保遺跡群調査区域	107・108	6 柳久保遺跡全体図	109・110
7 H-6号住居址	111	8 H-8号住居址	112
9 H-8号住居址	113	10 H-10号住居址	114
11 H-9号住居址	115・116	12 H-11号住居址	117
13 H-12号住居址	118	14 H-13号住居址	119
15 H-14号住居址	120	16 H-15号住居址	121
17 H-16号住居址	122	18 H-16号住居址	123
19 H-17号住居址	124	20 H-17号住居址	125
21 H-18号住居址	126	22 H-18号住居址	127
23 H-19号住居址	128	24 H-20号住居址	129
25 H-20号住居址	130	26 H-21号住居址	131
27 H-21号住居址	132	28 H-22号住居址	133
29 H-22号住居址	134	30 H-23号住居址	135
31 H-23・24号住居址	136	32 H-24号住居址	137
33 H-24号住居址	138	34 H-25号住居址	139
35 H-26号住居址	140	36 H-27号住居址	141
37 H-28号住居址	142	38 H-28号住居址	143
39 H-29号住居址	144	40 H-29~31号住居址	145
41 H-32号住居址	146	42 H-32・33号住居址	147
43 H-33号住居址	148	44 H-34号住居址	149
45 H-34号住居址	150	46 H-34号住居址	151
47 H-35号住居址	152	48 H-35号住居址	153
49 H-36号住居址	154	50 H-37・38号住居址	155
51 H-39号住居址	156	52 H-40号住居址	157
53 H-40・42号住居址	158	54 H-43号住居址	159
55 H-46号住居址	160	56 H-47・48号住居址	161
57 H-48号住居址	162	58 H-49号住居址	163

Fig. 59 H—49号住居址	164	Fig. 60 H—50号住居址	165
61 H—50・51号住居址	166	62 H—51号住居址	167
63 H—52号住居址	168	64 H—52号住居址	169
65 H—53号住居址	170	66 H—54号住居址	171
67 H—55号住居址	172	68 H—55号住居址	173
69 H—55号住居址	174	70 T—1・3～6号竪穴状遺構	175
71 T—7～12号竪穴状遺構	176	72 B—1・2号掘立柱建物址	177
73 B—3・4号掘立柱建物址	178	74 B—5・6号掘立柱建物址	179
75 B—7・8号掘立柱建物址	180	76 B—9・10号掘立柱建物址	181
77 B—11・12号掘立柱建物址	182	78 B—13・14号掘立柱建物址	183
79 B—15・16号掘立柱建物址	184	80 B—17・18号掘立柱建物址	185
81 B—19・20号掘立柱建物址	186	82 B—21号掘立柱建物址	187
83 B—23号掘立柱建物址	188	84 B—22・24号掘立柱建物址	189
85 B—25号掘立柱建物址	190	86 D—4～10号土坑	191
87 D—11～13・15・16号土坑	192	88 D—18～22・25号土坑	193
89 D—23・28・30・32・37号土坑	194	90 D—39・43～50号土坑	195
91 D—51～54・60・62・63号土坑	196	92 I—1～4号井戸	197
93 I—5・6号井戸	198	94 W—3～9・X—5～8	199
95 O—1・2号落ち込み	200	96 O—3・6・7号落ち込み	201
97 O—9～11号落ち込み	202	98 H—6・8号住居址出土の土器	203
99 H—8号住居址出土の土器	204	100 H—8・9号住居址出土の土器	205
101 H—9号住居址出土の土器	206	102 H—9号住居址出土の土器	207
103 H—10号住居址出土の土器	208	104 H—10・11号住居址出土の土器	209
105 H—12～14号住居址出土の土器	210	106 H—14・15号住居址出土の土器	211
107 H—15号住居址出土の土器	212	108 H—15号住居址出土の土器	213
109 H—15・16号住居址出土の土器	214	110 H—16号住居址出土の土器	215
111 H—17号住居址出土の土器	216	112 H—17号住居址出土の土器	217
113 H—17号住居址出土の土器	218	114 H—17号住居址出土の土器	219
115 H—18～20号住居址出土の土器	220	116 H—20～22号住居址出土の土器	221
117 H—22号住居址出土の土器	222	118 H—23～25号住居址出土の土器	223
119 H—25～27号住居址出土の土器	224	120 H—27・28号住居址出土の土器	225
121 H—29号住居址出土の土器	226	122 H—30・31号住居址出土の土器	227
123 H—31号住居址出土の土器	228	124 H—31～33号住居址出土の土器	229
125 H—33～35号住居址出土の土器	230	126 H—36～39号住居址出土の土器	231
127 H—39号住居址出土の土器	232	128 H—40・I—1出土の土器	233
129 I—1・H—42出土の土器	234	130 H—42・43号住居址出土の土器	235
131 H—44号住居址出土の土器	236	132 H—44・45号住居址出土の土器	237
133 H—46号住居址出土の土器	238	134 H—47～50号住居址出土の土器	239

Fig.135	H-51~55号住居址出土の土器	240
137	堅穴状遺構・土坑・井戸の土器	242
139	石・土・軽石製品	244
141	石・軽石製品	246
143	鉄器・鉄製品	248
145	遺構の分布	250
147	集落変遷	252
149	床下土坑集成図	254
151	住居址計測図	256
153	土器分類図(1)	258
155	土器分類図(3)	260
157	土器分類図(5)	262
159	土器分類図(7)	264
161	土器分類図(9)	266
163	土器分類図(11)	268
165	土器分類図(13)	270
167	土器分類図(15)	272
169	土器分類図(17)	274
171	土器分類図(19)	276
173	土器分類図(21)	278
	Fig.136 H-55、T-3・10出土の土器	241
138	堅穴状遺構・地割れの土器	243
140	石・軽石製品	245
142	石・軽石製品	247
144	鉄器・鉄製品	249
146	遺構の分布	251
148	住居址形態分類図	253
150	住居址計測図	255
152	掘立柱建物址分類図・竪位置図	257
154	土器分類図(2)	259
156	土器分類図(4)	261
158	土器分類図(6)	263
160	土器分類図(8)	265
162	土器分類図(10)	267
164	土器分類図(12)	269
166	土器分類図(14)	271
168	土器分類図(16)	273
170	土器分類図(18)	275
172	土器分類図(20)	277

付 図

付図1 柳久保遺跡全体図

付図2 柳久保水田址全体図

表

Tab. 1	水田面積一覧表	48・49	Tab. 2	住居形態分類基準	51
3	土器分類基準	55	4	住居址出土の須恵器一覧	60・61
5	遺構一覧	74	6	住居址一覧	74~76
7	堅穴状遺構一覧	76	8	掘立柱建物址一覧	77
9	I期遺構の遺物組成	78	10	I群土器共伴関係頻度表	79
11	II期遺構の遺物組成	80	12	II群土器共伴関係頻度表	81
13	III期遺構の遺物組成	82	14	III群土器共伴関係頻度表	82
15	IV期遺構の遺物組成	83	16	IV群土器共伴関係頻度表	84
17	土器觀察表	85~100	18	石・土・軽石器製品・鉄器計測表	101・102

I 調査の概要

1 調査目的

本遺跡は柳久保遺跡群内の中央部に存在する台地上に位置する。本台地は、東側にある宮川の本谷と西側にある宮川の支谷に挟まれた舌状台地である。南・西・東面は緩やかな傾斜を持っている。また、本遺跡北西部は浅い谷状の地形となっている。隣接する諏訪遺跡とは深掘りと呼ばれる堀により分けられる。

昭和59年度に城南住宅団地造成事業に伴い試掘調査を実施した。その結果、調査区域全域に遺構・遺物の分布が認められ、特に南部及び中央部・北西部に遺構・遺物の密な分布が認められた。台地頂上部に古墳時代の集落址が予想され、台地南部・中央部東斜面・北西部の東斜面に奈良・平安時代の集落址が存在していると考えられた。検出された遺構は、古墳時代から奈良時代の時期が主となるが、縄文時代の遺構も少數検出された。この結果に基づき、昭和59年度、幹線道路部分を調査し古墳時代から奈良時代にかけての住居址、土坑、溝、地割れ、遺物集中区、縄文時代遺物包含層を確認した。昭和60・61年度、舌状台地全面を調査し古墳時代から奈良時代にかけての住居址、竪穴状遺構、掘立柱建物址、土坑、井戸、溝、地割れ、落ち込み、さらに縄文時代の遺物包含層、土坑(いわゆる陥し穴)、集石、焼土跡、埋設土器、石器配置遺構を検出した。また、旧石器時代の試掘調査も台地南東部分について実施した。

2 調査方法と経過

遺跡群全体にわたる公共座標に基づく植杭を昭和58年度に実施してあるため、前回の調査方法と同様に北西に原点を据えて全体を4mの格子目で区切るグリッド方式で行った。調査は、土木作業用の重機を用いて表土の除去を行い、As-Cが混じるクロボク土面もしくは、軟質(ソフト)ローム上面を出した。この時点で古墳時代以降の遺構を確認し調査を実施した。各遺構の掘り下げは土層観察用の珪を残し移植ゴテを使い人力で掘り下げた。検出された遺構・遺物は平面図、分布図等を作成し、記録をとどめながら作業を進めた。

発掘調査は、昭和60年5月～12月、昭和61年5月～12月まで行い、遺物整理は昭和61年1月～3月、昭和62年1月～2月まで断続的に行った。そして、昭和63年1月～昭和63年3月までの期間、本報告書の作成にあたった。

3 遺跡の要約

本遺跡で検出された遺構・遺物は、旧石器時代から歴史時代までである。要約すれば次の通りである。旧石器時代の遺物は尖頭器1点と剣片1点が検出された。尖頭器は表採によるもので、剣片はAT下の暗色帶出土の黒色安山岩製である。続く縄文時代の遺構は、土坑(いわゆる陥し

I 調査の概要

穴) 9基、石器配置遺構1基、埋設土器1基等が検出された。遺物には、撲糸文、無文、沈線文、押型文、条痕文、纖維繩文、竹管文、繩文中期、繩文後期の土器とそれに伴う石器類がある。弥生時代の遺構は確認されなかったが、遺物では弥生時代後期土器片が検出された。昭和59年度の調査も含めると、古墳～奈良時代の遺構は、住居址53軒、竪穴状遺構11基、掘立柱建物址25棟、土師器集中区（祭祀跡）1ヶ所、土坑40基、溝9条、井戸6基であり、このほかに自然的營力によるものである地割れ9条、落ち込み10ヶ所が検出された。遺物には、多数の土師器、須恵器をはじめ、石製品、玉、鉄器などが検出された。旧石器時代、繩文時代の遺構・遺物、弥生式土器についての報告は、總て『柳久保遺跡群VIII』（1988）に掲載予定である。

4 層序

1の冒頭に記した様に、本遺跡は南・西・東側斜面が緩やかに傾斜し、東西を宮川の本谷と支谷に挟まれた舌状台地である。この台地の沖積地との比高差は、6～7mであり、遺跡地は標高103～114mを測る。台地全体において、古墳時代から奈良時代にかけての遺構が確認された。

表土を剥ぐと、As-Cが混じるクロボク土が薄く存在する場合もあるが、ほとんどの軟質ローム層上面が現れ、その面で古墳時代から奈良時代にかけての住居址、掘立柱建物址のピット、土坑、溝が確認される。ほとんどの遺構が関東ローム層（赤土）を掘り込んでいるため覆土が分かりやすい。本遺跡の標準的な層位は次の通りである。

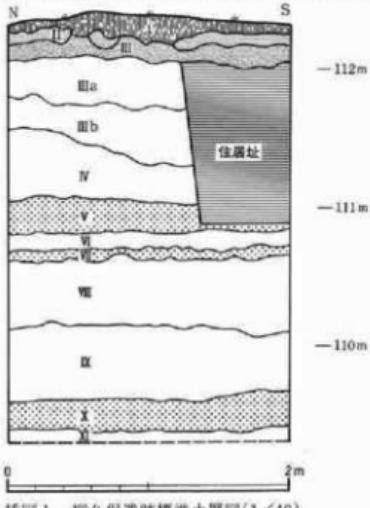
I 層 にびい黄褐色粗砂層。耕作土層。As-A、As-Bを主体的に含む。

II 層 黒褐色粗砂層。粘性をわずかに有し、軟らかいが締まっている。As-Cを20～30%含む。

III 層 黄褐色粗砂層。粘性を有し、軟らかいが締まる。テフラは入らない。ローム土が50%以上含まれる。

III a層 黄褐色軟質（ソフト）ローム層。粘性を有し軟らかいがやや締まっている。均一な層であり、繩文時代遺物包含層となっているが、層位的には出土をみない。また、古墳時代以降の遺構はこの層で確認されるが、繩文時代の遺構の大半はIV層まで下げないと確認できない。

III b層 黄褐色軟質（ソフト）ローム層。粘性を有し軟らかいが締まっている。暗褐色土のブロックを半分近く含む層である。この層から繩文時代の遺



插図1 柳久保遺跡標準土層図(1/40)

物の出土は極端に減少する。

- IV 層 黄褐色硬質（ハード）ローム層。上部に As-YP と思われるブロック、層中に As-SP を霜降り状に含む。粘性・締まりとも有り。
- V 層 黄褐色硬質（ハード）ローム層。As-BP が入り、下部に純層をブロックで含む。
- VI 層 黄褐色硬質（ハード）ローム層。
- VII 層 明黄褐色微砂層。風化土壤。粘性を有し、締まりは弱い。広域テフラ AT が入る。
- VIII 層 暗褐色ローム層。暗色帶。粘性が強く、締まり有り。
- IX 層 明黄褐色硬質ローム層。粘性・締まりとも極めて強い。
- X 層 明黄褐色軽石層。Hr-HP。テフラは 3 層に分けられる。
- XI 層 褐色粘土層。マンガン・鉄分塊が入る。非常に粘性の強い締まっている土層。

II 古墳時代以降の遺構

概 要

本遺跡は柳久保遺跡群内の中央部に存在する台地上にある。昭和59～61年度の調査により古墳時代から奈良時代にかけての集落址が台地全面から検出された。

本遺跡の全体図は付図 1 に示した。付図 1 の遺構全体図で掲載した遺構は古墳時代以降を中心とした時期の所産である。調査の結果、本遺跡からは古墳時代～奈良時代に所属する数多くの遺構と遺物が発見された。遺構は住居址53軒、竪穴状遺構11基、土器器集中区（祭祀跡）1ヶ所、掘立柱建物址25基、土坑40基、井戸6基、溝9条、地割れ9条、落ち込み10ヶ所が検出された。なお、昭和59年度調査の住居址5軒、遺物集中区、土坑3基、溝2条、地割れ4条は「柳久保遺跡群Ⅰ」において既に報告されているので参照していただきたい。

遺構分布を見ると、住居址は平坦な台地頂上部から緩やかな斜面の先端部に至る所に集中している。検出された住居址は時期別に大まかに分けることができる。4世紀（石田川期）の住居址は舌状台地の先端部の沖積地にかかる平坦面に、5世紀（和泉期）の住居址は舌状台地の頂上の平坦部に集中している。続く7世紀（鬼高期）のものは東側急斜面に、8世紀（真間期）のものは舌状台地の先端部の斜面に集中している。住居址以外の遺構については、土坑・溝が台地北東部斜面と先端部の斜面に特に多く検出されており、地割れは北西部と南端部の斜面の裾部に見られる。また、竪穴状遺構は頂上部から北東部かけてに多く検出されており、掘立柱建物址は南東部の緩やかな斜面上に多く分布している。縄文時代の遺構に関しては、すべて「柳久保遺跡群Ⅷ」で取り扱った。

1 住 居 址

検出された53軒の住居址のうち1～5号住居址は既に「柳久保遺跡群Ⅰ」で報告済みであるの

II 古墳時代以降の遺構

で、本報告書では6号住居址から55号住居址を報告する。石田川期の住居址はH-25・27・29~31・38・39・43・44号住居址の9軒であり、和泉期の住居址はH-1~6・8~14・46・47号住居址の15軒、鬼高期の住居址はH-15~19号住居址の5軒、真間期の住居址はH-20~24・26・28・32~37・40・42・48~53・55号住居址の22軒である。このように古墳時代から奈良時代までの約500年間を出土遺物により大きく4時期に分けることができる。また、遺物の分類はI~IV群とし、I群が石田川式期、II群が和泉式期、III群が鬼高式期、IV群が真間式期とし、器形毎に類別、さらに種別し記載に用いた。

H-6号住居址

位置 X100・101、Y95~97グリッド 標高 111.6m 時期 和泉期

挿図 Fig. 7・98 写真 PL. 3・49

面積 27.7m² 方位 N-36°-E

形状 長軸5.37m、短軸5.34mの正方形を呈する。壁高は22cmを測る。

床面 全体的に平坦である。踏み固められた床面が中央部から貯蔵穴までの範囲に検出された。壁はハードローム層まで掘り込まれていなかったので、南側部分が分かれずらかった。

掘り方 ソフトローム層を掘り込んでおり不明瞭であったため、地床と判断した。

炉址 中央部に3基検出。形状は、1・3号炉址は楕円形であり、2号炉址は不整楕円形である。なお、3号炉址は炭化物と焼土を含むことにより炉址と判明した。

貯蔵穴 P₁・南隅に検出。円形を呈し、長径76×短径66cm、深さ25cmを測る。

遺物 図示したものは土師器9点である。その内訳は甕(4種)1、小甕(1種)1、壺(3a種)1、同(5種)1、高杯(1種)1、同(2種)1、同3点である。これ以外にも土師器片が246点みられる。また、特殊遺物として鉄製品が1点出土している。

H-7号住居址

検討の結果、T-10号竪穴状遺構に変更。

H-8号住居址

位置 X96~98、Y106~108グリッド 標高 111.4m 時期 和泉期

挿図 Fig. 8・9・98~100 写真 PL. 3・4・49

面積 46.9m² 方位 N-79°-E

形状 長軸7.00m、短軸6.98mの正方形を呈する。壁は垂直に近く、その高さは72cmを測る。

床面 全体的に平坦である。焼失した住居のため炭化材が、中央部から南壁にかけて散在して検出された。床面の堅い所は柱穴に埋まれた所と南壁中央部である。また、P₁と貯蔵穴(P₂)の周囲に2ヶ所馬蹄形状施設が存在する。P₁の北・西壁に間仕切り溝が検出された。

1 住居址

炉 址 北壁寄り中央部に1基検出。円形を呈する。炉辺石1個を有する。

柱 穴 6個検出された。4個の主柱穴の規模は、P₁・長径36×短径32cm、深さ34cm、P₂・長径39×短径36cm、深さ47cm、P₃・長径43×短径32cm、深さ69cm、P₄・長径37×短径33cm、深さ41cmである。またこの他に、P₅・長径38×短径33cm、深さ48cm、P₇・長径57×短径52cm、深さ67cmである。

貯蔵穴 P₅・南東隅に検出。正方形を呈し、長軸100cm、短軸98cm、深さ69cmを測る。

遺 物 図示した土師器は21点であり、その内訳は壺（1種）1、甕（3種）3、小形鉢（2a・2b種）各1ずつ、杯（1種）1、同（2種）1、壙（2種）1、同（3d種）1、同（5種）1、同5、高杯（1種）3、同（2種）1、同1点である。これ以外に土師器片605点がみられる。また、特殊遺物として石製品1、絆石製品3、鐵製品1点が出土している。

H-9号住居址

位 置 X93~95、Y104~106グリッド 標 高 111.6m 時 期 和泉期

揮 図 Fig. 11・100~102 写 真 PL. 3・4・50・51

面 積 69.5m² 方 位 N-80°-E

形 状 長軸8.84m、短軸8.20mの正方形を呈する。壁は垂直に近く、壁高は74cmを測る。

床 面 柱穴に囲まれた付近から南東隅の貯蔵穴にかけて、堅く踏み締められた床面が、検出された。貼り床は10~15cm程度施されていた。また、貯蔵穴（P₅）の西側に馬蹄形状施設が検出された。掘り方の調査時に、東壁に接して東西方向に2条、南壁に接して1条、西壁に接して1条の間仕切り溝が検出された。

炉 坂 中央部に2基検出された。共に、不整梢円形を呈する。

周 溝 全周。幅10~12cm、深さは平均7cm程である。

柱 穴 4個の主柱穴が検出された。規模は、P₁・長径66×短径59cm、深さ66cm、P₂・長径78×短径58cm、深さ60cm、P₃・長径56×短径52cm、深さ63cm、P₄・長径65×短径50cm、深さ66cmである。

貯蔵穴 南東隅（P₅・長軸108×短軸85cm、深さ97cm）と南西隅（P₆・長径81×短径65cm、深さ73cm）に検出。

遺 物 図示した土師器は37点。その内訳は、甕（1種）2、同（4種）3、小甕（1種）3、同（2種）1、小形鉢（1a種）1、同（2a種）2、杯（1種）2、同（3種）1、壙（3a種）1、同（4種）1、同（6種）1、高杯（1種）5、同（3種）1、同（5種）1、同（7種）1、甕・高杯8点である。これ以外にも土師器の破片が2034点出土している。また、特殊遺物として土製品1、石製品6点がみられる。

II 古墳時代以降の遺構

H-10号住居址

位置 X91~93、Y96~98グリッド 標高 112.4m 時期 和泉期

揮図 Fig. 10・103・104 写真 PL. 5・51・52

面積 23.2cm² 方位 N-70°-E

形状 長軸5.66m、短軸4.48mの長方形を呈する。壁高は20cmを測る。

床面 平坦であるが、踏み固められた床や貼り床は認められなかった。柱穴は検出されなかつた。

炉址 中央部よりやや北東寄りに検出。形状は円形を呈する。長軸55cm、短軸50cm、深さ 6 cm を測る。

貯蔵穴 南東隅に貯蔵穴を検出。規模は、長径45cm、短径44cm、深さ40cmの円形を呈する。

遺物 図示した土師器は19点であり、内訳は壺（1・2種）各々1、甕（2・3・4種）各々1、小甕（2種）1、瓶（1種）1、小形鉢（1a種）1、小杯（1種）3、壺（3a種）1、高杯（3種）1、甕・壺・高杯6点である。また、これ以外にも土師器片が593点みられた。特殊遺物としては石製品1、経石製品1点が出土している。

H-11号住居址

位置 X93~95、Y109~111グリッド 標高 111.1m 時期 和泉期

揮図 Fig. 12・104 写真 PL. 5

面積 31.5m² 方位 N-78°-E

形状 長軸6.32m、短軸5.26mの長方形を呈する。壁高は15cmを測る。

床面 全体的に平坦である。ソフトローム層をわずかに15cmしか掘り込んでおらず、覆土と壁が似ており壁の検出が難しかった。また、東壁はトレーナーにより削られ、西側の床面も大部分が擾乱を受けていた。床面は使用面がハードローム層まで掘り込まれていないので検出が難しかった。床の堅度面は南西部に検出された。貼り床は施されていなかった。

炉址 中央・中央部西寄りに2基検出。1号炉址は、梢円形を呈し、長軸66cm、短軸55cm、深さ 6 cm を測る。2号炉址は円形を呈し、長軸66cm、短軸65cm、深さ 7.5cm を測る。

遺物 図示した土師器は6点であり、その内訳は、甕（3種）1、杯（1種）1、高杯（1種）2、高杯（2種）1、甕1点である。これ以外に土師器片が206点出土している。また、特殊遺物として土製品1点がある。

H-12号住居址

位置 X100~102、Y112・113グリッド 標高 111.4m 時期 和泉期

揮図 Fig. 13・105 写真 PL. 5・52

面積 26.6m² 方位 N-110°-E

1 住居址

形 状 長軸5.30m、短軸5.20mの正方形を呈する。壁高は51cmを測る。

床 面 東壁のやや南寄りに粘土で構築された馬蹄形状施設が検出された。高さは、高い所で6cm、壁際で2cmとなる。また、北壁西寄りに深さ約6cm程度、長さ1.8m程度の間仕切り溝が検出された。使用面での踏み固められた床は、柱穴に囲まれた所から南東部に認められた。貼り床は15~25cm程度の厚さで施されていた。

炉 址 中央よりやや西壁寄りに検出。不整形を呈し、長軸49cm、短軸42cm、深さ6cmを測る。

柱 穴 4個の主柱穴を検出。規模は、P₁・長径47×短径30cm、深さ63cm、P₂・長径48×短径35cm、深さ69cm、P₃・長径32×短径27cm、深さ72cm、P₄・長径40×短径29cm、深さ73cmである。

貯蔵穴 南東隅に検出(P₅)。隅丸長方形を呈し、長軸87cm、短軸64cm、深さ79cmを測る。

遺 物 図示した土師器は9点である。その内訳は、小形鉢(1a種)1、杯(1種)1、壺(5種)1、高杯(1種)2、同(3種)1、同3点である。この他に、土師器片が179点ある。また、特殊遺物として石製品が1点出土している。

H-13号住居址

位 置 X102・103、Y96~98グリッド 標 高 111.2m 時 期 和泉期

揮 図 Fig. 14・105 写 真 PL. 5

面 積 15.8m² 方 位 N-70°-E

形 状 長軸4.36m、短軸3.88mの長方形を呈する。壁高は35cmを測る。

床 面 南東隅の柱穴の西側に馬蹄形状施設が検出されたが、その他の所は平坦である。使用面において、踏み固められた床面が中央部に検出された。貼り床は施されていなかった。

炉 坂 中央部よりやや北寄りの所に検出。形状は橢円形に近い形を呈し、長軸53cm、短軸43cm、深さ5.5cmを測る。

貯蔵穴 南東隅に検出(P₁)。形状は円形を呈する。長径78cm、短径75cm、深さ52.5cmを測る。

遺 物 図示した土師器は4点であり、その内訳は、小壺(1種)2、高杯(1種)1、同1点である。この他土師器片が214点出土している。

H-14号住居址

位 置 X106~108、Y99~101グリッド 標 高 110.0m 時 期 和泉期

揮 図 Fig. 15・105・106 写 真 PL. 5・6・52

面 積 38.7m² 方 位 N-66°-E

形 状 長軸6.42m、短軸6.28mの不整正方形を呈する。壁高は33cmを測る。

床 面 ほぼ平坦であるが、使用面においては堅緻面の検出はなかった。また、東壁の中央部はトレンチにより削られている。他の壁は70~80の立ち上がりを持つ、しっかりとした壁

II 古墳時代以降の遺構

が検出された。

炉 址 中央部（1号炉址）、中央部北寄り（2号炉址）、中央部西寄り（3号炉址）を検出。3基ともに円形を呈する。1号炉址は、長径61cm、短径52cm、深さ9.5cmを測る。2号炉址は、長径71cm、短径66cm、深さ6cmを測り、3号炉址は、長径59cm、短径56cm、深さ2.5cmを測る。

柱 穴 全部で5個検出された。4個の主柱穴の規模は、P₁・長径28×短径26cm、深さ73cm、P₂・長径36×短径29cm、深さ81cm、P₃・長径40×短径25cm、深さ69cm、P₄・長径31×短径30cm、深さ79cmである。

貯藏穴 P₅・南東隅に検出。形状は円形を呈し、長径89cm、短径85cm、深さ61cmを測る。さらに、P₆・長径67×短径59cm、深さ43cmがある。

遺 物 図示した土師器は9点であり、その内訳は、壺（4種）3、杯（1種）1、壺（3a種）1、同3、高杯1点である。これ以外にも土師器片が968点ある。さらに特殊遺物として土製品2、鉄製品1点が出土している。

H-15号住居址

位 置 X111・112、Y98・99グリッド 標 高 107.0m 時 期 鬼高期

揮 圖 Fig. 16・106~109 写 真 PL. 6・7・53・54

面 機 17.1m² 方 位 N-103°-W

形 状 長軸4.48m、短軸4.25mの正方形を呈する。表土掘削時に上部に削平を受ける。壁高は48cmを測る。

床 面 西壁から東壁に向かって傾斜し、その差は25cm程度である。貯藏穴の北、東部に馬蹄形状施設が存在し、使用面には踏み固められた床が中央部から竈、南壁付近、貯藏穴付近に認められた。貼り床は10cm程度施されていた。

電 址 西壁中央部のやや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向は、N-108.5°-Wである。全長85cm、幅102cm。補強材として土器（長壺）を両袖に使用している。

周 溝 ほぼ全周。幅10cm、深さ平均7cm程度である。

柱 穴 3個検出。各々の規模は、P₁・長径26×短径25cm、深さ40cm、P₂・長径34×短径32cm、深さ46cm、P₃・長径28×短径17cm、深さ8cmである。

貯藏穴 南西隅に検出（P₄）。隅丸長方形を呈し、長軸70cm、短軸55cm、深さ48cmを測る。

遺 物 図示した土師器は16点であり、その内訳は、壺（2種）7、同（3種）1、小壺（1種）1、同（2種）1、同（3種）2、瓶（1種）1、小鉢（1種）1、杯（1a種）1、同（1b種）1点である。これ以外の土師器の破片数は216点である。また、特殊遺物として石製品が1点出土している。

H-16号住居址

位置 X113~115、Y102~103グリッド 標高 106.4m 時期 鬼高期

揮図 Fig. 17・18・109・110 写真 PL. 7・8・53・54

面積 18.0m² 方位 N-105°-W

形状 長軸4.94m、短軸4.00mの長方形を呈する。壁高は78cmを測る。急傾斜な台地の東斜面に存在するため、東壁は不明瞭である。

床面 床の使用面における堅緻面が中央部に検出。地割れが中央部から南壁に向かって数条存在し、床面を破壊していた。また、床面は平坦であるが、10cm程度北側が南側より低くなっている。貼り床は5cm程度施されていた。

電址 西壁中央部のやや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-105°-Wである。全長105cm、幅88cm。補強材として石を両袖に使用している。

貯藏穴 P₁・南西隅に検出。隅丸長方形を呈し、長軸78cm、短軸58cm、深さ58cmを測る。

遺物 図示した土師器は10点であり、その内訳は、甕（2種）1、小甕（2種）2、同（3種）2、櫃（1種）1、小形鉢（3種）1、杯（1a種）1、同（1b種）1、高杯（1種）1点である。また、これ以外に土師器片が119点ある。さらに特殊遺物として石製品1点が出土している。

重複 北壁中央部を13号土坑により切られている。また、地割れによって床面を破壊されていた。

H-17号住居址

位置 X106・107、Y91~93グリッド 標高 111.0m 時期 鬼高期

揮図 Fig. 19・20・111~114 写真 PL. 8・9・53~57

面積 18.2m² 方位 N-9°-W

形状 長軸4.60m、短軸4.24mの不整正方形を呈する。壁高は1.25mを測る。

床面 平坦であるが、北側より南側の方が10cm高くなっている。使用面においては、竈周辺から床面中央部にかけて堅い面が認められた。貼り床が厚さ10cmほど施されていた。また、南壁東寄りに焼土の分布が認められた。

電址 北壁中央部に位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-90°-Wである。全長117cm、幅88cm。補強材として、土器（長甕）を両袖に使用している。

周溝 北西部を除く全周。

柱穴 P₂・長径32×短径28cm、深さ40cmのものが南壁際で検出された。

貯藏穴 北西隅に2個検出。P₁・円形を呈し、長径48×短径47cm、深さ45cm。P₃・長径63×短径31cm、深さ6cm。

遺物 図示したものは23点（土師器21点、須恵器2点）である。内訳は、土師器では甕（1種）

II 古墳時代以降の遺構

5、同（2種）3、同（3種）1、小甕（2種）1、同（3種）1、瓶（1種）1、小形鉢（2種）1、杯（1c種）3、同（1d種）1、同（2種）3、同（5種）1点であり、須恵器では鉢（1種）1、同（2種）1点である。この他に土師器片が260点出土している。

H-18号住居址

位置 X108~110、Y90・91グリッド 標高 108.0m 時期 鬼高期

揮図 Fig. 21・22・115 写真 PL. 9・10・56

面積 32.8m² 方位 N-9°-W

形状 長軸6.00m、短軸5.80mの正方形を呈する。壁高は1.35mを測る。西壁北部に横穴を持つ。

床面 床面は平坦であり、使用面全体に堅い床面が認められた。貼り床は10~15cm程度の厚さで施されていた。また、貯蔵穴を囲んで馬蹄形状施設が検出された。その高さは平均5cm程度である。

電址 東壁中央部に位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-77°-Eである。全長99cm、幅89cm。北壁中央部より東壁へ造り替えられたものである。

周溝 南西隅を除く全周。

柱穴 全部で7個検出。主柱穴は、P₁・長径42×短径40cm、深さ61cm、P₂・長径64×短径52cm、深さ64cm、P₃・長径71×短径69cm、深さ87cm、P₄・長径73×短径72cm、深さ82cmである。この他にP₅・長径57×短径55cm、深さ27cm、P₆・長径86×短径48cm、深さ46cm、P₇・長径30×短径17cm、深さ5cmがある。

貯蔵穴 南東隅に検出(P₅)。不整梢円形を呈し、長径62cm、短径55cm、深さ44cmを測る。この他に、P₇・長径57×短径46cm、深さ14cmがある。

遺物 図示した土師器は14点であり、その内訳は、小甕（1種）1、瓶（1種）2、杯（1b種）2、同（1c種）4、同（2種）1、同（3種）2、同（4種）1、同（5種）1点である。これ以外に土師器片が293点ある。また、特殊遺物として鉄製品が2点出土している。

H-19号住居址

位置 X95・96、Y111・112グリッド 標高 106.6m 時期 鬼高期

揮図 Fig. 23・115 写真 PL. 10

面積 壁が認められず計測不能。方位 N-101°-W

形状 長軸3.49m、短軸2.65mの不整長方形を呈する。壁高は15cmを測る。

床面 台地の東側の急斜面に存在し、住居の床面・壁共に北・東・南側と削平を受けているが、かろうじて西側部分が残存していた。削平を受けていない床面は平坦である。

1 住居址

- 電 址 西壁の南隅に位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-108°-Wである。全長102cm、幅87cm。
- 遺 物 図示した土師器は杯（1b種）2、同（1d種）1点の計3点である。この他に土師器片が24点出土している。
- 重 反 北西隅を15号土坑によって切られている。

H-20号住居址

- 位 置 X115・116、Y125・126グリッド 標 高 109.8m 時 期 真間期
- 攝 図 Fig. 24・25・115・116 写 真 PL. 11・57
- 面 積 19.4m² 方 位 N-81°-E
- 形 状 長軸4.98m、短軸4.03mの長方形を呈する。壁高は62cmを測る。
- 床 面 全体的にほぼ平坦であり、踏み固められた床が認められた。貼り床は10~20cm程度施されていた。北側の床下土坑の付近は30cm以上と深い。また、中央部から竈周辺まで焼土が検出された。
- 掘り方 床下土坑が3基検出された。各土坑の規模は、P₁・長径139×短径103cm、深さ18cm、P₂・長径146×短径132cm、深さ25cm、P₃・長径82×短径51cm、深さ21cmである。
- 電 址 東壁の南寄りに位置する。残存状態は良好、主軸方向はN-75°-Eである。全長141cm、幅140cm。燃焼部に10cm程度の厚さで灰層が堆積している。
- 周 溝 全周。
- 遺 物 図示した土師器の内訳は、台付甕（1種）1、瓶（1種）1、杯（2b・3・4a種）各々1点、計5点である。また、図示した須恵器の内訳は、碗（4種）1、同1、杯（1種）2、計4点である。これ以外の破片数は、土師器が215点、須恵器が67点である。さらに特殊遺物として石製品1、鉄製品4点が出土している。

H-21号住居址

- 位 置 X117・118、Y123・124グリッド 標 高 110.0m 時 期 真間期
- 攝 図 Fig. 26・27・116 写 真 PL. 11・57
- 面 積 11.8m² 方 位 N-75°-E
- 形 状 長軸3.77m、短軸3.46mの正方形に近い形を呈する。壁高は65cmを測る。
- 床 面 全体的に平坦であり、踏み縮められた堅い床面が認められた。貼り床は5cm程度施されていた。
- 掘り方 電付近に床下土坑を2基検出した。各土坑の規模は、P₁・長径42×短径31cm、深さ16cm、P₂・長径91×短径83cm、深さ19cmである。
- 電 址 東壁中央部よりやや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-74°-Wであ

II 古墳時代以降の遺構

る。全長108cm、幅119cm。

遺物 図示した須恵器は、碗（3種）1、同（4種）1点の2点である。この他にも土師器片が79点、須恵器片が17点出土している。

H-22号住居址

位置 X121・122、Y124・125グリッド 標高 109.0m 時期 真間期

揮図 Fig. 28・29・116・117 写真 PL. 11・12・57・58

面積 12.6m² 方位 N-79°-E

形状 長軸4.65m、短軸3.08mの不整長方形を呈する。壁高は85cmを測る。

床面 柱穴は認められず、南東隅に焼土を検出。踏み締められた堅い面が認められ、貼り床は5~10cm程度施されていた。

掘り方 住居中央部に床下土坑（P₁・長径157×短径125cm、深さ22cm）を検出。形状は、楕円形を呈する。

電址 東壁中央部の南寄りに位置する。残存状態は良好である。主軸方向はN-85°-Wである。規模は全長130cm、幅76cmである。

周溝 窓の北部分の一部を除く全局。

遺物 図示した土師器は14点で、内訳は甕（2種）1、杯（2b種）2、同（3種）8、同（4a種）2、同（6種）1点である。また、図示した須恵器は11点で、内訳は甕（1種）1、杯（1種）3、同（2種）3、蓋（1種）2、同（2種）2点である。これ以外に土師器片が359点、須恵器片は33点出土している。さらに特殊遺物として鉄製品3点がある。

H-23号住居址

位置 X122・123、Y126・127グリッド 標高 108.2m 時期 真間期

揮図 Fig. 30・31・118 写真 PL. 12・13・58

面積 10.4m² 方位 N-90°-E

形状 長軸4.05m、短軸2.90mの長方形を呈する。壁高は62cmを測る。

床面 全体的に平坦である。使用面において柱穴は認められなかった。貼り床は3~5cm程度の厚さで認められた。

掘り方 床下土坑を北東隅（P₁・長径71×短径50cm、深さ12cm）、中央部（P₂・長径104×短径102cm、深さ35cm）、南西隅（P₃・長径82×短径65cm、深さ17cm）に3基検出。

電址 東壁中央部やや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-90°-Eである。全長67cm、幅94cm。補強材として、両袖に角閃石安山岩製の袖石を配置してある。

遺物 図示した土師器は杯（3種）2、杯（4a種）1、計3点である。これ以外にも土師器

片48点、須恵器片4点が出土している。

H-24号住居址

- 位 置 X115・116、Y129・130グリッド 標 高 109.0m 時 期 真間期
 掘 図 Fig. 31~33・118 写 真 PL. 13・14・58
 面 積 13.2m² 方 位 N-78°-E
 形 状 長軸4.17m、短軸3.98mの正方形を呈する。壁高は92cmを測る。
 床 面 壁際に比べて中央部が10cm程度低くなっている、いわゆる摺鉢状の床面となっている。
 また、踏み締められた堅い床面が柱穴に囲まれた付近に認められた。貼り床も5~10cm程度認められた。
 掘り方 中央部に円形の床下土坑(P₁・長径163×短径139cm、深さ52cm)が認められた。さらに、P₁・長径31×短径27cm、深さ20cmも検出された。
 電 址 東壁中央部やや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-75°-Wである。
 全長137cm、幅131cm。補強材として両袖に石を配置してある。
 柱 穴 2個検出された。各々の規模は、P₁・長径26×短径25cm、深さ19cm、P₂・長径32×短径29cm、深さ72cmである。
 遺 物 図示した土師器は杯(3種)3点のみである。これ以外に土師器片34点、須恵器片1点が出土している。

H-25号住居址

- 位 置 X119~121、Y135・136グリッド 標 高 106.8m 時 期 石田川期
 掘 図 Fig. 34・118・119 写 真 PL. 14・59・60
 面 積 20.9m² 方 位 N-75°-E
 形 状 長軸4.95m、短軸4.55mの正方形を呈する。壁高は65cmを測る。
 床 面 北壁側より南壁側の方が10cm程度低くなっている。住居内のはば中央に炉址が検出され、それを囲むように4本の柱穴が検出された。貼り床は5~10cm程度施されていた。その他に南東隅、南西隅に焼土の分布が認められた。
 炉 址 中央よりやや北壁寄りに検出。形状は不整形を呈し、長径75cm、短径50cmを測る。
 柱 穴 全部で6個検出。主柱穴は、P₁・長径40×短径37cm、深さ56cm、P₂・長径40×短径37cm、深さ52cm、P₃・長径32×短径31cm、深さ65cm、P₄・長径50×短径36cm、深さ49cm。この他にP₅・長径31×短径24cm、深さ26cm、P₆・長径36×短径26cm、深さ40cmが確認された。
 遺 物 図示した土師器は8点であり、その内訳は台付甕(1a種)2、甑(1種)1、小鉢(1種)1、壺(1種)2、器台(2種)2点である。これ以外に土師器片が149点ある。また、特殊遺物として鉄製品が1点出土している。

II 古墳時代以降の遺構

重複 北壁の西隅寄りをB-6号掘立柱建物址により切られている。

H-26号住居址

位置 X120・121、Y136・137グリッド 標高 106.2m 時期 真間期

捕図 Fig. 35・119 写真 PL. 15・59

面積 8.2m² 方位 N-72°-E

形状 長軸3.30m、短軸2.66mの長方形を呈する。壁高は60cmを測る。壁は各辺とも直線的であり、垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 全体的に平坦である。住居に関係する柱穴等は認められなかった。床面には踏み締められた堅い面が認められ、貼り床は5~10cm程度認められた。

竈址 東壁中央やや南寄りに位置する。残存状態は左袖が半分程残存。主軸方向はN-76°-Eである。全長107cm、幅99cmを測る。

遺物 図示した遺物は3点である。内訳は、土師器は甕(2種)1点であり、須恵器は蓋(2種)が2点である。この他にも、土師器片が51点、須恵器片が4点出土している。

H-27号住居址

位置 X122・123、Y137・138グリッド 標高 106.0m 時期 石田川期

捕図 Fig. 36・119・120 写真 PL. 15・60・61

面積 19.1m² 方位 N-84°-E

形状 長軸5.10m、短軸4.02mの長方形を呈する。壁高は95cmを測る。壁は垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 平坦であり、全体的に踏み締められた堅い面が認められたが、貼り床は認められなかった。南壁際に3個の柱穴・貯蔵穴を検出したが、炉址、焼土分布等は認められなかった。

炉址 使用面においては検出されなかったが、セクションにおいて焼土の混じる層が南北セクションの南壁際ににおいて認められた。

柱穴 2個検出。各々の規模は、P₁・長径39×短径34cm、深さ32cm、P₂・長径48×短径42cm、深さ32cmである。

貯蔵穴 P₁・南東隅に隅丸長方形を呈するものが存在した。長軸116cm、短軸54cm、深さ22cmを測る。

遺物 図示した土師器は10点である。その内訳は、甕(1種)1、同(2種)4、小形甕(4種)1、瓶(2種)1、壺(3種)1、高杯(1種)1、器台(3種)1点である。これ以外にも土師器片234点、須恵器片5点が出土している。

H-28号住居址

位 置 X122・123、Y138・139グリッド 標 高 105.4m 時 期 真間期

攝 図 Fig. 37~38・120 写 真 PL. 16

面 積 15.1m² 方 位 N-90°-E

形 状 長軸4.75m、短軸3.38mの長方形を呈し、壁高は55cmを測る。各辺はともに直線的である。

床 面 平坦であるが、使用面において柱穴等は認められなかった。

掘り方 不整形な床下土坑(P₁)を検出。規模は長軸57cm、短軸35cm、深さ8.5cmを測る。この他に南西部分に掘り込みを確認した。

電 壁 東壁中央部やや南寄りに位置する。主軸方向はN-90°-Eである。全長84cm、幅66cmを測る。

周 溝 全周。

遺 物 図示したものは3点である。内訳は土師壺(1種)1点、須恵杯(3種)が1点である。

これ以外にも土師器片が203点、須恵器片が16点ある。さらに特殊遺物として鉄製品が1点出土している。

H-29号住居址

位 置 X120~122、Y138~140グリッド 標 高 105.2m 時 期 石田川期

攝 図 Fig. 39~40・121 写 真 PL. 16・17・61・62

面 積 46.1m² 方 位 N-78°-E

形 状 長軸7.15m、短軸7.10mの正方形を呈する。壁高は80cmを測り、壁は垂直に近い状態で掘り込まれている。

床 面 平坦な床面である。踏み締められた堅い面はW-7号溝の北側全体に認められ、貼り床は、7~10cm程度認められた。

炉 壁 中央部(1号炉址)と中央部やや北壁寄り(2号炉址)に検出。1号炉址は梢円に近く、長径90cm、短径70cm、深さ1.5cmを測る。2号炉址は円形で、長径73cm、短径69cm、深さ4.5cmを測る。

周 溝 北西と北東に一部存在する。

柱 穴 全部で5個検出された。主柱穴の規模は、P₁・長径57×短径53cm、深さ68cm、P₂・長径54×短径52cm、深さ94cm、P₃・長径48×短径47cm、深さ94cm、P₄・長径56×短径46cm、深さ42cmである。さらに、P₅・長径42×短径40cm、深さ97cmも確認された。

貯蔵穴 P₆・南東隅に検出。隅丸正方形を呈し、一边85cm、深さ33cm。また、P₇・南西隅に検出。不整形で長径148cm、短径134cm、深さ68cmを測る。

遺 物 図示した土師器は16点であり、その内訳は、台付壺(1a種)1、同(1d種)2、小形壺(3種)1、同(4種)1、小鉢(1種)3、同(3種)2、高杯(1種)1、同

II 古墳時代以降の遺構

(2種) 1、器台(1種) 1、小(1種) 2、甕1点である。これ以外に土師器片が1831点、須恵器片が4点ある。また、特殊遺物として石製品が1点出土している。

重複 東西の壁がW-7号溝により切られている。

H-30号住居址

位置 X118・119、Y138・139グリッド 標高 105.6m 時期 石田川期

挿図 Fig. 40・122 写真 PL. 17・62

面積 9.8m² 方位 N-82°-E

形状 長軸3.35m、短軸3.32mの正方形を呈する。各辺とも直線的であり、壁は垂直に近い角度で掘り込まれている。壁高は65cmを測る。

床面 中央部を境として南側が多少傾斜していて、北壁際と南壁際との差は10cm程度である。堅い床面は認められたが、貼り床は認められなかった。

柱穴 P₁・長径29×短径22cm、深さ14cmを測る。

貯蔵穴 P₂・南東隅に検出。円形を呈し、長軸35cm、短軸34cm、深さ30.5cmを測る。

遺物 図示した土師器は9点であり、その内訳は壺(1種) 2、台付甕(2種) 1、同(2種) 1、小鉢(1種) 1、同(2種) 2、器台(3種) 1点である。これ以外の破片数は土師器149点、須恵器12点である。

H-31号住居址

位置 X116・117、Y139グリッド 標高 105.6m 時期 石田川期

挿図 Fig. 40・122~124 写真 PL. 23・62~64

面積 8.5m² 方位 N-88°-E

形状 長軸3.10m、短軸3.00mの正方形を呈する。壁高は35cmを測り、北壁は35°~40°程度の角度で、他の壁は70°~80°の角度で掘り込まれている。各辺とも直線的である。

床面 北壁際から南壁際へわずかに傾斜する床面であり、その差は10cm程度である。踏み固められた床面は認められたが、貼り床は認められなかった。

炉址 中央部や西壁寄りに検出された。不整形を呈する。

貯蔵穴 南西隅に検出(P₁)し、円形を呈する。規模は、径51cm、深さ20cmである。

遺物 図示した土師器は13点である。その内訳は、壺(2種) 2、台付甕(1c+1d+2b種) 各々1、甕(1種) 1、同(3種) 1、小形甕(4種) 1、同(5種) 1、瓶(1種) 1、高杯(1種) 1点である。これ以外にも土師器片624点、須恵器片3点が出土している。

H-32号住居址

位置 X114・115、Y137・138グリッド 標高 106.4m 時期 真間期

挿図 Fig. 41・124 写真 PL. 18・64

面積 12.1m² 方位 N-81°-E

形状 長軸4.15m、短軸3.20mの長方形を呈する。壁は垂直に近い角度で掘り込まれ、その高さは、67cmを測る。

床面 平坦である。堅い床面が全体的に認められたが、貼り床は認められない。使用面においては、貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。

掘り方 北西隅に床下土坑(P₁)を検出。規模は、長径87×短径57cm、深さ22cmである。

電址 東壁中央部やや南寄りに位置する。主軸方向はN-83°-Eである。全長94cm、幅95cmである。

遺物 図示した土器は土師杯(3種)2点である。他に、土師器片308点、須恵器片7点が出土している。

重複 南東隅をD-18号土坑に切られている。また、西壁中央部でD-59号縄文土坑を切っている。さらに、北西隅でH-54号住居址、B-21号掘立柱建物址を切っている。

H-33号住居址

位置 X114・115、Y139・140グリッド 標高 105.6m 時期 真間期

挿図 Fig. 42・43・124・125 写真 PL. 19・63・64

面積 11.0m² 方位 N-9°-W

形状 長軸3.88m、短軸2.90mの長方形を呈する。壁高は55cmを測る。壁は70°～80°程度の角度で掘り込まれている。

床面 平坦に形成されている。柱穴、貯蔵穴等は認められなかった。貼り床は5～10cm程度認められた。

掘り方 床下土坑(P₁)を南西隅に検出。不整形を呈し、規模は、長径150×短径120cm、深さ21cmを測る。

電址 北壁の中央部に位置する。残存状態は良好。主軸方向はN-4°-Wである。全長97cm、幅88cmを測る。補強材として、両袖に石を配置している。

周溝 全周。

遺物 図示した土師器は6点である。その内訳は、甕(1種)2、杯(3種)4点である。これ以外にも土師器片368点、須恵器片6点が出土している。

重複 B-14・15掘立柱建物址、D-60号土坑と重複関係を有し、D-61号縄文土坑を切っている。

H-34号住居址

位置 X114~116、Y140・141グリッド 標高 104.4m 時期 真間期

地図 Fig. 44~46・125 写真 PL. 20・64

面積 24.4m² 方位 N-90°-E

形状 長軸5.92m、短軸4.35mの長方形を呈し、壁高は65cmを測る。各辺とも直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 平坦で堅い床面が認められた。10cm程度の厚さで貼り床が施されていた。

掘り方 床下土坑を2基検出。各土坑の規模は、P₃・長径210×短径194cm、深さ76cm、P₄・長径81×短径68cm、深さ57cmである。

竪 壁 東壁中央部やや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-90°-Eである。全長126cm、幅125cm。

周溝 西壁北側を除く全周。

貯蔵穴 中央部西寄り(P₁・長径103×短径64cm、深さ90cm)、南西隅(P₂・長径67×短径62cm、深さ26cm)に2個検出。

遺物 図示した土師器は5点であり、その内訳は、杯(3種)3、同(4a種)1、甕1点である。また、須恵器については杯(2種)1点である。この他には土師器片927点、須恵器片19点がある。さらに特殊遺物として、石製品1点、軽石製品1点、鉄製品3点が出士している。

重複 W-7号溝により北・西壁の北側部分を切られている。また、本住居の北西部がH-40号住居址の南東部を切っている。

H-35号住居址

位置 X117・118、Y139~141グリッド 標高 105.2m 時期 真間期

地図 Fig. 47・48・125 写真 PL. 21・64

面積 23.5m² 方位 N-81°-E

形状 長軸5.50m、短軸4.45mの長方形を呈する。壁高は75cmを測り、各辺とも直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 全体的に平坦である。堅い床面が住居址内全体に認められ、貼り床が10cm程度の厚さで施されていた。

掘り方 3基の床下土坑を検出。各土坑の規模は、P₃・長径154×短径140cm、深さ79cm、P₃・長径41×短径31cm、深さ32cm、P₄・長径110×短径108cm、深さ84cmである。

竪壁 東壁の中央部南寄りに位置する。主軸方向はN-72°-Eである。全長93cm、幅114cmを測る。

周溝 南西部の一部分を除く全周。

貯蔵穴 南東隅に検出 (P_1)。円形で、径58cm、深さ19cmを測る。

遺物 図示した土師器は甕(1種)1、杯(3種)7点、計8点であり、須恵器については碗(2種)1、同(5種)1、杯(2種)1、同(3種)2、蓋(1種)1点、計6点である。この他にも土師器片3236点、須恵器片83点がある。また、特殊遺物として鉄製品が1点出土している。

重複 W-7号溝により東西の壁の中央部が切られている。

H-36号住居址

位置 X119・120、Y140グリッド 標高 104.4m 時期 真間期

挿図 Fig. 49・126 写真 PL. 21

面積 6.4m² 方位 N-84°-E

形状 長軸2.82m、短軸2.45mの正方形に近い形を呈する。壁高は65cmを測り、壁は直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 全体的に平坦であるが、竈周辺が10cm程度低くなっている。堅い床面は全面的に認められた。

掘り方 床下土坑が2基検出。各土坑の規模は、 P_1 ・径35cm、深さ23cm、 P_2 ・長径149×短径95cm、深さ10cmである。

電址 南東壁隅に位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-120°-Eである。全長71cm、幅80cmを測る。

遺物 図示した土器は土師杯(4a種)のみである。この他には、土師器片111点が出土している。

H-37号住居址

位置 X119・120、Y141・142グリッド 標高 104.2m 時期 真間期

挿図 Fig. 50・126 写真 PL. 22

面積 6.8m² 方位 N-68°-E

形状 長軸2.73m、短軸2.63mの正方形を呈する。壁高は52cmを測り、壁は直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。南壁東部はトレンチで削られている。

床面 住居址床面全体に地割れが認められた。使用面においては、踏み締められた堅い床面が認められたが、地割れによって所々切られていた。地割れがなかったと考えれば床面は平坦である。

電址 東壁の南寄りに位置する。残存状態はトレンチによる破壊のため悪い。主軸方向はN-72°-Eである。全長82cm、幅は計測不可能な状態である。

遺物 図示した土器は土師杯(2b種)1、同(4a種)1、計2点だけである。これ以外に

II 古墳時代以降の遺構

も土師器片144点、須恵器片1点が出土している。

重複 H-39号住居址の東壁を切っている。

H-38号住居址

位置 X116・117、Y142~144グリッド 標高 104.0m 時期 石田川期

挿図 Fig. 50・126 写真 PL. 22・64

面積 26.2m² 方位 N-68°-E

形状 長軸5.57m、短軸4.92mの正方形を呈する。壁高は28cmを測り、各辺とも直線的であり、壁は垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 平坦であるが、北壁際に比べ南壁際が10~15cm程度低くなっている。

柱穴 4個検出された。各々の規模は、P₁・長径28×短径28cm、深さ24cm、P₂・長径18×短径18cm、深さ36cm、P₃・長径20×短径20cm、深さ40cm、P₄・長径28×短径22cm、深さ23cmである。

貯藏穴 P₅・南東隅に検出。楕円形を呈し、長径76cm、短径57cm、深さ54cmを測る。

遺物 図示した土器は土師器4点である。その内訳は台付甕(1c種)1、同(1d種)1、小鉢(1種)1点である。この他には土師器片が86点、須恵器片が2点出土している。

重複 使用面調査時には沖積土層のため判別がつかなかったが、掘り方面的の調査で、南側13の部分が地割れを受け破壊されていることが判明した。

H-39号住居址

位置 X118~120、Y141~143グリッド 標高 104.2m 時期 石田川期

挿図 Fig. 51・126 写真 PL. 23・64・65・66

面積 25.1m² 方位 N-66°-E

形状 長軸(現存長)5.42m、短軸(現存長)4.75mの正方形を呈する。壁高は40cmを測り、南壁は地割れにより、東壁はH-37号住居址により破壊されている。

床面 全体的に平坦であるが、南壁際が北壁際より10cm程度低くなっている。南側部分は地割れにより欠損している。

炉址 中央部やや北寄りに検出。楕円形を呈し、長径57cm、短径42cm、深さ9.5cmを測る。

遺物 図示した土師器は20点である。その内訳は、台付甕(1c種)1、同(1d種)1、甕(1種)1、同(2種)1、小形甕(1種)1、同(2種)1、鉢(1種)1、壇(1種)2、高杯(1種)1、器台(1種)7点である。これ以外にも土師器片が595点、須恵器片が3点出土している。

重複 北西隅をT-11号竪穴状遺構に、東壁をH-37号住居址に切られている。また、I-4号井戸が北西部の床面を切っている。

H-40号住居址

位 置 X114・115、Y140・141グリッド 標 高 105.2m 時 期 真間期

捕 図 Fig. 52・53・128 写 真 PL. 20・23・66

面 積 20.0m² 方 位 N-86°-E

形 状 長軸4.90m、短軸4.60mの長方形を呈し、西壁中央部に張り出し部分をもつ。壁高は70cmを測る。各辺とも直線的であり、垂直に近い角度で掘り込まれている。

床 面 全体的に平坦である。堅い床面で、貼り床は7~10cm程度認められた。

掘り方 床下土坑を2基検出した。各土坑の規模は、P₁・径24cm、深さ41cm、P₂・径20cm、深さ28cmである。さらに、中央部に掘り込みが存在する。

電 壁 H-34号住居址に切られているため検出できなかった。

周 溝 東壁の一部を除く全周。

遺 物 図示した土師器は壺(2種)2、鉢(1種)1、杯(2b種)2、同(3種)2、同(4a種)4点、計11点である。また、須恵器は蓋(1種)1、同(2種)2、計3点である。この他にも土師器片566点、須恵器片3点がある。さらに、特殊遺物として鉄製品が3点出土している。

重 複 W-7号溝が東西に横切っている。また、南東隅をH-34号住居址に切られている。

H-41号住居址

検討の結果、I-2号井戸に名称変更。

H-42号住居址

位 置 X124、Y130・131グリッド 標 高 106.6m 時 期 真間期

捕 図 Fig. 53・120・130 写 真 PL. 23・67

面 積 台地の東崖際にあり、欠損しているため計測不可能。 方 位 N-1°-E

形 状 台地の東崖際にあり、大部分が欠損しているため計測不可能である。

床 面 全体的に平坦である。竈南東部に堅い床面を認めたが、貼り床は施されていなかった。

電 壁 北西隅に位置する。残存状態は良好であり、主軸方向はN-18°-Wである。全長112cm、幅81cmを測る。

遺 物 住居址のほとんどが欠損しているため出土遺物も少ない。その中で、図示した遺物は、螺旋状暗文を持つ土師杯(7種)2、須恵碗(1種)1、計3点である。

H-43号住居址

位 置 X118・119、Y144~146グリッド 標 高 103.4m 時 期 石田川期

捕 図 Fig. 54・130 写 真 PL. 24・67

II 古墳時代以降の遺構

面積 47.8m² 方位 N-94°-E

形状 長軸7.24m、短軸7.04mの正方形を呈する。壁高は45cmを測る。各辺とも直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。

床面 全体的に平坦である。舌状台地と沖積地との境にあり、黒色土を掘り込んであるため、床面の判定が難しかった。また、水が涌き出すため、床の堅緻面の確認はできなかった。

柱穴 4個検出された。各々の規模は、P₁・長径65×短径64cm、深さ49cm、P₂・長径71×短径65cm、深さ60cm、P₃・長径75×短径65cm、深さ58cm、P₄・長径70×短径66cm、深さ67cmである。

貯蔵穴 南東隅に検出(P₅)。圓丸長方形を呈し、長軸66cm、短軸52cm、深さ39cmを測る。

遺物 図示したものは土師器10点である。その内訳は、台付甕(1a種)1、小形甕(3種)2、鉢(1種)1、小鉢(1種)1、壺(2種)1、高杯(1種)1、小形土器(1種)3点である。これ以外に、土師器片が153点出土している。

重複 東壁南部から南壁西部にかけて現代の水路に切られている。

H-44号住居址

位置 X116~118、Y147~149グリッド 標高 102.8m 時期 石田川期

挿図 Fig. 131・132 写真 PL. 24・67・68

面積 22.3m² 方位 N-68°-E

形状 長軸6.29m、短軸3.98mの長方形を呈する。炉址・貯蔵穴・周溝等は不明な部分が多くあります。

遺物 図示した土師器は10点であり、その内訳は、台付甕(1a種)2、同(1b種)1、同(1d種)1、同(2a種)2、甕(1種)1、同(2種)1、小形甕(3種)1、小鉢(2種)1点である。また、これ以外にも土師器片が284点出土している。

H-45号住居址

位置 X119~121、Y147~149グリッド 標高 102.8m 時期 石田川期

挿図 Fig. 132 写真 PL. 25 面積・方位・形状とも不明。

遺物 図示した土師器は4点であり、その内訳は、台付甕(1d種)2、甕2点である。このほかにも、土師器片46点が出土している。

備考 H-44号住居址の東方向に検出されたが、住居址の色々な要素については不明な部分が多く問題を残している。

H-46号住居址

位置 X112・113、Y93~95グリッド 標高 106.2m 時期 和泉期

- 揮 図 Fig. 55・133 写 真 PL. 68・69
 面 積 25.9m² 方 位 N-89°-E
 形 状 長軸5.30m、短軸5.25mの正方形を呈する。壁高は45cmを測る。
 床 面 全体的に平坦である。柱穴に囲まれた所に、踏み固められた堅い床面が認められたが、貼り床は施されていなかった。
 炉 址 検出されなかつたが、西壁中央部付近に焼土分布は認められた。
 周 溝 全周。幅20cm、深さ10~15cm程度を測る。
 柱 穴 5個検出された。各々の規模は、P₁・長径32×短径28cm、深さ37cm、P₂・長径44×短径35cm、深さ37cm、P₃・長径32×短径30cm、深さ51cm、P₄・長径31×短径29cm、深さ39cm、P₅・長径101×短径55cm、深さ26cm。
 貯蔵穴 南東隅(P₆)と北東隅(P₇)に検出。P₆は不整円形を呈し、長径104×短径92cm、深さ62cmを測る。P₇は梢円形に近い形を呈し、長径67×短径51cm、深さ45cmを測る。
 遺 物 図示した土器は土師器12点である。その内訳は、壺(1種)1、小甕(1種)1、小形鉢(1b種)1、杯(1種)2、同(2種)1、咲(1種)1、同(3b種)1、高杯(1種)1、同(2種)2、甕1点である。これ以外にも土師器片590点がみられた。また、特殊遺物として土製品1点が出土している。
 重 複 現代の水路により北壁から南東隅にかけて切られている。

H-47号住居址

- 位 置 X98~99、Y113グリッド 標 高 111.0m 時 期 和泉期
 挥 図 Fig. 56・134 写 真 PL. 25
 面 積 9.4m² 方 位 N-72°-E
 形 状 長軸3.74m、短軸2.70mの長方形を呈する。壁高は10cmを測る。
 床 面 全体的に平坦である。堅い床面は認められず、全体的にソフトロームの軟らかい床面である。炉址の検出により床面と判明した。
 炉 址 中央部に2基検出。1号炉址は中央やや西壁寄りに位置し、不整形を呈する。長径135cm、短径90cm、深さ2.5cmを測る。2号炉址は中央やや東壁寄りに位置し、不整形を呈する。長径90cm、短径75cm、深さ3cmを測る。
 遺 物 図示した土器は土師器の杯(1種)1点のみである。また、これ以外にも土師器片34点がみられた。

H-48号住居址

- 位 置 X97・98、Y129・130グリッド 標 高 108.4m 時 期 真間期
 挥 図 Fig. 56・57・134 写 真 PL. 25・26・69・70

II 古墳時代以降の遺構

面 積 11.1m² 方 位 N-59°-E

形 状 長軸4.53m、短軸3.86mの不整長方形を呈する。壁高は65cmを測り、壁の角度は65°~70°を測る。北壁はしっかりしているが、南壁は軟らかくしっかりしていない。

床 面 全体的に平坦である。堅い床面は認められない。

掘り方 2基の床下土坑を検出した。各土坑の規模は、P₂・長径69×短径48cm、深さ11cm、P₃・長径69×短径56cm、深さ24cmである。

電 址 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向はN-52°-Eである。全長94cm、幅104cmを測る。貯藏穴 P₁・南東隅に検出。円形を呈し、長径57cm、短径53cm、深さ54cmを測る。

遺 物 図示した土師器は14点であり、その内訳は、小甕（1種）1、杯（1種）2、同（2a種）8、同（2b種）3点である。また、これ以外にも土師器片が60点出土している。

H-49号住居址

位 置 X103・104、Y132・133グリッド 標 高 108.0m 時 期 真間期

揮 図 Fig. 58・59・134 写 真 PL. 26

面 積 10.6m² 方 位 N-69°-E

形 状 長軸3.40m、短軸3.10mの長方形を呈し、壁高は80cmを測る。各辺は直線的である。

床 面 全体的に平坦である。堅い床面は電周辺に認められ、貼り床は10cm程度施されていた。

掘り方 床下北東隅寄りに床下土坑（P2）を検出。円形を呈し、長径118cm、短径110cm、深さ12cmを測る。

電 址 東壁南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-70°-Eである。全長132cm、幅108cmを測る。

貯藏穴 P₁・南東隅に検出。不整形を呈する。規模は、長径85×短径52cm。

遺 物 図示した土師器は4点である。その内訳は、杯（3種）3、壺1点である。また、これ以外に土師器片が129点出土した。

H-50号住居址

位 置 X101・102、Y134・135グリッド 標 高 107.4m 時 期 真間期

揮 図 Fig. 60・61・134 写 真 PL. 27・70

面 積 10.5m² 方 位 N-66°-E

形 状 長軸3.60m、短軸3.21mの長方形を呈し、壁高は60cmを測る。各辺とも直線的で、垂直に近い角度で掘り込まれている。

床 面 全体的に平坦であり、踏み締められた堅い床が認められた。また、貼り床は10cm程度の厚さで施されていた。

掘り方 電の西側に床下土坑（P₁）を検出。不整形で長径167cm、短径142cm、深さ13cmを測る。

1 住居址

電 址 東壁中央やや南寄りに位置する。残存状態は良好で、主軸方向はN-71°-Eである。全長88cm、幅130cmを測る。

周 溝 北壁際に一部検出。

遺 物 図示した土師器は杯2点のみである。また、これ以外に土師器片が28点出土している。

H-51号住居址

位 置 X105・106、Y134・135グリッド 標 高 107.6m 時 期 真間期

挿 図 Fig. 61・62・135 写 真 PL. 27・28・70

面 積 8.5m² 方 位 N-71°-E

形 状 長軸3.20m、短軸2.55mの長方形を呈する。壁高は75cmを測る。各辺とも直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。

床 面 全体的に平坦である。ハードローム面を床面として使用している。踏み締められた堅い面は認められたが、貼り床は施されていなかった。

掘り方 床下土坑を4基検出した。各土坑の規模は、P₂・長径121×短径105cm、深さ19cm、P₃・長径97×短径70cm、深さ32cm、P₄・長径51×短径43cm、深さ33cm、P₅・長径81×短径70cm、深さ34cmを測る。

電 址 東壁中央部南寄りに位置する。主軸方向はN-72°-Eで、全長87cm、幅82cm(現存幅)を測る。

貯藏穴 P₁・南東隅に検出。不整形を呈し、長径57cm、短径40cmを測る。

遺 物 図示したものは土師器が2点のみであり、その内訳は、甕(1種)1、杯(3種)1点である。また、この他に土師器片が280点、須恵器片が1点出土している。

H-52号住居址

位 置 X110・111、Y129・130グリッド 標 高 109.0m 時 期 真間期

挿 図 Fig. 63・64・135 写 真 PL. 28・29

面 積 14.0m² 方 位 N-87°-E

形 状 長軸4.00m、短軸3.50mの長方形を呈する。壁高は70cmを測り、壁は比較的緩やかな角度で立ち上がる。また、東壁の竈の北に張り出しを持っている。

床 面 中央部が壁際に比べて10cm程度低くなる掘鉢状の床面となっている。

掘り方 中央部に床下土坑(P₁)を検出。不整形を呈し、長径195cm、短径113cm、深さ9cmを測る。

電 址 東壁南隅に位置する。規模は、右袖が欠損しているため計測できない。主軸方向はN-131°-Eである。

遺 物 図示したものは須恵碗(2種)1点だけである。また、この他には土師器片が138点出土

II 古墳時代以降の遺構

している。

H-53号住居址

位置 X109・110、Y137・138グリッド 標高 106.4m 時期 真間期
挿図 Fig. 65・135 写真 PL. 29・30・70
面積 13.6m² 方位 N-3°-W
形状 長軸4.26m、短軸3.90mの正方形に近い形を呈し、壁高は85cmを測る。各辺とも直線的で垂直に近い角度で掘り込まれている。
床面 全体的に平坦である。中心付近から南東壁の方向に堅い床面が認められる。貼り床はその付近を中心にして10~15cm程度認められた。
電址 北壁中央部やや東寄りに位置する。残存状態は良好である。主軸方向はN-89°-E。全長126cm、幅141cmを測る。
柱穴 1個検出された。規模は、P₃・長径35×短径32cm、深さ14cmを測る。
貯藏穴 北東隅(P₁・長径55×短径40cm、深さ12cm)と南東隅(P₂・長径67×短径55cm、深さ18cm)に検出。それぞれ横円形を呈している。
遺物 図示したものは7点である。その内訳は土師器が小甕(2種)1、杯(3種)3、同(4種)1、計5点であり、須恵器が杯(1種)1点だけである。これ以外にも土師器片162点、須恵器片が6点出土している。また、特殊遺物として鉄製品が1点みられた。
重複 B-19号掘立柱建物址と切り合っている。

H-54号住居址

位置 X113・114、Y136・137グリッド 標高 106.4m 時期 真間期
挿図 Fig. 66・135 写真 PL. 30・70・71
面積 14.5m²(推定) 方位 N-83°-E
形状 南北軸3.30m、東西軸は欠損しているため計測不可能である。南半分は壁・床面ともはっきりしているが、北半分ははっきりしていない。
床面 南半分は平坦であるが、北半分は深くなり、南との差は30cm程度で土坑状になっている。
電址 不明。
遺物 図示したものは6点である。その内訳は、土師器が杯(3種)2、同(6種)1点、須恵器が杯(3種)1点である。またこの他にも、土師器片が157点、須恵器片が7点出土している。さらに、特殊遺物として石製品が1点、鉄製品が1点みられた。
重複 H-32号住居址に南東隅を切られている。また、B-21号掘立柱建物址と切り合っている。
備考 B-21号掘立柱建物址に周囲を囲まれるような状態である。また、検出された状態をみ

ると、住居址と言えるかどうか疑問点が残る。

H-55号住居址

- 位 置 X111～113、Y141・142グリッド 標 高 104.1m 時 期 真間期
 挿 図 Fig. 67～69・135・136 写 真 PL. 31・71
 面 積 34.5m² 方 位 N-87-E
 形 状 長軸7.90m、短軸5.15mの不整長方形を呈し、壁高は80cmを測る。北壁はしっかりしているが、南壁は台地の先端部のためはっきりしていない。壁は垂直に掘り込まれている。
 また、南西隅に張り出し部分を持っている。
 床 面 全体的に平坦である。踏み固められた床が認められ、貼り床が10～15cm程度の厚さで施されていた。竈周辺から住居の中央部、南東隅にかけて焼土の分布が認められた。
 掘り方 床下土坑が3基検出された。各土坑の規模は、P₁・長径154×短径122cm、深さ43cm、P₂・長径215×短径207cm、深さ16cm、P₃・長径253×短径172cm、深さ12cmを測る。
 電 址 東壁中央部南寄りに位置する。主軸方向はN-91°-Eで、全長108cm、幅75cmを測る。
 周 溝 張り出し部分の北・西壁と竈周辺を除く全周。
 柱 穴 5個検出された。4個の主柱穴は、P₁・長径75×短径57cm、深さ72cm、P₂・長径87×短径80cm、深さ76cm、P₃・長径63×短径62cm、深さ86cm、P₄・長径67×短径61cm、深さ72cmを測る。この他にも、P₅・長径36×短径28cm、深さ80cmが確認された。
 貯蔵穴 P₅・住居東南隅に検出された。規模は、長径90×短径75cm、深さ10cm。
 遺 物 図示したものは10点である。その内訳は、土師器が小甕（2種）1、甕（1種）1、杯（3種）3、同（4a種）1の計6点であり、須恵器が杯（2種）1、蓋（2種）2点の計3点である。また、これ以外にも土師器片1378点、須恵器片34点がみられた。さらに、特殊遺物として鉄製品が1点出土している。
 重 複 W-7号溝に北壁を切られている。

2 竪穴状遺構

竪穴状遺構は、本遺跡において11基検出された。大部分は標高112mの等高線付近の台地頂上部に存在している。2基（T-11・12）は標高104mの等高線付近の舌状台地先端部に存在している。形状は方形、不整形、三角形状と規則性はないが方形のものが多い。T-1・3～6・8～10の8基は和泉期の所産で中心に炉址を有する。T-11・12は出土遺物から真間期の所産である。和泉期の竪穴状遺構は類例がないことから、今後、集落構成を解明するうえで注意を要する。

T-1号竪穴状遺構

- 位 置 X102、Y91・92グリッド 挿 図 Fig. 70 写 真 PL. 32

II 古墳時代以降の遺構

面 積 5.6m² 方 位 N-0°

形 状 長軸2.60m、短軸2.20mの長方形を呈する。中央部に炉址を検出。

遺 物 図示できるものはなかった。出土した破片数が83点ある。

備 考 出土遺物により和泉期の所産と考えられる。

T-3号竪穴状遺構

位 置 X102・103、Y99グリッド 挿 図 Fig. 70・136 写 真 PL. 32

面 積 6.7m² 方 位 N-4°-W

形 状 長径2.98m、短径2.48mの不整形を呈する。焼土部分のみ検出。

遺 物 図示した土師器は小甕（1種）1点である。これ以外に破片が59点みられた。

備 考 出土遺物により和泉期の所産と考えれる。

T-4号竪穴状遺構

位 置 X101、Y103・104グリッド 挿 図 Fig. 70 写 真 PL. 32

面 積 不明 方 位 不明 形 状 不明だが焼土部分のみ検出。

遺 物 図示できるものはなかったが、土師器の破片が10点出土。

備 考 出土遺物により和泉期に比定。

T-5号竪穴状遺構

位 置 X102・103、Y110・111グリッド 挿 図 Fig. 70 写 真 PL. 32

面 積 4.3m² 方 位 N-5°-W

形 状 長軸2.48m、短軸1.85mの長方形を呈する。中央部に炉址が検出された。

遺 物 図示できるものはないが、土師器の破片が19点出土した。

備 考 出土遺物により和泉期と比定。

T-6号竪穴状遺構

位 置 X101・102、Y117・118グリッド。 挿 図 Fig. 70 写 真 PL. 33

面 積 10.5m² 方 位 N-46°-W

形 状 長軸3.95m、短軸2.80mの長方形を呈する。

遺 物 図示したものはないが、土師器の破片が8点出土。

備 考 出土遺物により和泉期に比定。

T-7号竪穴状遺構

位 置 X107・108、Y89グリッド 挿 図 Fig. 71 写 真 PL. 33

面 積 5.8m² 方 位 N-7°-W

形 状 長軸3.28m、短軸1.87mの長方形を呈する。

遺 物 遺物の出土はみられなかった。

備 考 時期不明。

T-8号竪穴状遺構

位置 X105、Y99グリッド 挿図 Fig. 71 写真 PL. 33

面積 (2.0)m² 方位 N-10°-W

形状 長径1.65m、短径1.34mの不整形を呈する。中央部に炉址検出。

遺物 図示できたものはないが、破片が44点出土。

備考 出土遺物により和泉期に比定。

T-9号竪穴状遺構

位置 X109、Y103グリッド 挿図 Fig. 71 写真 PL. 33

面積 3.5m² 方位 N-23°-W

形状 長軸2.37m、短軸1.60mの長方形を呈する。中央部やや南寄りに炉址を検出。

遺物 遺物の出土は見られなかった。

備考 検出状況により和泉期に比定。

T-10号竪穴状遺構

位置 X99、Y108グリッド 挿図 Fig. 71・136 写真 PL. 33

面積 不明。 方位 不明。 形状 楕円形の炉址部分のみ検出。

遺物 図示した土師器は4点である。内訳は甌(1種)1、小形鉢(3種)1、高杯(2種)

1点であり、他に壺1点である。また、この他に破片が175点ある。さらに、特殊遺物として石製品が1点出土している。

備考 出土遺物により和泉期に比定。旧名称、H-7号住居址。

T-11号竪穴状遺構

位置 X118・119、Y141・142グリッド 挿図 Fig. 71・137 写真 PL. 33

面積 5.4m² 方位 N-3°-E

形状 長径3.83m、短径2.46mの不整形で二ヶ所から焼土が認められた。

遺物 図示した土師器は、甌(1種)1点、同(2種)1点、小甌1点である。この他に土師器片が190点、須恵器片が1点出土した。

備考 当初、D-17号土坑と重複と判断したが、検討の結果、D-17号土坑と一緒にになることが判明。出土遺物により真間期の所産と考えられる。

T-12号竪穴状遺構

位置 X118、Y142・143グリッド 挿図 Fig. 71 写真 PL. 33

面積 3.9m² 方位 N-2°-E

形状 長径2.75m、短径1.65mの不整形を呈する。

備考 多数の出土遺物から真間期の所産と考えられる。

3 挖立柱建物址

掘立柱建物址は、本遺跡において25基検出された。ほとんどは南東部の緩やかな傾斜を持つ斜面に存在する。特に、標高110mの等高線付近に集中して存在する。また、標高105~107mの等高線の間にも集中して存在する。規模をみると2間×1間のものはB-3・12・13・25号掘立柱建物址である。2間×2間のものは、B-2・4・5・7~10・14~20号掘立柱建物址である。3間×2間のものはB-1・6・11・21・23・24号掘立柱建物址である。これらの建物が居住用なのか倉庫・納屋的なものなのは今後の研究を待たなければならない。

B-1号掘立柱建物址

位 置 X114~116、Y122・123グリッド 挿 図 Fig. 72

面 積 18.7cm 方 位 N-84°-E

形 状 3間×2間(南北4.00m、東西4.80m)の正方形に近い建物址である。柱穴総数は10個であり、柱穴の平面形態は円形・梢円形である。各柱穴の深さはほぼ一定である。土器の破片が6点出土している。

B-2号掘立柱建物址

位 置 X118・119、Y121・122グリッド 挿 図 Fig. 72

面 積 11.2m² 方 位 N-8°-W

形 状 2間×2間(南北3.64m、東西3.10m)の正方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個であり、柱穴の平面形態は円形・梢円形である。深さは不規則であり、土器の破片が2点出土している。

B-3号掘立柱建物址

位 置 X119・120、Y123・124グリッド 挿 図 Fig. 73

面 積 12.1m² 方 位 N-2°-W

形 状 2間×1間(南北4.00m、東西3.10m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は6個であり、柱穴の平面形態は円形・梢円形である。深さは不規則であり、土器の破片の出土も見られなかった。

B-4号掘立柱建物址

位 置 X121、Y131・132グリッド 挿 図 Fig. 73 写 真 PL. 34

面 積 6.7m² 方 位 N-81°-E

形 状 2間×2間(南北2.30m、東西2.80m)の正方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個であり、柱穴の平面形態は方形・梢円形である。深さは不規則であり、土器の破片が3点出土している。

B-5号掘立柱建物址

位 置 X115・116、Y133・134グリッド 挿 図 Fig. 74 写 真 PL. 34

面 積 7.9m² 方 位 N-79°-E

形 状 2間×2間(南北3.60m、東西2.20m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個であり、柱穴の平面形態は円形・橢円形を呈している。深さは不規則であり、土器の破片が5点出土している。

B-6号掘立柱建物址

位 置 X119～121、Y134・135グリッド 挿 図 Fig. 74 写 真 PL. 34

面 積 17.5m² 方 位 N-7°-W

形 状 3間×2間(南北3.30m、東西5.30m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は9個であり、柱穴の平面形態は円形で、深さもほぼ一定である。土器の破片が1点出土している。

B-7号掘立柱建物址

位 置 X121・122、Y134・135グリッド 挿 図 Fig. 75 写 真 PL. 34

面 積 9.5m² 方 位 N-10°-W

形 状 2間×2間(南北3.60m、東西2.80m)の正方形に近い建物址である。柱穴の総数は6個であり、柱穴の平面形態は円形をしている。深さは不規則である。土器の破片の出土はない。

B-8号掘立柱建物址

位 置 X115・116、Y136・137グリッド 挿 図 Fig. 75 写 真 PL. 34

面 積 15.2m² 方 位 N-5°-W

形 状 2間×2間(南北4.10m、東西3.70m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は12個であり、柱穴の平面形態は円形・橢円形である。深さは不規則。土器の破片が6点出土している。

B-9号掘立柱建物址

位 置 X115・116、Y137・138グリッド 挿 図 Fig. 76 写 真 PL. 34

面 積 14.4m² 方 位 N-84°-E

形 状 2間×2間(南北4.50m、東西3.20m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は7個であり、柱穴の平面形態は円形で、深さもほぼ一定である。土器の破片が3点出土している。

B-10号掘立柱建物址

位 置 X117～119、Y136・137グリッド 挿 図 Fig. 76 写 真 PL. 34

面 積 19.2m² 方 位 N-77°-E

形 状 2間×2間(南北3.80m、東西5.20m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個

II 古墳時代以降の遺構

であり、柱穴の平面形態は円形・楕円形である。深さは不規則。土器の破片が8点出土している。

B-11号掘立柱建物址

位置 X117・118、Y136~138グリッド 挿図 Fig. 77 写真 PL. 34

面積 17.1m² 方位 N-74°-E

形状 3間×2間(南北2.90m、東西5.90m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個であり、柱穴の平面形態は円形・楕円形を呈す。深さは不規則である。土器の破片が17点出土している。

B-12号掘立柱建物址

位置 X112・113、Y123・124グリッド 挿図 Fig. 77 写真 PL. 34

面積 12.3m² 方位 N-8°-W

形状 1間×2間(南北4.40m、東西2.80m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は5個であり、柱穴の平面形態は円形・不整形と一定でない。深さはほぼ一定している。土器の破片は出土していない。

B-13号掘立柱建物址

位置 X113・114、Y133・134グリッド 挿図 Fig. 78 写真 PL. 34

面積 6.4m² 方位 N-78°-E

形状 2間×1間(南北2.30m、東西2.80m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は7個であり、柱穴の平面形態は円形・楕円形である。深さは不規則。土器の破片は出土していない。

B-14号掘立柱建物址

位置 X114・115、Y139・140グリッド 挿図 Fig. 78 写真 PL. 34

面積 13.8m² 方位 N-12°-W

形状 2間×2間(南北4.30m、東西3.20m)現存する柱穴の総数は6個であり、柱穴の平面形態は円形・楕円形である。深さはほぼ一定している。土器の破片は出土しなかった。

備考 東側をH-33号住居址、南側をH-40号住居址に切られている。

B-15号掘立柱建物址

位置 X114・115、Y139・140グリッド 挿図 Fig. 79 写真 PL. 34

面積 12.2m² 方位 N-12°-W

形状 2間×2間(南北3.10m、東西3.80m)現存する柱穴の総数は6個であり、柱穴の平面形態は円形で、深さもほぼ一定している。土器の破片は、出土しなかった。

備考 東側をH-33号住居址、南側をH-40号住居址に切られている。B-14号掘立柱建物址とほぼ同じ位置に存在する。

B-16号掘立柱建物址

位 置 X106・107、Y131・132グリッド 挿 図 Fig. 79 写 真 PL. 34

面 積 9.9m² 方 位 N-5°-W

形 状 2間×2間(南北3.30m、東西3.00m)の正方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個であり、柱穴の平面形態は円形、深さもほぼ一定である。土器の破片の出土はない。

B-17号掘立柱建物址

位 置 X103・104、Y126・127グリッド 挿 図 Fig. 80 写 真 PL. 35

面 積 9.2m² 方 位 N-9°-W

形 状 2間×2間(南北3.40m、東西2.70m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は7個であり、柱穴の平面形態は円形であり、深さはほぼ一定である。土器の破片は出土しなかった。

B-18号掘立柱建物址

位 置 X110・111、Y139・140グリッド 挿 図 Fig. 80 写 真 PL. 35

面 積 15.8m² 方 位 N-9°-W

形 状 2間×2間(南北4.40m、東西3.60m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は9個であり、柱穴の平面形態は円形であり、深さはほぼ一定である。土器の破片の出土はなかった。

B-19号掘立柱建物址

位 置 X110・111、Y137・138グリッド 挿 図 Fig. 81 写 真 PL. 35

面 積 12.0m² 方 位 N-84°-E

形 状 2間×2間(南北3.00m、東西4.00m)の長方形に近い建物址。柱穴の総数は5個であり、柱穴の平面形態は円形、深さはほぼ一定である。土器の破片は出土しなかった。

備 考 H-53号住居址に南西隅を切られているので面積は推定である。

B-20号掘立柱建物址

位 置 X111・112、Y139・140グリッド 挿 図 Fig. 81 写 真 PL. 35

面 積 16.1m² 方 位 N-3°-W

形 状 2間×2間(南北5.20m、東西3.10m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は8個、柱穴の平面形態は円形で、深さはほぼ一定である。土器の破片は出土しなかった。

B-21号掘立柱建物址

位 置 X113・114、Y136・137グリッド 挿 図 Fig. 82 写 真 PL. 35

面 積 23.1m² 方 位 N-80°-E

形 状 3間×2間(南北4.20m、東西5.50m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は12個であり、柱穴の平面形態は円形、深さは不規則である。土器の破片の出土は見られなかつた。

II 古墳時代以降の遺構

B-22号掘立柱建物址

位置 X115・116、Y122・123グリッド 挿図 Fig. 84

面積 13.5m² 方位 N-83°-W

形状 1間×2間(南北3.00m、東西4.70m)の台形に近い建物址である。柱穴の総数は5個。柱穴の平面形態は円形であり、深さは不規則である。

B-23号掘立柱建物址

位置 X111・112、Y137~139グリッド 挿図 Fig. 83 写真 PL. 35

面積 23.6m² 方位 N-8°-W

形状 3間×2間(南北5.90m、東西4.00m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は12個であり、柱穴の平面形態は円形・方形・橢円形を呈す。深さは不規則である。土器片の出土は見られない。

B-24号掘立柱建物址

位置 X111~113、Y143・144グリッド 挿図 Fig. 84 写真 PL. 35

面積 24.5m² 方位 N-88°-E

形状 3間×2間(南北3.50m、東西7.00m)の長方形に近い建物址である。柱穴の総数は11個であり、柱穴の平面形態は円形・橢円形。深さは不規則である。土器の破片の出土はみられない。

B-25号掘立柱建物址

位置 X111・112、Y137・138グリッド 挿図 Fig. 85 写真 PL. 35

面積 13.3m² 方位 N-16°-W

形状 2間×1間(南北3.90m、東西3.40m)の正方形に近い建物址である。柱穴の総数は6個。柱穴の平面形態は円形で、深さはほぼ一定である。土器片の出土は見られなかった。

4 土 坑

本遺跡では土坑は64基検出されているが、名称を古墳時代以降のものとそれ以前の縄文時代の土坑(いわゆる陥し穴)とを区別なく一括して通し番号をつけていた。そのため、整理の段階で二者を分類した結果、古墳時代以降の土坑は、D-4号土坑~D-63号土坑の合計39基となった。また、土坑のD-1~4までは既に「柳久保遺跡群I」で報告されているので今回は省略する。分布は北東隅の斜面と台地の先端部の緩やかな斜面に集中している。また、本報告書で報告している土坑がすべて人為的行為に基づくものとは肯定できない。それは、一つには土層の判別が困難なことに起因している。また、縄文時代の土坑(いわゆる陥し穴)は「柳久保遺跡群VIII」で報告する予定である。

D-4号土坑

位 置 X102・103、Y98グリッド 挿 図 Fig. 86・137 写 真 PL. 36

形 状 長径125cm、短径96cm、深さ58cmの不整円形を呈する。

遺 物 図示した土器はII群土器3点である。その内訳は壺(2種)1点と高杯2点の計3点である。その他に土師器の破片が71点みられた。

備 考 出土遺物により和泉期に比定。

D-5号土坑

位 置 X103、Y98グリッド 挿 図 Fig. 86・137 写 真 PL. 36・71

形 状 長径142cm、短径13cm、深さ48cmの不整円形を呈する。

遺 物 図示した土器は3点である。その内訳は壺(1種)1、甕(4種)1、甕1点である。この他に破片が、土師器146点がみられた。また、特殊遺物として輕石製品が1点出土した。

備 考 出土遺物により和泉期に比定。

D-6号土坑

位 置 X104、Y86グリッド 挿 図 Fig. 86 写 真 PL. 36

形 状 長径147cm、短径79cm、深さ82cmの楕円形を呈する。また、底面の西側が深くえぐれ込んでいる形態を有する。 備 考 遺物が検出されなかったため時期不明。

D-7号土坑

位 置 X106、Y82・83グリッド 挿 図 Fig. 86 写 真 Fig. 6

形 状 長径153cm、短径117cm、深さ100cmの楕円形を呈する。底面の西側が深くえぐれ込む。

備 考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-8号土坑

位 置 X106、Y84・85グリッド 挿 図 Fig. 86 写 真 PL. 36

形 状 長径130cm、短径76cm、深さ74.5cmの楕円形を呈する。底面の西側が深く細くえぐれて伸びている。 備 考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-9号土坑

位 置 X106、Y86・87グリッド 挿 図 Fig. 86 写 真 PL. 36

形 状 長径147cm、短径70cm、深さ76cmの楕円形を呈する。底面の西側がややえぐれて入る。

備 考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-10号土坑

位 置 X107、Y86グリッド 挿 図 Fig. 86 写 真 PL. 36

形 状 長径160cm、短径70cm、深さ31cmの不整形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-11号土坑

位 置 X108・109、Y86グリッド 挿 図 Fig. 87 写 真 PL. 36

II 古墳時代以降の遺構

形 状 長径160cm、短径156cm、深さ19cmの楕円形に近い形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-12号土坑

位 置 X109・110、Y84グリッド 挿 図 Fig. 87 写 真 PL. 37

形 状 長径151cm、短径115cm、深さ75cmの長方形に近い形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-13号土坑

位 置 X114、Y102グリッド 挿 図 Fig. 87

形 状 長径300cm、短径206cm（推定）、深さ32cmの楕円形に近い形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。H-16号住居址内に存在する。

D-15号土坑

位 置 X111、Y95・96グリッド 挿 図 Fig. 87

形 状 長径108cm、短径80cm、深さ28cmの楕円形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-16号土坑

位 置 X106、Y97グリッド 挿 図 Fig. 87・137 写 真 PL. 37・71

形 状 長径109cm、短径105cm、深さ44cmの円形を呈する。

遺 物 図示した土器は、土師器杯（1c種）3点である。この他に土師器の破片が10点出土した。

備 考 出土した土器により鬼高間に比定。

D-18号土坑

位 置 X115、Y137・138グリッド 挿 図 Fig. 88・137 写 真 PL. 37

形 状 長径229cm、短径178cm、深さ102cmの楕円形に近い形を呈する。

遺 物 図示したものは、須恵蓋1点である。この他に土師器の破片が127点みられた。

備 考 出土した土器により真間期に比定。

D-19号土坑

位 置 X120・121、Y140・141グリッド 挿 図 Fig. 88・138 写 真 PL. 37・72

形 状 長径78cm、短径72cm、深さ109cmの円形を呈する。

遺 物 骨蔵器の身の部分が出土。 備 考 骨蔵器から古代～中世の所産と考えられる。

D-20号土坑

位 置 X120、Y141グリッド 挿 図 Fig. 88 写 真 PL. 37

形 状 長径100cm、短径96cm、深さ184cmの円形を呈する。あるいは井戸と考えられる。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-21号土坑

位 置 X101、Y96・97グリッド 挿 図 Fig. 88 写 真 PL. 37

形 状 長径138cm、短径69cm、深さ42cmの橢円形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-22号土坑

位 置 X102、Y97グリッド 挿 図 Fig. 88 写 真 PL. 37

形 状 長径64cm、短径59cm、深さ33cmの不整形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-23号土坑

位 置 X100、Y112グリッド 挿 図 Fig. 89 写 真 PL. 38

形 状 長径90cm、短径70cm、深さ88cmの不整形を呈する。また、底面の西側が深くえぐれ込んでいる。備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-25号土坑

位 置 X113、Y123グリッド 挿 図 Fig. 88 写 真 PL. 38

形 状 長径82cm、短径63cm、深さ29cmの不整形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-28号土坑

位 置 X111・112、Y137・138グリッド 挿 図 Fig. 89 写 真 PL. 38

形 状 長径273cm、短径264cm、深さ66cmの円形に近い形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-30号土坑

位 置 X111、Y128グリッド 挿 図 Fig. 89 写 真 PL. 38

形 状 長軸128cm、短軸97cm、深さ111cmの隅丸長方形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-32号土坑

位 置 X112、Y138・139グリッド 挿 図 Fig. 89 写 真 PL. 38

形 状 長径109cm、短径100cm、深さ21cmの不整形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-37号土坑

位 置 X113、Y138グリッド 挿 図 Fig. 89

形 状 長径156cm、短径123cm、深さ26cmの不整形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-39号土坑

位 置 X96・97、Y128・129グリッド 挿 図 Fig. 90

形 状 長径196cm、短径143cm、深さ13cmの橢円形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

II 古墳時代以降の遺構

D-43号土坑

位置 X92、Y124グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 38

形状 長径126cm、短径76cm、深さ19cmの楕円形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-44号土坑

位置 X92、Y125グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 38

形状 長径94cm、短径90cm、深さ34cmの不整形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-45号土坑

位置 X111、Y123グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 38

形状 長径120cm、短径94cm、深さ100cmの楕円形に近い形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-46号土坑

位置 X113、Y130グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 39

形状 長径104cm、短径42cm、深さ79cmの楕円形に近い形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-47号土坑

位置 X107、Y131グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 39

形状 長径142cm、短径83cm、深さ42cmの楕円形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-48号土坑

位置 X103、Y123・124グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 39

形状 長径66cm、短径53cm、深さ32cmの楕円形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-49号土坑

位置 X105・106、Y134グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 39

形状 長径84cm、短径63cm、深さ19cmの楕円形に近い形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-50号土坑

位置 X110・111、Y134グリッド 挿図 Fig. 90 写真 PL. 39

形状 長径150cm、短径110cm、深さ56cmの不整円形を呈する。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

D-51号土坑

位置 X109、Y137グリッド 挿図 Fig. 91 写真 PL. 39

形 状 長径77cm、短径74cm、深さ51cmの円形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-52号土坑

位 置 X110、Y138グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 39

形 状 長軸121cm、短軸65cm、深さ42cmの隅丸長方形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-53号土坑

位 置 X101、Y123グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 39

形 状 長径104cm、短径65cm、深さ22cmの楕円形に近い形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-54号土坑

位 置 X103、Y123グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 40

形 状 長径130cm、短径108cm、深さ23cmの円形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-60号土坑

位 置 X115、Y134グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 40

形 状 H-33号住居址に切られているため計測不可能。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-62号土坑

位 置 X110、Y141・142グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 40

形 状 長軸126cm、短軸72cm、深さ31cmの隅丸長方形を呈する。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

D-63号土坑

位 置 X119・120、Y141グリッド 挿 図 Fig. 91 写 真 PL. 40

形 状 長径73cm、短径41cm、深さ15cmの円形を呈する。南側半分をH-37号住居址により切ら
れないので形状は推定である。

備 考 遺物が検出されなかつたので時期不明。

5 井 戸

本遺跡において、井戸は6基検出された。井戸の分布は一ヶ所に集中しており、台地の南端部
の東部に寄っている。I-5号井戸だけが50m程度西側へずれているだけである。このことは、水
を得るために水位の低い所に井戸を掘ったことが起因している。井戸には2つの形態があり、一
つは摺鉢状を呈するもの、もう一つは垂直的に壁を掘り込んであるものである。摺鉢状を呈する
ものの方が径が大きい。

II 古墳時代以降の遺構

I-1号井戸

位置 X114、Y143グリッド 挿図 Fig. 92 写真 PL. 40

形状 長径150cm、短径121cm、深さ140cmの不整円形を呈する。深さ20cm程度の上は摺鉢状に広がり、それより下はほぼ垂直に落ち込んでいる。

備考 遺物が検出されなかったので時期不明。

I-2号井戸

位置 X118・119、Y137・138グリッド 挿図 Fig. 92 写真 PL. 40

形状 長径290cm、短径285cm、深さ200cmの不整円形を呈する。摺鉢状になっていて、底部に径50cm程度で、深さ40cm程度の窪みが存在する。

遺物 図示したものは土師器12点、須恵器5点である。これ以外にも土師器片1,481点、須恵器片26点がみられた。図示した土師器の内訳は、壺(2種)2、杯(2b種)5、同(3種)2、同(4a種)1、同(4b種)1、同(6種)1点である。また、図示した須恵器の内訳は、壺(1種)2、杯(1種)1、同(2種)1、蓋(1種)1点である。

備考 出土遺物により真間期に比定。旧名称、H-41号住居址。

I-3号井戸

位置 X121、Y138グリッド 挿図 Fig. 92・137 写真 PL. 40

形状 長径203cm、短径195cm、深さ196cmの不整円形を呈する。中段頃までは摺鉢状に落ち込み、そこより垂直的に落ち込む。さらに、中心部に40cm程度の深さの落ち込みがある。

遺物 図示した土師器は2点であり、その内訳は杯(4a種)1、同(4b種)1点である。この他に土師器片35点、須恵器片1点が出土した。

備考 出土遺物により真間期に比定。

I-4号井戸

位置 X118・119、Y141・142グリッド 挿図 Fig. 92 写真 PL. 40

形状 長径140cm、短径140cm、深さ168cmの不整円形を呈する。上部10cm程度は緩やかに広がり、それ以下は垂直的に落ち込んでいる。

備考 出土遺物がないので時期不明。

I-5号井戸

位置 X103、Y136グリッド 挿図 Fig. 93 写真 PL. 41

形状 長径293cm、短径265cm、深さ128cmの不整円形を呈する。摺鉢状をしている。

備考 形状から判断して真間期と考えられる。

I-6号井戸

位置 X121・122、Y141グリッド 挿図 Fig. 93・137 写真 PL. 41・71

形状 長径111cm、短径100cm、深さ136cmの不整円形を呈する。壁は垂直的に落ち込んでいる。

遺物 図示した土師器は小壺(2種)1点である。この他に、土師器片3点、須恵器片2点が

出土している。

備 考 出土した遺物により真間期に比定。

6 溝

本遺跡において溝は9条検出されている。このうち、W-1・2号溝は既に『柳久保遺跡群Ⅰ』において報告されているので、本報告書ではW-3～9号溝について取り扱う。溝は台地の北東部の斜面と南東部の先端にある。長いものは舌状台地の先端部を取り巻くように走っている。北東部の中には耕作時の擦痕らしいものもある。水の流れた痕跡はほとんどみられず空掘りであったと思われる。ただ、W-8号溝だけは底部に砂質の層があり水が流れた痕跡が伺われる。

W-3号溝

位 置 X85～95、Y126～129グリッド 挿 図 Fig. 94 写 真 PL. 41

形 状 台地の東側斜面の急勾配の所に位置し、断面形は、西側の壁が急に立ち上がる反面、東側の壁は緩やかに立ち上がる。幅30～40cm、深さ40cm程度である。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

W-4号溝

位 置 X110・111、Y80～87グリッド 挿 図 Fig. 94 写 真 PL. 41・42

形 状 台地の東側斜面の急勾配の所に位置し、断面形はU字形を呈す。幅30cm、深さ20～30cmを測る。

重 複 W-3号溝の東側に位置し、Y87ライン上でW-5号溝と合流する。東壁はW-5号溝に切られている。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

W-5号溝

位 置 X110・111、Y80～86グリッド 挿 図 Fig. 94 写 真 PL. 42

形 状 台地の東側斜面から水田址へ移行する境にあり、断面形は底部がU字形を呈し、壁は摺鉢状に広がっている。幅60cm、深さ40～50cm程度を測る。

重 複 Y87ライン上でW-4号溝と合流する。西壁はW-4号溝を切っている。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

W-6号溝

位 置 X107・108、Y135～144グリッド 挿 図 Fig. 94 写 真 PL. 42

形 状 台地の東側急斜面に位置し、断面形はU字形を呈する。幅30cm、深さ20cmを測る。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

W-7号溝

位 置 X92～124、Y135～144グリッド 挿 図 Fig. 94 写 真 PL. 42

II 古墳時代以降の遺構

形 状 舌状台地の先端部に位置し、断面形は上部が摺鉢状であり、底に平坦な窪みがある。幅146cm、深さ90cmを測る。西側部分は、削平を受け残存状態が悪く、底部分が残る程度である。

重 複 H-29・34・35・40・55号住居址、W-1号溝を切っている。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

W-8号溝

位 置 X112~123、Y140~150グリッド 摂 図 Fig. 94 写 真 PL. 43

形 状 舌状台地から水田址への境に位置し、断面形は摺鉢状の形を呈する。X112・113ラインで南方向へ折れ水田址方向へ延びている。幅50cm、深さ60cmである。

遺 物 鉄製品1点、軽石製品1点が出土している。

重 複 H-43号住居址の北西隅を切っている。

備 考 年代を決定する遺物が出土しなかったので時期不明。

W-9号溝

位 置 X122~124、Y133・134グリッド 摂 図 Fig. 94 写 真 PL. 43

形 状 台地の南東部の先端部にあり、幅20~30cm、深さ10cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。

重 複 H-28号住居址の南東隅、H-29号住居址の東壁中央部を切っている。

備 考 遺物が出土しなかったので時期不明。

7 地 割 れ

地割れとして扱ったものは人為的な遺構ではない。しかし、本遺構が自然災害史や年代決定の鍵になるため節を設け説明を行う。本遺跡において地割れは8条検出されている。分布は北西部と南端部の水田址へ移行する低地に集中している。X-1~4号地割れについては既に「柳久保遺跡群Ⅰ」において報告されている。特に、舌状台地の先端部の水田址寄りの所には全体的に地割れが見られる。南端部に存在する住居址（石田川期のもの）に床面・掘り方において地割れが無数に走っている所が見られる。北西部の地割れは南北方向に延びているが、先端部のものは東西方向に延びているのが特徴的である。これらは、古墳時代のH-16号住居址や奈良時代のH-37号住居址を切ることと埋土からみて平安時代の大地震によって形成されたと考えられる。

X-5号地割れ

位 置 X101~105、Y143・144グリッド。 摂 図 Fig. 94 写 真 PL. 44

形 状 台地から水田址へ移る緩やかな所に位置する。幅20~30cm、深さ70~80cmを測る。断面はV字形を呈する。

遺 物 出土しなかった。

X-6号地割れ

位置 X114~123、Y141~145グリッド。 挿図 Fig. 94・138 写真 PL. 43

形状 台地先端部の南東部に位置する。底面の平らなU字形を呈する。幅50~60cm、深さ90cmを測る。

遺物 図示した遺物は、石田川期のものと真間期のものがある。石田川期のものは4点あり、台付甕(1b種)1、同(1c種)1、壺1、鉢(1種)1点である。また、真間のものは2点あり、杯(3種)2点である。この他に破片は土師器が14点である。これらの土器は住居址から温入したものである。時期ははっきりしないが、鉄製品が1点出土している。

備考 石田川期のH-38・39号住居址を切っており、さらに真間期のH-37号住居址を切っていることから8世紀後半以降の地震によって形成されたものであると思われる。はじめ、W-10号溝として調査を進めたが、後に調査状況により地割れと判断した。

X-7号地割れ

位置 X112~114、Y146グリッド。 挿図 Fig. 94 写真 PL. 44

形状 W-8号溝の北側にあり、幅20~60cm、深さ50cmを測る。断面はU字形を呈する。

遺物 出土しなかった。

重複 W-8号溝と切りあっている。X-8号地割れと接合している。

備考 遺物が出土しなかったので時期不明。

X-8号地割れ

位置 X112~114、Y146・147グリッド。 挿図 Fig. 94 写真 PL. 44

形状 X-7号地割れの西側に位置し、幅20~30cm、深さ60cmを測る。断面は不整のU字形を呈する。

遺物 出土しなかった。重複 X-7号地割れと北東部で接合している。

備考 遺物が出土しなかったので時期不明。

X-9号地割れ

位置 X112・113、Y146・147グリッド。 挿図 Fig. なし。 写真 PL. 44

形状 X-8号地割れの西側に位置し、幅10~20cm、深さ40~50cmを測る。断面はV字形を呈する。

備考 遺物が出土しなかったので時期不明。

8 落ち込み

地割れと同様に本遺構も人為的なものではなく自然的な營力によって形成された風倒木痕である。しかし、当時の環境である気象や集落景観、自然災害史を研究する上で重要と思われたので報告した。本遺跡における落ち込みは9基検出されている。分布は台地頂上部標高112mの等高線

II 古墳時代以降の遺構

が走るあたりと110mの等高線が走る台地南部と104mの等高線が走る台地先端部である。縄文時代以降とそれ以前のものとを区別しないで通し番号で名称を付したので整理の段階で2者を区別した。そのため、番号は続き番号でない所が存在する。一般に縄文時代の埋土にはロームを多量に含んだ黄褐色土がみられるため、それ以外の覆土にはAs-C含むクロボク土が入ることから古墳時代以降のものとした。今回は古墳時代以降の落ち込みだけを取り扱い、縄文時代以前のものは「柳久保遺跡群Ⅶ」で報告する予定である。

O-1号落ち込み

位置 X102、Y92・93グリッド。 挿図 Fig. 95 写真 PL. 46

形状 長径370cm、短径255cmを測る。

備考 半切のみで完掘しなかった。セクションにAs-Cを含むクロボク土が入ることから古墳時代以降のものと判定。

O-2号落ち込み

位置 X102・103、Y110・111グリッド。 挿図 Fig. 95 写真 PL. 46

形状 長径299cm、短径は計測不能。

重複 T-5号竪穴状遺構に南西部を切られている。

備考 半切のみで完掘しなかった。T-5に切られる事から5世紀中葉以前の風倒木痕と推定できる。

O-3号落ち込み

位置 X101・102、Y111・112グリッド。 挿図 Fig. 96 写真 PL. 46

形状 長径374cm、短径345cmを測る。

備考 半切のみで完掘しなかった。セクションにAs-C含むクロボク土が入ることから古墳時代以降のものと断定。

O-6号落ち込み

位置 X111、Y137グリッド。 挿図 Fig. 96 写真 PL. 46

形状 長径148cm、短径130cmを測る。

備考 B-23・25号掘立柱建物址の柱穴により北西部、北東部を切られている。

O-7号落ち込み

位置 X106、Y123・124グリッド。 挿図 Fig. 96 写真 PL. 46

形状 長径237cm、短径167cmを測る。

O-9号落ち込み

位置 X114、Y144グリッド。 挿図 Fig. 97 写真 PL. 46

形状 長径235cm、短径172cmを測る。

備考 As-Cを含むクロボク土が覆土として混入していたことから古墳時代以降と断定。

O-10号落ち込み

位 置 X98・99、Y123グリッド。 挿 図 Fig. 97 写 真 PL. 46

形 状 長径365cm、短径285cmを測る。

備 考 As-Cを含むクロボク土が覆土として混入していたことから古墳時代以降と断定。

O-11号落ち込み

位 置 X97・98、Y124グリッド。 挿 図 Fig. 97 写 真 PL. 46

形 状 長径380cm、短径315cmを測る。

備 考 As-Cを含むクロボク土が覆土として堆積していたことから古墳時代以降のものと断定。

III 柳久保水田址の調査

1 調査の概要

1 調査目的

本遺跡は、柳久保遺跡群のはば中央に位置する柳久保遺跡の舌状台地の周囲を取り囲むように宮川の本谷と西北および東北に延びる支谷に存在する。調査はY70~185にかけて40mに1本の間隔でトレンチを設定、遺構確認はAs-B層を除去した面でおこなった。調査は、東西に走るトレンチをY65~185に40m間隔で14本を設定した。調査の結果、調査区域内全面にAs-Bの純層が認められた。しかし、調査中央部のX125~145、Y135~155にかけて広い範囲で擾乱を受けており、遺構の保存状況は悪かった。遺構は、宮川の本谷において水田址が予想されたが、北西にのびる支谷で遺構は確認されず、北東にのびる支谷では住居址が検出された。このため、宮川本谷部分では、As-B層下前の水田址が存在すると予想された。この試掘調査結果に基づき、昭和59年度、第9・19地点（幹線道路部分）と第19地点（宮川河川改修工事部分）を調査し昭和60年度には、第17地点（下水処理施設建設地）と北側の第8・14地点、さらに第26地点を発掘調査し、昭和61年度には第11地点を発掘調査した。地点番号については、Fig. 2 を参照して戴きたい。

2 調査方法と経過

試掘調査はY70~185にかけて40m間隔でトレンチを設定、遺構確認はAs-B層を除去した面でおこなった。調査は、東西に走るトレンチをY65~185に40m間隔で14本を設定した。調査の結果、調査区域内全面にAs-Bの純層が認められた。しかし、調査中央部のX125~145、Y135~155にかけて広い範囲で擾乱を受けており、遺構の保存状況は悪かった。

その結果、集落址を示す遺構の検出はなかったが、土層断面には現耕作土の下にAs-Bを含む層が確認され、その下にAs-B純層が確認され、その直下に平安時代の水田址が検出された。発掘調査は広範囲にわたるので各年度毎に分けて行われた。調査の方法としては、バックフォーを

III 柳久保水田址の調査

用いて As-B 層上面まで表土を剥いた。その後、排土運搬用の一輪車の通る道を残し、ショレン用いて As-B 層下部まで削り As-B を排除した。後に、移植ゴテを用いて水田面直上を覆う As-B を除去し、平安時代の水田址を検出した。また、考古学的見地と科学的分析の二面から水田を検証するために水田土壤のプラント・オパール分析も実施した。

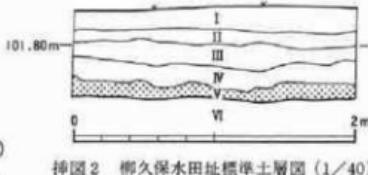
3 遺跡の要約

本遺跡で検出された遺構、遺物は1108(天仁元)年に降下した As-B に埋没した平安時代の水田址と北西部に検出された溝 8 条である。柳久保遺跡水田址は As-B 層の直下で検出された。地形的には標高100.6~104.6mを測る緩やかに南に傾斜する所である。大区画は認められなかったが、耕作土も良好な水田適土である。その他の時代の遺構は検出されなかった。また、As-B 層直下の水田址のさらに下には、それ以前の水田址の存在は認められなかった。遺物は土師器が若干検出されている。調査地区第 9・18 地点(昭和59年度調査実施区域)については「柳久保遺跡群 I」に、同第 8 地点(昭和60年度調査実施区域)は「柳久保遺跡群 III」に、同第 11・23・24 地点(昭和61年度調査実施区域)は「柳久保遺跡群 IV」に掲載されている。本報告書では、調査地区 14・17・19・26・27 地点の平安時代の水田址について記載した。

4 層序

現在の水田耕作面から70~80cm程度下がった所に、As-B 層に埋没した平安時代の水田址が存在する。標高は、100.6~104.6mを測る。遺跡地の標準土層は、次の通りである。

- I 層 暗褐色細砂層。耕作土。
- II 層 赤褐色粘土層。As-A をやや多く含む。
鉄分沈殿層。
- III 層 黒褐色粘土層。鉄石、鉄分を含む。
- IV 層 黒色粘土層。As-B を少量含む。
- V 層 上部に極暗赤褐色粘土層(As-B の灰層)
を堆積し、下部に灰色鉄石純層を堆積する。
- VI 層 平安時代水田址



挿図2 柳久保水田址標準土層図(1/40)

2 平安時代水田址

1 水田の地形

本水田址は、地表面から約70~80cmの深さにある。発掘調査された水田址の面積は第14・17・19・26・27地点合わせて約13,334m²である。水田址の広がりは柳久保遺跡の舌状台地、下鶴谷遺跡の台地、中鶴谷遺跡、頭無遺跡の存在する台地に挟まれるように広がり、市道を挟んで南方向に広がる。また、柳久保遺跡の舌状台地と下鶴谷遺跡の存在する台地に沿うように旧宮川が蛇行して流れている。つまり、これらの台地に挟まれた谷地部分に、当時の人々は水田を開発したのである。周辺の台地上の遺跡からは多くの古墳時代からの集落址が断続的に検出されている。

水田面は、北西隅の標高104.6mを最高点として最南端部の標高100.6m地点に向かって0.8%の緩傾斜をなしている。

2 畦の走行と区画

緩勾配の傾斜面を整地することによって造られた個々の水田は、東西の帯び状区画を基調としている。擾乱により削平を受けている所が調査区第14地点と調査区第17地点に多く見られる。しかし、畦は、その大きさや走行のあり方にさほど大きな違いはない。畦は、水田面の耕作土と同じ黒灰色粘質土を盛り上げて造られている。北西部・東部の一部には階段状の棚田式水田らしき水田址もみられる。区画は、大畦は認められず、畦は小畦のみで区画されている。このため、畦は小畦を意味する用語として用いる。その畦により区切られた区画は、水田中央部に比較的大きいものが存在し、台地との境付近に面積の小さい水田が南北方向に並んでいる。また、水田の所在地が、幅80~90mという狭い所であるため大畦で区切り、さらに、その中を小畦で区切るという方法を取るなど広くないという地形的制約を受けているものと考えられる。調査区第27地点には、水田耕作の跡は全く認められなかった。

1) 規模と形状

調査区第14地点では、北西部に行くに従い畦は黒灰色粘質土を盛り上げて造るものから、次第に、階段状の棚田式水田へと変化している。その水田の高低差は、高さ15~20cmを測る。また、調査区第14地点の南東部と調査区第17地点の畦は、黒灰色粘質土を盛り上げて造ったもので上幅10~15cm、下幅15~20cm、水田面との比高が約3~5cmであり、断面は台形状を呈する。しかし、調査区第19・26地点においても北部分が階段状を保しており、南に行くに従い黒灰色粘質土を盛り上げた畦へと変わっていく様子が窺われる。これは東・西・北面に丘陵台地が存在するため、北西部・東部は地形の高低差が大きくなるため、黒灰色粘質土をわざわざ盛り上げて畦を造らなくて済む水が水田に落とされ湛水したのであろう。

2) 畦の走行と区画

地形は北西部・東部分が等高線の間隔が南部分より狭くなる。この地形に沿うように畦が工

III 柳久保水田址の調査

夫されて造られている。水田を区画する畦は、発掘区域内では小畦しか認められず、大畦は検出されなかった。調査区第14地点では、南東部においては、東西方向の畦は等高線に平行するような形で造られ、その畦に直交する形で南北方向の畦が造られている。北西部においては、地形が多少高くなり等高線の方向が変わってくるので、それに合わせて畦の軸が、次第に、西へずれて等高線に直交するようになる。さらに、2つの台地に挟まれた狭い所では、畦は造られず、階段状の棚田式水田が造られている。これは、地形による水利からの工夫であろう。

また、市道北部分の調査区第17地点では、等高線が扇を広げたような形をしている。東西方向の畦は、その等高線を斜めに切るようによく造られている。その畦に直交するように、南北の畦が造られている。さらに、調査区第19・26地点においては、東側に台地が迫っているためか南部では、調査区第17地点と同じように東西・南北方向の畦が造られているが、北部においては、地形の傾斜が急になるので、第14地点の北西部と同じように畦が造られず階段状の棚田式水田が造られている。

3 水田の面積

調査区域の面積は、第14地点9,120m²、第17地点1,771m²、第19地点859m²、第26地点996m²、第27地点46m²を測り、総合計13,344m²となる。このうち、大半は畦の一部分は存在するが、その区画は復元が不可能であった。そのうち、完全な区画となるものや畦の復元によってある程度区画が判読できるものは25面にとどまった。これは、調査区第17・19・26地点におけるものである。各水田の面積は、No.13のような384m²という大きなものからNo.6の49.9m²という小さなものまで、かなりの較差が見られる。特徴的なことは、水田の中心部分に比較的面積の大きな水田が存在し、台地との境付近に面積の小さい水田が存在しているということである。

Tab. 1 水田面積一覧表

番号	長辺	短辺	面積	形状
1	16.0m	8.0m	128.0m ²	横長方形
2	13.6	6.4	87.0	横長方形
3	12.0	12.0	144.0	正方形
4	10.4	5.6	58.2	横長方形
5	13.6	10.4	141.4	縱長方形
6	10.4	4.8	49.9	横長方形
7	24.0	8.0	192.0	横長方形
8	24.0	10.4	249.6	横長方形
9	25.6	4.8	122.9	横長方形
10	25.6	8.0	204.8	横長方形
11	24.0	8.8	211.2	横長方形
12	24.0	9.6	230.4	横長方形

13	24.0	16.0	384.0	横長方形
14	16.0	5.6	89.6	横長方形
15	18.4	6.4	117.8	横長方形
16	18.4	8.0	147.2	横長方形
17	16.0	8.0	128.0	横長方形
18	16.0	10.4	166.4	横長方形
19	16.0	8.0	128.0	横長方形
20	16.0	11.2	179.2	横長方形
21	8.0	4.8	38.4	縱長方形
22	8.0	6.4	51.2	正方形
23	8.0	8.0	64.0	正方形
24	10.4	7.2	74.9	縱長方形
25	8.0	6.4	51.2	縱長方形

4 取配水方法

調査区第14地点においては、北西部階段状の棚田式水田の所に取水用の水路と思われる跡が2条確認されている。また、調査区第17地点においても、水田の取水用の水路と思われる跡が2条確認されている。一つは下鶴谷遺跡の存在する台地と水田址との境にあり、もう一つは調査地区を北西方向から南西方向へ蛇行して走り、途中、X124、Y178付近で南方向へ向かって走るものに分かれている。調査区第19・26地点においては、水田の取水用の水路と思われる跡は確認されなかった。調査区第14地点においては、北西部の高所から水を引き、まず階段状の水田に水を入れる。その水は次第に南方向へと引かれていく。北西部の中心部当たりに水を通す為のものと思われる畦を切った部分が確認される。調査区第17地点では、水田の取水用の水路が2つ確認されている。その水路の通路部分は畦が切られていて水が流れ込むようになっている。

1) 淹溉水路

灌漑施設としての水路は、調査区第14地点で北西から南西方向に走るものが2条検出されている。また、調査区第17地点では、南北方向に走るものと蛇行して南北方向に走るものと2条検出されている。これらの水路の覆土中には、水田を直接覆っている As-B層、さらにその下に As-Bアッシュの純層が検出されている。このため、層位的にみて水田址に伴う水路と断定できる。

a 水路の規模

調査区第14地点では、北西部に灌漑水路が検出された。また、調査区第17地点においても灌漑水路が検出された。調査区第14地点で検出された水路の規模は、幅10~15cm、深さ5~10cm、長さ200~230cmを測る。確認された部分のみの計測であるが、上下流両端の標高差は30cmで、平均勾配は0.9%で南東方向に流れ、水田址に注いでいる。さらに、北西方向に伸びるものと思われるが、検出されなかった。方向的に見ると、その先に、W-5が存在していて水田の灌漑水路と接合するような様相を見せている。調査区第17地点で検出された水路の規模は、下鶴谷遺跡の存在

III 柳久保水田址の調査

する台地との境にあるものは幅15~20cm、深さは浅い所で3~5cm、深い所で7~10cm、長さ40~50mを測る。上下流両端の標高差は50cm、平均勾配は0.8%の傾斜で南流している。もう一つの水田面の中央部を走る水路は、幅15~20cm、深さ5~10cm、長さ60~70mを測る。上下流両端の標高差は60cm、平均勾配は0.8%の傾斜で蛇行するように南東方向に向かって流れている。途中、中心部当たりで二つに分かれ一つは南流している。他の調査地点においては、灌漑水路が検出されなかったので計測はできない。

b 水路からの取水

水路からの取水は、調査区第14地点においては、畦を造らず水路から直接水田面に水を引き込み、最初の水田から次の水田へ水が直接流れ込むように、地形をうまく利用して棚田式水田を造っている。南へいくに従い、畦が造られるようになる。この間の取水用水路は、検出されていないが、北西部の中心当たりから畦が現れることから、取水用水路が造られていたものと推察できる。また、その付近で、水田に水を引くために畦の一部を切って、取り入れ口としているところも確認できた。調査区第17地点では、取水用水路と思われる溝の跡が検出された。その溝が通る所の畦は、幅10~15cm切られていて、水の取り入れ口としているようである。調査区第19・26地点では、北部において、調査区14地点の北西部と同様に棚田式に造られているが、水の取り入れ口は確認されなかった。南部は、擾乱により畦は確認されていないが、調査区第17地点の水路から引いた水を畦に取水口を造り田に水を引いているものと考えられる。

2) 各水田の配水

調査区第17地点においては、灌漑用水路と思われるものが検出されている。他の調査地点では、灌漑用水路と思われるものが検出されていないので、各水田の配水をどのようにしたのか判断できないが、たぶん、同じ水田であることから、第17地点と同じようにしたものと思われる。各水田の畦の一部分が、10~15cm程切られ水の取り入れ口としている。この水田は、東西の畦を切り、南側に隣接する各水田へと配水されるようである。そして、各水田に落とされた水は、一旦区画内を湛水した後、東西畦上部の水口より、順次南方へと田越しに流される。南北方向の畦を切って、東西方向の水田へ水を配水している所もみられる。

5 足跡

水田面に残されたもう一つの痕跡として人間の足跡がある。その大部分は、不明瞭な凹みとしてしか残っていない。どの調査地点でも、歩行単位を識別できないほどに無数の足跡が存在するが、その歩行は、水路及び畦の走行に沿うように往復している。この無数の足跡の凹みは、水田面下に5~15cmの深さでくい込んでおり、水田がかなりの湿った状態であったことと連続した往復作業があったことが窺える。また、畦の上にも多くの足跡が見られる。これは、畦が作業道としての役割も持っていたことを示すものであろう。他に、水田面上には、多くの足跡が検出されているが、その多くは歩行を復元するまでには至らなかった。

6 遺 物

本水田址に伴う遺物として土器が若干出土している。それらの遺物の多くは水田耕作土面または、この水田址に付属する水路の埋土中よりの出土であり、破片としての出土である。

IV 成果と問題点

遺跡は赤城山南麓の標高110m前後の丘陵性台地に立地する。台地は舌状を呈し、沖積地との比高は6~7mを測る。台地全面の発掘調査を昭和59~61年度の3ヶ年にわたって実施したが、その範囲は南北300m、東西150mで面積はおよそ40,000m²に及ぶ。調査の結果、旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物をはじめ、古墳時代から奈良時代の遺構・遺物が多数検出された。その内訳は住居址53軒、竪穴状遺構11基、掘立柱建物址25棟、土坑40基、井戸6基、溝9条、地割れ9ヶ所、落ち込み（風倒木痕）10ヶ所、土師器集中区（祭祀跡）1ヶ所である。

なお、旧石器時代と縄文時代の遺物・遺構については統編である『柳久保遺跡群Ⅷ』に掲載する予定である。

1 遺 構

1 竪穴住居址 (Tab. 5)

53軒検出された住居址は大きくI~IV期の四つの時期に分類できた。I期が古墳時代前期石川川期のもので10軒を数え、年代的には4世紀後半の住居址である。次のII期は古墳時代中期和泉期の住居址15軒であり、5世紀中葉に位置づけられる。III期は古墳時代後期鬼高期であり5軒検出され、年代的には7世紀前半の所産である。最後のIV期は奈良時代真間期である8世紀の住居址が23軒、掘立柱建物址25棟が検出された。これらの4時期の集落はそれぞれ占地場所が異なり、住居址相互の切り合いが少なかったため、住居の構造や集落構成を分析する上で好都合であった。

1) 形態 (Fig. 148)

各住居址の厨房施設、形態と柱穴の有無等によって便宜的に分類したのが下記の表である。

Tab. 2 住居形態分類基準

群	類	種
I 期…炉 の 住 居	A…正方形	1…4本柱
II 期…炉 の 住 居	B…長方形	2…無柱穴
III 期…竪 の 住 居	C…正方形+張り出し	
IV 期…竪 の 住 居	D…長方形+張り出し	

*長方形については辺比が6:7を超えるもので、竪の設置位置で横形長方形(a)と縱形長方形(b)に分けられる。

IV 成果と問題点

I期の住居形態はA1(4軒)とA2(3軒)、B2(2軒)の3形態で構成される。A1形態である4本柱の住居は面積25m²を超える規模を有し、それ以下の住居には柱穴は認められなかった。次のII期の住居も基本的にはI期の形態と類似し、A1(6軒)、A2(3軒)、B2(6軒)という構成となり、量的にB2である長方形無柱穴住居が増加をみる。A1形態はI期と同様に25m²以上の住居であり、間仕切り溝もA1形態の大形の住居3軒に認められる。

III期の住居はA1(1軒)、A2(3軒)、B2 b(1軒)で構成される。正方形を基調として西、北、東に竈が付設される。A1形態は、やはり25m²以上の大形の住居である。最後のIV期の住居形態はA2(9軒)、B2 a(4軒)、B2 b(7軒)、D1 b(1軒)、D2 a(1軒)と種類に富んだ構成をみせる。基本的に横長方形・縦長方形と張り出しを有する3形態の住居で構成される。ここでも柱穴を有する住居は25m²を超える規模である。

以上の様にI期は炉を使用する住居である。II期においても炉が用いられるが、竈を導入する直前の時期と考えられる。形態はI期が正方形を主体とするが、II期になると正方形を主体としながらもやや長方形の平面形と変化をみせる。しかし、III期になると再び正方形が主体となり、IV期には長方形を基本とし種類に富んだ構成となる。また柱穴・間仕切り溝が規模と有機的関連を持って付設されることが判明した。

2) 主軸 (Fig. 150)

I期の住居は振れは大きくなく30°以内にまとまる。細かくみれば北にまとまりが3軒(H-38・39・44)、中間のまとまりが2軒(25・29)、南のまとまりが3軒(27・30・31)となり、H-43のみやや振れが大きい。グルーピングされたものはいずれも距離的に近接しており、時期的関係を想起させる。

II期はI期に比べ70°と振れが大きくなる。I期で指摘したようにII期においてもいくつかのグルーピングが可能といえる。まず、H-2・4~6のまとまりが北に直線的な配置をとり、H-3・10・13・14・47のまとまりが弧状に並び、H-1・8・9・11がまとまって存在する。H-46もH-11と同一グループと思われるが隔絶している。他にH-12の振れが大きい。

III期は5軒とも著しい集中をみせる。ただ、竈が北と東に存在するため主軸は90°の差異をみせる。H-18は北から東へ竈を造り替えを行っている。

IV期は北・東竈が存在するが、90°変換すると大きく二つのグループに分けられる。H-21・26・37・48~51が一つのまとまりで、H-20・22~24・28・32・34~36・40・42・52・54・55がもう一つのまとまりである。しかし、全体の集中が著しく、細分はできない。また、掘立柱建物の主軸が住居と共通することは時期的な関連を持つことといえよう。

3) 規模 (Fig. 150)

I期は大きく3グループに分かれる。10m²以下の小形住居が2軒、15~30m²の中形住居が5軒+1軒、45~50m²の大形住居が2軒存在する。

II期は20m²以下の小形住居が4軒、20~40m²の中形住居が8軒、45~65m²の大形住居が

2軒存在する。

III期は10m²以下の小形住居址1軒、15m²の中形住居址が3軒で、他に30m²の大形住居址が1軒存在する。

IV期は5～25m²が20軒と著しい集中をみせるが、1軒だけが35m²と突出する。また、掘立柱建物址の規模も住居址と共に5～25m²にすべて集中している。

4) 立地と標高 (Fig. 151)

各住居址の時期別の占地変遷はそれぞれ特色を有しており、大きな変化がみられる。I期は舌状台地の南側先端部の台地の低い部分から沖積地の標高103～107mに立地する。II期は台地の中央鞍部に立地し標高は110～112mを測る。III期は台地の東側急斜面に立地し標高106～110mに集中する。また、IV期になると台地の南緩斜面に立地をみせ、標高は104～110mと高低差が大きい。

5) 深度 (Fig. 151)

各住居址の掘り込みの深さは住居址廃絶後の状況によって差異を生ずるが、時期別に特色がみられた。I期の住居址の掘り込みは30～100cmとばらつきがあり、規模との関連も極端には認められない。II期の住居址は10～80cmの幅を持つが、30～40cmの深さに集中をみせる。また、大形住居址2軒は掘り込みも深いことが指摘できる。III期の住居址はばらつきが大きいが、90～140cmと非常に深い掘り込みを有する。IV期は深さ50～100cmと集中している。⁽⁴⁾

以上、I期とIII期はばらつきが大きく、II期とIV期は集中をみせている。また、III期には非常に深い住居址が構築され、IV期の住居址の深さも均一性がある。さらに、I～III期の中では大形住居址ほど深く、小形住居址は浅いという関係もみられる。

6) 炉・竈 (Fig. 152)

I・II期の炉は床面を浅く掘り込んだ「地床炉」である。この中で、H-8は西壁に基壇状の高まりがみられ、竈の初源との関連が考えられるものである。I期の住居址は1個の炉が北壁に寄つて付設される。II期になると北壁寄りと西壁に寄つたものがみられ、また、1軒に複数の炉が設置されるものが多い傾向を持つ。

竈はIII・IV期の住居に設置されるが、III期の家は西壁3軒、北壁2軒、東壁1軒と西壁に多くみられ、東斜面という地形に制約された結果と考えられる。IV期には東壁18軒、北壁2軒、コーナー3軒に設置がみられ、東壁設置が中心となる。構築材料については、III期が袖の補強に長胴甕を、IV期では袖石が用いられる。

壁との位置関係はFig. 152に示したが、H-18・17・16・26・15・50・51が「壁内グループ」、H-33・21・24・23・26・34・22・28が「中間グループ」、H-20・35・49・50・54・48・32が「壁外グループ」をなしている。この結果、III期の住居址は総て「壁内グループ」に属することから、竈と壁の位置関係に時期差が反映されているものと理解できる。

7) 貯蔵穴

I期の住居址では貯蔵穴が住居南東部に設置される。続くII期もI期と同様に南東部に設置さ

れる。III期は竈の左脇に設置されるが、H-18は北竈の時に左脇にあった貯蔵穴が、竈の造り替えに伴って右脇に移る。このことは続くIV期の貯蔵穴が竈の右脇に設置されることから、III期において竈の左から右へ変化するものと考えられる。以上のように炉の住居址では南東部のコーナーに設置されていたものが、竈が出現してからは竈と有機的関係を持って設置されるようになる。

8) 馬蹄形状施設

床面に認められる弧状の高まりである「馬蹄形状施設」はII・III期の住居にみられた。II期ではH-5・8・9・12・13、III期ではH-15・17・18があげられる。設置場所は東・南壁に接する場所に限定され、住居の入り口と関連するものである。弥生時代や古墳時代前期の例は貯蔵穴を囲んでみられるが、鬼高窓になると貯蔵穴から独立して設置される傾向がみられる。

9) 床面構造・床下土坑 (Fig. 149)

住居の建築にあたって床面の形成は荒掘りを行い貼床を施工した「掘り方も持つ床面」と、いきなり床面を作出する「地床面」がみられるため、前者と関連を持つ床下土坑も一律に設置されたものではない。貼床が施工された住居址はI期の住居址には確認できず、II期のH-3・4が該当する。H-3の掘り方は大きめな浅い正方形をなすもので初源的な床下土坑と考えられる。H-4の掘り方はL字形に形成される。III期はH-17・18にみられ17には3個の床下土坑がみられた。IV期には20軒の住居址から原則として中央部に深い掘り込みを持つ床下土坑が検出された。⁽⁴⁾ このうちH-20から床下土坑の覆土に粘土がみられた。

10) 間仕切り溝

II期の住居址3軒から検出された。3軒ともIIA1に分類できる大形住居址で、面積は27m²~70m²を測り、「端気遺跡群II」で指摘した通り大形住居に認められる。

2 竪穴状遺構 (Fig. 145、Tab. 6)

II期の竪穴状遺構は大きさが2×2m程度で中心に炉を有するものである。竪穴住居跡との違いは小規模で床面が形成されないこと、付属施設が認められない点である。これらは炉を有することから「カマヤ」に似た厨房施設の用途として設置されたことと考えられるが、管見例がないため今後の課題である。

3 掘立柱建物址 (Fig. 145、Tab. 7)

掘立柱建物址からは出土遺物が無いため時期の決定が困難であるが大きくIV期の住居址と同時期と考えられる。それは分布域・方位・規模がIV期住居址と共通することである。規模は2間×2間のものが一般的で、棟方向は地形に応じて東と西の2つがみられ東西方向11棟、南北方向14棟である。棟数は他にも多くのビットが検出されており増えるものと考えられる。ビットは概して小さく、純柱の建物はみられないため作業小屋や納屋的な施設が考えられる。

4 その他の遺構 (Fig. 146)

台地の中央部と裾部に地割れが9条確認できた。幅や深さは様々であったが中には遺構を破壊しているものがあった。破壊を受けた遺構はH-16・37~39・T-12であり、時期的にはH-38・39がI期、H-16がIII期、H-37・T-12がIV期であることからIV期以降に形成された結果といえる。赤城山南麓である前橋市当部をはじめとして大胡町・粕川村・新里村の発掘調査でも同様な地割れが検出されていることから、奈良時代以降に大規模な地震があったことが想定できる。今後災害史の観点と年代決定の鍵層として活用できるものであるため時期の決定や被害の状況、分布範囲の確定が必要とされよう。

2 遺物

1 土器 (Fig. 153~173)

土器分類にあたって前節の住居址時期分類のI~IV期に追従してI~IV群に大別した。さらに中分類、小分類基準を下記の表に示した。

1) 分類基準

Tab. 3 土器分類基準

大分類	中分類	小分類
I~IV群に分類	A類~L類 … 土師器の各器種 M類~Q類 … 須恵器の各器種	形態・調整による細分

I 群 (Fig. 153~158)

壺 1種…折り返し口縁を有し、調整は外面籠磨き、内面に刷毛目を施す。 2種…單口縁で、調整は外面に刷毛目や籠磨きを用い、内面に刷毛目がみられる。 3種…全体の器形が不明で、刷毛目はみられない。

台付壺 1a種…S字状口縁で最大径が胴部中位よりやや上にくる器形。外面に刷毛目を有する。
1b種…S字状口縁で最大径が胴部上位にあり肩が張る器形。外面に刷毛目。
1c種…S字状口縁の台部。端部に折り返しを有し、刷毛目がみられない。
1d種…S字状口縁で全体の器形が不明なもの。
2a種…單口縁で台部の折り返しが付かない。
2b種…單口縁で台部の折り返しがなく、刷毛目にも規則性がない。
2c種…台部の折り返しがつかないことから、單口縁の台部であろう。刷毛目はみられない。

甕 1種…短く丸い胴部を有する。刷毛目によって整形される。
2種…丸い胴部を有する。刷毛目調整。
3種…やや長い胴部を有する。刷毛目調整。
4種…全体の器形が不明なものを4種とした。刷毛目調整。

IV 成果と問題点

- 小 壺 1種…S字状口縁を有する。刷毛目調整。2種…丸い胴部。刷毛目調整。3種…底が突出する。刷毛目調整。4種…最大径が胴部上位にくる。刷毛目調整。5種…最大形が胴部下位にくる。刷毛目はみられない。
- 甑 1種…外面に笠磨きが多用される。2種…口縁部に指頭圧痕がみられ、撫でによって調整。
- 大 鉢 1種…外棱は明確に画されない。胴部下半は刷毛目の後、笠削りが用いられる。
- 小 鉢 1種…屈曲が底部寄りにくる。外面とも丁寧な笠磨きによって仕上げられる。2種…屈曲が口縁部寄りにくる。底に凹みが付けられる。3種…逆「ハ」の字状。内面は笠磨きによって仕上げられる。
- 壇 1種…ひさご形。丁寧な笠磨きによって仕上げられる。2種…最大径が胴部にくる。笠磨きはなされない。3種…最大径が口縁部にあり、笠削りによって仕上げられる。
- 高 杯 1種…杯部下位に緩やかな稜を有し、脚は広がらず、入念な笠磨きを有す。2種…段を有し内外面に暗文状の笠磨きが入る。
- 器 台 1種…3単位の透かし孔と磨きが多用される。2種…透かし孔がなく器受部に暗文がはいる。3種…上下が対称的であり、雑な笠磨きが施される。
- 小形土器 一括したが壺や台付壺などいくつかの器種がみられる。
- II 群 (Fig. 159~164)
- 壺 1種…最大径が胴部中位にくる。調整は撫でによりなされる。2種…口縁部が著しくすぼまる。
- 壺 1種…くの字状の口縁部がやや外反する。最大径が胴部下位にくる。2種…口縁部は外反し、最大径は胴部中位にくる。3種…口縁部は短く外反する。4種…口縁部は明瞭な「く」の字状をなす。胴部はやや長い。5種…全体の器形が不明なものを一括した。
- 小 壺 1種…口径に比べて器高が低い。調整は刷毛目、撫で等による。2種…口径より器高が大きい。
- 甑 1種…單口縁。2種…折り返し口縁。段に指頭圧痕がみられる。
- 大 鉢 1種…口径が大きい器形。
- 小 鉢 1a種…口縁部が短く折れ外傾し、平底をなす。1b種…口縁部は胴部から直線的に延びる。2a種…口縁部は極めて短く折れ直立気味に立ち上がる。2b種…口縁部は胴部との境界を持たない。3種…逆「ハ」の字状を呈する。壺の転用である。
- 杯・椀 1種…口縁部は短く外反する。2種…素縁口縁である。3種…鬼高式に特徴的な器形。いわゆる須恵器杯蓋の模倣形態。
- 壇 1種…最大径が口縁部にくる。2種…口縁部は短く口径と胴部径が等しい。3a種…胴部と口縁部の長さが等しい。3b種…胴部に比べてやや口縁部が短く、球形の胴部

を持つ。H-1・3のものは穿孔を試みた痕跡がある。3c種…口縁が有段気味に作成される。4種…口縁部と胴部のくびれが不明瞭。5種…胴部に比べ口縁部が著しく短い形態。6種…窓・焼成前穿孔。3a種の舟に似る。7種…全体の器形が不明なもの。

高杯 1種…杯部下位に緩やかな外稜を有し、調整は刷毛目・撫で・暗文等による。2種…杯部に稜が無く下半部に丸みがある。3種…杯部下位に丸みをもつ緩やかな稜を有する。4種…容量のある杯部。内湾気味に立ち上がり下位に稜を有する。5種…杯・脚とも段を有する。内面に暗文がはいる。6種…素縁口縁の杯部、脚部に透かし孔が入る。7種…杯部は1種と同様であるが、脚部に透かし孔が入る。8種…椀に脚部がついた器形。小形台付窓という見方もある。

III 群 (Fig. 165~168)

甕 1種…長胴甕。口縁部と胴部とも直線的に構成される。2種…長胴甕。口縁部は外湾し頸部が丸みを帯びる。胴部は曲線をなす。3種…丸胴甕。

小甕 1種…口径が著しく小さいため盃とも呼べる器形である。2種…口縁部と胴部の径がほぼ等しい。口縁部は短く外反する。3種…器形不明なものを一括した。

瓶 1種…大形の器形。内面に蓖磨きを多用する。

小鉢 1種…内傾する口縁。2種…口縁は直立気味に外反。3種…外稜を有し、口縁は外傾する。

杯 1a種…いわゆる須恵器模倣の杯。外稜を有する。口縁は直立する。1b種…いわゆる須恵器模倣の杯。外稜を有し、外反する口縁。1c種…いわゆる須恵器模倣の杯。外稜を有し口縁は短く外反する。1d種…比べ底部が浅い。1d種…いわゆる須恵器模倣の杯。外稜を有し、口縁部は短く直立する。2種…口縁は素縁であるが、短く折れ直立し、わずかに稜が認められる。3種…素縁口縁の杯。口縁部は胴部からの変化がなく直立する。4種…いわゆる北武藏型杯である。5種…口縁部はやや内斜気味に作出される。内面に暗文を有する。

高杯 1種…脚部だけ。詳細不明。

須恵器鉢 1種…逆「ハ」の字形で全体に厚く作製される。撫でが多用される。2種…1種に比べると端正な作りである。

IV 群 (Fig. 168~173)

台付甕 1種…台付窓の台部

甕 1種…「く」の字状口縁で口縁部に最大径を持つ。2種…「く」の字状口縁で胴部に最大径を持つ。3種…全体の器形が不明なもの。

小甕 1種…最大径を口縁部に有し、口縁部が長く、外反する。2種…口縁部が短く外傾する。3種…全体の器形が不明なもの。

IV 成果と問題点

- 瓶 1種…深い鉢を呈する器形から瓶と判断。
- 大鉢 1種…口縁部に屈曲を有し、底部はすぼまる。
- 杯 1種…緩やかな外稜を有する鬼的な杯。口縁部は短く直立する。2a種…素縁口縁の杯。口縁部は短く折れ内傾する。2b種…素縁口縁の杯。口縁部は極めて短く、先端部が直立する。3種…素縁口縁の杯。口縁部は胴部からまっすぐに立ち上がる。4a種…口縁部は外稜から外反しながら立ち上がる盤状杯。4b種…盤状杯。底部が平坦。4c種…緩やかな外稜を有する。5種…体部、下半に横方向の窪削りが入るいわゆる相模型杯。6種…肥厚し、胎土も良好で白色である。口縁部の外面に赤色塗彩。7種…内面に放射状暗文、螺旋状暗文。
- 須恵器台付長頸壺 1種…台部の端部は薄く仕上げられ、肩部も端正につくられる。
- 須恵器甕 1種…口縁部は「く」の字に屈曲する。口縁端部には凸帯が付けられる。
- 須恵器椀 1種…盤状。底部は回転糸切り。2種…深い杯部を持ち底部は回転糸切り。3種…土師質須恵器。底部は回転糸切り。墨書「山々」。混入品。4種…口縁部に1条沈線が施される。5種…口唇が内斜して作出される。6種…台部のみ。全体の器形は不明。
- 須恵器杯 1種…底部は回転窓調整。底部は丸底である。2種…底部は回転窓調整。底部は平底である。3種…底部調整は回転糸切り。窓による周辺調整を有する。
- 須恵器蓋 1種…返りを有する。2種…返りを持たない。3種…全体の器形が不明なもの。

2) 共伴関係頻度 (Tab. 8~11)

集落構成から古墳時代前期・中期・後期、奈良時代のI~IV群に大別できたが、さらに土器分類をもとにして出土土器を細別して行きたい。方法は先学諸氏の編年を基礎とし、器種分類の頻度表を作成し、器種別の共伴関係を探ってみることとする。共伴関係が把握できたなら、住居址遺物組成表をもとに住居の新旧関係を明確にして集落変遷の基礎資料といたしたい。

I 群 (Tab. 8)

この時期の特徴的な器種である台付甕、器台、小形鉢、小形土器と甕、壺を中心据えて頻度表の検討を行う。まず、台付甕は1種・2種とも形態と調整からa→b→cという変遷が把握できる。この関係は1種相互の共伴関係においても矛盾がみられない。さらに台付甕1種と2種との関係は1a・1b種が2a種と共にし、1c種は2b種との共伴関係が認められた。2種である単口縁の台付甕2b・2c種は器台3種との共伴関係が認められ後出する要素が把握できた。次に壺は調整技法から1・2種→3種という変遷が考えられ、頻度表での関係は1・2種が台付甕1種、瓶1種、器台1・2種との共伴関係を有し、3種が甕2種、器台3種と共にみられ後出する。瓶はII期との関連から1種→2種の変遷が把握でき、壺や器台との関係も瓶1種が壺1・2種、器台1・2種と共にし、甕2種が壺3種、器台3種と共にし矛盾を来さない。また器台は形態と調整から2種→1種→3種という変遷が想定でき、2種は台付甕1a種・瓶1種・

壇2種との関係がみられる。1種は台付壺1種、小形鉢1種、高杯1・2種、小形土器との共伴がみられる。3種は台付壺2b・2c種、瓶2種、壇3種と共伴関係を持ち、矛盾は認められない。また、小形土器は台付壺1a種、小形鉢1種、壇2種、高杯、器台1種との共伴関係が認められ、古い様相が認められた。

以上から台付壺1a種、器台2種、壇1種、小形土器を組成とする古期と、台付壺2b・2c種、瓶2種、器台3種を組成に含む新期の二つに大きく分けられる。これらを住居址に置き換えるとH-25・29が古期、H-31・39・43・44が中間的な様相を持ち、H-27・30の組成が新期となる。

II 群 (Tab. 9)

II群の器種構成は壇・高杯が著しく多く、他の群に比較して集中的な共伴関係がとらえられた。このことは各器種が短期間内に製作・消費された結果ともいえるが、今後視点を変えた分析を試みる必要がある。しかし、各器種をそれぞれ見比べると時間的に前後関係が見い出せそうである。まず、H-3・10の壺は瓶の気配を感じるがごとく長胴化した形態を持つことから、H-1・5・6の球形胴部を持つ壺よりも後出する。またH-4・9・集中区から出土した4個体の段付き高杯を比較するとH-4のものが他の3個体より整然とした作りであることから前出する要素が強い。杯は1種の中でもH-9・10のものは浅く外反し、さらにH-10のものは暗文も付され、鬼高I式のメルクマールとされる「内斜口縁の杯」に近い形態をとる。また、壇も整然とした作りの1~3種に比べ4・5種はシャープさを欠くことから後出する要素が強いものと考えられる。さて、住居の規模が大きいH-8とH-9は近接することから同時間内での併存はありえない。両者のどちらが先行するかといえばH-9のほうが須恵器模倣の鬼高的な杯や瓶を所有しており、さらに偏平化した杯がみられることから後出することが要素が強い。こういった視点を用いて見直しを図ると同一時期内でもH-1・4・5・8・14・46は、H-3・9・10よりも古い要素が看取できる。

III 群 (Tab. 10)

III群はこの時期の特徴を良く示す壺、杯を中心に頻度表をみて行きたい。まず壺は1種→2種・3種という関係がみられる。次に壺1種と杯においては、1c、1d、2、5種との関係がみられる。2種は杯1、2種との強い関係が、また高杯との関係もみられる。次に杯の関係は1a、1bの結び付きが強く、1c種・2種・5種という関係がみられる。これらの関係から壺2種、杯1a・1d種を組成に持つ住居址を古期に、壺1種と杯1c・1d・2・5種を持つものを新期に大別できよう。以上、H-15・16が時期的にやや先行するが、他の住居址も著しく遅れることもなく、ほぼ同時期に集落形成をなしたものと考えられる。

IV 群 (Tab. 11)

IV群は量的に多い土師器杯・須恵器杯を中心にして頻度表をみて行きたい。土師器杯の1種は2a種との関連がみられ、2b・3・4a・6種との強い共伴関係がみとめられ、4b・4c・

IV 成果と問題点

5種とも共伴関係を有する。須恵器杯は1→2→3種という関係がみられ、土師器杯との頻度をみると1・2a種との共伴はみられず、2b・3・4aとの関連が把握できた。このように土師器杯と須恵器杯の分類の結果、須恵器の共伴がみられない土師器杯1・2a種のグループと須恵器と良く共伴する土師器杯2b・3・4a種のグループが分離できた。2b・3・4aを細かくみれば杯1・2a種と共伴関係がある2b種が中間的な位置付けが考えられよう。こういった共伴関係と、住居址組成表から、H-48・50がIV群の古期、H-20・22・37・40が中期、H-23・24・32・33・34・35が新期に位置付けられる。

3) 須恵器の産地

柳久保遺跡III群・IV群の住居址出土の須恵器について大江正行氏（群馬県埋蔵文化財調査事業団勤務）に産地、年代の鑑定をしていただいた。その結果は下記の通りである。

Tab. 4 住居址出土の須恵器一覧

住居址	①器種(遺物番号) ②基 ③時期 ④その他	点数
H-17	①鉢(158) ②乗附 ③7世紀前半・①鉢(164) ②環外南北口 ③7世紀	2
H-20	①楕(192) ②笠懸 ③8世紀 ④赤色顔料 ①杯(193) ②笠懸 ③8世紀前半・①杯(195) ②笠懸 ③8世紀前半・①楕(196) ②笠懸 ③8世紀前半	4
H-21	①楕(197) ②ハケ基 ③10世紀中葉 ④鏡入品・①台付長頸壺(198・H-41・376・377) ②秋間 ③8世紀前半	2
H-22	①杯(199) ②笠懸 ③8世紀前半・①杯(201) ②乗附 ③7世紀末葉～8世紀初頭・①杯(201) ②秋間・乗附 ③8世紀前半・①杯(202) ②笠懸 ③8世紀前半・①蓋(217) ②秋間 ③8世紀初頭・①蓋(218) ②不詳(漆筒、乗附か)・③8世紀前半・①蓋(219) ②笠懸 ③8世紀前半・①蓋(220) ②笠懸 ③8世紀・①杯(221) ②笠懸 ③不詳・①杯(222) ②笠懸 ③8世紀前半～中葉・①壺(223) ②笠懸 ③8世紀	11
H-26	①蓋(238) ②笠懸 ③8世紀中葉・①蓋(239) ②笠懸 ③8世紀中葉	2
H-28	①杯(251) ②笠懸 ③8世紀中葉	1
H-31	①楕(286) ②笠懸 ③8世紀前半～中葉	1
H-34	①杯(304) ②笠懸 ③8世紀前半～中葉	1
H-35	①杯(312) ②笠懸 ③8世紀前半～中葉・①杯(314) ②乗附 ③8世紀前半・①杯(315) ②笠懸 ③8世紀前半・①楕(316) ②笠懸 ③8世紀中葉・①蓋(317) ②秋間 ③8世紀前半・①鉢(318) ②乗附 ③8世紀前半	6
H-40	①蓋(355) ②乗附 ③8世紀前半・①蓋(358・D-18・479) ②吉井 ③8世紀前半・①蓋(359) ②乗附 ③8世紀前半	3
H-41	①杯(361) ②笠懸 ③8世紀前半・①杯(371) ②笠懸 ③8世紀前半・①蓋(375) ②秋間 ③8世紀前半	3
H-42	①楕(379) ②笠懸 ③8世紀前半	1
H-52	①楕(441) ②笠懸 ③8世紀中葉	1
H-53	①杯(444) ②笠懸 ③8世紀前半	1

H-54	①杯(450) ②笠懸 ③8世紀前半	1
H-55	①蓋(452) ②笠懸 ③8世紀・①蓋(453) ②笠懸 ③8世紀・①杯(456) ②秋間 ③8世紀前半・④不明(登録番号6) ②笠懸 ③不詳	4
合計		44

各窯の所在地は、笠懸古窯…笠懸村、秋間古窯…安中市、乗附古窯…高崎市、吉井古窯…吉井町、藤岡古窯…藤岡市、八ヶ峯古窯…大胡町、南比企古窯…境玉県である。

以上、時期的には7世紀代のものが数点と10世紀中葉のものが1点存在する以外、8世紀前半から中葉にかけての時期に比定できる。

これら住居址出土の須恵器44点(100%)を産地別にみると、笠懸古窯28点(64%)、乗附古窯6点(14%)、秋間古窯5点(11%)、吉井古窯1点(2%)、不明4点(9%)であった。また、不明とされた4点のうち1点は10世紀中葉の混入品であり、八ヶ峯古窯など第四紀以前の基盤地が推定される。この他の3点も、南比企古窯と推定される1点、さらに秋間古窯もしくは乗附古窯とされるもの1点、藤岡古窯もしくは乗附古窯であると考えられるもの1点である。

これらの須恵器を年代別にみると、7世紀から8世紀前半は乗附と秋間から供給されるが、8世紀前半から中葉になると笠懸製品が圧倒的な多数を占めてくることがいえる。また、器種別には秋間産は蓋が多く、他にも杯・台付長頸壺がみられる。また、乗附産は杯・鉢・蓋が、笠懸産は椀・杯・蓋がみられた。

利根川以東でこういった多数の産地から須恵器が供給された遺跡の例証は、今のところ分析例がないため確証できないが、少ないと考えられていることである。柳久保遺跡の奈良時代の集落が、多くの窯の須恵器を入手できたことは、律令制下で柳久保遺跡の集落が他の同時期の集落に比べ卓越した存在であったという特殊性を表している。想像を逞しくするならば律令制の初期段階に上毛野の中枢区域と呼応していたか、近接する「郡衙」的な機能も推定される上西原遺跡のような、この地域の中心的な施設に付随する集落であったことを要因が求められる。

4) 漆仕上土師器

IV群のH-22号住居址の須恵器杯(222)の内面に付着物が認められたため、国立歴史民族博物館鶴正春氏に分析をお願いした結果、漆による内面処理技法がなされていることが判明した。またその方法は、丁寧に調整した器表への高温硬化法による焼き付け漆との御教示を得た。

5) 各期土器の特徴と年代

I 群

I群の器種構成は壺・台付壺・甕・小甕・瓶・大鉢・小鉢・咲・高杯・器台・小形土器で構成される。この中でI群を特徴づける器種は台付甕・小鉢・器台・小形土器であり、本遺跡のII期まで器種の存続をみない。この中で台付甕はS字状口縁甕(1種)と単口縁甕(2種)の両者が存在し、成・整形ともそれぞれの流儀に則って製作されている。I群は田口1981による編年によれ

IV 成果と問題点

ば4世紀後半の位置付けがあたえられる。

II 群

II群の器種組成は壺・甕・小甕・瓶・大鉢・小鉢・杯・椀・壺・高杯で構成される。I期の特徴である器台・小鉢を欠落し、高杯・壺が器種構成の中で非常に高い割合を占めてくる。ちなみに高杯と壺のそれぞれが占める割合はH-1が64%・18%、H-2が89%・11%、H-3が33%・17%、H-4が50%・17%、H-5が42%・21%、H-6が56%・22%、H-8が24%・38%、H-9が43%・8%、H-10が21%・11%、H-12が67%・11%という比率である。このように他の器種との競合はみられず、統く時期とされる柏川村前田遺跡1号住居址や大胡町天神風呂遺跡11号住居址でも高杯や壺の割合は高いが他の器種も量的に多く、高杯と壺が突出した構成ではない。II期はH-9の土師器杯(46)が埼玉県舞舞台遺跡第4号住居址や群馬県境町三ツ木遺跡8号住居址、前橋市南田之口遺跡H-20号住居址の杯に類似するもので例示した3軒がTK-208もしくはON-46段階の須恵器との共伴が考えられており、住居構造や遺物組成からH-9より後出する。そうするとH-9はTK-208以前の須恵器であるTK-216の時期が当てられるため¹⁷⁾5世紀中葉をやや遡る時期に位置づけられる。

III 群

III群の器種構成は長胴甕・丸胴甕・小甕・瓶・鉢・杯・高杯・須恵器鉢で構成される。長胴甕は肉厚であり、いわゆる奈良時代の甕の胎土とは異なる。杯1種はいわゆる須恵器模倣杯であり2種は素縁口縁の杯であるがやや端部が直立する。杯5種は暗文土器であり飛鳥・藤原宮発掘調査報告IIの飛鳥第I期の坏Cと非常に共通する。飛鳥第I期の年代が7世紀第1四半世紀が当てられていることからIII群の年代は7世紀前半に位置づけられる。

IV 群

IV群は土師器が台付甕・甕・小甕・瓶・大鉢・杯で構成され須恵器は台付長頸甕・甕・椀・杯・蓋で構成される。甕はIII期のものと厚さや胎土をはじめ箇削りにも変化がみられる。杯は須恵器模倣の形態である鬼高的な杯は存在せず、3種の素縁口縁の端部が直立する深いものが主体を占める。須恵器杯は底部が箇調整されるもので僅かに回転糸切り調整もみられた。蓋は返りを持つものと持たないものがある。以上、土師器と須恵器の特徴からIV群の年代は8世紀初頭～中葉の所産と考えられる。

2 その他の遺物

1) 鉄器 (Fig. 143・144、PL. 75)

I期はH-25から鉄器が1点出土した。II期はH-3～6・8・14の6軒の住居から鉄器が出土し、鉄器の保有率が40%と高い数値を示している。この中でH-3から出土した鉄の刃先は関東地方の集落遺跡では埼玉県番清水遺跡、埼玉県本庄市東王十子遺跡¹⁸⁾から検出されているにすぎないものである。III期はH-18から刀子が出土している。IV期はH-20・22・28・34・35・40・

53・54・55から出土している。このなかでH-28出土の鉄鋸やH-40の鉄器は木質部の残存から両端に把手がつく大形品であり、注意を要する。

2) 玉類・土製品 (Fig. 139, PL. 73)

玉類はI期ではH-29から白玉(滑石)が1点みつかっている。II期はH-9から勾玉(滑石)⁽⁹⁾が6点検出された。これらの玉と類似するものが前橋市丸山遺跡5号住居址から1点出土している。時期・大きさ・形態・石材から同一作者による製品と考えられる。III期のH-15から有孔円盤状(滑石)の玉類が検出されている。土製品はII期の住居址にみられただけである。H-2・3・9・11・14・46である。土玉(504・509)はH-9・46から出土しており、H-9は6点の勾玉や規模からみて集落の中核をなす住居といえる。H-3から出土した土錘の形をした中空の土製品(『柳久保遺跡群I』)は類例がなく、用途・機能をめぐって今後解明しなければならない。このほかに多くの形態不詳なものがみつかっている。

3) 石器・軽石製品 (Fig. 139~142, PL. 73・74)

砥石はII期のH-9から1点(流紋岩)、III期のH-16から1点(流紋岩)、IV期のH-54から1点(流紋岩)が出土しており、他に表採で砥石(流紋岩)1点、筋砥石(粗粒安山岩)1点がある。紡錘車はII期のH-8から1点(軽石)・H-10から1点(軽石)・T-10から1点(かんらん岩)がみられ、IV期のH-20から1点(かんらん岩)・H-34から1点(流紋岩)がみられた。この他に表採で1点(かんらん岩)がみつかっている。このほかに軽石製品がII期のH-3・5・8・10と集中区(祭祀跡)、D-5から検出された。これらの軽石製品は、三角形状に研磨したもの(H-3・8)、不定形なもので一部に研磨痕がみられるものと、大きく2種類に分けることができる。これらの素材は大胡火碎流中の軽石によるものである。

また、IV期ではH-34から梢円形の礫の両端を凹ませた石製品(粗粒安山岩)が出土した。

4) 石製骨蔵器 (Fig. 138, PL. 72)

火葬骨を納骨した石製骨蔵器の身の部分がD-19に投げ込まれた状態で検出された。角閃石安山岩の転石を用いて上端部が整形される他は自然面を残している。納骨孔は正方形に彫り込まれ、蓋との合わせりは帯状の造り出しがみられる優品である。骨蔵器の所産時期はD-19から時期決定できる遺物がなかったため不明な部分を残すが、本遺跡にはIV期以降の遺物が殆ど検出されていないためIV期に近接した時期の所産と考えられる。なお、本形態は大里1958による分類の第1類Aに該当するものである。また、現在までに赤城山南麓地域を中心に相当数の石製骨蔵器が出土しているが未だ所属時期の決定に至っていない状況である。

3 集落構成と変遷

前節で遺構と遺物について検討を加えたが最後にそれらを総合して柳久保遺跡の集落変遷(Fig. 147)を追ってみたい。

I期の住居址10軒は舌状台地の南端から沖積地にかけて位置する。10軒の住居は規模・距離・

IV 成果と問題点

方位から2軒単位のまとまりが看取でき、大規模住居であるH-29・H-43は小形土器を組成に持つ点まで共通する。こういった視点から集落構成を考えるとI期は5軒単位の住居が2回にわたる建て替えが想定できる。当初つくられた家はH-29・25・31・39・44（I群古期）であり2回目にH-43・30・27・38・45（I群新期）に分離できる。すなわち29→43、25→27、31→30、39→38、44→43という変遷である。大形住居の特異性が小形土器の出土から指摘できる。

II期は住居址15軒、竪穴状造構・土坑・遺物集中区（祭祀跡）から構成され舌状台地の中央部に立地する。II群の集落分布は東群4軒と西群11軒+1軒（T-6）に分離できる。西群はI群と同様に規模・主軸・形態から6軒単位で2回にわたる建て替えが想定できる。すなわち4→10、2→3、5→8、1→11、6→12、47→T-6という建て替えであり古期と新期にわけられ、東群は6・13・14・46の4軒で構成され、土器分類からII群古期に位置づけられる。

III期は住居址5軒で、舌状台地の東斜面に位置しやや時間差はあるものの1時期の構成とみられる。

IV期は住居址23軒・掘立柱建物址25棟・井戸・土坑・溝から構成され再び南端の舌状台地から沖積地にかけて占地するようになる。住居址の分布は大きく3群に分けられる。東の4軒（H-48~51）をA群、北の7軒（H-20~24・42・52）をB群、南の11軒（H-26・28・32~37・40・53~55）をC群と便宜的に呼び、B・C群には形態・規模・方位から2~3軒単位の建て替えもみられる。同様に掘立柱建物址も3群に分けられ、住居址と同様にA群2棟（16・17）、B群5棟（B-1~3・12・23）、C群18棟（4~11・13~15・18~22・24・25）がそれぞれ同一棟方向もので重複したり、近接して2~3棟単位のまとまりが認められる。このように住居址と掘立柱建物址の組み合わせが1単位の所帯の施設といった見方ができる。また、井戸はI→2→3という変遷が考えられる。以上の様にA群が8世紀初頭に、B群が8世紀前半を中心として、C群が8世紀中葉にまとまりがみられそれぞれ建て替えをしながらA→B→C群という移動がみられる。

以上のように本遺跡の集落形成は食糧採集社会である旧石器時代・縄文時代は別として農耕社会にはいってからは、僅かに弥生時代後期の東北系統の1個体の土器が知られるだけで、古墳時代になってからである。まずI期には2時期の集落が本台地に形成される。2~3世代にわたって住まわれ、生業は発掘調査の所見とプラントオバール分析を通して谷地部分では水田耕作は行われていない。またI期の集落は4世紀後半であり次のII期の集落と断絶する。II期の集落も2回の建て替えがおこなわれる。古期は10軒で構成されたものが新期には6軒の集落構成となる。大形住居は特殊遺物が多く住居内施設も充実をみると集落の中核的存在として卓越する。竪穴状造構と呼んだものは「カマヤ」的な厨房施設であり、近年、前橋市荒砥地区でも萱野住宅団地遺跡や丸山遺跡などこの時期の集落が増加しているにもかかわらず検出されない。I期と同様に水田の検出ができないため水田耕作は行われていなかったと推定できる。このことは遠隔地に水田耕作を行っていたかあるいは畠作中心の生業がなされていたことと推定されるが鉄器の保

有率が40%と極めて高いことが指摘できる。II期は5世紀前半～中葉に比定できるため次のIII期との連続性はない。III期になると本台地に5軒の住居がみられる。またこの時期になると隣接する台地の中鶴谷遺跡にも集落が形成され、柳久保遺跡の北地点に5基、中鶴谷遺跡に1基の古墳の造営もなされる。また、本時期に至って台地周辺の谷地に開田がなされ水田耕作が行われた事がプラントオパール分析の結果から判明した。続くIV期とは年代的には若干開きがあるため連続性はないと思われるが他の時期よりも近接している。本台地に住居址23軒、掘立柱建物址25棟がみられ大きく3群に別れ少なくとも3回以上の住居の建て替えが想定できる。掘立柱建物址は出土遺物がないため時期は決定できないが、住居と同様な配置・分布を示すことから同時期と考えられ集落を形成する。また規模的にも小さく、その構造から山田水呑遺跡で分析されたように高床倉庫ではなく作業小屋・納屋的な用途が考えられよう。この時期には隣接する台地の下鶴谷遺跡や中鶴谷遺跡・頭無遺跡にも多くの集落が形成され、「郡衙」的な機能も推定される上西原遺跡と呼応をするかのように本地域の発展がみられる。中鶴谷遺跡で多数検出された「田部」の墨書き土器も8世紀後半に位置付けられ、このような地域性と上毛野氏の本拠地であるという視点から分析をせまる必要がある。柳久保遺跡の集落は8世紀の人々の居住を最後にその後の集落展開をみせない。しかし、中鶴谷遺跡には平安時代まで人々の生活がみられ、その住人が『古語拾遺』に掲載された「農耕祭祀」を執り行つたことと想像される。

註

- 1 真間式土器の型式内容や展開時期について、近年多くの研究者から異議が唱えられている。しかし、ここでは奈良時代の土器に対して相対編年の新型式名が用意されていないため、便宜的に使用した（坂口1986など）。
- 2 前橋市瑞氣遺跡群IIにおいて鬼高I・武期の住居址14軒うち5軒から間仕切り溝が確認された。住居址の規模は一辻5.5mを超える大形住居址にみられた。このように間仕切り溝は住居内空間を用途・機能的に使い分けるために造作されるものであるから、小規模な住居には付設されないと見える（木暮 誠ほか1984）。
- 3 張り出しについては鬼高期の張り出しピットが思い起こされるが、奈良時代住居址の張り出しと直線的な関連は考えられないといえる。ただ、藤岡市中道遺跡の7世紀代の住居址には付設された張り出しには石敷があり、特異な存在である。奈良時代以降の張り出しについては前橋市清里南部遺跡群・柿木遺跡・下東西遺跡・中島遺跡・芳賀東部田地遺跡・西大室遺跡群・富田遺跡群等が挙げられ枚挙に暇がない。
- 4 一般的に6～8世紀の住居址は掘り込みが深い。前橋市中道遺跡・柿木遺跡・芳賀東部田地遺跡群等を始め多くの遺跡で確認されている。これらが「古墳寒冷期」と呼応するか深度との関連上追及が必要と考える（坂口 豊1984「日本の先史・歴史時代の気候」自然 460号）。
- 5 弥生時代後期宮ノ台期の横浜市折本西原遺跡では貯蔵穴を囲んだ馬蹄形状施設を見いだせる。また、古墳時代前期でも八王子市神谷原I遺跡、伊勢崎東流通墳地遺跡などで同様に貯蔵穴を囲んだ馬蹄形状施設を見る。古墳時代後期では高崎市引間遺跡、堀ノ内遺跡群・八王子市北八王子西野遺跡、柏川村前田遺跡、小神明遺跡群などで貯蔵穴を囲むものと入り口施設に開通する2者が見いだせる。また、奈良時代は例が少ないので、柿木遺跡では貯蔵穴とは無関係である。このように弥生時代から古墳時代前期にかけて貯蔵穴との関連が認められるが、古墳時代後期においては貯蔵穴との関連を否定できないが、主に貯蔵穴とは別に付設されるようになる。設置される位置は南が圧倒的に多く、また東にも見られることから、入り口施設に付随するものと考えられる。馬蹄形状施設の中心に空く穴は板樋子の設置孔と思われる。

IV 成果と問題点

- 6 床下土坑に用いた粘土はおそらく底面に貼る粘土と関連しよう。西郷遺跡の鬼高窓住居址の粘土を底面に貼った床下土坑が初出例で盛行するのは奈良時代からとみられる。
- 7 舞台遺跡の土器器杯と須恵器について坂口一氏の御教示による。
- 8 坂本和俊氏の御教示による。本庄市史資料編に掲載されている。なお、古墳出土例は千葉県新皇塚古墳、河原塚古墳にある。
- 9 丸山遺跡の勾玉は西田健彦氏の御厚意で実見させていただいた。
- 10 大里仁一氏からは石製骨器について御教示をいただいた。また、貴重な文献についても提供いただいた。

参考文献

- 前原照子ほか 1985 「柳久保遺跡群Ⅰ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
折原洋一 1985 「柳久保遺跡群Ⅱ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
折原洋一 1986 「柳久保遺跡群Ⅲ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
千田幸生ほか 1987 「柳久保遺跡群Ⅳ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前原 豊ほか 1988 「柳久保遺跡群Ⅴ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
千田幸生 1988 「柳久保遺跡群Ⅵ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
遠藤和夫ほか 1986 「柳久保遺跡群」前橋市教育委員会
福田勝穂ほか 1987 「柳久保遺跡群Ⅱ」前橋市教育委員会
前原 豊ほか 1988 「柳久保遺跡群の発掘調査Ⅲ」前橋市教育委員会
木暮 誠ほか 1984 「猪崎遺跡群Ⅱ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
木暮 誠ほか 1980 「南田之口遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
高橋正男ほか 1987 「西堀遺跡」前橋市教育委員会
松田 猛 1984 「昭和58年度荒砥北郷遺跡群発掘調査概報」群馬県教育委員会
平田貴正 1984 「昭和59年度荒砥北郷遺跡群発掘調査概報」群馬県教育委員会
伊庭彰一 1986 「昭和60年度荒砥北郷遺跡群」群馬県教育委員会・荒砥北郷遺跡群発掘調査会
松田 猛 1985 「堤東遺跡」群馬県教育委員会
松田 猛ほか 1986 「上西原・向原・谷津」群馬県教育委員会
西田健彦 1987 「丸山・北原」群馬県教育委員会
小島純一 1982 「前田」群馬県柏川村教育委員会
山下成信 1981 「天神風呂遺跡」大胡町教育委員会
井上唯雄ほか 1985 「三ツ木遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団
坂塚恵子・田口一郎 1981 「元島名将軍塚古墳」高崎市教育委員会
松村恵二ほか 1977 「山田水呑遺跡」千葉県山田遺跡調査会・日本道路公団
奈良国文化財研究所 1978 「飛鳥・藤原京発掘調査報告Ⅱ」
大里仁一 1968 「群馬県における上代火葬墓」史学会報第7号
尾崎喜左雄・大里仁一 1956 「群馬県赤堀村多田山発見の火葬墓群」古代学研究15・16合併号
小久保 雄 1977 「弥生時代における大型住居址について」埼玉考古第17号
大江正行 1984 「群馬県における古代窯跡群の背景」群馬文化第199号
坂口 一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器の編年」群馬県史研究第24号
坂口 一 1986 「古墳時代後期の土器の編年」群馬文化第208号
坂口 一 1987 「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」研究紀要4 群馬県埋蔵文化財調査事業団

付 編

プラント・オパール分析による古代水田址の探査

杉山真二*

1. プラント・オパール分析法

①プラント・オパール¹⁾

イネ科植物には、スキ、ヨシ、タケ、ササなど多くの野草・雑草の他に、イネ、ヒエ、アワ、キビ、ムギなどの重要な栽培植物が含まれている。このイネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ、多量の珪酸(SiO_4)を吸収することで知られている。植物体内に吸収された珪酸は葉身中の特定の細胞の細胞壁に選択的に蓄積され、植物学的にはこれを「植物珪酸体」とよんでいる。植物珪酸体は、その主成分が化学的に安定な珪酸であるため、植物が枯死した後も土壤中に永く残留し、「プラント・オパール(Plant Opal)」と呼ばれる微化石となる。

このうち機動細胞珪酸体(葉身の強度を保ち、乾燥の著しい時に葉身を巻き込んで水分の蒸発散をおさえる作用をしていると思われる)に由来するプラント・オパールは、比較的大形(約50ミクロン)で植物種により固有の形状をもつてることから、これを用いて給源植物を同定することが可能である。

②プラント・オパール定量分析法の手順²⁾

100ccの試料円筒管(採上管)で採取された土壤試料を乾燥器で105°C、24時間絶乾させた後、重量を測定する。この重さを体積100ccで割って土の乾燥密度(仮比重)を求めておく。

つぎに、絶乾させた試料土から約1 g (1/10,000の精度で秤量)を無作為に抽出し、これにプラント・オパールと同じ成分・粒径(50ミクロン)を持ったガラスビーズを一定量混入させる。ガラスビーズの単位重量あたり個数はあらかじめ測定してあるので、試料土中に混入されたガラスビーズの個数は計算により求めることができる(約30万個)。

プラント・オパールと土粒子を分離し、プラント・オパールに付着した汚れを取り除いたり、ガラスビーズを均等に分散させるために、脱水処理、超音波処理、ストークス法処理が行われる。

こうした処理の後、サンプル瓶の中に残っているのは粒径20~100ミクロンの土粒子とプラント・オパール、それにガラスビーズである。このうち土粒子はそのままほとんどが結晶鉱物であるため、偏光顕微鏡で観察すると非晶質であるプラント・オパールやガラスビーズとは容易に識別できる。

検査時に、視野の中にあるプラント・オパールを同定し、その数をカウントしながら同時にガラスビーズの数もカウントする。この比率をとることにより、1 gの試料土中に含まれているプラント・オパール個数(単位:個/g)が算出される。この値に土の乾燥密度(仮比重)を掛け、試料1 ccあたりのプラント・オパール個数(単位:個/cc)が求められる。

③生産址(水田址、畑作址等)の探査³⁾

以上のようにして、各土層におけるイネのプラント・オパール密度を測定していくと、生産址が埋蔵されている層にピークが現れるのが通常である。

通常、イネのプラント・オパール密度が5,000個/cc以上の場合は、生産址(水田址)の可能性があると判断しているが、直上にさらに高密度の層があった場合は、その層からプラント・オパールが落ち込んだ危険性を考慮して慎重な判断をしている。また5,000個/cc以下の密度の場合には、直上にイネのプラント・オパールの見られない層があった場合でも、プラント・オパールの水平的流れ込みの可能性を考慮して慎重な判断をしている。

④植物体生産量の推定⁴⁾

植物体中に含まれる機動細胞珪酸体の密度は植物種により固有であり、各植物についての換算係数(機動

表1 各植物の換算係数(単位:10⁻³g)

植物名	葉身	全地上部	種実
イネ	0.51	2.94	1.83
シリヒエ	1.34	12.20	5.54
ヨシ	1.33	6.31	—
ゴキダケ	0.24	0.48	—
スキ	0.38	1.24	—

付 編

細胞珪酸体1個に対する植物体各部の乾燥重量)が求められている。

プランツ・オパール密度にこの換算係数を掛けることにより、試料土1cc中に供給された植物体量を推定することができる。

たとえばイネの場合、1ccの土壤中から1万個のイネ機動細胞プランツ・オパールが検出されれば面積10アール(1,000m²)換算で1cmの堆積期間中に、イネ地表部で約3t、イネ穂で約1t(ともに乾燥重量)の植物体が生産されたことが推定できる。

なおこの生産量の値は、収穫方法が穂刈りで行われ、イネの葉身がすべて水田内に残されたことを前提として求められている。従って、収穫が株刈りで行われ植物体の大部分が水田外に持ち出されていた場合や、堆肥などの形で稻わらが水田内に還元されていた場合は、その割合に応じて推定値は修正されなければならない。

イネの換算係数は、赤米など古い系統とされる日本種(Japonica)数品種から求められた。

⑤古環境の推定

イネ科植物の中で、特にヨシ(アシ)やマコモは低湿地など温潤な土壤条件の所に生育し、逆にススキやタケ・ササは比較的乾いた土壤条件を好み。

のことから、これらの植物の生産量とその変化をプランツ・オパール分析法で調べることにより、水分条件を中心とした当時の周辺の環境と、その推移を推定することが可能である。

2. 試 料

試料の採取は、1986年2月4日と5日の2日間にわたって行われた。

試料採取の時点では、すでに浅間Bの直下まで発掘調査が進められており、同時期の水田面が広範囲にわたって検出されていた。

調査地点は、発掘調査のために設定されていた20mメッシュ交点において任意に選定された、A～L地点である。試料は、土層断面の最上層から最下層まで各層ごとに、100ccの試料円筒管(採土管)ならびにボリ袋を用いて採取された。なおC地点は、溝状の造構と思われ、大きく攪乱を受けていたため調査地点から除外された。

地点数は11地点、採取試料数は158試料であるが、このうち浅間Bテフラ下部を中心とした60試料について分析を行った。

3. 分析結果

イネ、キビ族、ヨシ属、タケ亞科、ウシクサ族の機動細胞プランツ・オパール密度(試料1ccあたりプランツ・オパール個数)を表2に示した。

またA、B、D、J地点の4地点について、イネ、ヨシ、タケ亞科の植物体生産量(1cmの堆積期間中に面積10アールあたりで生産された植物体の乾燥重量)を推定し、図1にグラフで示した。柱状図左側のポイントは、最上面から1mごとのスケールである。

調査域内では、浅間Bなど4枚のテフラ(火山灰等)が確認されており、時間軸を決める重要な指標になると考えられた。そこで、各地点における稻作の開始時期と変遷を把握するため、これらのテフラで区切られた各土層におけるイネ機動細胞プランツ・オパールの出現状況を、表3に示した。

なお、これらのテフラの同定は、粒度や色、発泡の様子などから現場で決められたものであり、正確な同定については、科学的な分析の結果を待たなければならぬ。

4. 考 察

以下に、層位ごとに稻作の可能性について検討を行った。なお、今回報告された分析結果は、採取された試料の一部分であり、プランツ・オパールの出現傾向を連続的に検討することができないため、水田址の全体像を把握するには多少の困難があることを付け加えておく。

(1) 浅間Cテフラの下層

ここでは、イネのプランツ・オパールは全く検出されなかった。各地点ともヨシ属が卓越していることから、当時この周辺はヨシの繁茂する湿地であったものと推定される。

(2) FA(佛名山ニツ岳アッシュ)の下層

調査区域内でFA(?)が見られたのはB、E、K地点の3地点である。このうちE地点では、多量のイネ機動細胞プランツ・オパールが検出されたが、深度やその他の層との対応関係からみると、ここで見られたテフラはFAではなく、むしろFPではないかと思われる。

E地点では、イネのプランツ・オパールは検出されたものの、密度は3,000個/cc未満と低い値である。同地点でイネが生産されていた可能性は考えられるもの

の、上層からの落ち込みや水平的な流れ込みの可能性も考えられる。

B地点では、イネのプランツ・オバールは全く検出されなかった。

以上のことから、調査域内でFA(?)の降下以前にイネが栽培されていた可能性は考えにくい。

(3) FP(榛名山ニツ岳バミス)の下層

FPは、ほとんどの地点で、浅間B直下の土壤中に幅20cm前後にわたって散在していた。ここで対象とした試料は、FPの粒子が混じり込む下限の下に位置する土壤である。したがって、FPが降下した時期とは、ある程度の時間的な開きがあるものと思われる。

ここでは、A、B、D、F、L地点で多量のイネ機動細胞プランツ・オバールが検出された。したがって、これらの地点でイネが生産されていた可能性は高いと考えられる。上述したようにE地点のFAをFPと見てこれに加えると、これらは全て、台地の張り出し部に近接していることがわかる。

一方、G、I、K地点では、イネのプランツ・オバールは検出されたものの、密度は3,000個/cc未満と低い値である。これらの地点でイネが生産されていた可能性は考えられるものの、上層からの落ち込み、もしくは水平的な流れ込みの可能性も考えられる。

また、谷の中心部に近いH、J地点では、イネのプランツ・オバールは全く検出されなかった。

(4) 浅間Bテフラの下層

ここはすでに、発掘調査によって水田遺構が面的に検出されていたところである。分析の結果、調査を行った11地点のうち9地点で10,000個/ccを超える多量のイネ機動細胞プランツ・オバールが検出され、分析的にも同時期にここでイネが栽培されていたことが確認された。FP下層の時期には未開発であった谷中心部よりのG、J、X地点も、この時期には開田されて稲作が行われるようになったものと推定される。

一方、谷の中心部に近いH、I地点では、イネのプランツ・オバールは検出されたものの、密度5,000個/cc未満とやや低い値である。これらの地点でイネが生産されていた可能性は考えられるものの、上層からの落ち込み、もしくは水平的な流れ込みの可能性も考えられる。

(5) まとめ

以上のことから、同遺跡で稻作が開始されたのはFPの下層の時期からと考えられ、当時は台地の張り出し部を中心に水田耕作が行なわれていたものと推定

される。その後、浅間Bテフラの下層の時期には水田域が拡大され、調査区のほぼ全域で水田耕作が行なわれていたものと推定される。

参考文献

- 藤原宏志(1976)：プランツ・オバール分析による古代栽培植物の探索、考古学雑誌62：148-156
- 藤原宏志(1976)：プランツ・オバール分析法の基礎的研究Ⅰ—数種イネ科栽培植物の胚乳体標本と定量分析法一、考古学と自然科学9：15-29
- 藤原宏志・佐々木真(1978)：プランツ・オバール分析法の基礎的研究Ⅱ—イネ科(Oryza)植物における機動細胞胚乳体の形状一、考古学と自然科学11：9-20
- 藤原宏志(1979)：プランツ・オバール分析法の基礎的研究Ⅲ—福岡・板付遺跡(夜白式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(O. sativa L.)生産量の推定一、考古学と自然科学12：29-41
- 杉山真二・藤原宏志(1984)：プランツ・オバール分析による水田址の探査、那珂郡休道跡Ⅱ、福岡市埋蔵文化財調査報告書(福岡市教育委員会)第106集：5-9、11-14
- 藤原宏志・杉山真二(1984)：プランツ・オバール分析法の基礎的研究Ⅳ—プランツ・オバール分析による水田址の探査一、考古学と自然科学17：73-85

表2 プラント・オバール定量分析結果

試料1cc当たりプラント・オバール個数(前橋市、柳久保 A地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1-1	6,496	0	3,609	51,243	6,496
1-2	21,998	0	1,629	83,917	8,962
1-3	7,079	0	2,124	43,892	5,663
1-4	17,041	0	4,648	47,250	10,076
2-1	4,474	0	8,308	37,066	7,669
2-2	0	0	826	32,207	6,607
3	0	0	2,291	28,260	3,819
4-1	0	0	1,761	53,700	7,043
4-2	0	0	5,154	43,806	2,577
5	0	0	1,232	44,364	2,465
6	0	0	4,760	44,743	4,760
7	0	0	5,592	6,542	0

試料1cc当たりプラント・オバール個数(前橋市、柳久保 B地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1-1	9,511	0	2,195	37,314	3,658
1-2	16,112	0	2,148	58,092	8,593
1-3	18,906	0	2,836	32,140	9,453
1-4	16,288	0	5,429	43,435	9,049
2-1	0	0	4,202	9,245	3,362
2-2	0	0	7,653	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	5,032	7,715	2,684
5	0	0	1,994	12,631	665
6	0	0	6,870	35,111	10,686

試料1cc当たりプラント・オバール個数(前橋市、柳久保 D地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1	1,681	0	841	35,311	841
2	0	0	1,641	0	0
3	26,407	0	16,033	40,553	6,602
4-1	39,838	0	5,196	69,284	11,259
4-2	36,457	0	6,078	78,000	4,052
4-3	18,840	0	11,304	28,259	4,710
4-4	22,235	0	10,588	36,000	3,176
5	12,904	0	9,832	34,411	1,229
6-1	0	0	18,504	54,850	4,626
6-2	0	0	6,349	184,118	2,721

試料1cc当たりプラント・オバール個数(前橋市、柳久保 E地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1-1	16,943	0	21,401	51,720	3,567
1-3	18,528	0	6,176	50,291	882
3-1	0	0	11,062	55,309	1,844

試料1cc当たりプラント・オバール個数(前橋市、柳久保 F地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ族 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1	14,368	0	12,452	69,322	6,705
2-3	14,529	0	807	45,200	4,843
4-1	0	0	9,393	45,085	2,505
4-2	0	0	13,163	42,586	3,097

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 G 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1-1	7,364	0	2,455	29,458	3,273
3-1	1,518	0	12,904	26,566	759
4-1	2,413	0	6,434	49,060	2,413
6-1	0	0	29,914	37,093	7,179

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 H 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1	4,866	0	12,652	40,875	973
4-2	0	0	11,160	34,794	0
6	0	0	1,995	68,827	1,995

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 I 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1-1	2,626	0	6,128	58,649	1,751
3-1	1,904	0	3,173	5,077	0
5	0	0	3,839	34,551	1,919
7-1	0	0	8,251	69,762	2,250
9-1	0	0	8,137	18,599	3,487

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 J 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1	9,896	0	0	33,646	4,948
2	0	0	0	1,523	0
3	7,148	0	12,510	43,784	6,255
4-1	12,643	0	2,662	38,593	4,658
4-2	9,425	0	2,827	35,815	3,770
4-3	14,845	0	1,414	45,948	5,655
5	10,049	0	5,024	32,300	1,436
6-1	0	0	12,076	33,603	1,575
6-2	0	0	4,191	5,867	0
6-3	0	0	12,324	72,405	2,311
7-1	0	0	2,404	32,860	801
7-2	0	0	2,891	47,211	1,927
8-1	0	0	8,204	83,868	0
8-2	0	0	11,295	72,905	4,167
8-3	0	0	14,675	43,109	3,669
8-4	0	0	12,486	54,483	1,135
8-5	0	0	21,197	26,496	2,120

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 K 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
2-1	13,754	0	4,186	33,488	5,980
3	2,466	0	1,480	4,932	493
5 a	2,740	0	2,740	15,345	548
6-1	0	0	4,874	19,495	1,828

試料 1 cc 当りプラント・オバール個数 (前橋市、柳久保 L 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Miscan.)
1	15,935	0	5,099	26,133	0
2-1	5,742	0	2,552	11,485	0
4-1	0	0	9,708	4,643	422

表3 イネ機動細胞プラント・オパールの出現状況（前橋市、柳久保遺跡）

×……検出されず ○……5,000個/cc以上～10,000個/cc未満
 △……5,000個/cc未満 ◎……10,000個/cc以上
 —……該当するテフラが見られないところ（B直上は未分析）

地 点	B直上	B 下	FP 下	FA 下	C 下
A	—	○	○	—	×
B	—	○	○	×	×
D	△	○	○	—	×
E	—	○	—	○*	×
F	—	○	○	—	×
G	—	○	△	—	×
H	—	△	×	—	×
I	—	△	△	—	×
J	○	○	×	—	×
K	—	○	△	△	×
L	—	○	○	—	×

* FP下の可能性あり。

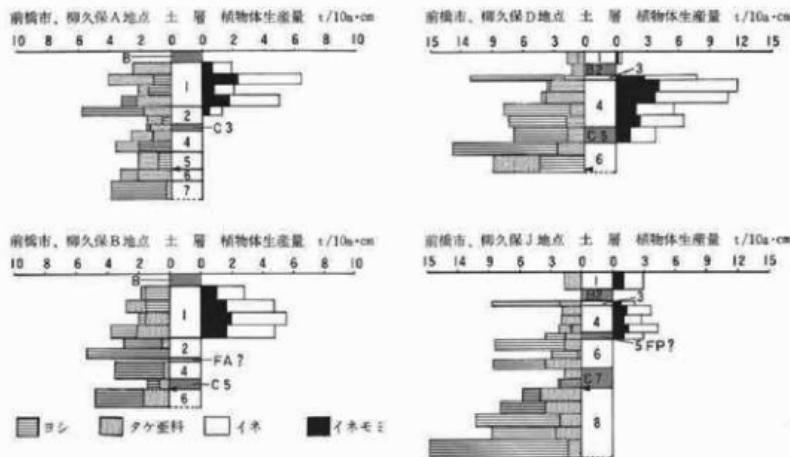


図1 植物体生産量の推定値(単位:t/10a·cm)

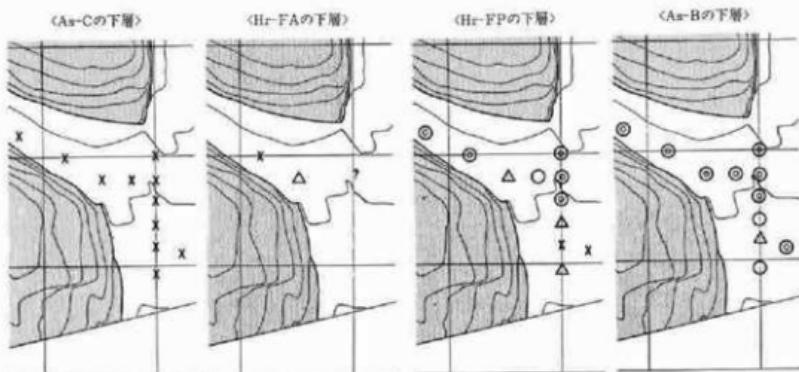
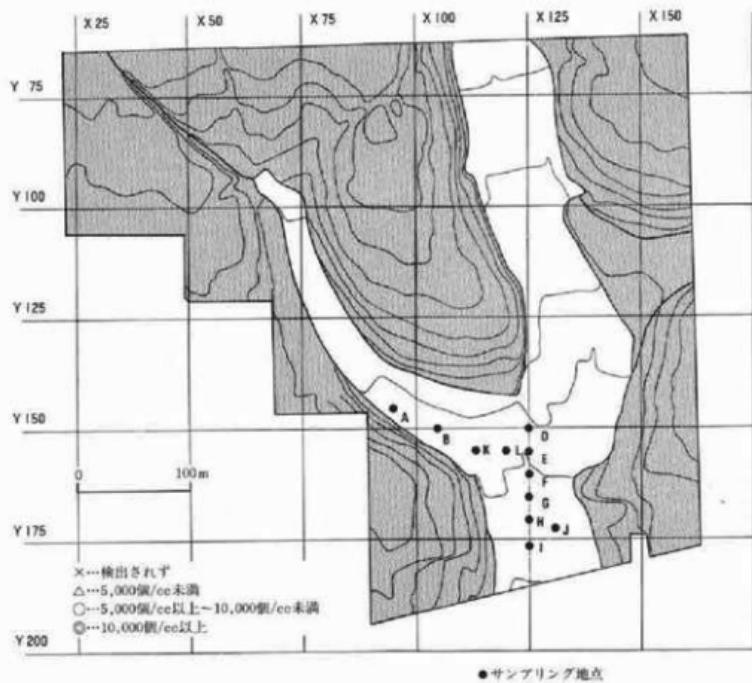


図2 イネ機動細胞プラント・オパールの出現状況

Tab. 5 遺構一覧

	I期(石田川)	II期(和泉)	III期(鬼高)	IV期(真間)	その他	合計
住居址(H)	25・27・29～31・38・ 39・43～45 (10軒)	1～6・8～14・ 46・47 (15軒)	15～19 (5軒)	20～24・26・28・ 32～37・40・42・ 48～65 (23軒)		53
堅穴状遺構(T)		1・3～6・8 ～10 (8基)		11・12 (2基)	7 (1基)	11
掘立柱遺物址(B)				1～25 (25基)		25
集中区(祭祀跡)		1 (1ヶ所)				1
土坑(D)		4・5 (2基)	16 (1基)	15・18～20・23・28・ 60 (7基)	6～13・19・21・22・ 25・30・32・37・39・ 43～54・62・63 (30基)	40
井戸(I)				2～6 (5基)	1 (1基)	6
溝(W)				1・2・7 (3条)	3・4～6・8・9 (6条)	9
地割れ(X)					1～9 (9ヶ所)	9
落ち込み(O)					1～10 (10ヶ所)	10
合計	10	26	6	65	57	164

Tab. 6 住居址一覧

名 称	所在グリッド		形態分類 群・種・個	平出形 南北・東西・深さ	幅 傾 (m)	主軸 傾斜 (m)	面積 (m²) 印記	特 殊 遺 物	備 考
	X 軸	Y 軸							
H-1	X 88～89	Y 108～109	II	II・B・2 正 方 形	5.64・6.08・0.36	N- 84°E	29.1 O		
2	X 87～88	Y 103～104	II	II・A・2 正 方 形	3.60・4.04・0.26	N- 46°E	13.5 O	土製品1	
3	X 91～92	Y 106～107	II	II・B・2 正 方 形	3.40・4.11・0.27	N- 68°E	13.5 O	鐵製品2、土製品2、磁石製品2	
4	X 83～85	Y 101～103	II	II・B・2 長 方 形	4.08・5.59・0.36	N- 38°E	22.0 O	鐵製品1、石製品、1種石製品1	
5	X 90～93	Y 109～102	II	II・A・1 正 方 形	6.27・6.59・0.26	N- 47°E	38.3 O	鐵製品3	
6	X 100～101	Y 95～97	II	II・A・2 正 方 形	5.37・5.34・0.22	N- 36°E	27.7 O	鐵製品1	
7	—	—							T-10に名称変更
8	X 95～98	Y 106～108	II	II・A・1 正 方 形	6.39・7.0・0.22	N- 29°E	46.9 O	鐵製品3、磁石製品4	
9	X 93～95	Y 104～106	II	II・A・1 正 方 形	8.20・8.84・0.74	N- 80°E	69.5 O	土玉1、磁石1、丸玉5	
10	X 91～93	Y 96～98	II	II・B・2 長 方 形	4.48・5.66・0.20	N- 70°E	23.2 O	鐵製品1、磁石製品1	

名 称	所 在 ダ リ ク フ		時 期	形態分類 群・類・種	平 面 形	規 模 (m)	主 軸	面積 (m ²)	面積 (m ²)	特 権 道 物	備 考
	X 軸	Y 軸									
11 X 93~95 Y 109~111	II	II; B; 2	長 方 形	5.26 6.32 0.15	N- 78° E	31.5	O	土製品 1			
12 X 100~102 Y 112~113	II	II; A; 1	正 方 形	5.30 5.20 0.51	N- 110° E	26.6	O	粗石製品			
13 X 102~103 Y 96~98	II	II; A; 2	正 方 形	3.88 4.36 0.35	N- 79° E	15.8	O				
14 X 106~108 Y 99~101	II	II; A; 1	正 方 形	6.42 6.28 0.33	N- 68° E	38.7	O	鐵製品 1、土製品 2			
15 X 111~112 Y 98~99	III	III; A; 2	正 方 形	4.48 4.25 0.48	N- 103° W	17.1	O	石製品 1			
16 X 113~115 Y 102~103	III	III; B; 2a	複形長方形	4.00 4.94 0.78	N- 105° W	18.0	O	磁石 1			
17 X 106~107 Y 91~93	III	III; A; 2	正 方 形	4.66 4.24 0.13	N- 9° W	18.2	O				
18 X 108~110 Y 90~91	III	III; A; 1	正 方 形	6.00 5.80 0.14	N- 9° W	32.8	O	鐵製品 2			
19 X 95~96 Y 111~112	III	III; A; 2	正 方 形	3.49 2.45 0.15	N- 101° W	7.7	O				
20 X 115~116 Y 125~126	IV	IV; B; 2a	複形長方形	4.03 4.98 0.62	N- 83° E	19.4	O	鐵製品 4、防錆車 1			
21 X 117~118 Y 123~124	IV	IV; A; 2	正 方 形	3.46 3.77 0.45	N- 73° E	11.8	O				
22 X 131~132 Y 124~125	II	II; B; 2a	複形長方形	4.65 3.08 0.85	N- 79° E	32.6	O	鐵製品 3			
23 X 122~123 Y 126~127	IV	IV; B; 2a	複形長方形	4.05 2.90 0.62	N- 90° E	19.4	O				
24 X 115~116 Y 129~130	IV	IV; A; 2	正 方 形	3.98 4.17 0.92	N- 78° E	13.2	O				
25 X 119~121 Y 135~136	I	I; A; 1	正 方 形	4.95 4.55 0.65	N- 75° E	29.9	O	鐵製品 1			
26 X 119~121 Y 135~136	IV	IV; B; 2a	複形長方形	2.66 3.30 0.60	N- 72° E	8.2	O				
27 X 122~123 Y 137~138	I	I; B; 2	長 方 形	4.02 5.10 0.95	N- 84° E	19.1	O				
28 X 122~123 Y 138~139	IV	IV; B; 2a	複形長方形	3.38 4.75 0.55	N- 90° E	15.1	O	鐵製品 1			
29 X 139~142 Y 138~140	I	I; A; 1	正 方 形	7.10 7.15 0.80	N- 78° E	46.1	O	四玉(滑石) 1			
30 X 118~119 Y 138~139	I	I; A; 2	正 方 形	3.32 3.35 0.65	N- 82° E	9.8	O				
31 X 116~117 X 139	I	I; A; 2	正 方 形	3.00 3.10 0.35	N- 88° E	8.5	O				
32 X 114~115 Y 137~138	IV	IV; B; 2a	複形長方形	3.20 4.15 0.67	N- 81° E	12.1	O				
33 X 114~115 Y 139~140	IV	IV; B; 2a	複形長方形	2.90 3.88 0.55	N- 9° W	11.0	O				
34 X 114~116 Y 140~141	IV	IV; B; 2a	複形長方形	4.35 5.92 0.65	N- 90° E	34.4	O	鐵製品 3、防錆車 1、粗石製品 1			
35 Y 117~118 Y 139~141	IV	IV; B; 2a	複形長方形	4.54 5.58 0.75	N- 81° E	33.5	O	鐵製品 1			
36 X 119~120 Y 140	IV	IV; A; 2	正 方 形	2.45 2.82 0.65	N- 84° E	6.4	O				
37 X 119~120 Y 141~142	IV	IV; A; 2	正 方 形	2.73 2.63 0.52	N- 68° E	6.8	O				
38 X 116~117 Y 142~144	I	I; A; 1	正 方 形	4.92 5.57 0.28	N- 68° E	26.2	O				
39 X 118~120 Y 141~143	I	I; A; 2	正 方 形	4.75 5.43 0.40	N- 68° E	25.1	O				
40 X 114~115 Y 140~141	IV	IV; D; 2a	複形長方形 の張り出し	4.90 4.60 0.70	N- 86° E	20.0	O	鐵製品 3			
41 ——											I-2に名物変更

名 称	所 在 グ リ ッ ド		時 期	形態分類		規 模 (m)		主 軸	面積 (m ²)	特 殿 遺 物	備 考
	X 軸	Y 軸		斜傾傾	平 面 形	南北	東西				
42	X124	Y130・131	IV	IV: B: 2a	楕円長方形	2.67	—	0.60	N- 1°E	○	
43	X118・119	Y144～146	IV	IV: A: 1	正 方 形	7.24	7.04	0.45	N- 94°E	47.8	?
44	X116～118	Y147～149	I	I: B: 2	長 方 形	3.98	4.29	—	N- 68°E	22.3	?
45	X119～121	Y147～149	I	—	—	—	—	—	—	?	
46	X112・113	Y 93～95	II	II: A: 1	正 方 形	5.30	5.25	0.45	N- 89°E	25.9	○ 土製品1
47	X 98～99	Y133	II	II: B: 2	長 方 形	2.70	3.74	0.10	N- 72°E	9.4	○
48	X 97～98	Y129・130	IV	IV: A: 2	正 方 形	3.86	4.03	0.45	N- 59°E	11.1	○
49	X103・104	Y132・133	IV	IV: A: 2	正 方 形	3.10	3.40	0.80	N- 69°E	10.6	○
50	X101・102	Y134・135	IV	IV: A: 2	正 方 形	3.10	3.60	0.60	N- 66°E	10.5	○
51	X105・106	Y134・135	IV	IV: B: 2b	楕円長方形	2.55	3.20	0.75	N- 71°E	8.5	○
52	X110・111	Y129・130	IV	IV: A: 2	正 方 形	3.50	4.00	0.79	N- 87°E	14.0	○
53	X109・110	Y137・138	IV	IV: A: 2	正 方 形	3.90	4.26	0.85	N- 3°W	13.6	○ 鉄製品1
54	X113・114	Y136・137	IV	—	不 整 形	3.30	—	0.65	N- 83°E	14.5	○ 鉄製品3、鐵石1
55	X111・113	Y141・142	IV	IV: D: 1b	楕円長方形 の張り出し	5.15	7.90	0.80	N- 87°E	34.5	○ 鉄製品6

Tab. 7 壓穴状遺構一覧

名 称	所 在 グ リ ッ ド		時 期	平面形		規 模 (m)		主 軸	面積 (m ²)	特 殿 遺 物	備 考
	X 軸	Y 軸		南北	東西	幅					
T-1	X102	Y 91～92	II	長 方 形	2.60	2.20	N- 0°	—	5.6	○	
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
3	X102・103	Y 99	II	伊址のみ	—	—	—	—	—	○	上部擾乱。
4	X101	Y103・104	II	伊址のみ	—	—	—	—	—	○	?
5	X102・103	Y110・111	II	長 方 形	1.85	2.48	N- 5°W	4.3	○		
6	X101・102	Y117・118	II	長 方 形	2.80	3.95	N- 46°W	10.5			
7	X107・108	Y 89	不明	長 方 形	1.87	3.28	N- 7°W	5.8			床面堅硬。
8	X105	Y 99	II	不 整 形	—	—	—	—	—	○	上部擾乱。
9	X109	Y103	II	長 方 形	2.37	1.60	N- 23°W	3.5	○		
10	X 99	Y108	II	伊址のみ	—	—	—	—	—	○ 紡錐車	旧名称H-7。
11	X118・119	Y141・142	I	不 整 形	3.83	2.46	N- 3°E	5.4	○		
12	X118	Y142・143	IV	三 角 形	1.65	2.75	N- 2°E	3.9			底面に地割れ痕。

Tab. 8 挖立柱建物址一覧

名 称	所在グリッド		時期	棟 方 向		規 模(m)		主 軸	面積(m ²)	間 数	
	X 軸	Y 軸		東西	南北	南北	東西			桁	梁
B-1	X114~116	Y122~123	IV	○		4.0	4.8	N-84°-E	18.7	3	2
2	X118~119	Y121~122	IV		○	3.6	3.1	N-8°-W	11.2	2	2
3	X119~120	Y123~124	IV		○	4.0	3.1	N-2°-W	12.1	2	2
4	X121	Y131~132	IV	○		2.3	2.8	N-81°-E	6.7	2	2
5	X115~116	Y133~134	IV	○		3.6	2.2	N-79°-E	7.9	2	2
6	X119~121	Y134~135	IV	○		3.3	5.3	N-7°-W	17.5	3	2
7	X121~122	Y134~135	IV		○	3.6	2.8	N-10°-W	9.5	2	2
8	X115~116	Y136~137	IV		○	4.1	3.7	N-5°-W	15.2	2	2
9	X115~116	Y137~138	IV		○	4.5	3.2	N-84°-E	14.4	2	2
10	X117~119	Y136~137	IV	○		3.8	5.2	N-77°-E	19.2	2	2
11	X117~118	Y136~138	IV	○		2.9	5.9	N-74°-E	17.1	4	2
12	X112~113	Y123~124	IV		○	4.4	2.8	N-8°-W	12.3	2	1
13	X113~114	Y133~134	IV	○		2.3	2.8	N-78°-E	6.4	2	1
14	X114~115	Y139~140	IV		○	4.3	3.2	N-12°-W	(推13.8)	2	2
15	X114~115	Y139~140	IV	○		3.1	3.8	N-12°-W	(推12.2)	2	2
16	X106~107	Y131~132	IV		○	3.3	3.0	N-5°-W	9.9	2	2
17	X103~104	Y126~127	IV		○	3.4	2.7	N-9°-W	9.2	2	2
18	X110~111	Y139~140	IV		○	4.4	3.6	N-9°-W	15.8	2	2
19	X110~111	Y139~138	IV	○		3.0	4.0	N-84°-E	(推12.0)	2	2
20	X111~112	Y139~140	IV		○	4.9	3.0	N-7°-W	14.7	2	2
21	X113~114	Y136~137	IV		○	4.2	5.5	N-80°-E	23.1	3	2
22	X115~116	Y122~123	IV	○		3.0	4.7	N-86°-W	(推13.5)	3	2
23	X111~112	Y137~139	IV		○	5.9	4.0	N-8°-W	23.6	2	2
24	X111~113	Y143~144	IV	○		3.5	7.0	N-88°-E	24.5	3	2
25	X111~112	Y137~138	IV		○	3.9	3.4	N-16°-W	13.3	2	2

Tab. 9 I期遺構の遺物組成

遺物名	固 手 し た 土 器												破 片 数			特殊遺物																									
	直 A	付 B	彫 C	小 彫 D		輪 E	大 輪 F	小 磨 G	短 H	高 J	器 K	公 L	計 計	土 破 片 器 類 類	彫 器 類 類	計 計	土 石 製 品	鐵 石 製 品	鐵 製 品																						
				1a	1b	1c	1d	2a	2b	2c	1	2	3	4	5	1	2	3	1																						
H-26	2							1			1	2				2	8	149		149																					
H-27				1	4			1			1	1				1	10	234	5	239																					
H-29	1	2			1	1		3	2		1	1	1	1	1	2	16	1,831	4	1,835																					
H-30	2		1	1		1			1	2						1	9	149	12	161																					
H-31	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1							13	634	3	627																					
H-38	1	1	1						1								4	86	2	88																					
H-39	1	2	1	1	1	4	1	3	2	1	2	3	1	1	1	24	595	3	598																						
H-43	1					2			1	1						3	10	153		153																					
H-44	2	1	1	2	1	1				2							10	284		284																					
H-45		2			2												4	46		46																					
計	2	2	2	6	3	5	8	2	2	1	4	6	1	16	1	1	4	3	1	2	1	4	7	3	2	4	1	1	5	1	8	2	2	5	112	4,151	29	4,180	1		1

Tab. 10 1群土壤共伴關係頻度表

Tab.11 II期遺構の遺物組成

遺構名	開示した土器												破片数			特殊遺物							
	直	便	小盤	盤	大盤	小 鉢	杯 筒形	堆	蓋	計	土石 製品	骨 角 貝 製品				土石 製品	骨 角 貝 製品						
	A	C	D	E	F	G	I	J	計	土 器 数	破 片 数	計	土 器 数	破 片 数	計	土石 製品	骨 角 貝 製品						
I-2	1	2	3	4	5	1	2	1	la 15a 2a 25a 3	1	3	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
H-1									1		3		3	1	3	5	11	(260)	260				
H-2															2	1	2	3	9	(90)	90	1	
H-3			1	2			1								1	1	6	(210)	210	1	2	2	
H-4	1		1	1	1				1		1			2	1	1	1	12	(325)	325	1	1	1
H-5	1	1	2	1	1	1			1		1			2	4		4	19	(577)	577		3	
H-6			1	1										1	1	1	3	9	346	346		1	
H-8	1		3				1	1	1	1	1			5	3	1	1	20	605	605	1	3	1
H-9	2		3	3	4		1	2	2	2	1			1	5	1	1	8	37	2,034	2,034	1	6
H-10	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	1			1	1	1	3	19	593	593	1	1	
H-11			1	1					1						2	1		6	206	206	1		
H-12						1		1						1	2	1	3	9	179	179	1		
H-13			2											1		1	4	214	214				
H-14			2	1				1		1				3		1	9	968	968	2	1		
H-16	1			1	1		1	1	1	1	1			1	2		12	590	590	1			
H-47								1									1	34	34				
T-1																		83	83				
T-3																	1	59	59				
T-4																		10	10				
T-5																		19	19				
T-6																		8	8				
T-8																		44	44				
T-9																		(227)	227				
T-10								1							1	1	1	4	175	175	1		
D-4																	2	3	71	71			
D-5	1			1	1												3	146	146		1		
祭祀跡			1				1							4	2	1	2	2	15	(129)	129	1	
計	5	1	3	2	5	13	12	11	3	1	1	5	1	3	1	1	13	26	11	7	1	9	9

II- ()については遺物台帳に属性記録を作成した破片数。この他に複数もあり。

Tab. 12 II群土器共伴関係頻度表

区 分	II 群																													
	土 部								器 部																					
	壺 A	甌 C	小鉢 D	瓶 E	大鉢 F	小盤 G	杯・椀 H	堆 I	高杯 J																					
	1	2	1	2	3	4	1	2	1	la	1b	2a	2b	3	1	2	3	1	2	3a	3b	3c	3d	4	5	6	7	8		
II 土	壺 A	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	甌 C	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	小鉢 D	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	瓶 E	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	大鉢 F	4	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○		
	小盤 G	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	杯・椀 H	1a	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	1b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
II 器	堆 I	2a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2b	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高杯 J	1	○	○	○	○	●	●	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○
	2	○	○	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	3	○	○	○	○	●	●	○	○	●	○	●	○	●	○	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

Tab.13 III期遺構の遺物組成

遺構名	回示した土器															破片数			特殊遺物								
	土器															個別割	計	土器									
	裏C		小形鉢D		瓶E		小形鉢G		杯H					高杯J		鋸O		裏C									
	1	2	3	1	2	地	1	2	3	la	lb	lc	ld	2	3	4	5	1	1	2							
H-15	7	1	1	1	2	1	1	1	1	1								16	216		216	1					
H-16		1	2	2	1			1	1	1								10	119		119	1					
H-17	5	4	1	1	1	1	1			3	1	3		1	1	1	1	23	260		260						
H-18			1		2				2	4	1	2	1	1	1			14	293		293	2					
H-19									2	1								3	24		24						
D-16									3									3	10		10						
計	5	11	3	2	4	4	5	1	1	1	2	6	10	2	4	2	1	2	1	1	1	69	922		922	2	2

Tab.14 III群土器共伴関係頻度表

区分	III	III群																		個別割	
		土器																			
		裏C		小形鉢D		瓶E		小形鉢G		杯H					高杯J		鋸O				
		1	2	3	1	2	1	1	2	3	la	lb	lc	ld	2	3	4	5	1	1	2
III群	土	裏C	1		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	小形鉢	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	瓶	E	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	小形鉢	G	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		la			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		1b			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	杯	lc	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		1d		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		4			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高杯	J	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	鋸O	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

Tab.15 IV期遺構の遺物組成

遺構名	固 定 し た 土 壁												破 片 数			特殊遺物			
	土 壁 部						頂 棚 部						計	土 壁 部	頂 棚 部	計	土 石 製 品	鐵 石 製 品	灰 砂 製 品
	B	C	D	E	F	H	M	N	P	Q	R								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12							
H-29	1					1	1	1	1	1	1	1	9	215	67	282	1	4	
H-31													2	79	17	96			
H-22	1			2	3	2	1	1		3	3	2	25	359	33	393		3	
H-23													3	48	4	52			
H-24													3	34	1	35			
H-26	1												2	3	51	4	55		
H-28	1												1	2	203	16	219		
H-32													2	508	7	515			
H-33	2												6	368	6	374			
H-34	1			2	1								6	927	19	946	1	1	
H-35	1			2	1								14	3,236	83	3,319		1	
H-36													1	111		111			
H-37													2	144	1	145			
H-39	2		1	2	2	4							12	14	566	3	569	3	
H-42							2	1					3						
H-45	1		2	3	3								14	60		60			
H-49	3			3									4	129		129			
H-50				3	3								2	28		28			
H-51	1			1									2	280	1	281			
H-52								1					1	138	3	141			
H-53													6	162	6	168		1	
H-54													1	4	157	7	164	1	1
H-55				1	2	1							1	9	1,278	34	1,412		3
D-18													1	1	127		127		
I-2	2		5	2	1	1		2		1	1	1	17	1,481	26	1,567			
I-3				1	1								2	35	6	41			
I-6													1	3	2	5			
T-11	1		1										3	190	1	191			
X-6					2								2	14		14			
計	1	6	7	2	1	3	1	2	1	2	9	6	934	9	1,222	51	1,211	1	1
													163	10,831	347	11,178	0	3	
																	1	20	

Tab.16 IV群土器共伴關係頻度表

Tab. 17 土器観察表

60・61E2 桜久保遺跡 出土遺物観察表

総固 No.	遺構名	器種	分類	現存	口径 (cm)	脚高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No.	登録No.	備考
									口縁・胴部	底部			
1	H-6	高杯	II J 2	杯部残	19.9		a 黒留母	にぼい橙色	撫で		7	33,74,156,165	
2	#	高杯	II J	杯部残	20.7		a 白色鉢物	橙色	撫で→荒削り		—	4,47	
3	#	高杯	II J	杯部残	19.2		a	灰白色	撫で		9	62,10,31,56,26, 30,29,29	
4	#	高杯	II J	脚部残			a	にぼい橙色	撫で		1	105,116,122,120, 128	
5	#	高杯	II J	脚部完存			a	#	撫で		2	6,8	
6	#	小形鉢	II D 1	6	11.7		a	赤褐色	撫で		15	177,49,194,193, 48	
7	#	壺	II 15d	6	9.5		a	浅黄色	撫で		10	41,42	
8	#	壺	II 13d	口縁部残	11.5	14.5	a	にぼい橙色	撫で	荒削り	3	75,73,70,75,183, 180,181,180,168, 74,66,78	
9	#	壺	II C 4	6	18.8		b 黒留母	明赤褐色	刷毛目→撫で		8	260,203,197,168, 15,159,169,170	
10	H-8	壺	II I	6			a	橙色	撫で		24	147,518,525	
11	#	壺	II 13a	6	9.6	9.3	b 赤色鉢物	にぼい橙色	撫で	荒削り	6	488,491,940,212, 582,584,576,577	
12	#	壺	II I	6			a	橙色	撫で	荒削り	29	31,32	
13	#	小形鉢	II G 2b	ほぼ完存	8.3	6.4	b 白色鉢物	にぼい橙色	撫で		2	150	
14	#	小形鉢	II G 2a	6	9.6	7.1	b 石英	#	荒削り	荒削り	21	164,434,432,492, 442,182,590,458	
15	#	壺	II I	口縁欠			b	橙色	撫で	荒削り	26	196	
16	#	杯・碗	II H 2	6	12.0	5.8	a 白色鉢物	にぼい橙色	撫で	荒削り	15	10	
17	#	杯・碗	II H 1	6	13.4	6.4	a 黒色鉢物	赤褐色	撫で		18	545,544,532,531, 533	
18	#	壺	II I 5	完存	10.4	13.5	b	橙色	撫で→捺文、刷毛目→荒削り	荒削り	1	546	
19	#	壺	II I	6	13.9		a 赤色鉢物	にぼい橙色	撫で		19	162,157,156	
20	—												
21	H-8	壺	II A 1	口縁部残	17.0		b 黒色鉢物	#	撫で		27	15,99,97,75	
22	#	壺	II C 3	6	17.5		b 白色鉢物	橙色	撫で		17	544,334,338,575, 338,332,409,353	
23	#	壺	II C 3	6	16.8		b #	#	撫で		16	567,119,279,270, 31	
24	#	壺	II C 3	6	18.1		b #	#	撫で		25	149,438,342	
25	#	高杯	II J 1	杯部残	18.7		b	赤褐色	撫で→荒削り	荒削り	7	446,447,448	
26	#	高杯	II J 2	杯部残	21.0		b 黑色鉢物	赤褐色	撫で	荒削り	22	41	
27	#	高杯	II J 1	6	19.4		a	橙色	撫で	荒削り	8	4,32,500,281	
28	#	高杯	II J 1	6	21.1		b 黑色鉢物	にぼい黄褐色	撫で	荒削り	9	293	
29	#	高杯	II J	脚部残			c 白色鉢物	橙色	撫で		13	591	
30	#	壺	II 12	6	9.3	8.9	a 黑色鉢物	#	刷毛目、撫で	荒削り	4	407,468	

標番 No.	遺傳名	器 種	形態分類	現存	口径 (cm)	盤高 (cm)	胎 土	色 調	成・整形方法		個体 別No.	登 録 No.	備 考	
									口縁・脚部	底 部				
31	H-8	壺	II I	脚部分		b		にぼい赤褐色 無地、荒削り	荒削り	19	163,158,402,401			
32	H-9	壺	II I 4	ほぼ完存	8.8	8.5	b	にぼい橙色 無地(刷毛目)	荒削り	6	405,411			
33	#	壺	II I 3a	%	8.9	11.0	b	淡赤褐色 無地(刷毛目)	荒削り	100	1086,1015,1077, 1073,1166,1096			
34	#	壺	II 16	ほぼ完存	9.3	9.7	b 白色鉢物	赤褐色 無地	荒削り	4	78		焼成跡穿孔	
35	#	小形鉢	II G 2a	ほぼ完存	10.2	6.1	a 黒 霧母	にぼい橙色 無地	荒削り		1489			
36	#	杯・碗	II H 1	%	12.4	5.5	b	にぼい赤褐色 無地	荒削り	22	835,834,838			
37	#	小形鉢	II G 2a	ほぼ完存	9.8	6.8	b 黒 霧母	淡赤褐色 無地	荒削り	2	1388,702			
38	#	杯・碗	II H 1	%	14.0	5.9	b	にぼい橙色 無地	荒削り	3	912			
39	#	小形壺	II D 1	ほぼ完存	14.0	4.6	a 白色鉢物	#	無地	25	491,250			
40	#	小形壺	II D 1	ほぼ完存	10.5	7.2	b 黒 霧母	橙色	刷毛目、無地	荒削り	1	79		
41	#	小形壺	II D 1	%	12.8	5.4	a	#	無地	10	954,1014			
42	#	小形鉢	II G 1a	%	12.0	6.7	a	赤褐色 無地	荒削り	28	405			
43	#	小形壺	II D	口縁部分	9.9	a		橙色 無地	無地	89	122,349,120			
44	#	甕	II C	底部のみ		b	#	刷毛目	荒削り	86	405,1018,805,802			
45	#	甕	II C	#		b	#		無地	67	273,274			
46	#	杯・碗	II H 3	%	13.8	4.6	a	にぼい橙色	荒削り	11	135,165,1112, 1094		插入?	
47	#	高 杯	II J 5	%	20.0	b	#	無地、荒削り		14	6,897,769			
48	#	甕	II C 4	%	16.8	b	白色鉢物	橙色	無地	97	333,757,1684			
49	#	甕	II C 4		17.7	c		無地		81	142,153,203			
50	#	甕	II C 4	口縁部分	19.1	b	にぼい橙色	無地		8	405			
51	#	甕	II C	%	19.6	b	にぼい橙色	無地		27	405,419			
52	#	高 杯	II J 7	%	20.0	b	橙色	無地、荒削り		29	182,181,184,180, 185		透孔(2×2)	
53	#	甕	II C 1	%	13.9	14.2	b	赤褐色	荒削り	7	533,128,999, 1049,1474,1424, 1599,998			
54	#	甕	II C 1	口縁部分	11.4	15.0	b 黒 霧母	橙色	刷毛目、荒削り	16	140			
55	#	高 杯	II J 1	杯部分		a 白色鉢物	にぼい橙色	刷毛目	荒削り	12	390,465,381,380			
56	#	高 杯	II J 1	完存	20.0	a	にぼい黄褐色 無地(荒削り)			19	56,46,702,57			
57	#	高 杯	II J	脚部分		b 黒 霧母	にぼい橙色	無地		36	87			
58	#	高 杯	II J	脚部分		a	#	荒削り		30	1324			
59														
60	H-9	高 杯	II J	脚部分		b 黑 霾母	にぼい橙色	無地		33	465			
61	#	高 杯	II J	脚部分	20.8	b	にぼい橙色	無地		18	1667,515,503, 1384,516,501			

部品 No	造形名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No	登録No	備考
									口縁・鋸部	底部			
62	H-9	高杯	II J 1	杯部完存	20.8	b	にぼい橙色	荒削り			18	1667, 515, 593, 1384, 516, 501	
63	#	高杯	II J	脚部少		a	白色質物	#	無で		48	497, 170, 217, 216	
64	#	高杯	II J	脚部少		a	#	無で	荒削り	21	644		
65	#	高杯	II J 1	杯部少	20.9	b 黒質母	#	無で(荒削り)			17	620, 1370, 372, 612, 618, 629, 1371	
66	#	高杯	II J	脚部少		b	#	橙色	無で		26	842	
67	#	高杯	II J	脚部少		a	#		暗文		98	481, 385	
68	#	高杯	II J 3	%	19.6	b	#	無で(暗文)			15	771, 176	
69	#	高杯	II J 1	ほぼ完存	20.0	15.8	b 白色質物	赤褐色	無で、荒削り	荒削り	13	735, 736, 739, 747, 749, 750	
70	H-10	小形鉢	II G 1a	%	9.4	a	にぼい橙色	無で			28	38	
71	#	杯・碗	II H 1	%	12.8	5.5	a 黒質母	明赤褐色	無で	荒削り	26	38, 46	
72	—												
73	H-10	杯・碗	II H 1	%	15.8	5.0	a 黒質母	赤色	無で(荒削り)		9	37, 371, 372, 37	
74	#	高杯	II J 3	口縁部少	17.8	a	にぼい橙色	無で(荒削り)			18	277, 288, 260, 257, 49, 256	
75	#	高杯	II J	脚部少	14.5	b 黒質母	#	無で			17	270, 439, 440, 48	
76	#	高杯	II J	脚部少		a	にぼい橙色	無で			6	272, 469	
77	#	高杯	II J	脚部少		a	粉色	無で			5	38, 188, 54	
78	#	壺	II A 1	口縁部少	16.1	c	#	無で			35	71	
79	#	壺	II C	口縁部少	20.6	b 白色質物	にぼい褐色				27	31, 32	
80	#	壺	II C 4	%	15.3	b 黒質母	橙色	無で			32	8, 13	
81	#	壺	II C 3	%	14.0	17.8	b	#	無で		23	18, 22, 315, 95, 75, 74, 314, 73	
82	#	壺	II C 2	%	15.0	c 白色質物	赤色	無で、刷毛目			33	132, 467, 129, 128, 40, 41, 42	
83	#	壺	II 1 3a	%	9.6	10.4	b 黒質母	赤褐色	無で、荒削り		22	83, 422, 394, 75	
84	#	小形壺	II D 2	ほぼ完存	9.6	11.6	b 白色質物	赤褐色	刷毛目、無で	荒削り	1	310, 111, 77, 309, 71, 11, 311, 288, 68	
85	#	壺	II C	%		c	#	にぼい橙色	無で		19	151, 2	
86	#	壺	II A 2	%	12.1	b	#	無で			16	86, 30	
87	#	杯・碗	II H 1	%	10.8	a	橙色	無で			—	317	
88	#	壺	II I	%	16.0	a	#	無で			10	52, 16	
89	#	壺	II E 2	%	23.2	14.8	a	#	粗押さえ、無で	荒削り	—	24, 25, 313, 33, 34, 35, 36	
90	H-11	高杯	II J 2	%	18.2	a	#	無で			3	1, 3	
91	#	高杯	II J 1	杯部少	20.0	a 黒質母	にぼい橙色	無で	荒削り		2	21, 23, 134, 28, 13, 9, 11, 14, 10, 12, 6	
92	#	高杯	II J 1	杯部少	21.4	a	橙色	無で、荒削り			5	97	

新規登録

標記 No	道場名	種類	形態分類	現存	口径 (cm)	深さ (cm)	粘土	色調	成・整形方法		個体 別No	登録No	備考	
									口縁・洞部	底部				
93	H-11	杯・椀	II H1	%	13.8	b赤色鉱物	赤褐色	無で	削り	1	173,69,170,171,			
94	#	甕	II C	口縁部分	15.8	a	褐色	無で		9	46,38			
95	#	甕	II C3	%	15.8	20.2	b赤色鉱物	a	無で		4	20,47,121,22,19, 21,17,37,44,33, 15,31,39		
96	H-12	甕	II I 5	%	7.3	8.9	b	赤褐色	無で	削り	12	96,75,76,36,67, 120,84,47		
97	#	小形甕	II G1a	ほぼ完存	11.6	6.2	b白色鉱物	赤色	無で	削り	22	1		
98	#	杯・椀	II H1	%	12.0	6.2	b赤色鉱物	a	無で	削り	21	18,49,83,160,83		
99	#	高杯	II J 1	杯部%			a	透黃褐色	無で、磨き		23	9		
100	#	高杯	II J 3	杯部%	19.4	b	に赤い褐色	無で		削り	1	215,411,85,207, 60,275		
101	#	高杯	II J	杯部%	19.8	b	明黄褐色	無で			2	191,492		
102	#	高杯	II J			a	赤色	無で			6	217		
103	#	高杯	II J	脚部%			b赤色鉱物	淡褐色			7	139,24		
104	#	高杯	II J 1	%			b	褐色	無で、削り		3	16,10,101,100, 12,18,25,380,102,		
105	H-13	小形甕	II D1	%	10.0	7.2	a	に赤い褐色	無で	削り	10	135,82,112,13, 77,134,164,89, 80,92,76		
106	#	小形甕	II D1	%	8.6	9.4	a	褐色	無で		1	70		
107	#	高杯	II J 1	%	21.3	b	に赤い褐色	無で			4	162		
108	#	高杯	II J	脚部%			b白色鉱物	赤色	無で、磨き		2	75,38,76,75		
109	H-14	高杯	II J	脚部%			a	褐色	無で		16	321,504		
110	—	—	—	—										
111	H-14	甕	II I	%			a	明黄褐色	無で	削り	25	641,73,641,643, 635,640		
112	—	—	—	—										
113	H-14	杯・椀	II H1	ほぼ完存	13.0	6.1	b赤色鉱物	赤褐色	無で		44	55		
114	#	甕	II I	口縁部分	11.1	a	b	に赤い褐色	無で		30	486,729,527,679		
115	#	甕	II I	口縁部分	13.0	a	b	—	無で		28	321,326,39,61, 551,594,636,637, 335		
116	#	甕	II I 3a	ほぼ完存	14.3	15.0	b	に赤い褐色	無で	削り	1	1		
117	#	甕	II C 4	%	22.5	c	赤褐色	無で			2	250,748,2		
118	#	甕	II C	%			c	に赤い褐色	無で	削り	43	126,193,428,511, 120,196,132,132, 451		
119	#	甕	II C 4	口縁部分	30.8	b	褐色	刷毛目			2	250,748,508,383, 390,428,421,451, 390		
120	H-15	杯	III H1a	%	12.4	3.5	a白色鉱物	明褐色		削り	21	32		
121	#	杯	III H1b	%	13.0	5.2	a	に赤い褐色		削り	15	84,75,7		
122	—	—	—	—										
123	—	—	—	—										

標因 No	造形名	器 様	形態分類	現 存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	成・整 形 方 法		個体 No%	登 錄 No	備 考
									口縁・脚部	底 部			
124	H-15	甕	III C2	△	20.9	c	淡赤褐色	荒削り			16	146,149,147,148, 119,38,21	
125	△	甕	III C2	口縁部分	20.4	c	#	荒削り			12	164,105,93,106, 94	
126	△	甕	III C2	△	18.8	b	白色鉱物	褐色	荒削り		7	107,231,194,195, 201	
127	△	甕	III C2	ほぼ完存	21.6 35.7	c	#	にぼい褐色	荒削り		8	88,86,125,9,88	
128	△	甕	III C2	△	20.3	c	#	荒削り			29	216,185,201,211, 221,102,242,212, 128	
129	△	小形甕	III D	△	13.9	b	明褐灰色		荒削り		4	6	
130	△	小形甕	III D1	△		b	#	荒削り			9	189,190,184,233, 232,185	
131	△	甕	III C2	△		c	にぼい赤褐色	荒削り	荒削り		30	59,83,135,67,68, 57,69,147,71	→ 二種類の 113
132	△	小形甕	III D2	ほぼ完存	13.6 16.6	b	にぼい褐色	荒削り	荒削り		2	483	
133	△	小形甕	III D	△	26.7 29.0	b	赤色鉱物	にぼい黃褐色	荒削り	荒削り	11	32,192,232,108, 33,109	軽用
134	△	甕	III E1	ほぼ完存		b	淡赤褐色	荒削り(荒磨き)			10	47,59,97,9,1,4, 10,15,23,55	
135	△	甕	III C2	△		c	白色鉱物	にぼい赤褐色	荒削り	荒削り	18	141,142,176,178	
136	△	小形甕	III G1	完存	14.4 10.0	b	黒 霧母	にぼい黃褐色	荒削り	荒削り	3	1	
137	△	甕	III C3	△	23.1 32.8	c	にぼい褐色	荒削り	荒削り		13	130,133,114,3, 122,150,55,204, 131	
138	H-16	小形甕	III D2	△	16.8	c	赤色	荒削り			20	130,108,51,114,105, 66,100,19,143, 148,79	
139	△	小形甕	III D2	△	21.0	b	にぼい褐色	荒削り			21	146,128,126,145	
140	△	杯	III H1b	△	11.2	a	#		荒削り		13	4,31,54	
141	△	杯	III H1a	口縁欠損 完存	12.6	3.4	a	赤褐色	荒削り		7	20,16,19,15,17, 74	
142	△	小形甕	III D	△		b	白色鉱物	褐色	荒削り		9	114,36,21	
143	△	高 杯	III J	脚部△		a	#	無			8	0,119	
144	△	小形甕	III D	口縁部完 存	20.5	b	にぼい褐色		荒削り		2	105,110,125,164, 103,102,105	
145	△	小形甕	III G3	△	16.0	b	#		荒削り		14	58,59	
146	△	瓶	III E1	△		b	黒 霧母	#	荒削り		3	65,64,39,49,57, 65,61	
147	△	甕	III C3	△		b	#	荒削り	荒削り		1	8,55,65,66,65, 65,60,88,83,83	
148	H-17	甕	III C1	△	22.0	a	#	荒削り			10	299,216,283	
149	△	杯	III H1d	△	10.9 3.5	a	褐色	荒削り			13	112,208	
150	△	小形甕	III G2	ほぼ完存	14.5 9.5	a	にぼい黃褐色		荒削り		29	110,198	
151	△	甕	III C2	△	21.2 36.5	b	にぼい褐色	荒削り	荒削り		11	285,273,250,274, 268,277,261	213,217,217 154,154
152	△	甕	III C1	口縁部分 完存	22.7 41.5	b	白色鉱物	#	荒削り	荒削り	6	244	
153	△	杯	III H1c	完存	11.4 3.9	a	赤褐色		荒削り		16	202,222	
154	△	杯	III H1c		11.8 3.7	a	明赤褐色		荒削り		28	111	

新潟県立歴史博物館

件名 No.	遺構名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No.	登録No.	備考	
									口縁 ・洞部	底面				
155	H-17	杯	IIIH2	口縁部欠 け	11.2	3.5		褐色		荒削り	30	286		
156	#	杯	IIIH1c	欠け	11.5	3.9	a	■		荒削り	17	108		
157	#	杯	IIIH2	欠け	11.6	4.8	a	■		荒削り	18	38,40		
158	#	須恵器 鉢	III O2	口縁部欠 け	14.0		a	白色鉱物	灰色	輪縫	—	118		
159	#	杯	IIIH2	欠け	14.0	4.2	a	褐色	■	荒削り	15	36,40,29,201, 302,303		
160	#	杯	IIIH5		16.0		a	明赤褐色	荒削り(暗文)	—	205			
161	#	甕	III C2	欠け	22.9	b		にぼい褐色	荒削り	9	193,187,248,192, 166,283,187,210, 55			
162	#	瓶	III E1	欠け	22.2	b	■		荒削り	7	273,239,233,225, 226,87,214,83,91			
163	#	甕	III C1	ほぼ完存	22.4	42.5	c	白色鉱物	赤色	荒削り	2	315,314,336,329, 317,319,320,321, 322,323		
164	#	須恵器 鉢	III O1	a	17.6	9.7	a	黄灰色	■	撫で	12	107		
165	#	小形甕	III D2	完存	16.1	16.5	b	白色鉱物	にぼい褐色	荒削り	荒削り	31	113,106	
166	#	甕	III C1	ほぼ完存	17.6	36.8	b	■	■	荒削り	5	289		
167	#	甕	III C2	%	20.1	38.4	b	■	荒削り	荒削り	3	343,334		
168	#	甕	III C3	欠け			a	赤色鉱物	赤褐色	荒削り	8	294,290,291,292, 293,28,147		
169	#	甕	III C1	ほぼ完存	20.8	29.4	b		赤色	荒削り	1	336,705,314,321, 317,332,328		
170	#	甕	III C2	欠け	21.5		b	にぼい褐色	荒削り	荒削り	4	4,2,3,242,8,15, 136,243,126,115, 117		
171	H-18	杯	III H1c	欠け	11.0	3.1	a	褐色		荒削り	—	232		
172	#	杯	III H1c	欠け	11.6	3.6	a	■		荒削り	9	294,298,18,298		
173	#	杯	III H3	欠け	11.8	3.7	a	■		荒削り	16	211,260,173,260		
174	#	杯	III H1b	欠け	11.8		a	■		荒削り	10	150,164		
175	#	杯	III H1b	ほぼ完存	11.4	3.8	a	赤褐色		荒削り	25	147		
176	#	杯	III H2	欠け	12.0		a	褐色		荒削り	—	265		
177	#	杯	III H1c	欠け	11.8		a	■		荒削り	19	157,153		
178	#	杯	III H1e	欠け	12.1	3.0	a	■		荒削り	—	247		
179	#	杯	III H4	欠け	12.8	3.5	a	赤褐色	■	撫で	荒削り	—	7	
180	#	杯	III H5	欠け	17.2	5.8	a	赤褐色		荒削り	6	300,385,273		
181	#	甕	III E1	欠け	19.9		a	にぼい褐色	荒削り	荒削り	1	143,89		
182	#	杯	III H5	欠け	16.4	6.6	a	赤色	■	撫で、荒削り(暗文)	17	53,161,159		
183	#	小形甕	III D1	欠け	17.0		b	にぼい褐色	荒削り	27	273,281,219,204, 302,303,304,294, 301,304			
184	#	瓶	III E1	口縁部欠け	21.7		a	■	撫で、荒削り	荒削り	8	266,141,92,158		
185	H-19	杯	III H1b	ほぼ完存	12.4	4.3	a	褐色		荒削り	3	17		

標番 No.	遺構名	器種	部差分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No.	登録No.	備考
									口縁・側面	底部			
186	H-19	杯	IIIH1b	%	12.8	4.8	a	褐色	荒削り	1	321, 22, 23, 19		
187	〃	杯	IIIIId	%	13.2	3.4	a	〃	荒削り	-	14		
188	H-20	瓶	IVE1	%	20.0	b	白色胚物	赤褐色	荒削り	18	392		
189	〃	杯	IVH3	%	13.2	a	褐色	無	荒削り	11	272		
190	〃	杯	IVH4a	%	13.0	3.2	a	赤褐色	無	-	掘り方		
191	〃	杯	IVH2b	%	17.1	4.9	a	褐色	無	荒削り	12	34, 76, 32, 59, 291, 391	
192	〃	須恵器 身	IVP	底部%		b	明褐色	織維	被塗	7	14, 148		
193	〃	須恵器 杯・身	IVQ1	%	16.6	3.9	a	灰白色	織維	被塗, 回 転式切り	9	285	
194	〃	台形壺	IVB1	腹部%	9.7	a	白色胚物	褐色	無	3	52, 56, 63, 144, 145, 25, 28, 30		
195	〃	須恵器 杯・身	IVQ1	%	15.9	4.1	a	灰白色	織維	被塗, 回 転式切り	1	101(H-22 238)	
196	〃	須恵器	IVP4	%	19.0	7.2	a	〃	織維	被塗	6	43	
197	H-21	須恵器 身	IVP3	%	13.8	5.2	b	白色胚物	織維	被塗	9-10	168, 109, 123, 112	墨書き「企」
198	〃	須恵器 台形壺	IVM1	%	11.2	b	褐色	織維	被塗	1	167	H-41の 376, 377と 同様	
199	H-22	須恵器 杯・身	IIIQ1	底部%		a	白色胚物	淡青灰色	織維	被塗, 回 転式切り	24	6	
200	〃	須恵器 杯・身	IVQ2	%	11.8	3.6	a	青灰色~灰白	織維	-	フク土		
201	〃	須恵器 杯・身	IVQ2	%	13.2	3.4	a	青灰色	織維	-	フク土		
202	〃	須恵器 杯・身	IVQ1	底部%		b	赤色胚物	黒~淡褐色	織維	被塗, 回 転式切り	-	257	
203	〃	甕	IVC2	%	18.2	a	褐色	荒削り	-	3	48, 272		
204	〃	杯	IVH3	%	12.4	3.3	a	褐色	無	荒削り	13	352	
205	〃	杯	IIIH2b	%	13.4	3.7	b	赤褐色	無	荒削り	29	48, 449	
206	〃	杯	IVH3	%	13.3	3.7	a	褐色	無	荒削り	9	293, 301, 294, 328, 370	
207	〃	杯	IVH3	%	13.7	3.8	a	赤褐色	無	荒削り	8	フク土	
208	〃	杯	IVH2b	%	12.9	3.8	a	褐色	無	荒削り	-	342, 414, 415, 383	
209	〃	杯	IVH3	%	12.8	8.5	a	にぼい褐色	無	荒削り	26	441	
210	〃	杯	IIH3	%	13.0	3.3	a	〃	無	荒削り	15	59, 62, 169, 183, 188	
211	〃	杯	IVH3	%	13.4	3.7	a	〃	無	荒削り	12	134, 254, 255, 256, 274, 184	
212	〃	杯	IVH3	%	13.4	3.6	b	〃	無	荒削り	28	442	
213	〃	杯	IVH6	%	13.8	3.8	b	にぼい黃褐色	無	荒削り	17	377, 409, 88, 436, 508	
214	〃	杯	IIH4n	%	14.8	3.6	a	にぼい褐色	無	荒削り	16	243	
215	〃	杯	IVH4a	口縁部%	15.8	a	〃	無	無	荒削り	4	44, 45, 126, 321, 345, 378, 379, 382, 432	
216	〃	杯	IVH4a	口縁部%	15.8	a	黒~褐色	無	無	荒削り	11	270, 1108	

序号 No.	遺構名	断面	形態分類	現存	口径 (cm)	縦高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No.	登録No.	備考	
									口縁・胸部	底部				
217	H-22	直底盤 杯	IVR1		12.1	b	淡青灰色	織縫	織縫	-	138			
218	#	直底盤 杯	IVR1	ほぼ完存	19.4	3.4	a 白色鉱物	灰白色	織縫	25	443			
219	#	直底盤 杯	IVR2	約	19.6	3.4	b	淡青灰色	織縫	20	354, 219			
220	#	直底盤 杯	IVR2	口縁部約	19.6	a	黄灰色	織縫	織縫	-	103			
221	#	直底盤 杯	IVQ1	約	16.0	a	にぶい青褐色	織縫	織縫, 回 松葉切り	6, 10 10, 20 372, 380	307, 36, 424, 348, 86, 89,			
222	#	直底盤 身	IVQ2	ほぼ完存	15.0	3.6	b	褐灰色	織縫	織縫, 回 松葉切り	27	440		
223	#	直底盤 身	IVN1	口縁付近 約	22.0	b	灰色	織縫	織縫	2	94			
224	H-23	杯	IVH3	ほぼ完存	12.3	3.5	a	橙色	擦で	荒削り	-	1		
225	#	杯	IVH3	約	13.5	3.2	b	"	擦で	荒削り	-	1		
226	#	杯	IVH4a	約	15.0	3.6	b	にぶい橙色	擦で	荒削り	3	9, 25, 13		
227	H-24	杯	IVH3	約	12.8	3.6	a	にぶい赤褐色	擦で	荒削り	3	3		
228	#	杯	IVH3	ほぼ完存	13.6	3.9	a	にぶい赤褐色	擦で	荒削り	1	5, 38		
229	#	杯	IVH3	約	15.0	3.9	a	にぶい橙色	擦で	荒削り	2	43		
230	H-25	盤 台	I K2	約	8.8	10.9	b 赤色鉱物	橙色	暗文、荒削き	2	2			
231	#	盤 台	I K2	ほぼ完存	8.9	10.9	a 白色鉱物	"	暗文、荒削き	5	7			
232	#	台付盤	I Bla	約	12.4	b	明赤灰色	刷毛目		8	115, 116, 117, 118, 119, 131, 138, 73, 74, 111, 112, 114			
233	#	瓶	I E1	完存	16.9	10.2	a 黄 青母	にぶい橙色	荒削き	3	4			
234	#	瓶	I I 1	約	12.0	19.9	b	赤色	荒削き	6	6			
235	#	台付盤	I Bla	ほぼ完存	12.1	27.8	b 白色鉱物	明赤灰色	刷毛目	7	1			
236	#	小形盤	I G1	約	14.1	6.1	a	赤橙色	荒削き	4	6, 2			
237	#	壇	I I 1	約		b	橙色	擦で、荒削き		11	83			
238	H-26	直底盤 杯	IVR2	約	16.1	b	青灰~灰白色	織縫	織縫	2	21, 7			
239	#	直底盤 杯	IVR2	ほぼ完存	15.5	3.2	b 白色鉱物	灰白色	織縫	1	20			
240	#	壇	IVC2	約	23.0	b	a 赤褐色	荒削り		4	18			
241	H-27	高 杯	I J 1	杯部約	14.1	b	にぶい橙色	刷毛目、荒削き	刷毛目	6	29, 91, 93, 94, 95, 101, 135, 198, 180, 196			
242	#	壇	I C 1	約	16.8	15.5	b	赤褐色	刷毛目	7	224, 309			
243	#	壇	I C 2	ほぼ完存	15.1	18.7	c 白色鉱物	赤褐色	刷毛目	19	292			
244	#	壇	I C 2	脚部完存		b	灰赤色	刷毛目	刷毛目	2	209, 199, 210, 309, 213, 197, 198, 225			
245	#	盤 台	I K3	ほぼ完存	8.1	7.9	b 白色鉱物	にぶい橙色	刷毛目	10	146			
246	#	小形盤	I D 4	約	10.6	6.3	b 赤色鉱物	暗赤灰色	擦で、荒削き	8	78, 157, 249, 271, 276			
247	#	壇	I I 3	約		b	にぶい橙色	擦で	荒削り	4	335, 82, 204, 231, 233			

標因 No	造形名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 No	登録No	備考
									口輪・肩部	底部			
245	H-27	瓶	I E2	%	17.8	10.8	b	にぼい橙色	撫で、指押さえ	5	85, 229, 230, 308, 317		
246	H-27	甕	I C2	%	14.6	21.0	b	赤褐色	刷毛目、撫で	①	203, 204, 205, 206, 207, 211, 215		
247	H-27	甕	I C2	ほぼ完存	16.2	22.3	b白色鉢物	灰赤色	刷毛目	②	141, 169, 170, 171, 172, 173, 174		
248	H-28	直腹瓶 杯	IV Q3	%	13.6	3.2	b白色鉢物	灰白色	刷毛目	8	150, 151, 231, 256, 257	×23 ×35	
249	H-28	甕	IV C1	口縁部	28.2		a	明赤褐色	荒削り	2	54, 65, 56, 122		
250	H-29	小形土 甕	I L	少脚完存			a	灰白色		-	934		
251	H-29	小形土 甕	I L	口縁部欠			a	明赤褐色	荒削き	⑨	987		
252	H-29	器	I K1	少	8.0		b	にぼい橙色	撫で、刷毛目	⑩	564		
253	H-29	小形鉢	I G3	ほぼ完存	10.2	4.7	a	黒褐色	撫で、荒削き	4	800, 878, 846, 550, 551, 589		
254	H-29	小形鉢	I G3	a	11.2	5.3	a 黑 霧 母	にぼい橙色	撫で、荒削き	3	227, 374, 375, 376, 380, 432		
255	H-29	小形鉢	I D3	%	9.9	9.6	b 赤色鉢物	明褐灰色	刷毛目	1			
256	H-29	小形鉢	I G1	口縁部欠			a 黑 霧 母	橙色	刷毛目、荒削き	⑤	566, 568, 569		
257	H-29	小形鉢	I G1	%	11.0	6.0	a 黑 霧 母	赤橙色	刷毛目、荒削き	-	888		
258	H-29	小形鉢	I G1	%	11.4	6.5	a 黑 霧 母	黒褐色	荒削き	⑥	641, 854, 861, 865, 866, 991, 994, 973, 992, 993		
259	H-29	台付甕	I B1d	台部ほぼ 完存			b白色鉢物	にぼい橙色	荒削り、撫で	⑦	658, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 943, 949	995	
260	H-29	小形鉢	I D4	ほぼ完存			b	橙色	刷毛目、撫で	22	650, 853		
261	H-29	甕	I C	%	13.0		b	黒褐色	刷毛目、撫で	18	362, 363, 365, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373	420 427	
262	H-29	高杯	I J2	杯部ほぼ 完存	20.0		c 黑 霧 母	赤褐色	撫で、捺文	2	280, 281, 283, 284, 488		
263	H-29	台付甕	I B1d	%	15.8		a	褐灰色	刷毛目	17	229, 231, 274, 447, 539, 562, 413		
264	H-29	甕	I C	%	15.8	15.0	a	赤褐色	荒削き	19	576, 577, 595, 540, 844, 856	256	
265	H-29	高杯	I J1	%	15.8		b	にぼい黄褐色	刷毛目	19	233, 561, 915, 917, 914, 333, 471, 474	233, 915 471, 474	
266	H-29	台付甕	I B1a	%	13.6		c		撫で	6	108		
267	H-30	小形鉢	I G1	%	15.4	5.4	b	橙色	荒削き	⑤	106, 107, 108		
268	H-30	小形鉢	I G2	%	15.5	6.0	b 黑 霧 母	b	荒削き	⑤	106, 107, 108		
269	H-30	小形鉢	I G2	%	16.0	7.0	a	にぼい橙色	荒削き	④	72, 122, 134, 149, 153, 159, 175		
270	H-30	器	I K3	完存	9.8	7.6	b	橙色	荒削き、撫で	11	101		
271	H-30	壺	I A1	%	16.3		b白色鉢物	明赤褐色	刷毛目、撫で	3	152, 165, 88, 141, 147, 156, 151		
272	H-30	台付甕	I B2b	%	15.0		b	褐灰色	刷毛目	-			
273	H-30	甕	I C	%	13.5		b赤色鉢物 (白)	橙色	刷毛目	7	112, 169		
274	H-30	台付甕	I B2c	台部完存			b	橙色	撫で	12	115		
275	H-30	甕	I A1	%	19.0		c	赤色	刷毛目、荒削き	2	136		
276	H-31	壺	I A2		17.1		b白色鉢物	にぼい橙色	撫で	38	261		

標因 No	造形名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No	登録No	備考
									口縁・鋤部	底部			
279	H-31	甕	I C	口縁部分	14.7	b	にぼい橙色	無で			7	134, 224, 286, 356, 506, 532, 565, 531	
280	#	甕	I C3	%	13.1	21.2	b 白色鉢物	〃	刷毛目、荒削り	刷毛目	2	213, 215, 216, 217, 220	
281	#	台付甕	I B2b	%	13.0	27.0	b	〃	刷毛目	刷毛目	1	40, 45, 55, 201, 202, 234, 205, 207, 208	
282	#	甕	I C1	%	14.1	b	赤褐色	刷毛目			13	136, 347, 419, 474, 499, 513, 575	
283	#	高杯	I J1	ほぼ完存	15.7	15.0	b	赤色	刷毛目、荒削り	荒削り	5	144, 153, 167, 148	
284	#	小形甕	I D5	%	8.8	10.1	a	にぼい橙色	荒削り(荒削り)		(6)	41, 51, 52, 54, 56, 60, 63, 65, 80, 84	
285	#	甕	I A2	%	16.6	27.4	b	赤色	刷毛目	荒削り	3	—	
286	#	須恵器 棚	IVP2	汚	18.2	6.7	b	灰色	無	無	37	420	
287	#	台付甕	I B1c	台部残			a	橙色			15	20, 22, 24, 25	
288	#	台付甕	I B1d	口縁部分	15.0	b	〃	刷毛目			12	79, 81, 110, 320, 376, 421, 434, 445, 495	
289	#	甕	I E1	%	17.1	12.2	b	〃	荒削り	荒削り	33	157	
290	#	小形甕	I D4	口縁部分欠			b	赤褐色	刷毛目		34	160	
291	#	甕	I A	%			b	にぼい橙色	無で		4	16, 28, 85, 89, 90, 91, 132, 205, 472, 570	
292	H-32	杯	IVH3	%	12.6	3.6	a	橙色	無で	荒削り	3	302, 303 ナラ	
293	#	杯	IVH3	%	12.2	3.4	b	〃	無で、指押さえ	荒削り	1	169, 170	
294	H-33	杯	IVH3	%	11.6	3.6	a	〃	無で	荒削り	12	556, 553	
295	#	甕	IVC1	口縁部分	19.0	b 白色鉢物	赤色	荒削り			16	246, 347, 354	
296	#	甕	IVC1	%	21.5	b	赤褐色	荒削り			1	141, 142, 143, 145, 152, 153, 156, 197	
297	#	杯	IVH3	ほぼ完存	12.2	3.4	a	橙色	無で	荒削り	15	166	
298	#	杯	IVH3	ほぼ完存	12.0	3.3	a	〃	無で	荒削り	14	345	
299	#	杯	IVH3	%	12.9	3.2	a	〃	無で	荒削り	13	337	
300	H-34	杯	IVH3	%	11.0	2.9	a 白色鉢物	〃	無で	荒削り	—	746	
301	#	杯	IVH4n	%	14.3	3.0	a	淡赤褐色	無で	荒削り	8	866, 869	
302	#	杯	IVH3	%	13.0	3.5	a	無色	無で	荒削り	2	790, 838, 839	
303	#	杯	IVH3	ほぼ完存	13.1	3.7	a	にぼい橙色	無で	荒削り	(1)	425, 436, 437, 518, 435	
304	#	須恵器 杯身	IVQ2	%	13.8	2.8	a	無色	無	無荒削り	—	437	
305	#	甕	IVC	%	19.0	4.2	a	暗褐色	荒削り		5	253, 514	
306	H-35	杯	IVH3	%	12.3	3.0	a	橙色	無で	荒削り	48	2895	
307	#	杯	IVH3	%	12.0		a	にぼい橙色	無で	荒削り	9	1596, 2593	
308	#	杯	IVH3	%	13.8	3.3	a	橙色	無で	荒削り	4	2207, 2816	
309	#	杯	IVH3	ほぼ完存	13.2	3.8	a	〃	無で	荒削り	2	1662, 1668, 2383, 2402	

編號 No.	造構名	器種	相應分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個體 別No.	登録No.	備考	
									口縁・肩部	底部				
310	H-35	杯	IVH3	4	13.8	a	橙	擦	鋸削り	2	66,826			
311	#	杯	IVH3	底部完存	13.7	3.3	b	#	擦	鋸削り	1	1187		
312	#	酒漁器 杯身	IVQ3		12.5	4.0	a白色 白色 物	橘紅	鋸削 鋸削 切	47	2961			
313	#	杯	IVH3	4	14.5	a	橘色	擦	鋸削り	27	831,846			
314	#	酒漁器 杯身	IVQ2	4		a	灰色	橘紅	鋸削 板対切り	-	1275			
315	#	酒漁器 杯身	IVQ3			b	橘紅	鋸削 鋸削 切	46	2904,2903,側方 C				
316	#	酒漁器 杯	IVP2	4		a白色 物	灰色	橘紅	鋸削	-	2558			
317	#	酒漁器 杯	IVR1		18.2	b	#	橘紅	鋸削	-	2668			
318	#	酒漁器 杯	IVP5	4	15.2	b	#	橘紅	鋸削	-	1204			
319	#	櫛	IVC1	口縁部分	21.2	b	橘色	直削り	19	2832,2833,2834, 2859,2877,2863				
320	H-36	杯	IVH4a	4	15.0	a	橙	擦	鋸削り					
321	H-37	杯	IVH2b	4	14.7	4.4	a		擦	鋸削り	2	62		
322	#	杯	IVH4a	4	16.0	2.9	b	橘~褐色	擦	鋸削り	3	37		
323	H-38	小形鉢	I G1	ほぼ完存	11.4	5.5	a黒 白	母	橘色	直削き	2	50		
324	#	台付櫛	IB1d	底部完存			b白色 物	橘~褐色	刷毛目、擦		1			
325	#	台付櫛	IB1c	台部4			b	にぼい 橘色	擦		1	6.7		
326	#	査	IA	4		c	明赤褐色		直削き	3	57,37,123,124, 128,125,138			
327	H-39	器 台	IK1	%	7.8	10.0	b	にぼい 橘色	刷毛目、直削き	4	60,98,121,139, 244			
328	#	器 台	IK1	4	8.3	10.2	b黒 白	母	橘色	刷毛目、直削き	7	72,91,105,221, 222,223,234		
329	#	器 台	IK1	%	7.5	10.8	b	#	#	刷毛目、直削き	3	165		
330	#	器 台	IK1	4	7.9	10.6	b	#	#	刷毛目、直削き	9	144,145,146,150, 152,158,300		
331	#	器 台	IK1	%	7.9	9.9	b	#	#	刷毛目、直削き	5	29		
332	#	器 台	IK1	4	8.1	9.5	b	#	刷毛目、直削き	2	79,87,94,228			
333	#	器 台	IK1	%	8.1	9.8	b	にぼい 橘色	刷毛目、直削き	6	232,258,329			
334	#	高 杯	I J1	脚部4	8.8	a黒 白	母	赤色	直削き	5	456			
335	#	小形櫛	ID1	4	8.6	a	橘色		刷毛目	-	279			
336	#	小形櫛	ID2	完存	10.1	12.6	c黒 白	母	明赤褐色	刷毛目	1	166,425,428		
337	#	壇	III		13.5	a	明赤褐色		直削き、刷毛目	15	104,410,412,413, 123,135,144;149, 162,170			
338	#	壇	III	4		b	橘色		直削き、刷毛目	12	108,127,134,136, 142,151,153,157			
339	#	台付櫛	IB1d	脚部			a	にぼい 橘色	刷毛目、擦	8	436,436			
340	#	台付櫛	IB1c			b	赤褐色	擦		10	137,526,618			

捕获 No.	通称名	器 種	形態分類	現 存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	成・整 形 方法		倒体 No.	登 錄 No.	備 考
									口縫・脚部	底 部			
341	H-39	甕	I C	脚部分			b 白色鉢物	にぶい橙色	刷毛目		16	41, 42, 57, 118, 308, 401, 513, 556,	105, 109,
342	#	甕	I C				a	赤色	刷毛目		18	524, 627, 536, 643, 661, 631, 680, 696,	201, 719, 413, 115, 554, 733
343	#	大形鉢	I F		20.5	9.7	b 白色鉢物		刷毛目、荒削り		-	802, 69, U9, 118, 113	941 (2-3)
344	#	甕	I C		14.4		a	橙色	刷毛目		17	52, 64, 65	
345	#	甕	I C1	完存	15.0	15.3	b 黒 霧母	にぶい赤褐色	刷毛目、荒削り		59	280	
346	#	甕	I C2	14.4	14.4		c 白色鉢物	赤褐色	刷毛目		44	43, 53, 62, 63, 69, 73, 73, 65, 78, 130	
347	H-40	杯	IVH4a	1/2	13.8	3.5	a	にぶい赤褐色	擦で	荒削り	48	380	
348	#	杯	IVH4a	1/2	14.4	3.5	a	橙色	擦で	荒削り	28	13, 223, 467, 531	
349	#	杯	IVH4a	1/2	15.4	3.6	a	にぶい橙色	擦で	荒削り	27	2, 35, 36, 38, 129, 166, 364, 418, 432, 506	
350	#	杯	IVH4a	口縫部分	16.4	2.8	a	暗褐色	擦で	荒削り	43	54, 534	
351	#	杯	IVH2b	1/2	12.3	3.8	a	橙色	擦で	荒削り	30	130, 254, 453	
352	#	杯	IVH3	1/2	14.7	5.0	a	赤色	擦で	荒削り	49	206, 498	
353	#	杯	IVH2b	1/2	15.0	4.5	a	にぶい橙色	擦で	荒削り	29	60, 61, 135, 303	
354	#	杯	IVH3	1/2	16.0		a	橙色	擦で	荒削り	94	6, 17	
355	#	直立圓筒 杯	IVR2	1/2	17.2	3.0	a	黄灰色	擦織	擦織	-	183, 412 3/5	
356	#	大形鉢	IVF1	1/2	15.8	23.8	b 白色鉢物	明褐色→黒褐色	荒削り	荒削り	-	343, 540	
357	#	甕	IVC2	口縫部分	15.8		b	灰白色	荒削り		2	6, 7, 40, 46, 170, 209	
358	#	直立圓筒 杯	IVR1	1/2	13.1		b	灰色	擦織	擦織	-	518	
359	#	直立圓筒 杯	IVR2	1/2	15.0		a 白色鉢物	橙色	擦織	擦織	-	515	
360	#	甕	IVC2	1/2	22.9	7.4	b	灰白色	荒削り		26	343, 540	
361	I-2	直立圓筒 杯	IVQ1	1/2	16.6	3.8	b	赤褐色	擦織	擦織, 回 転鋸切り	3	205, 594	
362	#	甕	IVC2	1/2	23.0		b	にぶい橙色	荒削り		6	199, 835	
363	#	杯	IVH4a	1/2	13.4	2.8	a	z	擦で	荒削り	11	846, 896, 1212	
364	#	杯	IVH2b	1/2	12.5	3.8	a	z	擦で	荒削り	1	1299, 551, 189, 691, 691, 1259	
365	#	杯	IVH2b	ほぼ完存	13.1	3.7	a	z	擦で	荒削り	2	685	
366	#	杯	IVH4b	1/2	14.2	2.3	a	z	擦で	荒削り	49	393, 504, 652, 1089	
367	—	造形	ガリーンシール	アリ									
368	I-2	杯	IVH2b	1/2	13.5	3.8	a	にぶい橙色	擦で	荒削り	5	1500, 1561, 1566, 1567, 1570	
369	#	杯	IVH3	1/2	14.4	3.1	a	z	擦で	荒削り	48	723, 829, 1425	
370	#	直立圓筒 杯	IVH6	1/2	14.5		b	淡黄色	擦で	荒削り	14	781	
371	#	直立圓筒 杯	IVQ2	1/2			b	淡黃橙色	擦織	擦織, 回 転鋸切り	-	210	

標識 No	遺構名	器種	参考分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 No	登録No	備考	
									口縁・胴部	底部				
372	I-2	杯	IVH2b	完	14.2	3.7	a	黒褐色~褐色	無	鉛削り	8	137b, 1442, 616, 1544, 617, 1377	446	
373	H	杯	IVH2b	完	18.0		a	褐色	無	鉛削り	31	1160, 1338		
374	H	杯	IVH3	△	15.2		b	にぼい褐色	無	鉛削り	36	370, 1136		
375	H	頭部器皿 外	IVR3	△	17.2	2.9	b	灰色	無	無	4	201, 813, 7830, 1230		
376	H	頭部器皿 内	IVM1	骨部完存	17.5		b	黄褐色	無	無	7	134, 152, 153, 1447	377と接合	
377	H	頭部器皿 外	IVM1	△			b	灰色	無	無	20	150, 196		
378	H	甌	IVC2	口縁部△	19.8	6.4	b	白色鉱物	褐色	鉛削り	-	1262, 413		
379	H-42	頭部器皿 外	IVP1	△	17.6	4.1	c	黄褐色	無	無、削 軸孔切口	3	5		
380	H	杯	IVH7	完存	14.0	4.3	b	褐色	無 (本文)	鉛削り	1	17	23	
381	H	杯	IVH7		14.7	4.6	b	△	無 (本文)	鉛削り	2	2		
382	H-45	小形土 器	I L				b	白色鉱物	無	無	11	69		
383	H	小形土 器	I L	△			b	△	無	無	4	84, 85, 86, 167		
384	H	小形土 器	I L	△	3.0	4.5	b (赤色)	オリーブ黒 色	無	無	9	82, 94		
385	H	小形甌	I D3	ほぼ完存	11.4	11.8	b	白色鉱物	赤灰色	刷毛目、鉛削り	7	97, 98		
386	H	小形甌	I D3	△			b	△	赤褐色	刷毛目、指押さ え	8	9, 10	73	
387	H	甌	I I 2	完存	10.6	13.9	b	赤色	無	鉛削り	-	10, 8		
388	H	高 甌	I J 1	杆部△	16.6		b 黒 青	母	△	鉛削り	8	1243		
389	H	小形甌	I G 1	△	16.6	6.9	b	赤褐色	笠席き、刷毛目	無	2	15, 141, 142, 143, 14, 6, 2, 13, 12, 13		
390	H	大形甌	I F 1	△	18.1		b	赤色鉱物	にぼい赤褐色	刷毛目、鉛削り	6	103, 105, 106		
391	H	台付甌	I B 1a				a	白色鉱物	褐色	刷毛目	刷毛目、 無	(3)	147, 150, 151, 155, (9)	
392	H-44	小形甌	I G 2	ほぼ完存	9.1	4.9	b	にぼい褐色	刷毛目、無	鉛削り	-			
393	H	台付甌	I B 2a	△	14.1	29.3	b	赤褐色	刷毛目	刷毛目	-			
394	H	台付甌	I B 1a	△	12.4		b	白色鉱物	△	鉛削り、刷毛目	17			
395	H	甌	I C 1	△	12.2		b	△	赤色	刷毛目、鉛削り	19			
396	H	台付甌	I B 2a	△	13.6		b	△	△	刷毛目	38			
397	H	台付甌	I B 1b	△	14.6	32.5	b	灰白色	刷毛目	刷毛目、 無	2			
398	H	甌	I C 2	△	12.4	16.4	b	白色鉱物	赤色	刷毛目、鉛削り	5			
399	H	小形甌	I D 3	ほぼ完存	12.2	14.3	c	N8	△	刷毛目	8			
400	H	台付甌	I B 1d	杆部△			b	△	明赤褐色	刷毛目	刷毛目、 無	-		
401	H	台付甌	I B 1a	△	15.7		c	白色鉱物	灰白色	刷毛目	13			
402	H-45	台付甌	I B 1d	台部△			b	淡黄色		刷毛目、 無	3			

採集 No	遺構名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形方法		個体 別No	登録No	備考
									口縁・肩部	底部			
403	H-45	台付盤	I B1d	口縁部分	14.6	b	淡黄色	刷毛目			7		
404	#	盤	I C	#	12.8	b	褐色	刷毛目			1		
405	#	盤	I C		14.1	c	明赤褐色	刷毛目			-		
406	H-46	杯・碗	II H2	#	11.5	6.2	b	#	無で	削削り	-	24, 90	88
407	#	杯・碗	II H1	#	12.4	5.8	b赤色鉱物	#	無で	削削り	-	173	775
408	#	小形盤	II D1	#	15.0	9.0	b	#	刷毛目、直削り	削削り	-	21, 224	
409	#	小形盤	II G1b	#	12.3	6.8	c	淡黄色	無で	削削り	-	284, 285, 281, 382,	139
410	#	杯・碗	II H1	#	11.8	a	白色鉱物	褐色	無で		-	240	
411	#	高杯	II J2	杯部#	18.6	a	にぶい橙色	無で			-	206	
412	#	高杯	II J1	杯部#	20.1	b	#	#	無で、旋磨き		-	205, カクラン	
413	#	盤	II C	#			c白色鉱物	赤褐色	無で	削削り	-	213	
414	#	坦	II I3b	口縁部欠	12.4	16.2	b	#	無で、刷毛目、直削り		-	202	
415	#	坦	II I1	#	11.8	10.9	b	にぶい褐色	無で、削削り		-	210	
416	#	高杯	II J2	杯部#	15.5	b	明赤褐色	無で	無で		-	291	
417	#	盤	II A1	#	19.7	33.8	c	褐色	無で	無で	-	291	
418	H-47	杯・碗	II H1		13.5	b	淡黄色	無で	削削り	30 (30)			
419	H-48	杯	IV H2a	#	11.1	3.7	a	褐色	無で	削削り	16	アカニ	結晶片含有
420	#	杯	IV H2b	完存	10.6	3.8	a	にぶい褐色	無で	削削り	11	128	
421	#	杯	II H2a	#	10.4	3.6	b 黒雲母	褐色	無で	削削り	9	126	
422	#	杯	IV H2a	#	10.5	3.6	a	にぶい褐色	無で	削削り	1	35, 36, 41, 42, 43, 44, 448	
423	#	杯	IV H1	空存	9.8	3.1	b	#	無で	削削り	5	1	
424	#	杯	IV H2a	#	10.5	3.2	c	褐色	無で	削削り	2	130, 132, 133	
425	#	杯	IV H2a	#	10.5	3.4	b	赤褐色	無で	削削り	8	125	
426	#	杯	IV H2a	完存	9.1	3.4	b	褐色	無で	削削り	17	74, 135, 77	
427	#	杯	IV H1	#	10.1	3.1	b	にぶい褐色	無で	削削り	4	32, 37, 46	
428	#	杯	IV H2a	完存	10.5	3.4	b	#	無で	削削り	7	60	
429	#	杯	IV H2a	#	10.6	3.6	a	褐色	無で	削削り	10	127	
430	#	杯	IV H2b	#	12.8	4.3	b	#	無で	削削り	15	109	
431	#	杯	IV H2b	完存	15.2	6.4	a	#	無で	削削り	6	124	
432	#	小形盤	IV D1		17.0	19.0	b白色鉱物		直削り	削削り	16	76, 78	
433	H-49	杯	IV H3	#	12.9	a	にぶい褐色	無で	削削り	14	160, 182		

番号 No.	造形名	形	種	部品分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・変形方法		個体 別名	登録番号	備考	
										口縁・肩部	底部				
431	H-49	杯	IVH3	6	14.6	3.5	a	白色胎物 にぶい褐色	無地	削削り	4	172,175			
432	II	杯	IVH3	6	13.1	3.7	b		無地	削削り	2	161,173,176,177, 178			
436	II	甕	IVC	6			b	にぶい赤褐色	無地	削削り	1	163,165,166,167, 168,158,159,163, 159,162	164,167 159,162		
437	H-50	杯	IVH2a	6	12.8	3.8	b	赤褐色	無地	削削り	6	2,3			
438	II	杯	IVH3	6	12.0		a	#	無地	削削り	1	4,9			
439	H-51	杯	IVH3	6	14.0		b	赤色	無地	削削り	17	213,214			
440	II	甕	IVC1	6	23.8		c	褐色	削削り	1	161,165,166,167, 168				
441	H-52	須恵器 碗	IVP2	6			b	灰色	無地	無地	1	7			
442	H-53	小形甕	IVD2	6	9.7	6.8	b	赤褐色	削削り	削削り	1	1,15,16,21,32, 34,35,36			
443	II	杯	IVH3	6	13.1	2.8	a	褐色	無地	削削り	14				
444	II	須恵器 盆身	IVQ1	6	14.0	4.2	c	にぶい黄褐色	無地	無地	13	159			
445	II	杯	IVH3	6	12.6	4.3	a	褐色	無地	削削り	3	67,68			
446	II	杯	IVH4c	6	13.5	3.6	a	赤褐色	無地	削削り	1	2,3,4,5,9,29, 31			
447	II	杯	IVH3	6	13.5	3.6	a	褐色	無地	削削り	3	74,65 77			
448	H-54	杯	IVH3	6	13.2	3.4	b	にぶい褐色	無地	削削り	6	15,16,25			
449	II	杯	IVH3	6	12.3	3.2	a	黄褐色	無地	削削り	15	133,119,174,175, 137,186,187,188, 118	118	118	
450	II	須恵器 杯身	IVQ3	6	14.5	3.3	c	灰白色	無地	無地	—	1			
451	II	杯	IVH5	6	12.0	3.9	b	赤色	無地	削削り	2	90,91,92,93			
452	H-55	須恵器 杯	IVR2	6	16.0	3.1	a	青灰色	無地	無地	—				
453	II	須恵器 件蓋	IVR2	6	16.4		a	灰白色	無地	無地	16	563,720			
454	II	杯	IVH3	6	12.2	3.5	a	褐色	無地	削削り	19	548,605			
455	II	杯	IVH3	6	14.2	3.0	a	にぶい褐色	無地	削削り	8	1033,1036			
456	II	須恵器 杯身	IVQ2	6	14.3	3.4	b	黄褐色	無地	無地、凹 底面切り	27	759,574			
457	II	杯	IVH3	6	15.4	3.8	b	にぶい褐色	無地	削削り	24	266			
458	II	杯	IVH4a	6	16.1	3.8	b	褐色	無地	削削り	11	6,4,15			
459	II	小形甕	IVD2	6	12.6		b	にぶい褐色	削削り	3	461,486,613				
460	II	甕	IVE1	6	20.7	9.0	c	白色胎物 黒褐色～淡褐色	削削り	—					
461	T-3	小形甕	ID1	6			c	にぶい褐色	刷毛目、無地	—	4	6,30,5,28,3,12, 13,9,8			
462	T-10	高杯	IJJ2		18.0		b		無地			69	7ク土		
464	II	小形甕	IG3		10.5	4.6	b	黒	無地	刷毛目	7	13			
465	II	甕	II1				c		無地	削削り	3	18,47,56,40,9, 35,59			

探査 No	遺構名	器種	形態分類	現存	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	成・整形成方法		個体 別No	登録No	備考
									口縁・副部	底部			
466	T-10	瓶	II E1		20.8	12.5	c	無地	削り	1	273, 1007, 45, 43, 28		
467	T-11	小形壺	IV D				c	に赤褐色	削り	8	7, 50, 78		
468	D-4	壺	II 12	4	8.4		b 白色粘物	赤褐色	無地	4	15, 17		
469	#	高杯	II J	4			b	黃褐色	無地	1	11, 53, 61		
470	#	高杯	II J				b 白色粘物	黃褐色~青褐色	無地	8	32		
471	D-5	壺	II C				c	橙~黑褐色	刷毛目	2	401, 402, 29, 85		
472	#	壺	II C 4		19.6		c	に赤褐色	刷毛目		95		
473	#	壺	II A1	口縁部4	15.2	6.6	c	黑~淡褐色	無地		48		
474	D-16	杯	III H1c	先存	11.4	3.5	a	橙色	削り	3	12		
475	#	杯	III H1c	#	11.3	3.0	a	#	削り	1	13		
476	#	杯	III H1c	#	11.7	4.0	a 黑青母	橙色	削り	2	11		
477	T-11	壺	IV C1	口縁部4	22.6		b	明赤褐色	削り	1	16		
478	#	壺	IV C2		23.4		b	暗褐色	削り		22, 23, 24, 29, 14, 21 4 2		
479	D-18	須恵器 杯	IV R	4			b	灰白色	織維		フタ土		
480	D-34	杯	IV H3		14.0		a	橙色	無地	削り	#		
481	#	杯	IV H3	4	14.4	4.3	a	淡赤橙色	無地	削り			
482	I-3	杯	IV H4a	4	14.4	3.4	a	橙色	無地	削り			
483	#	杯	IV H4b	4	14.8	2.3	a	明赤褐色	無地	削り			
484	I-6	小形壺	IV D 2	4	12.4	11.5	c 結晶片岩	明褐色	削り			焼成後穿孔	
485	X-6	杯	IV H3	4	12.7		a	橙色	無地	削り	1		
486	#	杯	IV H3	4	13.5	3.6	b	に赤褐色	無地	削り	4 2		
487	#	壺	I C	4	11.0		a	刷毛目			11 4		
488	#	台付壺	I B 1c	4	9.4		a	橙色	無地		16 5, X120Y144G		
489	#	大形鉢	I F	4	16.5		b 黑青母	明赤褐色	刷毛目、削り				
490	#	台付壺	I B 1b	4			c	に赤褐色	刷毛目	1	5		
491	グリコ	杯	IV H2a	ほぼ完存	12.2	4.0	a 黑青母	橙色	無地	削り			
492	#	杯	IV H3	4	13.5	3.4	a	に赤褐色	無地	削り	4		

註) 表の記載は以下の基準で行った。

1. 形態分類のローマ数字は時期を示し、アルファベットは器種を表わす。数字は形態・調整による細分である。数字の記載がないものは、その他の所属する。

2. 胎土はa…細粒(0.9mm以下)、b…中粒(1.0mm~1.9mm)、c…粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な粘物が入る場合に粘物名を記載。

3. 色調は土器外表面で観察し、色名は新版標準土色帖(小山・竹原1976)によった。

Tab. 18 石・土・軽石製品・鉄器計測表

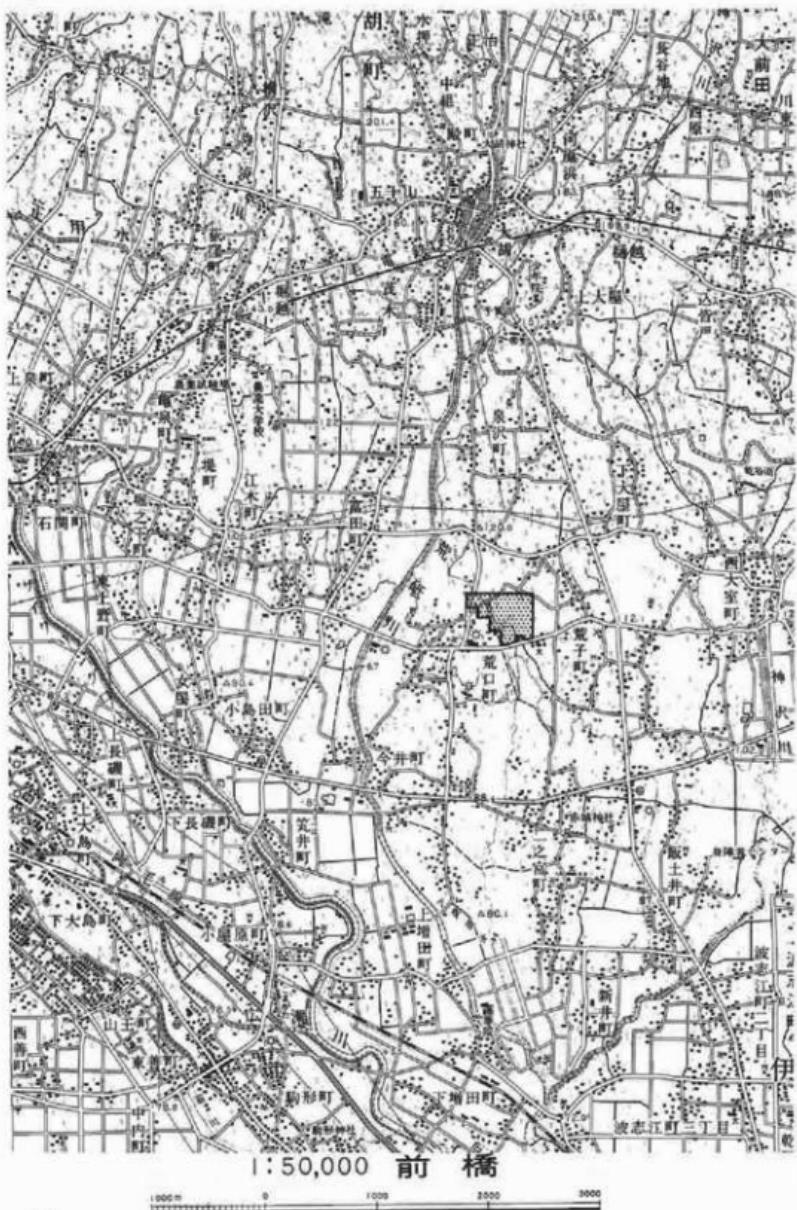
登録 No.	器種	出土区	登録 No.	現存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	備考
493	石製骨蔵器	D-19	1	完形	48.3	43.4	31.0	51000.0	角閃石安山岩	身部
494	玉	H-9	1200	#	1.3	0.9	0.5	0.6	滑石	
495	#	X101Y107G	d	#	1.0	1.5	0.5	0.6	#	
496	#	H-9	901	#	1.5	0.9	0.4	0.6	#	
497	#	H-9	1000	#	1.4	1.0	0.3	0.4	#	
498	#	H-9	498	#	1.4	1.1	0.4	0.6	#	
499	#	H-9	900	#	1.6	1.0	0.4	0.8	#	
500	滑石製品	H-15	113	#	1.5	1.0	0.4	0.6	#	
501	曰玉	H-29	-	#	1.0	1.0	0.1	0.2	#	
502	土製品	H-14	768	#	1.0	0.6	0.4	0.2		
503	#	H-14	765	#	2.0	0.8	0.8	1.0		
504	土玉	H-46	-	#	1.1	1.2	1.1	1.4		
505	#	H-9	1594	#	1.5	1.1	1.2	1.6		
506	土製品	H-11	132	#	3.3	2.7	1.1	7.0		
507	砥石	H-16	S-1	#	4.9	2.4	1.9	33.0	流紋岩(底沢?)	
508	#	X113Y143G	-	#	9.0	3.1	2.4	87.0	#	
509	#	H-54	60	#	9.3	3.8	3.6	156.0	#	
510	#	H-9	S-22	#	7.8	4.7	1.9	88.0	#	
511	#	X 93Y109G	-	#	7.9	11.1	3.7	400.0	粗粒安山岩	
512	紡錘車	H-20	346	#	4.5	4.5	1.3	43.0	かんらん岩	
513	#	-	-	#	4.6	4.7	1.6	42.0	#	
514	#	T-10	1	#	4.9	2.4	1.2	18.0	#	
515	#	H-10	1	完形	4.3	4.8	1.1	14.0	軽石	
516	軽石製品	H-12	-	#	3.5	2.0	1.5	4.0	#	
517	紡錘車	H-34	276	#	3.6	3.7	2.2	45.0	流紋岩(底沢)	
518	軽石製品	H-8	S-19	#	8.5	3.4	3.5	37.0	軽石	
519	#	X122Y140G	-	#	6.1	5.0	3.3	41.0	#	
520	#	H-8	S-38	#	8.2	9.6	3.3	127.0	#	
521	#	H-8	S-24	#	4.6	5.9	3.6	38.0	#	三角形
522	#	X118Y113G	-	#	6.6	3.3	1.7	15.0	#	
523	#	H-8	S-16	#	5.1	5.8	2.5	22.0	#	三角形
524	敲石	H-8	S-41	#	11.0	7.7	3.1	1015.0	黒色頁岩	縄文時代か?
525	軽石製品	H-10	S-14	#	4.4	4.6	2.4	15.0	軽石	
526	#	X104Y144G	-	#	4.7	4.4	2.3	25.0	#	

擇園 No	器種	出土区	登録 No	現存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	備考
527	鈴石製品	X 99Y113G	—	完形	8.3	4.9	2.4	44.0	鈴石	
528	#	D-5	—	#	2.5	3.2	1.3	3.0	#	
529	#	W-8	—	#	4.0	2.8	1.6	8.0	#	
530	石製品	C-34	483	#	7.8	8.2	5.7	380.0	粗粒安山岩	
531	鉄器・鍔	H-6	75	欠損	—	2.6	0.5	10.0		
532	# 刀子	H-8	385	#	—	1.8	0.5	9.0		
533	#	H-14	247	#	—	1.2	0.8	4.0		
534	# 刀子	H-18	252	#	—	1.3	0.8	3.0		
535	# #	H-18	252	#	—	1.3	0.8	4.0		534と同一個体
536	# 鋏	H-20	344	#	—	1.2	0.8	3.0		
537	# #	H-20	75	#	—	1.6	0.8	6.0		
538	# #	H-20	205	#	—	0.9	1.2	5.0		
539	# 鍔	H-20	344	#	—	3.1	0.5	11.0		
540	#	H-22	137	#	—	2.7	0.5	10.0		木質部残存
541	#	H-22	222	#	—	2.1	0.5	4.0		
542	#	H-22	210	#	—	2.6	0.5	9.0		
543	# 鉄鋤	H-28	187	一部欠損	15.2	3.1	1.7	—		保存処理中
544	#	H-25	103	欠損	—	1.5	0.8	3.0		
545	# 刀子	H-34	577	#	—	1.6	0.5	4.0		
546	# #	H-34	577	#	—	1.2	0.4	4.0		
547	# #	H-34	振り方C	#	—	1.8	0.4	20.0		546と同一個体
548	#	H-35	2336	#	—	2.2	0.9	19.0		赤色塗彩
549	#	H-40	98	#	—	2.4	1.3	88.0		木質部残存
550	#	H-40	328	#	—	2.4	0.8	54.0		木質部残存 549と同一個体
551	# 鍔	H-40	—	#	—	3.8	0.4	29.0		
552	# 刀子	H-53	162	#	—	1.6	0.4	11.0		
553	#	H-54	65	#	—	3.2	2.7	36.0		
554	# 刀子	H-55	824	#	—	1.6	0.5	18.0		
555	# 鍔	H-55	450	#	—	3.6	1.4	33.0		
556	#	H-55	9	#	—	2.9	1.1	18.0		
557	#	X105Y119G	—	#	—	0.7	0.5	6.0		
558	#	W-8	—	#	—	1.8	1.0	9.0		
559	#	X118Y146G	—	#	—	2.2	2.9	12.0		
560	# 表採	—	—	#	—	2.1	1.4	3.0		

Fig.1 柳久保遺跡群の位置(丸印)



Fig.2 柳久保遺跡群の位置図





遺跡群名	道路名(ふりがな)	略称	調査年度	掲載報告書名
柳久保遺跡群 (やなぎくぼ いせきぐん)	下鶴谷道路(しもつるがやいせき)	E 1	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・IV・V
	柳久保道路(やなぎくぼいせき)	E 2	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・VI(本報告)・VII
	蹴跡道路(すわいせき)	E 3	昭和60年度	柳久保遺跡群 III
	中鶴谷道路(なかつるがやいせき)	E 4	昭和61・62年度	柳久保遺跡群 VI
	蹴無道路(かしらなしいせき)	E 5	昭和62年度	柳久保遺跡群 VII
	柳久保水田社(やなぎくぼすいでんし)	E 6	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・III・IV・VII(本報告)

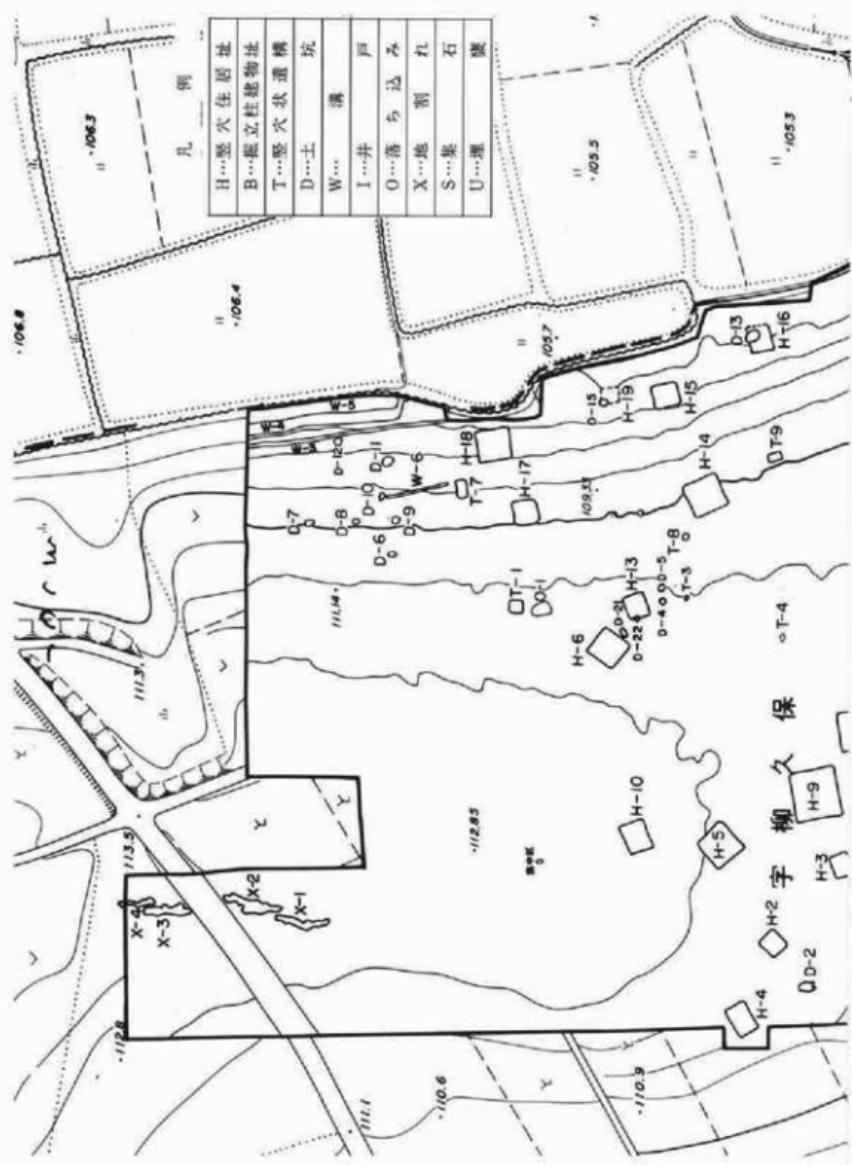
Fig. 3 柳久保遺跡群周辺図(1/5,000)

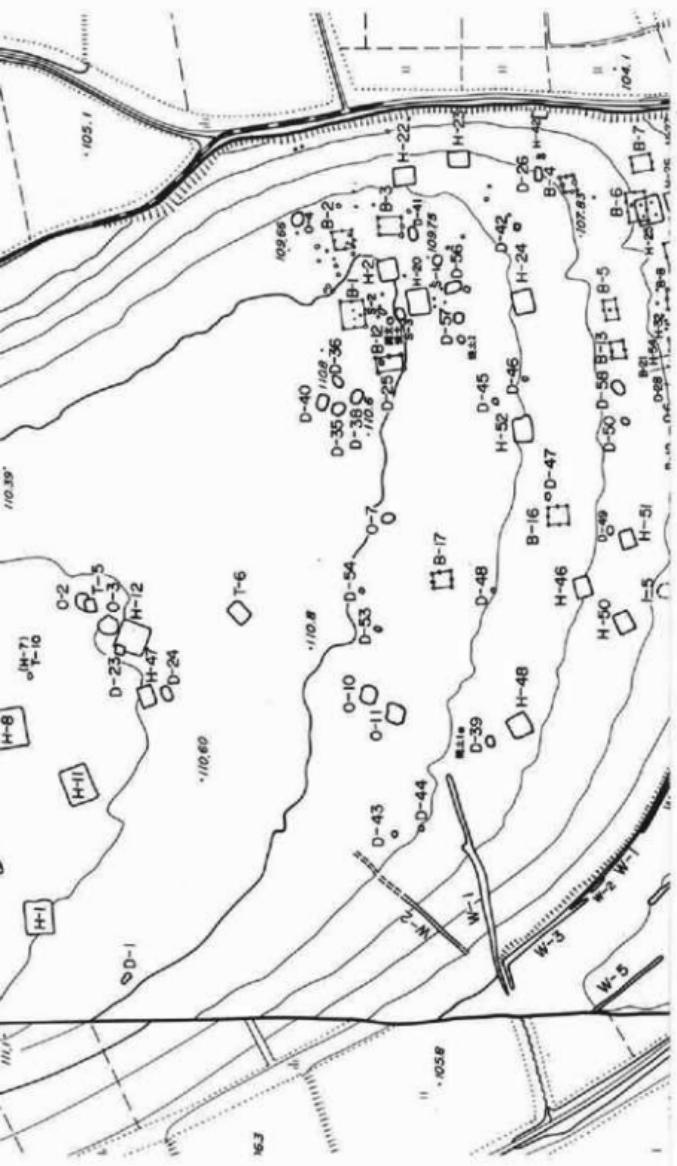


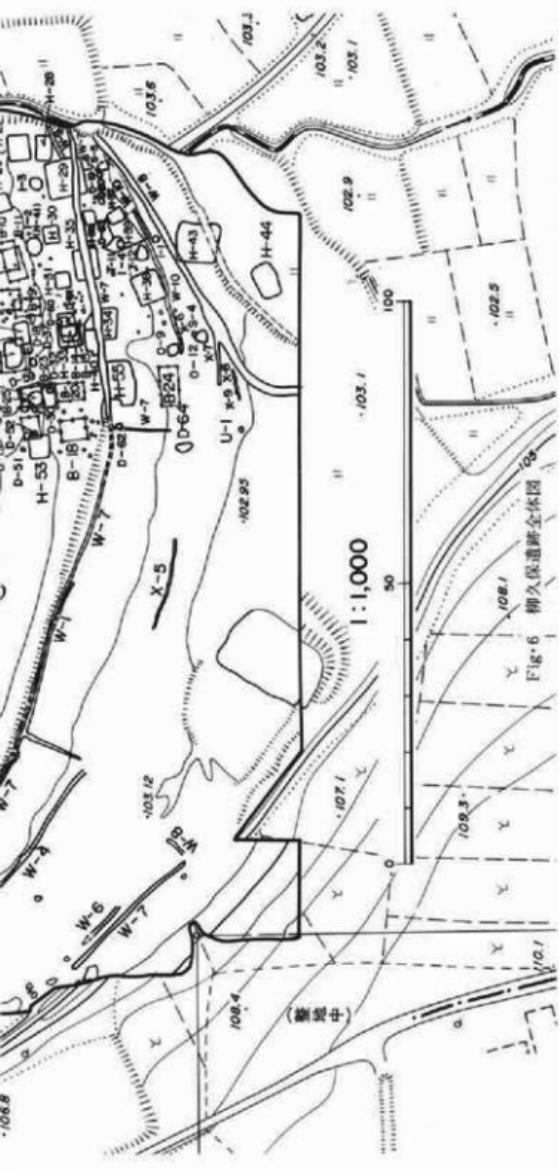
№	検出された時代と遺跡の種類					掲載報告書名	№	検出された時代と遺跡の種類					掲載報告書名
	古石器	縄文	弥生	古墳	BB~FF	水田		古墳	BB~FF	水田	古墳		
1				○	○		15	○	○		○		柳久保遺跡群Ⅲ
2				○			16	○			○		柳久保遺跡群Ⅳ・V
3							17				○		柳久保遺跡群Ⅶ
4	○	○	○			○	18			○	○		柳久保遺跡群Ⅰ
5				○			19				○		柳久保遺跡群Ⅰ
6				○			20	○	○	○	○		柳久保遺跡群Ⅳ
7	○			○			21	○	○	○	○		柳久保遺跡群Ⅳ
8				○			22	○			○		柳久保遺跡群Ⅳ
9	○	○	○	○	○	○	23				○		柳久保遺跡群Ⅳ
10	○	○	○	○	○	○	24				○		柳久保遺跡群Ⅳ
11	○	○	○	○	○	○	25	○	○	○	○		柳久保遺跡群Ⅳ
12	○	○	○	○	○	○	26				○		柳久保遺跡群Ⅶ
13	○	○	○	○	○	○	27				○		柳久保遺跡群Ⅶ
14													

注) 柳久保遺跡群Ⅱは試掘報告書である。

Fig. 4 柳久保遺跡群調査経過図(1/4,000)









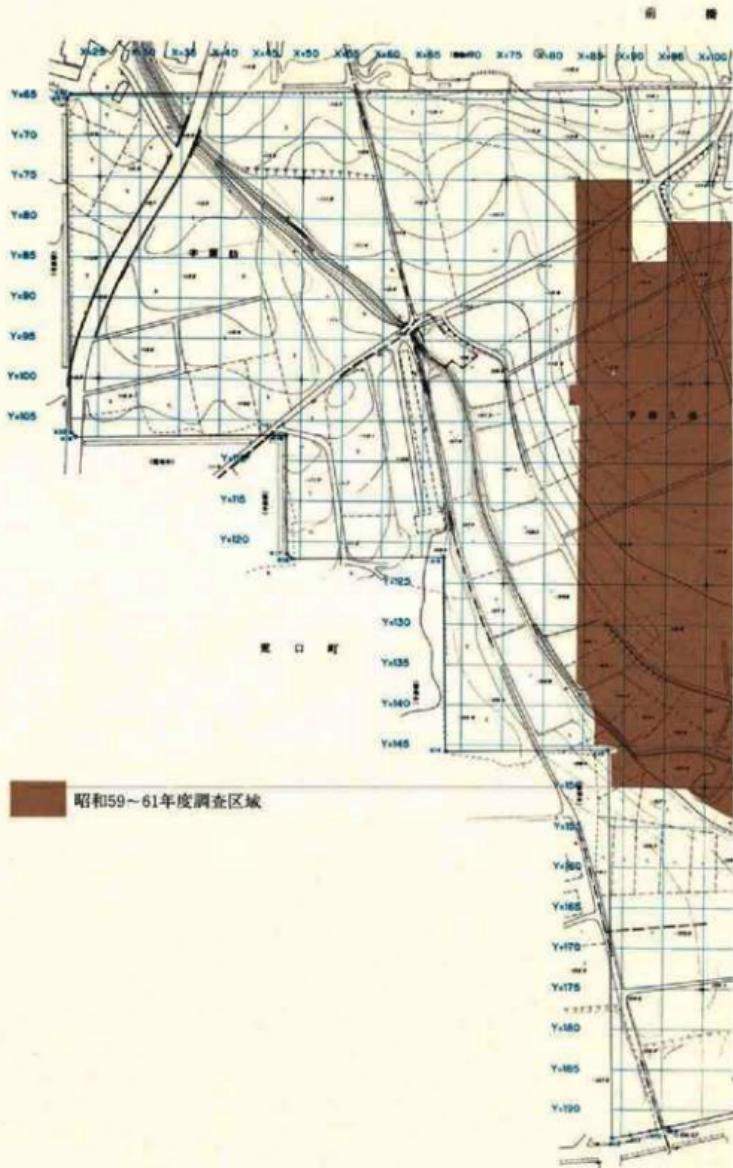
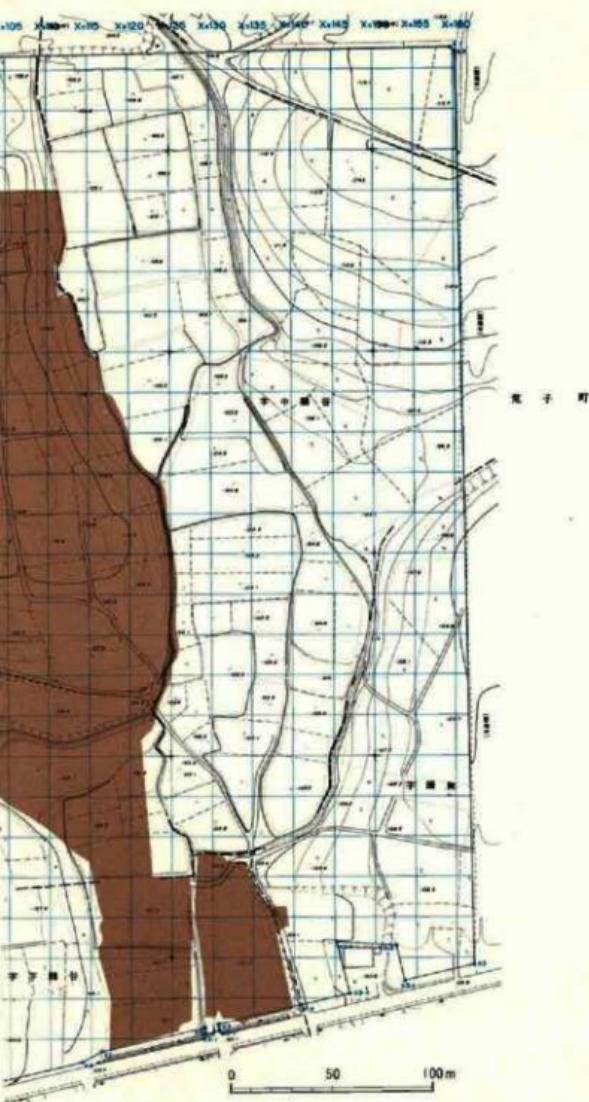
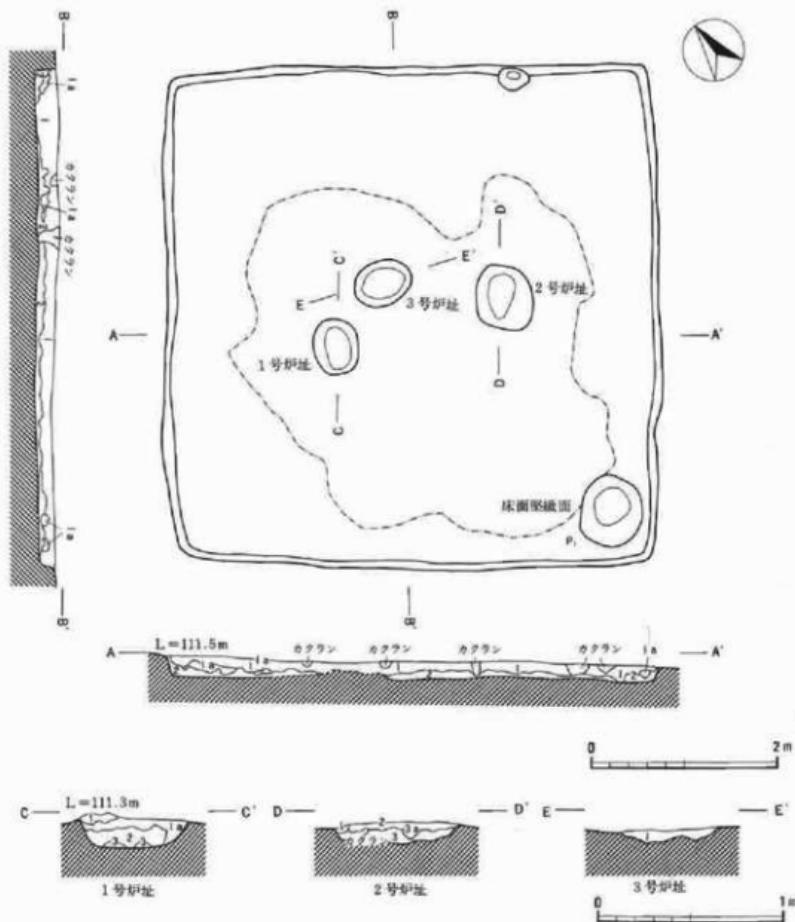


Fig. 5 柳久保流域



某群调查区域图(1/2,750)



6号住居址層序説明 1号炉址層序説明

- 1 層 暗褐色粗砂層。1 層 黑褐色粗砂層。
 1a 層 黑褐色粗砂層。1a 層 明黄褐色細砂層。燒土を含む。
 1b 層 黑褐色土層。2 層 明赤褐色細砂層。燒土層。
 2 層 棕色土層。3 層 黃褐色微砂層。燒土を若干含む。3 層 明赤褐色細砂層。
 3a 層 橙色細砂層。

2号炉址層序説明

- 1 層 暗褐色粗砂層。1 层 棕褐色粗砂層。燒土を若
干含む。

3号炉址層序説明

- 1 層 棕褐色細砂層。燒土を若干含む。

Fig. 7 H-6号住居址(1/30・1/60)

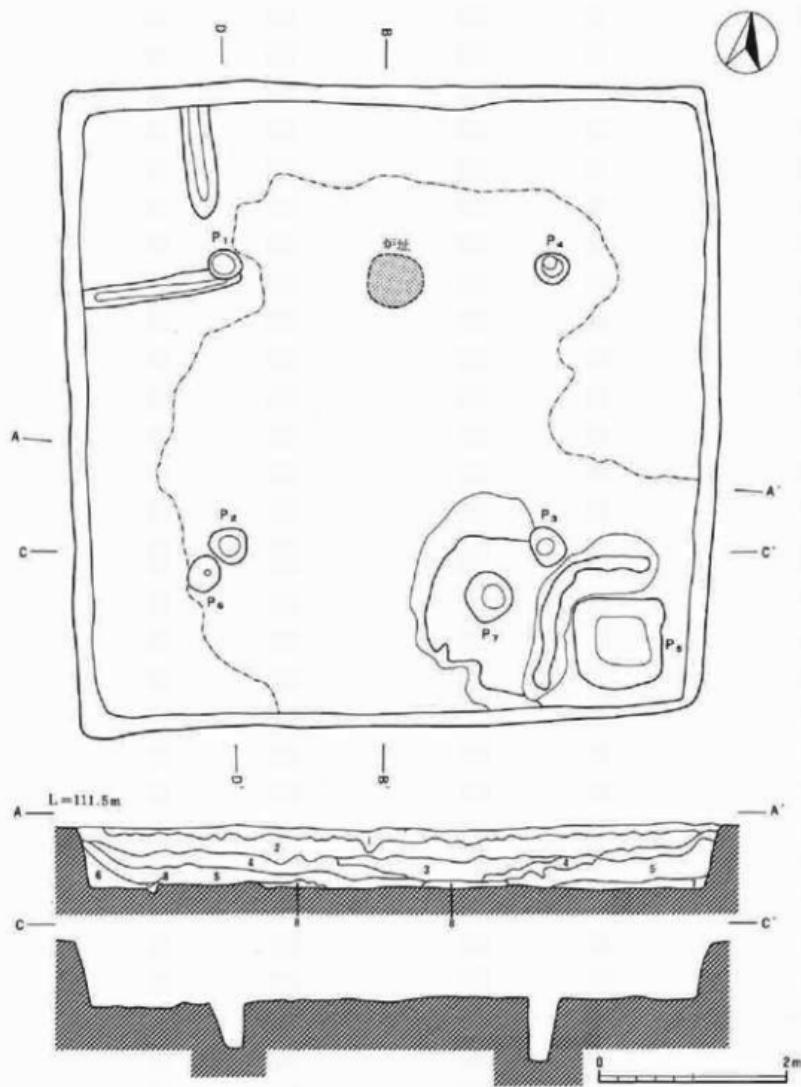


Fig. 8 H-8号住居跡(1/60)

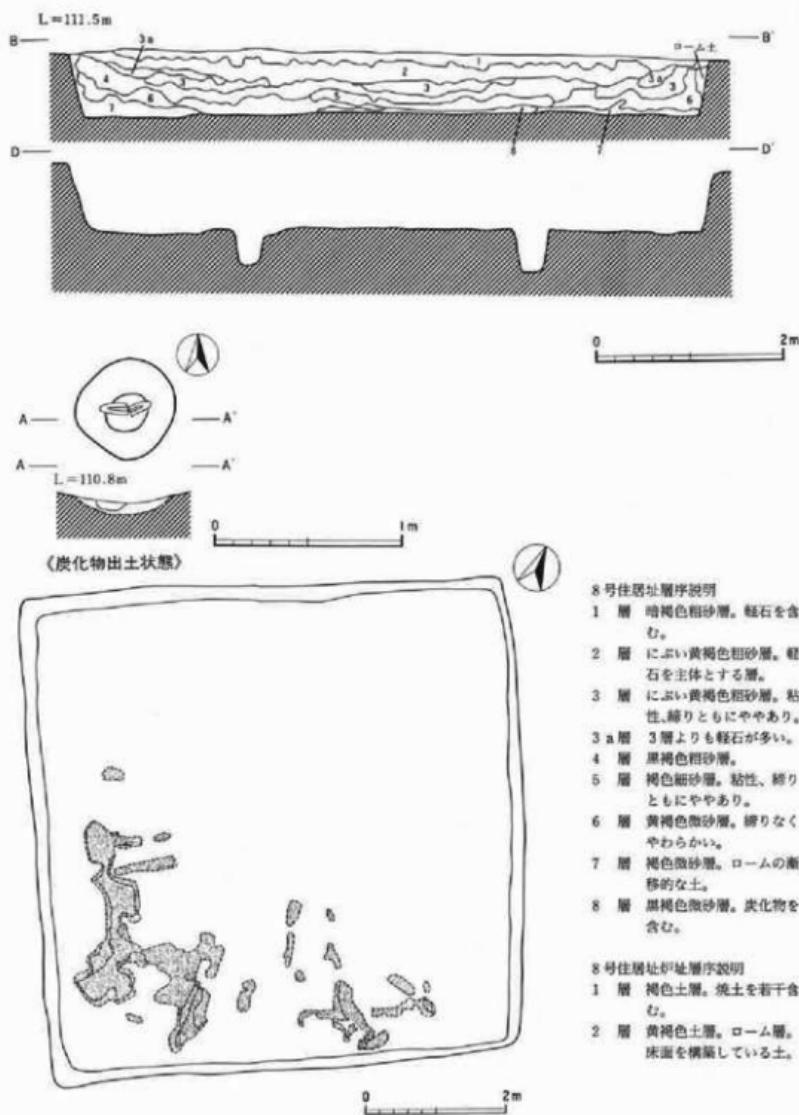
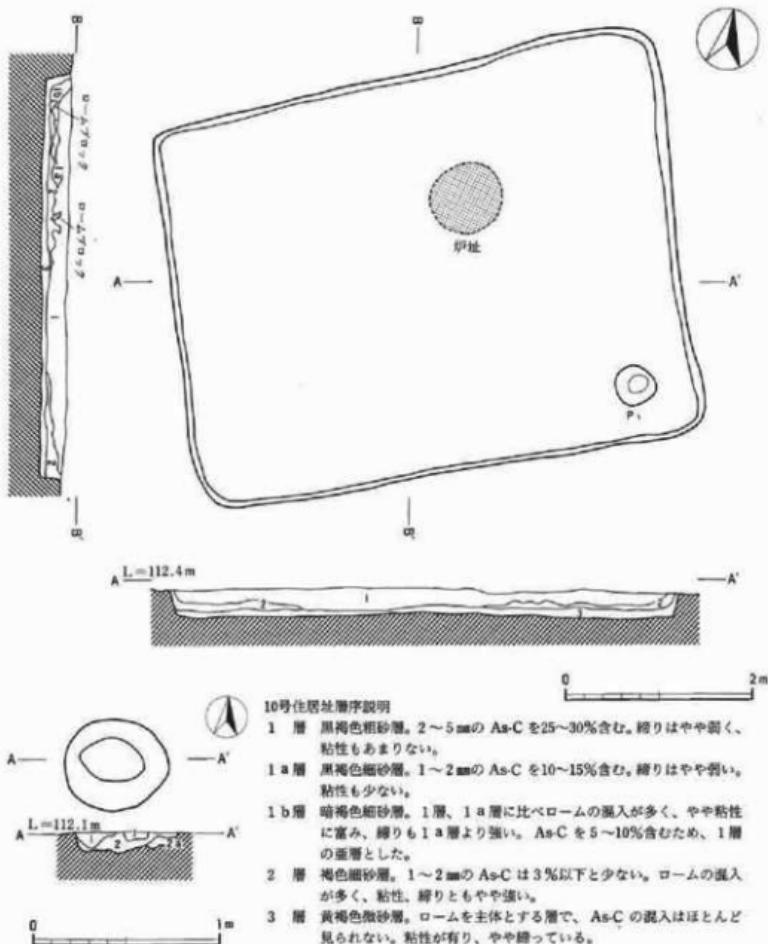


Fig. 9 H-8号居住址(1/30・1/60・1/80)



10号住居址層序説明

- 1 層 褐色細砂層。φ1~2mmの軽石（淡黄系）20%、黒褐色土と焼土が混じった層。粘性、締りとも悪い。
- 2 層 明褐色細砂層。φ1~2mmの軽石（淡黄系）5%、1~2 a層中一番強く接着している層。粘性、締りとも悪い。
- 3 層 黄褐色細砂層。φ1~2mmの軽石（淡黄系）5%、2層と同じ構成を持つが、焼土化が弱い。粘性、締りとも悪い。

Fig. 10 H-10号住居址(1/30・1/60)

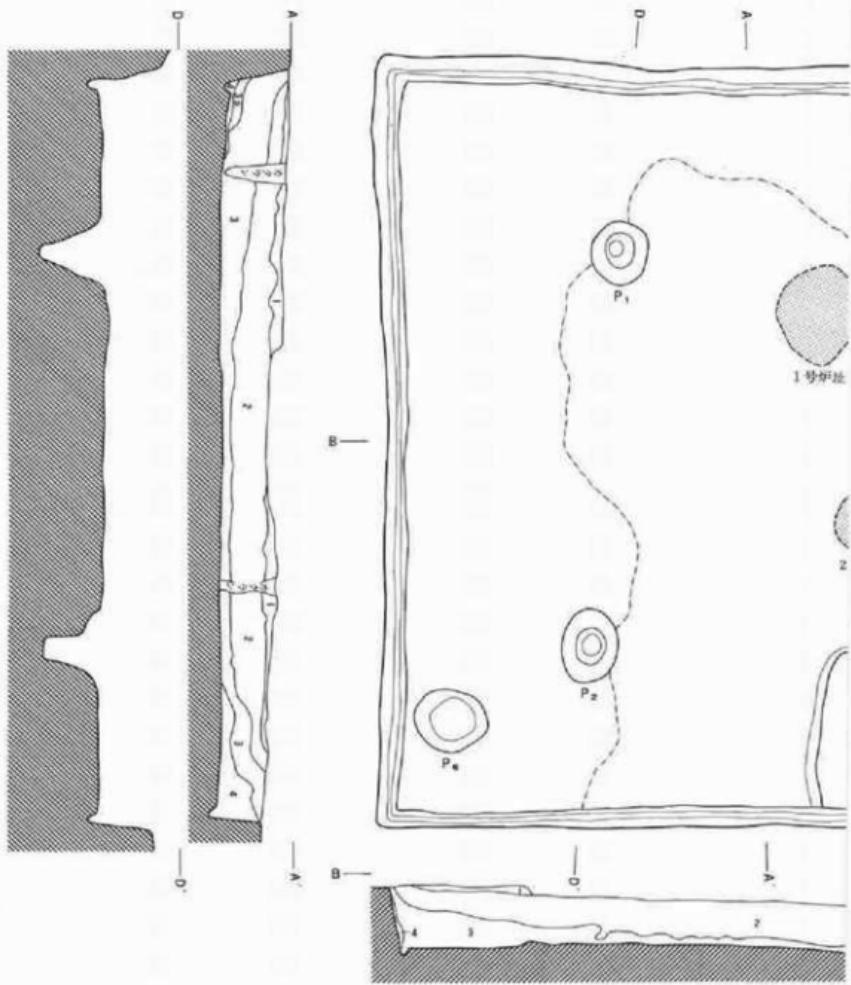
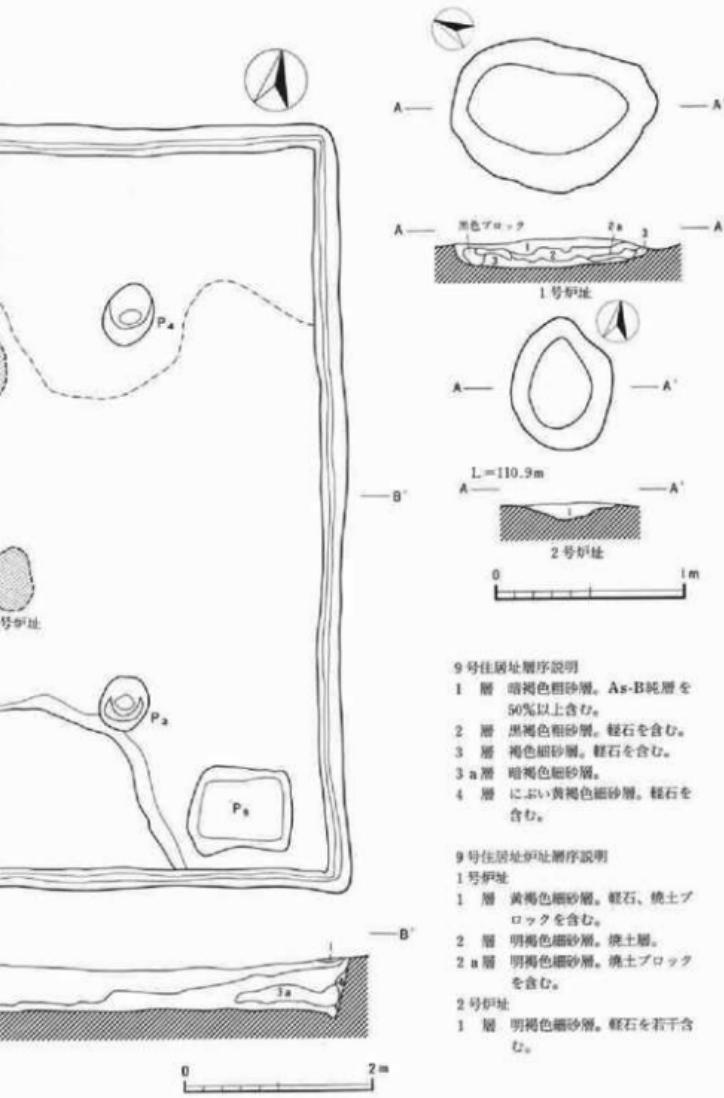


Fig. 11 H-9号住居址



9号住居址層序説明

- 1 層 暗褐色細砂層。As-B純層を
50%以上含む。
- 2 層 黒褐色粗砂層。軽石を含む。
- 3 層 褐色細砂層。軽石を含む。
- 3a層 暗褐色細砂層。
- 4 層 にぶい黄褐色細砂層。軽石を
含む。

9号住居址炉址層序説明

- 1号炉址
 - 1 層 黄褐色細砂層。軽石、焼土ブ
ロックを含む。
 - 2 層 明褐色細砂層。焼土層。
 - 2a層 明褐色細砂層。焼土ブロック
を含む。
- 2号炉址
 - 1 層 明褐色細砂層。軽石を若干含
む。

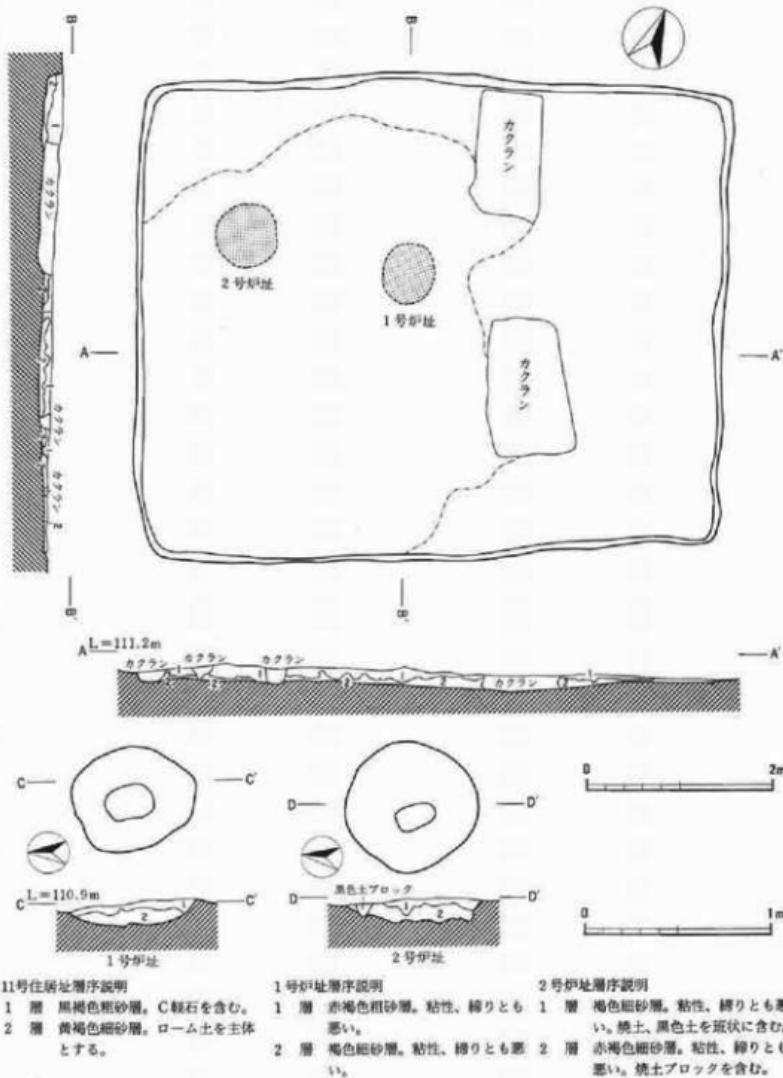


Fig. 12 H-11号住居址(1/30・1/60)

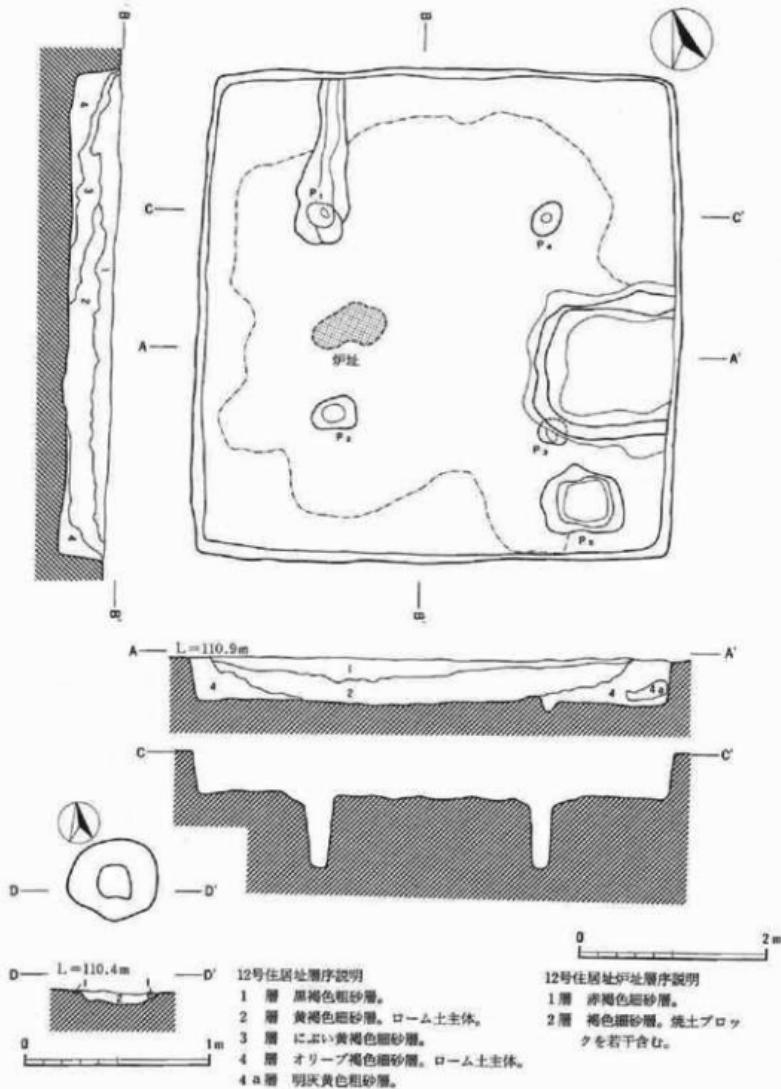


Fig. 13 H-12号居住址(1/60)

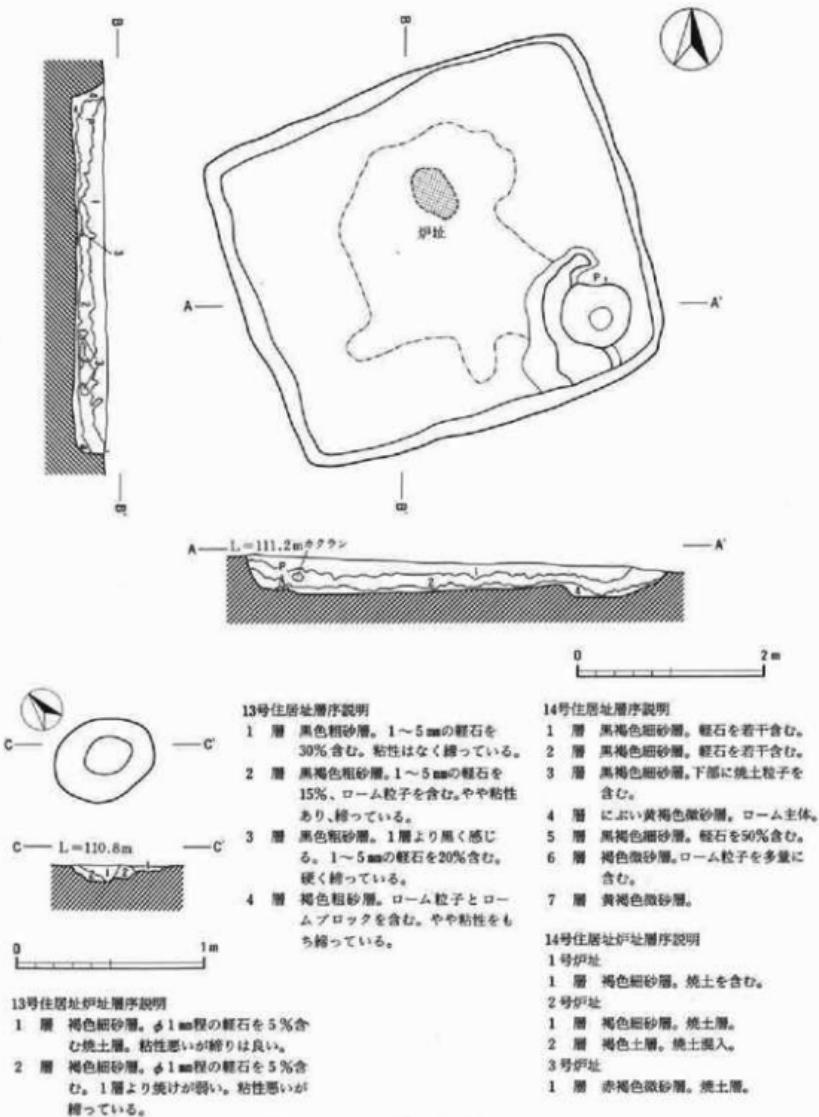


Fig. 14 H-13号住居址(1/30・1/60)

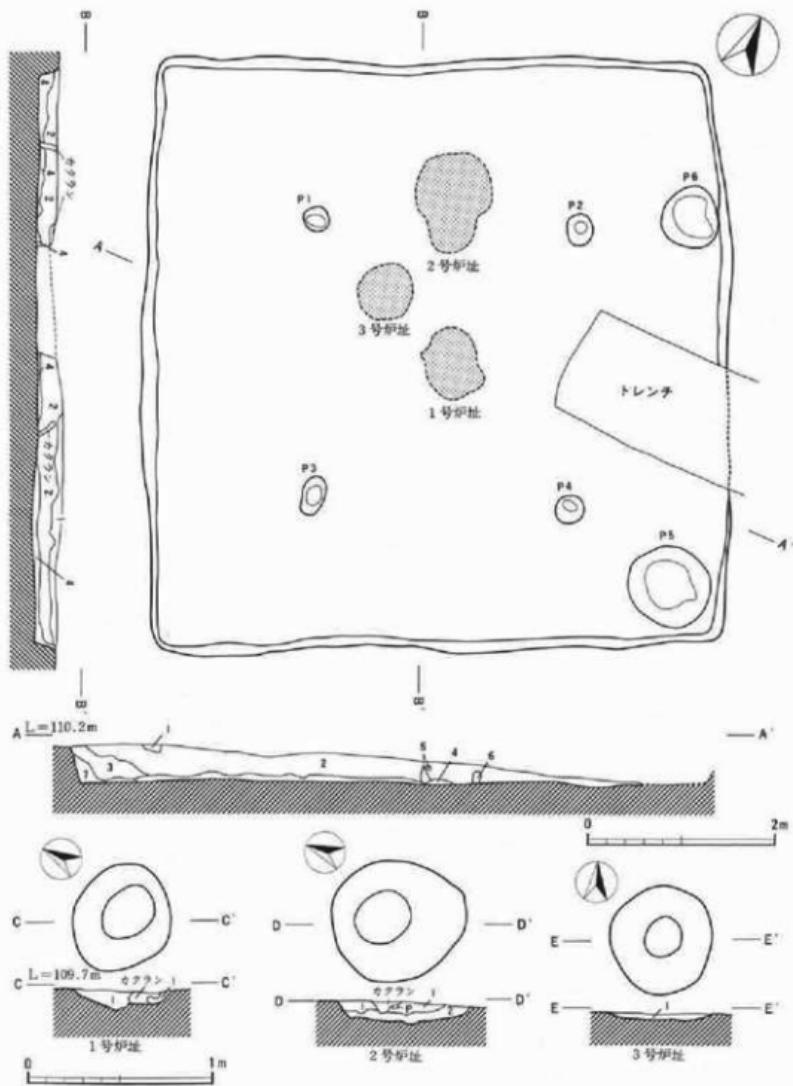


Fig. 15 H-14号住居址 (1/30・1/60)

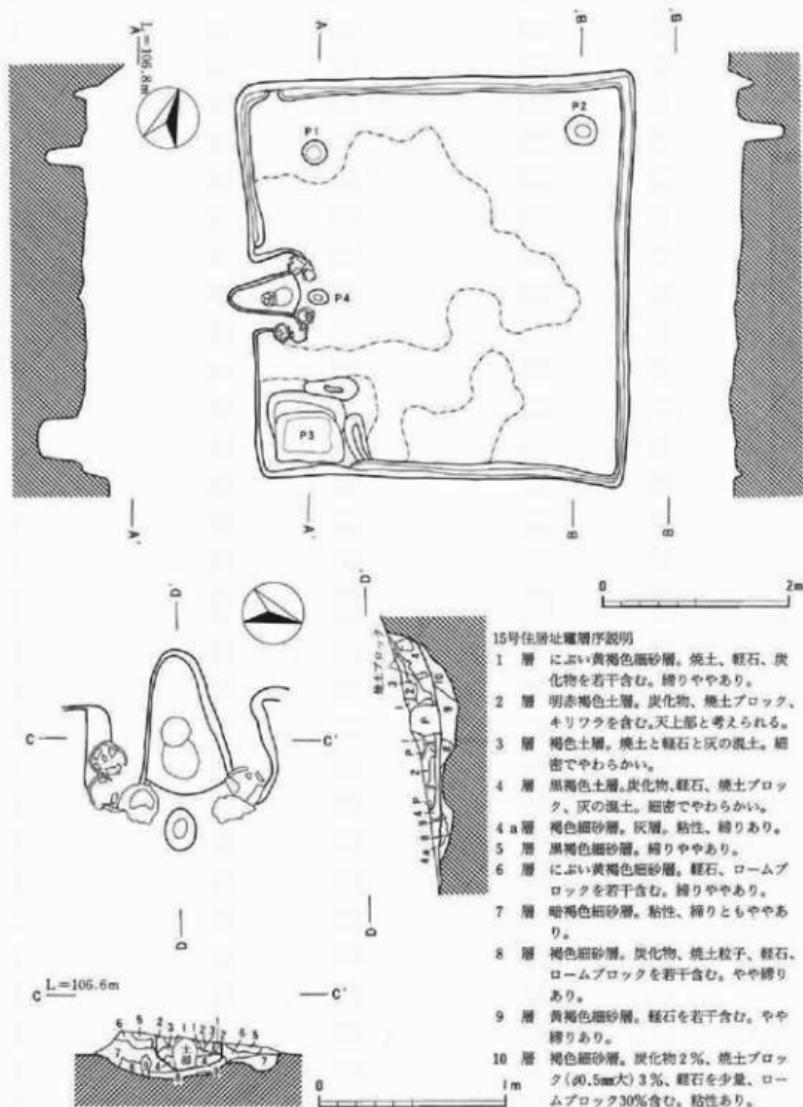
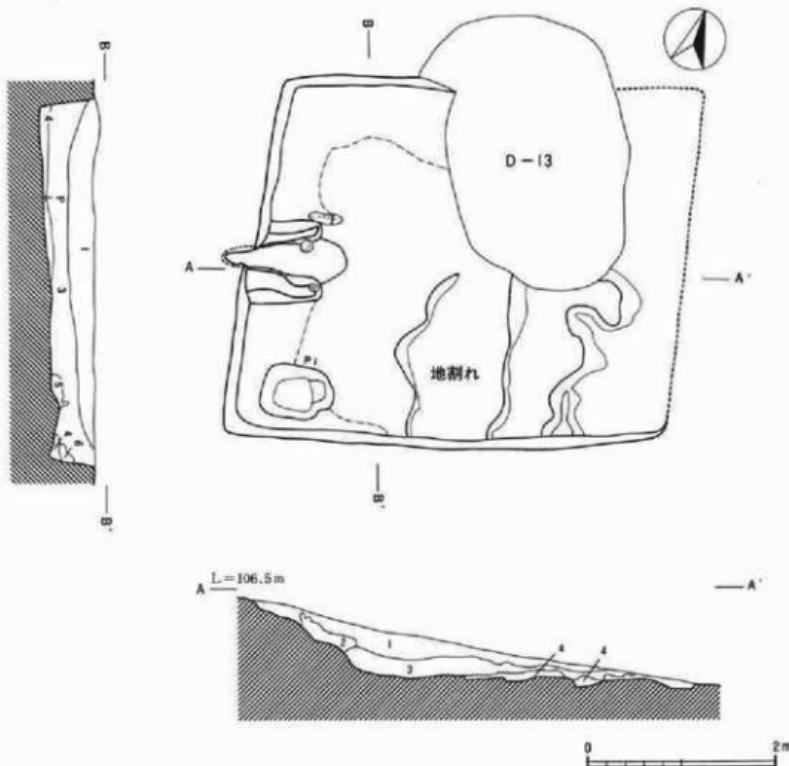


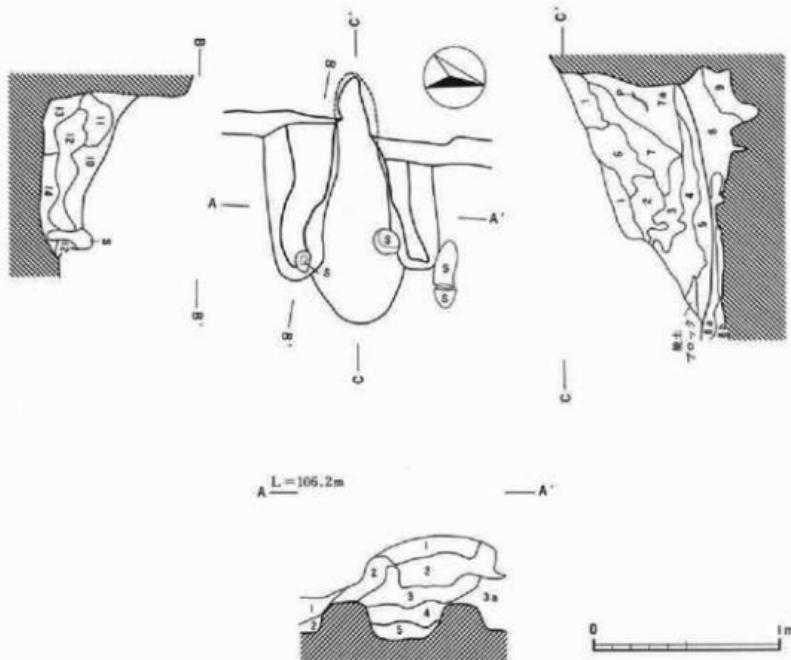
Fig. 16 H-15号住居址(1/30・1/60)



16号住居址層序説明

- 1 層 黒色細砂層。φ1～4mmの軽石を20%とローム粒子を含む。固く緻る。
- 2 層 暗褐色土層。電構築に使用された土。細砂、ローム粒子、焼土粒子とφ1～2mmの軽石を含む。
- 3 層 暗褐色細砂層。φ1～4mmの軽石を15%とローム粒子及びロームブロック(φ5mm)を含む。固く緻る。
- 4 層 黒褐色微砂層。φ1mmの軽石を1%以下。緻っている。1～3層に比べ粘性を有す。上面に土片をもつ。
- 5 層 褐色土層。ローム粒子とロームブロック(面く縛っている。)を主体とする。
- 6 層 喧赤褐色細砂層。燒土ブロック、燒土粒、炭化物粒を主体とする。

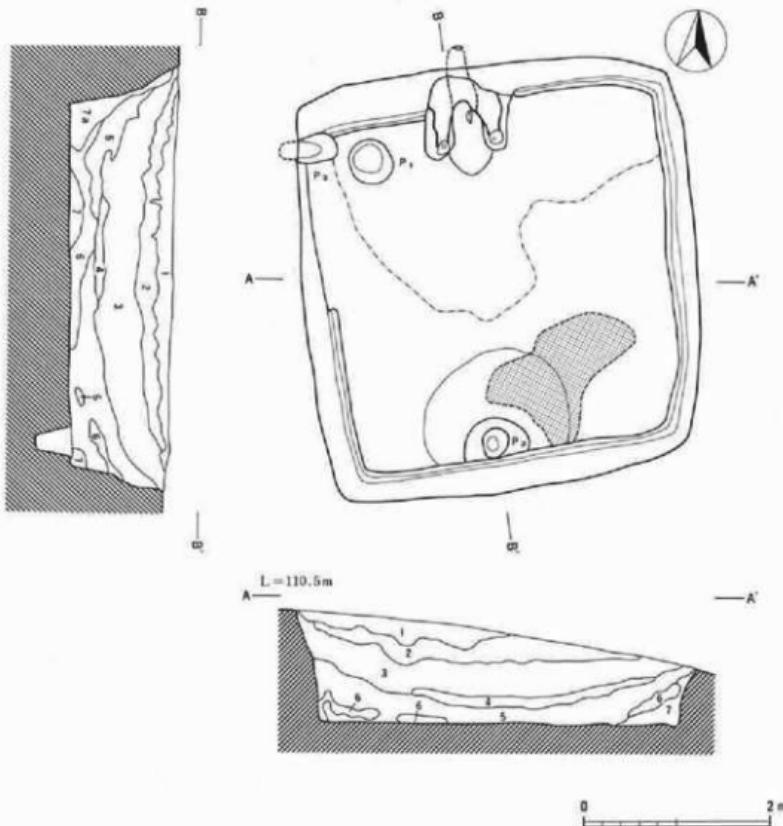
Fig. 17 H-16号住居址(1/60)



16号住居址電離子序説明

- | | |
|--|---|
| 1 層 黄褐色微砂層。ローム粘土70%、軽石10%、焼土5% 含む。粘性、縛りともあり。 | 8 a 層 増オリーブ褐色細砂層。軽石3%、焼土、灰10%含む。一部帶状に赤化している。粘性強い。 |
| 2 層 黒褐色細砂層。ローム20%、軽石10%、焼土5%含む。粘性、縛りともややあり。 | 8 b 層 オリーブ黒色細砂層。粘性強く縛りあり。 |
| 3 層 オリーブ褐色粘土層。粘土70%、軽石10%、焼土5%含む。粘性、縛りともあり。 | 9 層 増オリーブ色細砂層。粘性強く縛り弱い。ローム30%含む。 |
| 3 a 層 黑褐色細砂層。2層と類似。ロームを5%程度含む。 | 10 層 褐色細砂層。ローム粒子15%、焼土10%、軽石5%含む。粘性有し、縛りが強い。 |
| 4 层 黑褐色細砂層。2層と類似。軽石5%、焼土5%、ロー
ム30%含む。 | 11 層 褐色細砂層。ローム粘土が主体。粘性極めて強い。
縛りあり。 |
| 5 层 褐色細砂層。焼土20%、灰10%含む。粘性有し、縛り
ややあり。 | 12 层 明赤褐色微砂層。粘土が赤化した層。純粘土層が30%を占める。 |
| 6 层 暗赤褐色土層。軽石20%、焼土20%、ローム30%含む。
粘性、縛りともあり。 | 13 层 増褐色微砂層。軽石5%含む。粘性強く、縛りあり。 |
| 7 层 赤褐色土層。軽石5%、焼土40%、ローム10%含む。
粘性、縛りともあり。 | 14 层 オリーブ褐色微砂層。軽石10%、ローム20%含む。
粘性強く、縛りあり。 |
| 7 a 层 暗赤褐色土層。焼土20%、灰、ローム若干含む。 | |
| 8 层 オリーブ褐色細砂層。軽石5%、焼土3~5%含む。
粘性強く、縛り弱い。 | |

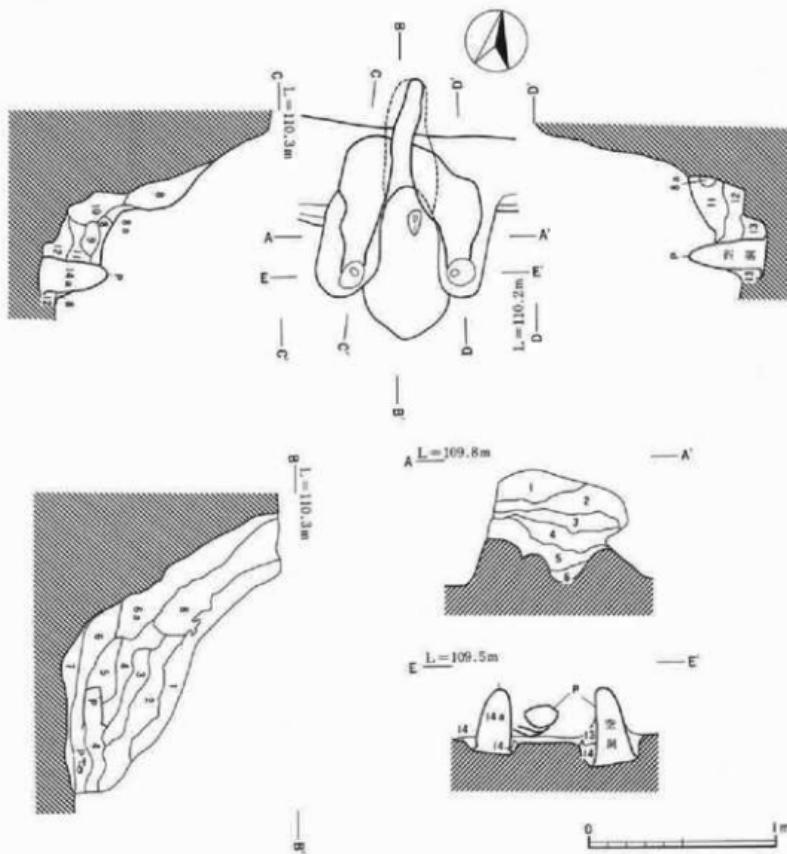
Fig. 18 H-16号住居址(1/30)



17号住居址層序説明

- 1 層 褐灰色粗砂層。As-Bを主体とする層。
- 2 層 黒色細砂層。特に、黒く帯状に見える層。φ3~4 mmの軽石を5%含む。硬く結っている。所々に砂粒をブロック状に含む。
- 3 層 黒褐色粗砂層。φ1~2 mmの軽石を2%、φ5~10 mmの軽石を2%、ローム粒子を含む。
- 4 層 黒色粗砂層。綿りなし。
- 5 層 灰褐色細砂層。φ2~3 mmの軽石を5% (東半分)、焼土粒若干含む。ローム粒子は西側方に多くみられる。
- 6 層 黑褐色細砂層。φ2~3 mmの軽石を3%、若干のローム粒を含む。構っている。中央部は、砂質が強い。
- 7 層 暗褐色細砂層。ローム粒子を多量に含む。若干の焼土粒あり。やや粘性あり。
- 7a 層 褐色微砂層。ローム粒子を多量に含む。若干の焼土粒あり。やや粘性あり。7層より黑色土粒の率が高い。
- 8 層 灰褐色細砂層。ローム粒子、焼土粒、ロームブロック、(φ1~1.5 mm)、炭化物粒 (φ0.5~1 cm) を2ヶを含む。

Fig. 19 H-17号住居址(1/60)



17号住居址地質図説明

- 1 層 にいよい黄褐色粗砂層。焼土 5% 含む。
- 2 層 棕褐色細砂層。ローム 20%、焼土 10% 含む。
- 3 層 オリーブ褐色細砂層。ローム 60%、焼土 5% 含む。
- 4 層 黒褐色泥層。砂が主体。
- 5 層 黄褐色細砂層。
- 6 層 棕褐色細砂層。灰を若干含む。
- 6# 層 赤褐色細砂層。焼土 70% 含む。灰を若干含む。
- 7 層 にいよい赤褐色細砂層。炭化物若干含む。
- 8 層 棕褐色細砂層。
- 8 a 層 黄褐色微砂層。ローム主体。
- 9 层 明褐色細砂層。焼土 15%。
- 10 层 赤褐色細砂層。焼土 40%、炭化物を若干含む。
- 11 层 明赤褐色細砂層。焼土を主体。炭化物を若干含む。
- 12 层 赤褐色微砂層。焼土 20%。
- 13 层 にいよい赤褐色細砂層。焼土、炭化物を若干含む。
- 14 层 棕褐色細砂層。ローム主体。
- 14 a 层 棕褐色細砂層。土面に充積されたもの。

Fig. 20 H-17号住居址(1/30)

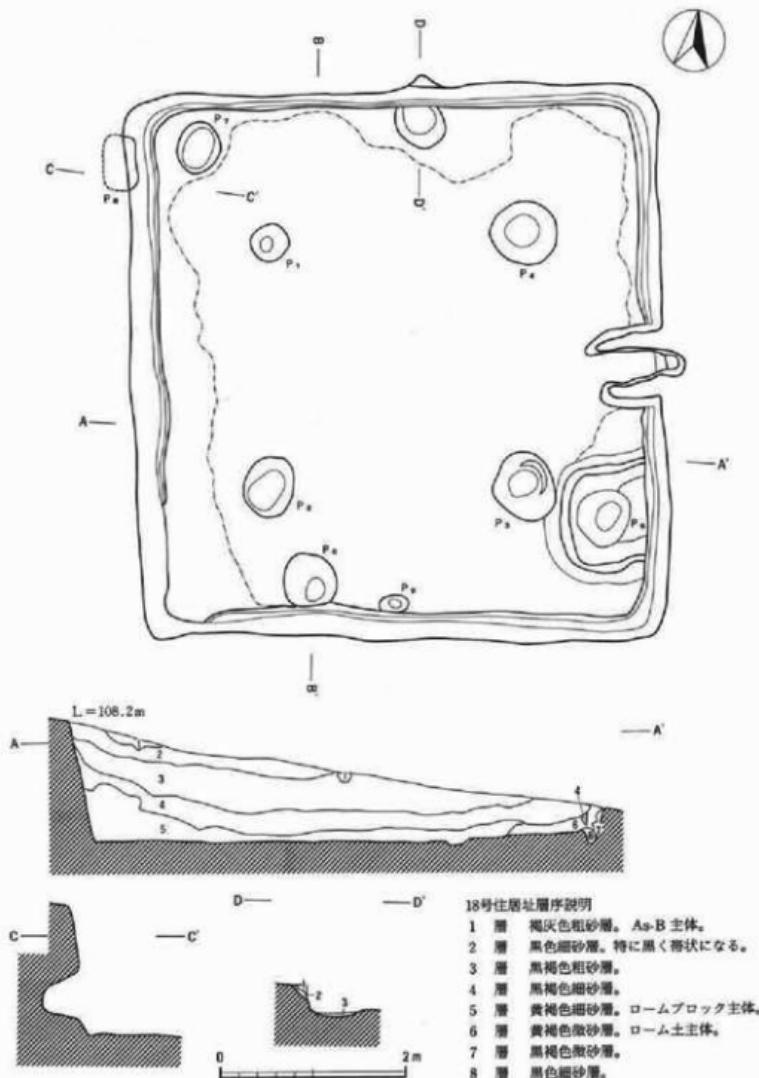
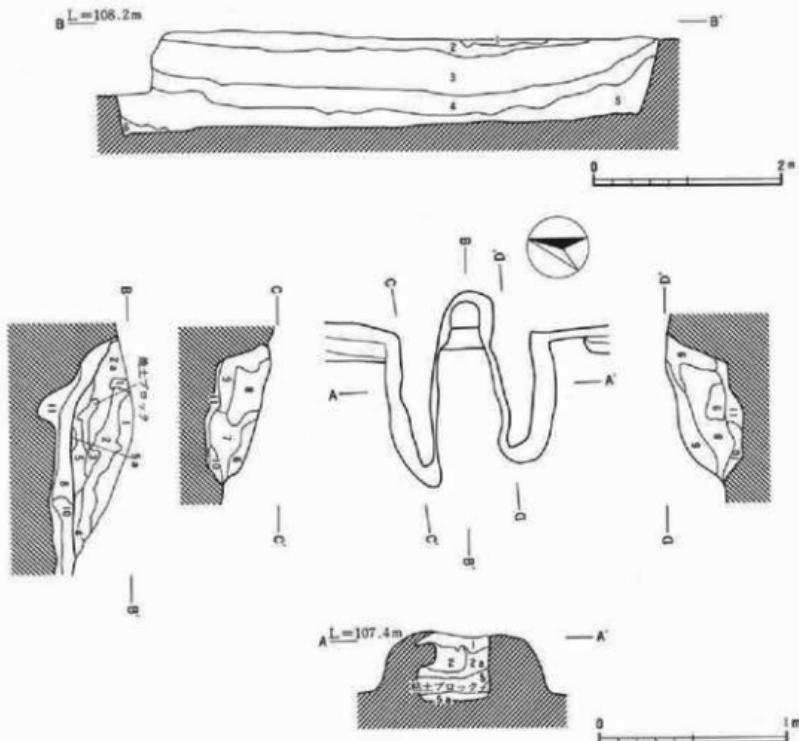


Fig. 21 H-18号住居址(1/60)



18号住居址地層序説明

- 褐色細砂層。軽石を2%、ロームを5%、黒色土を2%程度含む。繊りは良い。粘性はややある。
- 黄褐色細砂層。粒子は一定。軽石を3%、焼土を1%、黒色土10%を含む。繊りは良い。粘性はややある。
- 明黃褐色細砂層。ローム土60%は全体的に赤味を帯びることから燒土的になる。粘性有し、硬く繊っている。
- 暗褐色細砂層。粒子は一定。軽石を1%、ロームを5%程度含む。繊りは良く、粘性はややある。
- 黒褐色細砂層。粒子は一定。軽石を5%、焼土が2%、ロームを2%程度含む。繊り、粘性ともに良い。
- 褐色細砂層。粒子は一定。軽石を5%、焼土が7%含まれる。繊り、粘性ともに良い。
- 褐色細砂層。灰が主体を占める。焼土を10%含む。粘性を有し、硬く繊っている。
- オリーブ褐色細砂層。軽石10%、ローム20%含む。粘性弱く、繊りあり。
- オリーブ褐色細砂層。軽石5%、ローム5%、焼土5%含む。粘性弱く、繊りあり。
- 椎色細砂層。ローム70%、焼土30%、炭化物5%含む。粘性弱く、繊りあり。
- 明黃褐色細砂層。ローム土90%含む。粘性をやや有し、硬く繊っている。
- 明黃褐色細砂層。住居と繋くことから住居址貼り床土である。ローム60%、黒色土ブロック40%含む。粘性を有し、硬く繊っている。
- 暗オリーブ褐色細砂層。5層と同様に貼り床土。5層に比べ繊りが弱い。ローム30%、黒色土70%のブロックで構成される。

Fig. 22 H-18号住居址(1/30・1/60)

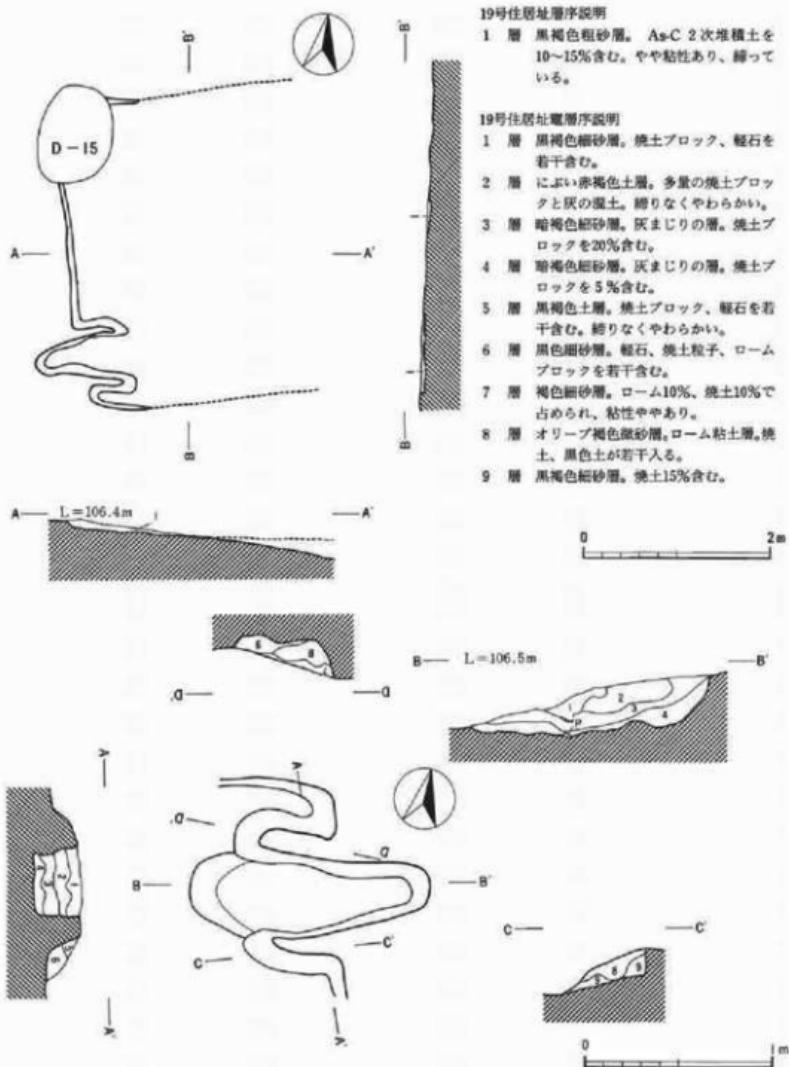
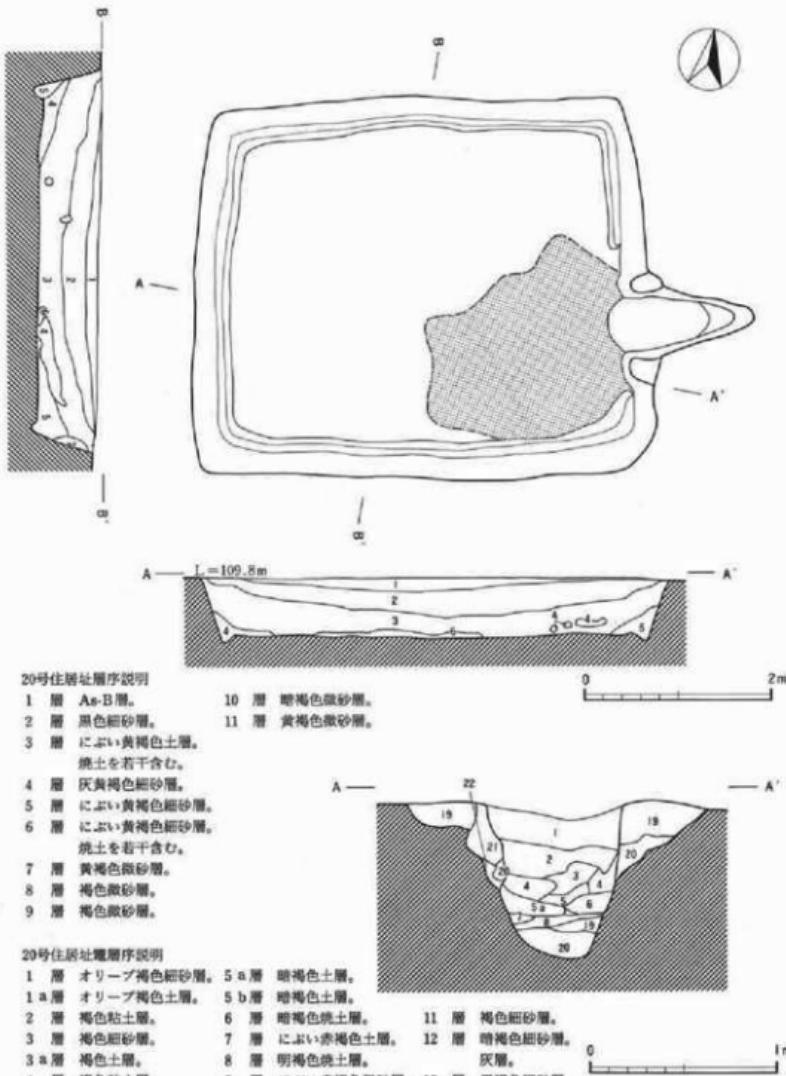


Fig. 23 H-19号住居址(1/30・1/60)



20号住居址層序説明

- | | | | |
|-----|------------------------|------|---------|
| 1 層 | A-B層。 | 10 層 | 暗褐色微砂層。 |
| 2 層 | 黒色細砂層。 | 11 層 | 黃褐色微砂層。 |
| 3 層 | によい黄褐色土層。
燒土を若干含む。 | | |
| 4 層 | 灰黃褐色細砂層。 | | |
| 5 層 | によい黄褐色細砂層。 | | |
| 6 層 | によい黄褐色細砂層。
燒土を若干含む。 | | |
| 7 層 | 黃褐色微砂層。 | | |
| 8 層 | 褐色微砂層。 | | |
| 9 層 | 褐色微砂層。 | | |

20号住居址層序説明

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|------------|
| 1 層 | オリーブ褐色細砂層。5 a 層 | 暗褐色土層。 | |
| 1 a 層 | オリーブ褐色土層。5 b 層 | 暗褐色土層。 | |
| 2 層 | 褐色粘土層。 | 6 層 | 暗褐色燒土層。 |
| 3 層 | 褐色細砂層。 | 7 層 | によい赤褐色土層。 |
| 3 a 層 | 褐色土層。 | 8 層 | 明褐色燒土層。 |
| 4 層 | 褐色粘土層。 | 9 層 | によい赤褐色微砂層。 |
| 5 层 | 暗褐色微砂層。 | 10 層 | によい赤褐色微砂層。 |
| | | 11 層 | 褐色細砂層。 |
| | | 12 層 | 暗褐色細砂層。 |
| | | 13 層 | 黑褐色細砂層。 |
| | | 14 層 | 褐色細砂層。 |

Fig. 24 H-20号住居址(1/30・1/60)

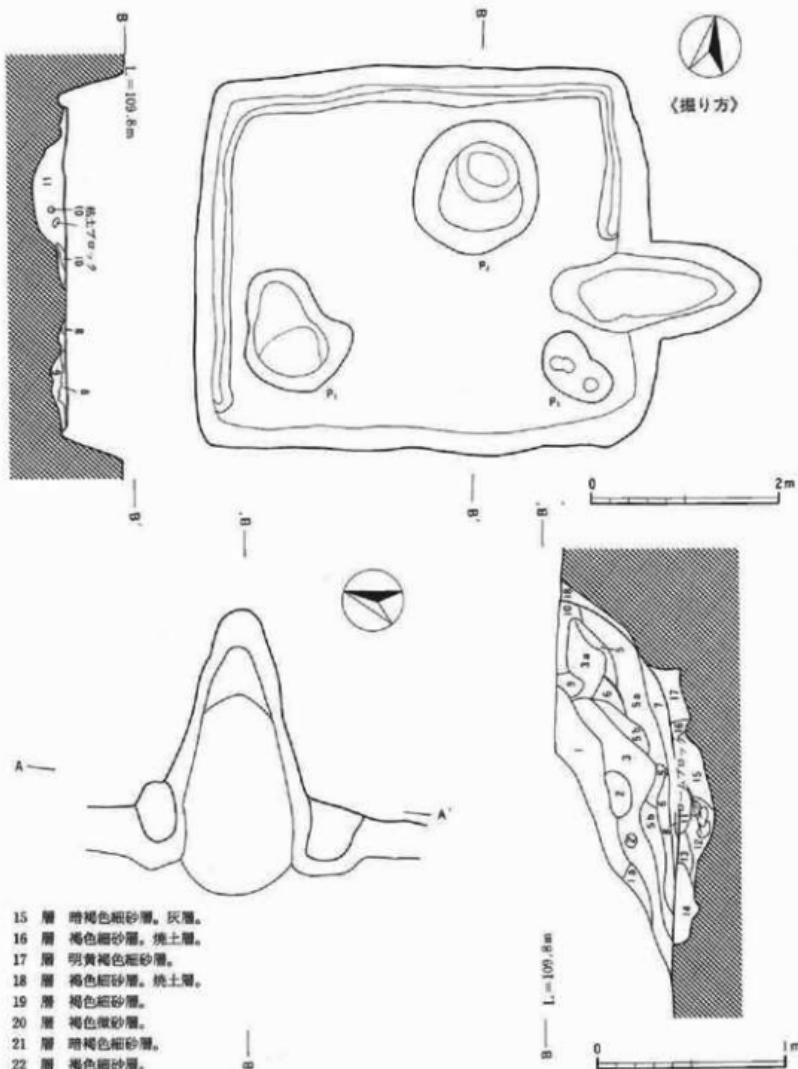


Fig. 25 H-20号住居址 (1/30·1/60)

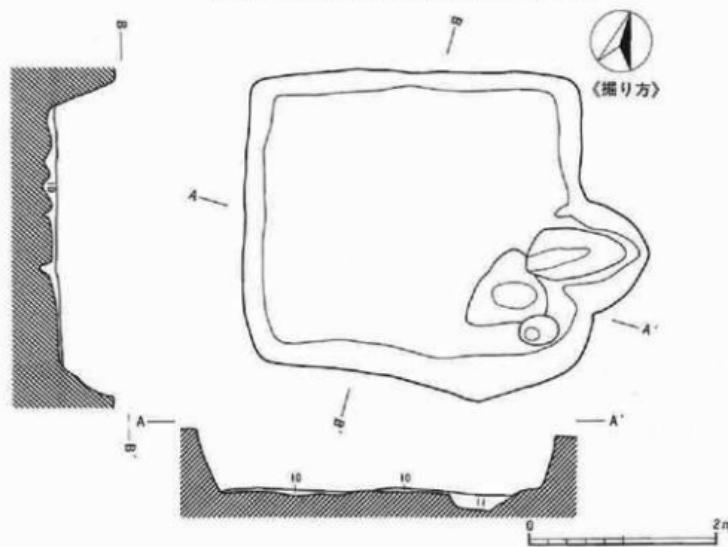
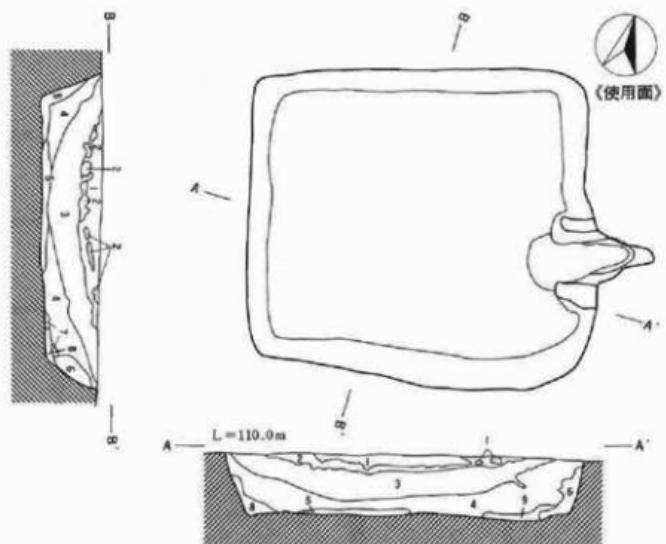
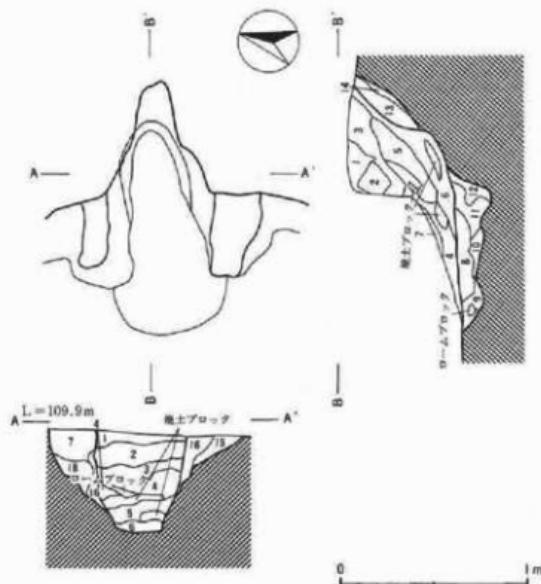


Fig. 26 H-21号住居址(1/60)



21号住居址層序説明

- | | | | |
|-----|-------------------------------|------|-------------------------|
| 1 層 | 暗褐色土層。Bアッシュ。 | 6 層 | 黄褐色微砂層。ソフトローム土。 |
| 2 層 | 暗灰黄色土層。Aa-B層。 | 7 層 | 黒色細砂層。 |
| 3 層 | 黒色細砂層。 | 8 層 | にぶい黄褐色細砂層。 |
| 4 層 | にぶい黄褐色細砂層。炭化物を若干含む。 | 9 層 | 暗褐色微砂層。焼土ブロック、炭化物を若干含む。 |
| 5 層 | 褐色微砂層。ロームブロックを多量に含み。炭化物を若干含む。 | 10 層 | 黄褐色土層。ローム土。 |
| | | 11 層 | 暗褐色微砂層。上部に焼土を若干含む。 |

21号住居址層序説明

- | | | | |
|-----|-------------------------|------|--------------------|
| 1 層 | 暗褐色細砂層。 | 10 層 | 黄褐色細砂層。ローム土を若干含む。 |
| 2 層 | 褐色細砂層。 | 11 層 | 褐色細砂層。焼土を若干含む。 |
| 3 層 | 暗褐色細砂層。焼土を若干含む。 | 12 層 | 黄褐色細砂層。ローム土を若干含む。 |
| 4 層 | 暗褐色細砂層。焼土25%、焼土ブロックを含む。 | 13 層 | 褐色細砂層。焼土ブロックを若干含む。 |
| 5 層 | 褐色微砂層。焼土を主体。 | 14 層 | 褐色細砂層。 |
| 6 層 | にぶい赤褐色微砂層。焼土を主体。焼焼面。 | 15 層 | 褐色細砂層。炭を若干含む。 |
| 7 層 | 暗褐色細砂層。 | 16 层 | 褐色細砂層。焼土を若干含む。 |
| 8 層 | 褐色細砂層。焼土層。 | 17 層 | 褐色細砂層。 |
| 9 層 | 黒褐色微砂層。焼土を若干含む。 | 18 層 | 黄褐色細砂層。 |

Fig. 27 H-21号住居址(1/30)

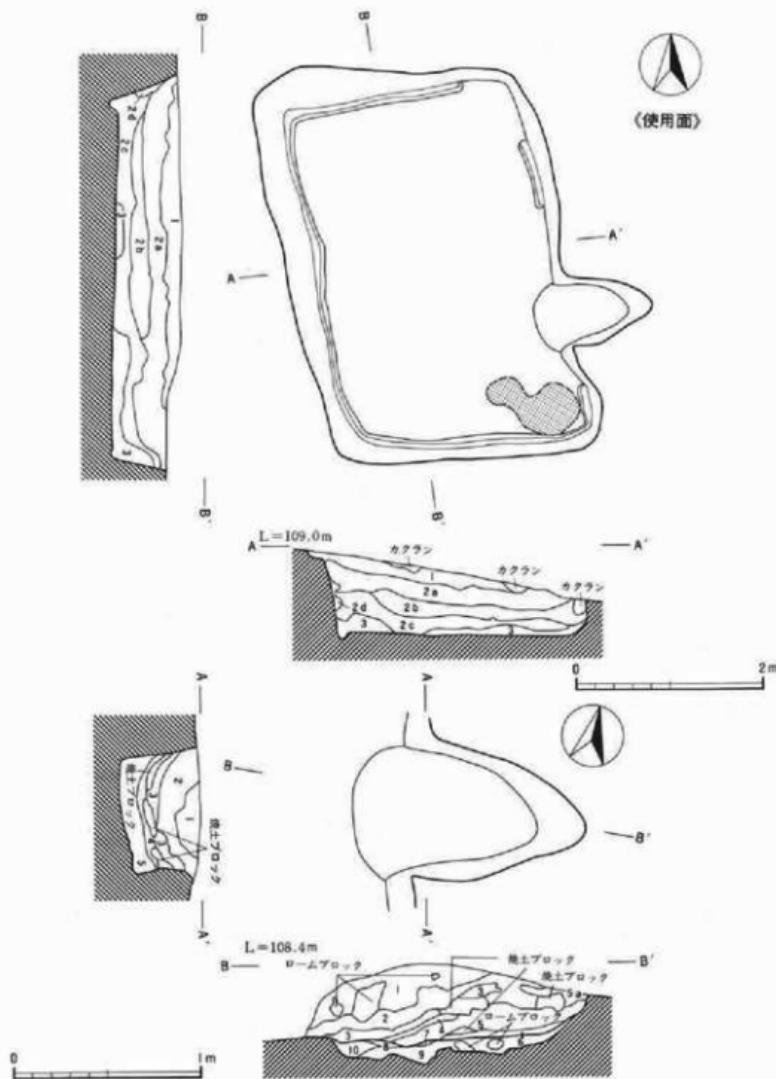
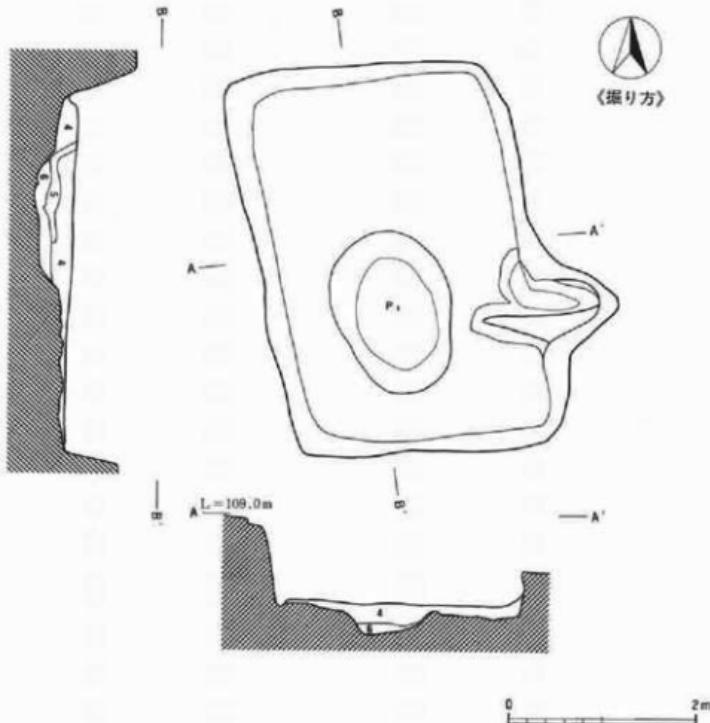


Fig. 28 H-22号住居址(1/30・1/60)



22号住居址層序説明

- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-----|-------------------------|
| 1 層 | 黒褐色粗砂層。 | 3 層 | 褐色細砂層。炭化物は南、東部分に多く含まれる。 |
| 2 a 層 | 褐色粗砂層。 | 4 層 | 褐色細砂層。 |
| 2 b 層 | 褐色細砂層。 | 5 層 | 褐色微砂層。 |
| 2 c 層 | 褐色細砂層。ロームブロックの混入が多い。
炭化物を東部分に多く含む。 | 6 層 | 黄褐色頭砂層。粘土ブロックを若干含む。 |
| 2 d 層 | 黄褐色細砂層。 | | |

22号住居址電離度説明

- | | | | |
|-------|----------------------------|------|-----------------------|
| 1 層 | 明黃褐色細砂層。上部に黑色土、先端部に炭化物を含む。 | 6 層 | 暗褐色細砂層。灰を多量に含む。窓の火床面。 |
| 2 層 | 明褐色細砂層。焼土を若干含む。 | 7 層 | 暗褐色細砂層。焼土を主体。 |
| 3 層 | 明赤褐色細砂層。焼土層。 | 8 層 | 褐色細砂層。焼土を若干含む。 |
| 4 層 | 黒褐色細砂層。焼土を若干含む。 | 9 層 | 褐色微砂層。焼土を若干含む。 |
| 5 層 | 暗褐色細砂層。 | 10 層 | 赤褐色細砂層。貼り床につながる層。 |
| 5 a 層 | に上る赤褐色細砂層。焼土とロームを多量に含む。 | | |

Fig. 29 H-22号住居址(1/60)

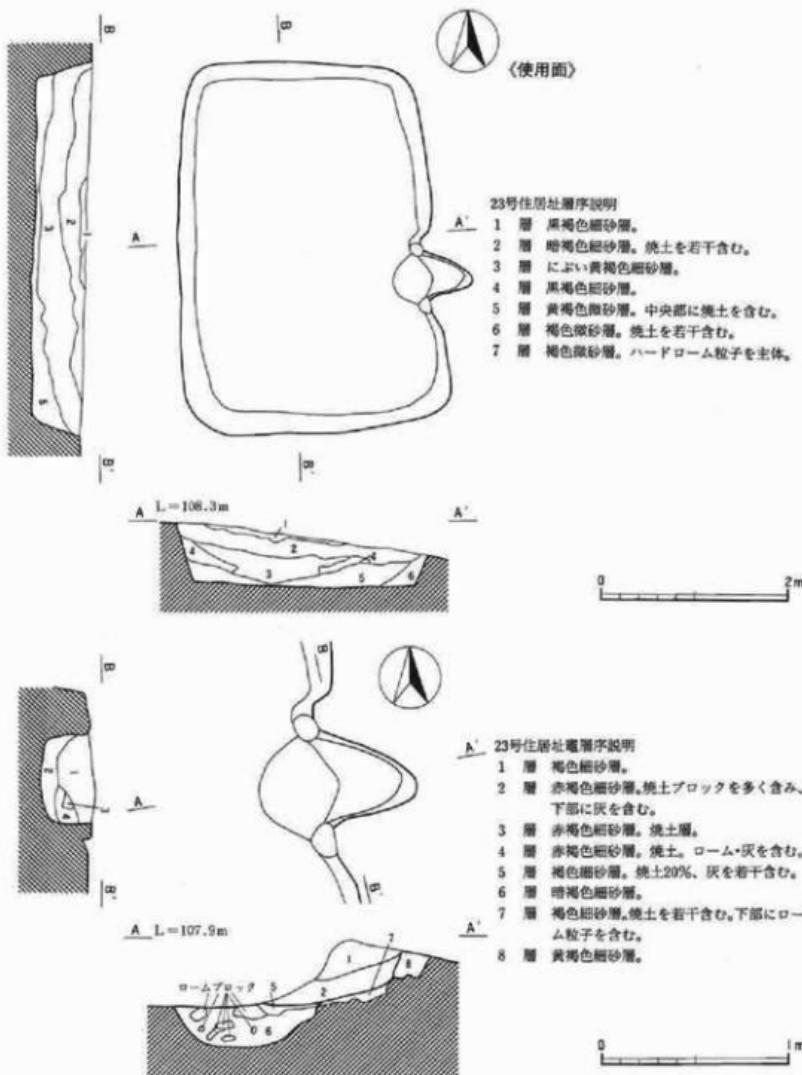


Fig. 30 H-23住居址(1/30・1/60)

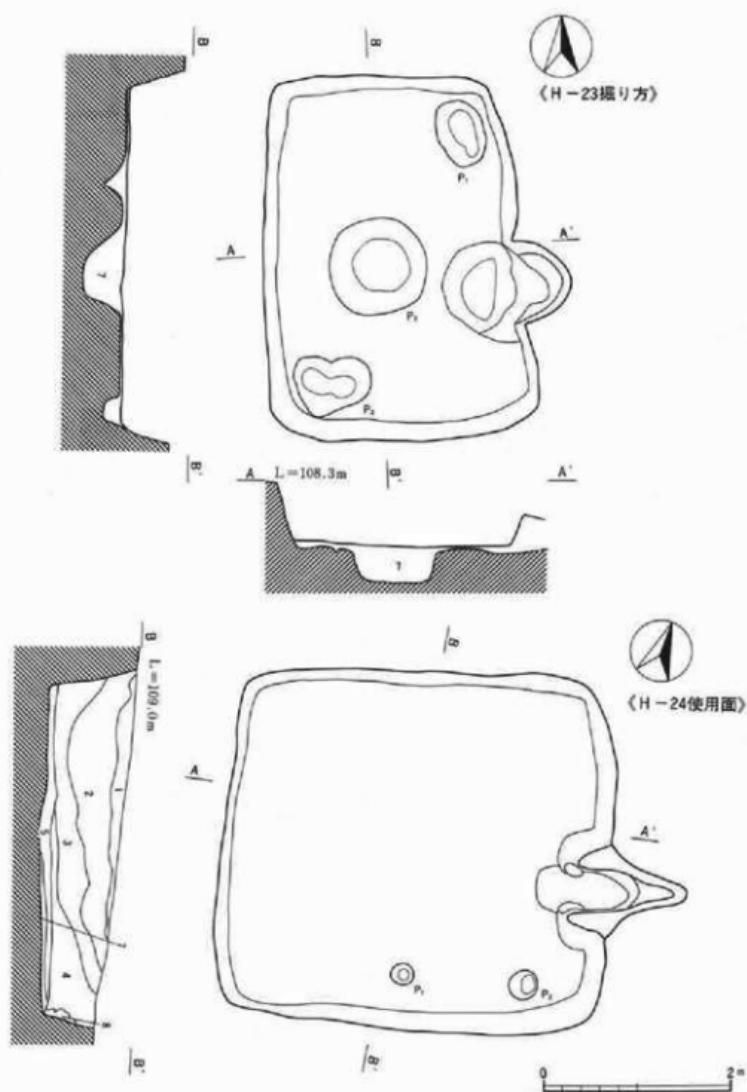
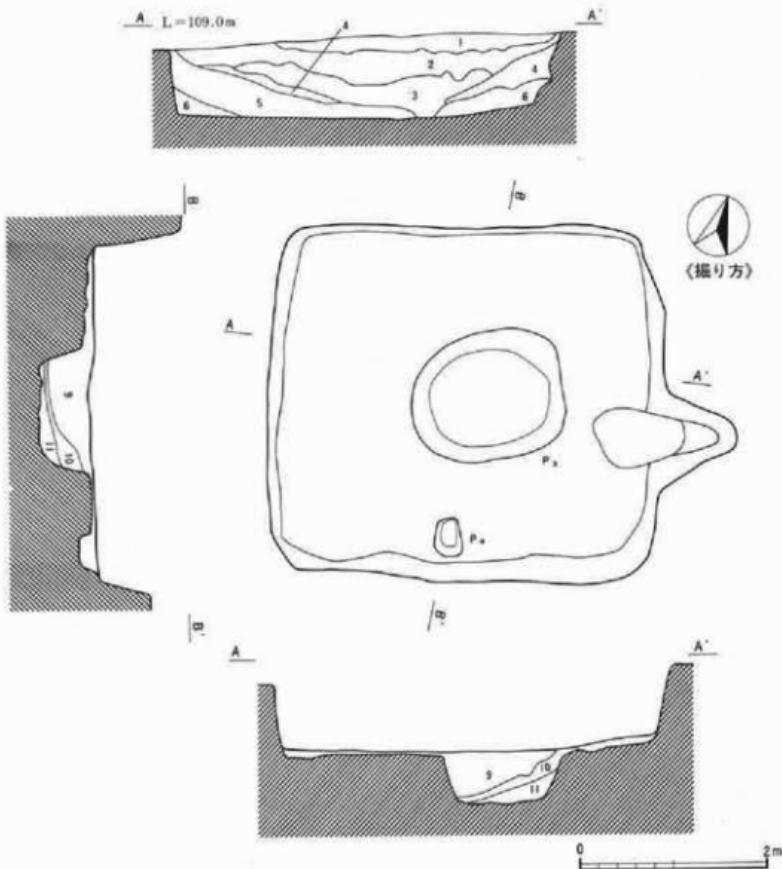


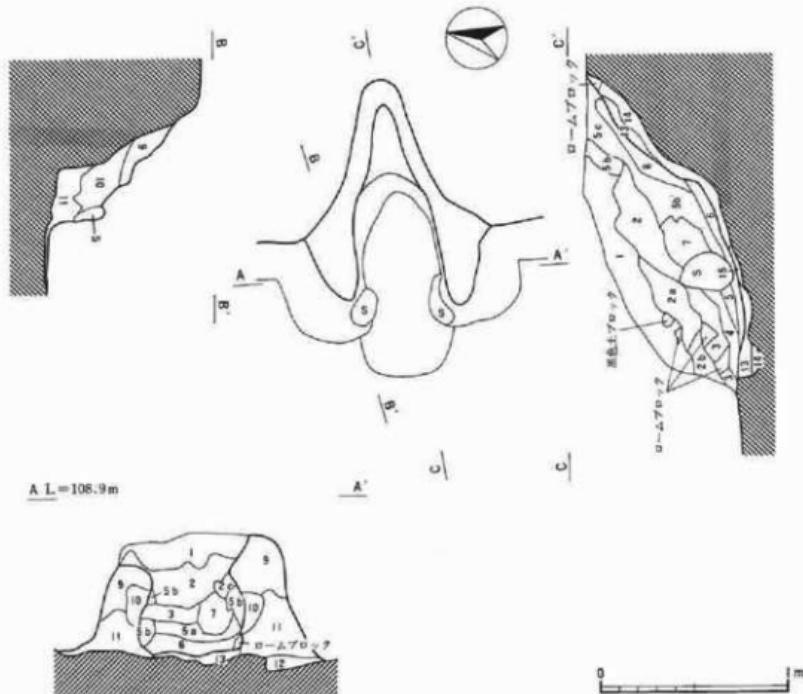
Fig. 31 H-23・24号住居址(1/60)



24号住居址層序説明

- | | | | |
|-----|--|------|---|
| 1 層 | 褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 4\text{ mm}$ の軽石を30%含む。硬く縛っている。 | 6 層 | 黒褐色微砂層。軽石 ($\phi 2 \sim 5\text{ mm}$) を5%含む。 |
| 2 層 | 褐色細砂層。 $\phi 2 \sim 5\text{ mm}$ の軽石を30%、 $\phi 5 \sim 10\text{ mm}$ の軽石を若干含む。硬く縛っている。 | 7 層 | 褐色微砂層。軽石 ($\phi 1\text{ mm}$) を若干含む。ロームブロックを20%含む。縛りは悪い。粘性やや有り。 |
| 3 層 | 褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の軽石を25%、 $\phi 5 \sim 10\text{ mm}$ の軽石を若干含む。縛りあり。粘性やや有り。 | 8 層 | 褐色微砂層。 $\phi 1 \sim 5\text{ mm}$ のローム粒を20%含む。粘性、縛りとも悪い。 |
| 4 層 | 褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の軽石を若干、ローム粒子とロームブロックを少量含む。縛りあり。粘性やや有り。 | 9 層 | 黒褐色微砂層。ローム土。硬く縛り、粘性なし。 |
| 5 層 | 褐色微砂層。 $\phi 2 \sim 5\text{ mm}$ の軽石を若干含む。ローム粒子とロームブロックを40%含む。 | 10 層 | 暗褐色微砂層。ローム粒子を多量に含む。縛りやや有り。粘性なし。 |
| | | 11 層 | 黄褐色微砂層。ハードロームを若干含む。固く縛り、粘性なし。 |

Fig. 32 H-24号住居址(1/60)



24号住居址地層序説明

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|----------------------------|
| 1 層 | 褐色粗砂層。焼土を若干含む。 | 6 層 | 褐色細砂層。灰層。焼土を若干含む。 |
| 2 層 | 黄褐色細砂層。 | 7 層 | 黒褐色粗砂層。 |
| 2 a層 | 黄褐色細砂層。焼土を70%含む。 | 8 層 | に上い赤褐色微砂層。焼土を若干含む。 |
| 2 b層 | 明黄褐色細砂層。焼土を若干含む。 | 9 層 | 褐色微砂層。ローム土。 |
| 2 c層 | 褐色土層。ローム粒子を主体。若干焼土を含む。 | 10 層 | 赤褐色微砂層。よく焼けている。 |
| 3 層 | 褐色細砂層。若干焼土を含む。 | 11 層 | 褐色微砂層。若干焼土ブロックを含む。 |
| 4 層 | 褐色細砂層。若干焼土を含む。 | 12 層 | 暗褐色微砂層。ローム粒子を40%含む。 |
| 5 層 | 褐色微砂層。焼土を50%含む。 | 13 層 | 暗褐色微砂層。ローム粒子を20%、焼土を10%含む。 |
| 5 a層 | 暗褐色土層。焼土層。灰を若干含む。 | 14 層 | 黄褐色微砂層。ローム土。 |
| 5 b層 | 明赤褐色土層。焼土層。 | 15 層 | 黒褐色微砂層。焼土粒子を若干含む。 |
| 5 b'層 | 明赤褐色土層。固く結った焼土層。煙道の構築土。 | | |
| 5 c層 | に上い赤褐色土層。焼土層。 | | |

Fig. 33 H-24号住居址(1/30)

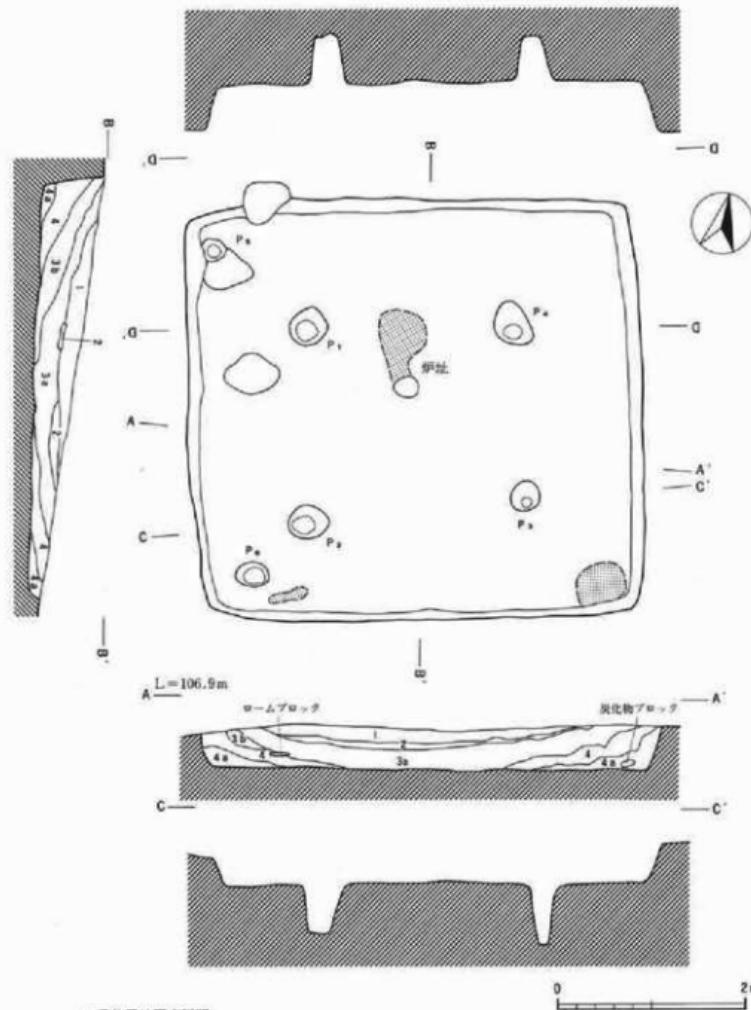


Fig. 34 H-25号住居址(1/60)

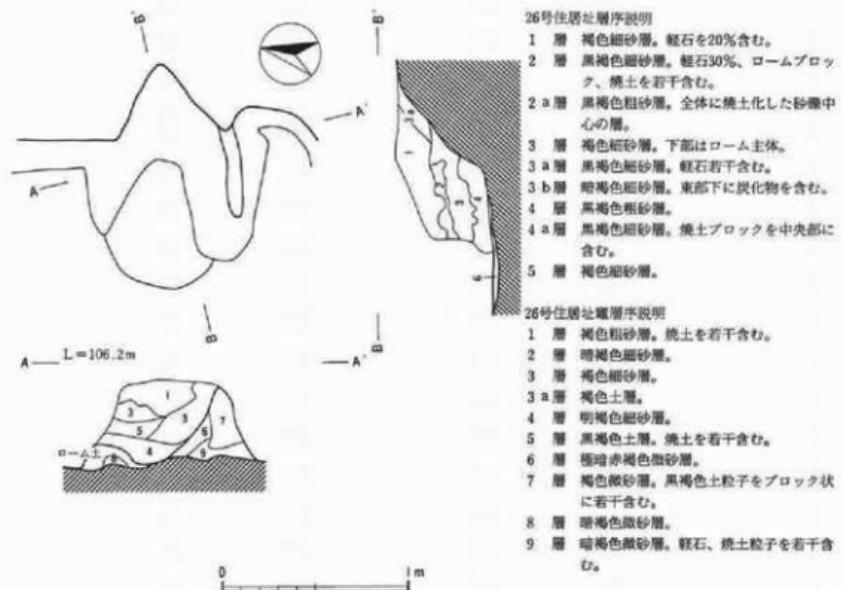
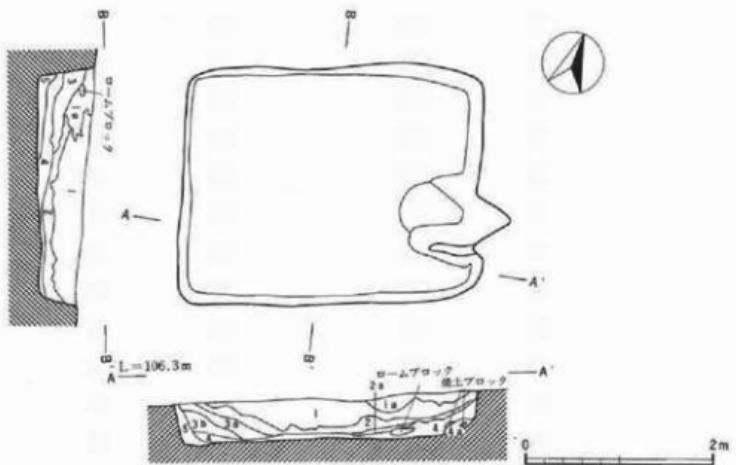
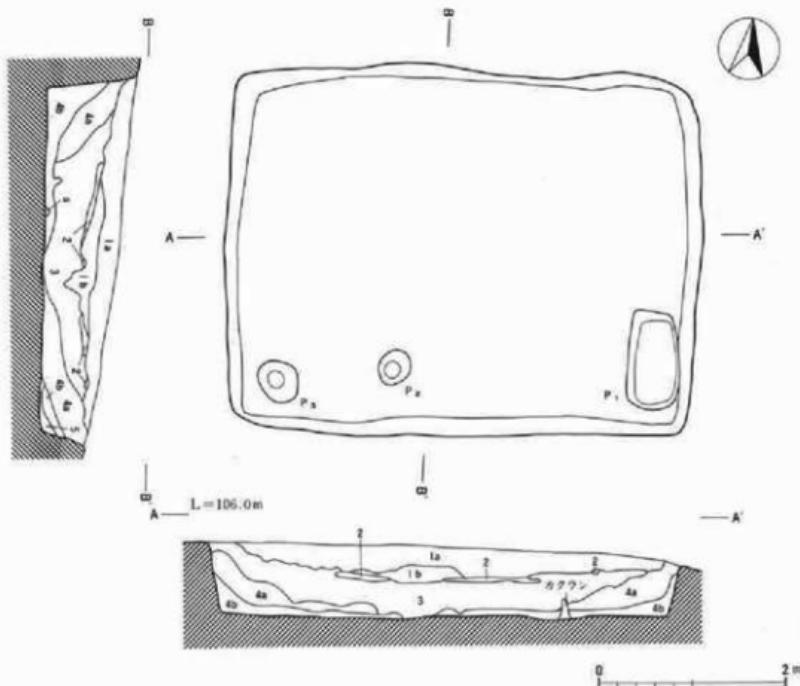


Fig. 35 H-26号住居址(1/30・1/60)



27号住居址層序説明

- 1 a 層 黒色粗砂層。φ 2~10mmのバミス(白色系)を10%、1~3mm(淡黄色系)を30%含む。繊りは良いが粘性はない。
- 1 b 層 黒色粗砂層。φ 1~5mmのバミス(淡黄色系)を20%含む。粘性は悪く、繊りは1 a 層よりも悪い。
- 2 層 にぶい黄褐色粗砂層。φ 1~10mmの白色系バミスを主体とする層。(Hr-FAか) 粘性、繊りとも悪い。
- 3 層 黒色細砂層。φ 1~5mmのバミス(淡黄色)を50%、白色系を1%程度含む。粘性、繊りともやや良い。クロボク土。
- 4 a 層 暗褐色細砂層。φ 1~2mmのバミス(淡黄色)を10%、南下部に焼土粒子を3%程度含む。粘性はやや良いが、繊りはやや悪い。
- 4 b 層 黒褐色細砂層。φ 1~2mmのバミス(淡黄色)は2%程度で少ない。中・下部に1~3cmのロームブロック数点含む。粘性、繊りとも悪い。
- 4 c 層 暗褐色細砂層。φ 1~2mmのバミス(淡黄色)3%、焼土ブロック1~3cm数点、80%以上焼土化している。粘性、繊りとも悪い。
- 5 層 褐色細砂層。φ 1mm程度のバミス1%、下部に多くのロームブロックを含む。繊りはないが粘性は有る。

Fig. 36 H-27号住居址(1/60)

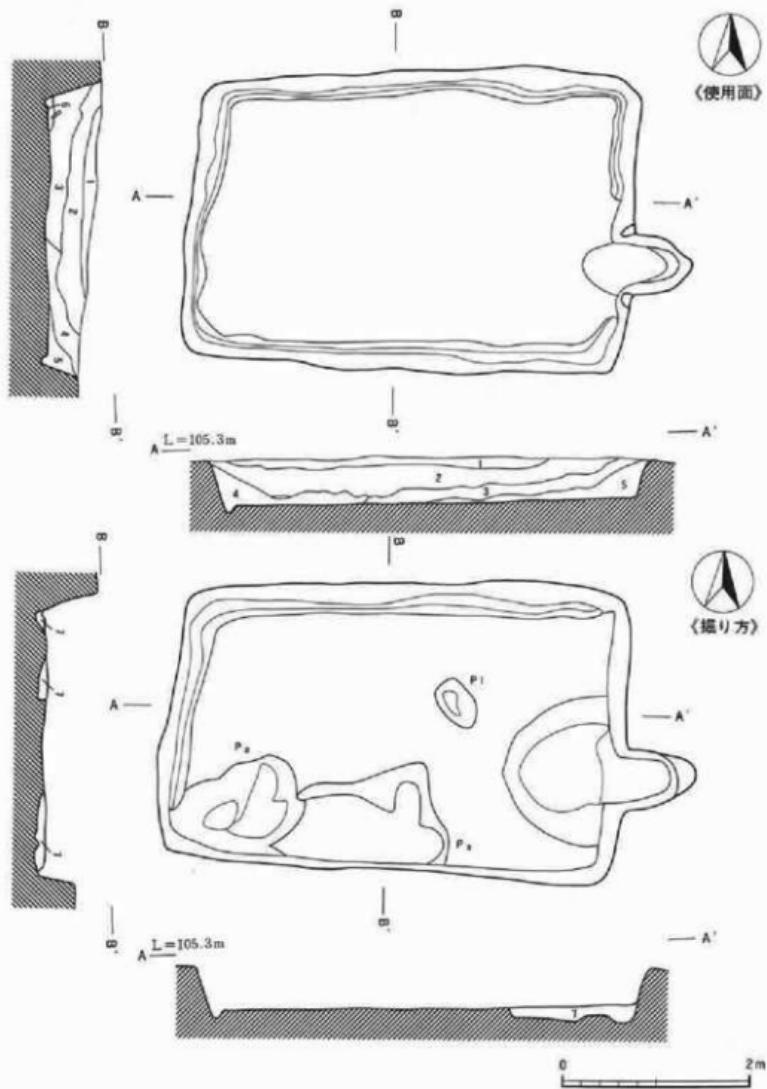
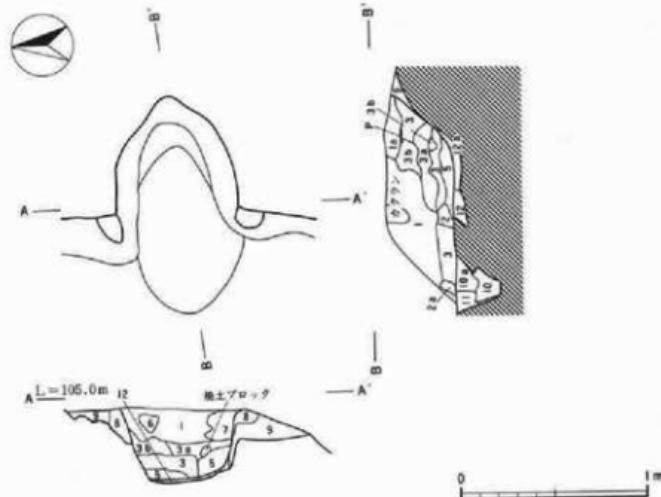


Fig. 37 H-28号住居址(1/60)



28号住居址層序説明

- 1 層 黒褐色細砂層。φ1~5mmの軽石(白色系、淡黄色系)を20%、炭化物を若干含む。上部にAa-Bを多く含む。縫り有り。
- 2 層 黒褐色細砂層。φ1~5mmのバミス(白色系、淡黄色系)を15%含む。粘性に乏しく、縫りは良い。
- 3 層 暗褐色細砂層。φ1~3mmのバミス(淡黄色系)を5%、5~10mmのローム粒子を2%含む。粘性はやや良い。縫りは良い。
- 4 層 暗褐色細砂層。φ1~2mmのバミス(淡黄色系)を3%、5~10mmのローム粒子を下部に含む。粘性、縫りとも悪い。
- 5 層 黒褐色細砂層。φ1~3mmのバミス(淡黄色系)を5%、5~10mmの焼土粒子を数点含む。縫り、粘性ともやや良い。
- 6 層 褐色細砂層。ローム主体。粘性、縫りとも悪い。
- 7 層 褐色微砂層。ローム粒子及びロームブロックを30%含む。縫りは良い。粘性は普通。

28号住居址電離層序説明

- 1 層 黒褐色細砂層。ローム粒、炭化物粒、焼土粒を若干含む。縫り有り。
- 1a 層 黒褐色土層。1層に焼土粒と焼土ブロックを混入する。固く締っている。
- 2 層 黄褐色細砂層。ロームブロック。
- 2a 層 にぶい黄褐色細砂層。2層の粒子を多量に含む。粘性、縫りとも良い。
- 3 層 極暗褐色土層。焼土粒、焼土ブロック、炭化物、ローム粒、灰を含む。
- 3a 層 極暗褐色土層。若干焼土と灰を含む。縫り有り。
- 3b 層 にぶい黄褐色土層。焼土層。固く締る。
- 4 層 黑褐色細砂層。灰を多量に含む。縫り有り。
- 5 層 極暗赤褐色微砂層。灰を主体。縫り有り。
- 6 層 褐色細砂層。若干の焼土粒を含む。固く締っている。
- 7 層 暗赤褐色細砂層。焼土を若干含む。縫り有り。
- 8 層 暗褐色土層。粒土を若干含む。縫り有り。
- 9 層 褐色微砂層。縫りは有るが、粘性はない。
- 10 層 暗褐色微砂層。縫り有り、粘性はない。
- 10a 層 暗褐色微砂層。焼土を若干含む。粘性ない。
- 11 層 褐色微砂層。縫りは有るが、粘性はない。
- 12 層 極暗褐色微砂層。焼土、炭化物若干含む。
- 12a 層 褐色微砂層。ローム粒子が主体。

Fig. 38 H-28号住居址(1/30)

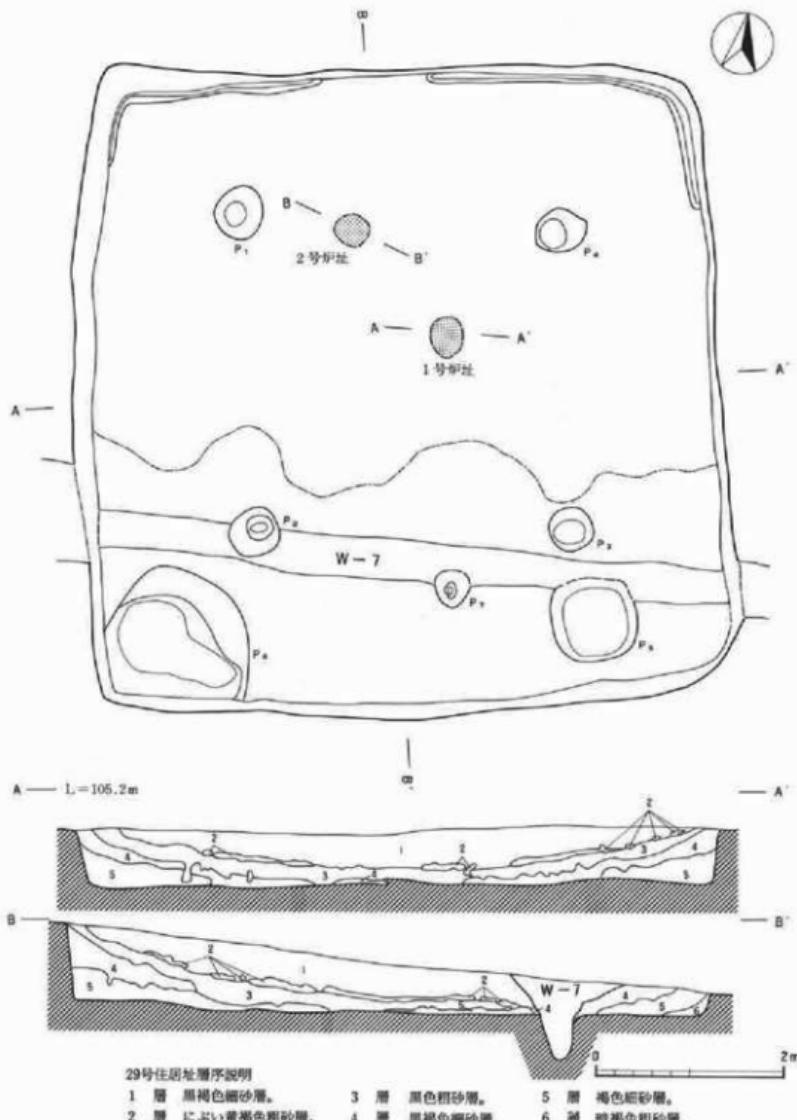


Fig. 39 H-29号住居址(1/60)

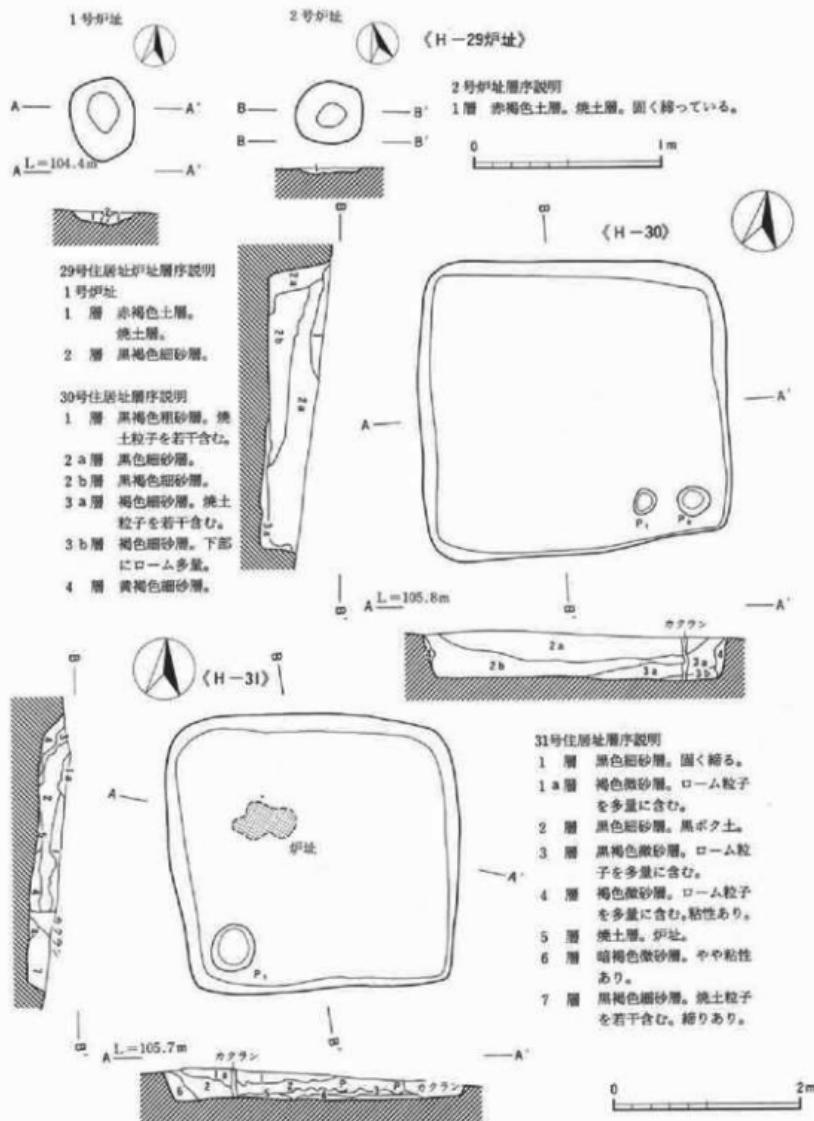


Fig. 40 H-29~31号住居址(1/30・1/60)

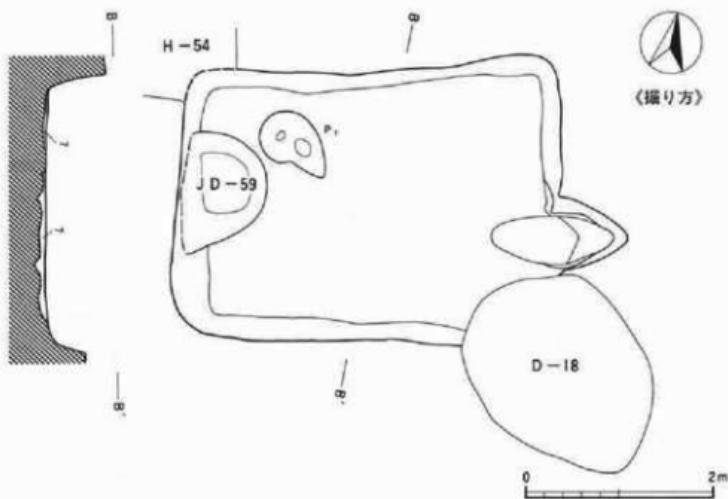
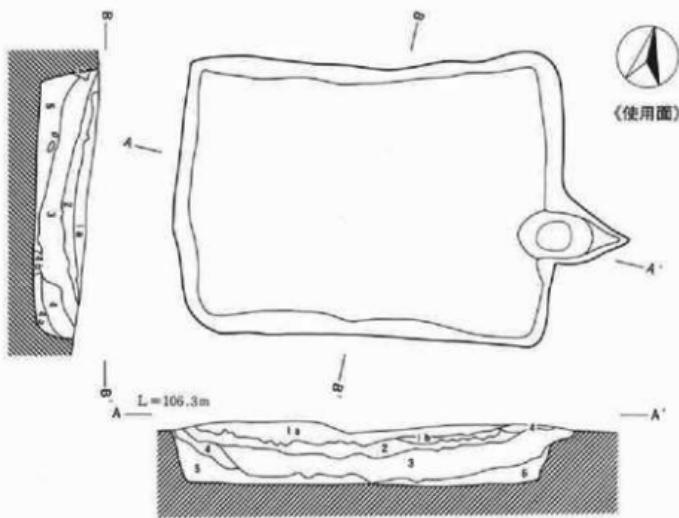


Fig. 41 H-32号住居址(1/60)

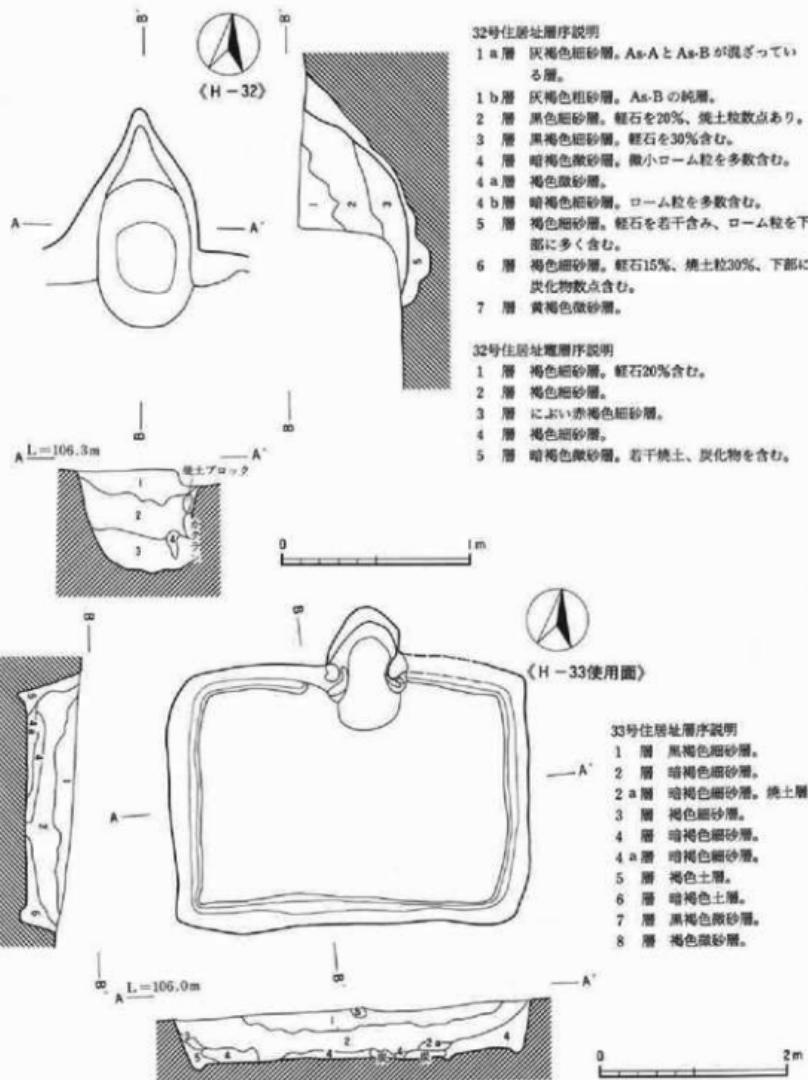


Fig. 42 H-32・33号住居址(1/30・1/60)

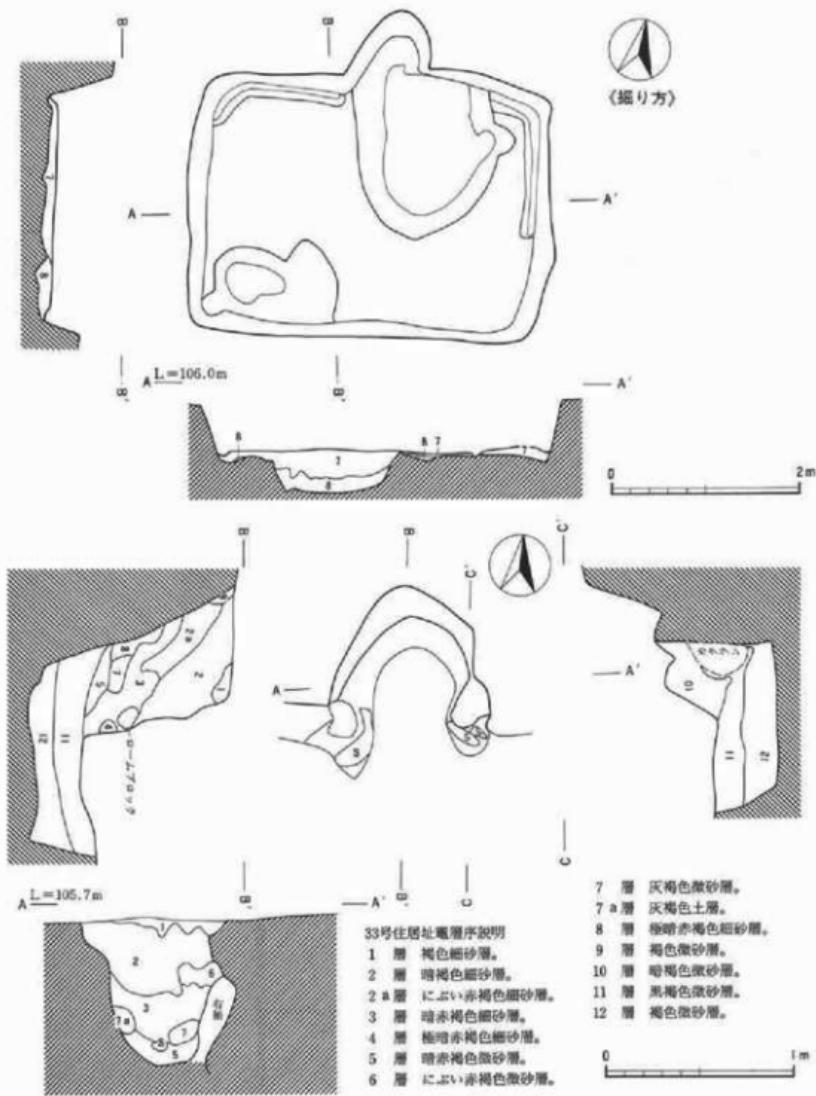
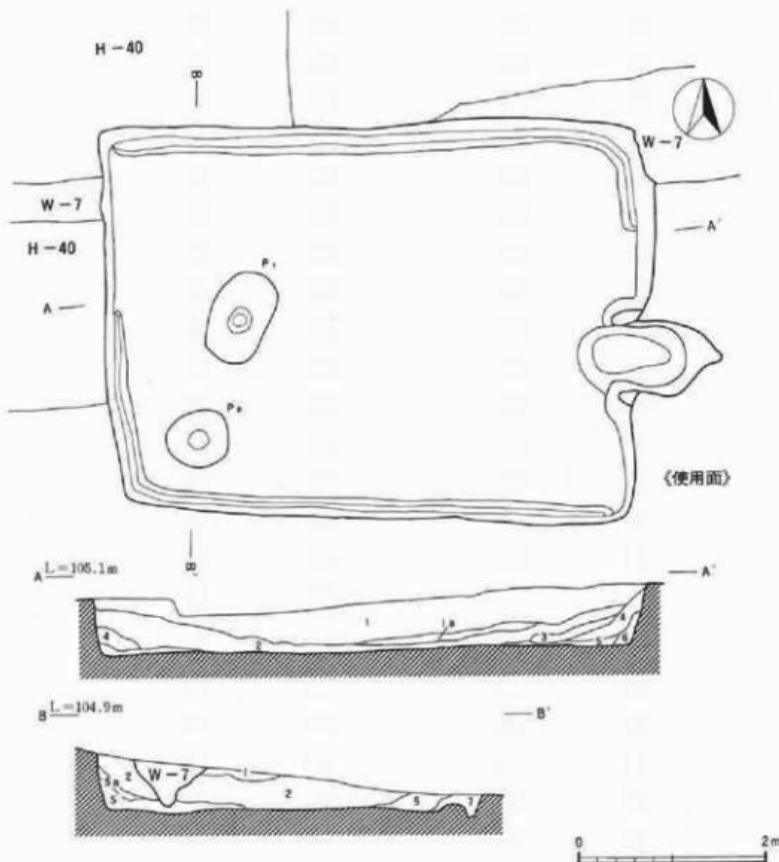


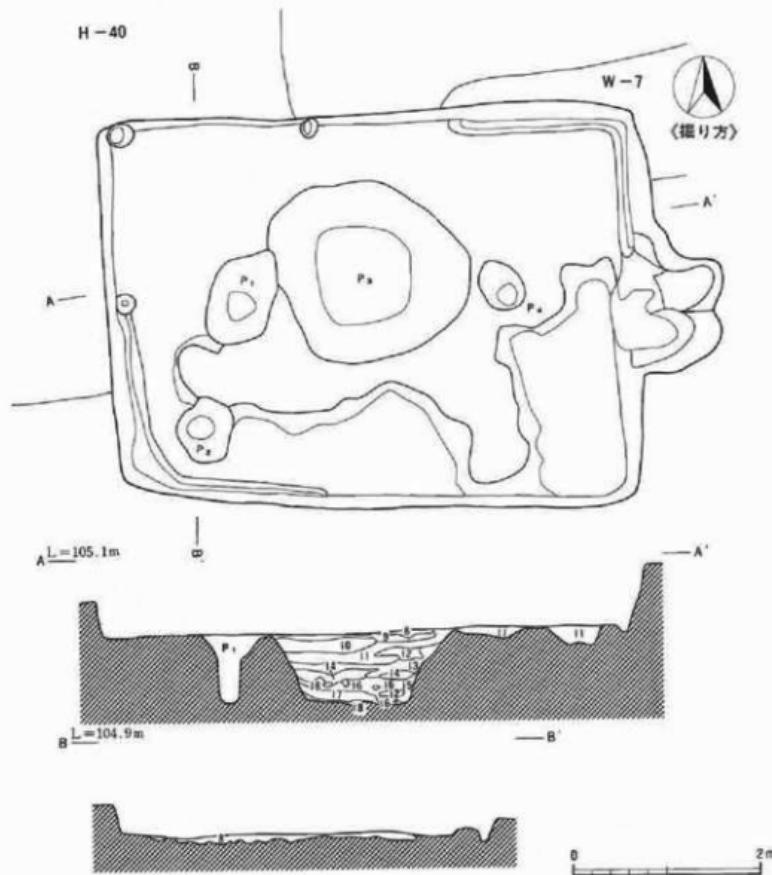
Fig. 43 H-33号住居址(1/30・1/60)



34号住居層序説明

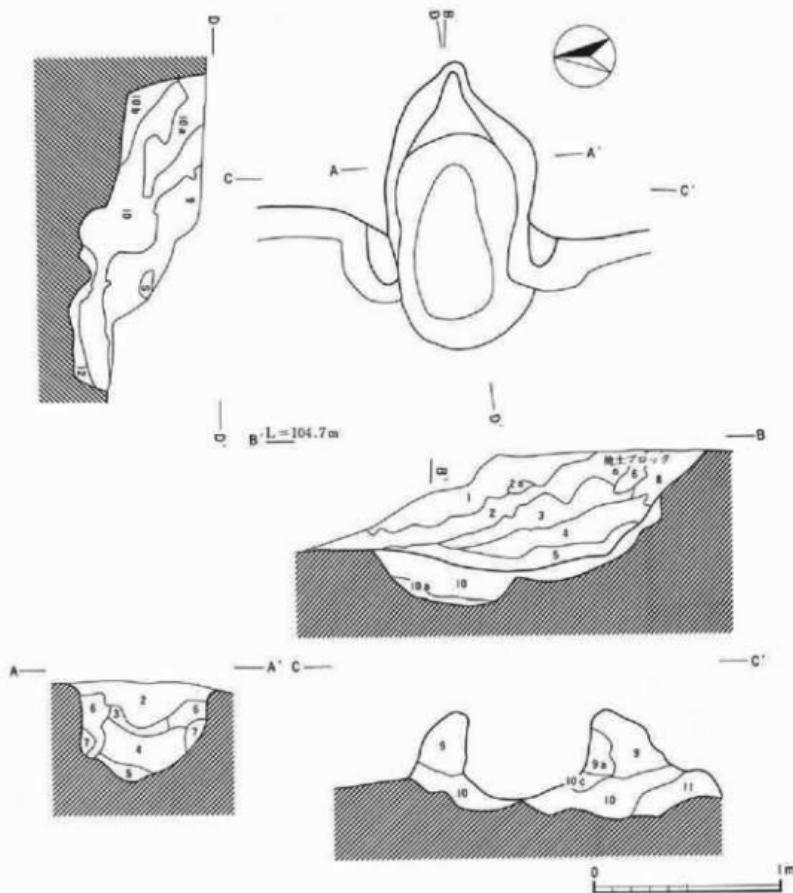
- 1 層 暗褐色細砂層。φ1~3mmのバミス（淡黄色系）を30%、φ1~3mmの大の焼土粒1%。炭化物数点含む。
- 1 a層 黒褐色細砂層。軽石を少量含む。5mm大的炭化物1点。焼土粒数点含む。粘性は悪いが縫りは良い。
- 2 層 にひい黄褐色細砂層。φ1~2mmのバミス（淡黄色系）を20%含む。粘性は悪いが縫りは良い。
- 3 層 にひい黄褐色細砂層。ローム粒40%、軽石を15%程含む。粘性、縫りとも悪い砂質状の層。
- 4 層 暗褐色細砂層。軽石10%、炭化物数点、若干の焼土を含む。粘性、縫りとも悪い。
- 5 層 にひい黄褐色粗砂層。ローム粒、ロームブロックとともに30%含む。軽石、焼土粒、炭化物を含む。
- 5 a層 にひい黄褐色粗砂層。若干の軽石、φ1~2mmの大ローム粒30%含む。粘性、縫りとも悪い。
- 6 層 褐色細砂層。軽石を若干含む。粘性、縫りとも悪い。
- 7 層 黑褐色細砂層。軽石、焼土粒を若干含む。粘性、縫りとも悪い。

Fig. 44 H-34号住居(1/60)



- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 8 層 暗褐色微砂層。 軽石、ローム粒子を10%含む。 | 14 層 黒褐色微砂層。 ローム粒子を10%、粘土を少量含む。 |
| 繰り良く、粘性なし。 | |
| 9 層 黄褐色微砂層。 ローム土を主体とする層。 繰り良く | 15 層 暗褐色微砂層。 ローム土を主体とする層。 |
| 粘性なし。 | |
| 10 層 暗褐色微砂層。 ローム粒子を20%、軽石、焼土ブロック | 16 層 褐褐色粘土層。 繰り良い。 |
| クを少量含む。 | |
| 11 層 黑褐色微砂層。 ローム粒子を10%、軽石を少量含む。 | 17 層 黄褐色微砂層。 ローム土を主体とする層。 |
| 12 層 暗褐色粘土層。 軽石、ローム粒子を若干含む。 | 18 層 黑褐色微砂層。 |
| 13 層 暗褐色微砂層。 ローム土を主体とする層。 | |

Fig. 45 H-34号住居址(1/60)



34号住居址断面図説明

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 層 | 褐色細砂層。経石を20%含み、焼土ブロック、炭化物を若干含む。 | 8 層 | にぶい赤褐色土層。焼土ブロックを20%含む。 |
| 2 層 | 黄褐色細砂層。ローム土を主体とする。 | 9 層 | 黄褐色微砂層。 |
| 2 a 層 | 明褐色微砂層。焼土を多量に含む。 | 9 a 層 | にぶい赤褐色微砂層。9層が焼土化した層。 |
| 3 層 | にぶい赤褐色微砂層。 | 10 層 | 暗褐色微砂層。上部に焼土粒子、炭化物を含む。 |
| 4 層 | 極暗赤褐色微砂層。焼土及び灰を多量に含む。 | 10 a 層 | 暗褐色微砂層。焼土化したローム粒子を30%含む。 |
| 5 層 | 暗赤褐色微砂層。下部に灰、炭化物を含む。焼土層。 | 10 b 層 | 暗褐色土層。ローム粒子、炭化物、焼土を若干含む。 |
| 6 層 | 焼土ブロック。 | 10 c 層 | 暗赤褐色微砂層。10層に焼土が25%混入した層。 |
| 7 層 | にぶい赤褐色土層。ローム粒と焼土ブロックを含む。 | 11 層 | 褐色微砂層。ローム土を主体とする。 |
| | | 12 層 | 褐色微砂層。ローム土を主体とする。 |

Fig. 46 H-34号住居址(1/30)

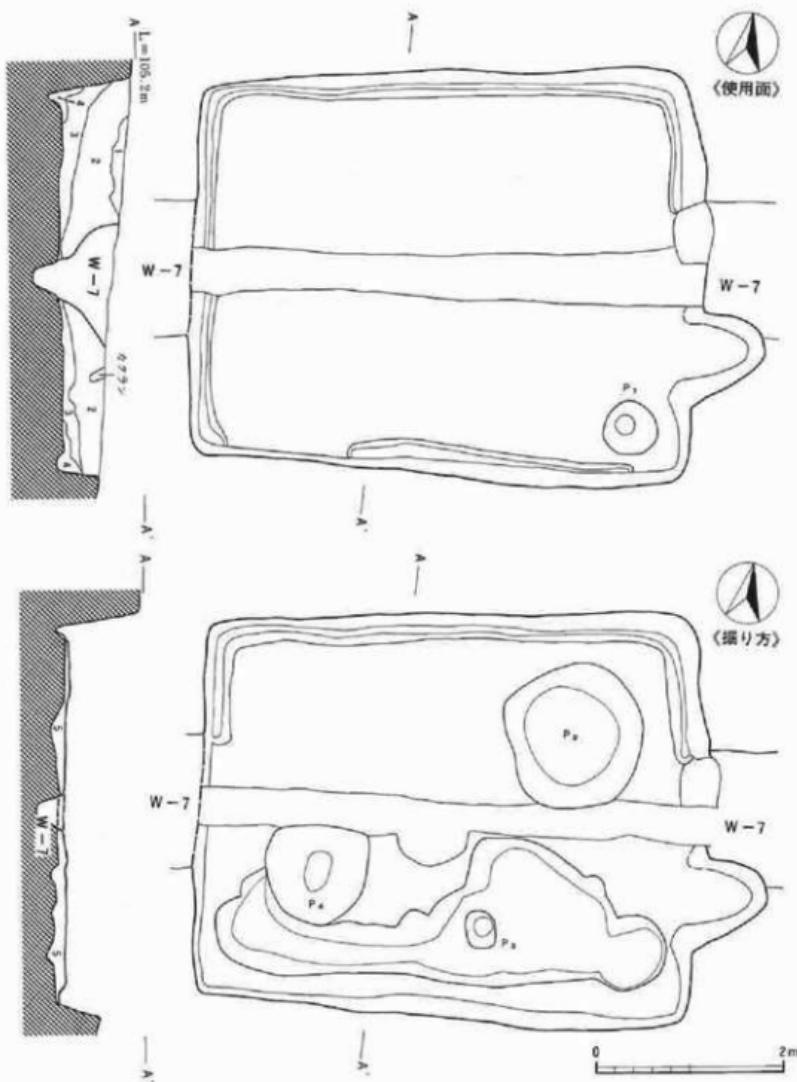
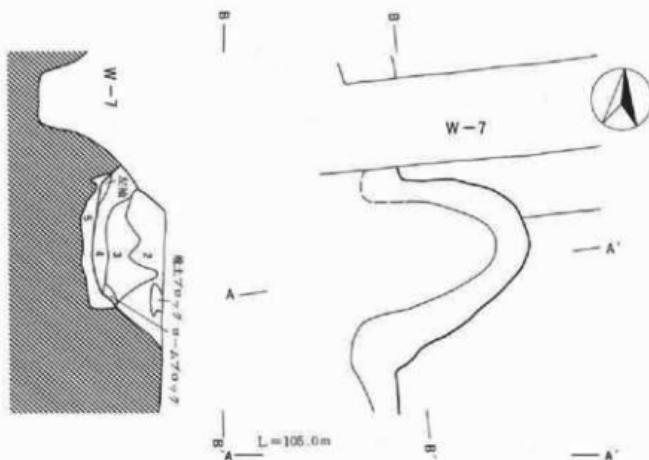


Fig. 47 H-35号住居址(1/60)



35号住居址層序説明

- 1 層 黒褐色粗砂層。粒子は一定で、粘性弱く、結っている。軽石が7~10%含まれる。
- 2 層 に於いて黄褐色粗砂層。粒子は一定で、粘性弱く結っている。軽石が15~20%含まれる。焼土粒子も4~5%程度含まれる。
- 3 層 暗褐色細砂層。粒子は一定で、粘性をやや有し、結っている。軽石は7~10%含まれる。焼土粒子は4~5%含まれる。
- 4 層 明褐色細砂層。粘性強くやや結りあり。ローム土が60~70%含まれる。三角堆土と周溝を覆う土。
- 5 層 黄褐色細砂層。ローム粒子及びロームブロックを主体とする層。

35号住居址層序説明

- 1 層 暗褐色細砂層。ローム土、焼土粒子を微量含む。固く結る。
- 2 層 暗褐色細砂層。焼土粒子、焼土ブロック、炭化物を若干含む。結りあり。
- 3 層 に於いて赤褐色細砂層。焼土粒子、焼土ブロックを多量に含む。固く結っている。
- 4 層 暗赤褐色細砂層。焼土粒子を30%、炭化物を少量含む。固く結っている。
- 4 a 層 暗赤褐色細砂層。焼土粒子とローム粒子を多量に含む。固く結っている。
- 4 b 層 暗赤褐色細砂層。焼土粒子及び焼土ブロックを30%とローム粒子を少量含む。下部に灰が含まれる。
- 5 層 暗褐色微砂層。焼土粒子を少量含む。結りあり。粘性なし。

Fig. 48 H-35号住居址(1/30)

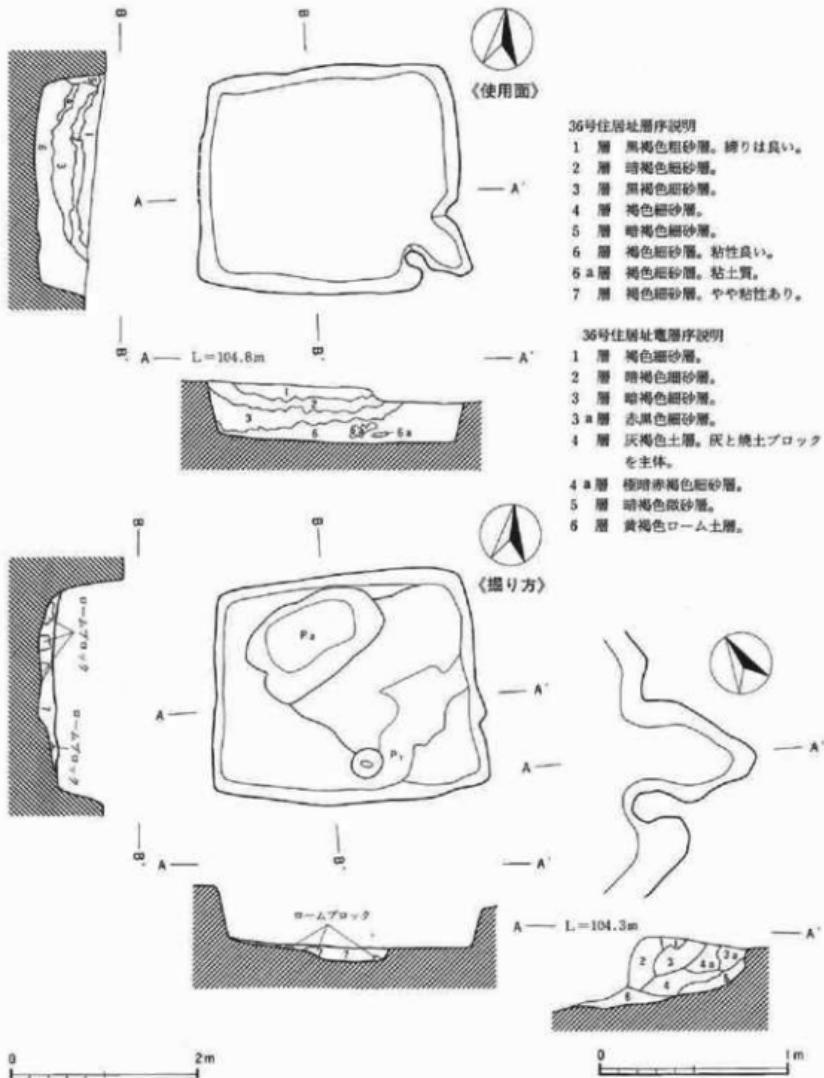
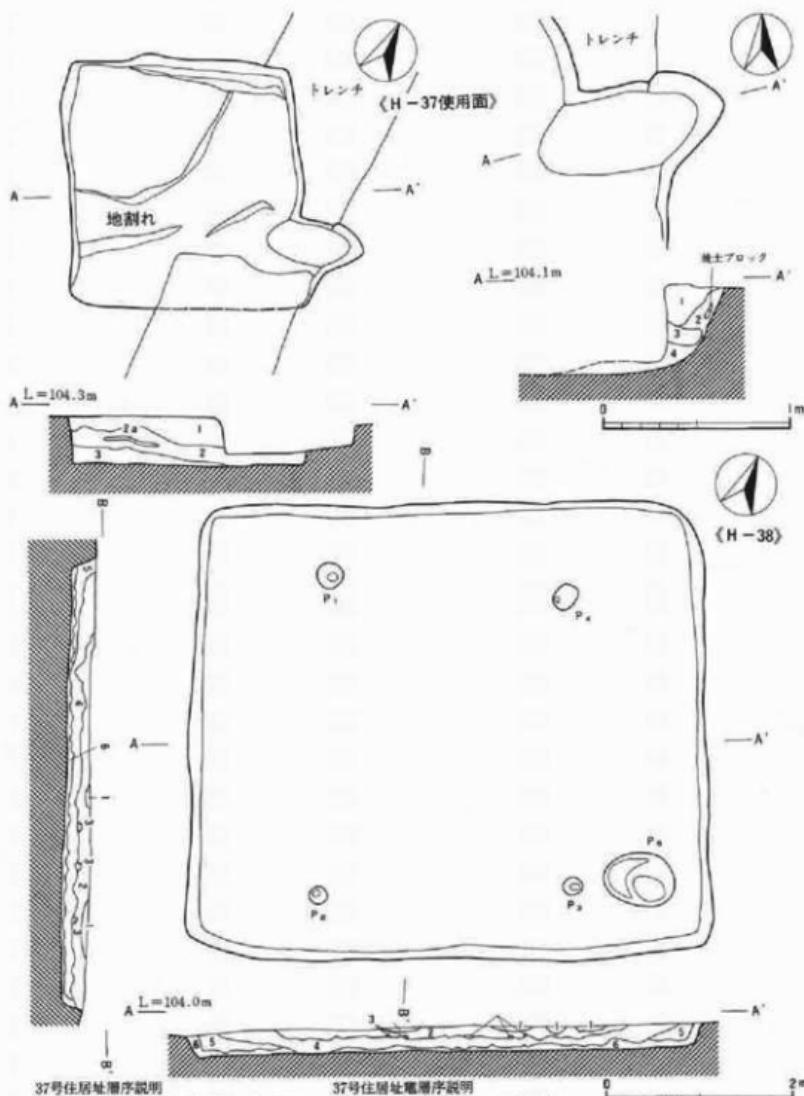


Fig. 49 H-36号住居址(1/30・1/60)



37号住居址層序説明

- 1 層 暗褐色細砂層。鉄石を30%含む。
- 2 層 黒褐色細砂層。鉄石を40%含む。
- 2a層 黑褐色細砂層。
- 3 層 黑褐色細砂層。鉄石を30%含む。

37号住居址層序説明

- 1 層 褐色微砂層。ロームを主体。
- 2 層 によい赤褐色微砂層。
- 3 層 によい赤褐色微砂層。
- 4 層 増赤褐色細砂層。

Fig. 50 H-37-38号住居址(1/30・1/60)

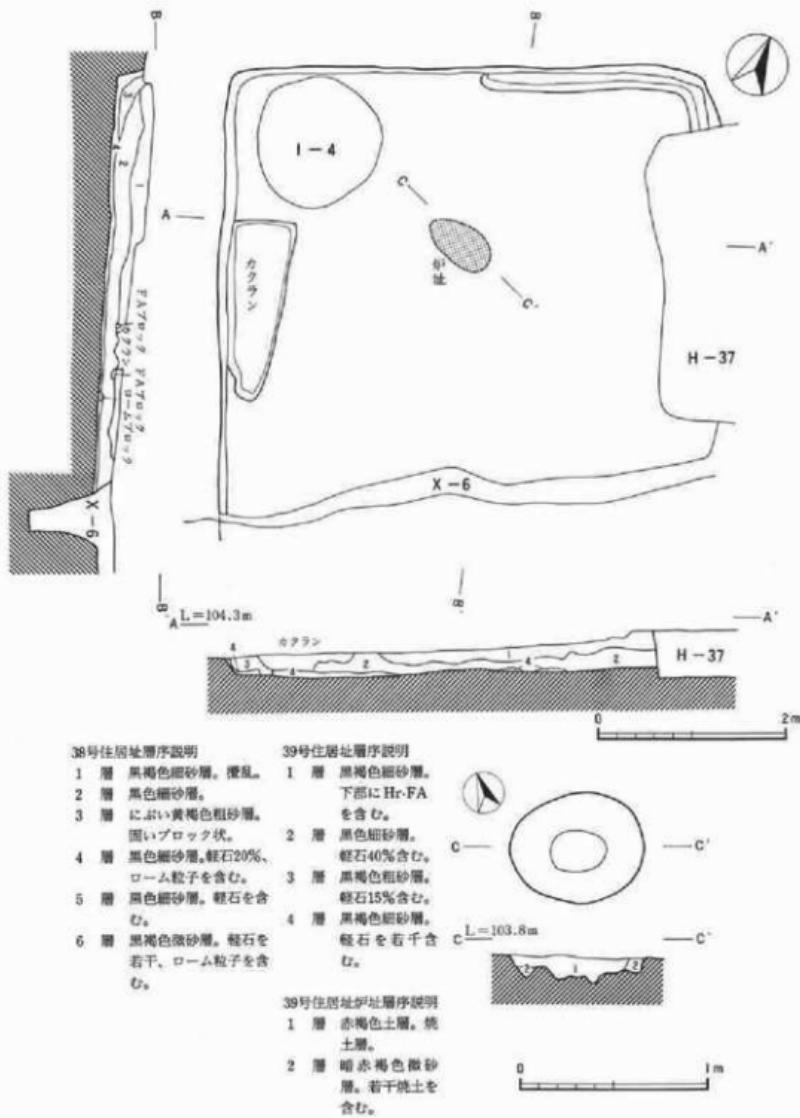
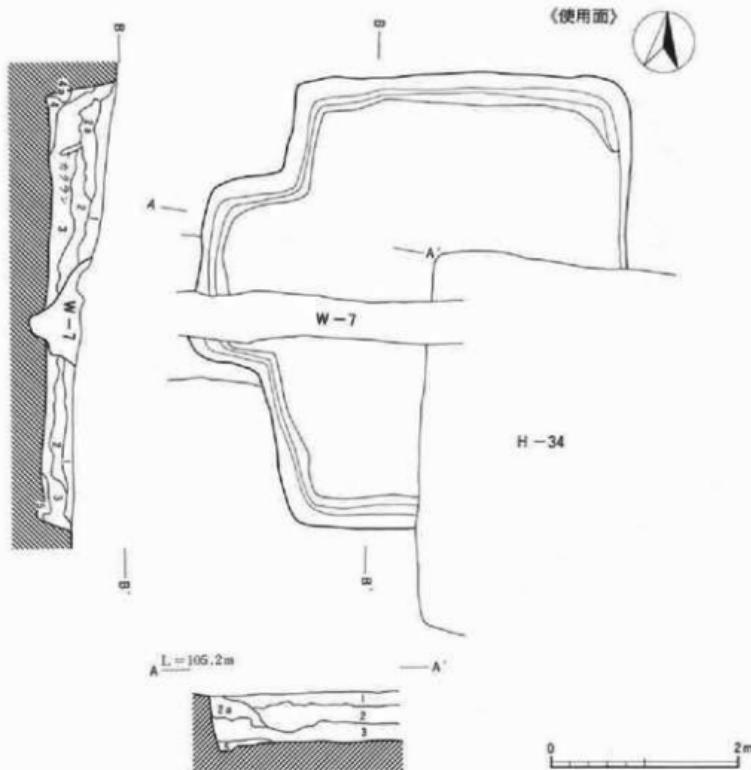


Fig. 51 H-39号住居址(1/30・1/60)



40号住居址層序説明

- 1 層 暗褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 3\text{ mm}$ の軽石を40%、 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の焼土粒子を3%含む。粘性、縛りとも悪い。
- 2 層 暗褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 3\text{ mm}$ の軽石を15%、 $\phi 1 \sim 3\text{ mm}$ の焼土粒子を3%、10~30mm大のロームブロックを10%、炭化物数点含む。粘性なし。縛りは悪い。(1層より悪い。)
- 2 a 層 暗褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 3\text{ mm}$ の軽石を20%、 $\phi 1 \sim 5\text{ mm}$ 大の焼土粒子を20%、10~15mm大のロームブロックと炭化物を数点含む。粘性、縛りとも悪い。
- 3 層 暗褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 3\text{ mm}$ の軽石を30%、炭化物を5%含む。粘性なし。縛りやや良い。
- 4 層 暗褐色細砂層。 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の軽石を10%、2~3mm大の焼土粒子を数点含む。粘性、縛りとも悪い。
- 4 a 層 褐色細砂層。軽石をほとんど含まないロームブロック主体の層。粘性は悪い。縛りはやや良い。
- 5 層 海色粗砂層。 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の軽石を3%、5~10mmのローム粒子50%、微小ローム粒子を多数含む。縛りは悪いが粘性は良い。
- 6 層 暗褐色微砂層。ローム粒子を20%、 $\phi 1 \sim 2\text{ mm}$ の軽石を2%含む。やや縛りに欠ける。

Fig. 52 H-40号住居址(1/60)

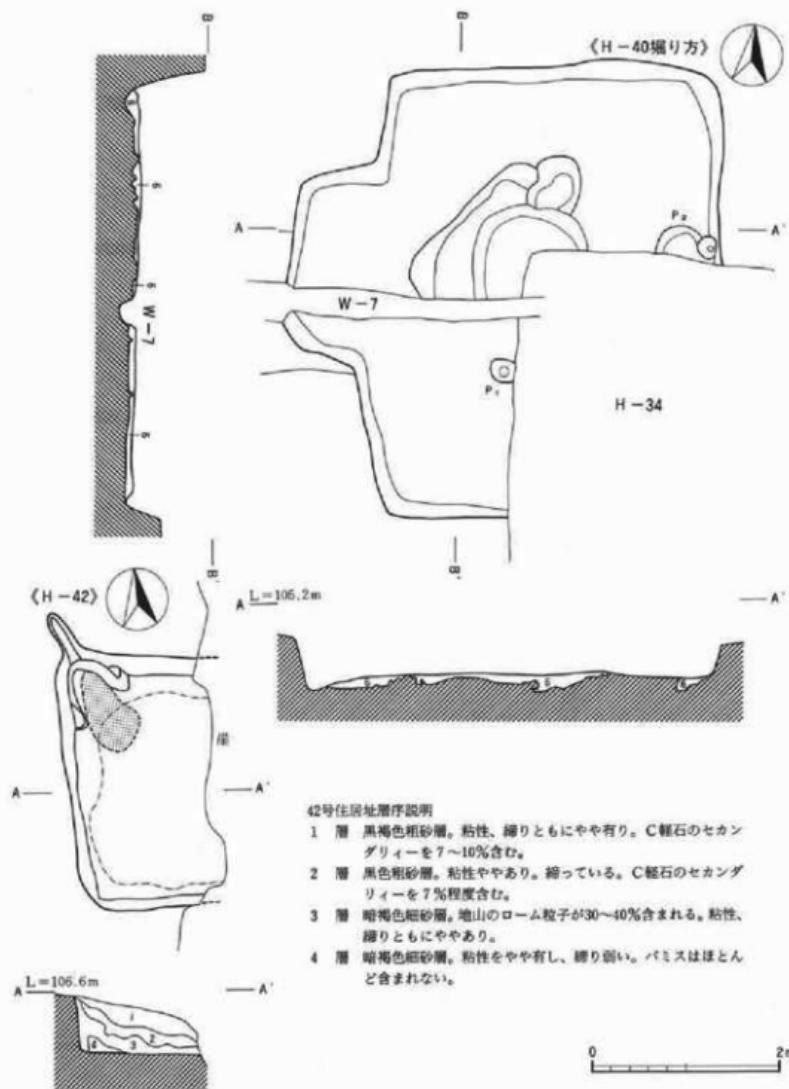


Fig. 53 H-40・42号住居址(1/60)

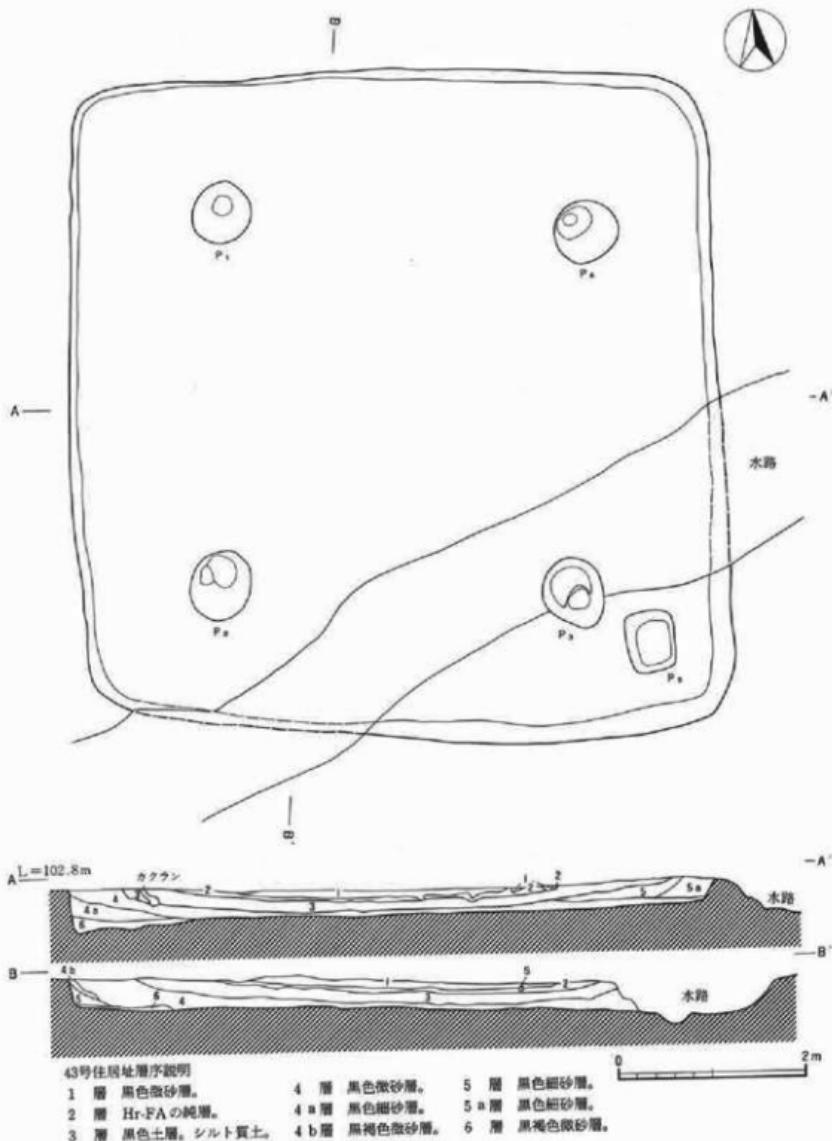
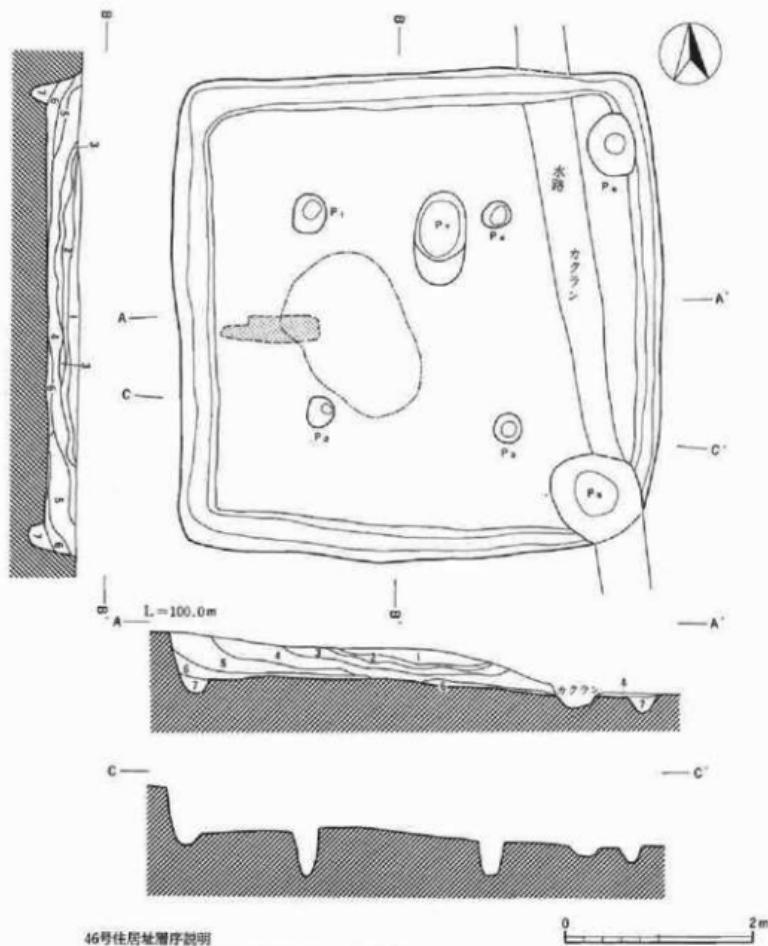


Fig. 54 H-43号住居址(1/60)



46号住居址層序説明
 1 層 暗褐色粗砂層。軽石を20%含む。粘性、締りともなし。
 2 層 黄褐色粗砂層。Hr-FA を主体とする層。
 3 層 暗褐色粗砂層。軽石を25%含む。締りは若干あるが、粘性はない。
 4 層 黒褐色粗砂層。軽石を15%含む。締りはあるが、粘性はない。
 5 層 オリーブ褐色細砂層。軽石を10%含む。締りあり。粘性はやや弱い。
 6 層 オリーブ褐色細砂層。軽石、炭化物を微量含む。粘性、締りともある。
 7 層 褐色細砂層。ローム粒子を多量に含む。粘性、締りとも悪い。

Fig. 55 H-46号住居址(1/60)

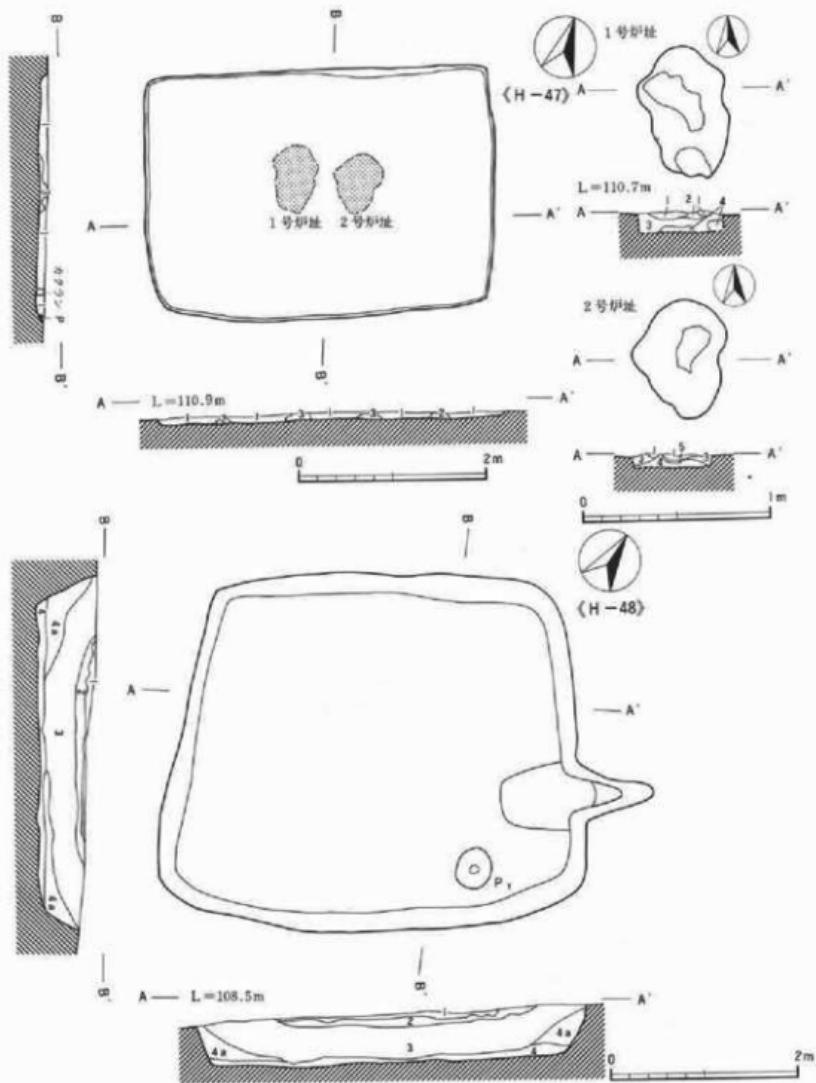


Fig. 56 H-47·48号住居址(1/30·1/60)

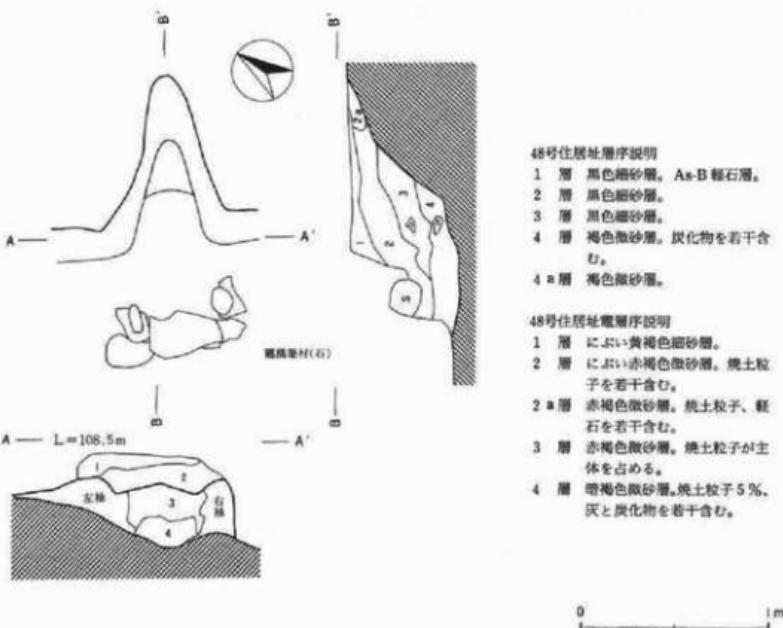
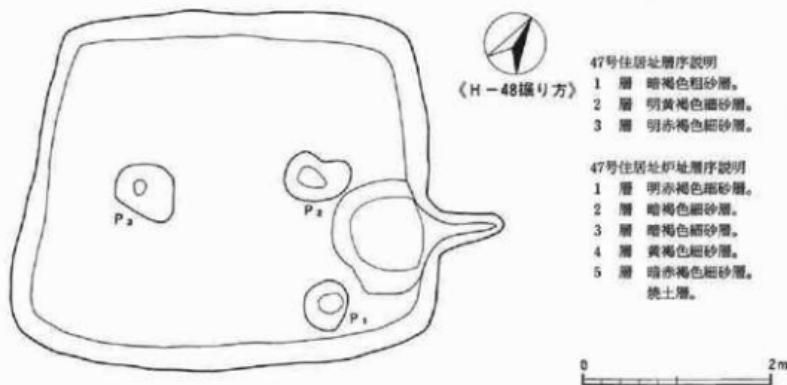


Fig. 57 H-48号住居址(1/30・1/60)

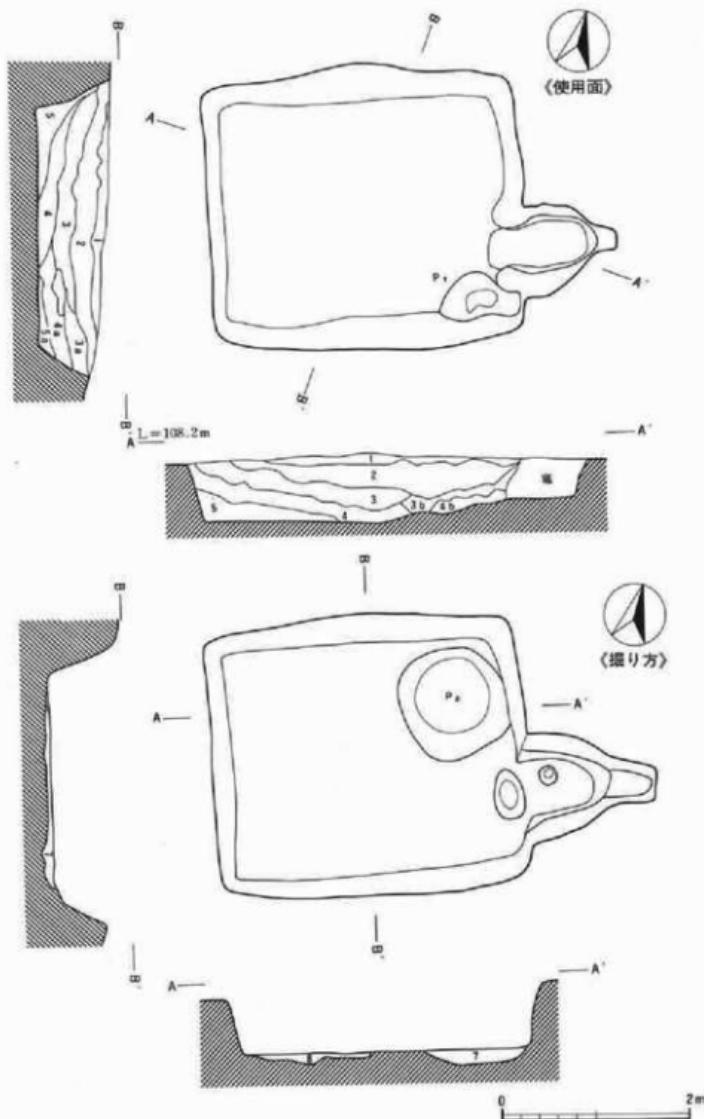
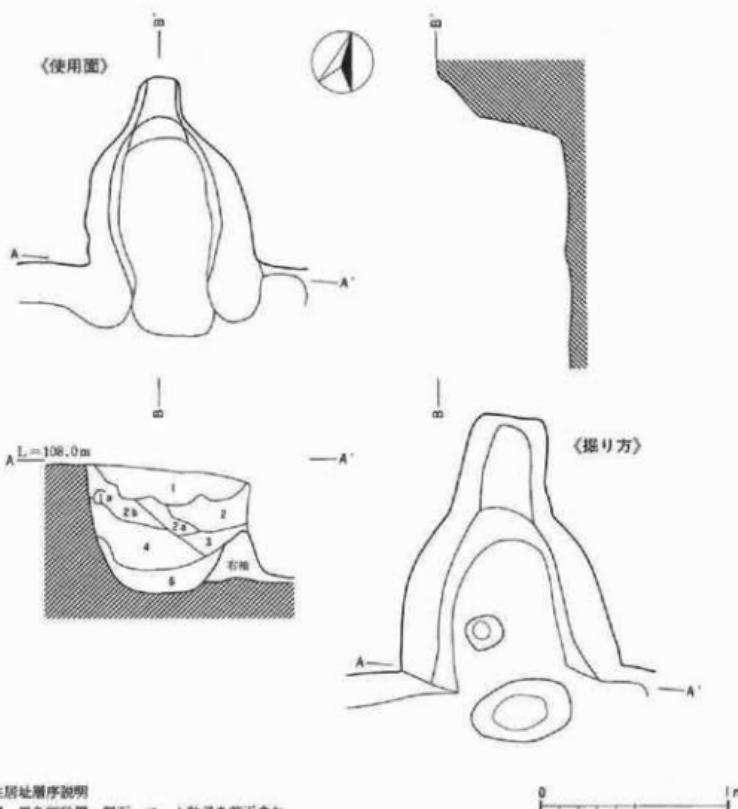


Fig. 58 H-49号住居址(1/60)



49号住居址層序説明

- 層 黒色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。
- 層 黒褐色細砂層。軽石30%、ローム粒子30%含む。
- 層 單褐色細砂層。ローム粒子を40%含む。
- a層 梅色微砂層。ローム土が主体。
- b層 にぶい黄褐色微砂層。
- 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を20%含む。
- a層 褐色微砂層。ローム粒子、ロームブロックが主体。
- b層 黑褐色細砂層。ローム粒子を15%含む。
- 層 梅色微砂層。軽石を若干含む。
- a層 にぶい黄褐色微砂層。ローム粒子を60%含む。
- 層 黑褐色細砂層。軽石を10%含む。
- 層 明褐色微砂層。若干の暗褐色土を含む。
- 層 梅色微砂層。軽石を若干含む。

49号住居址層序説明

- 層 において黄褐色微砂層。ローム粒子が主体。
- a層 梅色土層。粘性ブロック。
- 層 單褐色微砂層。
- a層 オリーブ褐色粘土層。軽石を若干含む。
- b層 黄褐色微砂層。ローム粒子が主体。
- 層 單褐色微砂層。燒土粒子、燒土ブロックを若干含む。
- 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
- 層 暗褐色細砂層。燒土粒子を多量に含む。
- 層 極暗赤褐色微砂層。下部に灰が含まれる。
- 層 梅色土層。ローム粒子と黑色土粒子と若干含む。

Fig. 59 H-49号住居址(1/30)

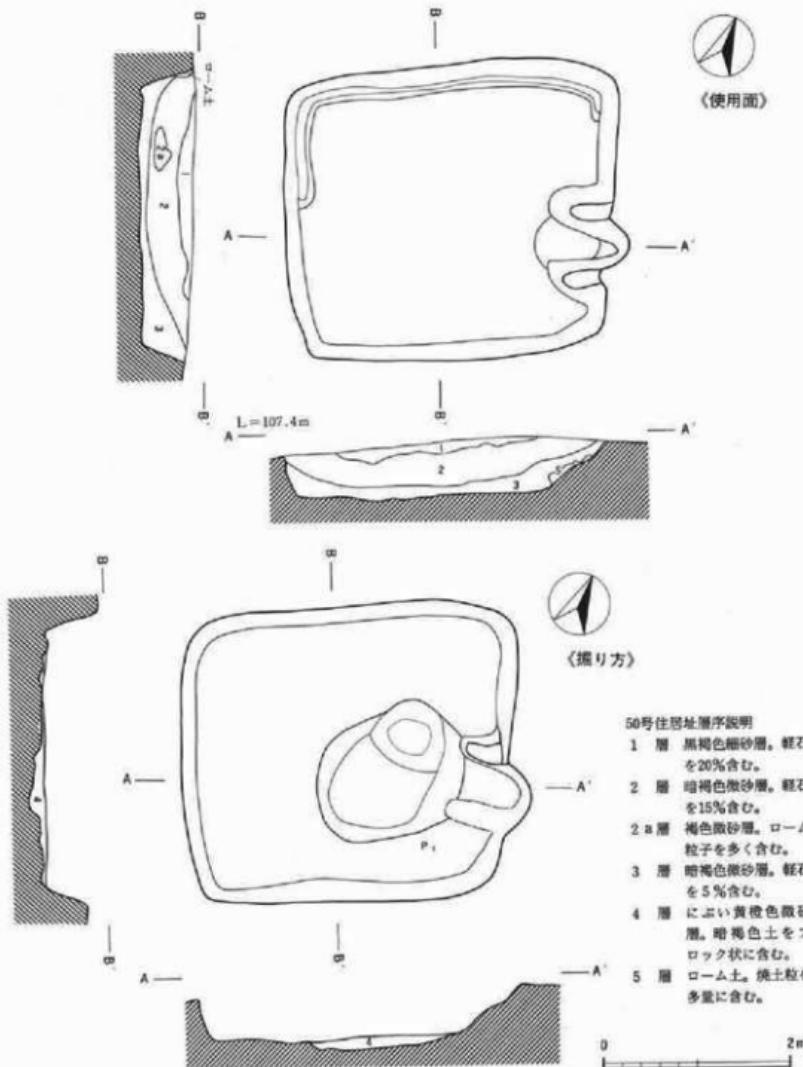


Fig. 60 H-50号住居址(1/60)

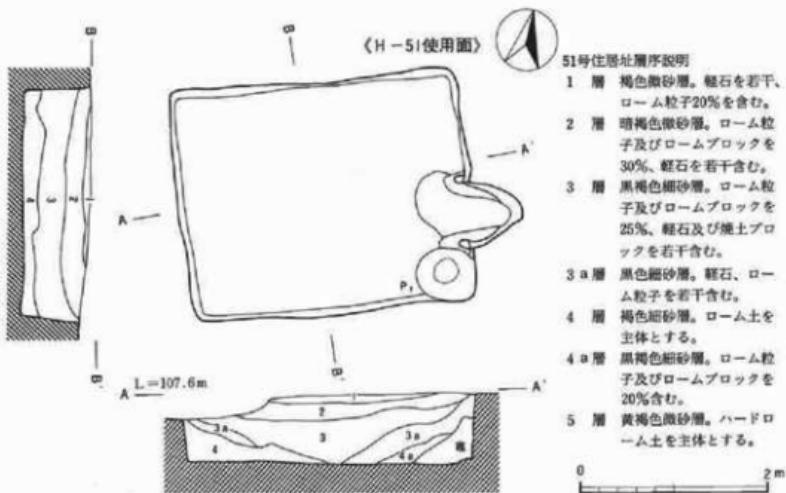
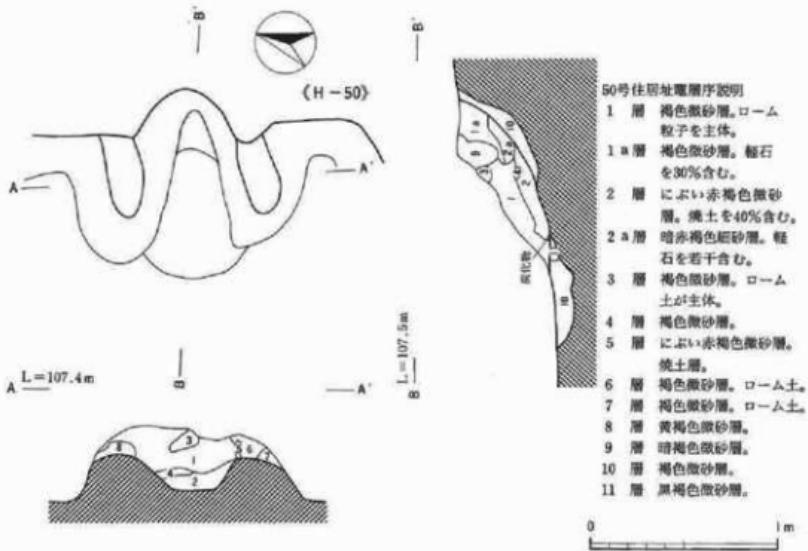


Fig. 61 H-50・51号住居址(1/30・1/60)

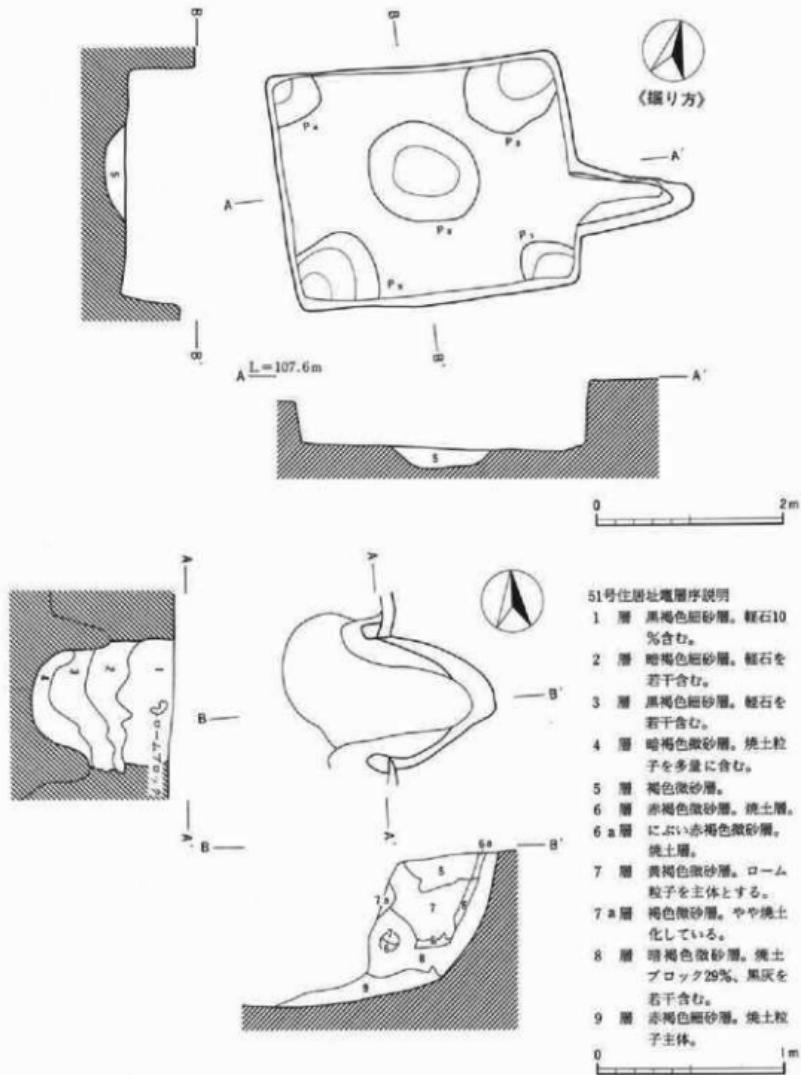


Fig. 62 H-51号住居址(1/30・1/60)

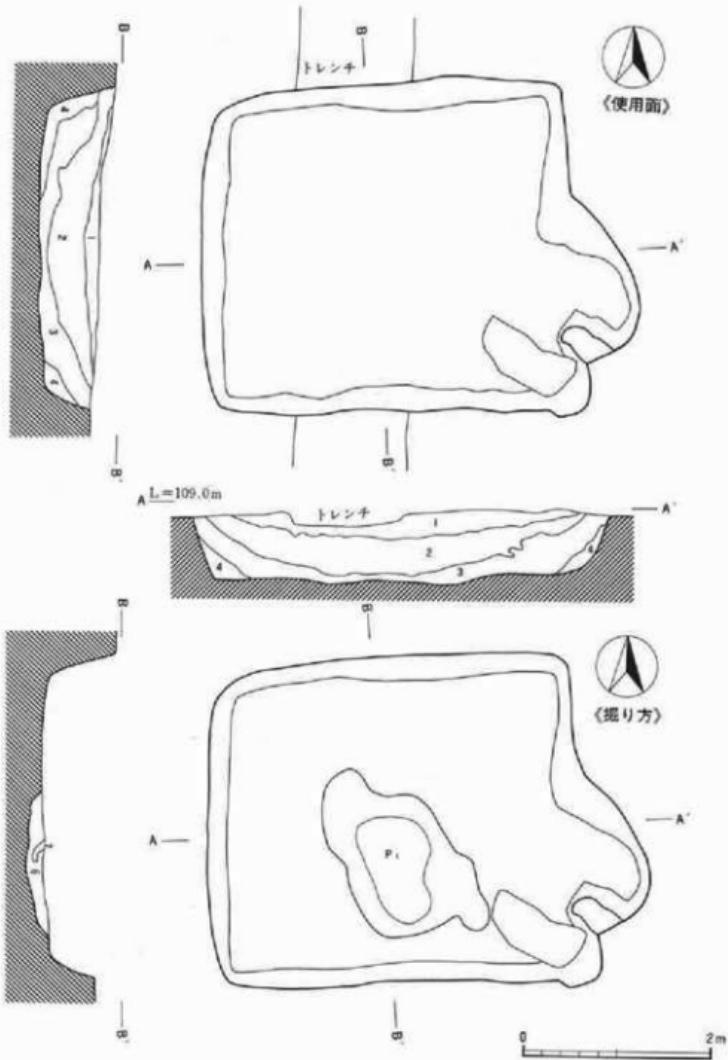
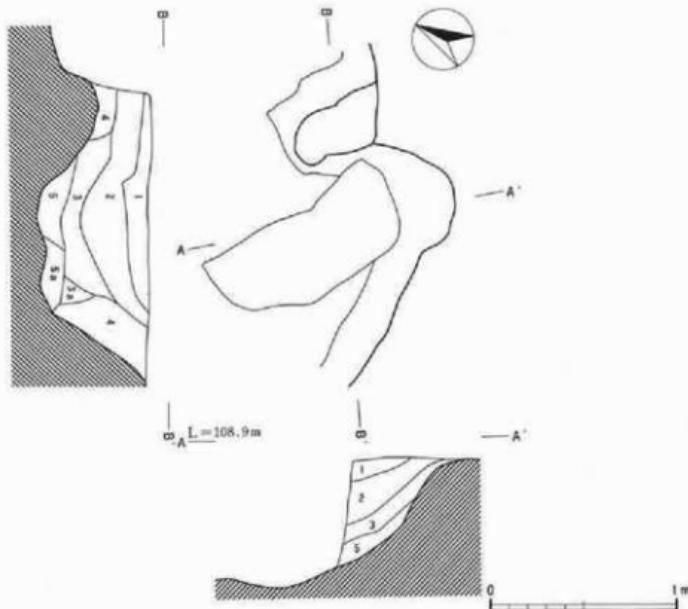


Fig. 63 H-52号住居址(1/60)



52号住居址層序説明

- 1 層 黒褐色細砂層。B軽石層。上部にBアッシュを含む。
- 2 層 黒色細砂層。軽石20%、ローム粒子10%含む。
- 3 層 暗褐色微砂層。ローム粒子30%、軽石10%含む。
- 4 層 褐色微砂層。ローム粒子が主体を占める。
- 5 層 褐色微砂層。ローム粒子を主体とする。
- 6 層 黄褐色微砂層。ローム土を主体とする。
- 7 層 黑褐色微砂層。ローム粒子、軽石を若干含む。

52号住居址窓層序説明

- 1 層 褐色細砂層。軽石20%、ローム粒子30%を含む。
- 2 層 褐色微砂層。軽石20%、ローム粒子20%、燒土粒子、軽石を含む。
- 3 層 褐色微砂層。ローム粒子10%、軽石及び燒土粒子を若干含む。
- 3 a 層 褐色微砂層。燒土粒子と多量のローム土を含む。
- 4 層 褐色微砂層。ローム土。
- 5 層 に bei 赤褐色微砂層。粘性、炭化物少量、軽石及び燒土粒子を若干含む。
- 5 a 層 褐色微砂層。半数のローム粒子と、軽石及び燒土。

53号住居址層序説明

- 1 層 に bei 黄褐色細砂層。ローム粒子及びロームブロックを60%、軽石を少量含む。
- 2 層 黒色細砂層。ローム粒子15%、軽石少量含む。
- 3 層 褐色微砂層。ローム粒子及びハードロームブロックを40%、軽石を少量含む。

53号住居址窓層序説明

- 1 層 褐色細砂層。ローム粒子及びロームブロック、軽石を少量含む。
- 1 a 層 褐色微砂層。ソフトローム。
- 2 層 褐色微砂層。軽石を若干とローム粒子及びロームブロックを20%程度含む。
- 3 層 喀褐色微砂層。ローム粒子及びロームブロックを10%含む。燒土ブロックを若干含む。
- 4 層 赤褐色土層。良く焼けた燒土。下部に黒い灰を含む。窓部の立ち上がり付近は、ローム粒子と、2層の土を少量含む。
- 4 a 層 褐色微砂層。燒土粒子を若干と少量の灰を含む。

Fig. 64 H-52号住居址(1/30)

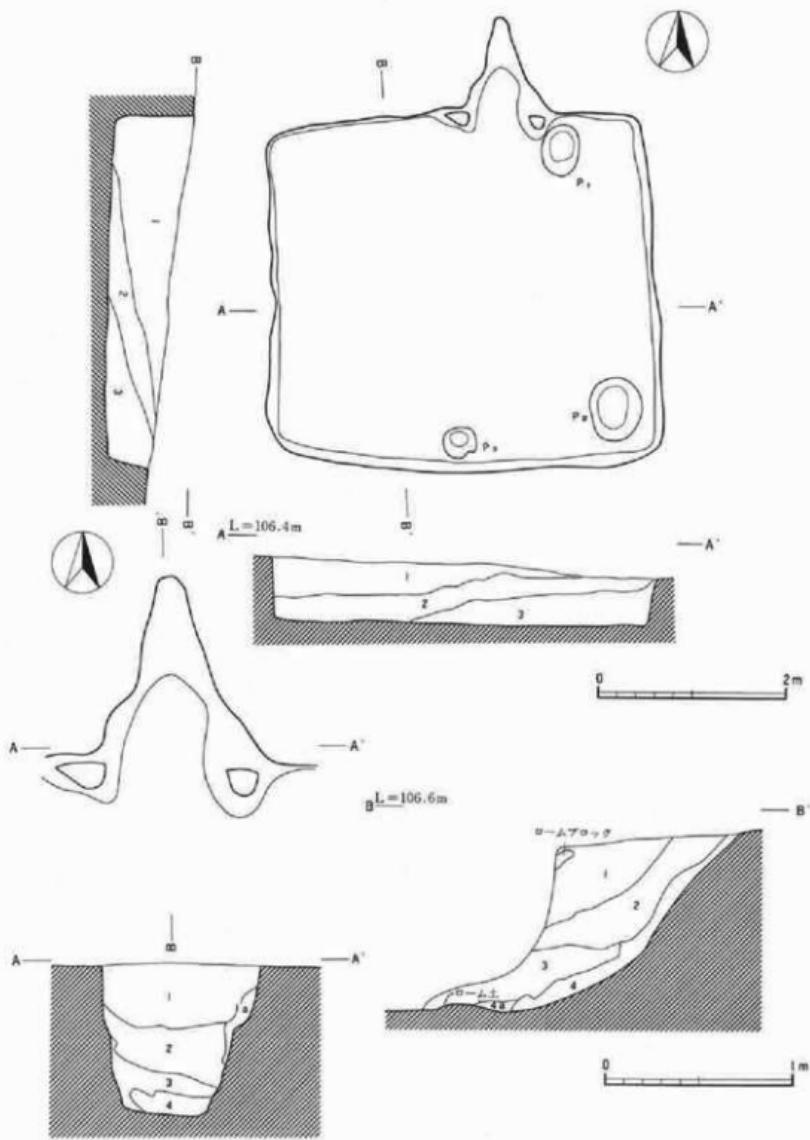
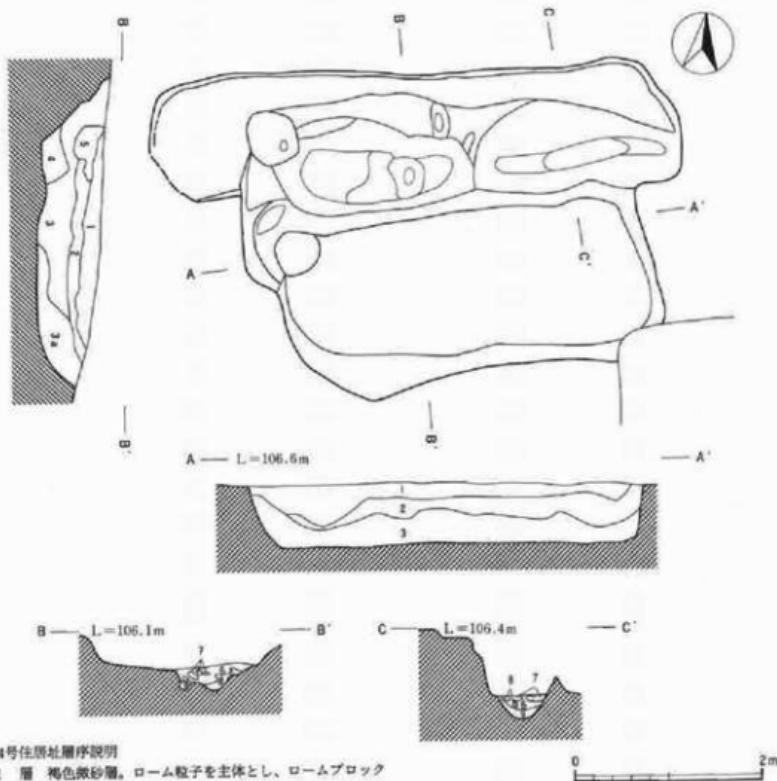


Fig. 65 H-53号住居址 (1/30・1/60)



54号住居址層序説明

- 1 層 黒褐色微砂層。ローム粒子を主体とし、ロームブロック及び黒色土粒子のブロックを少量含む。
 - 2 層 暗褐色微砂層。ローム粒子及びロームブロックを30%、黒色土20%含む。
 - 3 層 明褐色微砂層。ローム粒子及びロームブロックを40%、黒色土30%、軽石を若干含む。
 - 3 a 層 暗褐色微砂層。ローム土を主体。ロームブロックを少量含む。
 - 4 層 黑褐色微砂層。軽石及び焼土ブロックを若干、少量のロームブロック及びローム粒子を含む。
 - 5 層 黄褐色微砂層。ハードロームブロック。
 - 6 層 黑褐色微砂層。ローム粒子10%、軽石を若干含む。
 - 7 層 黄褐色土層。ロームブロック。
 - 8 層 暗褐色微砂層。ローム粒子を多量に含む。
 - 9 層 黑褐色微砂層。ローム粒子を30%含む。
- 1 層 黑褐色土層。擾乱層。
 - 2 層 黑褐色粗砂層。ローム粒子を10%、軽石若干含む。
 - 3 層 黑褐色細砂層。ローム粒子20%、軽石を若干含む。
 - 4 層 暗褐色細砂層。ローム、軽石を含む。
 - 5 層 黑褐色土層。ロームを20%、軽石を若干含む。
 - 6 層 暗褐色土層。粘土質。ロームブロック。
 - 7 層 暗褐色細砂層。軽石を少量と焼土粒子を若干、ハーフロームブロック及び粒子を少量均一的に含む。

Fig. 66 H-54号住居址(1/60)

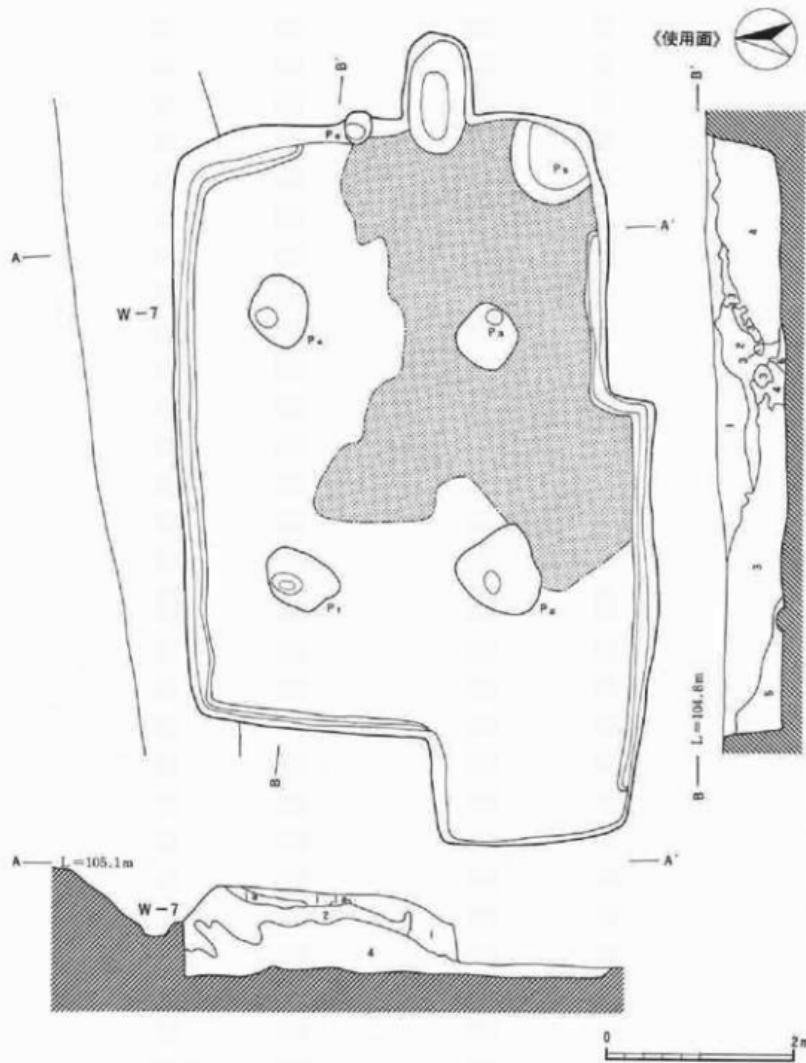


Fig. 67 H-55号住居址(1/60)

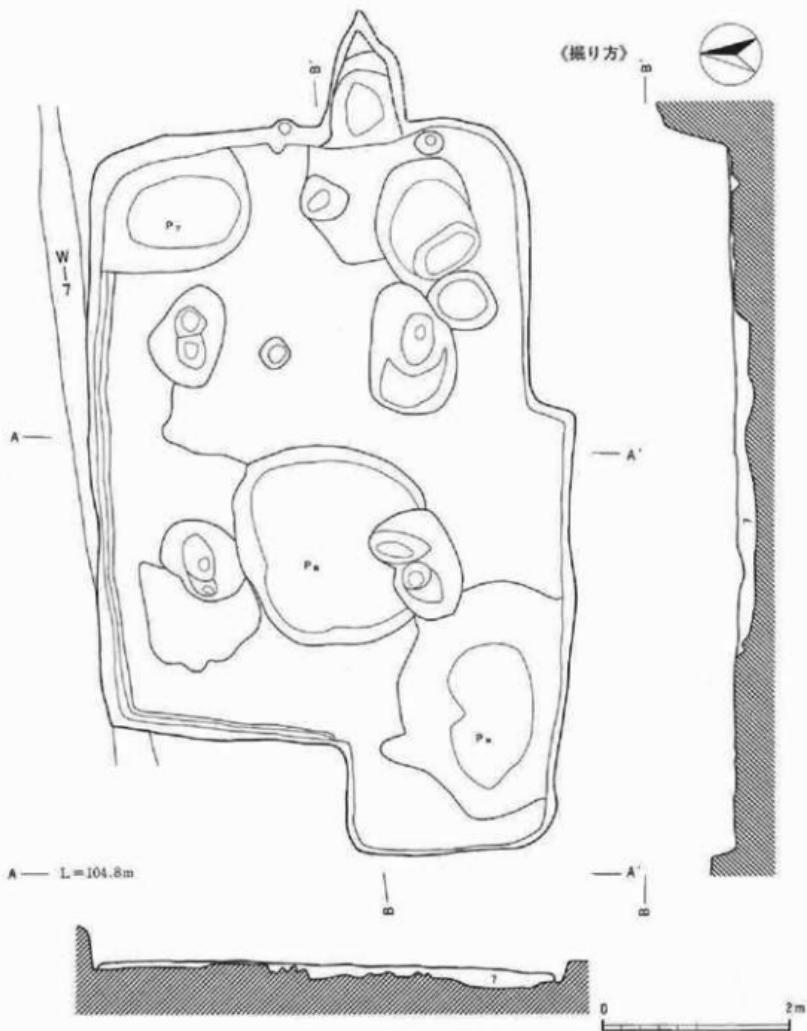
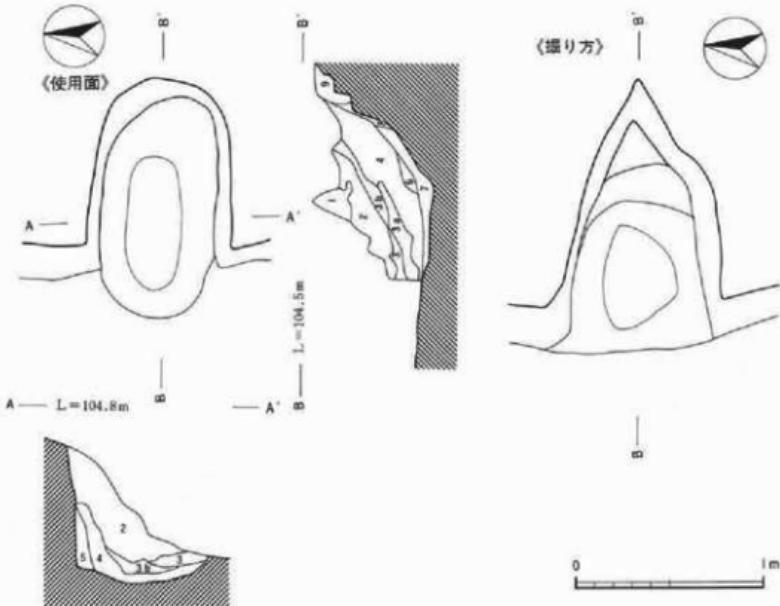


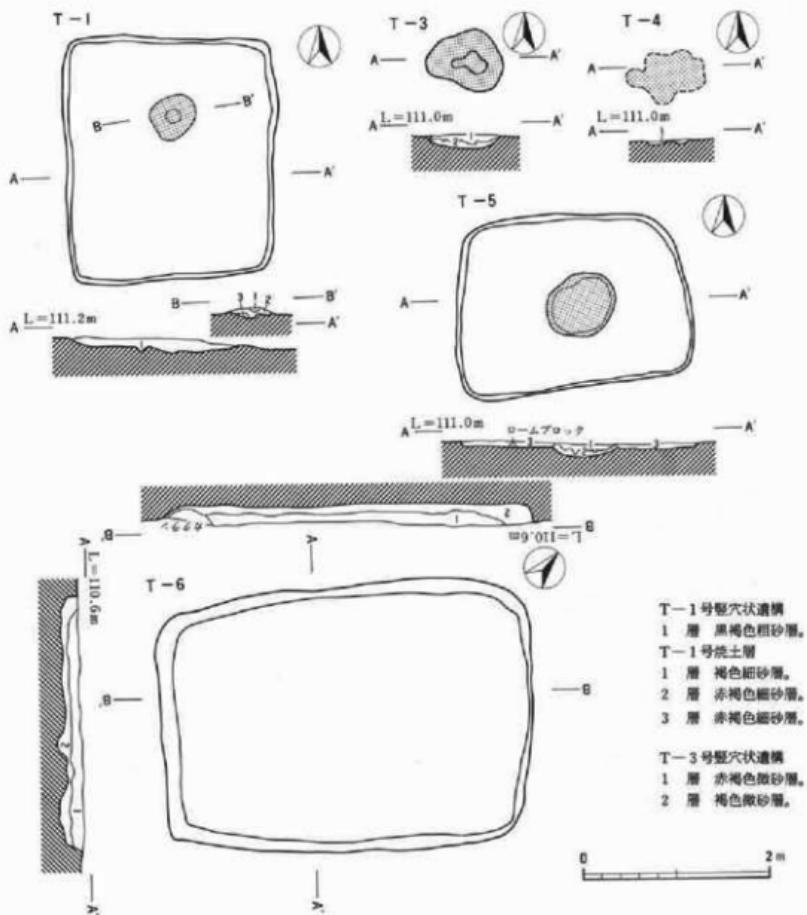
Fig. 68 H-55号住居址(1/60)



55号住居址堆層序説明

- 1 層 暗褐色細砂層。若干の焼土粒、ローム粒子を含む。
- 2 層 暗褐色細砂層。焼土ブロック、ロームブロックを含む。軽石は若干認められる。
- 3 層 暗褐色微砂層。灰を25%、焼土を15%、ロームを若干含む。
- 3 a 層 暗褐色微砂層。灰を主体としており、その他は少量の焼土粒及び焼土ブロックを含む。
- 3 b 層 赤褐色微砂層。焼土を60%含む。
- 4 層 暗褐色微砂層。焼土粒及び焼土ブロックを30%、灰を35%含む。
- 5 層 褐色土層。粘土層。
- 6 層 暗褐色微砂層。灰、焼土ブロックを少量含み、ロームブロックも含む。
- 7 層 暗褐色微砂層。少量のローム粒子、焼土粒子を含む。
- 8 層 暗褐色微砂層。焼土粒子を少量含む。
- 9 層 暗褐色微砂層。焼土粒子、炭化物を若干、ローム粒子を少量含む。煙道部。

Fig. 69 H-55号住居址(1/30)

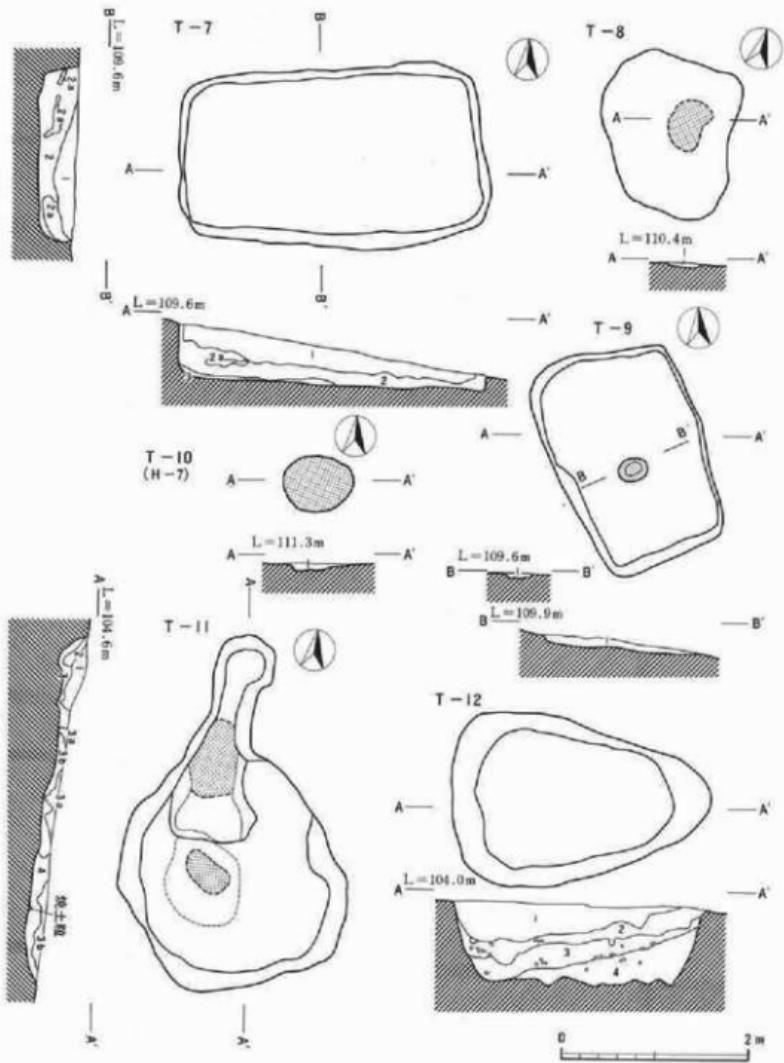


T-1号竖穴状遺構
 1 層 黑褐色粗砂層。
 T-1号洗土層
 1 層 褐色細砂層。
 2 層 赤褐色細砂層。
 3 層 赤褐色細砂層。

 T-3号竖穴状遺構
 1 層 赤褐色微砂層。
 2 層 棕色微砂層。

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------|--------------|
| T-4号竖穴状遺構 | T-7号竖穴状遺構 | T-9号竖穴状遺構 | T-3号竖穴状遺構 |
| 1 層 明褐色細砂層。 | 1 層 黑褐色細砂層。 | 1 層 黑褐色細砂層。 | 1 層 棕色細砂層。 |
| T-5号竖穴状遺構 | 2 層 黄褐色細砂層。 | 2 层 黑褐色細砂層。 | 3 a 層 にぶい黄褐色 |
| 1 層 明赤褐色粗砂層。 | 2 a 层 黑色細砂層。 | 1 层 黑色細砂層。 | 細砂層。 |
| 2 層 褐色細砂層。 | 3 层 オリーブ褐色 | 1 层 棕色細砂層。 | 3 b 層 棕色細砂層。 |
| 3 层 暗褐色細砂層 | 微砂層。 | T-10号洗土層 | 4 层 黑褐色粗砂層。 |
| T-6号竖穴状遺構 | T-8号洗土層 | 1 层 棕色細砂層。 | T-12号竖穴状遺構 |
| 1 层 黑褐色粗砂層。 | 1 层 明褐色細砂層。 | T-11号竖穴状遺構 | 1 层 黑褐色粗砂層。 |
| 2 层 棕色細砂層。 | T-11号竖穴状遺構 | 1 层 暗褐色細砂層。 | 2 层 黑褐色粗砂層。 |

Fig. 70 T-1~3・6号竖穴状遺構(1/60)



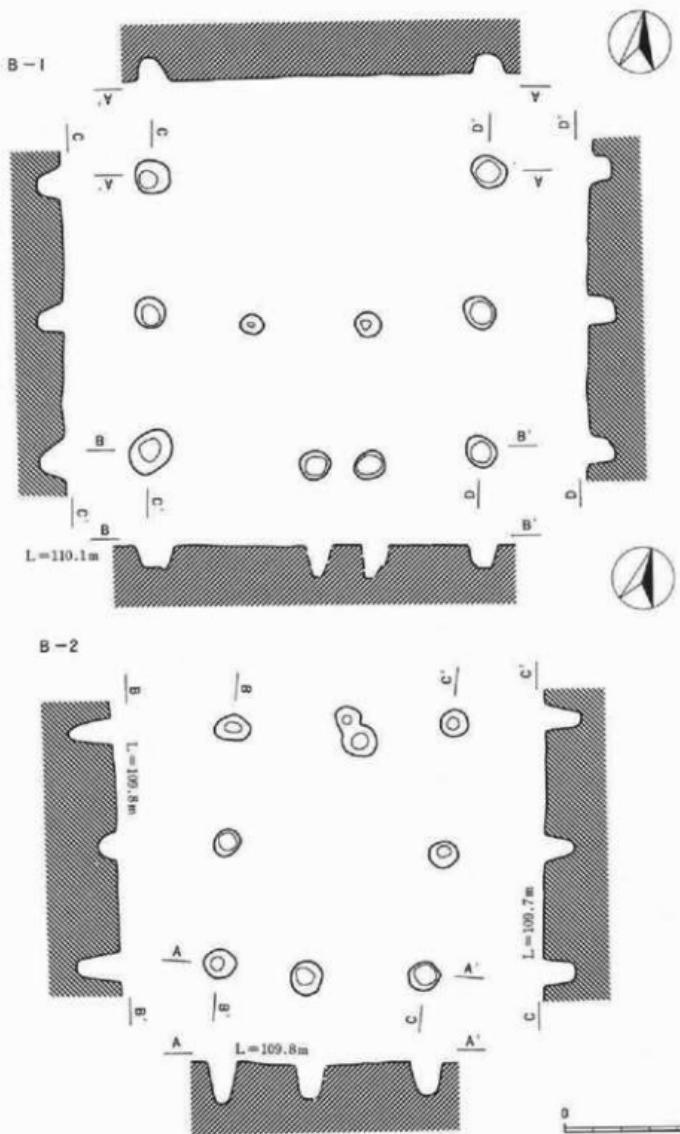


Fig. 72. B-1·2号掘立柱建物址(1/80)

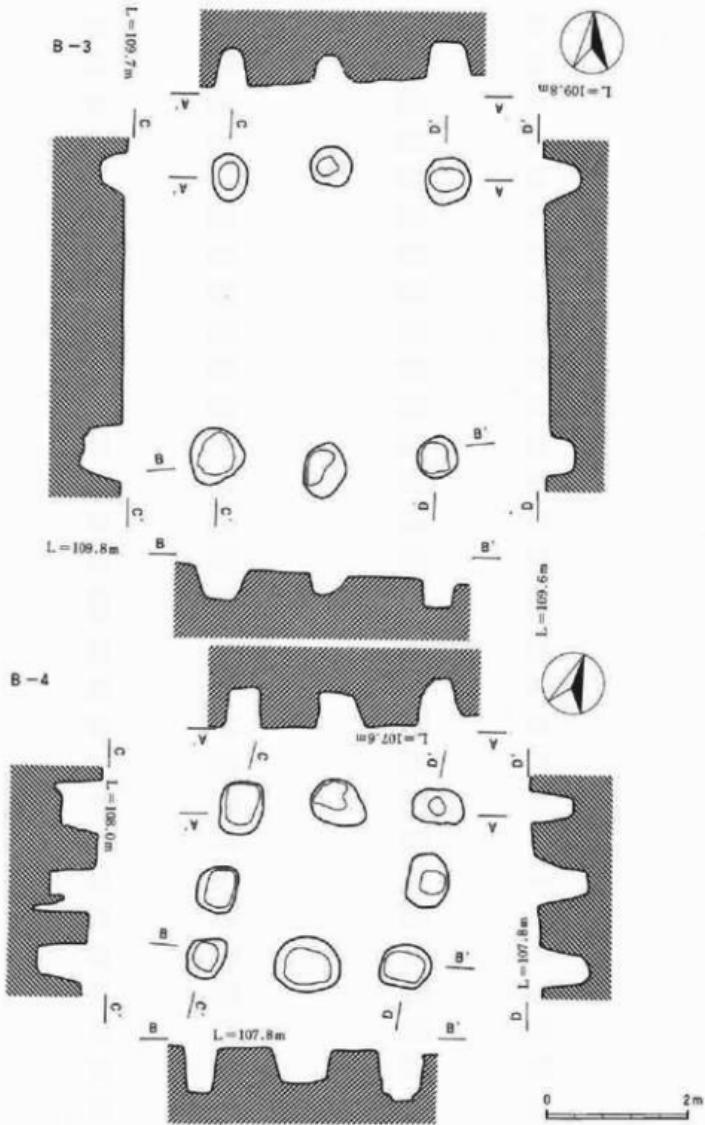


Fig. 73 B-3·4号掘立柱建物址(1/80)

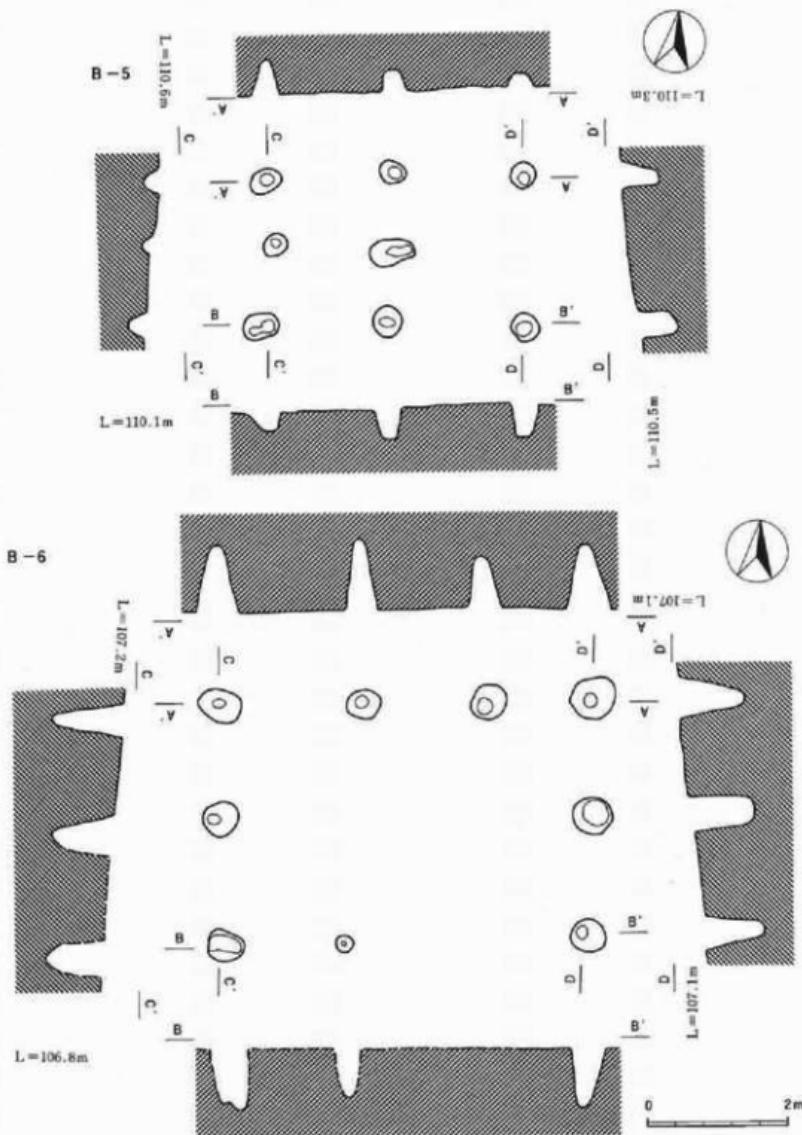
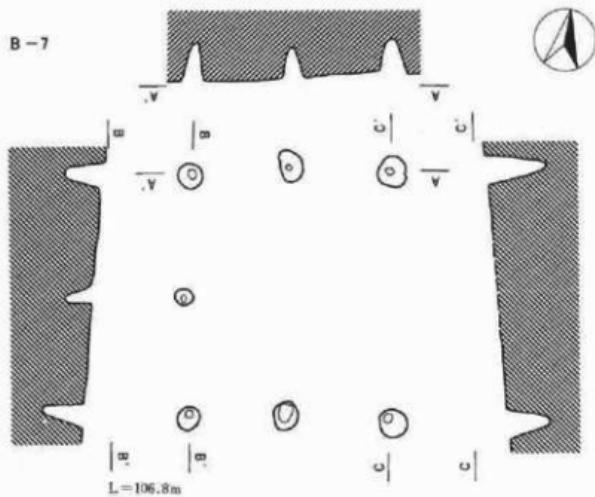


Fig. 74 B-5·6号掘立柱建物址(1/80)

B-7



B-8

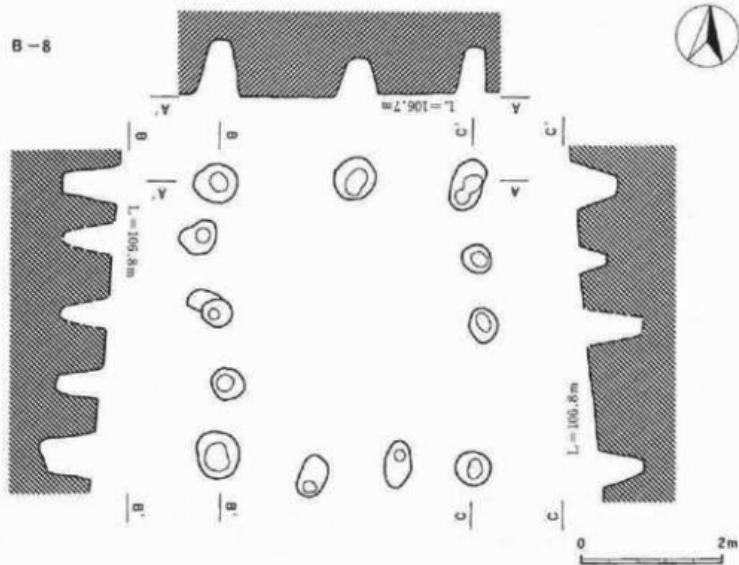


Fig. 75 B-7·8号据立柱建物量(1/80)

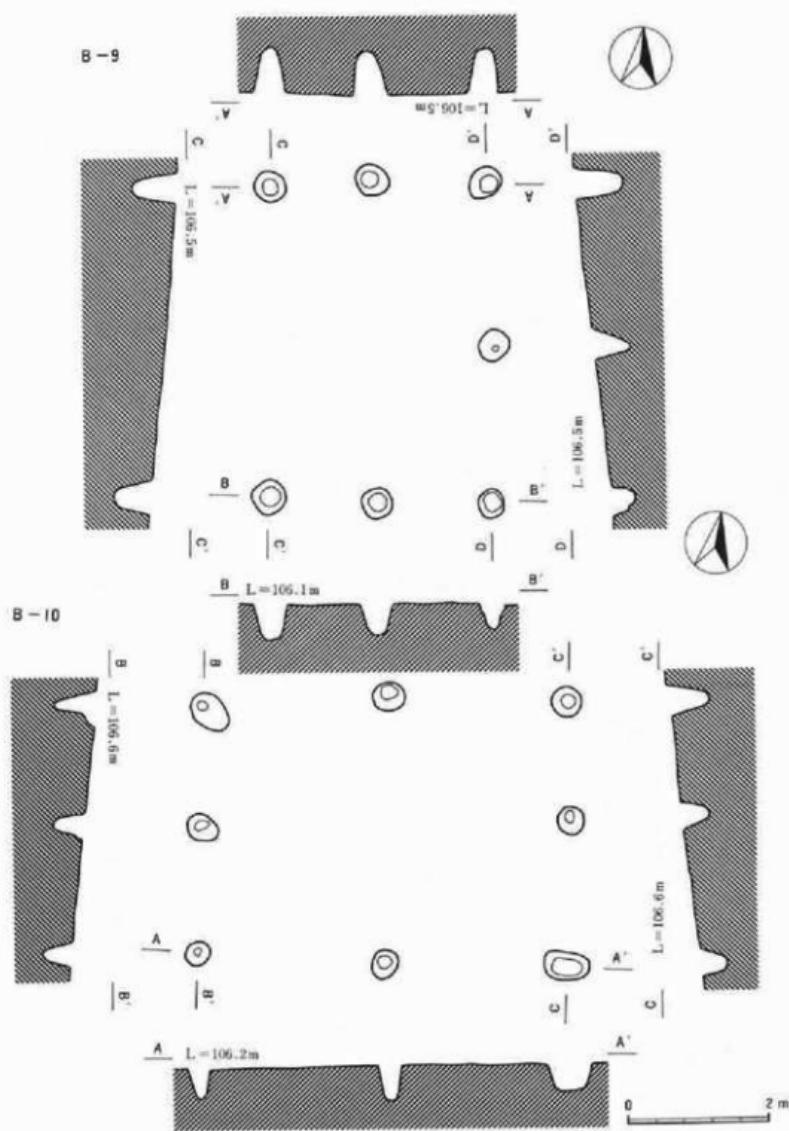


Fig. 76 B-9-10号掘立柱建物址(1/80)

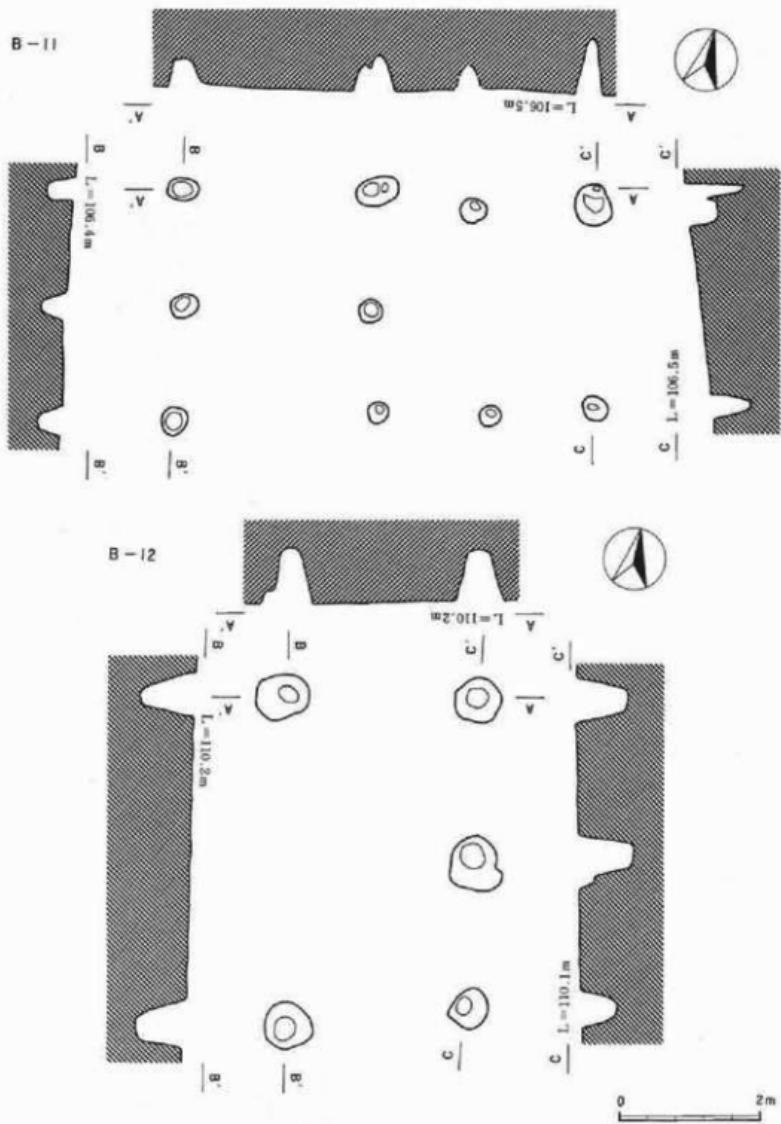


Fig. 77 B-11·12号�示柱建物址(1/80)

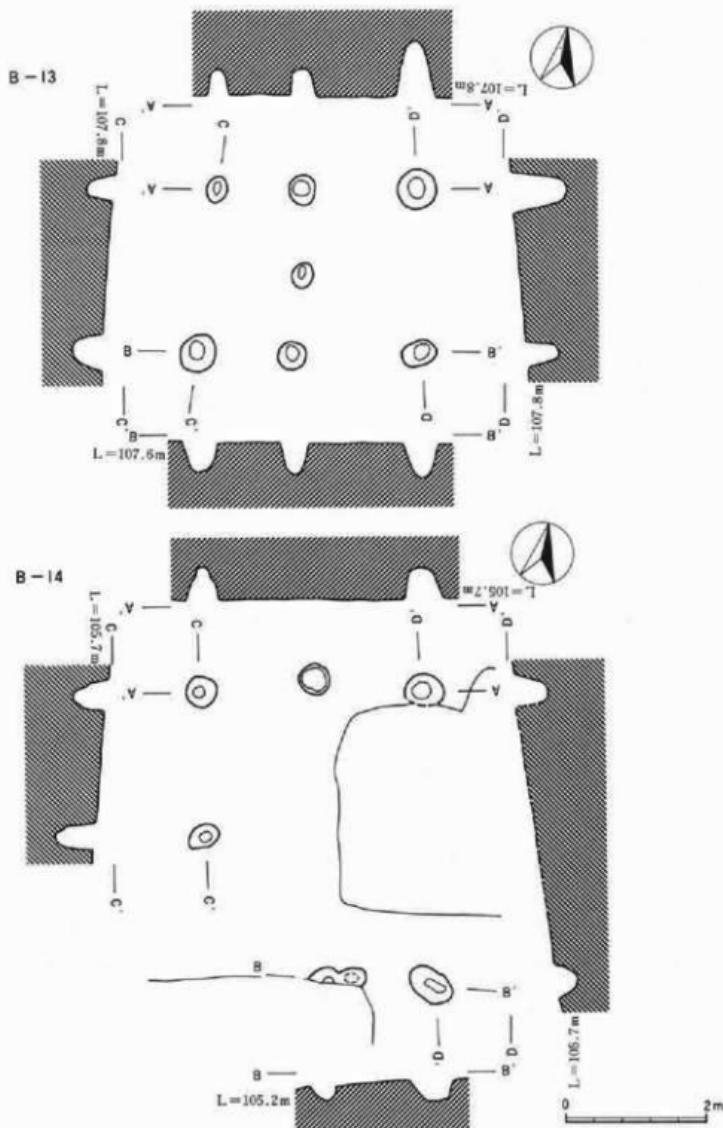


Fig. 78 B-13·14号掘立柱建物址(1/80)

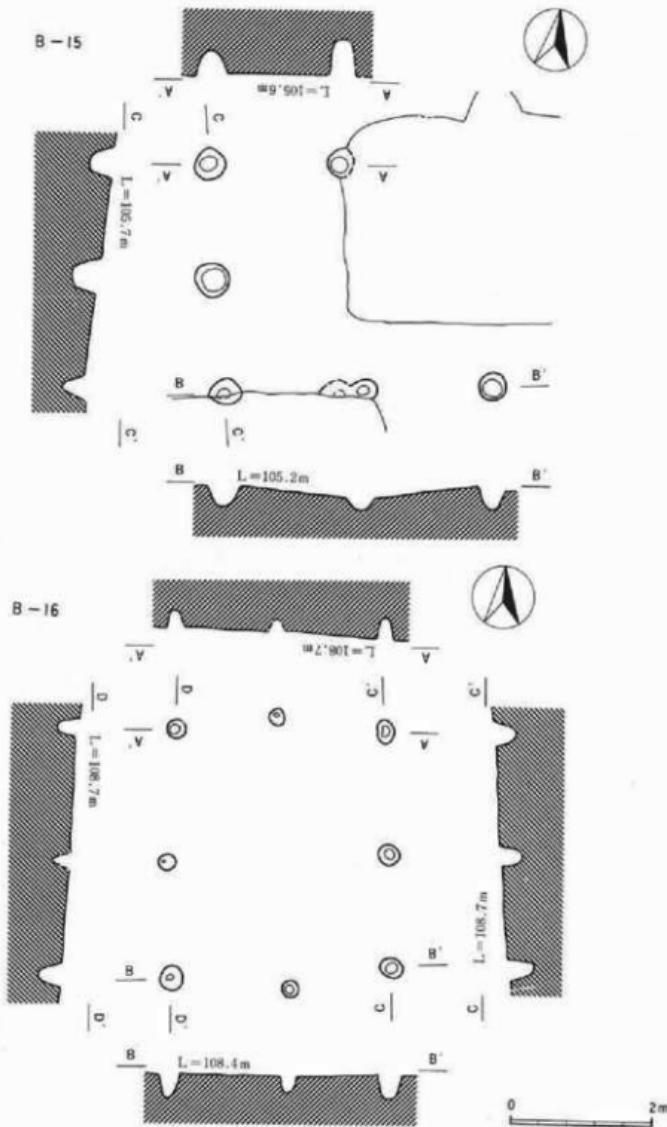


Fig. 79 B-15・16号据立柱建物址(1/80)

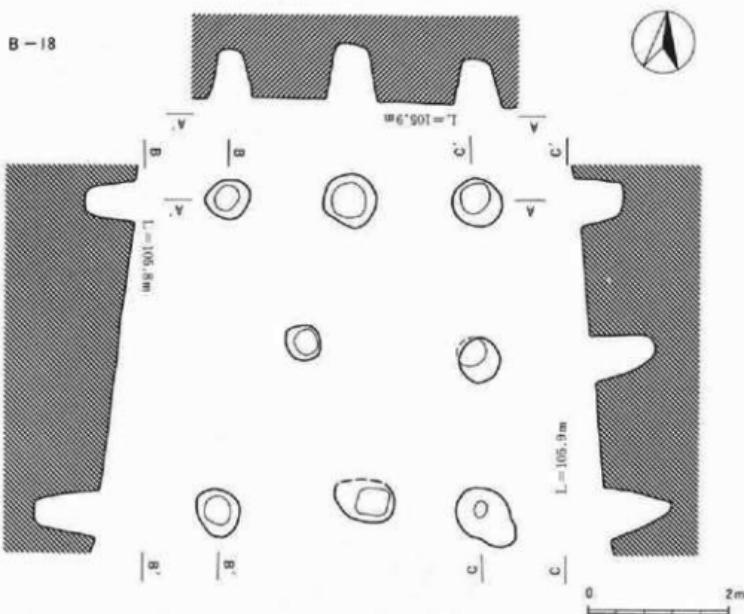
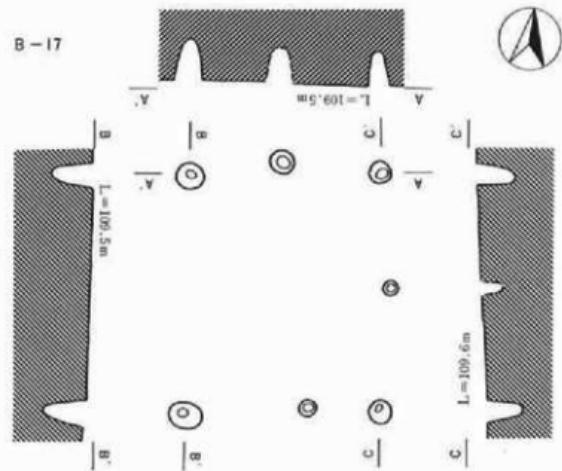


Fig. 80 B - 17·18号掘立柱建物址(1/80)

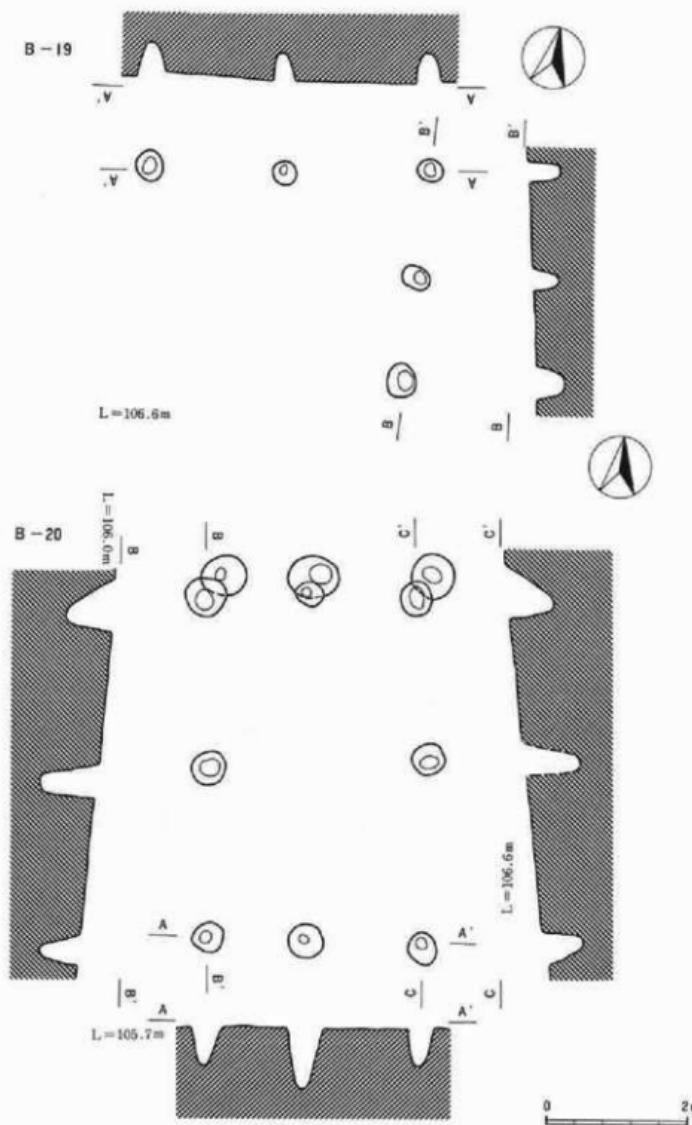


Fig. 81 B-19·20号掘立柱建物址(1/80)

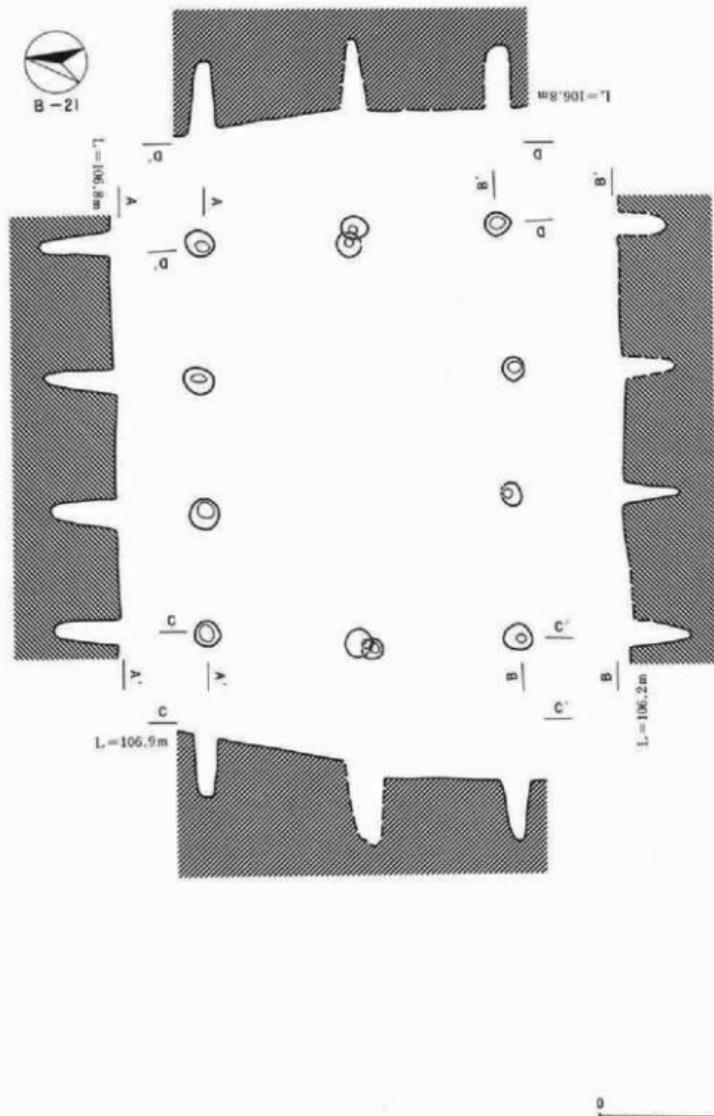


Fig. 82 B-21号掘立柱建物址(1/80)

B - 23

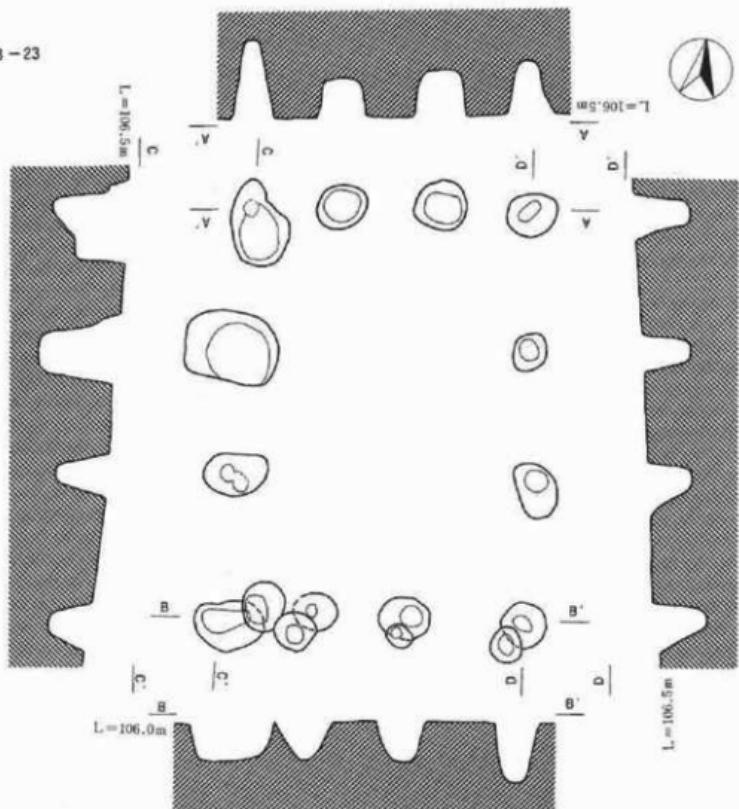


Fig. 83 B-23号掘立柱建物址(1/80)

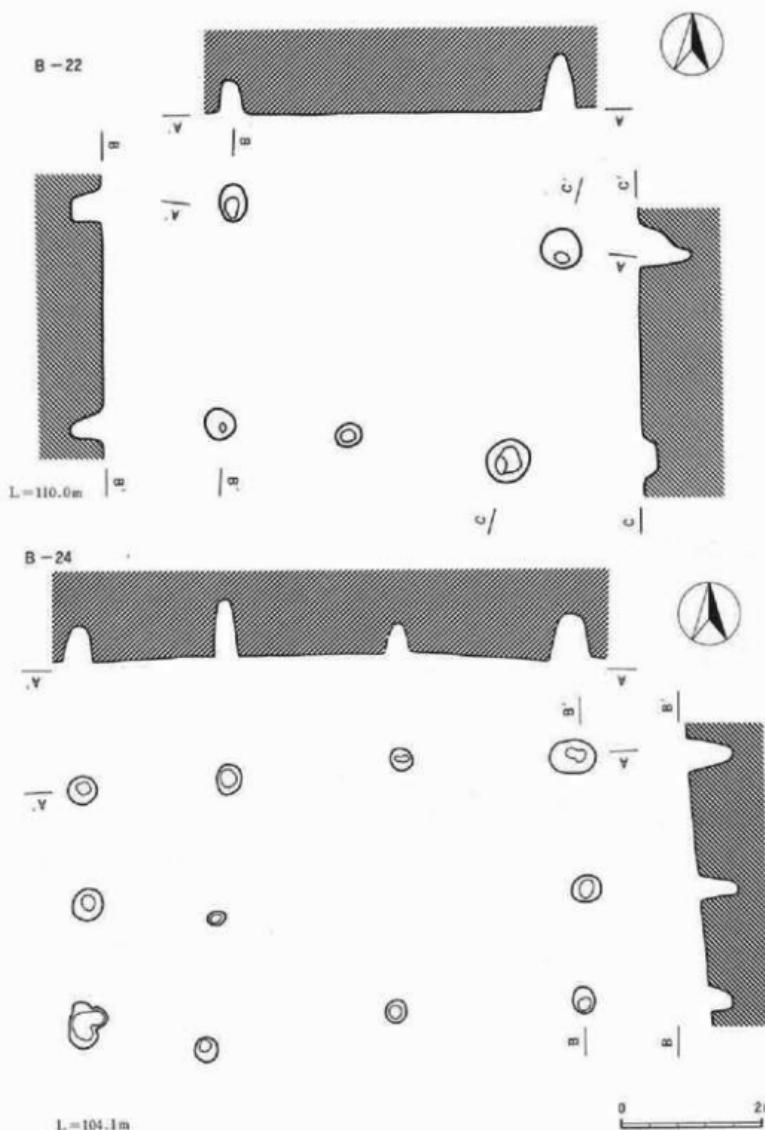


Fig. 84 B-22·24号掘立柱建物址(1/80)

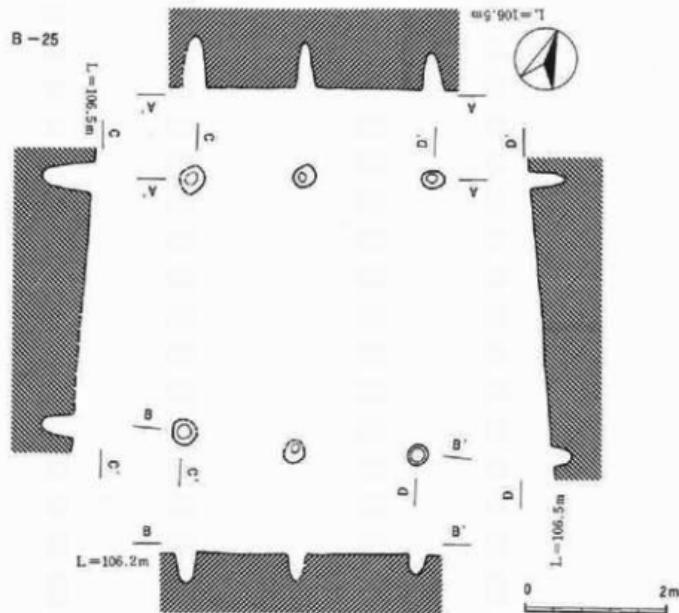
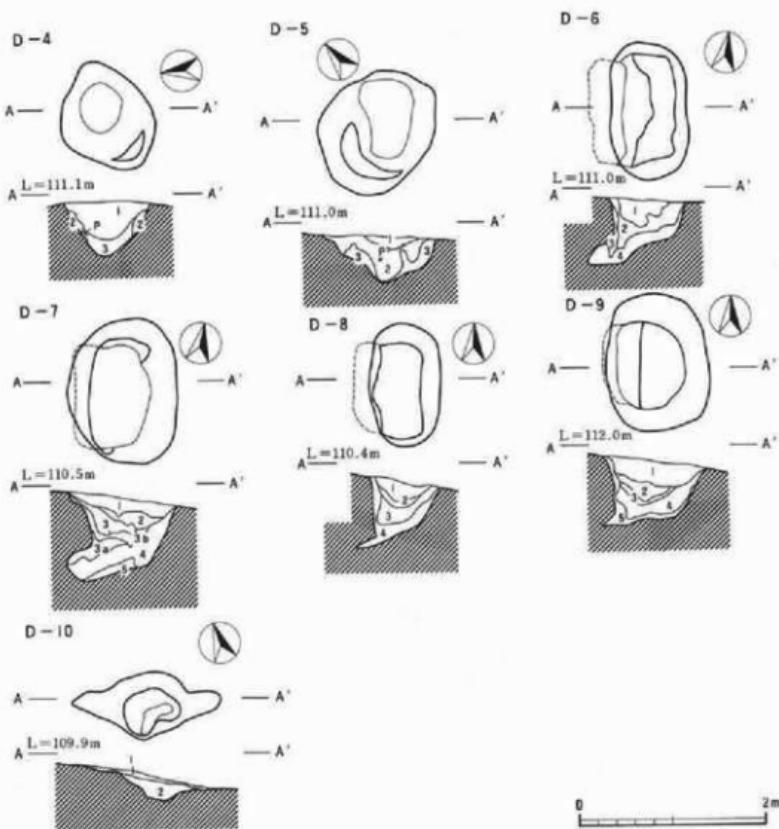


Fig. 85 B-25号掘立柱建物址(1/80)



0 2m

土坑層序説明

D-4号土坑

1 層 黒褐色土層。軽石を10%含む。

2 層 黄褐色土層。ローム土。

3 層 黑褐色土層。軽石を少量含む。

D-5号土坑

1 層 黒色土層。軽石を20%含む。

2 層 黑色土層。軽石を10%含む。

3 層 黑褐色土層。ローム土。

D-6号土坑

1 層 黒色粗砂層。軽石を25%含む。

2 層 黑褐色粗砂層。軽石を10%含む。

3 層 褐色細砂層。軽石を若干含む。

4 層 黄褐色細砂層。ローム粒子を斑状に含む。

D-7号土坑

1 層 黑褐色粗砂層。軽石を20%含む。

2 層 黑色細砂層。軽石を10%含む。

3 層 黑褐色細砂層。軽石を5%含む。

3a層 黑褐色細砂層。

3b層 黑褐色細砂層。

4 層 褐色細砂層。

5 層 黄褐色細砂層。

D-8号土坑

1 層 黒色粗砂層。軽石を20%含む。

2 層 黑褐色細砂層。軽石を15%含む。

3 層 に上い黄褐色細砂層。

4 層 黄褐色細砂層。

D-9号土坑

1 層 黒色粗砂層。

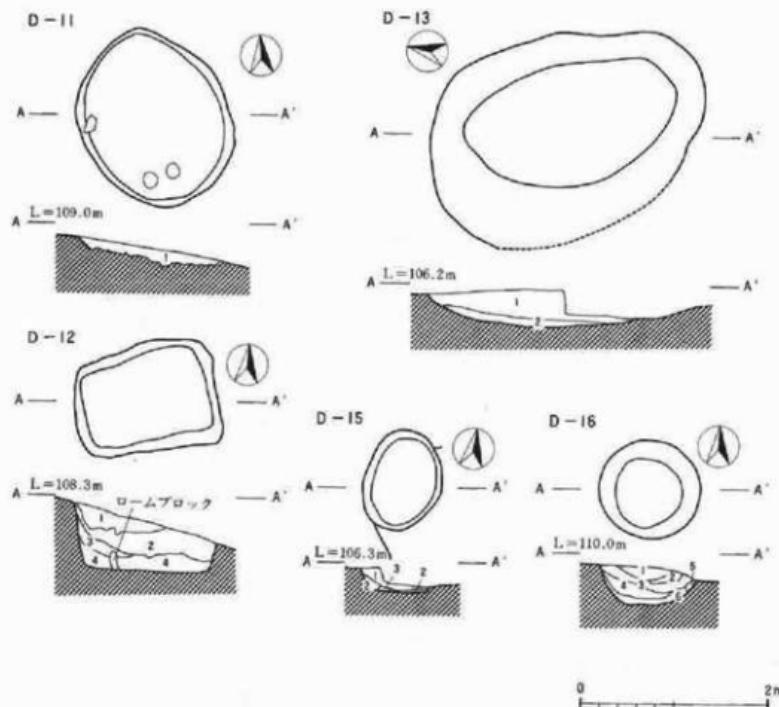
2 層 黑色細砂層。軽石を15%含む。

3 層 黑褐色細砂層。

4 層 褐色細砂層。

5 層 黄褐色細砂層。

Fig. 86 D-4 ~ 10号土坑(1/60)



D-10号土坑

- 1 層 黒褐色細砂層。軽石を15%含む。
- 2 層 黒褐色細砂層。粒子均一。軽石を若干含む。

D-11号土坑

- 1 層 増オリーブ褐色細砂層。軽石を20~30%含む。

D-12号土坑

- 1 層 黒色粗砂層。軽石を30%含む。
- 2 層 オリーブ褐色細砂層。ローム土を60~70%含む。

- 3 層 オリーブ褐色細砂層。ローム土を主体とする。
- 4 層 オリーブ褐色細砂層。ローム土を主体とする。

D-13号土坑

- 1 層 黒褐色細砂層。軽石を10%含む。
- 2 層 黒褐色細砂層。砂質が強い。

D-15号土坑

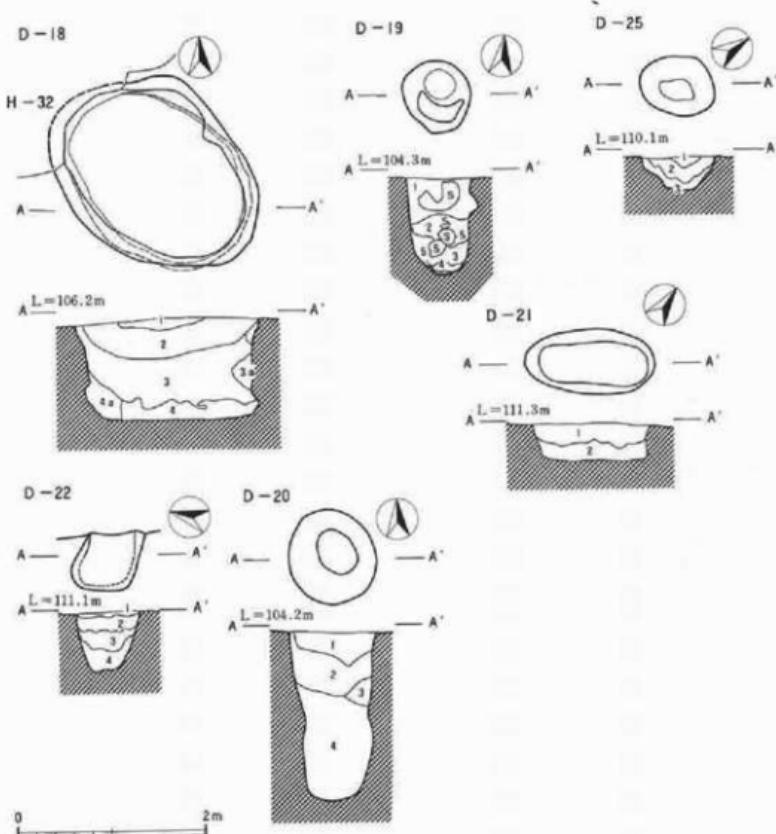
- 1 層 黒色細砂層。軽石を少量含む。
- 2 層 黒褐色細砂層。軽石を少量含む。

- 3 層 黒褐色土層。軽石を少量含む。シルトブロックである。
- 4 層 黒褐色細砂層。ロームブロックを主体とする。

D-16号土坑

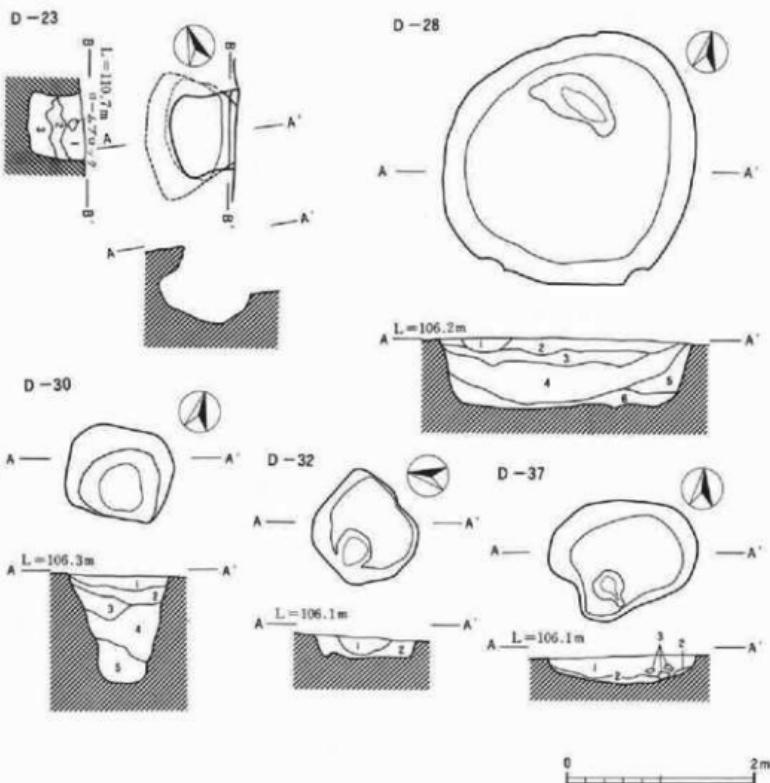
- 1 層 黒色細砂層。Hr-FP・As-CPを10%、炭化物、焼土粒子を少量含む。
- 2 層 暗褐色細砂層。ロームブロック50%、軽石を若干含む。
- 3 層 黑褐色細砂層。ロームブロック10%、軽石を若干含む。
- 4 層 黑褐色細砂層。ロームブロック30%、軽石を若干含む。
- 5 層 褐色細砂層。ローム土。
- 6 層 暗褐色細砂層。As-CP 2%、ロームブロック70%含む。

Fig. 87 D-11~13・15・16号土坑(1/60)



- | D-18号土坑 | D-19号土坑 | D-21号土坑 |
|----------------------------------|------------------------|----------------------|
| 1 層 黄褐色細砂層。軽石を5%含む。 | 1 層 黒褐色粗砂層。軽石を若干含む。 | 1 層 黒褐色細砂層。軽石を40%含む。 |
| 2 層 黒褐色細砂層。軽石を30%含む。 | 2 層 黒褐色粗砂層。軽石を若干含む。 | 2 層 暗褐色細砂層。軽石を15%含む。 |
| 3 层 黒褐色細砂層。軽石を10%含む。 | 3 层 黒色粗砂層。軽石を若干含む。 | D-22号土坑 |
| 3 a 层 褐色細砂層。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。 | 4 层 黑褐色粗砂層。 | 1 层 黑褐色粗砂層。軽石を20%含む。 |
| 4 层 褐色微砂層。ローム土。 | 5 层 暗赤褐色粗砂層。砂礫層。 | 2 层 暗褐色細砂層。軽石を20%含む。 |
| 4 a 层 黑褐色微砂層。ローム粒子を多量に含む。 | D-20号土坑 | 3 层 褐色細砂層。軽石を10%含む。 |
| 5 层 によい黄褐色細砂層。ローム土、黒色土を若干含む。 | 1 层 黑褐色粗砂層。軽石を若干含む。 | D-25号土坑 |
| | 2 层 黑褐色細砂層。軽石を若干含む。 | 4 层 黄褐色細砂層。軽石を10%含む。 |
| | 3 层 黑褐色細砂層。ローム粒子を若干含む。 | D-21号土坑 |
| | 4 层 によい黄褐色粗砂層。 | 1 层 褐色細砂層。軽石を20%含む。 |
| | | 2 层 暗褐色微砂層。軽石を若干含む。 |
| | | 3 层 明黄褐色微砂層。 |

Fig. 88 D-18~22,25号土坑(1/60)



D-23号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石を15%含む。
- 2 層 黒褐色細砂層。軽石を10%含む。
- 3 層 棕褐色細砂層。軽石を5%含む。

D-28号土坑

- 1 層 棕褐色細砂層。軽石を若干含む。
- 2 層 黑褐色細砂層。軽石を10%含む。ローム粒子を若干含む。
- 3 層 黑褐色細砂層。軽石を15%含む。ロームブロックを5%含む。
- 4 層 黑褐色細砂層。軽石を5%、ロームブロックを10%含む。

5 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を10%、若干の軽石を含む。

- 6 層 黑褐色細砂層。若干の軽石とローム粒子、ロームブロックを10%含む。
- 1 層 棕褐色細砂層。軽石を5%含む。
- 2 層 棕褐色細砂層。軽石を5%含む。
- 3 層 棕褐色細砂層。軽石を若干含む。
- 4 層 黑褐色細砂層。軽石を若干含む。
- 5 層 黄褐色微砂層。ローム土を若干含む。

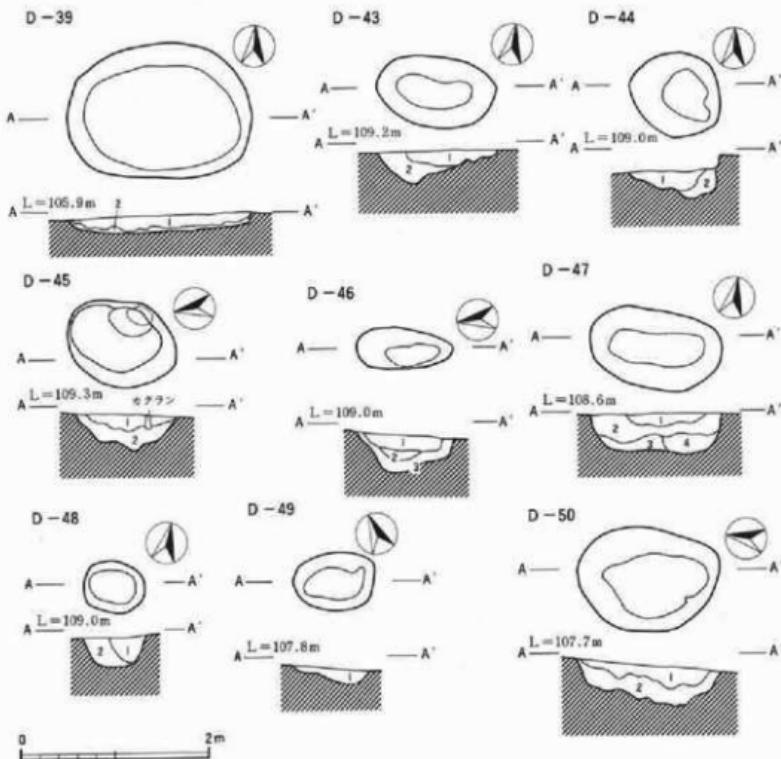
D-32号土坑

- 1 層 暗褐色粗砂層。軽石を20%含む。
- 2 層 黄褐色微砂層。軽石を若干含む。

D-37号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。ローム粒子及びロームブロックを20%含む。
- 2 層 棕褐色微砂層。ソフトローム土。
- 3 層 黑褐色細砂層。軽石を若干含む。

Fig. 89 D-23・28・30・32・37号土坑(1/60)



D-39号土坑

- 1 層 黒褐色細砂層。軽石を10%含む。
2 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
- D-43号土坑
- 1 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。

D-44号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。ブロック状の黑色土をわずかに含む。

D-45号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
2 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。

D-46号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石を20%含む。
2 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
3 層 黄褐色微砂層。ローム粒子を30%含む。

D-47号土坑

- 1 層 黑褐色細砂層。軽石を若干含む。
2 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
3 层 黄褐色微砂層。ローム粒子を30%含む。
4 层 に上る黄褐色微砂層。軽石、ローム粒子をわずかに含む。

D-48号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
2 层 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。

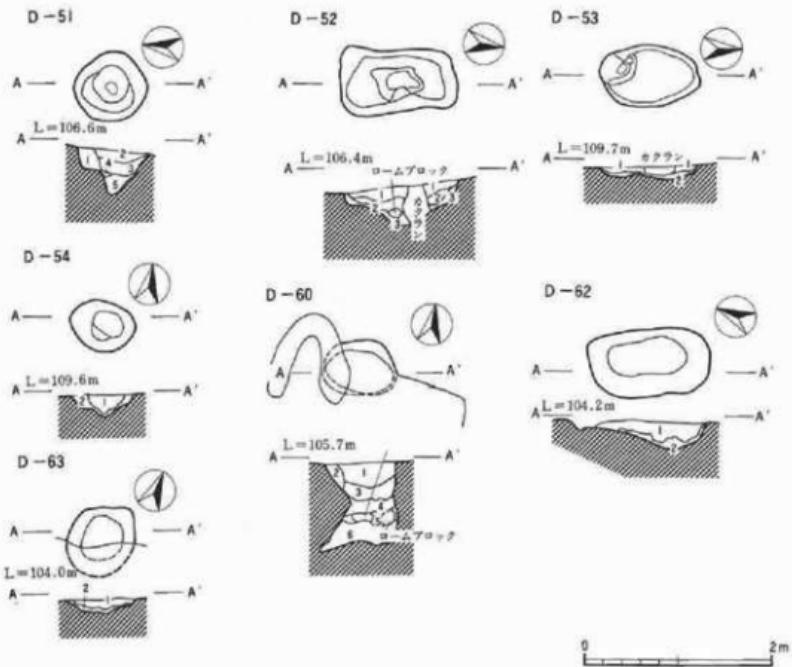
D-49号土坑

- 1 層 黑褐色細砂層。軽石を若干含む。
2 层 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
3 层 黄褐色微砂層。ローム粒子を10%含む。

D-50号土坑

- 1 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。
2 层 黄褐色細砂層。軽石を若干含む。ローム粒子を10%含む。

Fig. 90 D-39-43-50号土坑(1/60)



- D-5号土坑
- 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
ローム粒子を10%含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。
 - 層 暗褐色細砂層。ローム土を50%含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
- D-52号土坑
- 層 黒褐色細砂層。軽石を若干含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
- D-53号土坑
- 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石を若干含む。
 - 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を多量、軽石を少量含む。
 - 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を40%、粘土粒子を若干含む。
 - 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を多量、軽石を若干含む。
- D-54号土坑
- 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を若干含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石、ローム粒子を3%ずつ含む。
- D-60号土坑
- 層 暗褐色細砂層。ローム粒子を多量、軽石を20%含む。
- D-62号土坑
- 層 暗褐色細砂層。軽石を20%含む。
 - 層 暗褐色細砂層。軽石を10%含む。
- D-63号土坑
- 層 黑褐色細砂層。軽石を10%含む。
 - 層 暗褐色細砂層。ローム粒子を多量、軽石を若干含む。
 - 層 黑褐色細砂層、ローム粒子を少量、軽石を30%含む。

Fig. 91 D-51~54・60・62・63号土坑(1/60)

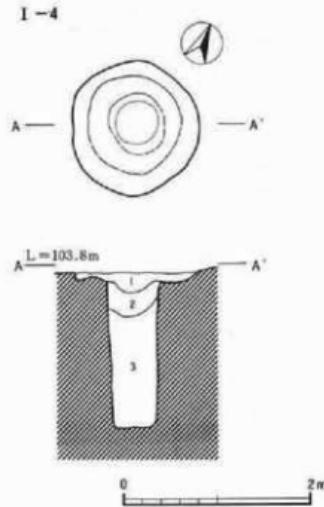
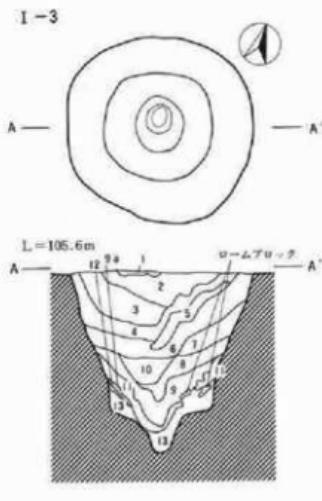
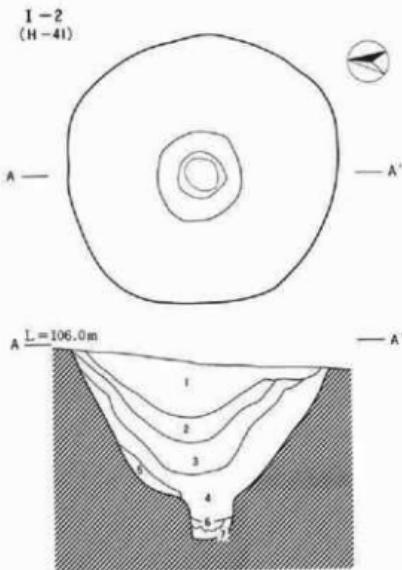
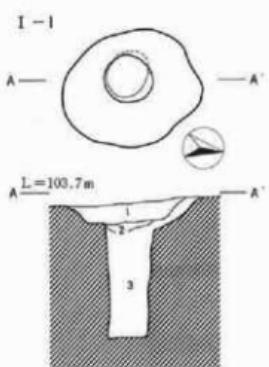
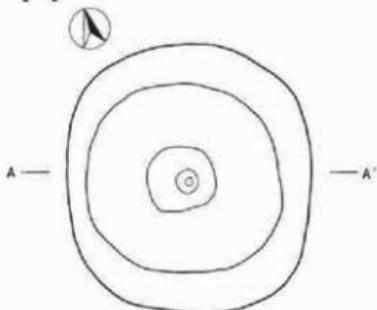


Fig. 92 1-1~4号井戸(1/60)

I-5



I-6

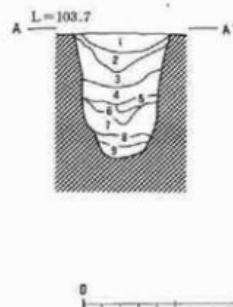
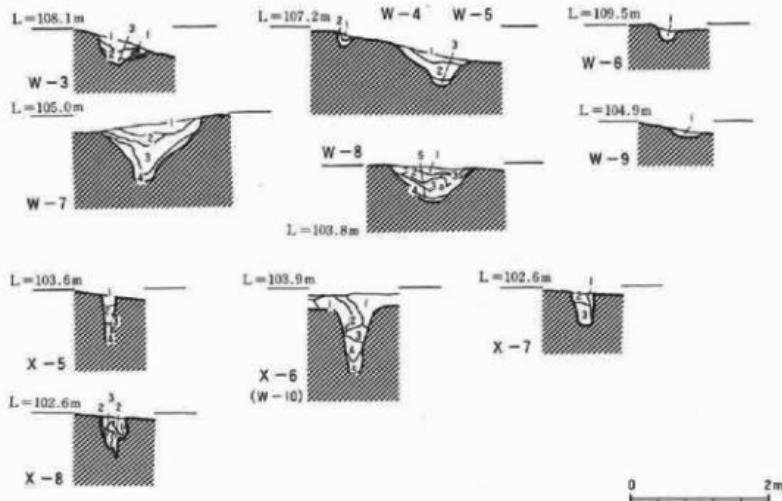


Fig. 93 I-5-6号井戸(1/60)



溝層序説明

W-3号溝

- 1 層 黒褐色粗砂層。軽石を多量に含む。粘性なし。
- 2 層 塗褐色細砂層。軽石を10%とローム粒子を含む。
- 3 層 黄褐色細砂層。ローム土を主体とする層。

W-4号溝

- 1 層 黒褐色細砂層。軽石を含む。
- 2 層 黑色細砂層。軽石を5%含む。

W-5号溝

- 1 層 黑褐色細砂層。軽石を少量含む。
- 2 層 黑色細砂層。軽石とローム粒子を若干含む。
- 3 層 暗褐色細砂層。軽石とローム粒子を若干含む。

W-6号溝

- 1 層 黑褐色粗砂層。耕作土と思われる砂質の軽石を含む。

W-7号溝

- 1 層 黒褐色粗砂層。軽石を多量に含む。
- 2 層 暗褐色粗砂層。軽石を40%、ロームを50%以上含む。燒土粒子を若干含む。
- 3 層 黑褐色細砂層。軽石を30%含む。
- 4 層 暗褐色細砂層。ローム土を80%含む。

W-8号溝

- 1 層 黒褐色粗砂層。B軽石を主体とする層。
- 2 層 黑褐色細砂層。軽石を20%含む。
- 3 層 暗褐色細砂層。軽石を5%含む。
- 4 層 黑褐色細砂層。軽石を10%含む。
- 5 層 にい黄褐色シルト層。軽石を若干含む。

5 層 細砂層。軽石を30%含む。

6 層 黒色細砂層。砂質層。軽石を若干含む。

W-9号溝

- 1 層 暗褐色細砂層。砂質層。軽石を若干含む。

地割れ層序説明

X-5号地割れ

- 1 層 黑褐色微砂層。上部に鉄分が凝聚。軽石を10%含む。
- 2 層 黑褐色微砂層。軽石を若干含む。
- 3 层 黑褐色微砂層。軽石を若干含む。

X-6号地割れ

- 1 層 黑褐色細砂層。軽石を25%含む。
- 2 層 暗褐色細砂層。軽石を30%含む。
- 3 层 黑褐色細砂層。軽石を7%含む。
- 4 层 黑褐色細砂層。ローム粒子を若干含む。
- 5 层 暗褐色細砂層。ローム粒子とロームブロックを含む。

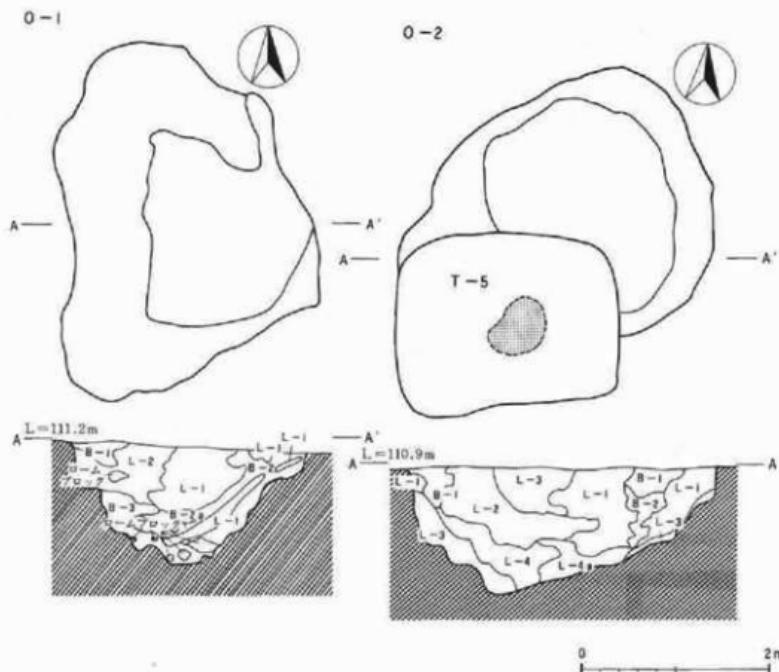
X-7号地割れ

- 1 层 黑褐色微砂層。軽石を若干含む。
- 2 层 暗褐色微砂層。軽石を若干含む。
- 3 层 暗褐色微砂層。軽石を若干含む。

X-8号地割れ

- 1 层 暗褐色微砂層。軽石を若干含む。
- 2 层 黑褐色微砂層。ローム粒子を若干含む。
- 3 层 にい黄褐色微砂層。ローム粒子を25%含む。

Fig. 94 W-3~9号溝・X-5~8号地割れ(1/80)



落ち込み層序説明

O-1号落ち込み

L 1 層 黄褐色土層。ハードローム層。

L 2 層 褐色土層。ソフトローム層。下部に炭化物を2点含む。

B 1 層 黒褐色細砂層。φ1 mmの軽石を2%、φ5 mmの炭化物。硬く繰り。粘性は弱い。

B 2 層 褐色粗砂層。φ1～5 mmの軽石。ローム粒子を含む。やわらかく繰りはない。粘性あり。

B 2 a 層 暗褐色粗砂層。ローム粒子を多量に含む。繊りなし。

B 3 層 黑褐色細砂層。ローム粒子を2%含む。繊りあり。粘性は少ない。

O-2号落ち込み

L 1 層 黄褐色土層。φ1～2 mmのAs-Cを若干含む層。粘性は悪いが、繊りはややあり。

L 2 層 黄褐色土層。ソフトローム層。φ1～2 mmのAs-Cを若干含む。粘性、繊りともややあり。

L 3 層 明黄褐色土層。ハードローム層。φ1～2 mmの軽石を若干含む。

L 4 層 明黄褐色粗砂層。φ1～2 mmのAs-Cを若干含む。L 2 層にハードロームブロックを含んだ層。
φ20～30 mmのロームブロックを含む。

L 4 a 層 黄褐色土層。L 4 に準ずる層で、ロームブロックの混入はL 4 に比べ少ない。粘性、繊りともややあり。

B 1 層 黒褐色細砂層。φ1～2 mmのAs-Cを5～10%含む層。粘性悪いが繊りはある。プラン確認の時に黒く見えた部分。

B 2 層 海褐色粗砂層。φ1～2 mmのAs-Cを5～10%含む層。B 1 に比べローム土の混入が多く、粘性悪く、繊りは良い。

Fig. 95 O-1・2号落ち込み(1/60)

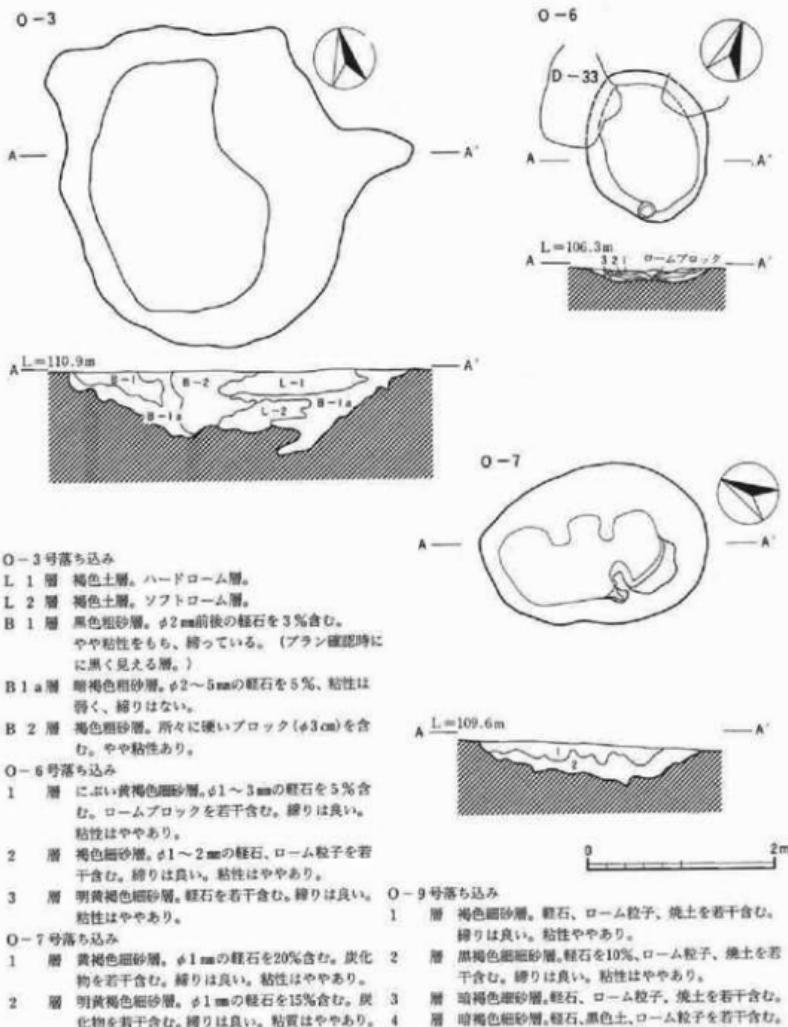


Fig. 96 O-3・6・7号落ち込み(1/60)

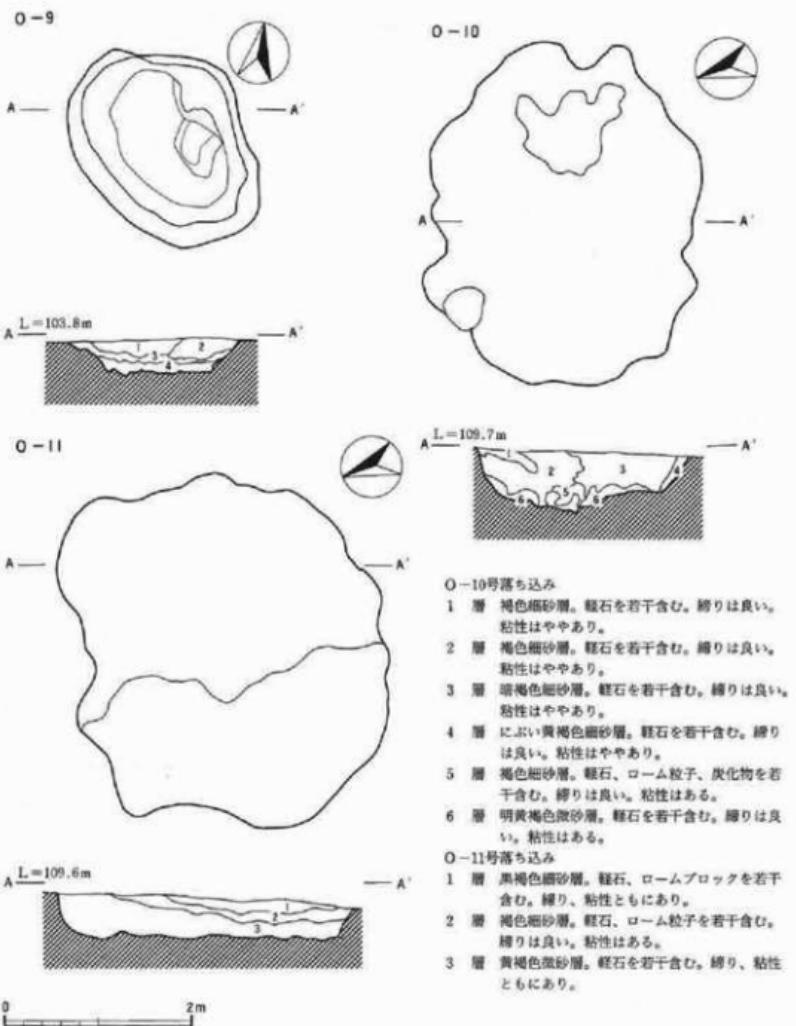


Fig. 97 O-9~11号落ち込み(1/60)

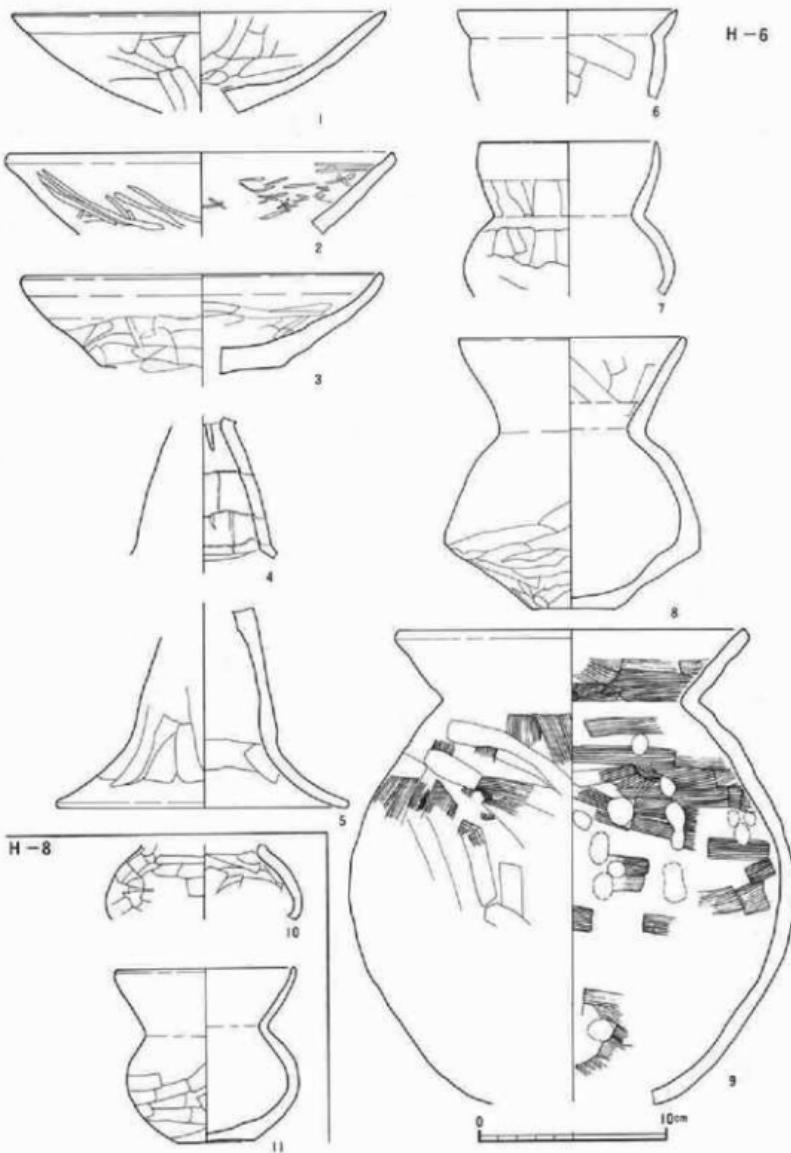


Fig. 98 H-6-8号住居址出土の土器(1/3)

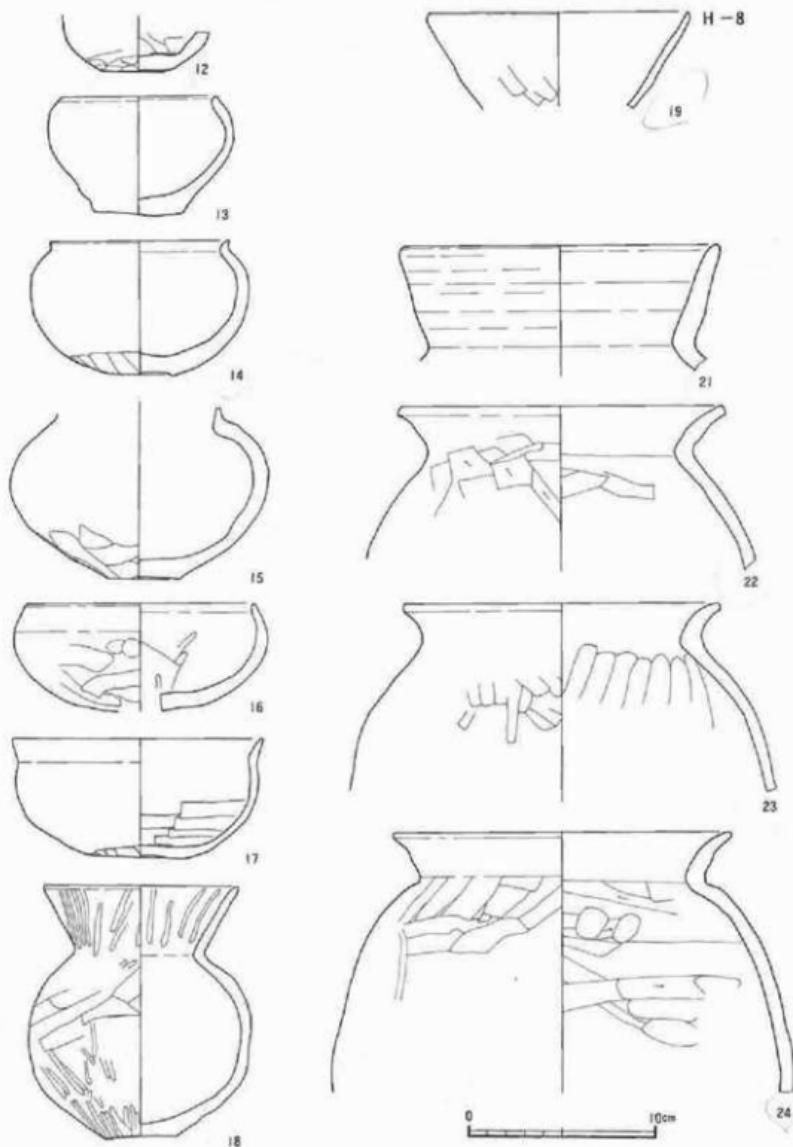


Fig. 99 H-8号住居址出土の土器(1/3)

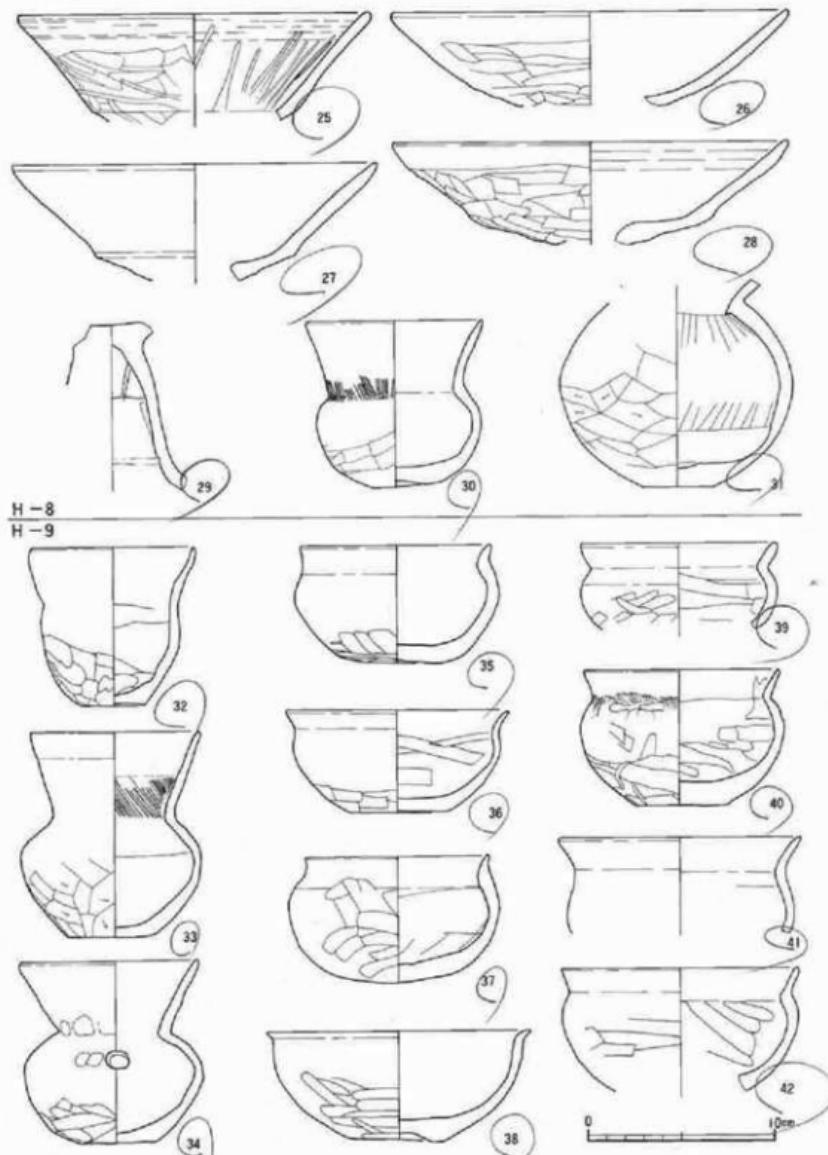


Fig. 100 H-8-9号住居址出土の土器(1/3)

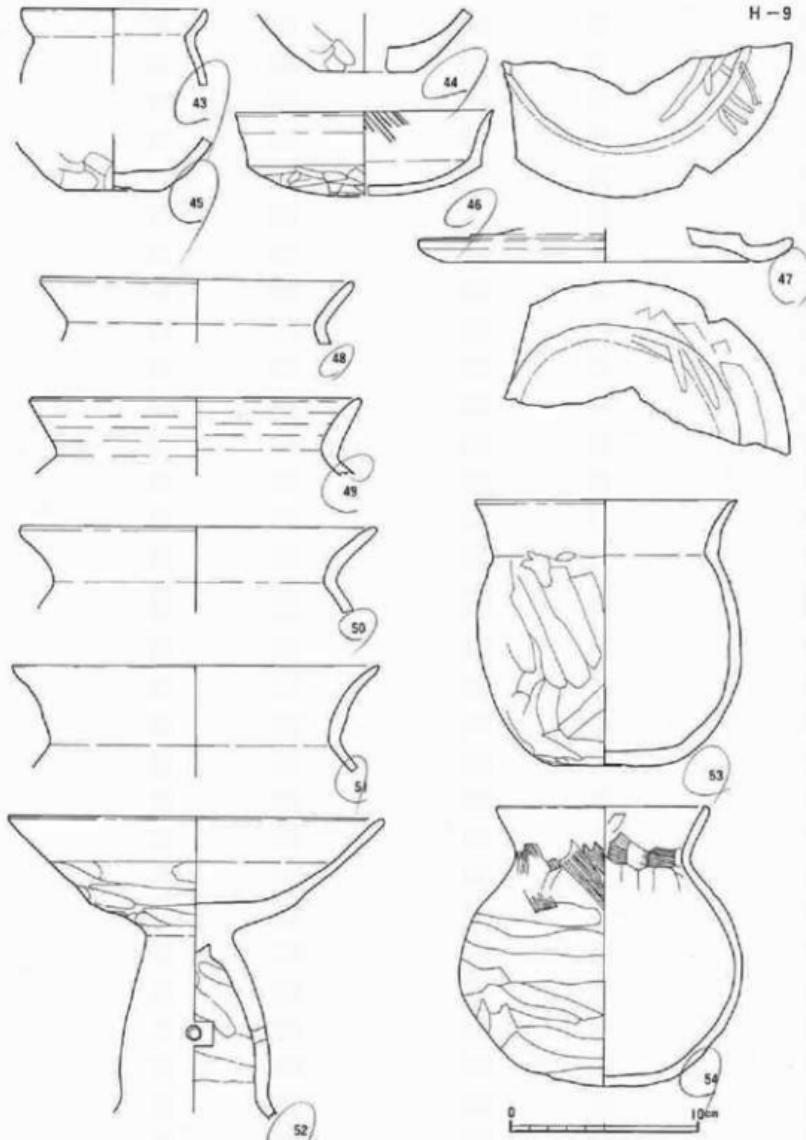


Fig. 101 H-9号住居址出土の土器(1/3)

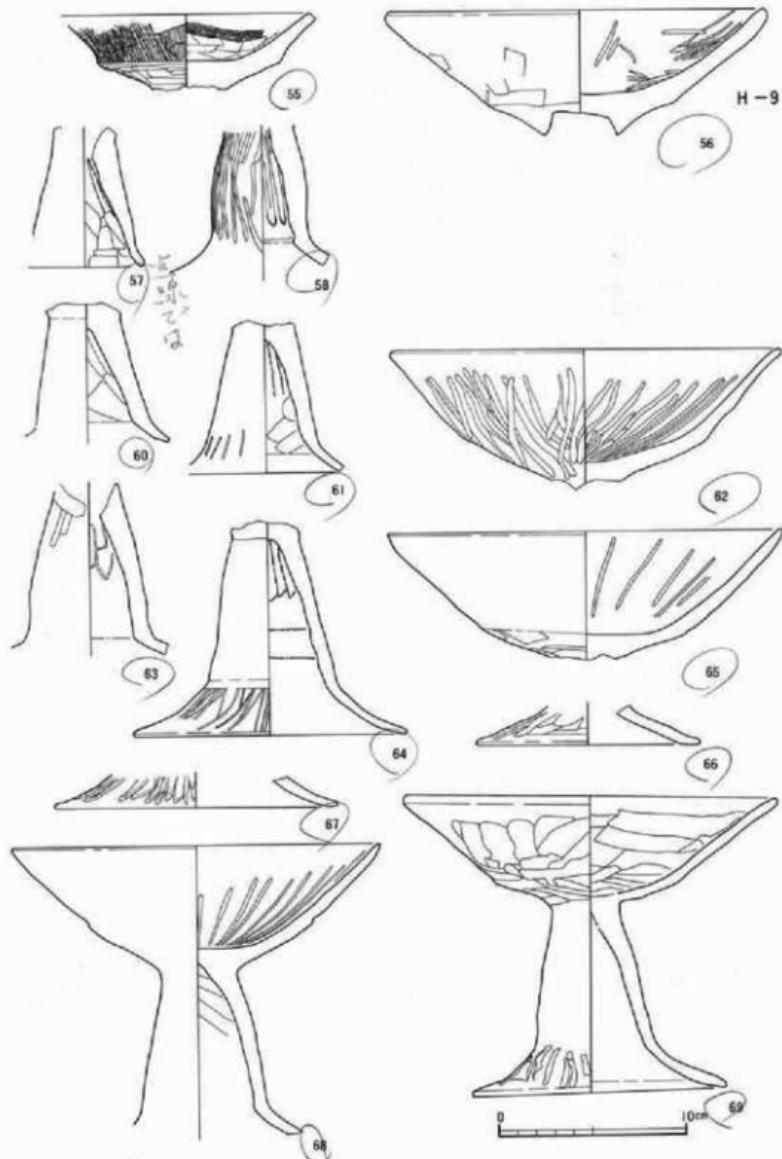


Fig. 102 H-9号住居址出土の土器(1/3)

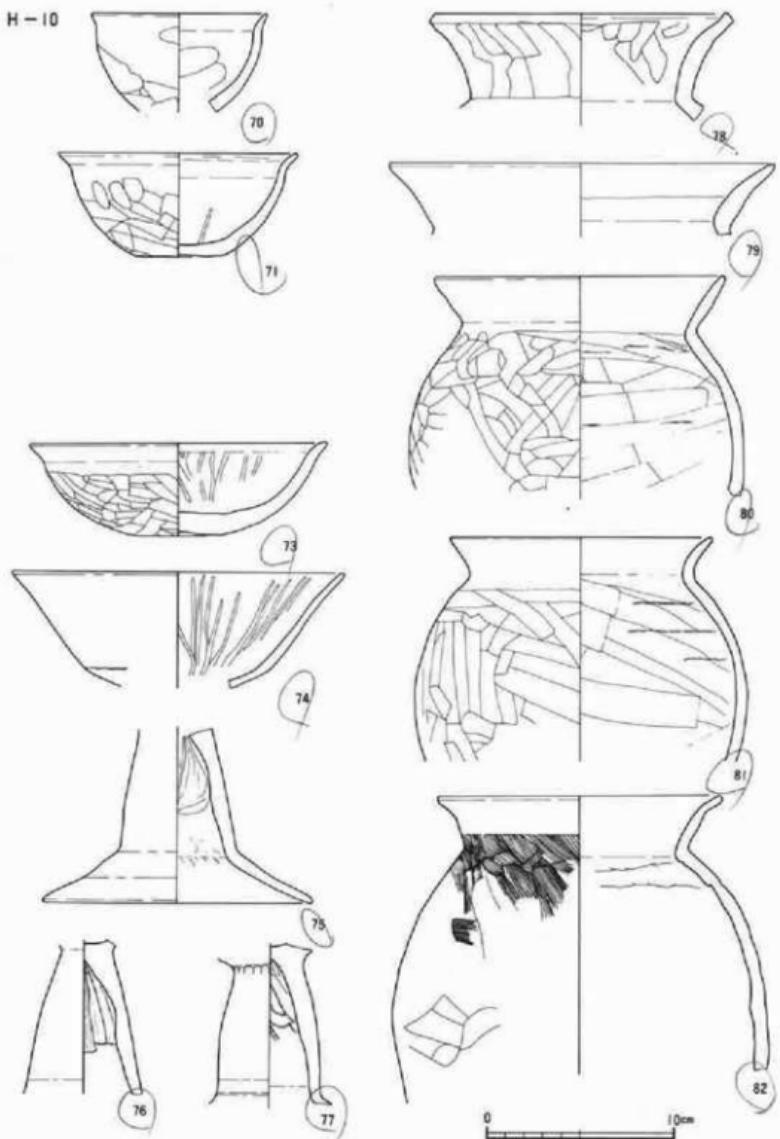


Fig. 103 H-10号住居址出土の土器(1/3)

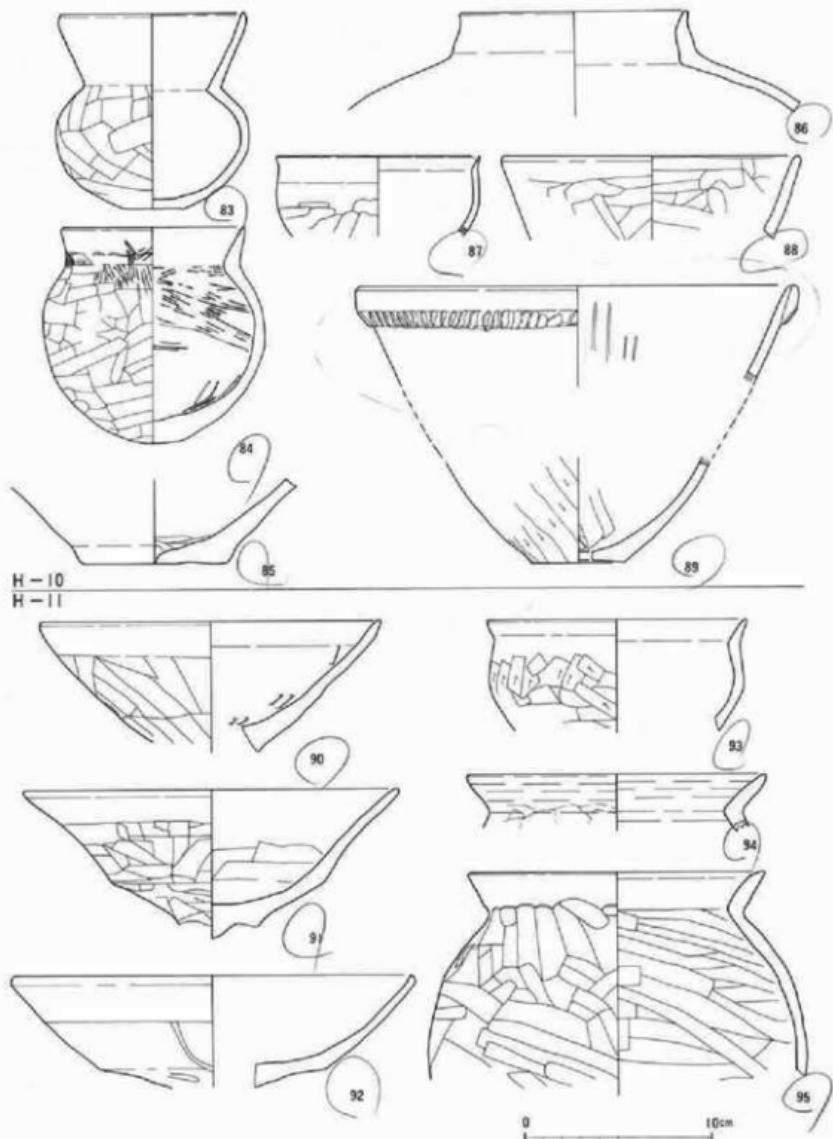


Fig. 104 H-10-11号住居址出土の土器(1/3)

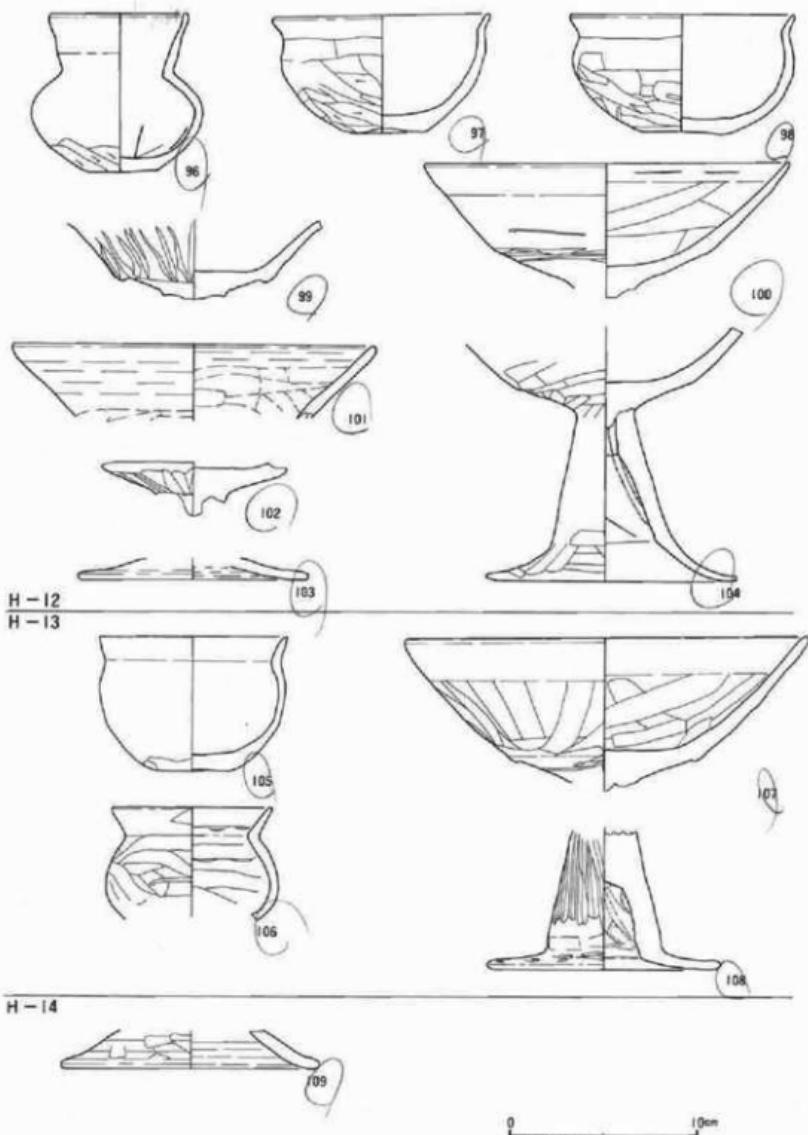


Fig. 105 H-12~14号住居址出土の土器(1/3)

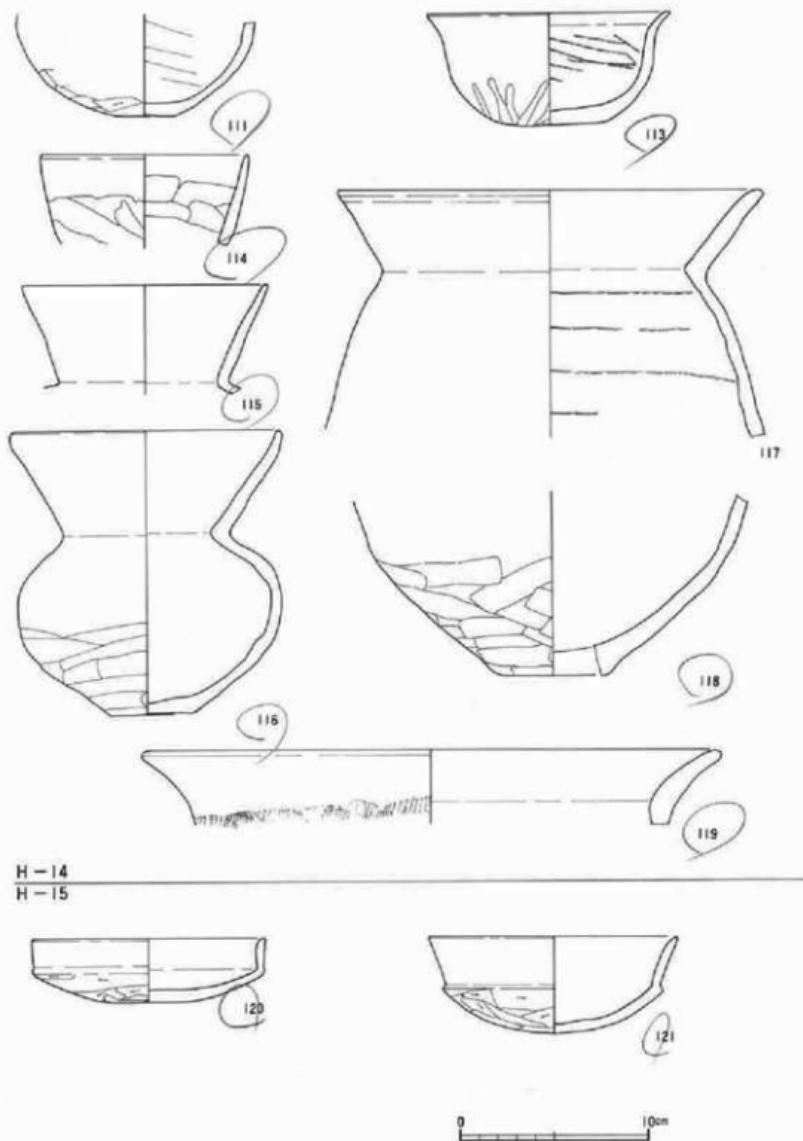


Fig. 106 H-14-15号住居址出土の土器(1/3)

H-15

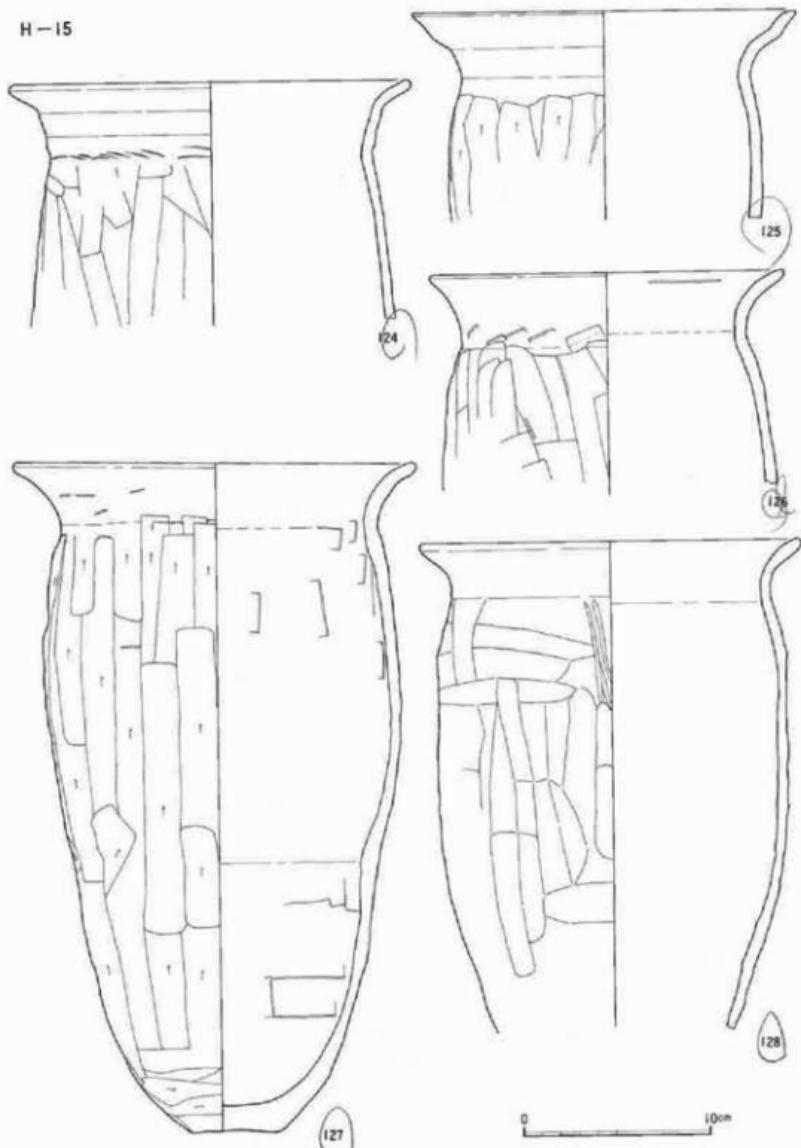


Fig. 107 H-15号住居址出土の土器(1/3)

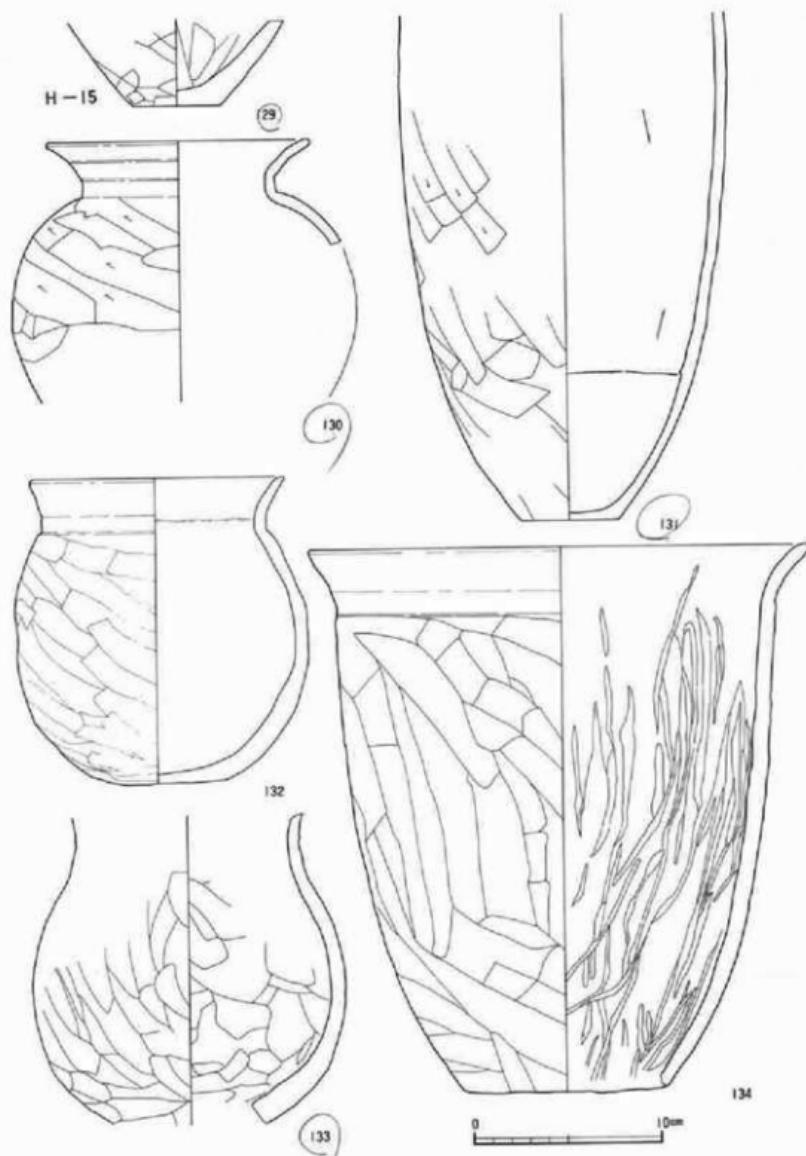


Fig. 108 H-15号住居址出土の土器(1/3)

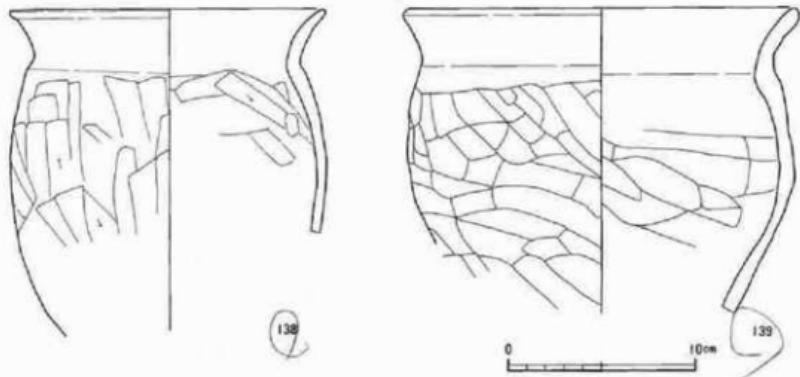
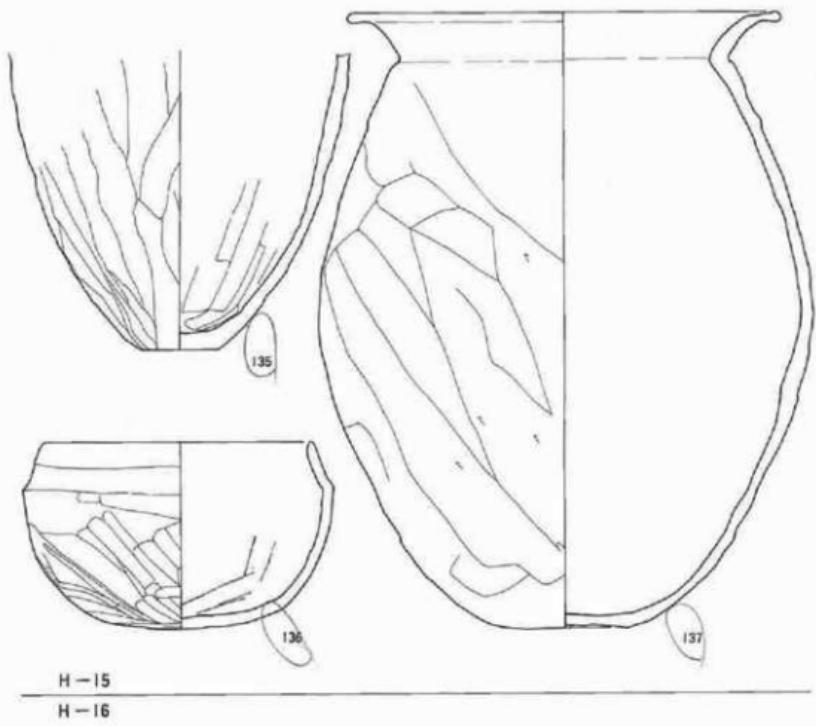


Fig. 109 H-15・16号住居址出土の土器(1/3)

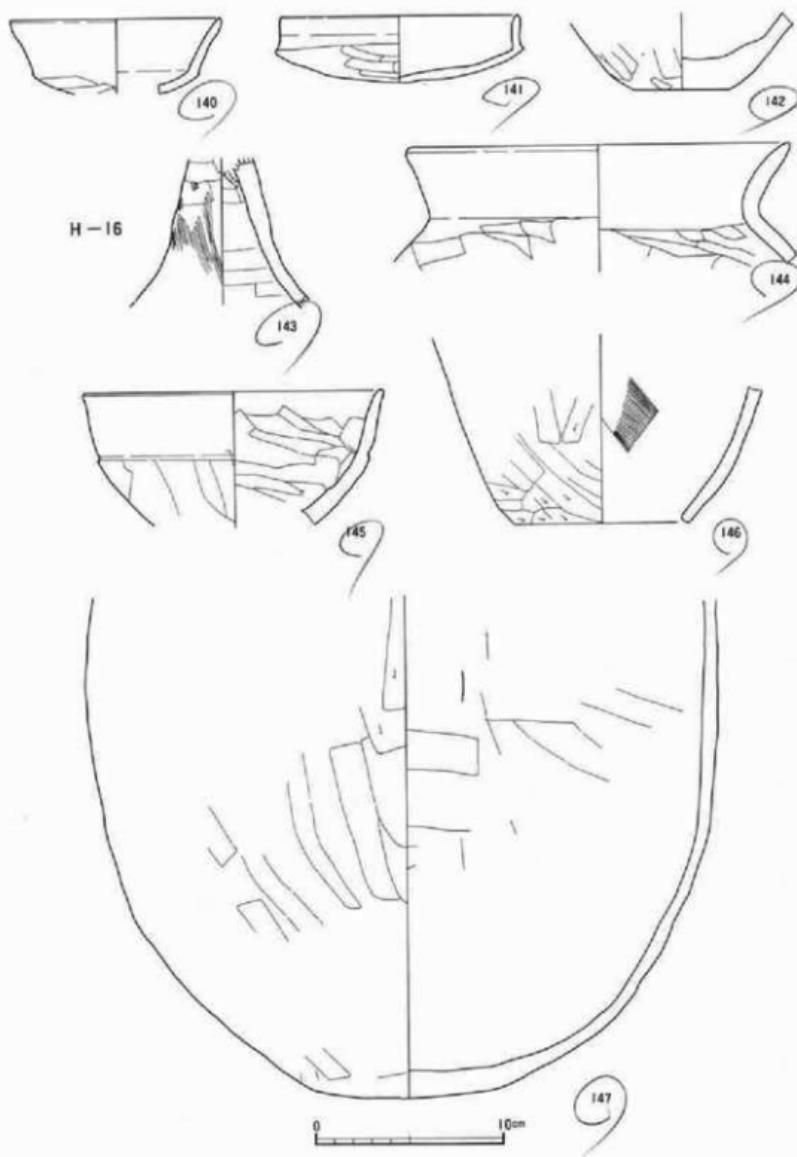


Fig. 110 H-16号住居址出土の土器(1/3)

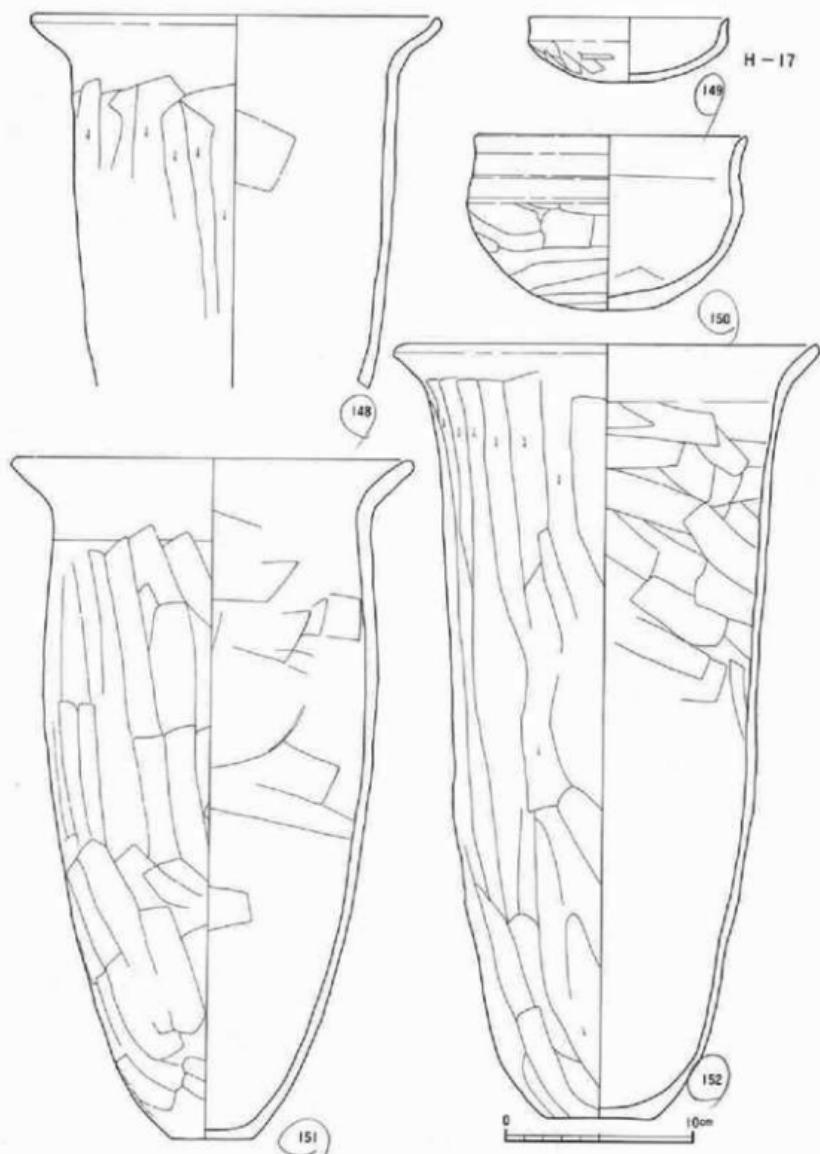


Fig. 111 H-17号住居址出土の土器(1/3)

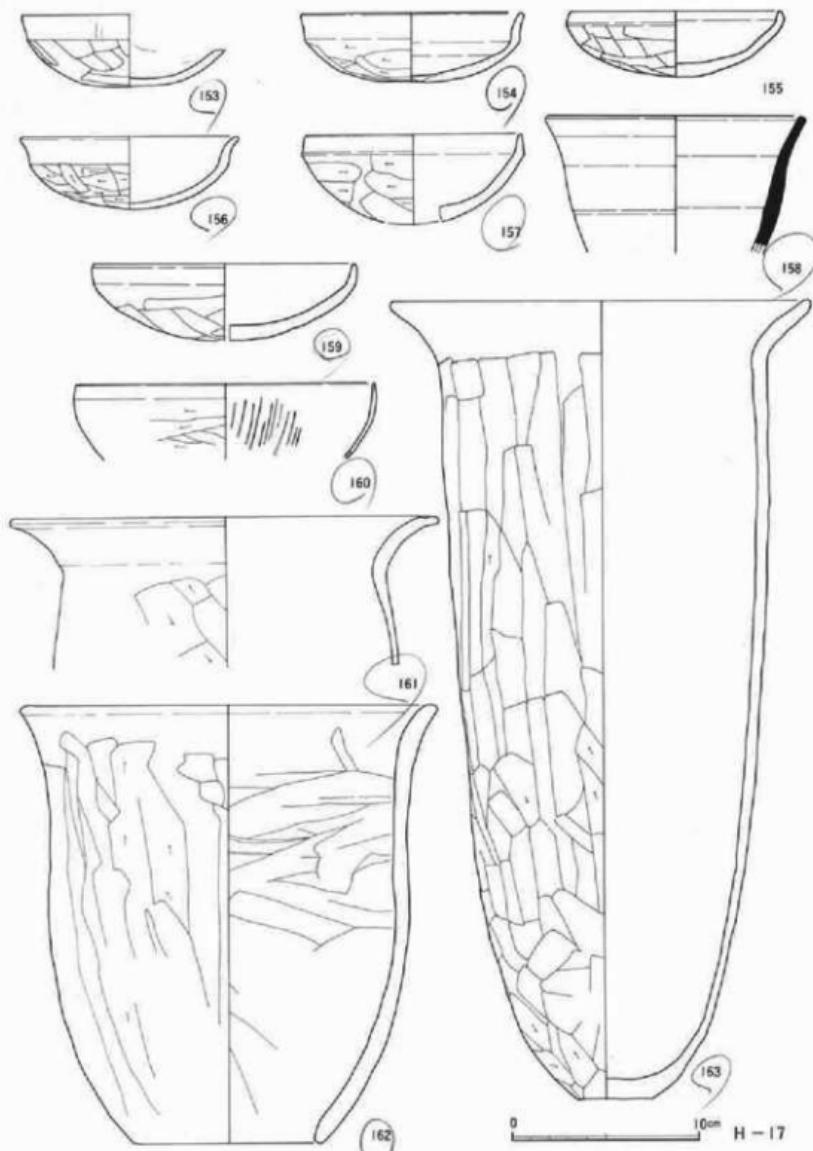


Fig. 112 H-17号住居址出土の土器(1/3)

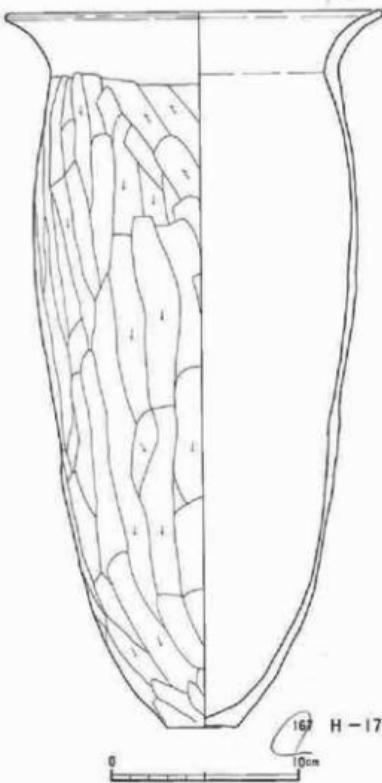
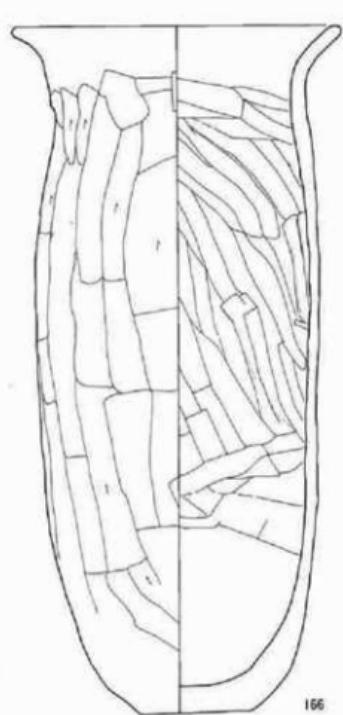
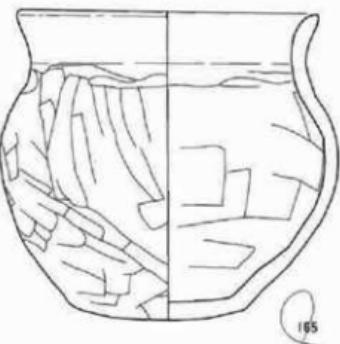
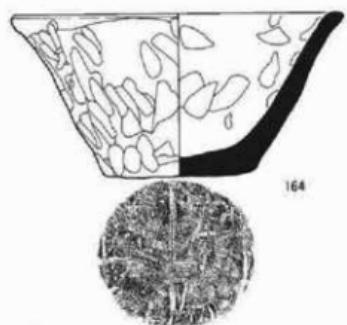


Fig. 113 H-17号住居址出土の土器(1/3)

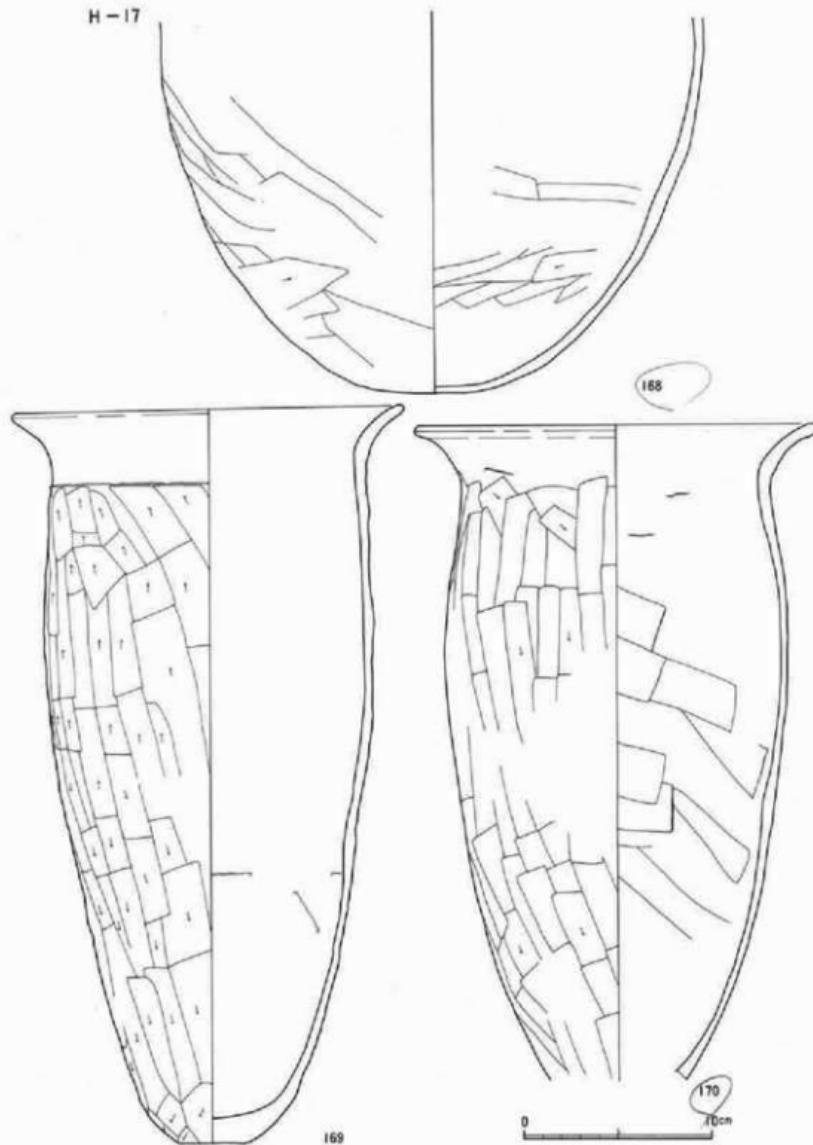


Fig. 114 H-17号住居址出土の土器(1/3)

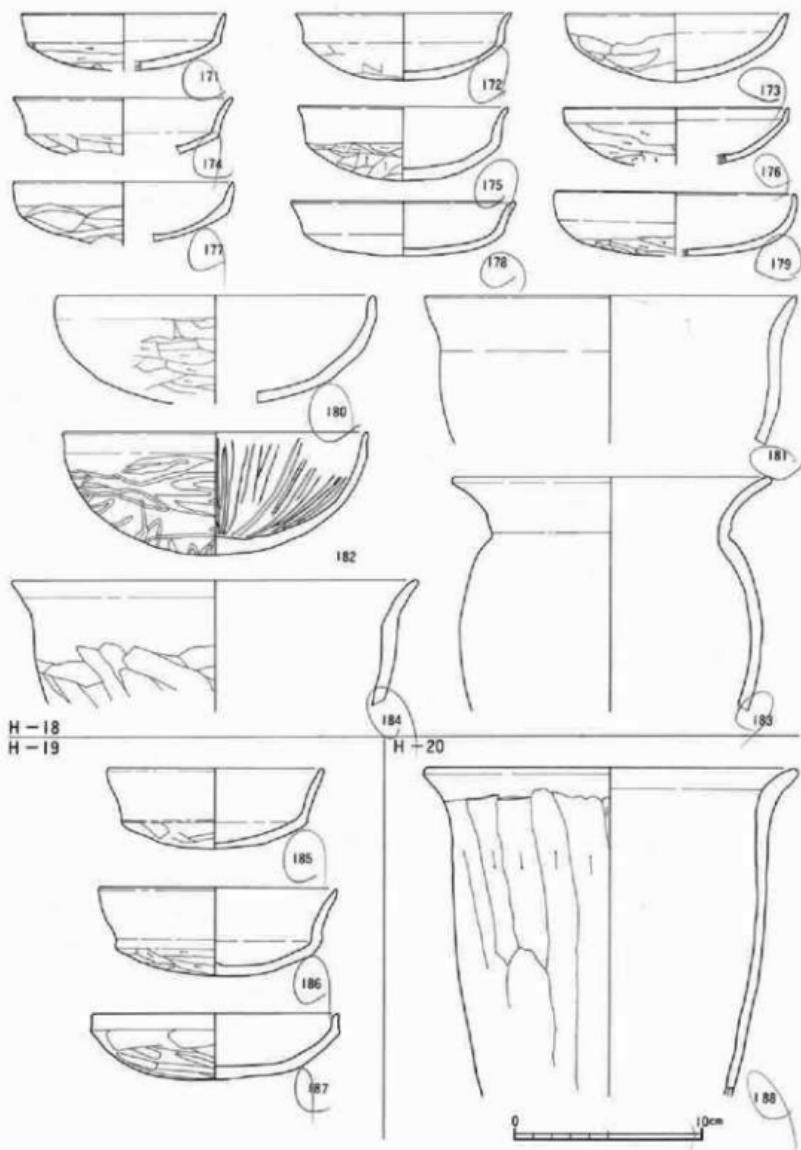


Fig. 115 H-18~20号住居址出土の土器(1/3)

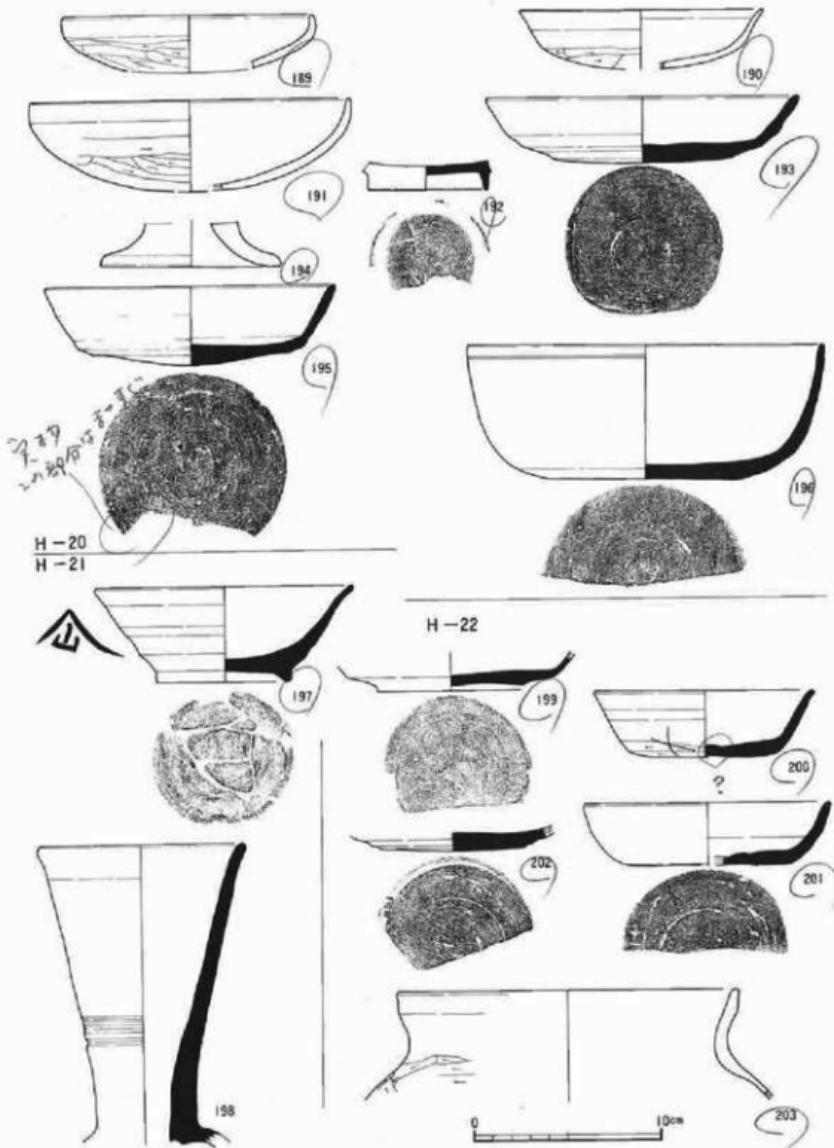


Fig. 116 H-20~22号住居址出土の土器(1/3)

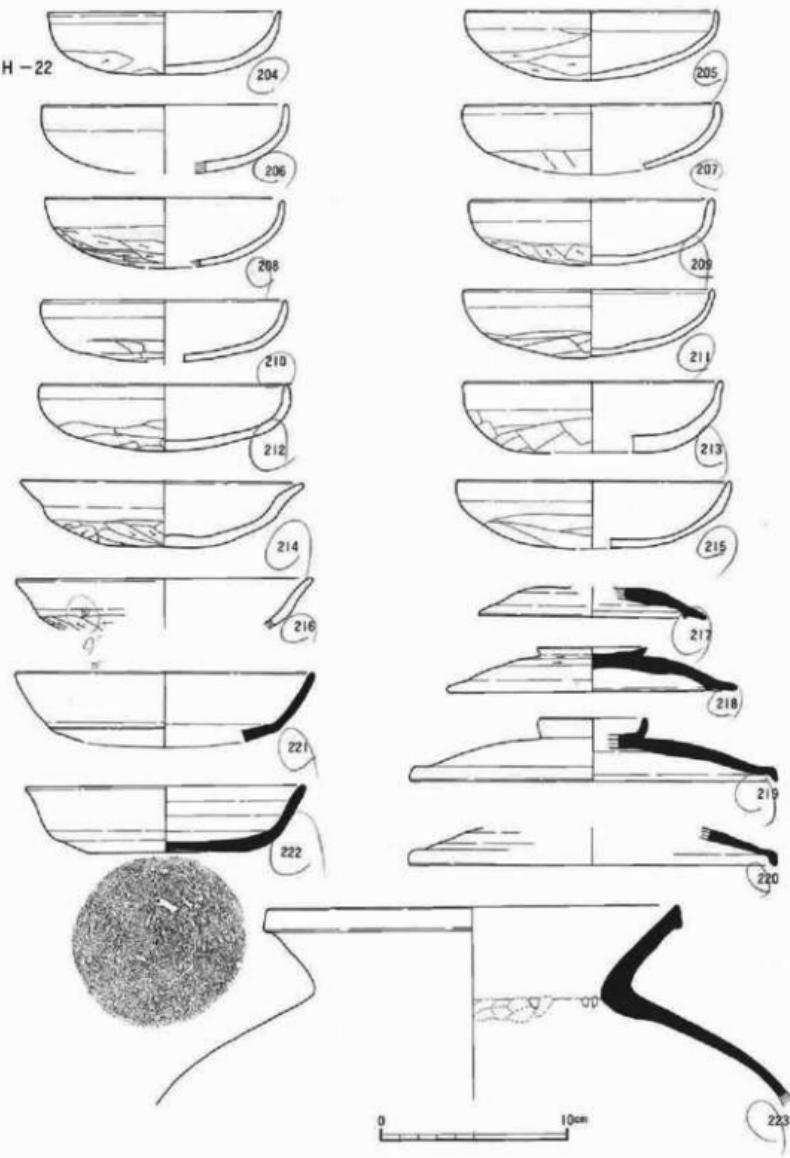


Fig. 117 H-22号住居址出土の土器(1/3)

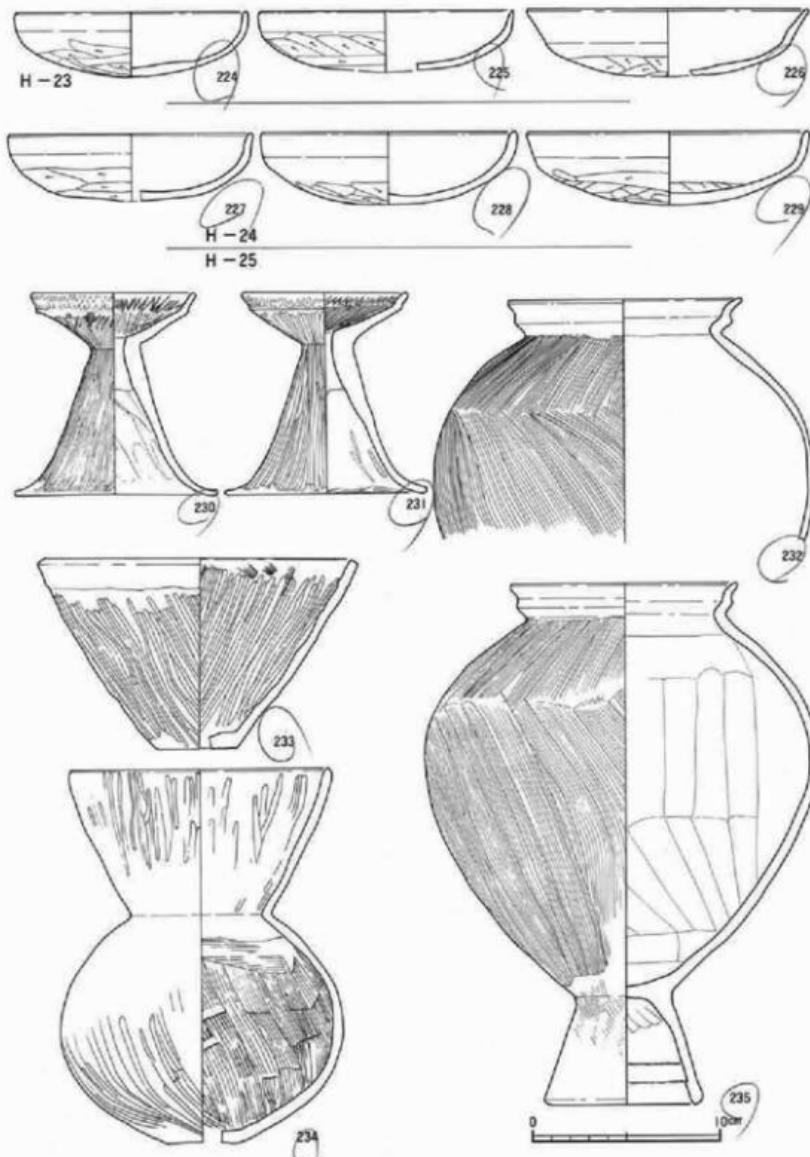


Fig. 118 H-23~25号住居址出土の土器(1/3)

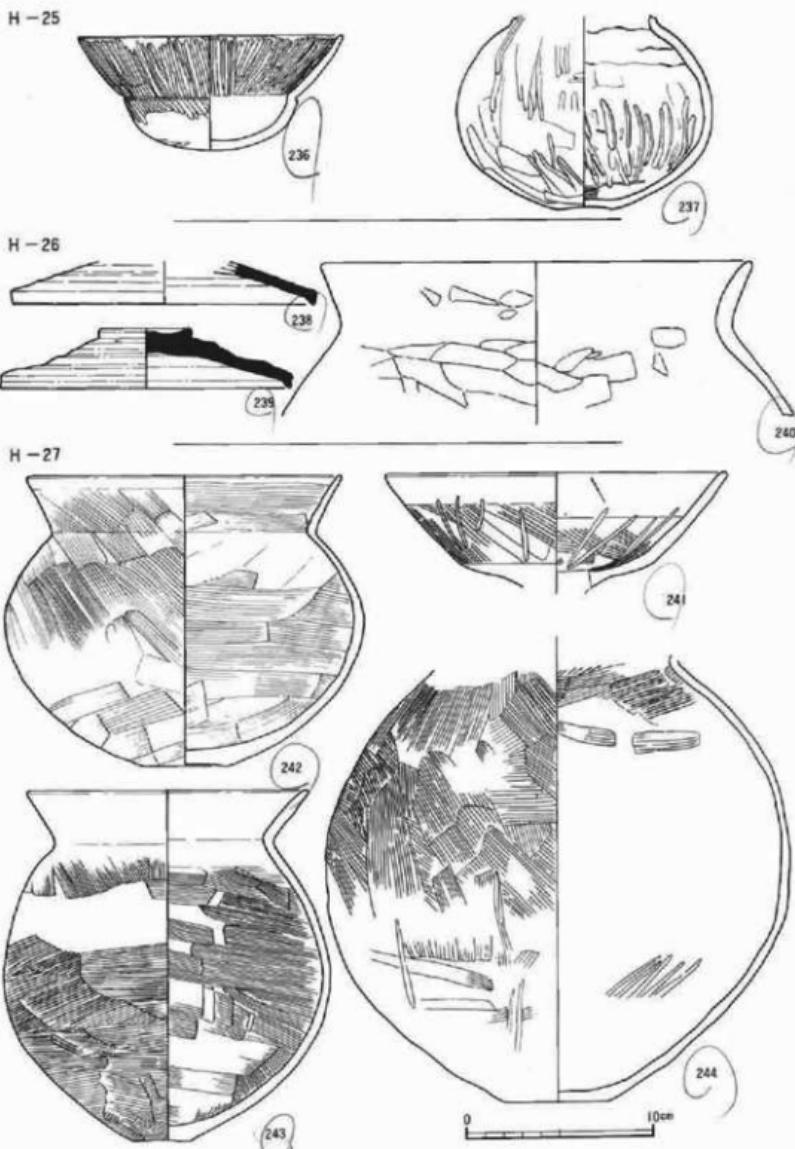
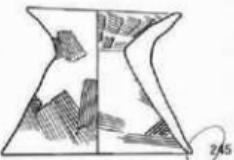
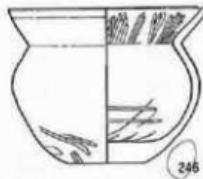


Fig. 119 H-25~27号住居址出土の土器(1/3)

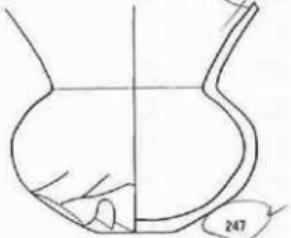
H-27



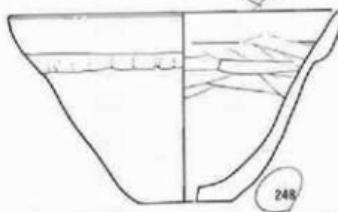
245



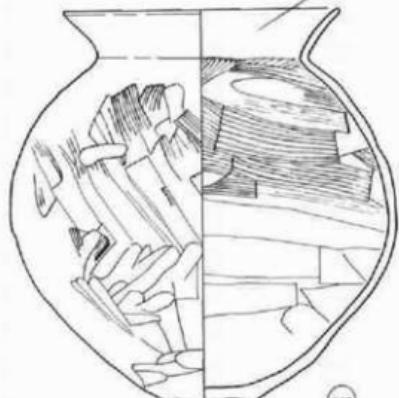
246



247



248

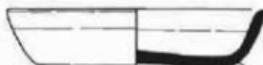


249



250

H-28



251



252



Fig. 120 H-27-28号住居址出土の土器(1/3)



Fig. 121 H - 29号住居址出土の土器(1/3)

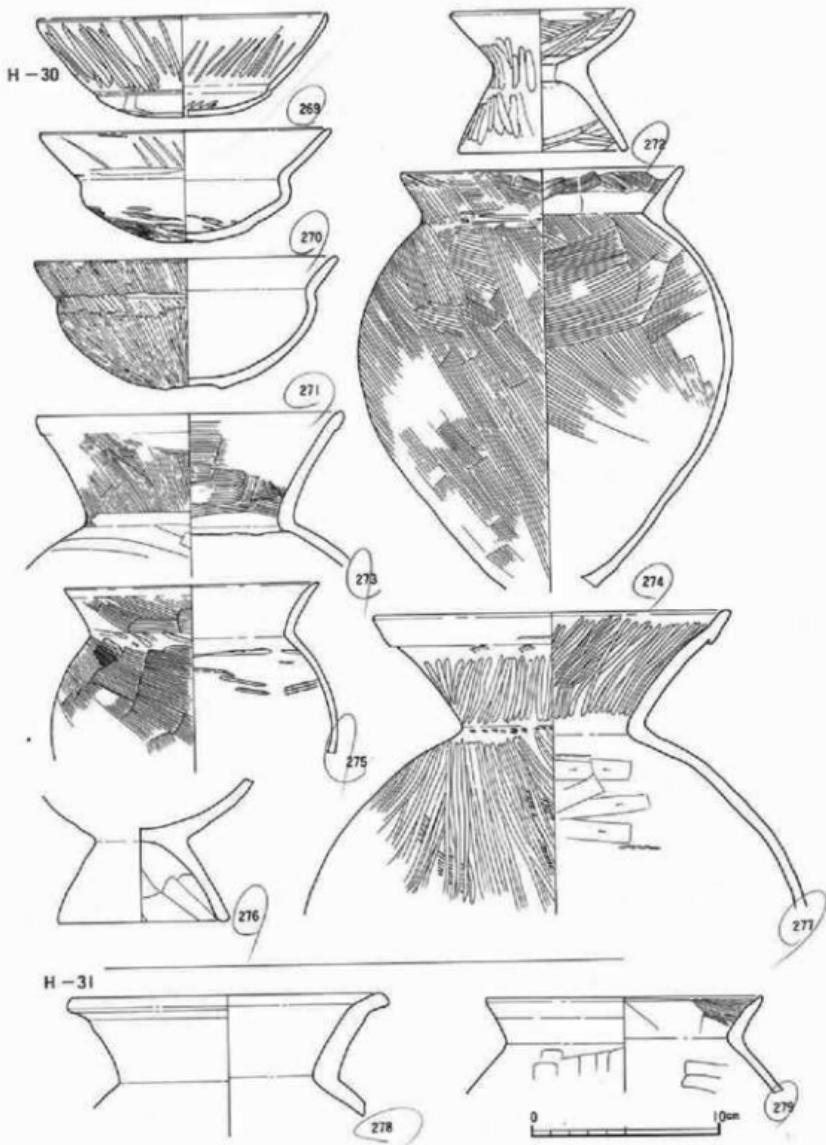


Fig. 122 H - 30・31号住居址出土の土器(1/3)

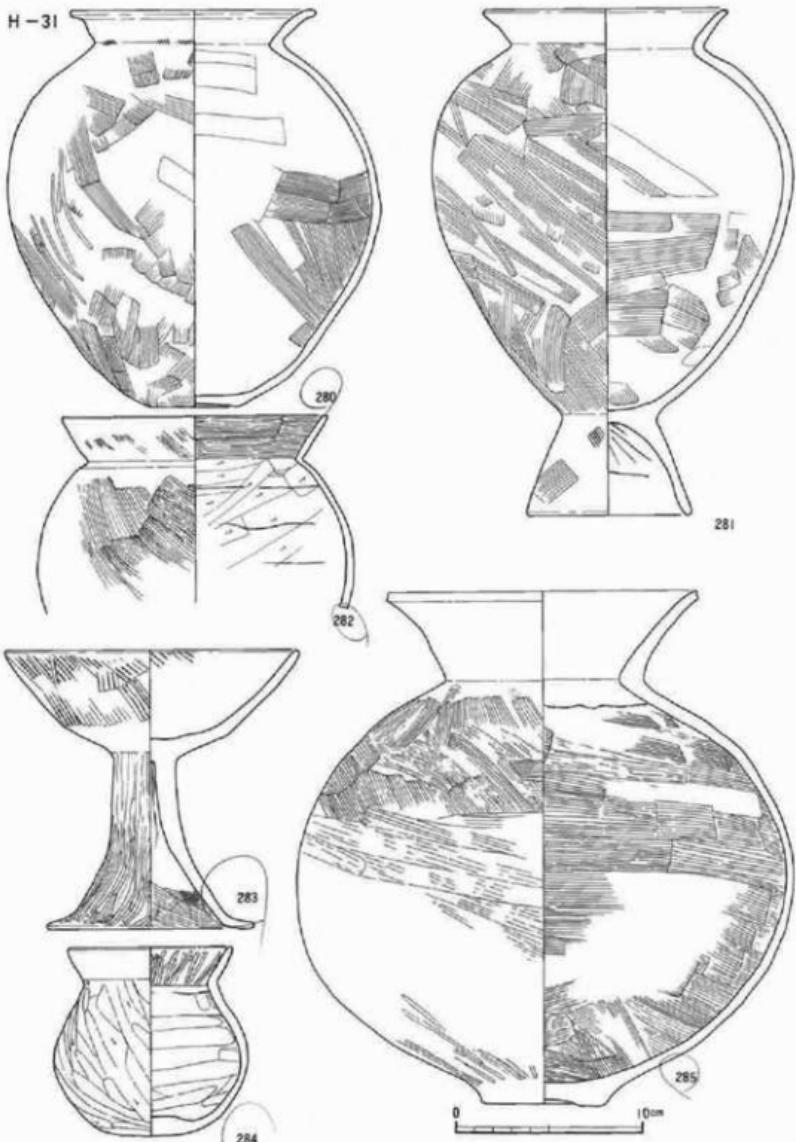


Fig. 123 H-31号住居址出土の土器(1/3)

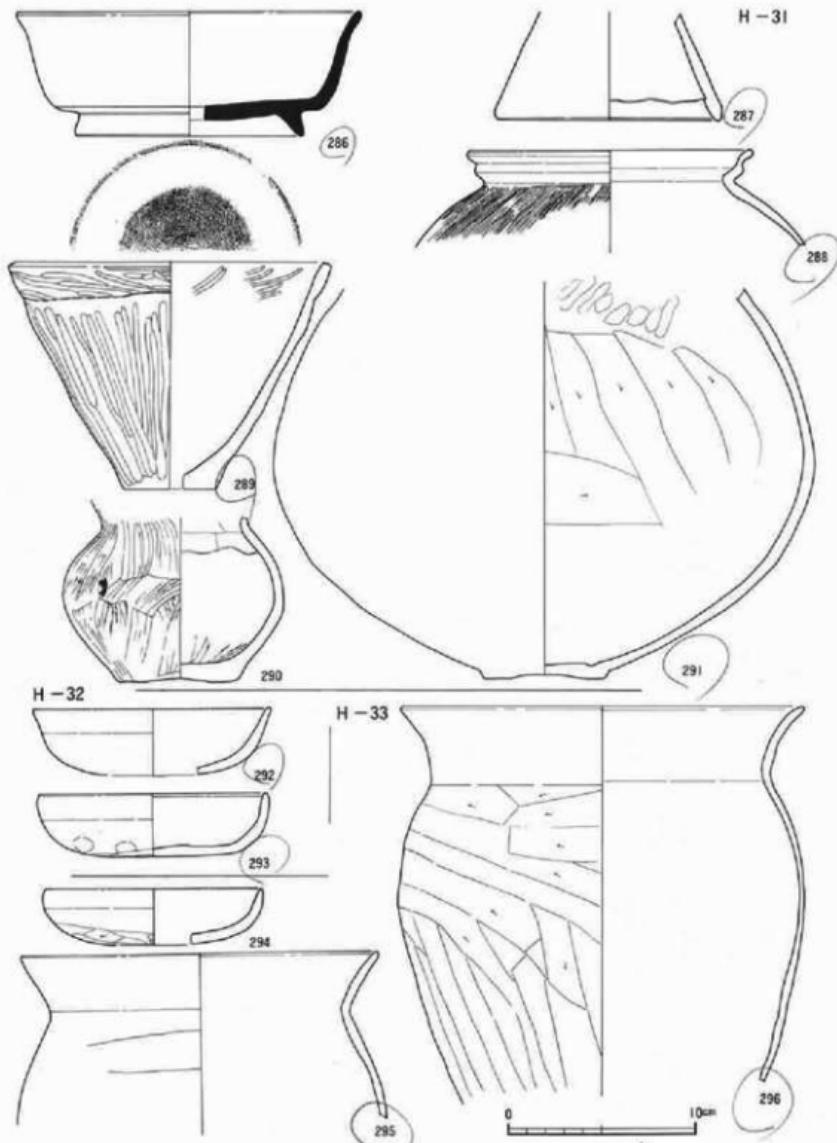


Fig. 124 H-31-33号住居址出土の土器(1/3)

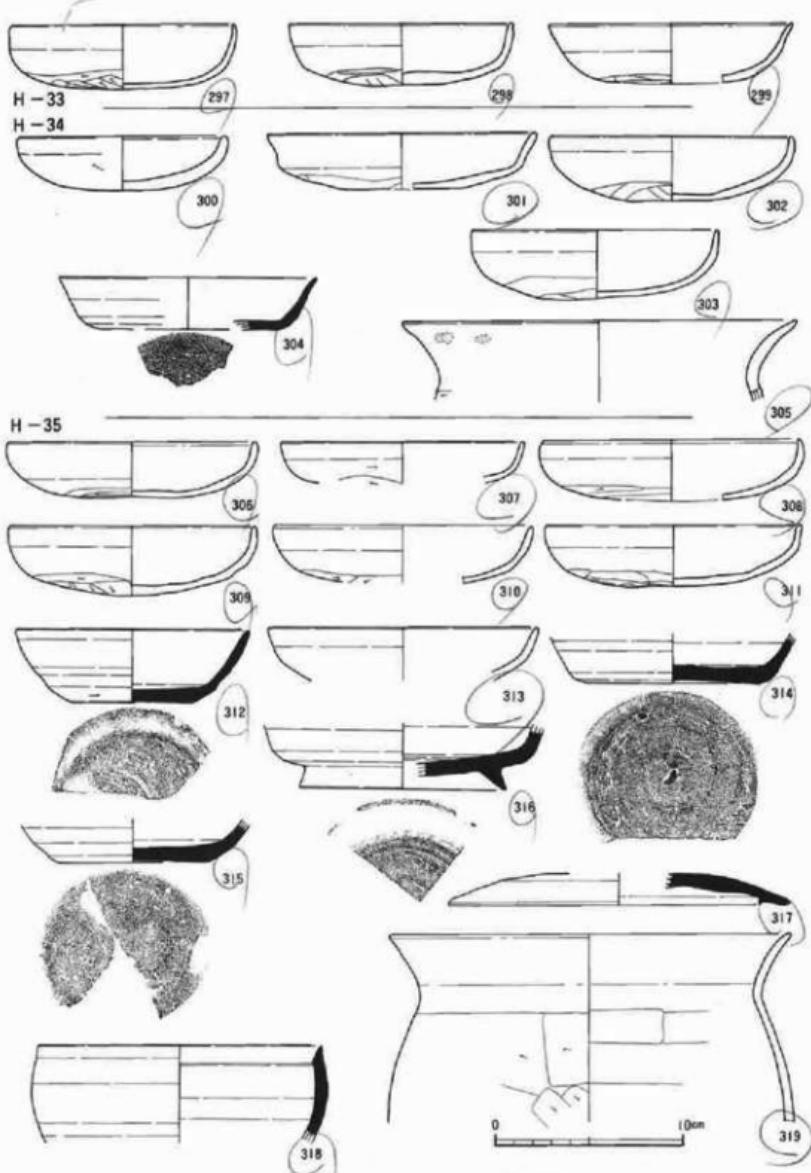


Fig. 125 H-33~35号住居址出土の土器(1/3)

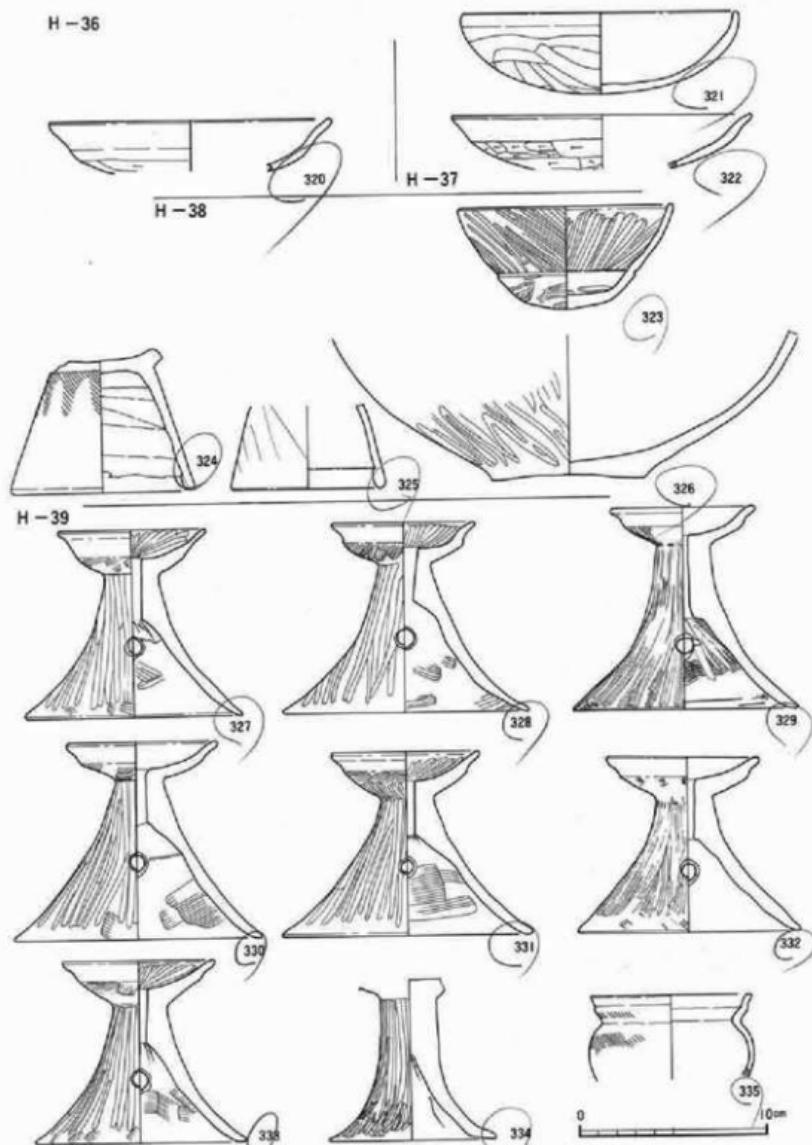


Fig. 126 H36~39号住居址出土の土器(1/3)

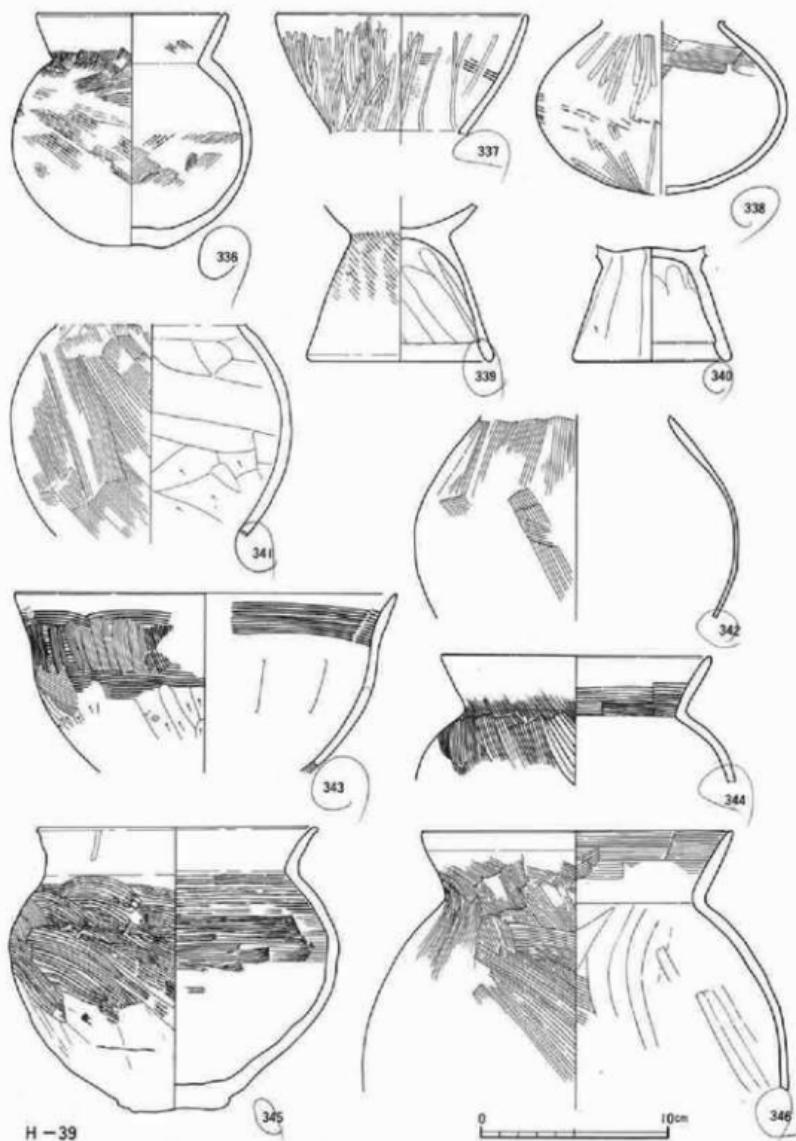


Fig. 127 H-39号住居址出土の土器(1/3)

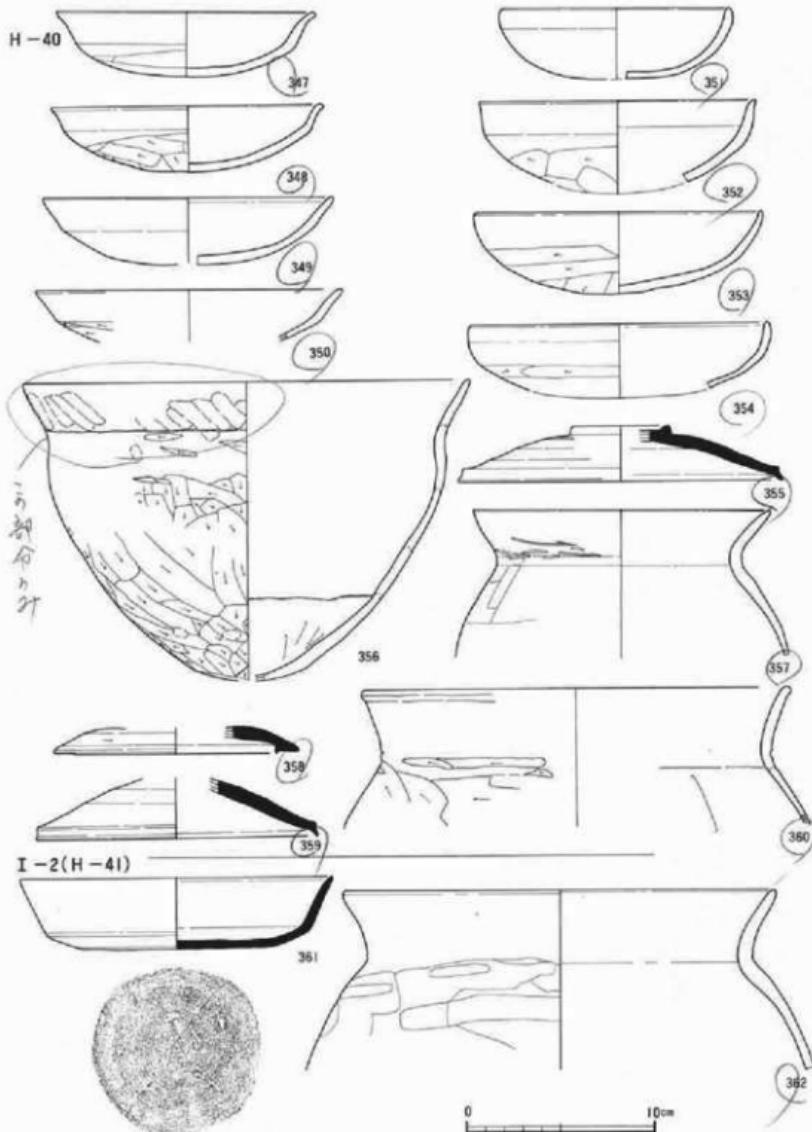


Fig. 128 H-40, I-2 出土の土器(1/3)

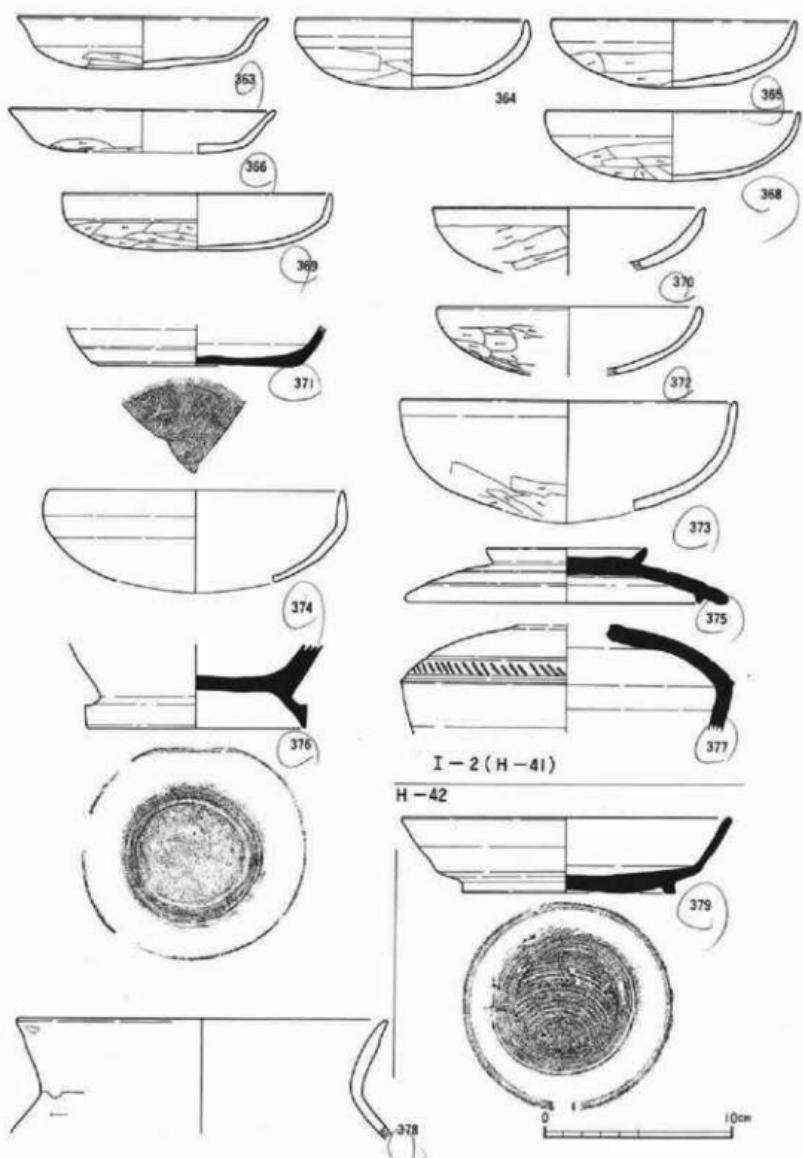
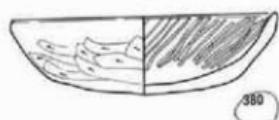


Fig. 129 I-2, H-42号住居址出土の土器(1/3)

H - 42



H - 43



H - 43

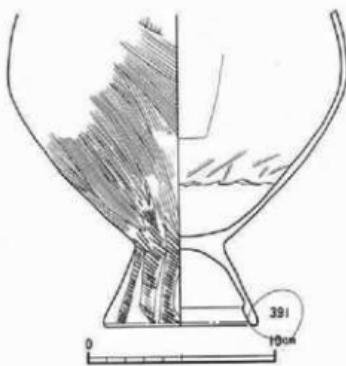
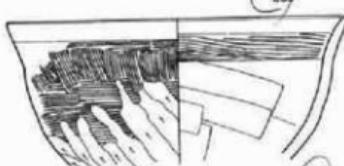
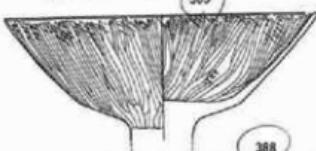
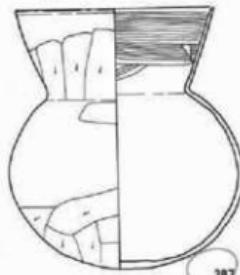
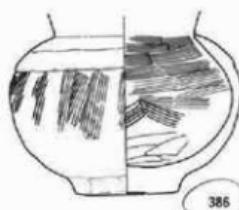
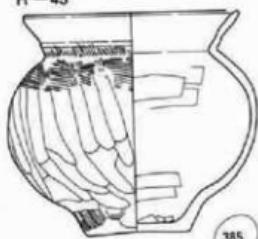


Fig. 130 H - 42・43号住居址出土の土器(1/3)

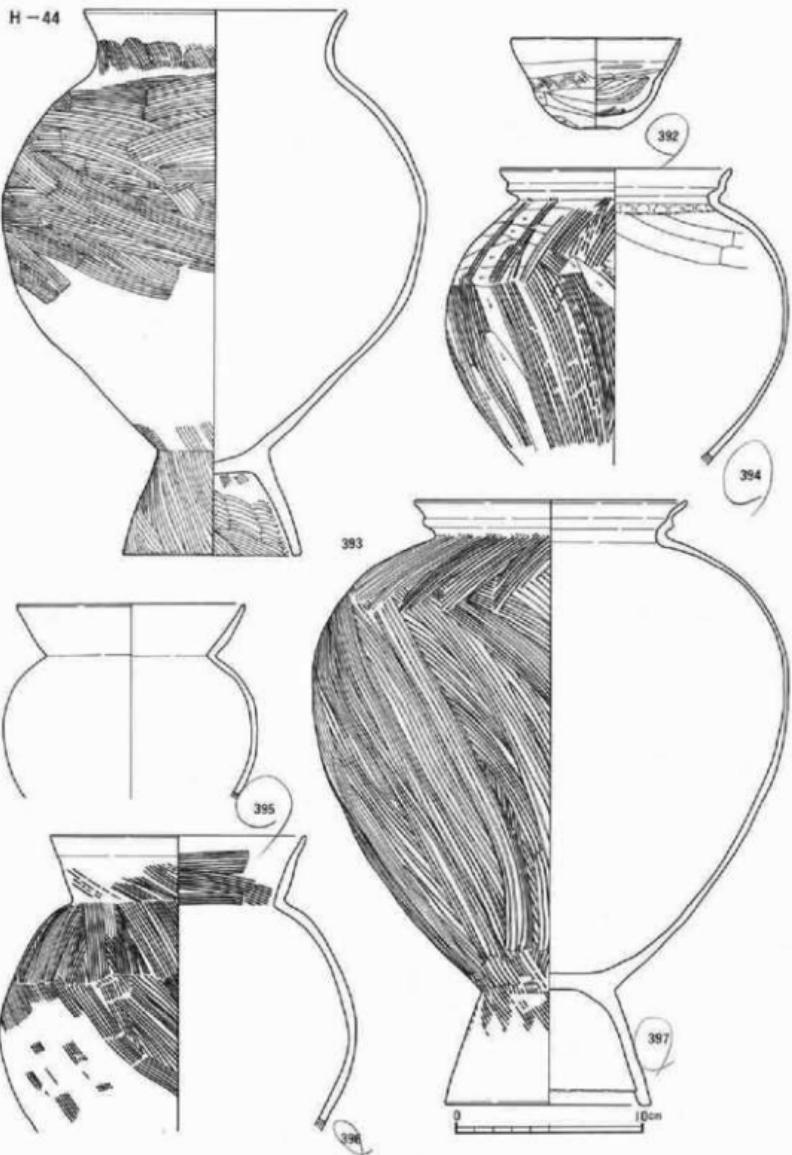


Fig. 131 H-44号住居址出土の土器(1/3)

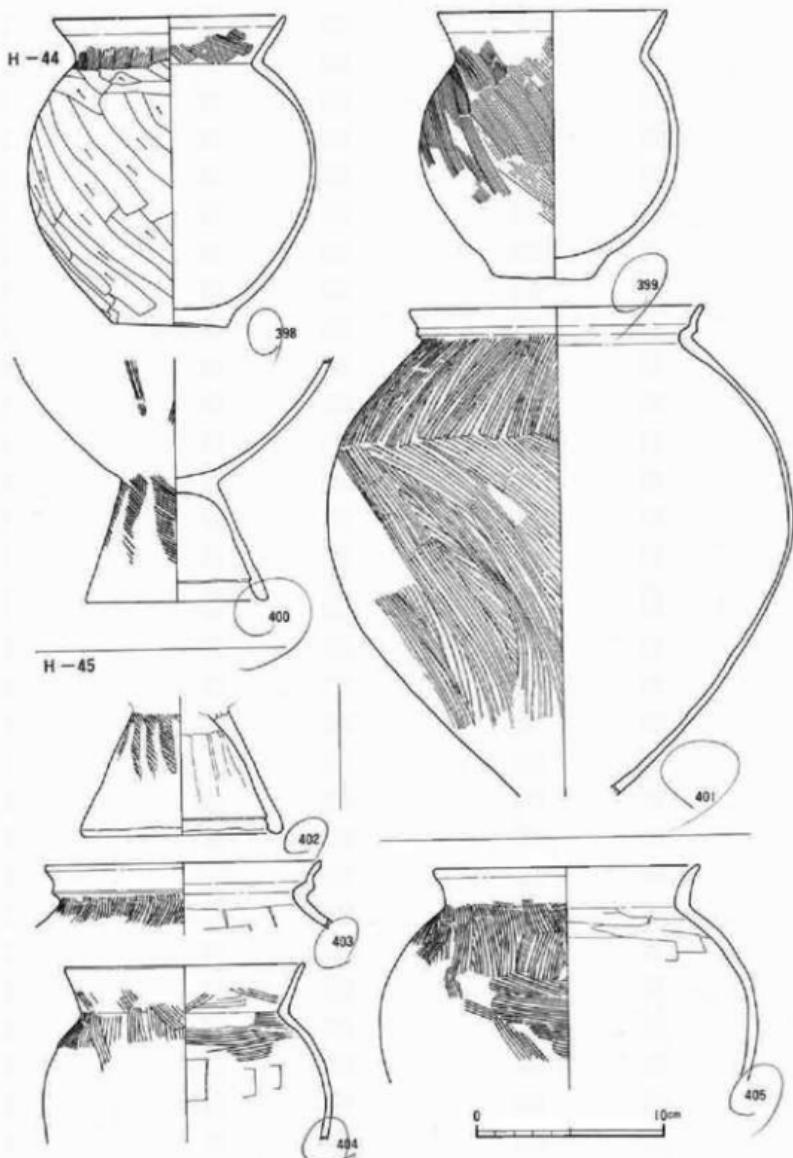


Fig. 132 H-44-45号住居址出土の土器(1/3)

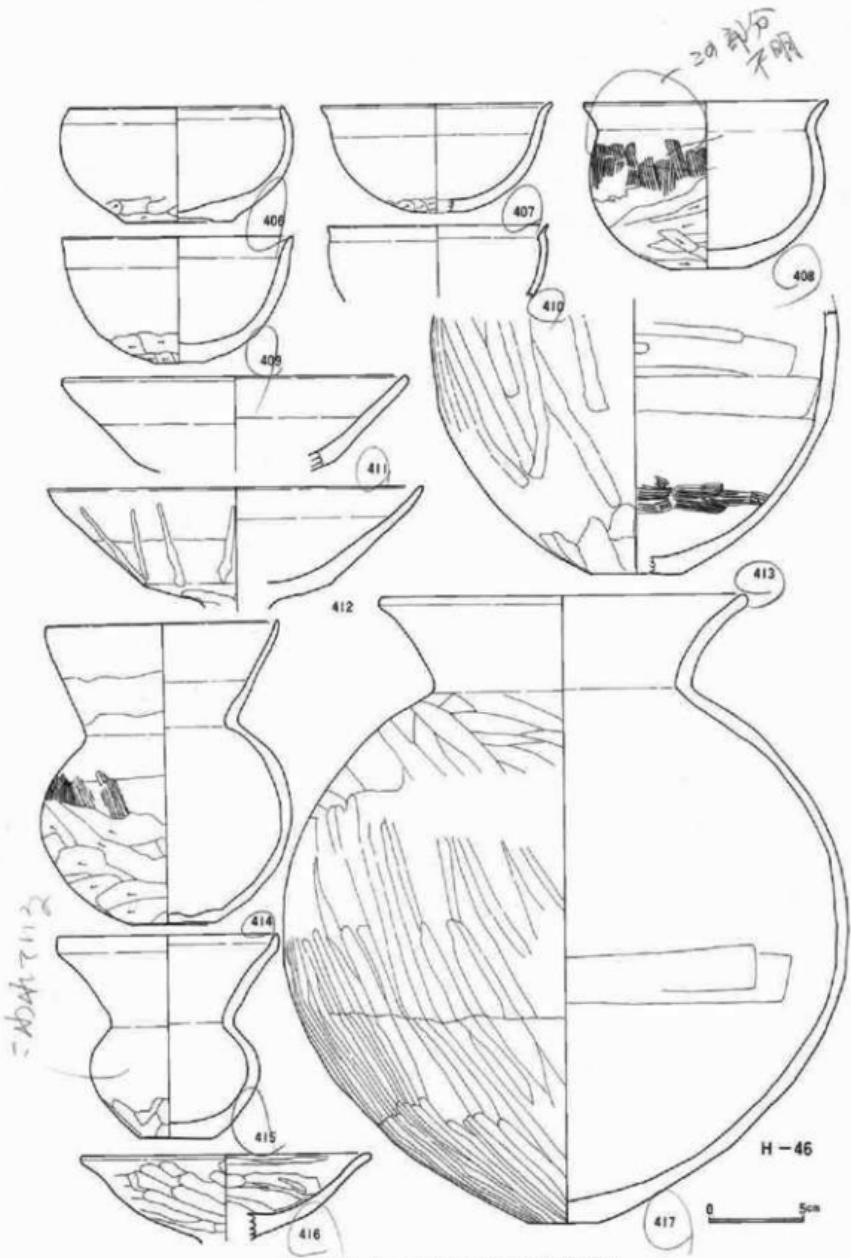


Fig. 133 H-46号住居址出土の土器(1/3)

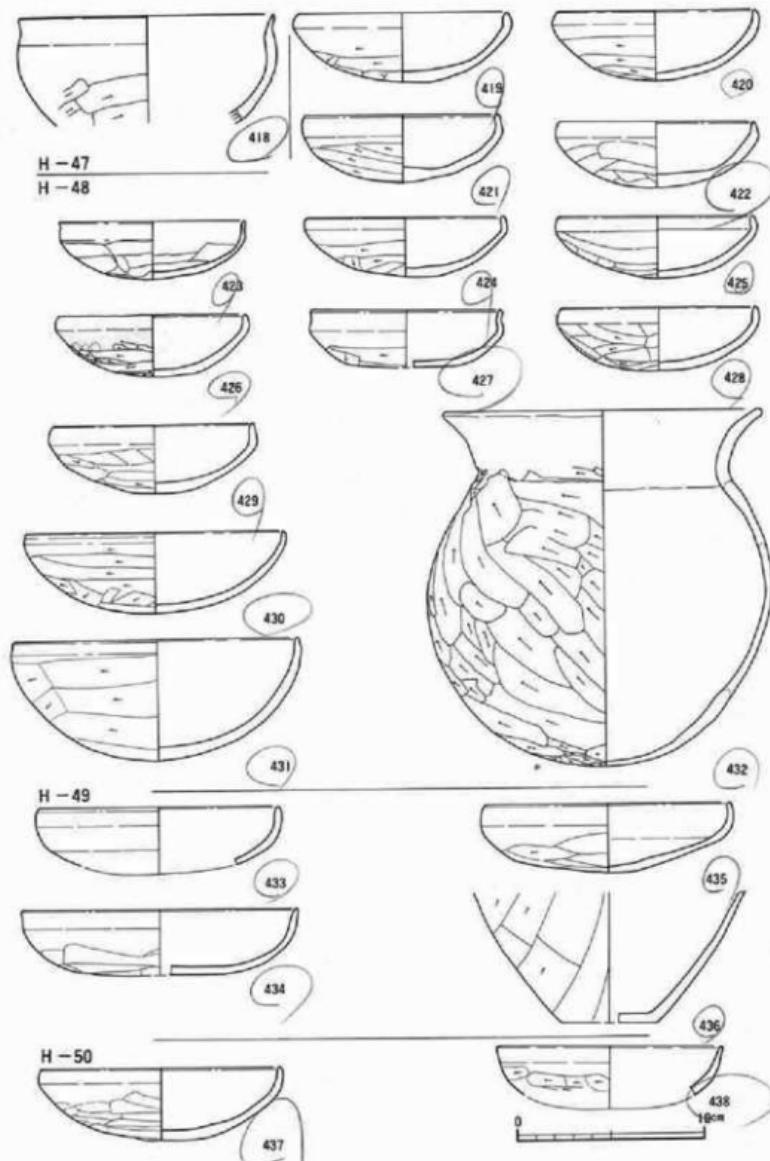


Fig. 134 H-47~50号住居址出土の土器(1/3)

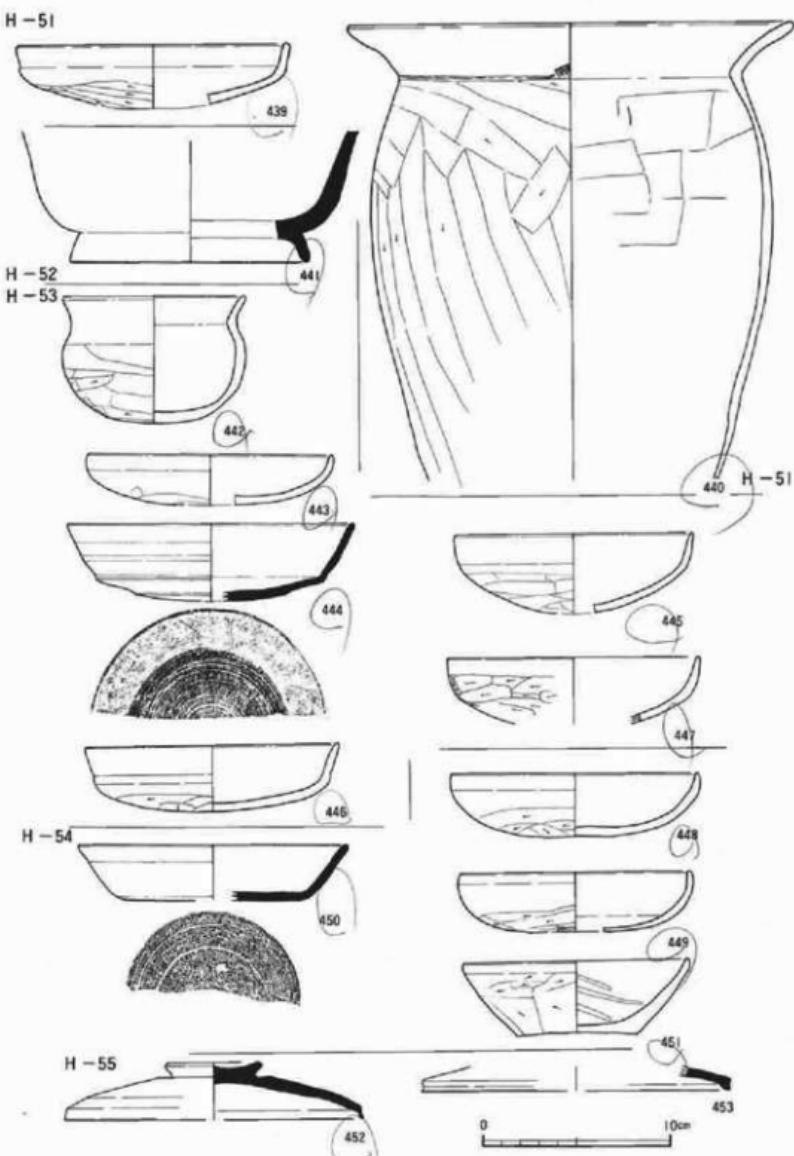


Fig. 135 H-51~55号住居址出土の土器(1/3)

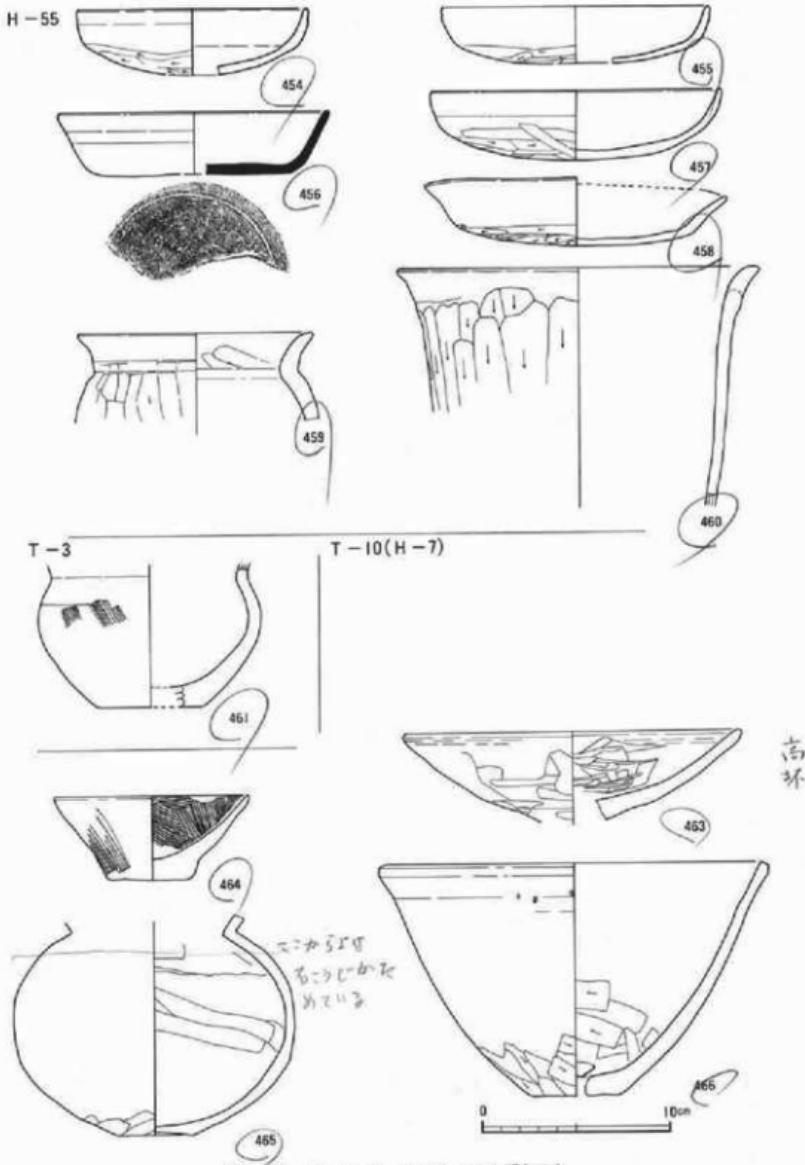


Fig. 136 H - 55, T - 3-10出土の土器(1/3)

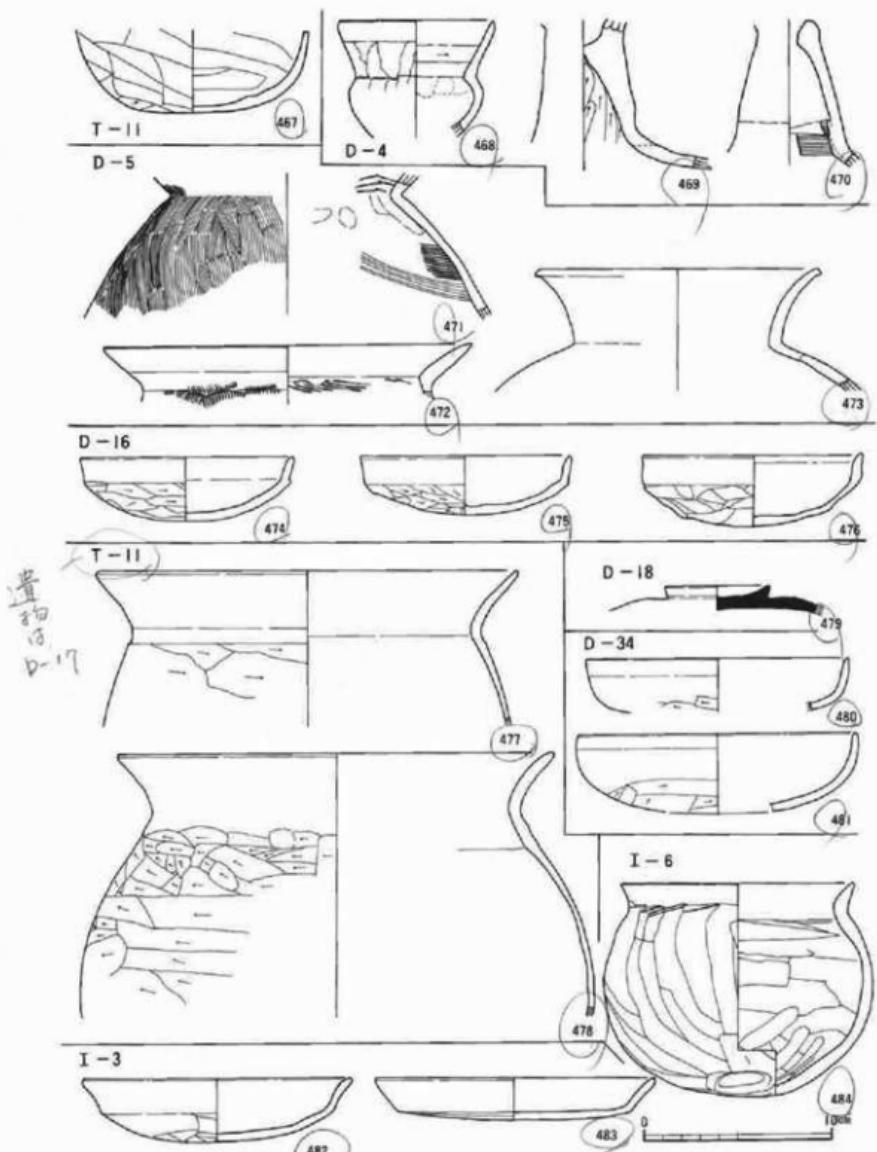


Fig. 137 T-11, D-4-5-16-18-34, I-3-6出土の土器(1/3)

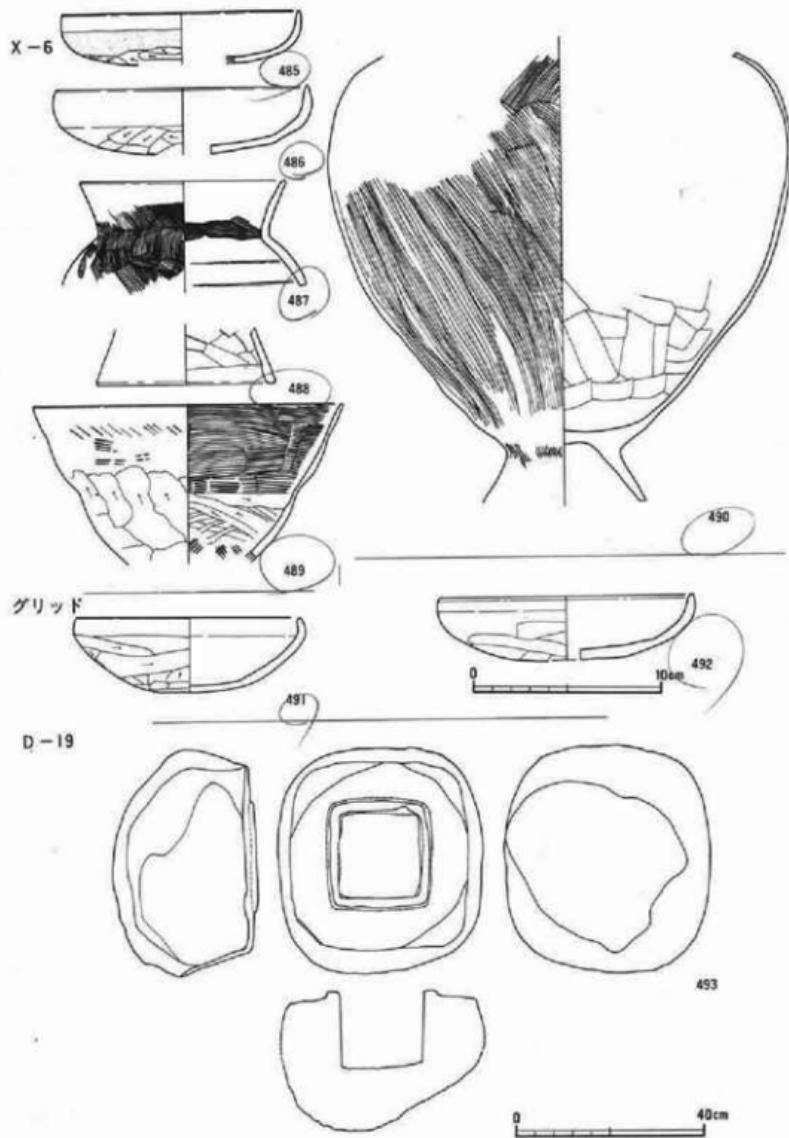


Fig. 138 D-19, X-6, グリッド出土の遺物(1/3), (1/12)

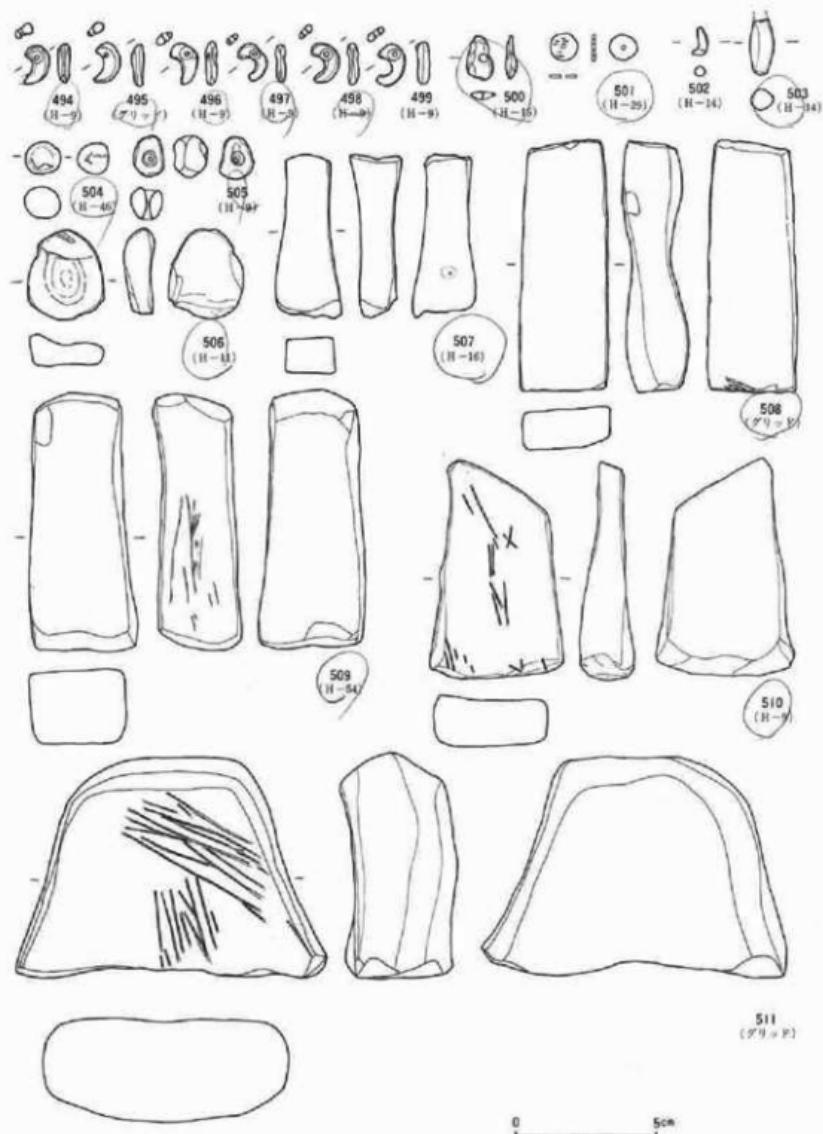


Fig. 139 石・土・軽石製品(1/2)

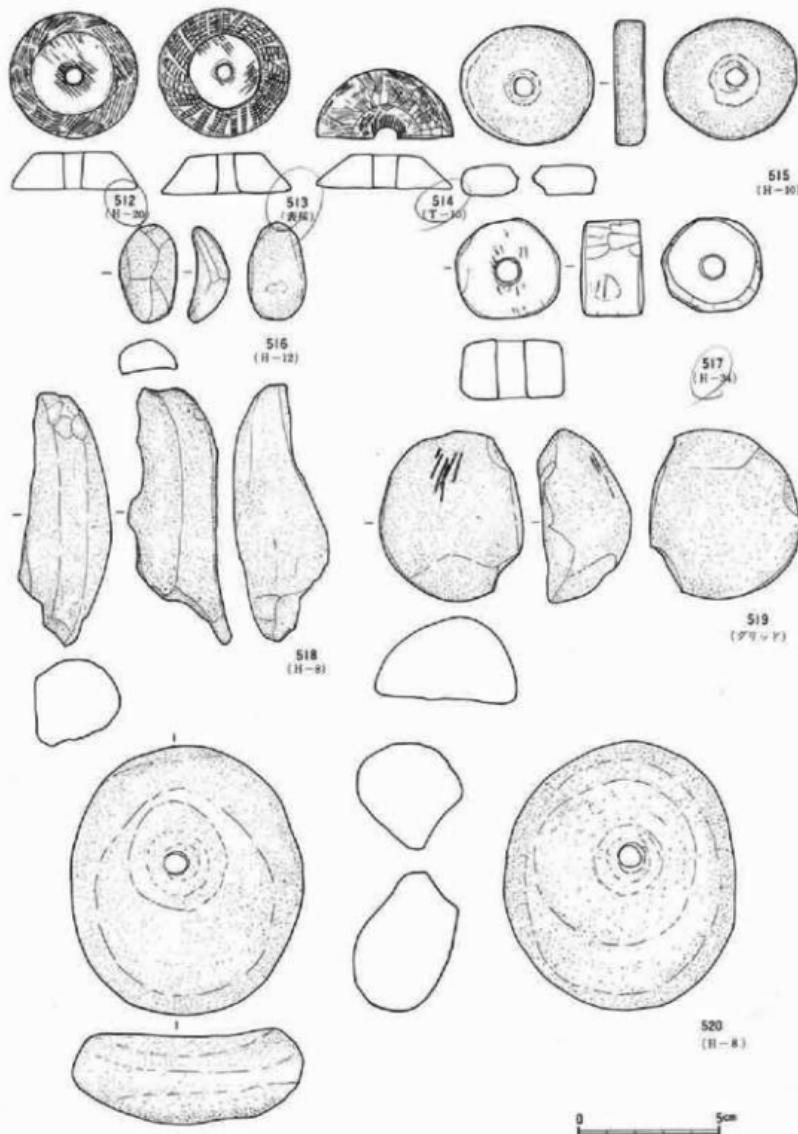


Fig. 140 石・軽石製品(1/2)

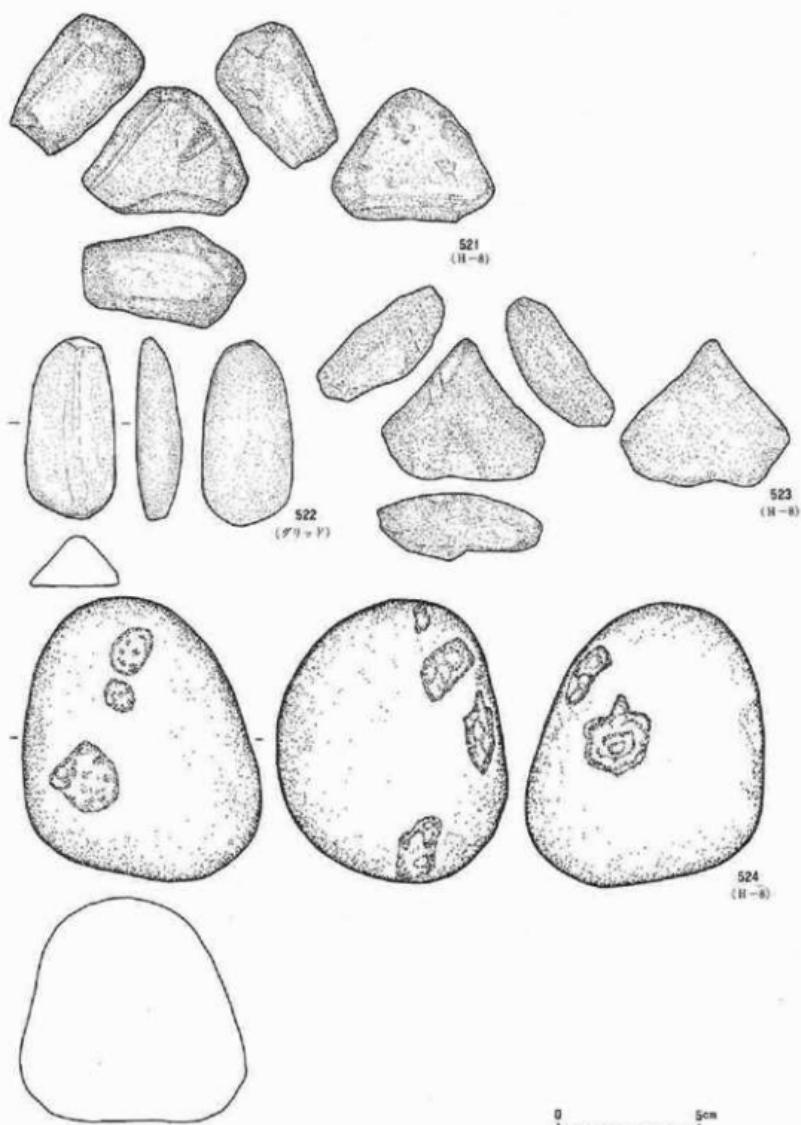


Fig. 141 石・燧石製品(1/2)

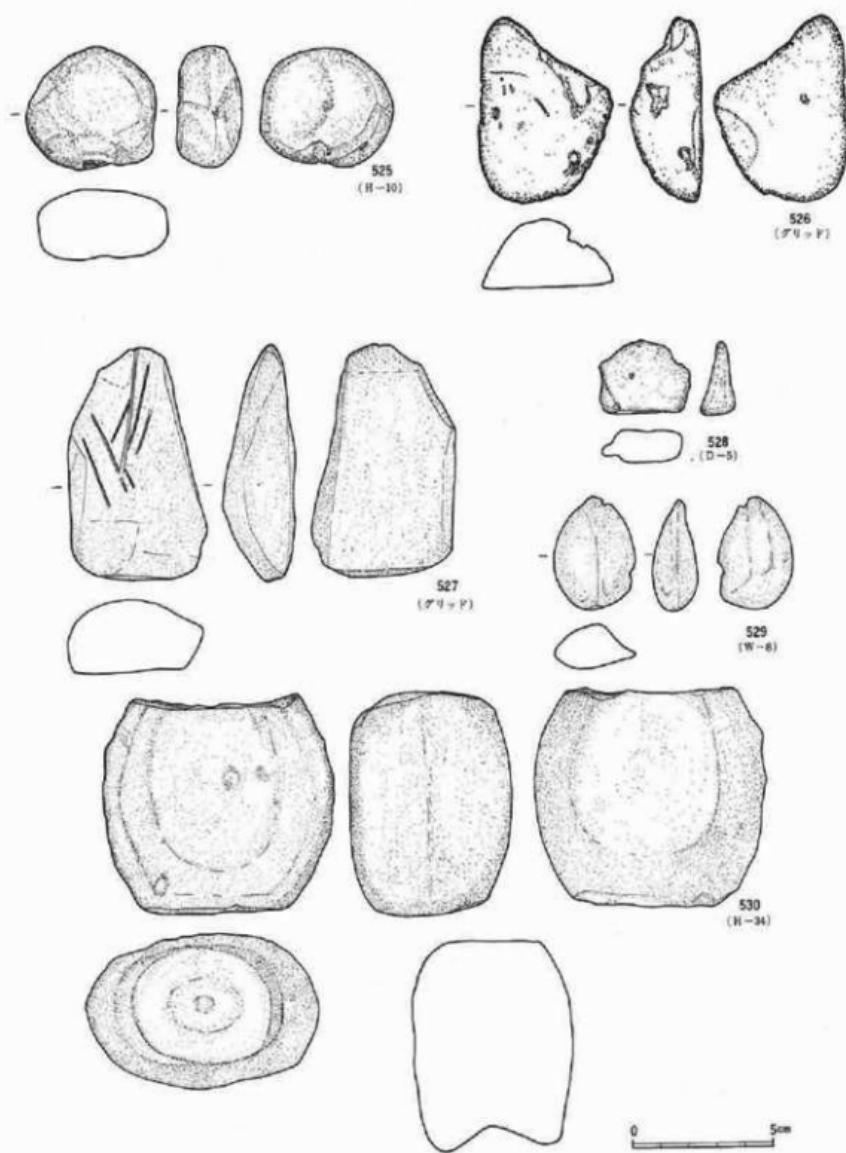


Fig. 142 石・鉆石製品(1/2)

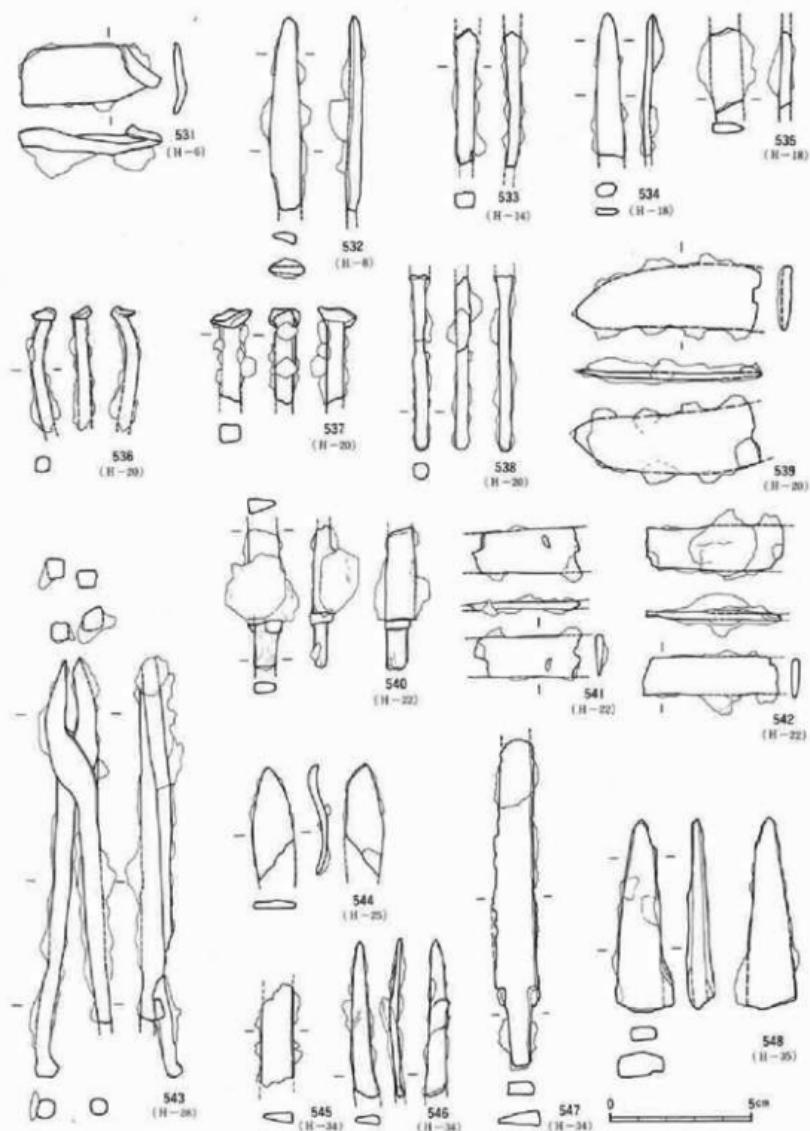


Fig. 143 鉄器・鉄製品(1/2)

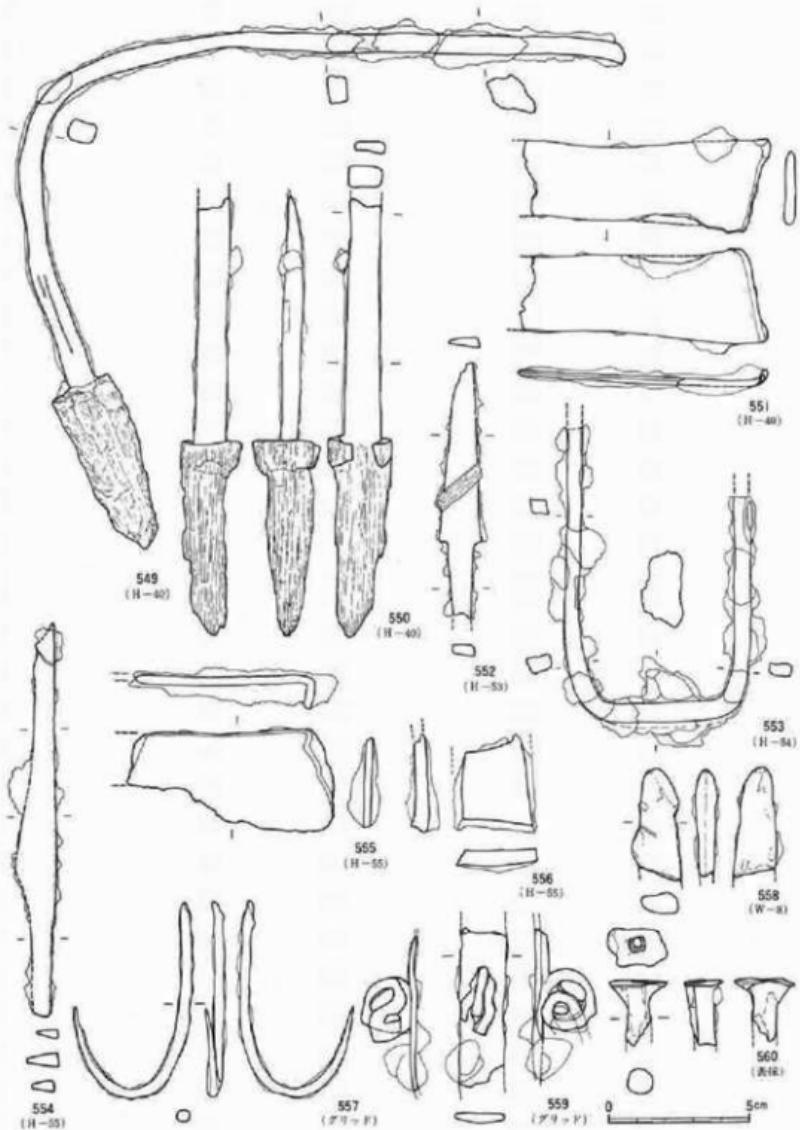
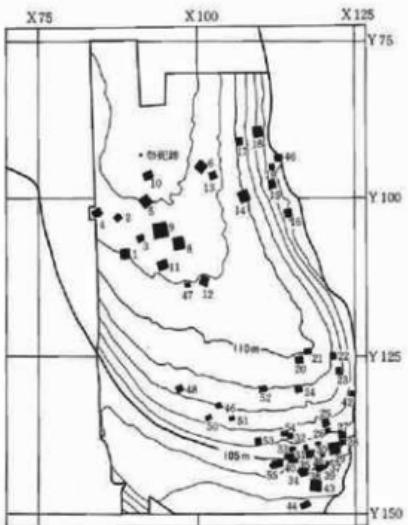
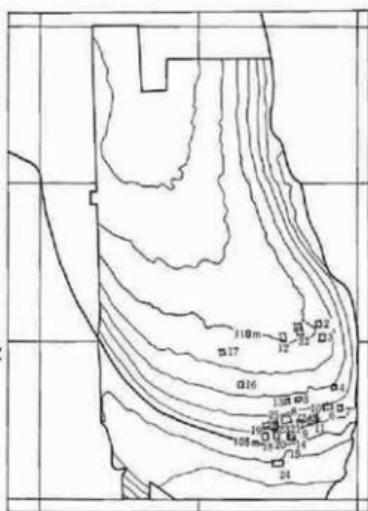


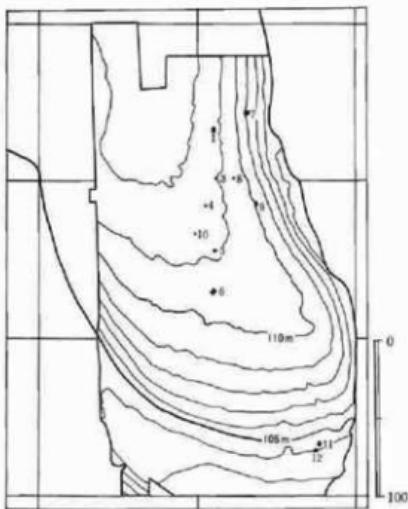
Fig. 144 鉄器・鉄製品(1/2)



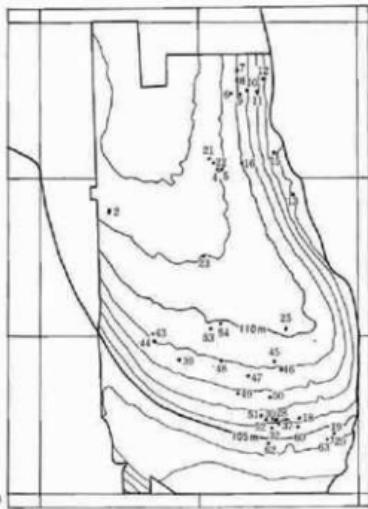
1. 住居址



2. 据立柱建物址

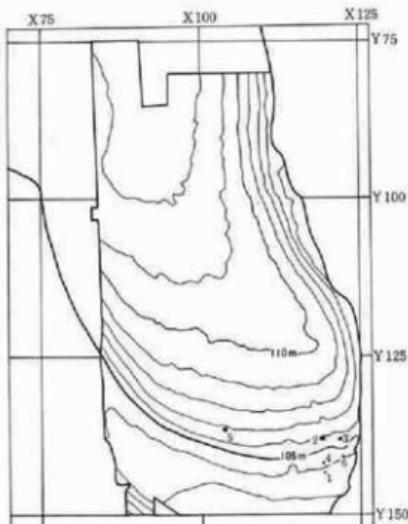


3. 豊穴状遺構

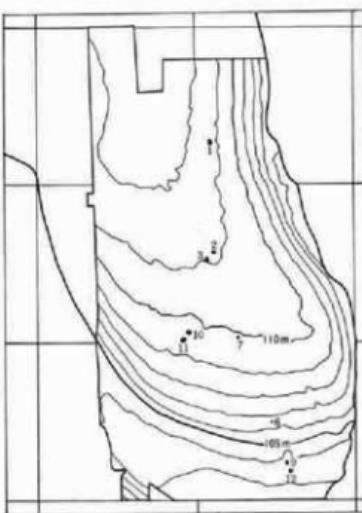


4. 土坑

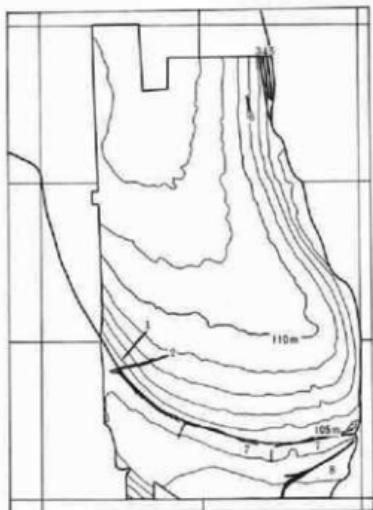
Fig. 145 道構の分布



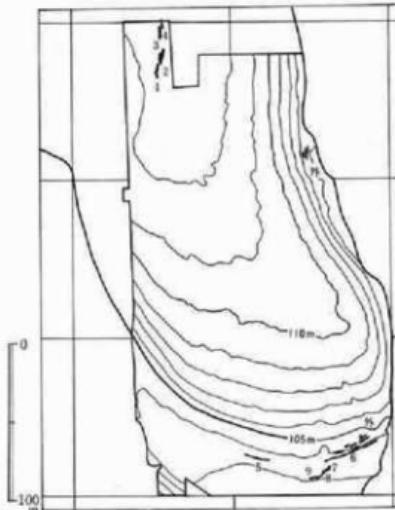
1. 井 戸



2. 落ち込み



3. 溝



4. 地 割 れ

Fig. 146 道構の分布

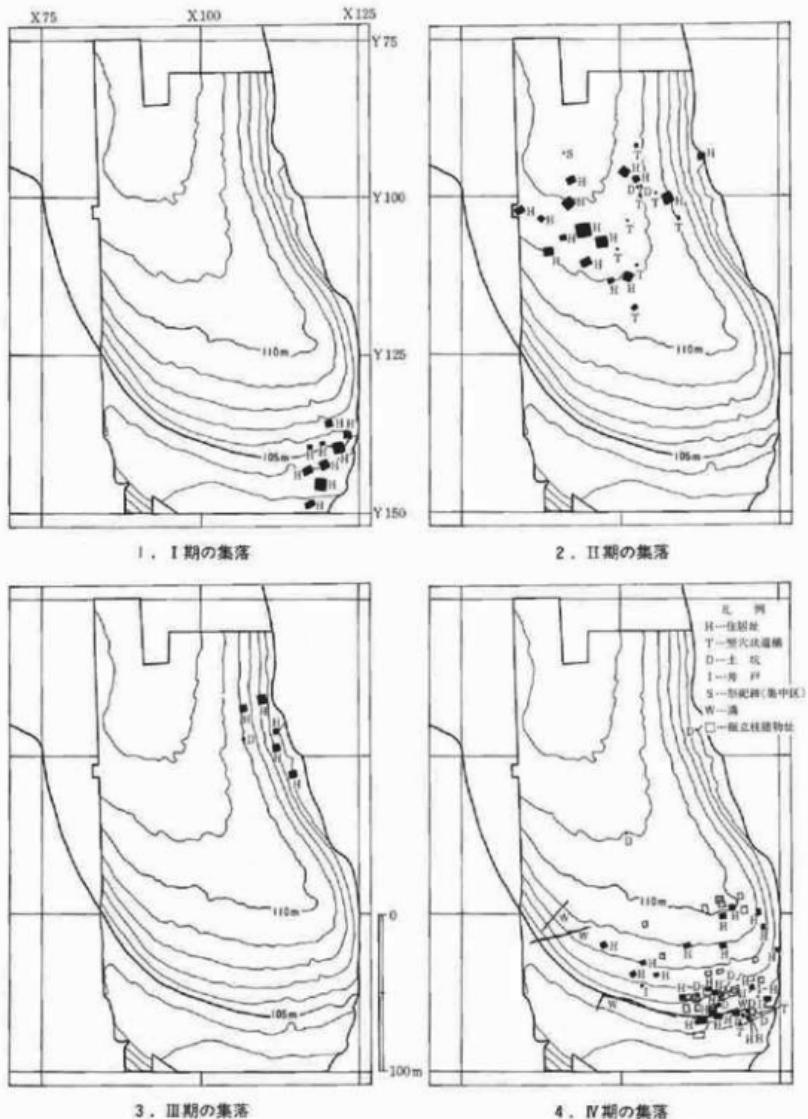


Fig. 147 集落変遷

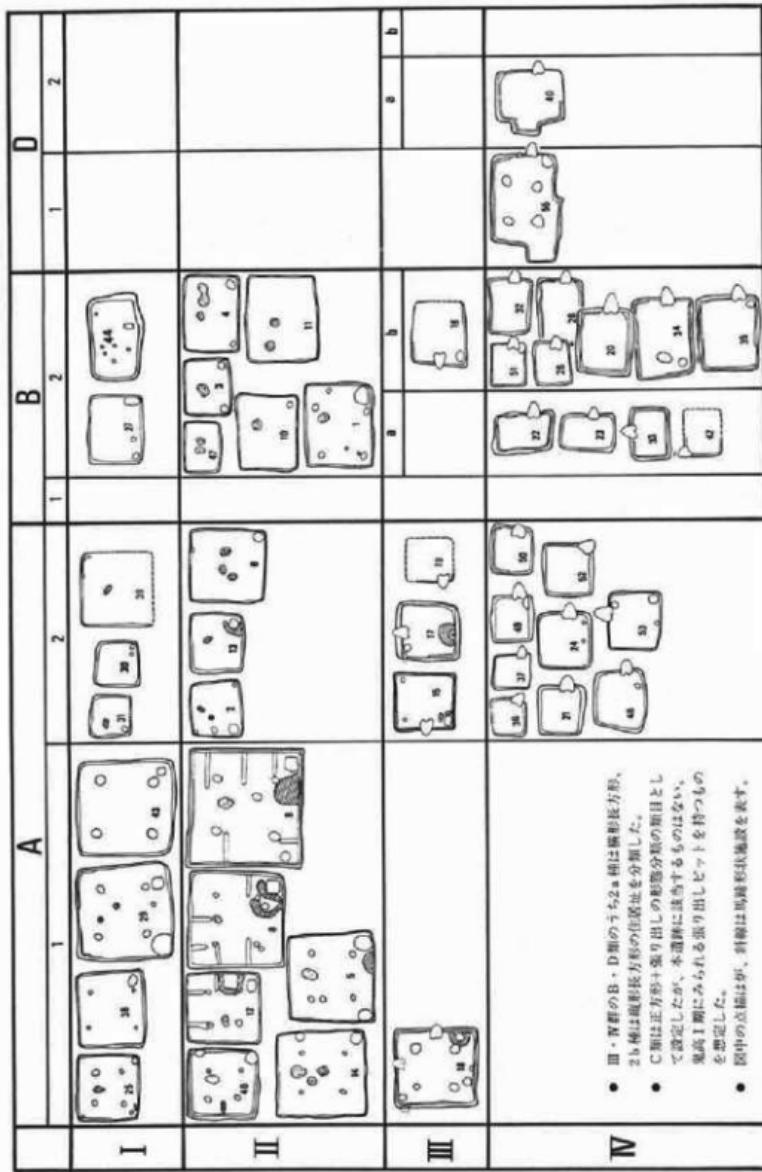


Fig. 148 住居世形態分類図(1/400)

- Ⅲ・Ⅳ群のB・D群のうち2・3種は標準長方形、
2・3種は扇形長方形の住居団を分類した。
- C群は方形十角形十扇形分類の項目とし
て設定したが、本道林に該当するものはない。
既高1期にみられる張り出しピットを持つもの
を想定した。
- 図中の△印は、斜解は馬蹄形状施設を表す。

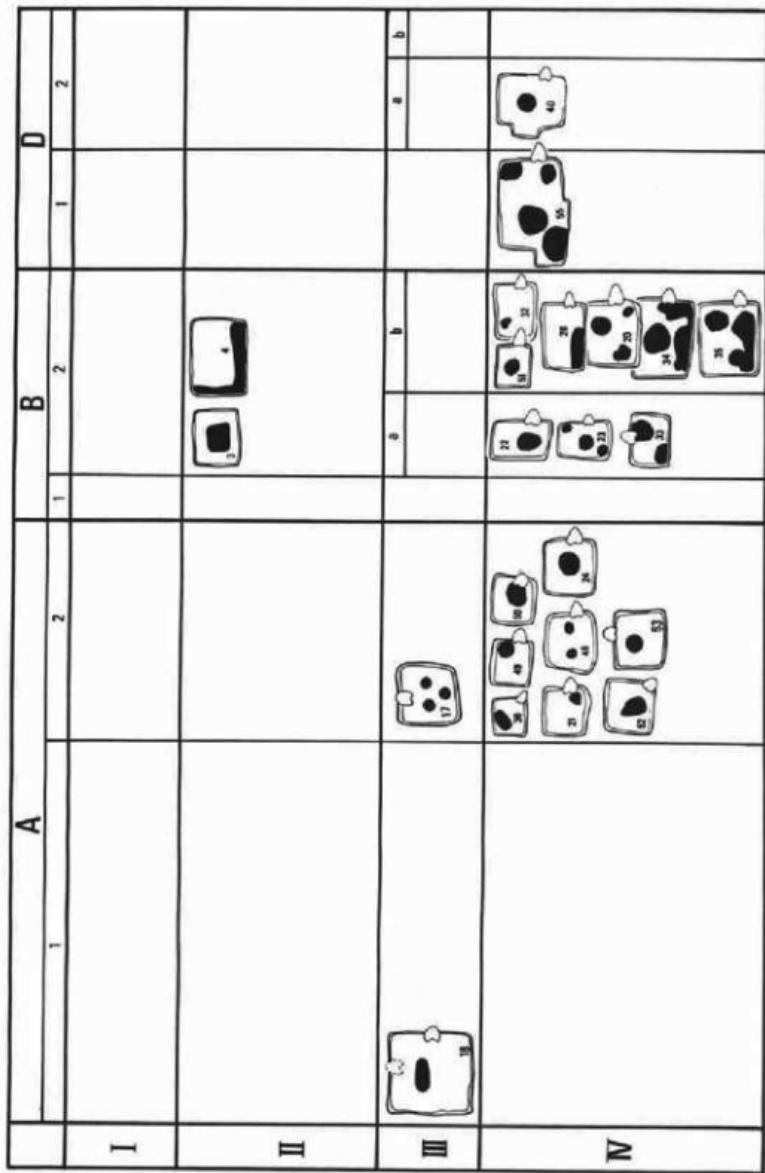
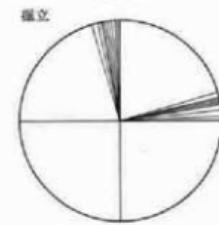
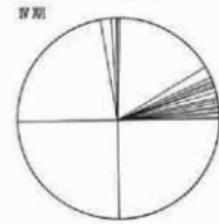
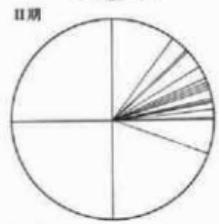
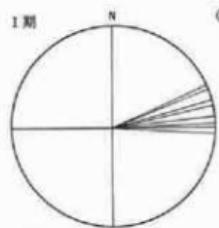
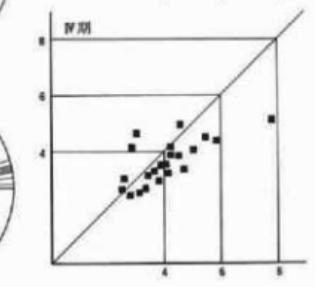
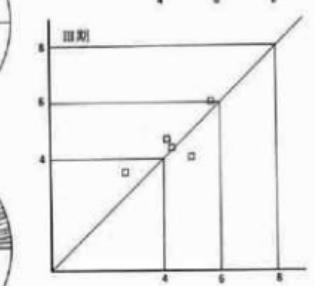
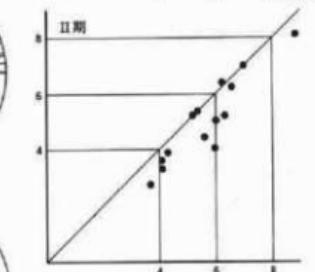
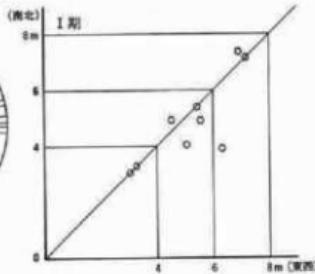


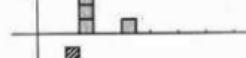
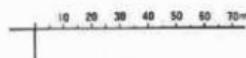
Fig. 149 床下土坑集成图(1/400)



1. 主軸



2. 規 模



3. 面 横

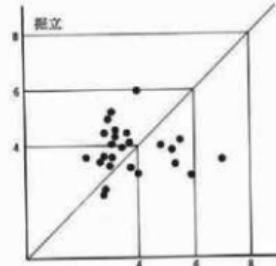
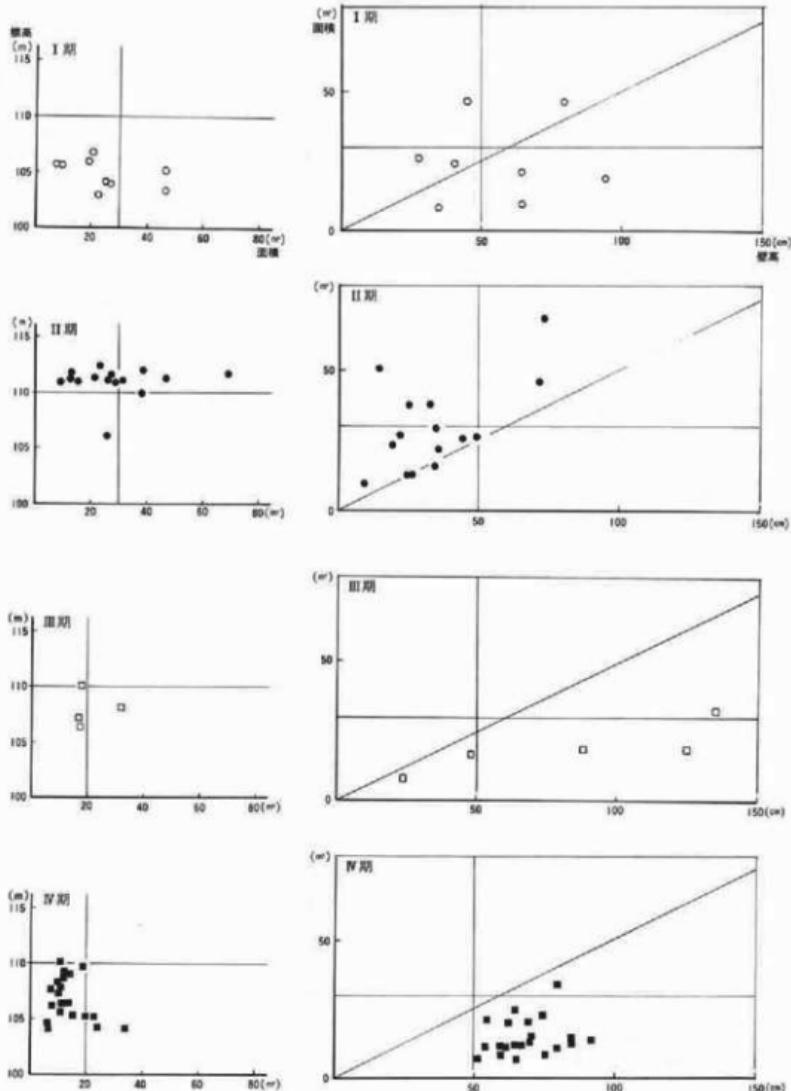


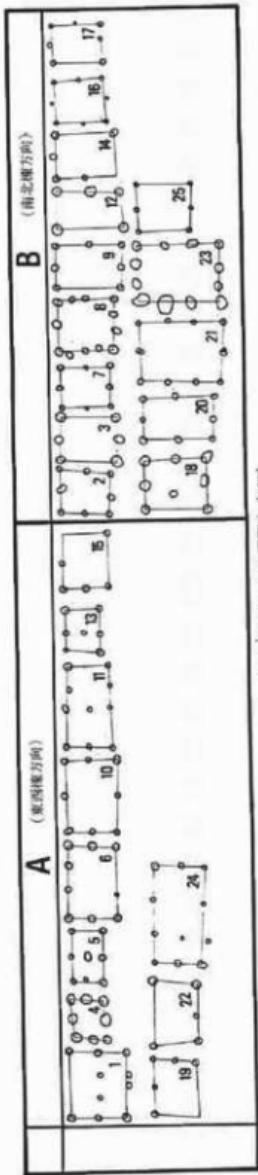
Fig. 150 住居址計測図



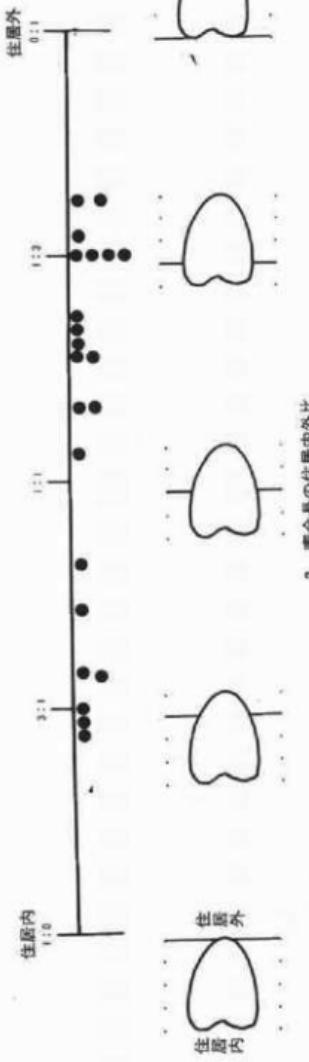
1. 立地

2. 壁高

Fig. 151 住居址計測図



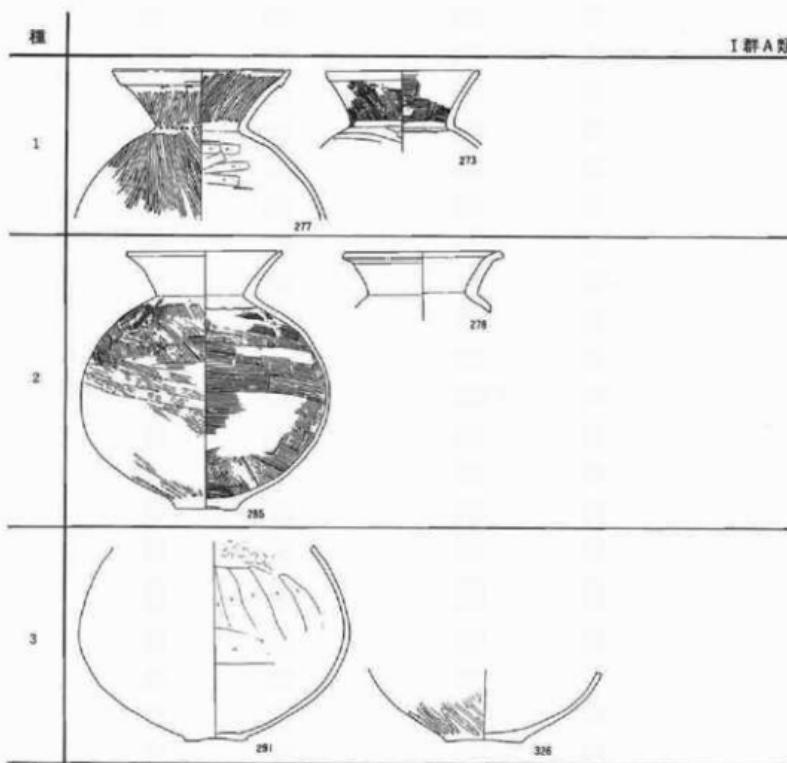
1. 据立住建物址分類図(1/400)



2. 建全長の住居内外比

Fig. 152 据立住建物址分類図・位置図

I群A類



I群B類

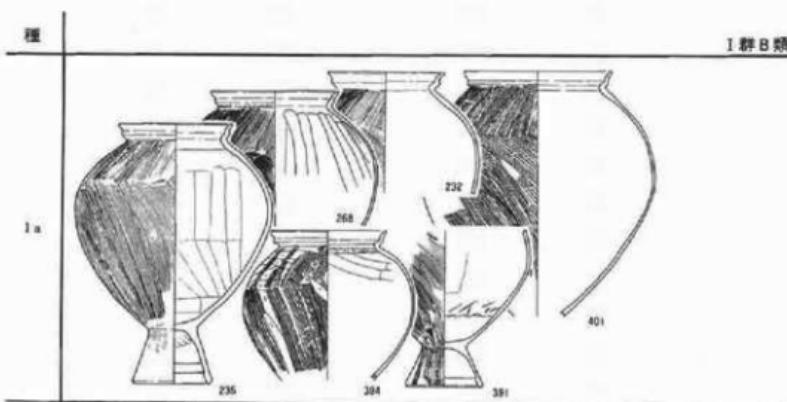


Fig. 153 土器分類図(1)

種

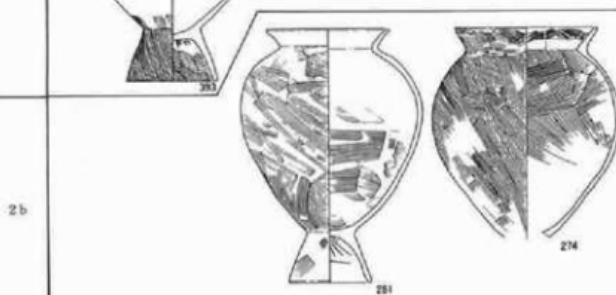
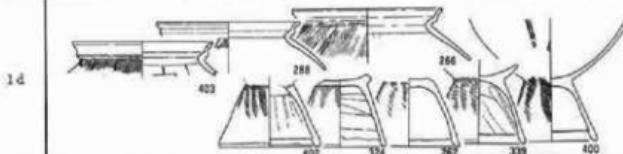
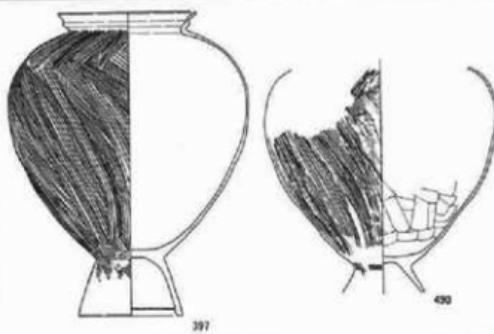


Fig. 154 土器分類(2)

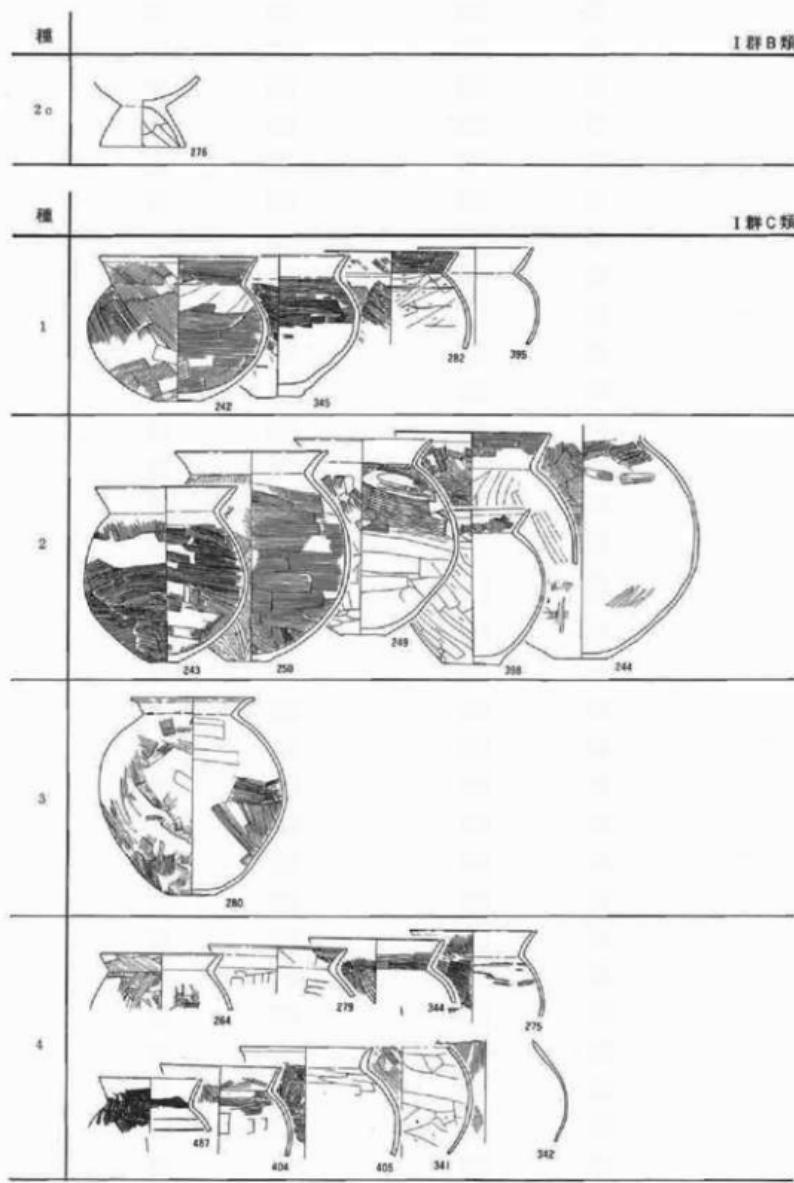
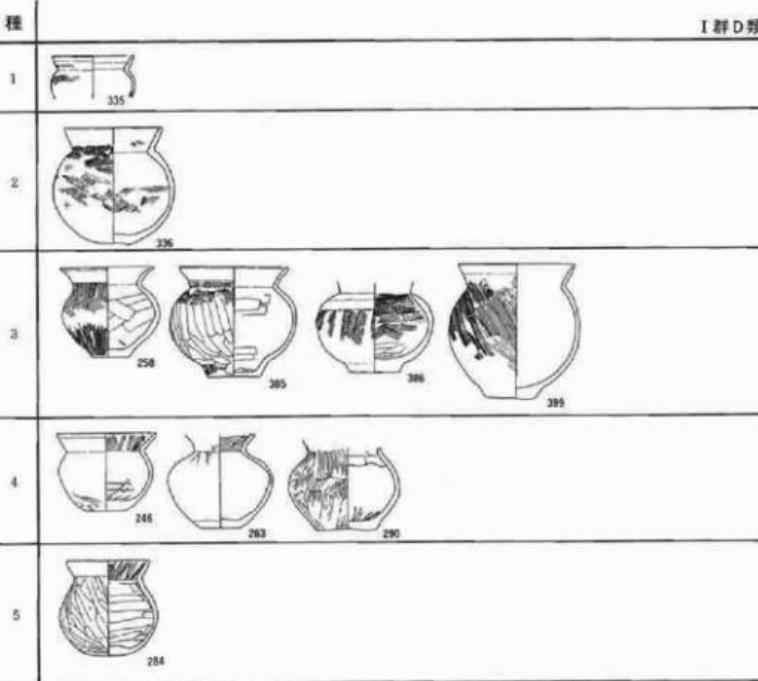
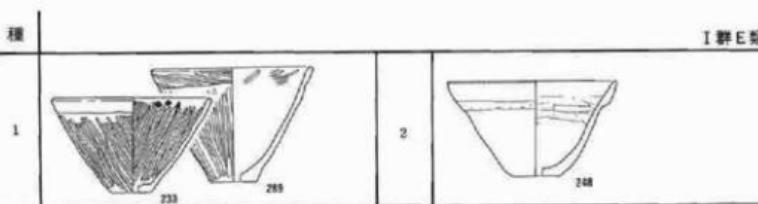


Fig. 155 土器分類図(3)

I群D類



I群E類



I群F類

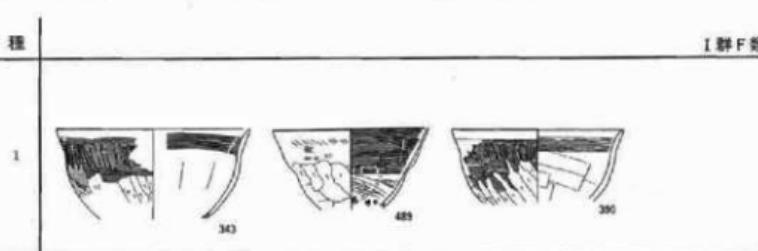
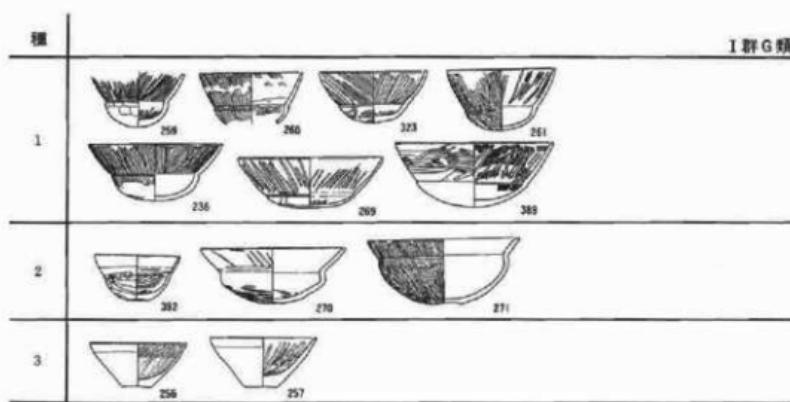
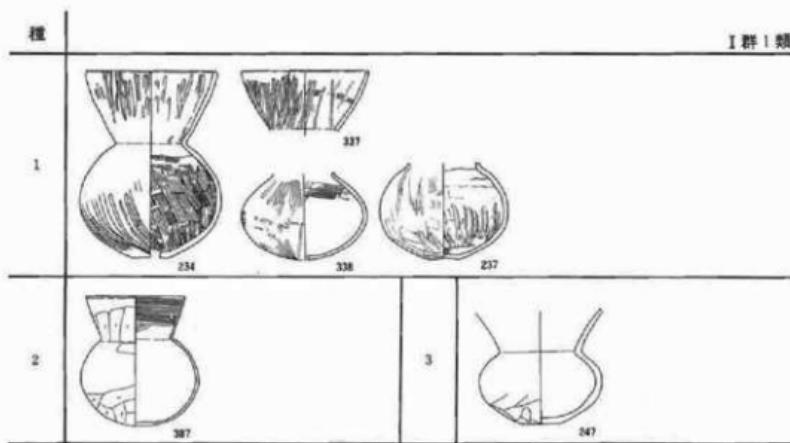


Fig. 156 土器分類図(4)

I群G類



I群I類



I群J類

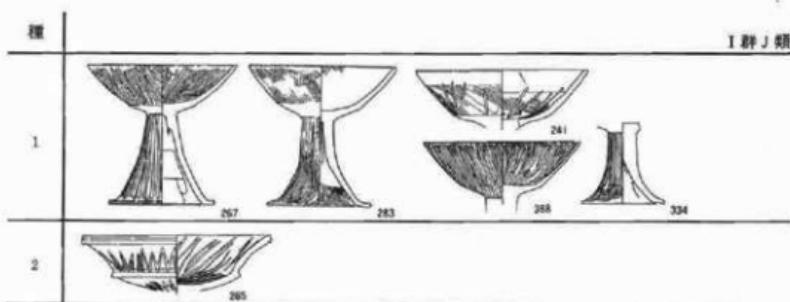
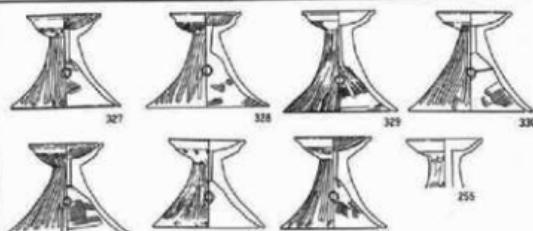


Fig. 157 土器分類図(5)

種

I群K類



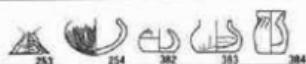
1

2

3

種

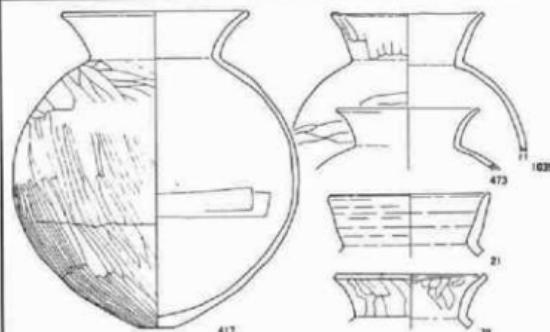
I群L類



1

種

II群A類



1

2

Fig. 158 土器分類図(6)

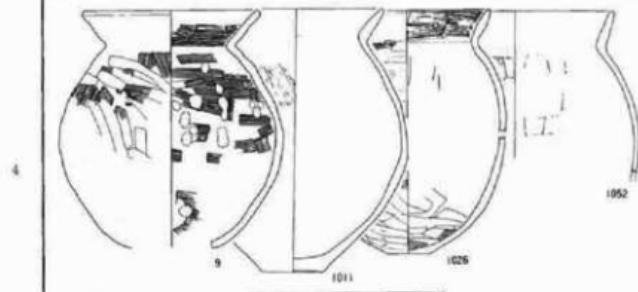
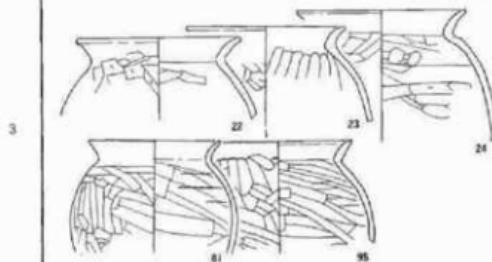
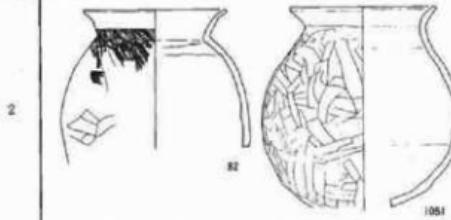
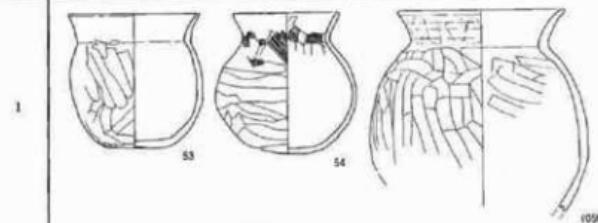


Fig. 159 土器分類(7)

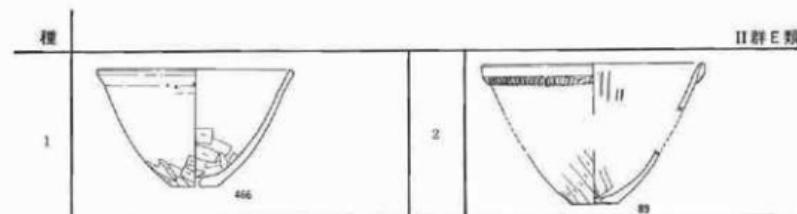
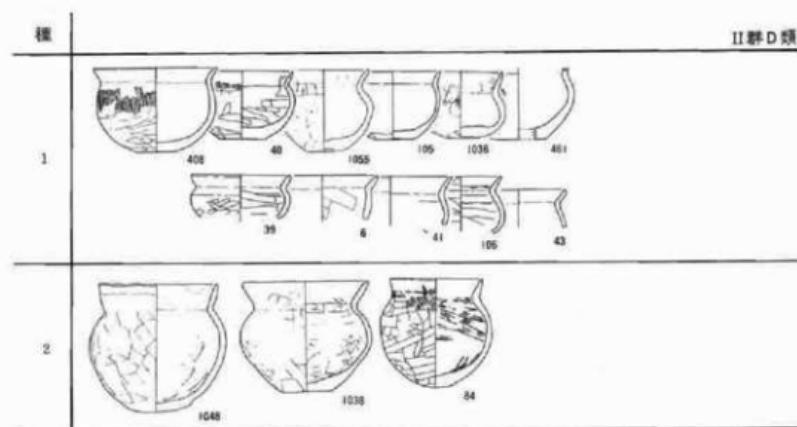
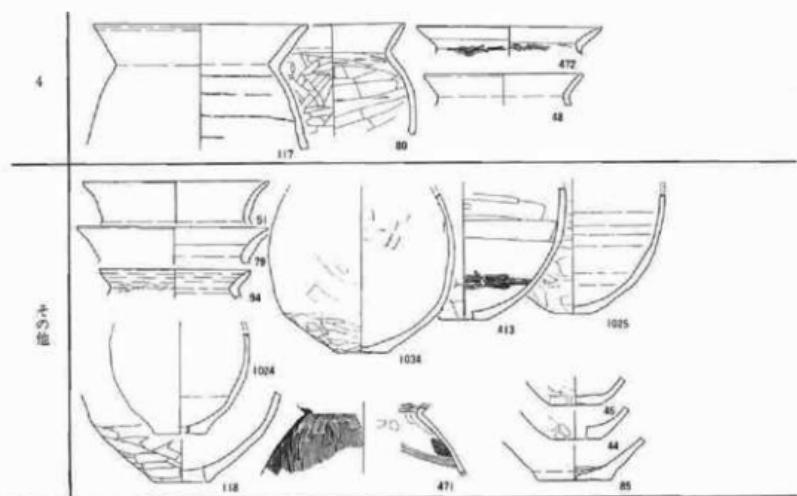
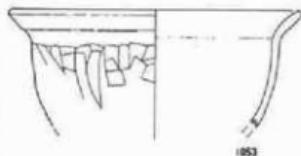


Fig. 160 土器分類図(8)

種

II群 F類

1



種

II群 G類

1a



1b



2a



2b



3



種

II群 H類

1



2



Fig. 161 土器分類図(9)

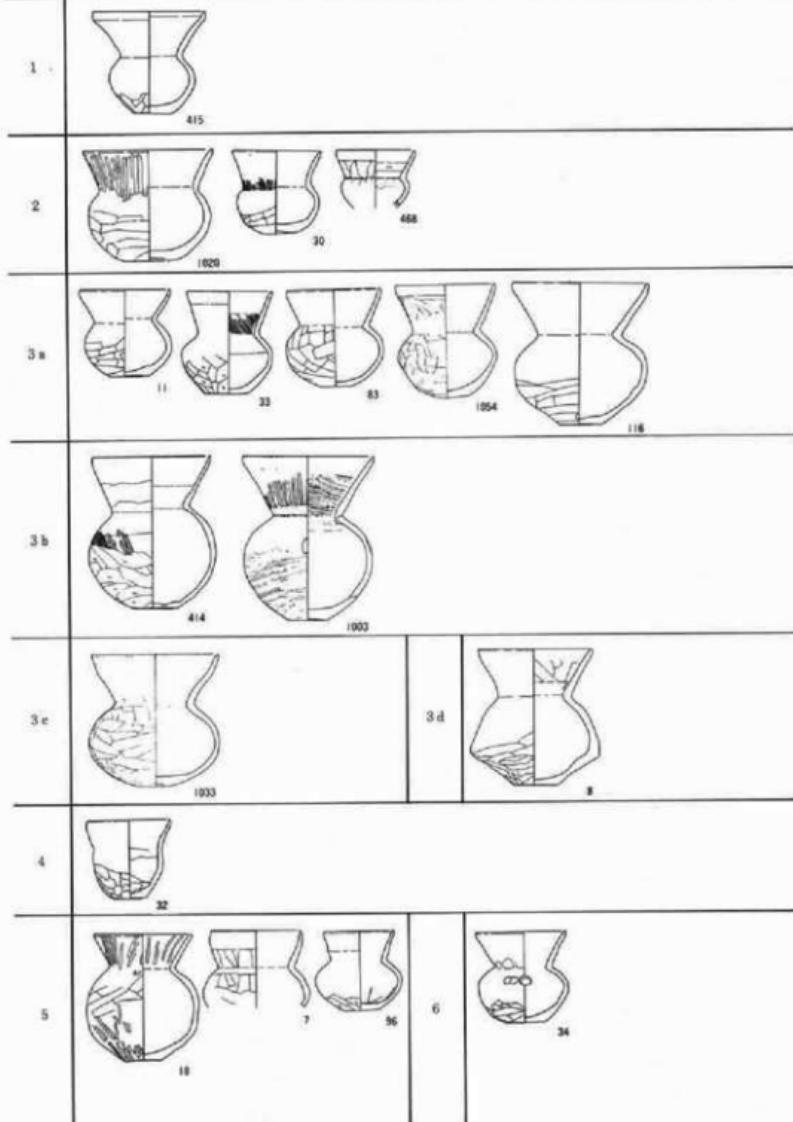


Fig. 162 土器分類図10

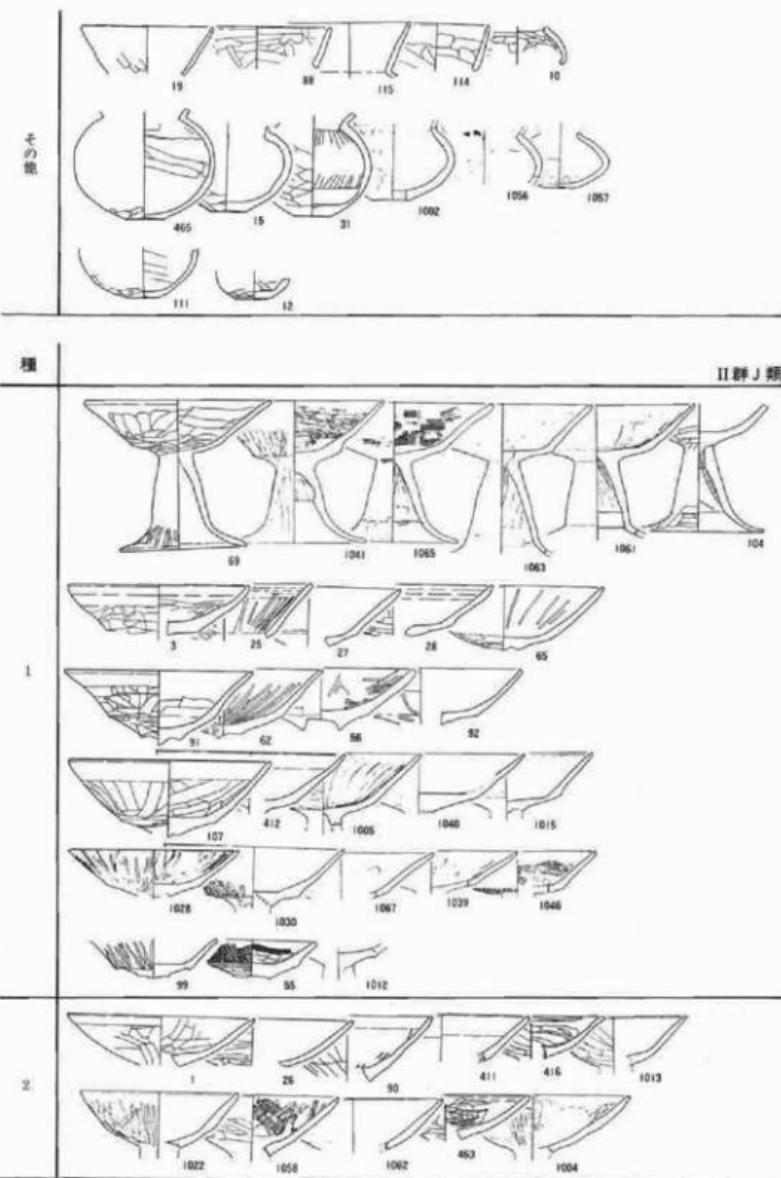


Fig. 163 土器分類図(II)

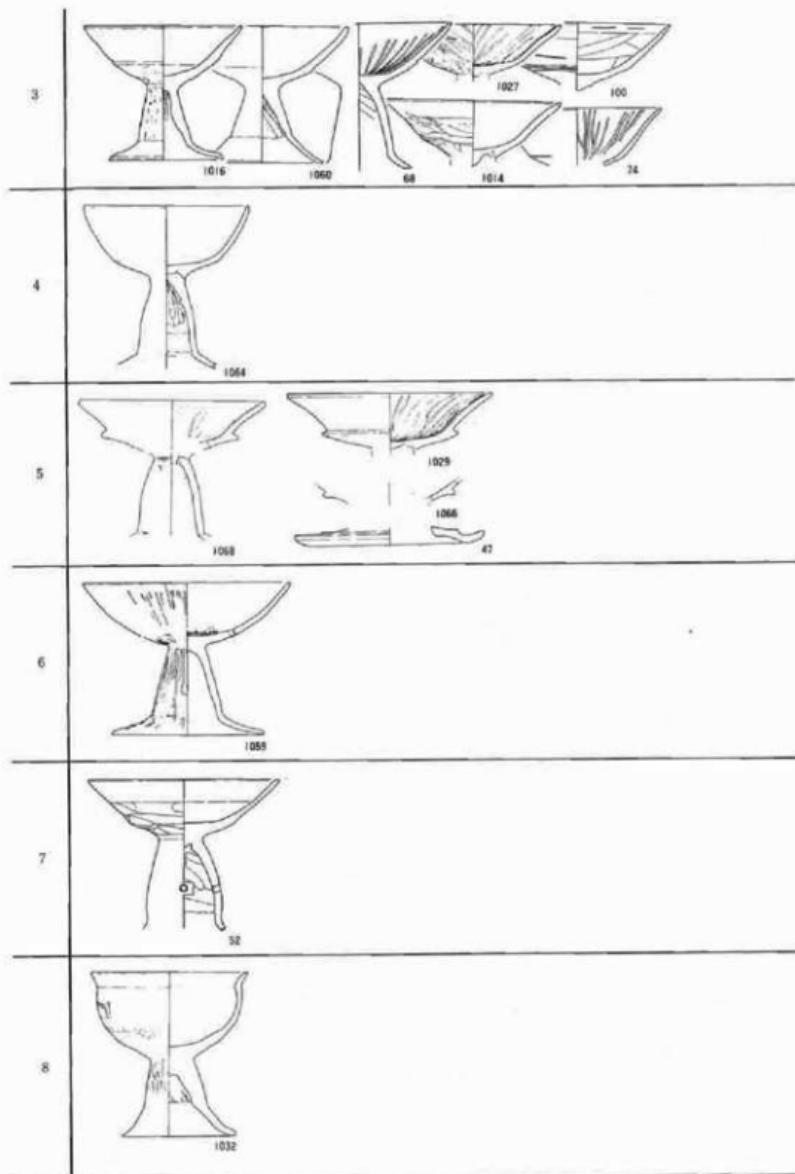


Fig. 164 土器分類図12

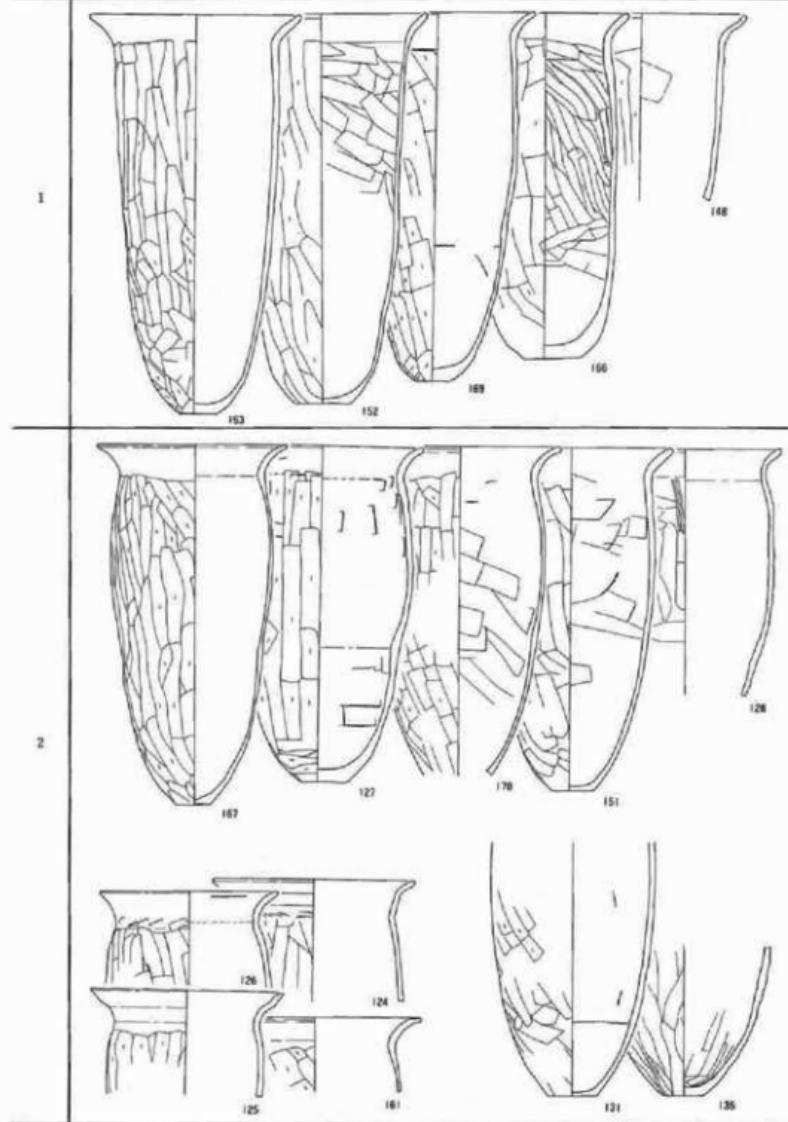


Fig. 165 土器分類図3

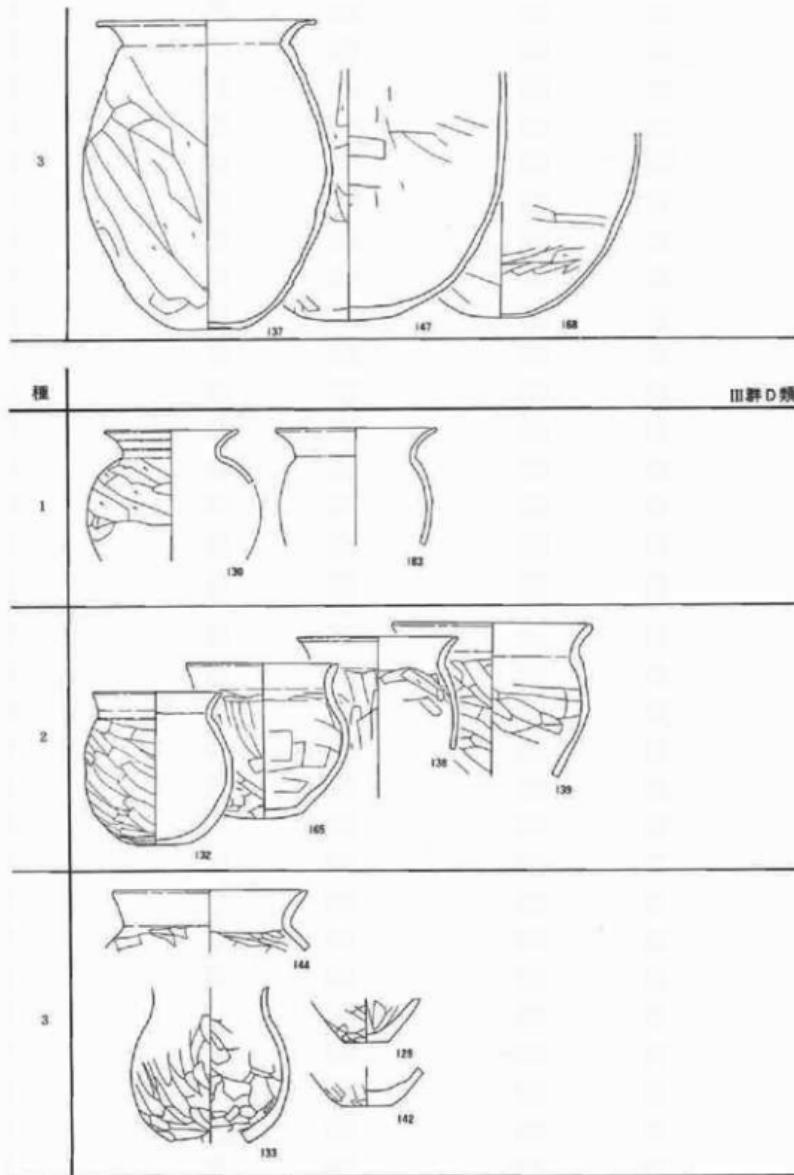
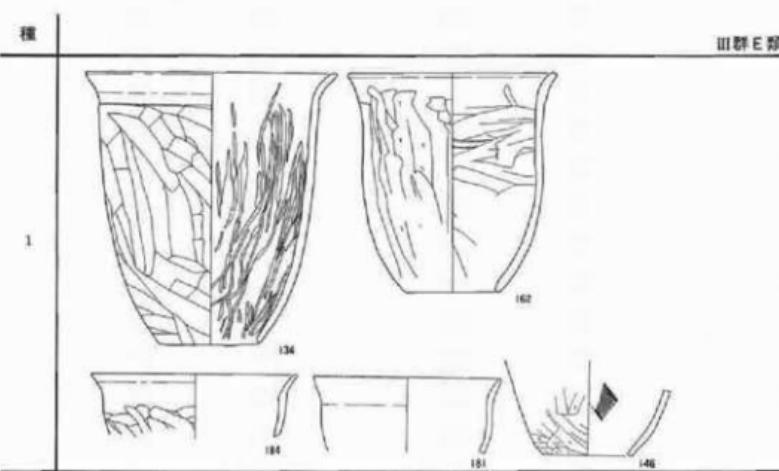
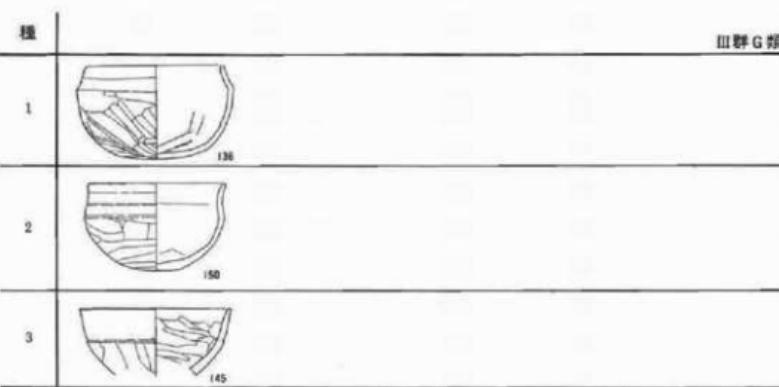


Fig. 166 土器分類図10

III群E類



III群G類



III群H類

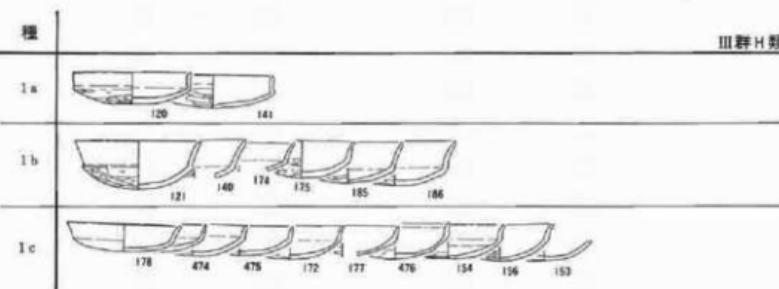


Fig. 167 土器分類図10

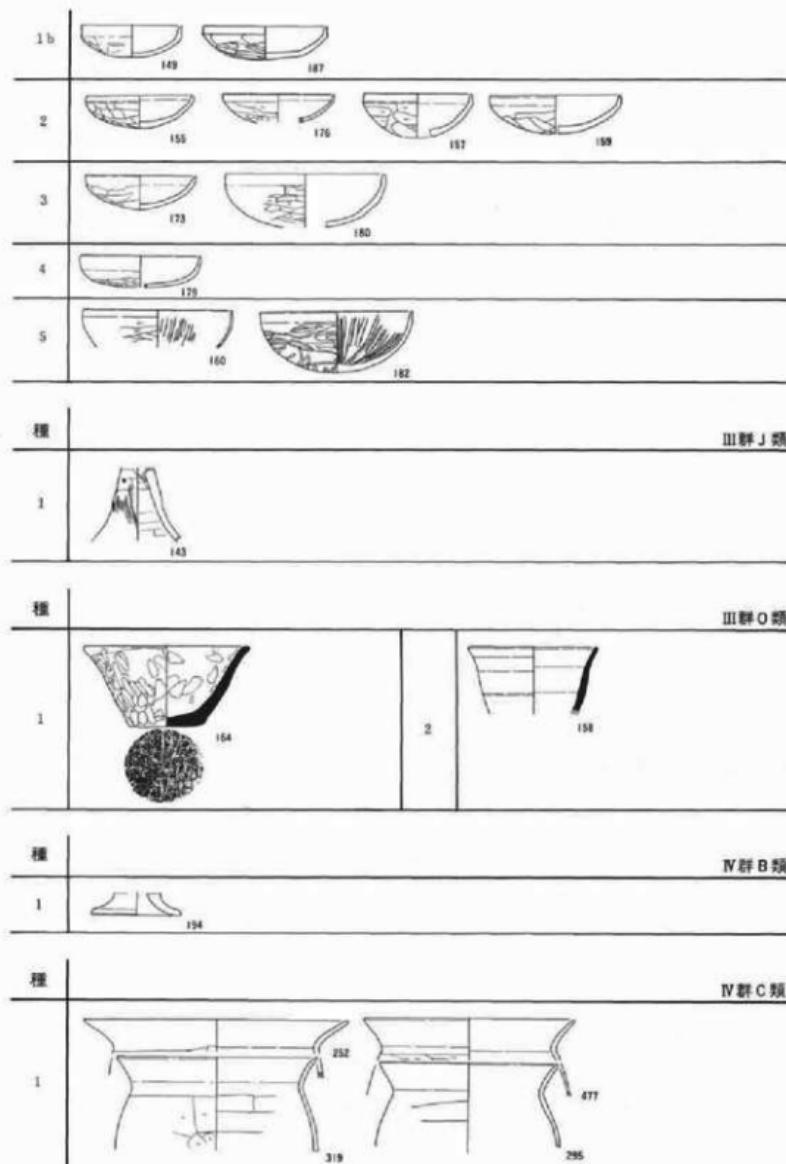


Fig. 168 土器分類図10

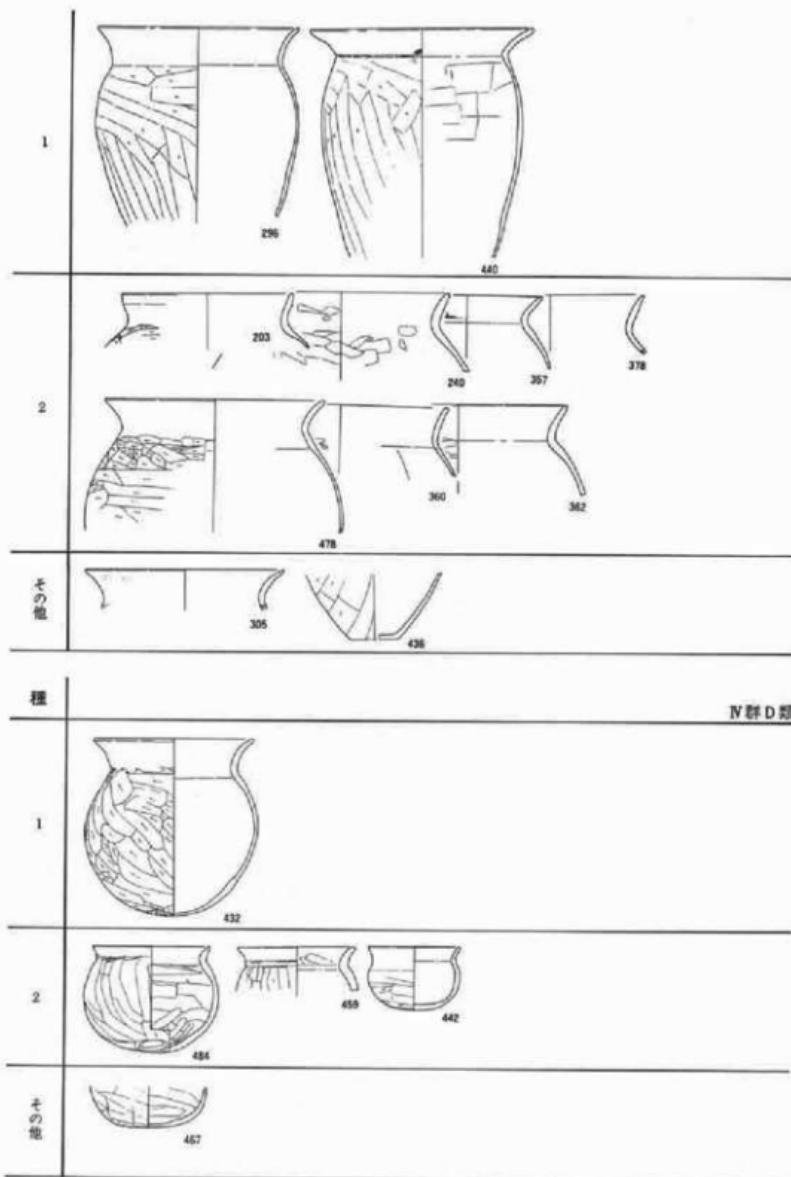
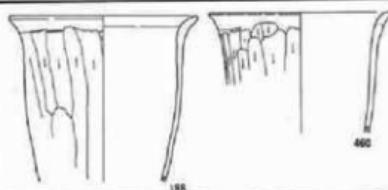


Fig. 169 土器分類図17

種

IV群E類

1



種

IV群F類

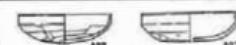
2



種

IV群H類

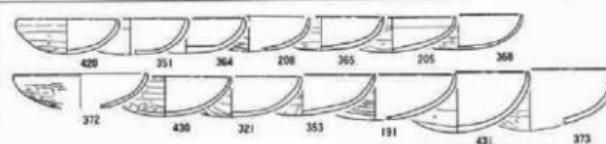
1



2 a



2 b



3

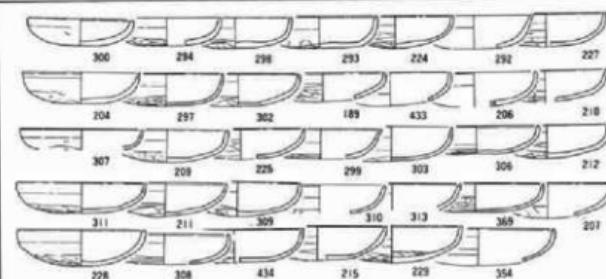
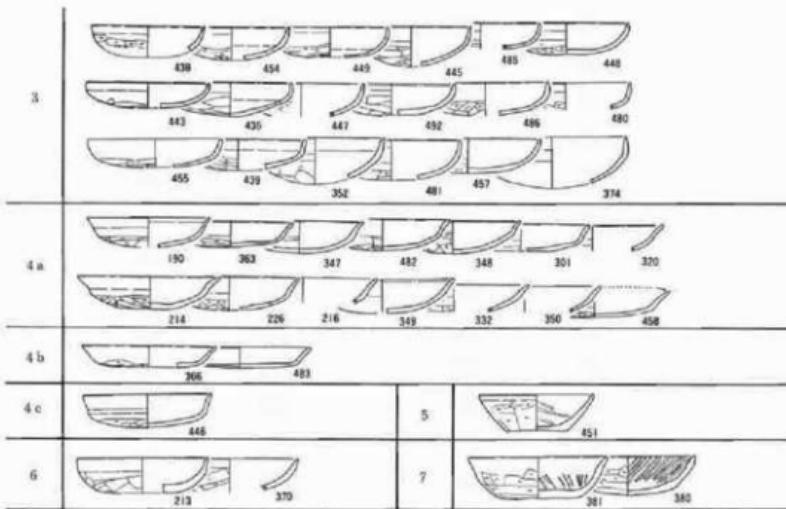
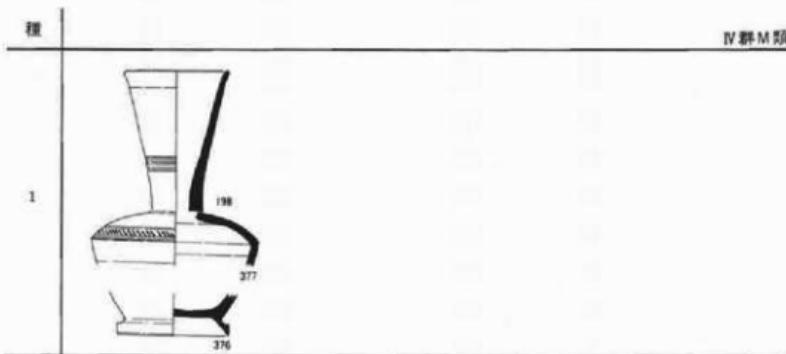


Fig. 170 土器分類図10



種

IV群M類



種

IV群N類

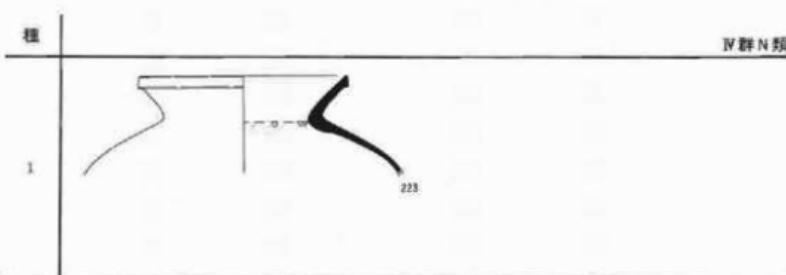


Fig. 171 土器分類図19

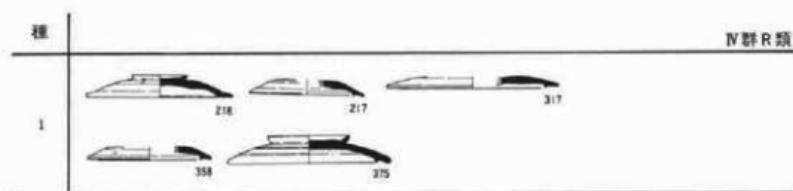
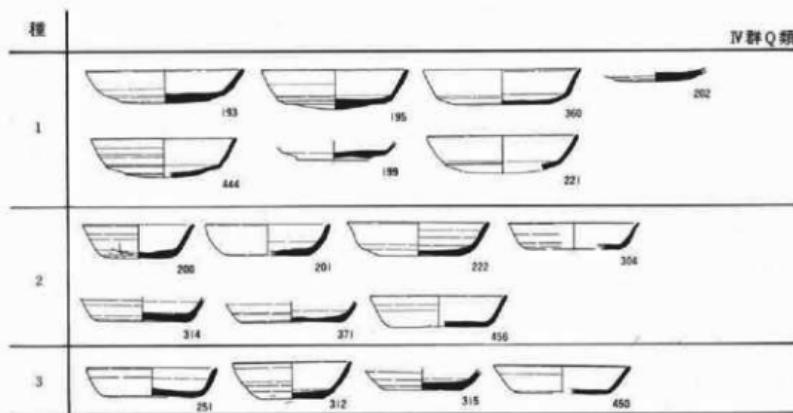
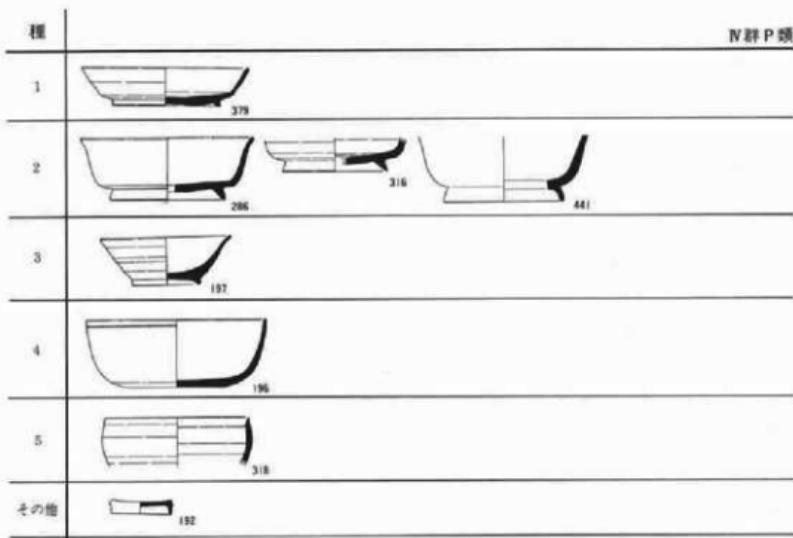


Fig. 172 土器分類図26

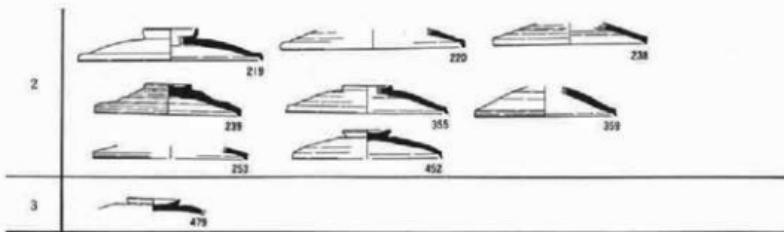
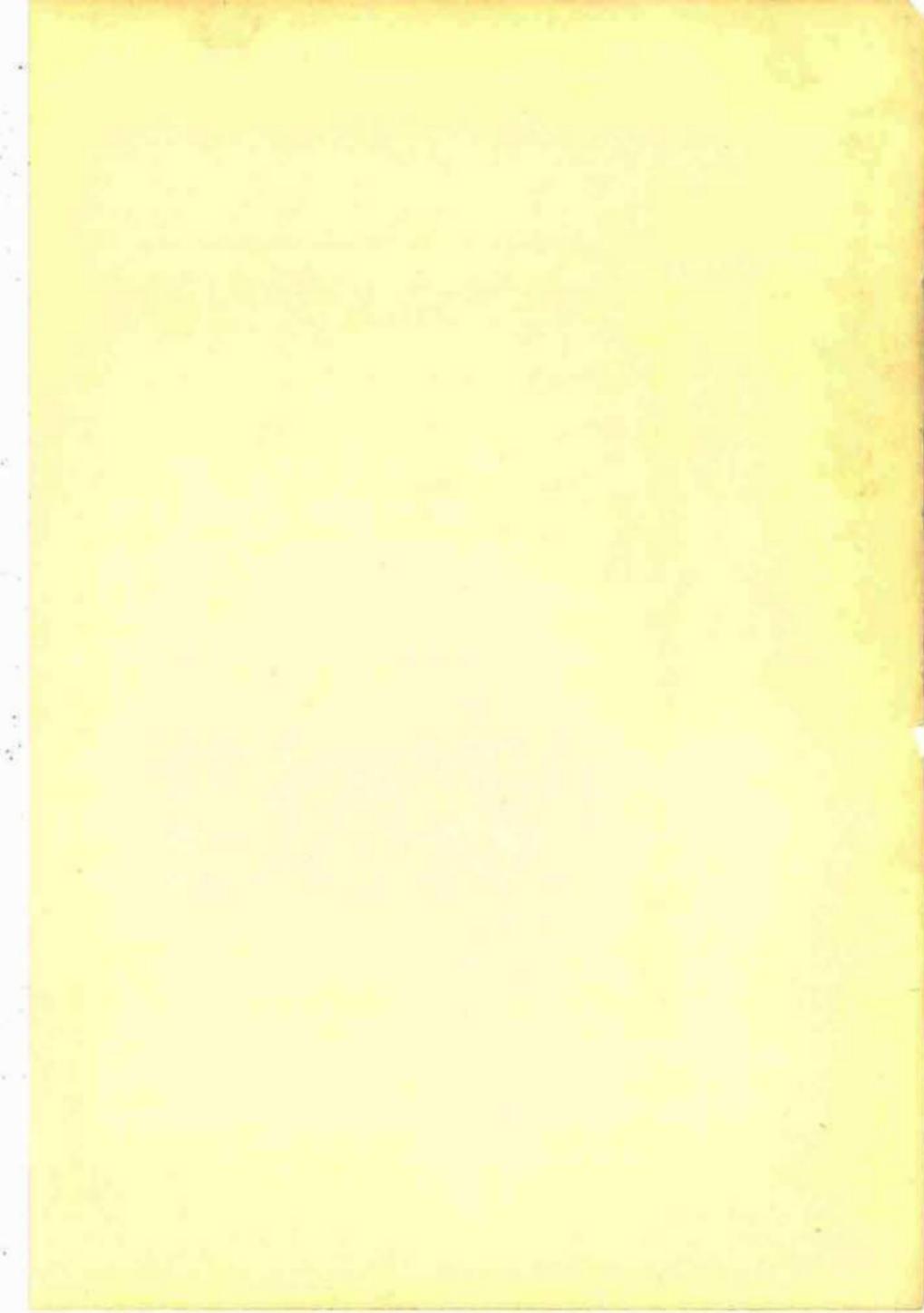
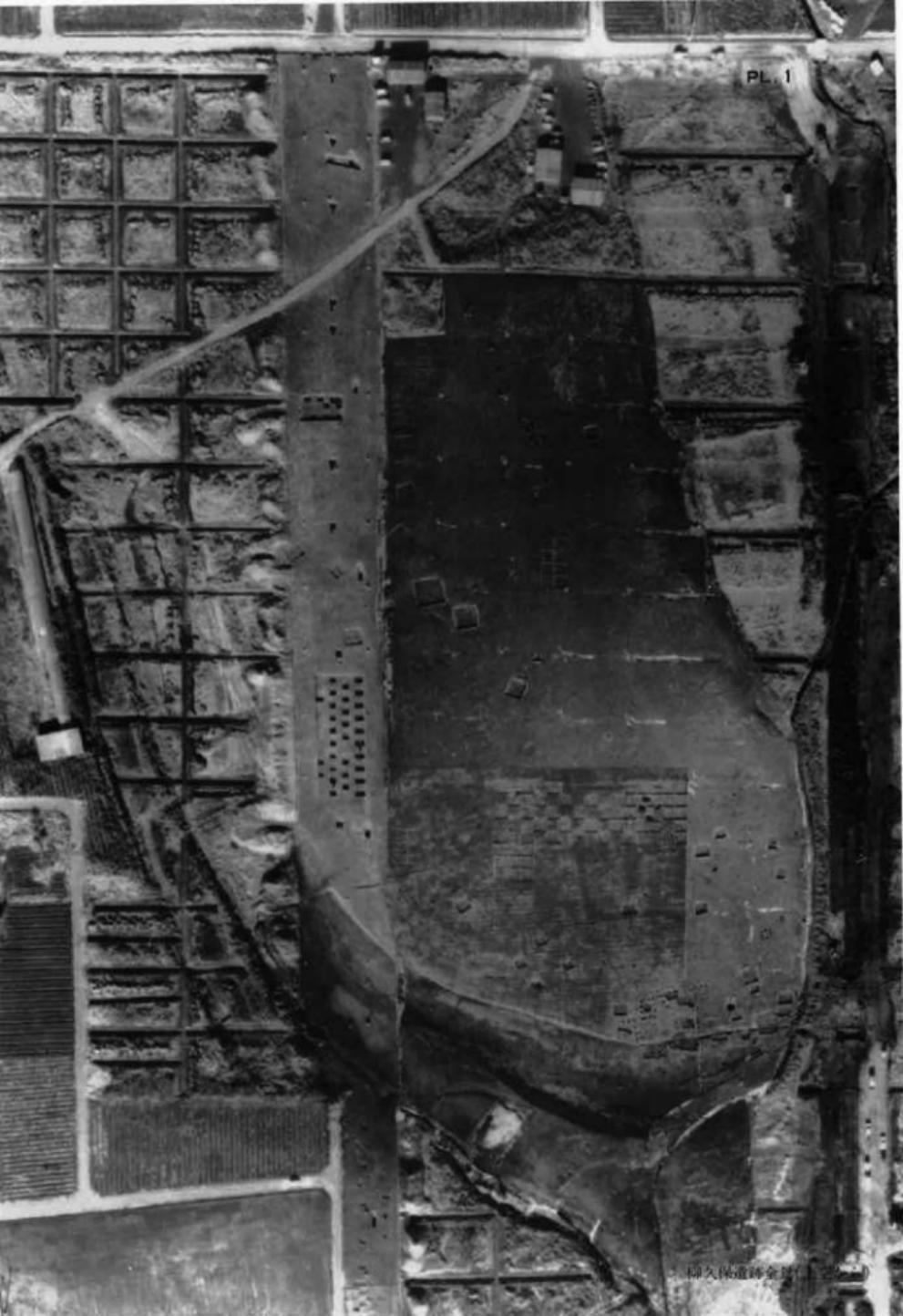


Fig. 173 土器分類図(2)



写 真 図 版

PL. 1





1 . II・III期の住居址(東から)



2 . I・IV期の住居址(東から)



1. H-6号住居址全景(東から)



2. H-8号住居址炭化物出土状態(東から)



3. H-8号住居址炭化物出土状態(東から)



4. H-8号住居址全景(西から)



5. H-9号住居址南北セクション(西から)



6. H-9号住居址勾玉出土状態(西から)



7. H-9号住居址遺物出土状態(北から)



8. H-9号住居址遺物出土状態(北から)



1. H-14号住居址南北セクション(西から)



2. H-14号住居址全景(西から)



3. H-15号住居址貯蔵穴遺物出土状態(東から)



4. H-15号住居址貯蔵物出土状態(南から)



5. H-15号住居址貯蔵物出土状態(東から)



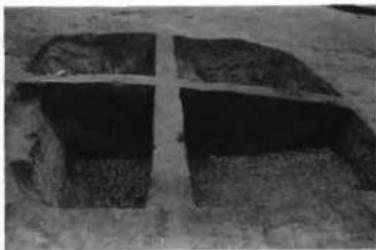
1. H-15号住居址全景(北から)



2. H-16号住居址全景(東から)



1. H-16号住居址竈全景(東から)



2. H-17号住居址東西セクション(南から)



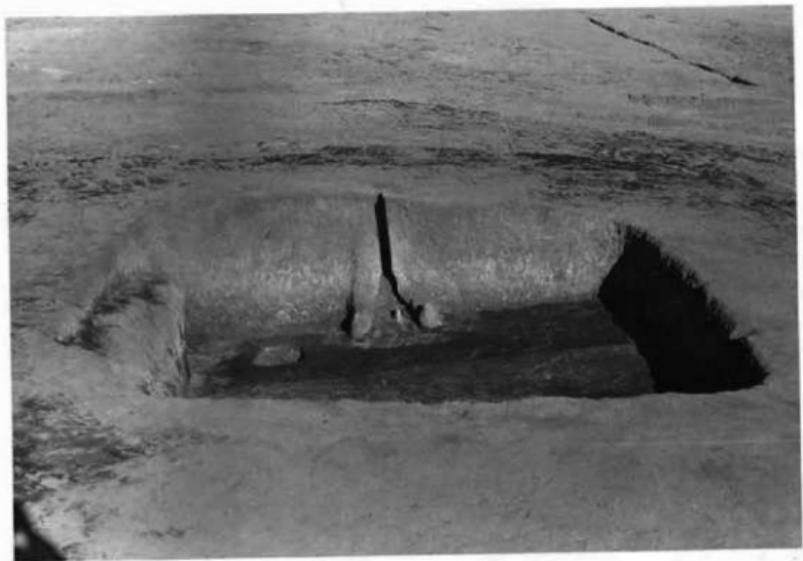
3. H-17号住居址竈全景(南から)



4. H-17号住居址竈遺物出土状態(南から)



5. H-17号住居址竈遺物出土状態(南から)



1. H-17号住居址全景(南から)



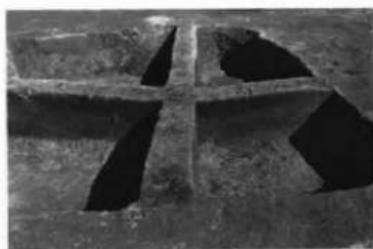
2. H-18号住居址東西セクション(南から)



1. H-18号住居址全景(西から)



2. H-19号住居址全景(東から)



1. H-20号住居址南北セクション(西から)



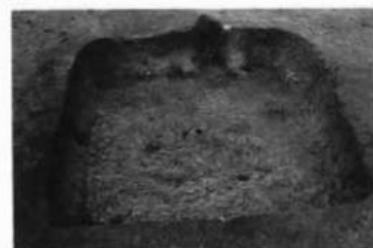
2. H-20号住居址全景(西から)



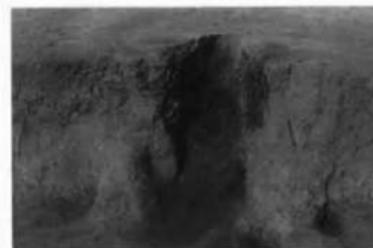
3. H-20号住居址全景(西から)



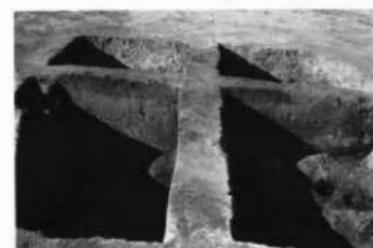
4. H-21号住居址南北セクション(西から)



5. H-21号住居址全景(西から)



6. H-21号住居址東全景(西から)



7. H-22号住居址東西セクション(南から)



8. H-22号住居址全景(西から)



1. H-22号住居址貯藏穴遺物出土状態(南から)



2. H-22号住居址掘り方全景(東から)



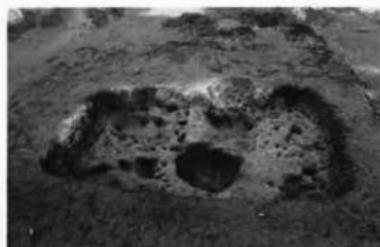
3. H-22号住居址竪全景(西から)



4. H-23号住居址東西セクション(南から)



5. H-23号住居址全景(西から)



1. H-23号住居址掘り方全景(西から)



2. H-23号住居址礎全景(西から)



3. H-24号住居址全景(西から)



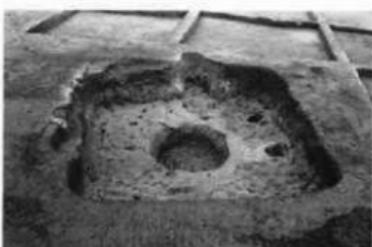
4. H-24号住居址礎南北セクション(西から)



5. H-24号住居址南北セクション(西から)



1. H-24号住居址遺全景(西から)



2. H-24号住居址掘り方全景(西から)



3. H-25号住居址南北セクション(西から)



4. H-25号住居址遺物出土状態(東から)



5. H-25号住居址全景(東から)



1. H-26号住居址東西セクション(西から)



2. H-26号住居址全景(西から)



3. H-27号住居址南北セクション(西から)



4. H-26号住居址竪全景(西から)



5. H-27号住居址遺物出土状態



6. H-27号住居址全景(西から)



7. H-28号住居址竪全景(西から)



8. H-28号住居址全景(東から)



1. H-28号住居址南北セクション(西から)



2. H-29号住居址全景(西から)



1. H-29号住居址南北セクション(西から)



2. H-29号住居址貯蔵穴遺物出土状態
(西から)



3. H-30号住居址全景(西から)



4. H-30号住居址遺物出土状態(南から)



5. H-30号住居址遺物出土状態(南から)



1. H-31号住居址南北セクション(西から)



2. H-31号住居址全景(西から)



3. H-32号住居址東西セクション(南から)



4. H-32号住居址全景(西から)



5. H-32号住居址全景(北から)



1. H-33号住居址東西セクション(南から)



2. H-33号住居址炭化物出土状態(西から)



3. H-33号住居址全景(西から)



4. H-33号住居址遺全景(南から)



5. H-33号住居址掘り方全景(西から)



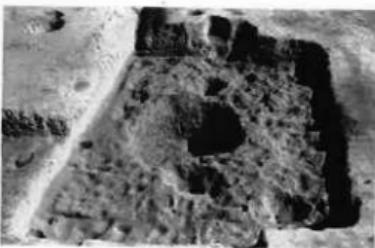
1. H-34-40号住居址南北セクション
(北西から)



2. H-34号住居址遺物出土状態(南西から)



3. H-34号住居址遺全景(西から)



4. H-34号住居址掘り方全景(西から)



5. H-34号住居址全景(西から)



1. H-35号住居址全景(西から)



2. H-35号住居址南北セクション(西から)



3. H-35号住居址竈全景(西から)



4. H-36号住居址竈全景(西から)



5. H-36号住居址竈全景(西から)



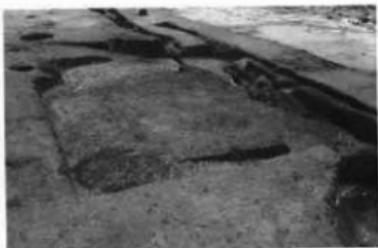
1. H-37号住居址全景(西から)



2. H-38号住居址東西セクション(南から)



1. H-39号住居址南北セクション(西から)



2. H-39号住居址全景(西から)



3. H-40号住居址南北セクション(西から)



4. H-42号住居址東西セクション(南から)



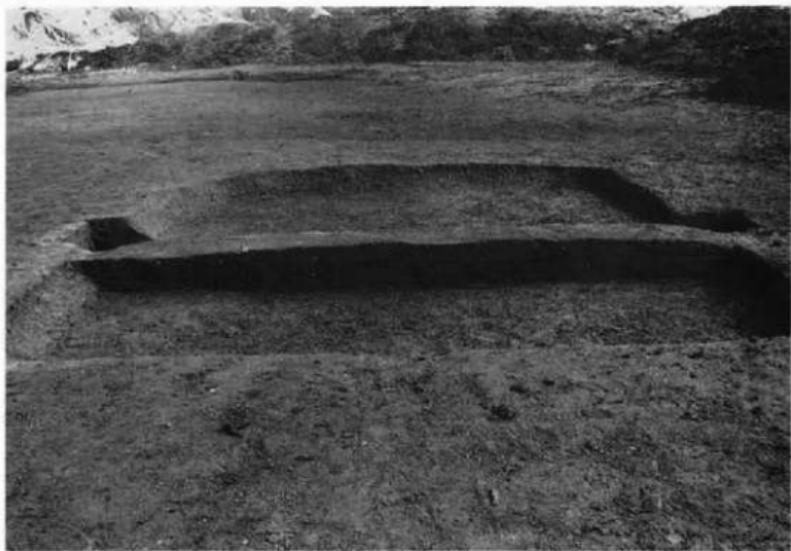
5. H-42号住居址遺物出土状態(南から)



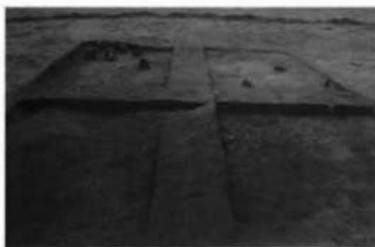
1. H-43号住居址全景(西から)



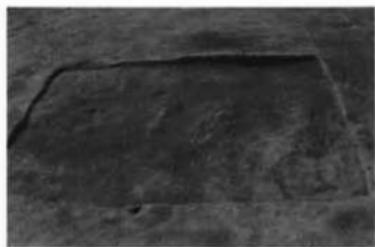
2. H-44号住居址全景(南から)



1. H-45号住居址セクション



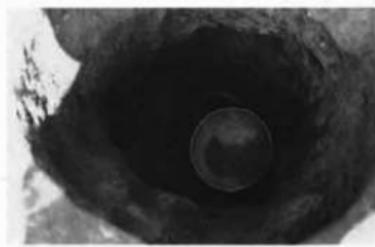
2. H-47号住居址南北セクション(西から)



3. H-47号住居址全景(南から)



4. H-48号住居址竈付近遺物出土状態
(南西から)



5. H-48号住居址貯藏穴遺物出土状態
(上から)



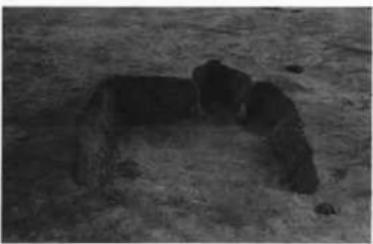
1. H-48号住居址全景(南から)



2. H-48号住居址撮り方全景(西から)



3. H-49号住居址南北セクション(西から)



4. H-49号住居址全景(西から)



5. H-49号住居址蔓(西から2)



1. H-50号住居址東西セクション(南から)



2. H-50号住居址全景(西から)



3. H-50号住居址遺全景(西から)



4. H-50号住居址竪掘り方(西から)



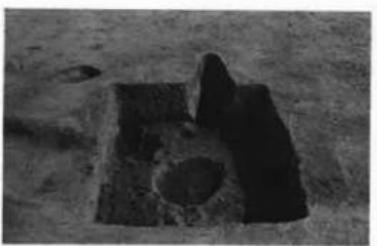
5. H-51号住居址全景(西から)



1. H-51号住居址東西セクション(南から)



2. H-51号住居址竪掘り方全景(西から)



3. H-51号住居址掘り方全景(西から)



4. H-52号住居址全景(北から)



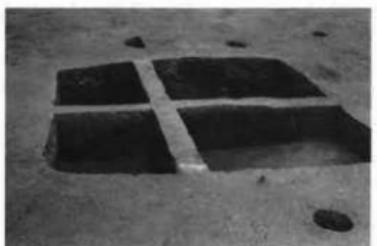
5. H-52号住居址全景(西から)



1. H-52号住居址東西セクション(南から)



2. H-53号住居址全景(南から)



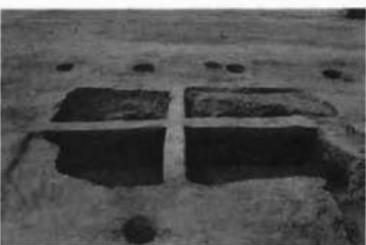
1. H-53号住居址東西セクション(南から)



2. H-53号住居址掘り方全景(南から)



3. H-54号住居址P南北セクション(西から)



4. H-54号住居址東西セクション(南から)



5. H-54号住居址全景(南から)



1. H-55号住居址遺遺物出土状態(南から)



2. H-55号住居址南北セクション(西から)



3. H-55号住居址全景(西から)



4. H-55号住居址遺掘り方全景(西から)



5. H-55号住居址掘り方全景(西から)



1. T-1号竪穴状遺構遺物出土状態(南から)



2. T-1号竪穴状遺構全景(東から)



3. T-3号竪穴状遺構全景(西から)



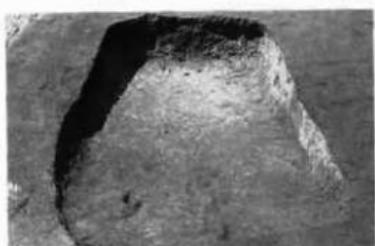
4. T-4号竪穴状遺構焼土検出状態(北から)



5. T-5号竪穴状遺構全景(南から)



1. T-6号竪穴状遺構南北セクション
(南西から)



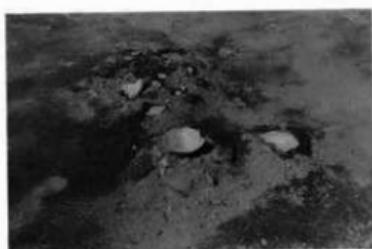
2. T-7号竪穴状遺構全景(東から)



3. T-8号竪穴状遺構全景(東から)



4. T-9号竪穴状遺構全景(南から)



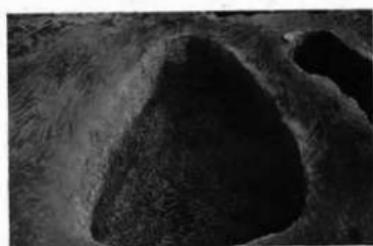
5. T-10号竪穴状遺構遺物出土状態(南から)



6. T-10号竪穴状遺構全景(南から)



7. T-11号竪穴状遺構全景(南東から)



8. T-12号竪穴状遺構全景(西から)



1. B-4～11号掘立柱建物址全景(南東から)



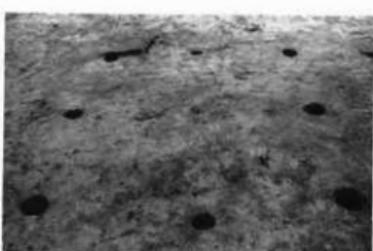
2. B-12号掘立柱建物址全景(南から)



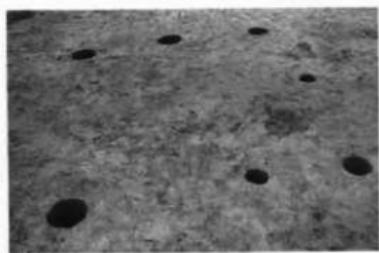
3. B-13号掘立柱建物址全景(東から)



4. B-14・15号掘立柱建物址全景(東から)



5. B-16号掘立柱建物址全景(南から)



1. B-17号掘立柱建物址全景(南から)



2. B-18号掘立柱建物址全景(南から)



3. B-19号掘立柱建物址全景(北から)



4. B-20号掘立柱建物址全景(南から)



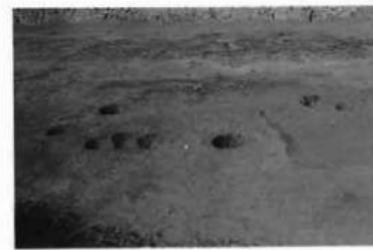
5. B-21号掘立柱建物址全景(南から)



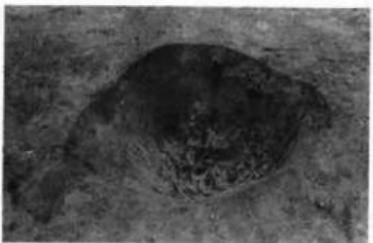
6. B-23号掘立柱建物址全景(南から)



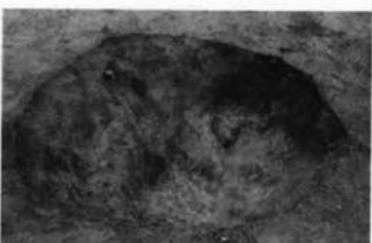
7. B-24号掘立柱建物址全景(西から)



8. B-25号掘立柱建物址全景(南から)



1. D-4号土坑全景(南から)



2. D-5号土坑全景(南から)



3. D-6号土坑全景(南から)



4. D-7号土坑全景(南から)



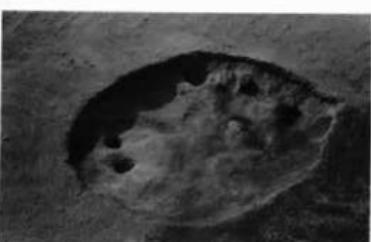
5. D-8号土坑全景(南から)



6. D-9号土坑全景(南から)



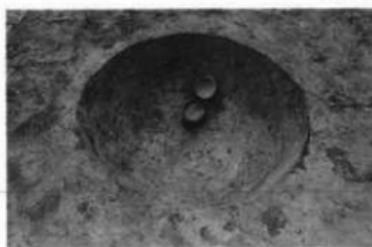
7. D-10号土坑全景(東から)



8. D-11号土坑全景(東から)



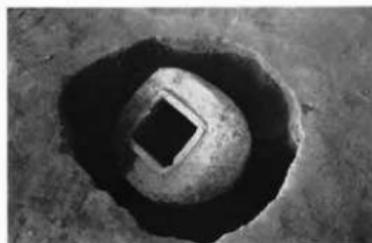
1. D-12号土坑全景(東から)



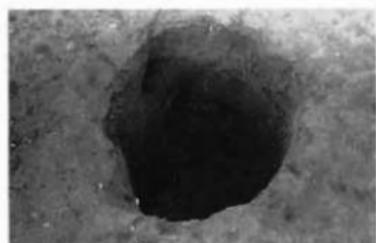
2. D-16号土坑遺物出土状態(南東から)



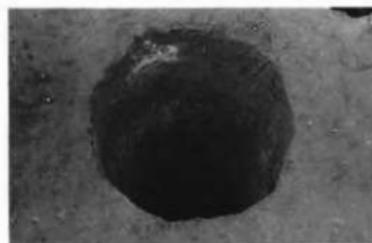
3. D-18号土坑全景(南から)



4. D-19号土坑遺物出土状態(南から)



5. D-19号土坑全景(南から)



6. D-20号土坑全景(南から)



7. D-21号土坑全景(西から)



8. D-22号土坑全景(東から)



1. D-23号土坑全景(東から)



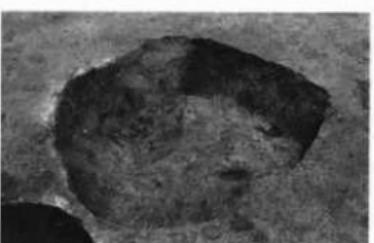
2. D-25号土坑全景(南から)



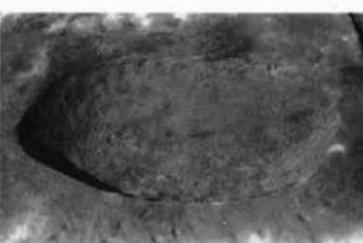
3. D-28号土坑全景(南から)



4. D-30号土坑全景(北から)



5. D-32号土坑全景(南から)



6. D-43号土坑全景(南から)



7. D-44号土坑全景(南から)



8. D-45号土坑全景(西から)



1. D-46号土坑全景(東から)



2. D-47号土坑全景(南から)



3. D-48号土坑全景(東から)



4. D-49号土坑全景(東から)



5. D-50号土坑全景(東から)



6. D-51号土坑全景(東から)



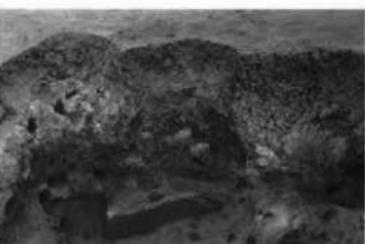
7. D-52号土坑全景(南から)



8. D-53号土坑全景(南から)



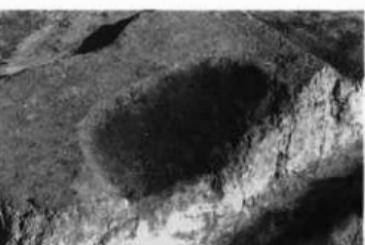
1. D-54号土坑全景(南から)



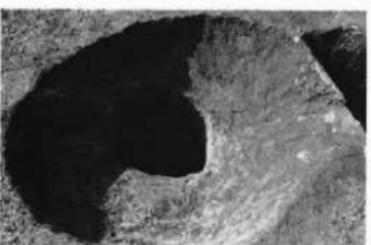
2. D-60号土坑全景(南から)



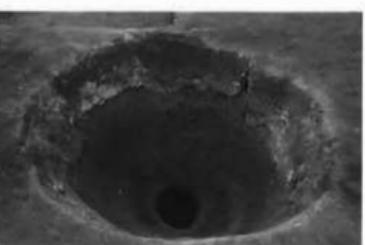
3. D-62号土坑全景(西から)



4. D-63号土坑全景(南西から)



5. I-1号井戸全景(東から)



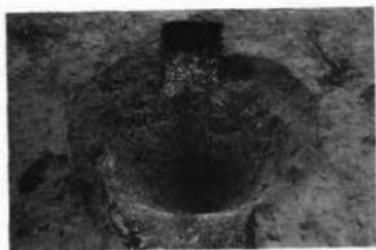
6. I-2号井戸全景(北から)



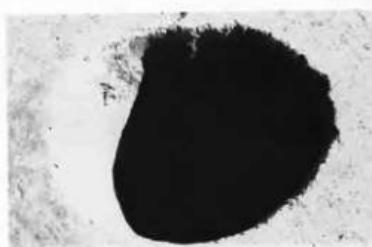
7. I-3号井戸東西セクション(南から)



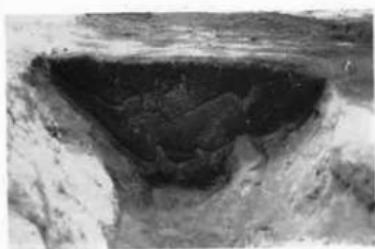
8. I-4号井戸全景(南から)



1. I-5号井戸全景(西から)



2. I-6号井戸全景(西から)



3. W-3号溝東西セクション(南から)



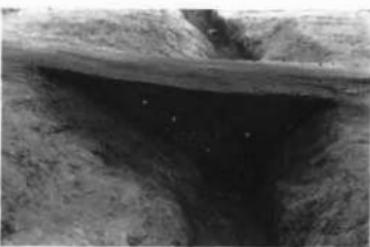
4. W-4号溝東西セクション(南から)



5. W-3～5号溝全景(東から)



1. W-4・5号溝東西セクション(南から)



2. W-5号溝東西セクション(南から)



3. W-6号溝東西セクション(南から)



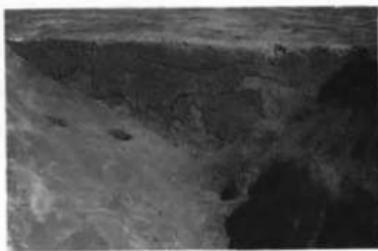
4. W-7号溝南北セクション(西から)



5. W-7号溝全景(西から)



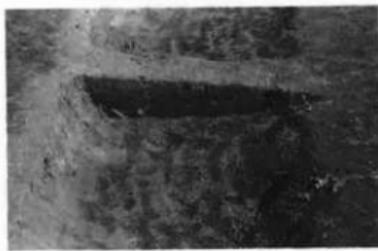
1. W-8号溝全景(東から)



2. W-8号溝南北セクション(西から)



3. W-8号溝南北セクションNo.3(西から)



4. W-9号溝南北セクション(西から)



5. X-6号地割れ南北セクション(西から)



1. X-5号地割れ全景(東から)



2. X-7~9号地割れ(北東から)



1. H-37号住居址掘り方にみられる地割れの状態(西から)



2. H-38号住居址掘り方にみられる地割れの状態(西から)



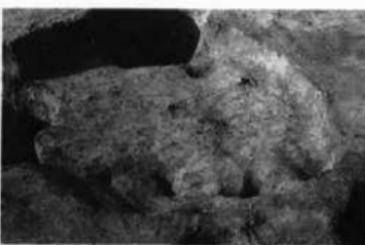
1. O-1号落込み東西セクション(南から)



2. O-2号落込み東西セクション(北から)



3. O-3号落込み東西セクション(南から)



4. O-6号落込み全景(南西から)



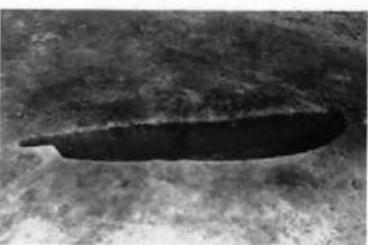
5. O-7号落込み全景(南から)



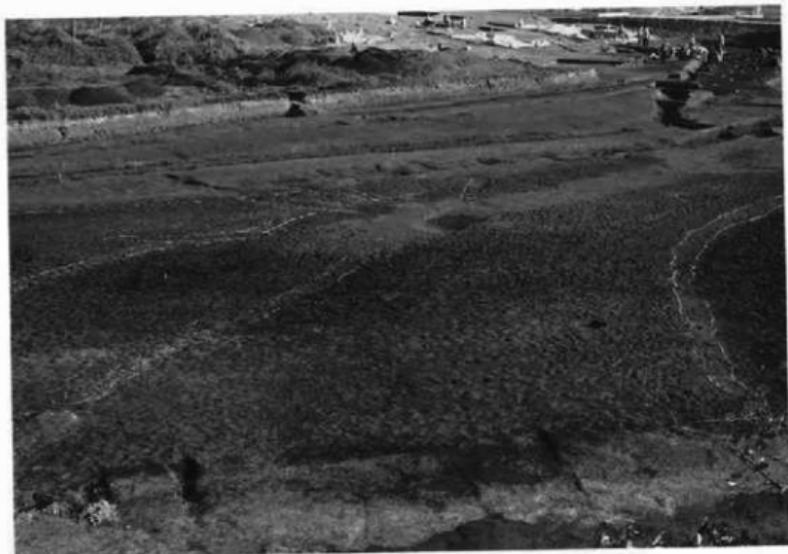
6. O-9号落込み全景(南から)



7. O-10号落込み南北セクション(西から)



8. O-11号落込み南北セクション(西から)



1. 柳久保水田址 A 区(南西から)



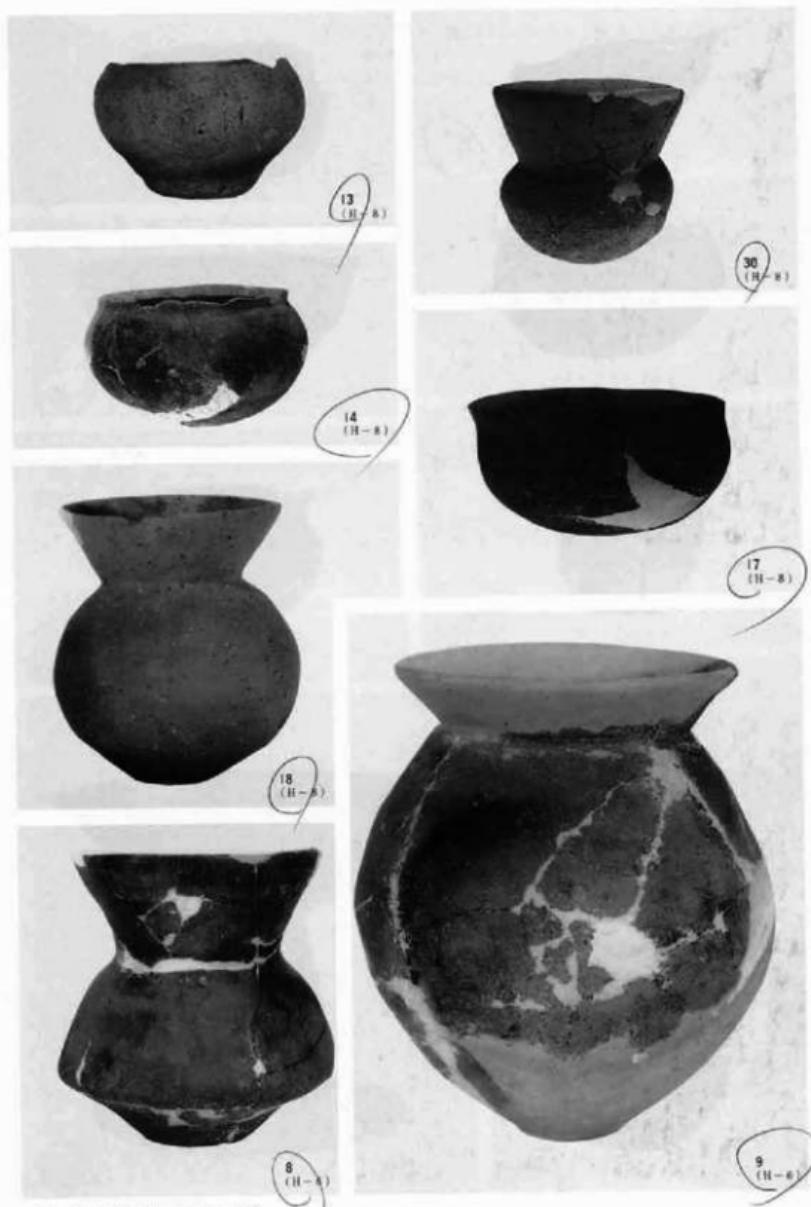
2. 柳久保水田址 A 区(西から)



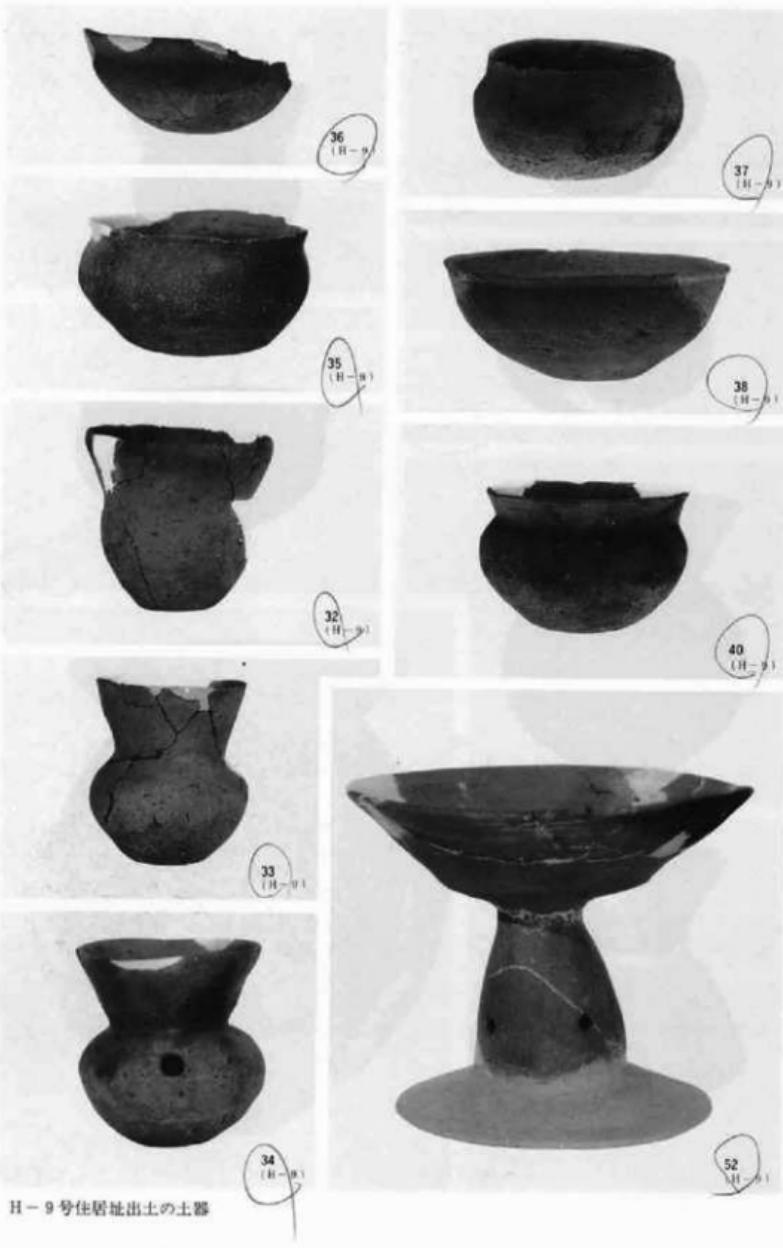
1. 柳久保水田址B区(西から)



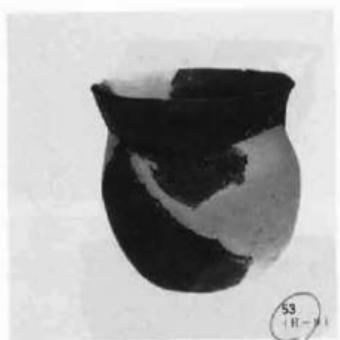
2. 柳久保水田址C区(北東から)



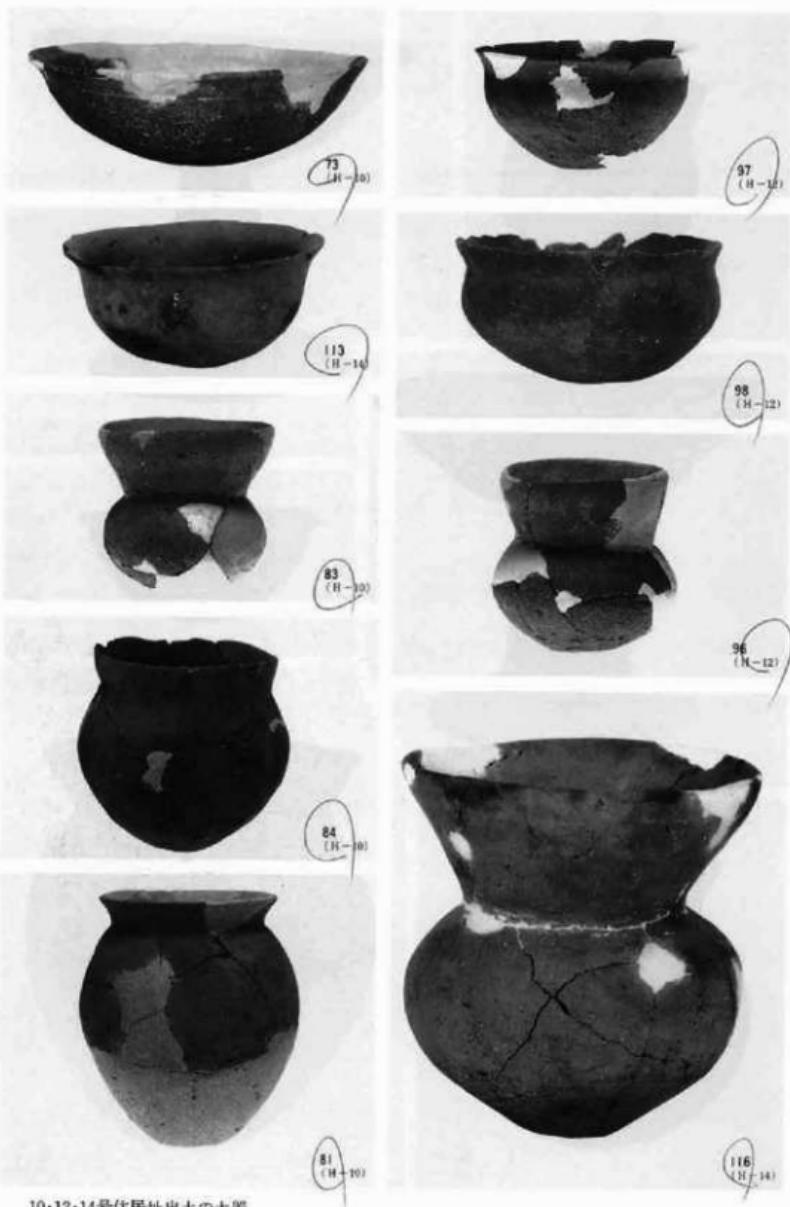
H-6・8号住居址出土の土器



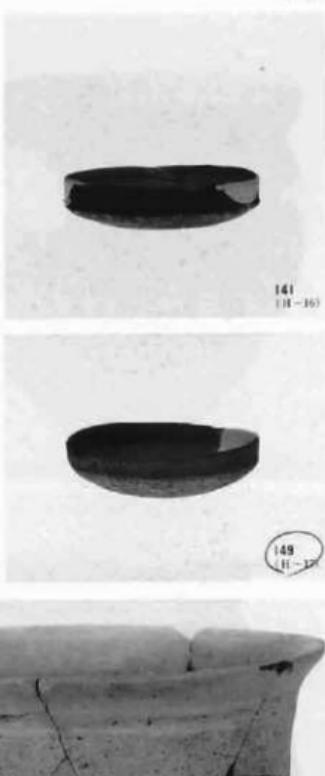
H-9号住居址出土の土器



H-9・10号住居址出土の土器



10・12・14号住居址出土の土器

132
(H-15)141
(H-16)149
(H-17)134
(H-15)



139
(H-16)



151
(H-17)



137
(H-15)

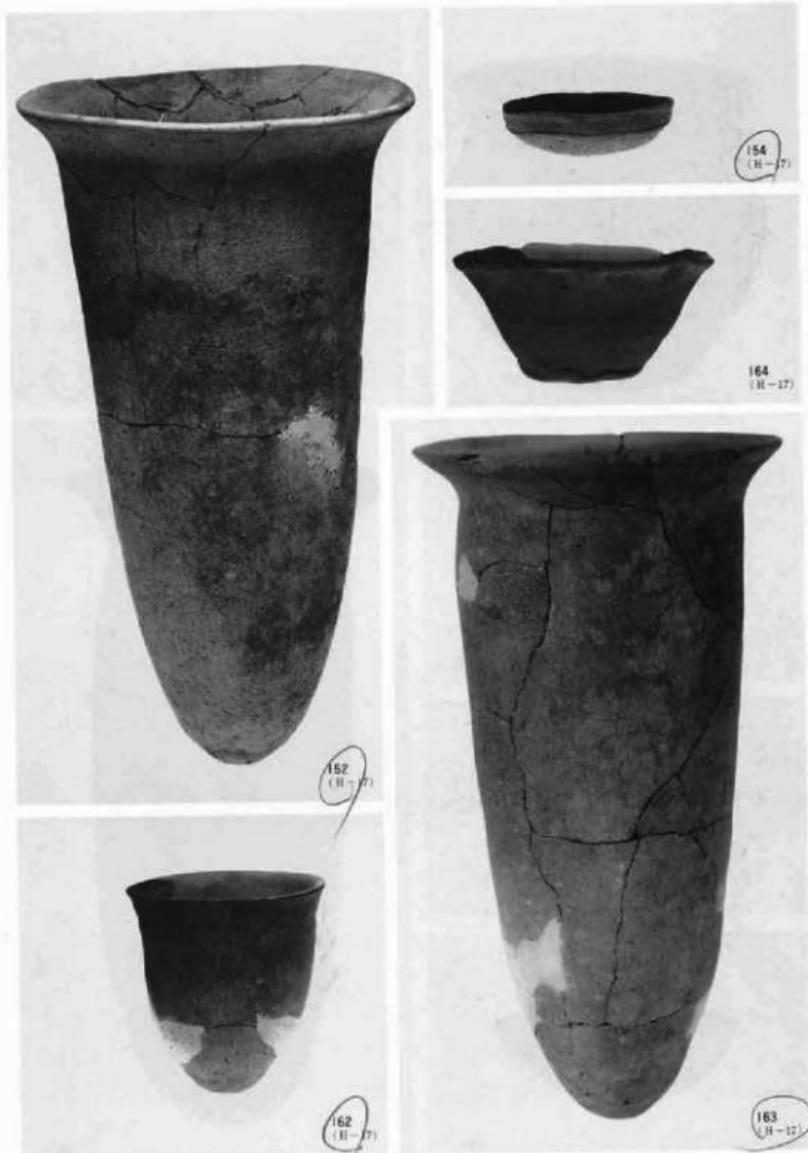


150
(H-17)

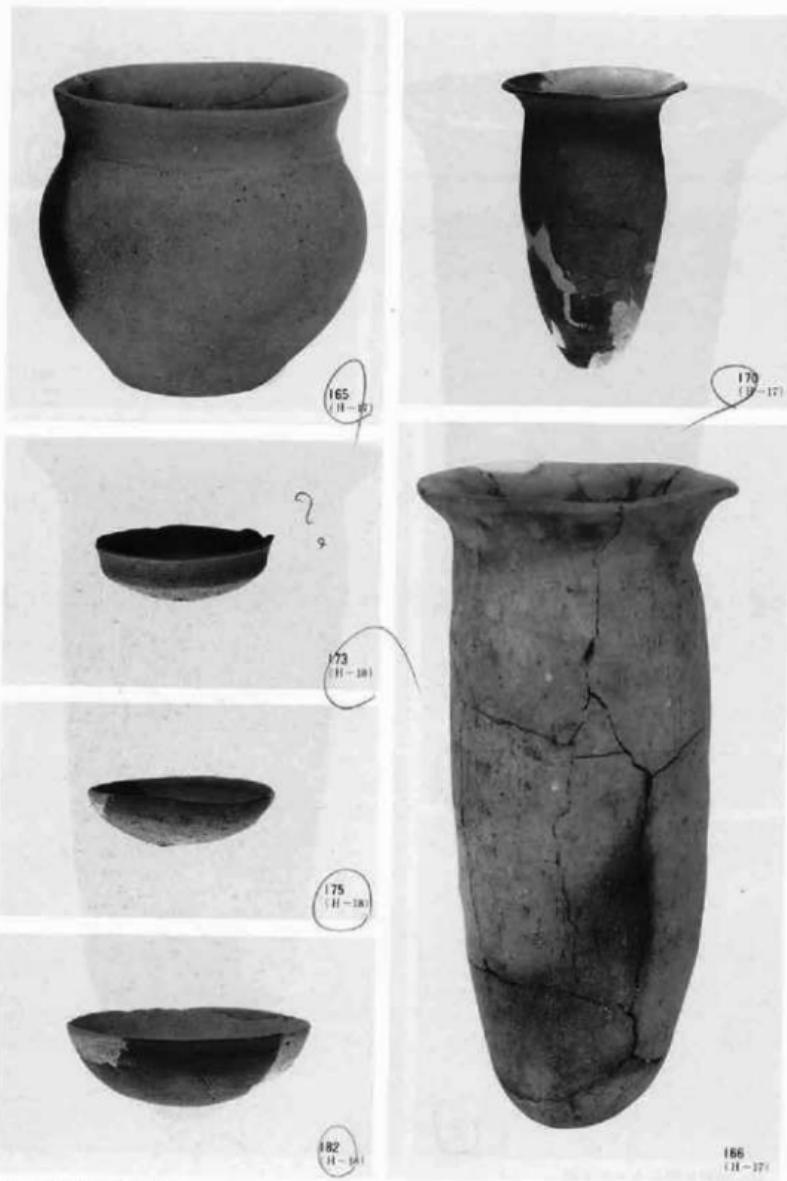


136
(H-15)

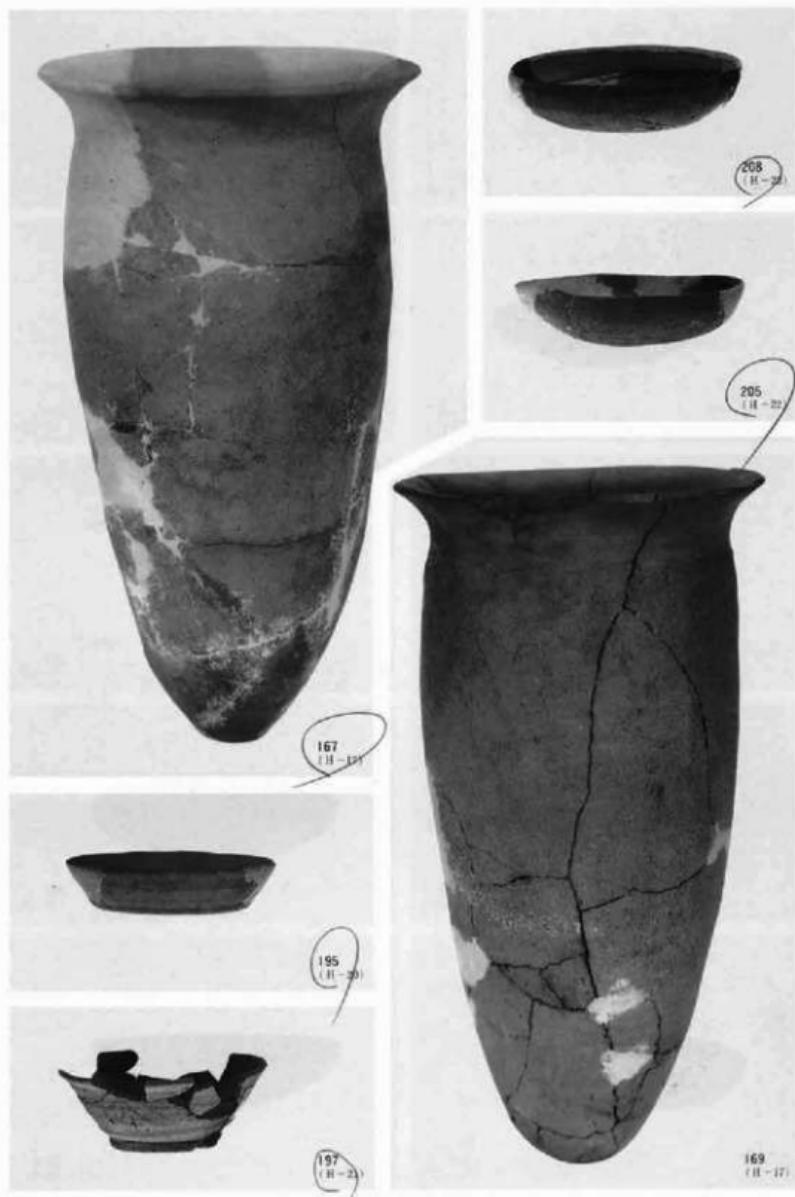
H-15-17号住居址出土の土器



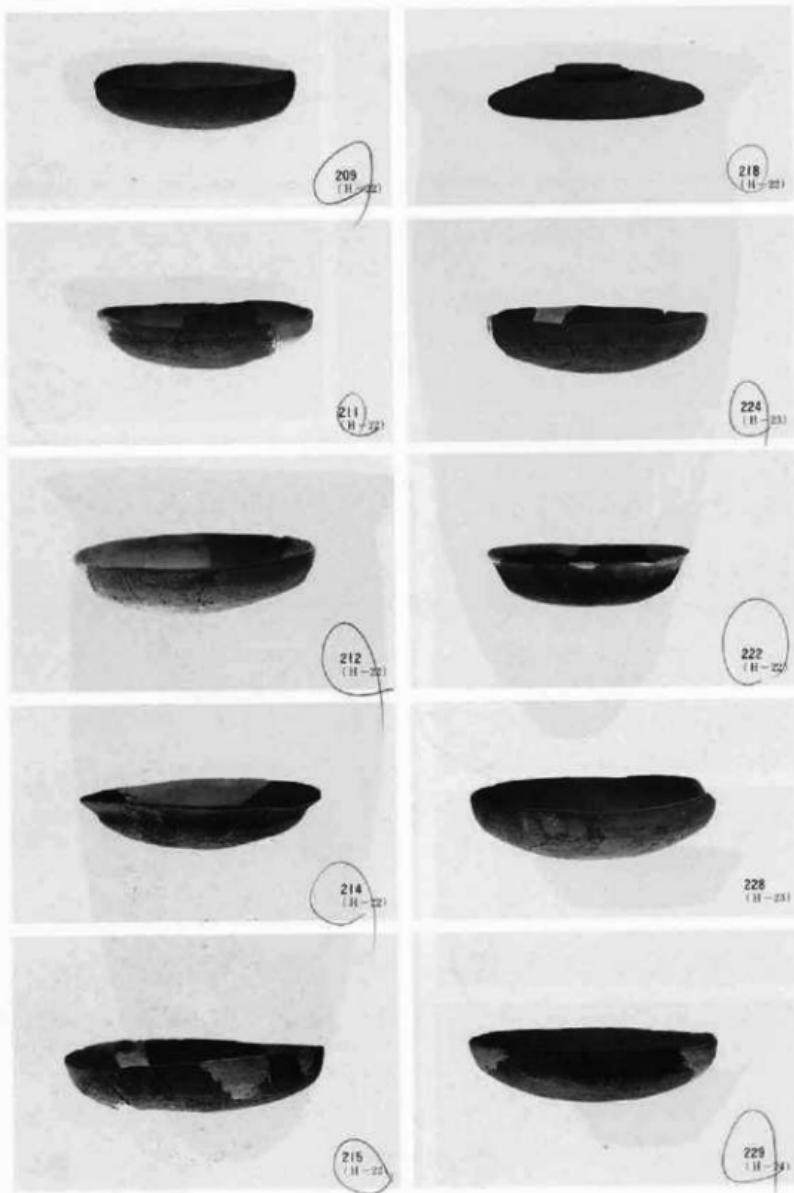
H-17号住居址出土の土器



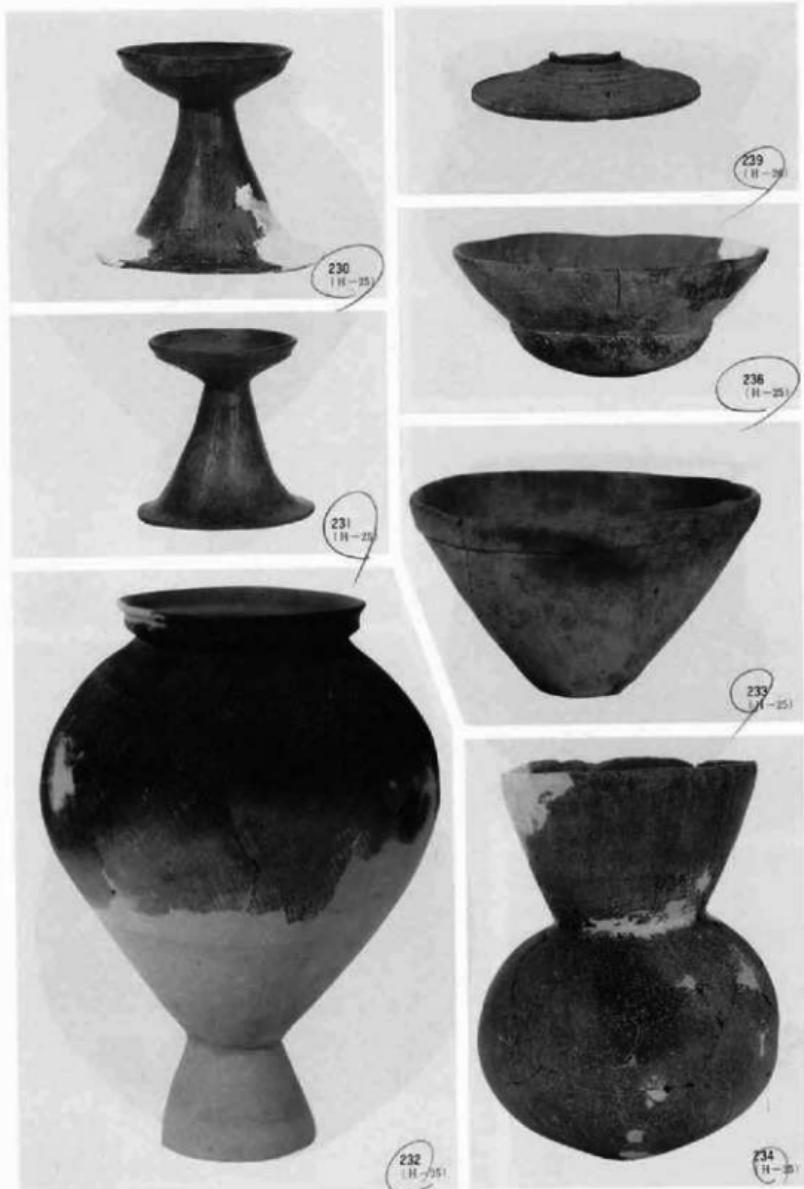
H-17・18号住居址出土の土器



H-17・20・22号住居址出土の土器



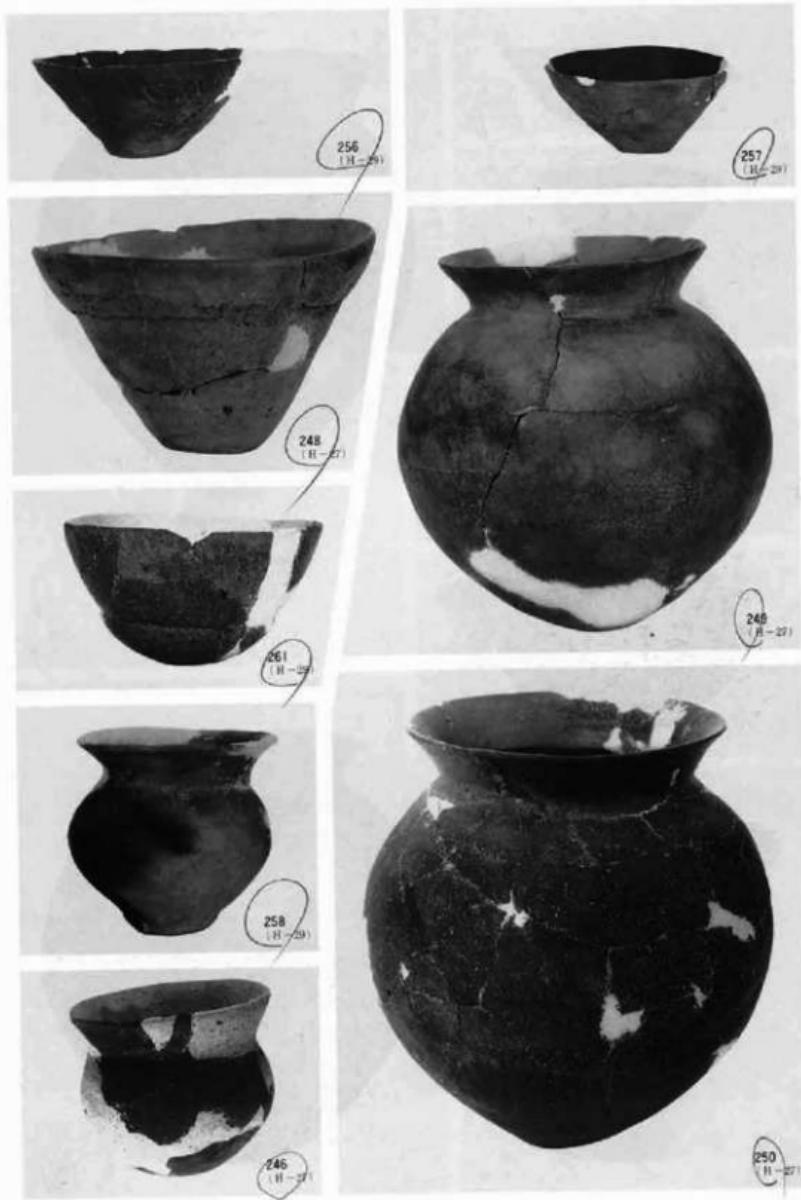
H-22~24号住居址出土の土器



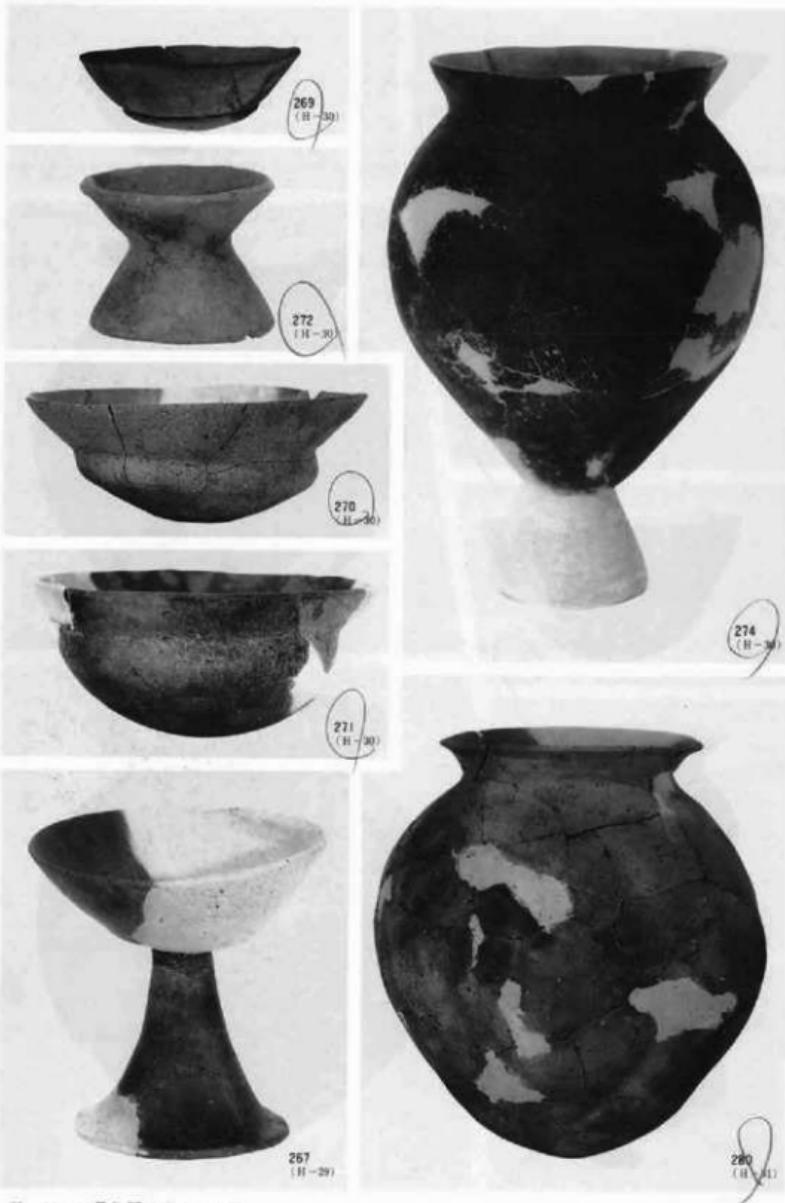
H - 25. 26号住居址出土の土器

242
(H-27)235
(H-25)243
(H-27)245
(H-27)244
(H-27)

H-25・27号住居址出土の土器

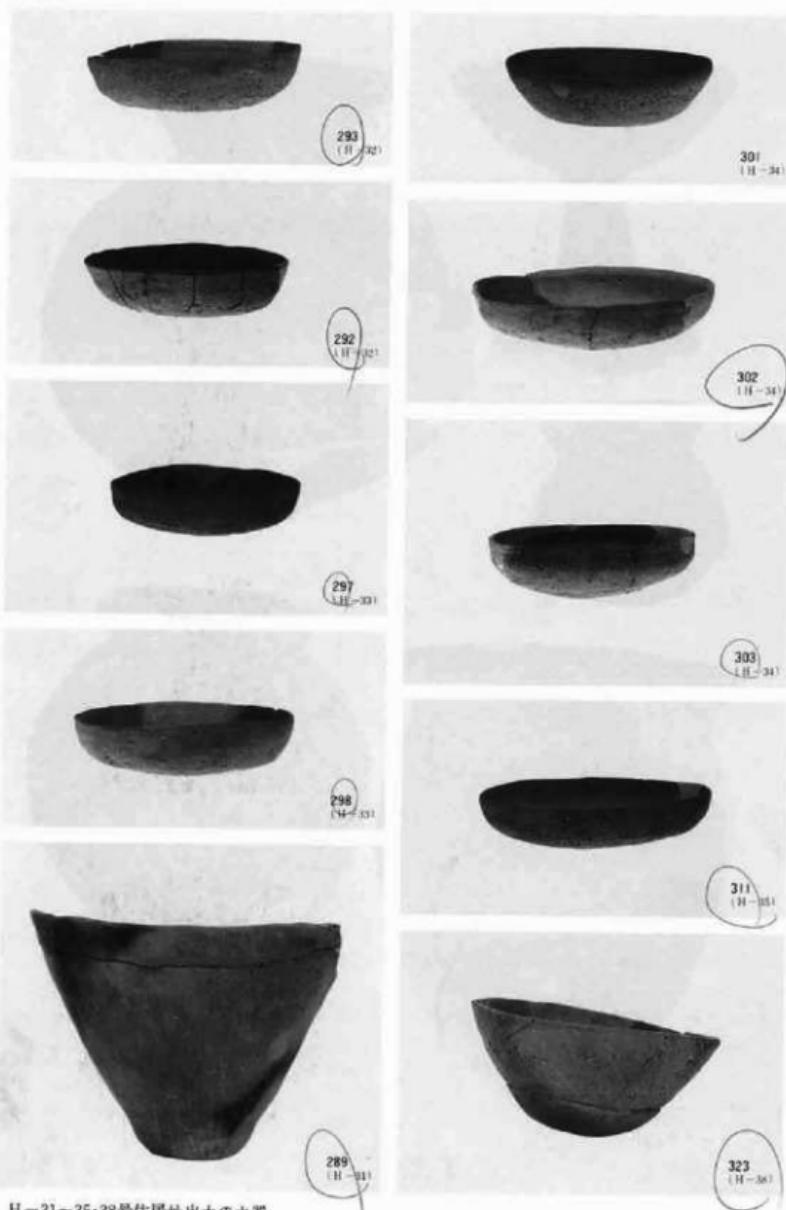


H-27・29号住居址出土の土器



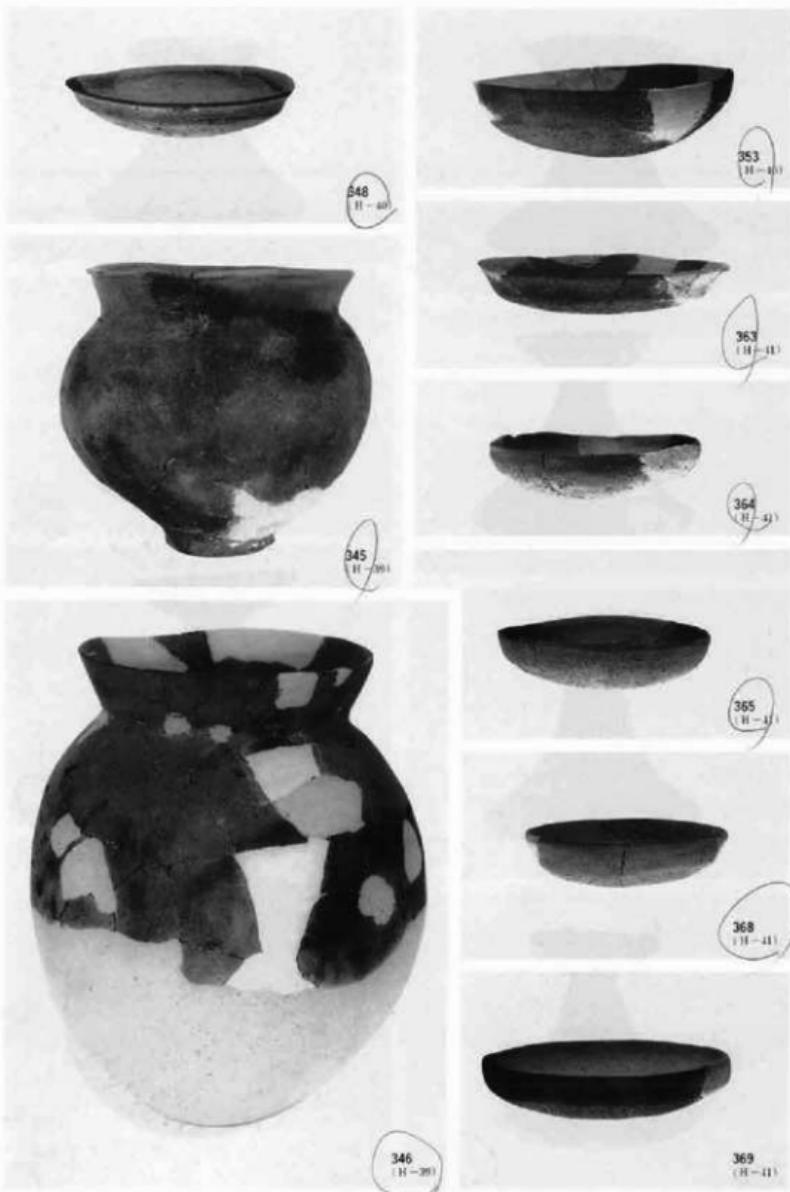
H-29~31号住居址出土の土器

283
(H-31)285
(H-31)284
(H-31)296
(H-33)281
(H-31)



H-31~35・38号住居址出土の土器

327
(H-39)331
(H-39)328
(H-39)333
(H-39)329
(H-39)332
(H-39)330
(H-39)336
(H-39)



H - 39~41号住居址出土の土器



375
(H-41)



379
(H-42)

物が違います。



380
(H-42)



381
(H-42)



387
(H-43)



392
(H-43)



385
(H-43)



398
(H-44)



399
(H-44)



389
(H-43)

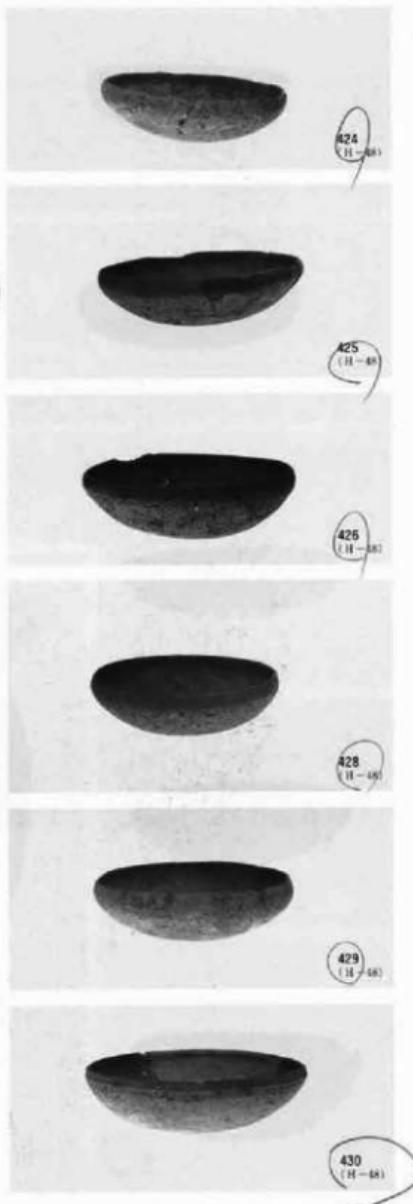
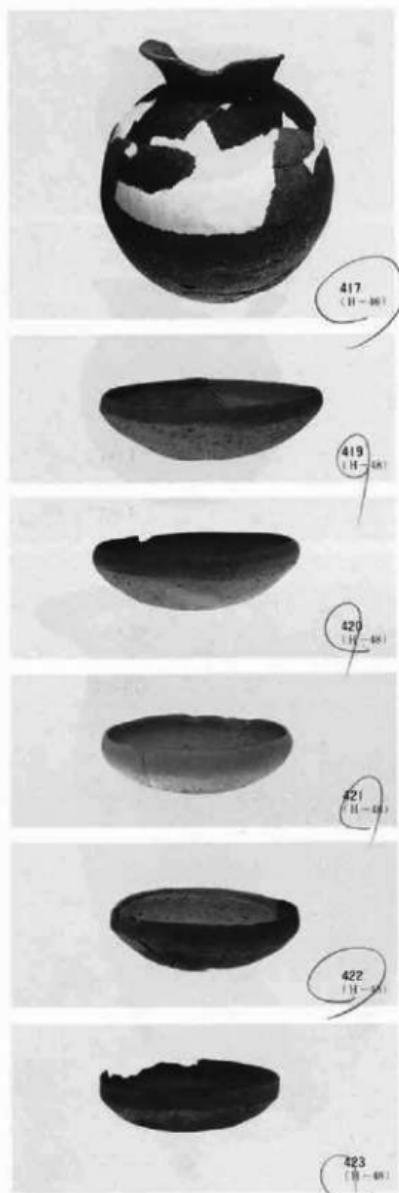


414
(H-46)

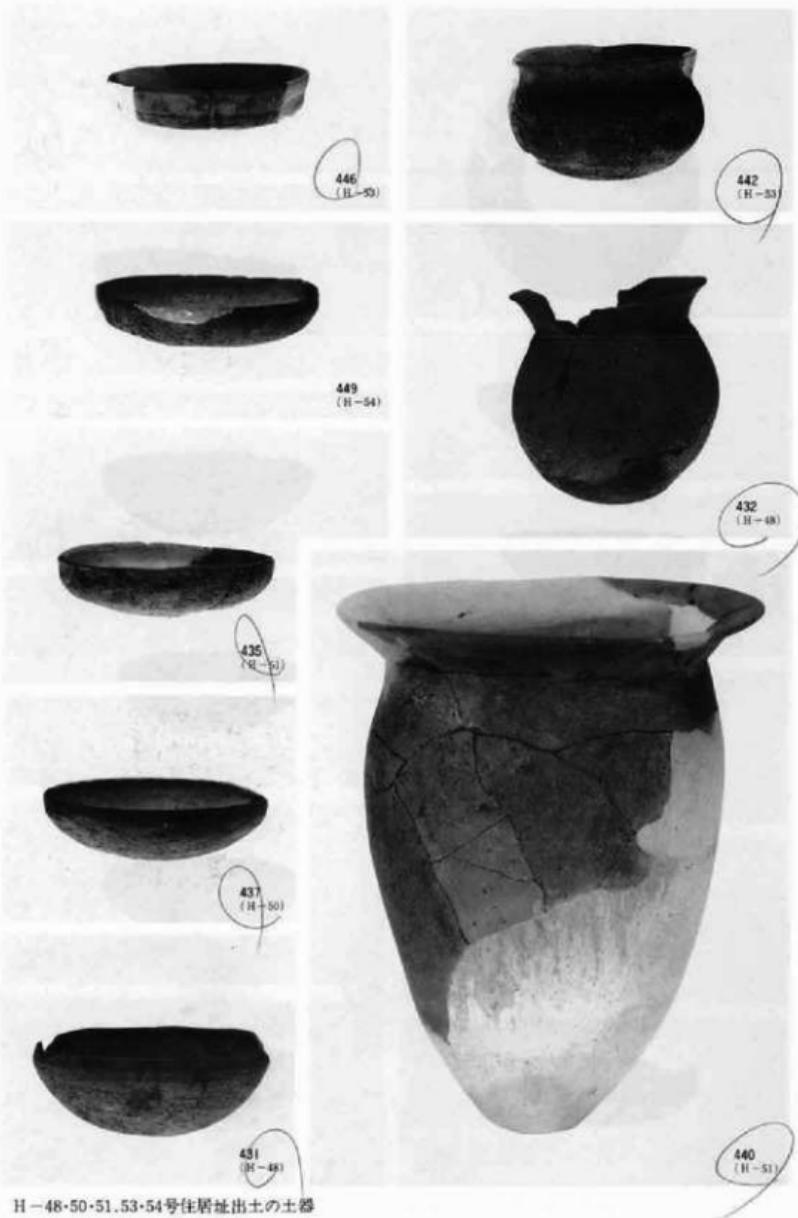
415
(H-46)



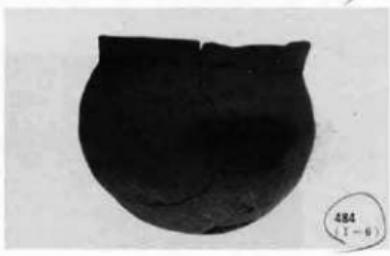
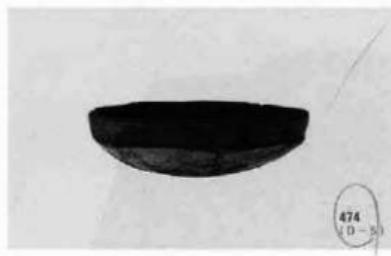
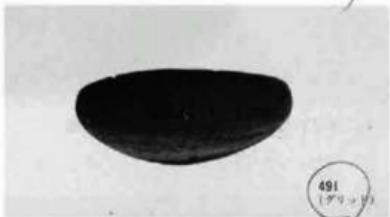
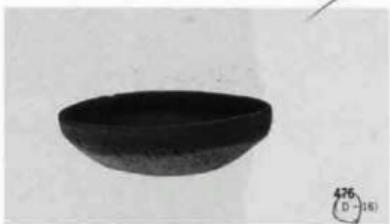
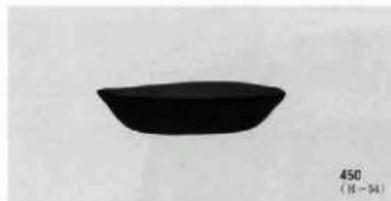
397
(H-44)



H-46-48号住居址出土の土器



H-48-50-51.53-54号住居址出土の土器





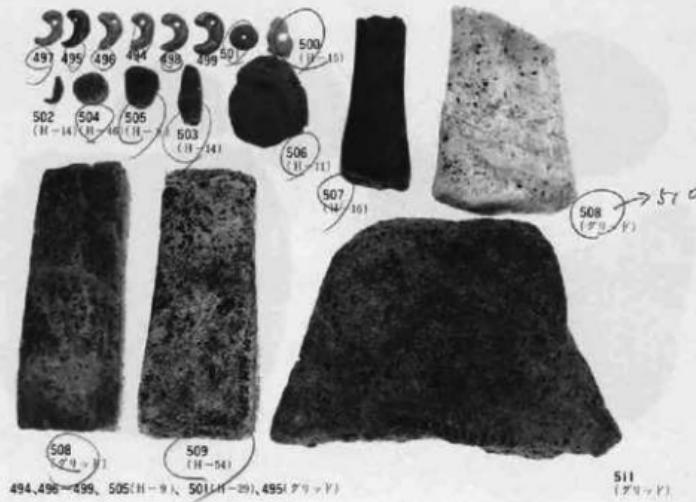
493
(D-19)

1. D-19号土坑出土の石製骨蔵器(上面)

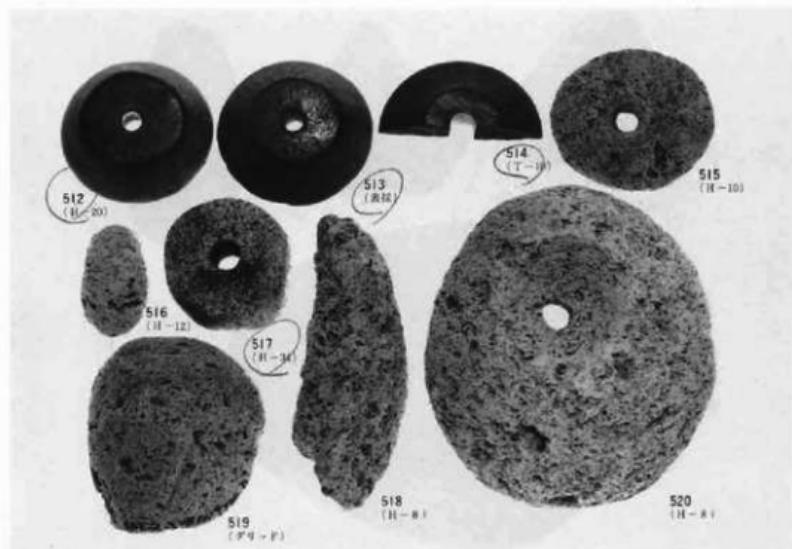


493
(D-19)

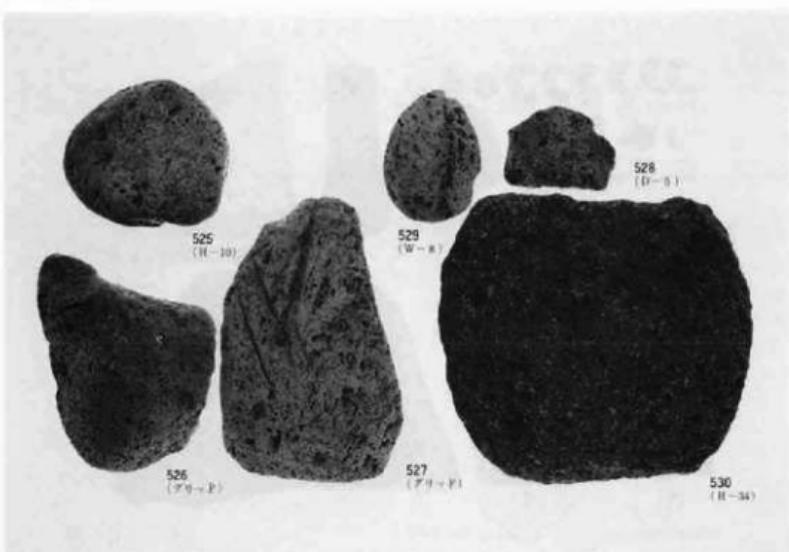
2. D-19号土坑出土の石製骨蔵器(側面)



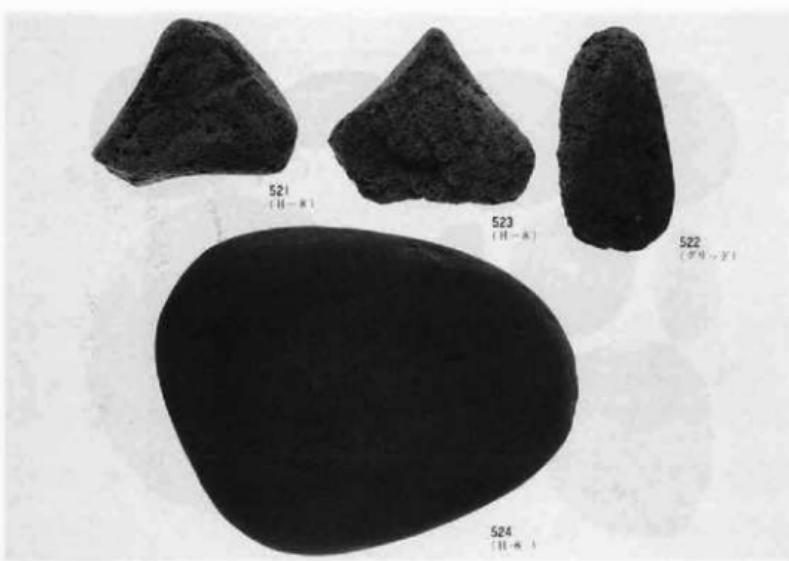
1. 石・土輕石製品



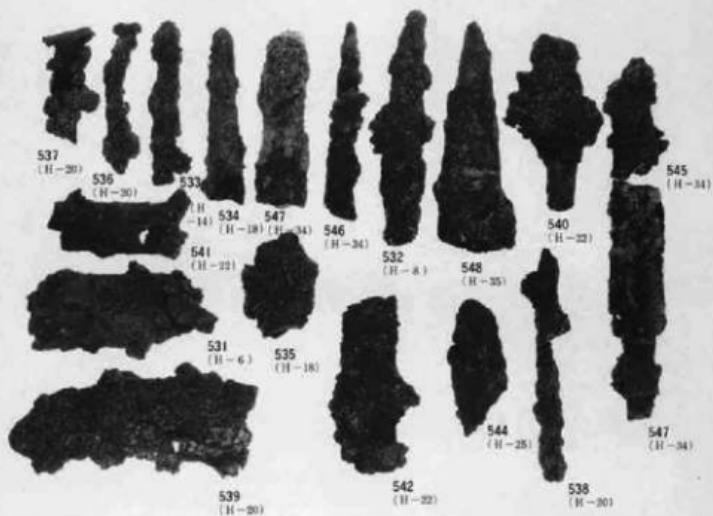
2. 石・土輕石製品



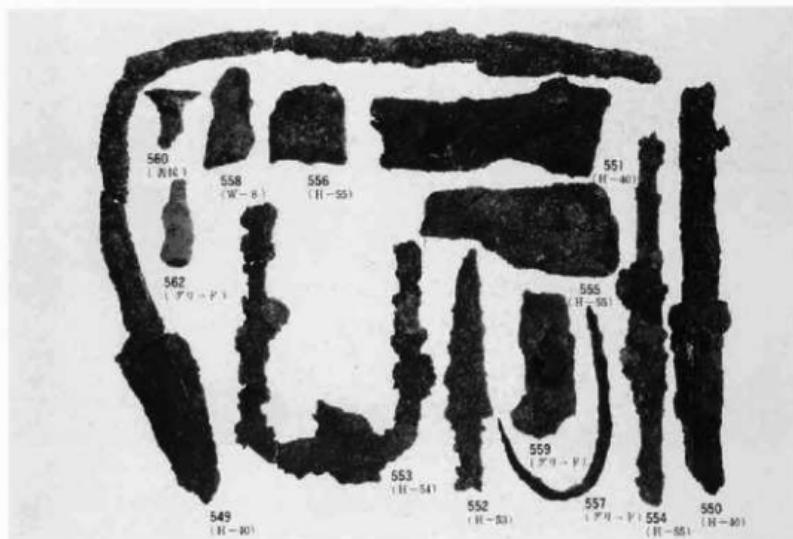
1. 石・軽石製品



2. 石・軽石製品



1. 鉄器・鉄製品



1. 鉄器・鉄製品

調査要項

遺跡名稱 柳久保遺跡群…柳久保遺跡・柳久保遺跡水田址
遺跡記号 柳久保遺跡…60・61E 2 柳久保遺跡水田址…60・61E 6
遺跡所在地 群馬県前橋市荒子町字柳久保1516-10他
柳久保遺跡水田址…群馬県前橋市荒子町字柳久保1504他
調査期間 昭和60年5月13日～昭和60年12月27日
昭和61年5月2日～昭和61年12月20日
調査面積 E 2…28,600m²
E 6…12,500m²
開発面積 200,000m²
調査原因 住宅団地造成
調査依頼者 前橋工業団地造成組合 管理者 清水一郎
調査主体者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 関口和雄
事務局 事務局長 福田紀雄 事務局次長 浜田博一 局員 松本卓 諸田陽子
調査担当者 遠藤和夫 原前豊 福田瑞穂 関根吉晴 調査補助員 竹内寛
折原洋一 芦田和義 千田幸生 肥田順一 (山武考古学研究所)

発掘調査参加者 阿部シゲ子 阿部幸恵 萩岡エミ子 天羽キヨノ 飯島民弥
飯島勝亥 飯島いし 石綿信雄 石川忠三 石関秀男
石井長太郎 今井妙子 今井美也 岩木機 井野岳史
井上茂兵衛 井上潤 萩合高男 大田一郎 大川きよ
大森友江 小瀬丑子 小瀬登美子 女屋千恵子 女屋太一郎
女屋たま 加部二生 亀井弘美 齋藤ときみ 齋藤豊子
木村廣子 木村原次郎 木村玉代 木村よね子 木村はる子
木村かく乃 久保田義一 桑原富子 黒澤なつ美 小林恵寿
小島勝雄 小泉貢 小沼ミキ 小菅得夫 小屋政雄
高坂登美枝 高坂亨太郎 高坂ヨコ子 高坂とも 斎藤まさ子
下山岑子 神保雅美 新保タマ子 斎藤まさ子 斎藤宏
須藤幸恵 薫下なほ子 関口恵峰 相田昌子 武井美枝子
田中幹子 田中ツル 高島康 高橋正彦 田村愛子
高橋恒夫 田村よしの 田村とよ子 千明香根子 千明徳至
竹内寛 談木秋子 内藤たか 長岡健治 中澤不二
中川保 横岸容子 市千恵子 橋本みどり 斎藤秋信
藤塚チエ子 藤倉とみ 星野なか 星野ふじ 鶴川千恵子
棚塚うめ子 増田福子 松本裕 松本加代子
松倉賀江 松倉リツ 宮川いち子 村山ふで 村山君江
村山松子 茂木順 木本みのる 山口きく江 山田由美子
矢内三千代 渡辺道子 渡辺たま江 吉田やす江 吉田光子
吉田松枝

柳久保遺跡群 VII

昭和63年3月15日

印刷

昭和63年3月30日

発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市上永町664-4

TEL 0272-31-9531

印刷 朝日印刷工業株式会社

